

# 波志江中野面遺跡(1)

—古墳時代以降編—

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集

2001

日 本 道 路 公 団  
伊 勢 崎 市  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団





(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第281集  
『波志江中野面遺跡(1)－古墳時代以降編－』正誤表

本文

該当箇所	誤	正
P 9 二段組左側本文32行目	いずれ	いずれ
P 15 二段組左側本文32行目	これらの土が、	これらの土器が
P 28 第18図A区14号住居跡のD-D'の引き出し線	番号なし	2
P 36 粘土の土層注記文1行目	柱穴等を扱った時に	柱穴等を掘った時に
P 47 第32図A区18号住居跡出土遺物(2)の遺物番号		7, 8が逆
P 52 第36図A区23号住居跡掘り方平面図のE-E'	E-E'	E'-E
P 80 B区3号住居跡左側本文3行目	B区	D区
P 89 第75図A区2号方形周溝墓の79.90m	79.90m	79.00m
P 91 A区3号方形周溝墓右側本文9行目	土師器坏	土師器埴
P 98 第83図A区7号方形周溝墓のD-D'	D-空欄	D-D'
P 128 C区4号掘立柱建物跡観察表のC区4号掘立柱建物跡	C区4号掘立柱建物跡	C区4号掘立柱建物跡
P 164 第138図A区2号住居跡の土層番号1	土層番号1	土層番号3
P 180 A区38号住居跡左側本文13行目	灰黄褐色土が主	灰黄褐色土を主
P 187 第161図A区48号住居跡の79.60m	79.60m	78.60m
P 212 A区60号住居跡土層注記文6行目	固たい部分	硬い部分
P 217 第189図A区63号住居跡の土層番号3	土層番号3	土層番号1
P 236 第208図C区4号住居跡出土遺物	遺物番号なし	3
P 251 C区3号掘立柱建物跡右側本文6行目	須恵器坏	須恵器蓋
P 260 第231図C区26号溝工具痕の+6E-0	+6E-0	+6E-0
P 291 第251図B区7号溝遺物引き出し線	番号なし	1
P 344 9行目	放射性炭素(14C)	放射性炭素(11C)
P 338 第292図D区1号土坑墓、出土遺物の土坑墓	土坑墓	土坑墓
P 353 2行目	可能性が考えられと	可能性が考えられると
報告書抄録	近世溝 35条	近世溝 36条

写真図版

	誤	正
P L 43	5. A区13号方形周溝墓遺物出土上況	5. A区13号方形周溝墓遺物出土状況
P L 95	5. A区46号土坑全景	5. A区45号土坑全景



# 波志江中野面遺跡(1)

—古墳時代以降編—

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集

2001

日 本 道 路 公 団  
伊 勢 崎 市  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団







遺跡全景



A区14号方形周溝墓全景



B区1号土器群パレス壺



緑釉



# 序

北関東自動車道は、本県高崎市の関越自動車道から分岐し、茨城県那珂湊にいたる延長約150kmの高速自動車国道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されております。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立って、平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われましたが、当事業団ではその内、31の遺跡の発掘調査を担当しました。また、それらの遺跡の整理事業は平成10年度から実施しており、本書『波志江中野面遺跡(1)』は、その発掘調査報告書第5号として刊行するものです。

本遺跡は、伊勢崎市波志江町内に所在し、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世にわたる各時代の遺構が発見された遺跡です。本報告書は、その中の古墳時代から近世までの遺構・遺物を「古墳時代以降編」としてまとめたものです。

この中で注目されるのは、古墳時代前期の前方後方形周溝墓を含む「方形周溝墓群」の発見と、それに伴うと思われる「パレススタイル」と呼ばれる、東海地方からもたらされた土器の出土です。弥生時代から古墳時代に移行する段階に、東海地方からの文化の移動があったことが想定され、群馬県平野部の弥生時代から古墳時代を考える上で貴重な資料となっています。

この報告書は、考古学研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様の研究にも大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、伊勢崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成13年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎





# 例 言

1. 本書は、北関東自動車道建設に伴い、事前調査された<sup>はしえなかのめん</sup>波志江中野面遺跡(KT-190)の発掘調査報告書である。本書における報告は、波志江中野面遺跡(伊勢崎市の愛宕、中野面遺跡を含む)から検出された遺構・遺物を対象とする。波志江中野面遺跡は縄文時代から近世までの複合遺跡である。報告書は全2分冊で構成した。本書は古墳時代以降の遺構・遺物を報告する。今後、第2分冊で縄文時代の遺構・遺物を報告する予定である。

2. 本遺跡は、群馬県伊勢崎市波志江町地内に所在する。地番は下記の通りである。

伊勢崎市波志江町263-1 263-2 264-1 264-3 265 272 298 299 300 301 303 305  
306-1 455-2 468-2 470-1 470-4 473-1 473-3 473-5 474 477-1  
477-2 478-2 479-1 479-2 480 488 498-1 498-2 498-3 499-1  
499-2 500 501 507 509-1 509-2 509-3 510-1 510-2 511-1  
511-2 513-1 513-2 515 517-1 517-2 517-3 517-4

3. 波志江中野面遺跡は、伊勢崎市教育委員会が命名した遺跡名である。本報告書もこの遺跡名をそのまま使用する。

4. 事業主体 日本道路公団・伊勢崎市土木部

5. 調査主体 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・伊勢崎市教育委員会

6. 調査期間 平成9年度調査 平成9年7月4日から平成10年3月31日  
平成10年度調査 平成10年4月1日から平成11年3月31日  
平成11年度調査 平成11年8月17日から平成11年9月21日

7. 調査組織

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

事務担当 菅野 清 原田恒弘 赤山容造 渡辺 健 神保侑史 小淵 淳 坂本敏夫 佐藤明人  
真下高幸 笠原秀樹 井上 剛 小山建夫 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 岡嶋伸昌  
宮崎忠司 大澤友治 吉田恵子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐  
子 本間久美子 北原かおり 安藤友美 狩野真子 羽鳥京子 星野美智子 本地友美  
松下次男 浅見宜記 吉田 茂

調査担当 平成9年度調査 佐藤明人 中東耕志 中沢 悟 角田芳昭  
平成10年度調査 中沢 悟 角田芳昭 高井佳弘 小室綾子(現 群馬県教育委員会文化  
財保護課) 前田和昭(嘱託)

伊勢崎市教育委員会

事務担当 田島國明 細谷清三 中澤貞治 村田喜久夫

調査担当 平成11年度調査 早川隆弘 高木善行

8. 整理主体 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

9. 整理期間 平成11年4月1日から平成13年3月31日

10. 整理組織

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

事務担当 菅野 清 小野宇三郎 赤山容造 住谷 進 神保侑史 水田 稔 坂本敏夫 佐藤明人  
西田健彦 笠原秀樹 小山建夫 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 岡嶋伸昌 森下弘美  
片岡徳雄 大澤友治 吉田恵子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美  
佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子 松下次男 浅見宜記 吉田 茂 蘓原正義

整理担当 平成11・12年度 角田芳昭

11. 報告書作成関係者

編 集	角田芳昭
本文執筆	第1章(1)佐藤明人、前記以外は角田芳昭
遺構写真撮影	各発掘担当者
遺物写真撮影	佐藤元彦
金属器保存処理	関 邦一 土橋まり子 小材浩一 高橋初美
木器保存処理及び実測	伊東博子 藤井文江 田中のぶ子
整理作業	新井悦子(囑託) 申渕すみ江 長岡和恵 渡部あい子 狩野なつ子 小林町子 鈴木春美

12. 石材鑑定は、群馬県地質研究会の飯島静男氏にお願いした。

13. 本遺跡の出土遺物及び図面、写真等の資料は群馬県埋蔵文化財調査センターと伊勢崎市教育委員会で保管している。

14. 発掘調査及び本書の作成にあたり、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、日本道路公団、地元関係者各位並びに以下の方々にご指導、ご鞭撻を戴いた。記して感謝の意を表したい。(順不同・敬称略)  
梅沢重昭 田口一郎 若狭 徹 三郷文化財史蹟研究会 富士見村教育委員会

# 凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。
2. 遺構図については、下記の縮尺で掲載したが、一部縮尺の異なるものがあるので各挿図中にスケールを貼付してあるので参照されたい。

住居跡 1 : 60    住居跡の竈 1 : 30    方形周溝墓 1 : 120    掘立柱建物跡 1 : 60    井戸 1 : 60  
 溝・耕作溝 1 : 200    土坑 1 : 40    竪穴状遺構 1 : 60    As-B下水田跡 1 : 400    土坑墓 1 : 40

3. 遺構図中のスクリーントーンは、下記のとおりである。



4. 遺物図の縮尺は下記のとおりであるが、それ以外のものは各挿図中にスケールを明記してある。

古銭・勾玉 1 : 1    鉄器・土錘 1 : 2  
 土器—環・埴・鉢・埴・皿・高坏・器台・蓋・破片・瓦・砥石 1 : 3  
 土器—壺類・甕類・甑・羽釜・土釜・焙烙 1 : 4

5. 遺物図中のスクリーントーンは、下記のとおりである。



6. 遺物写真は、遺物実測図とほぼ同じ縮尺で掲載してある。

7. 本書では、テフラの呼称として下記の略語を用いる。

テフラ等の名称	略 語	年 代
浅間A軽石	As-A	1783年(天明3年)
浅間B軽石	As-B	1108年(天仁元年)
榛名ニッ岳渋川テフラ	Hr-FA	6世紀初頭
浅間C軽石	As-C	4世紀初頭

8. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。

国土地理院 1 : 25,000 「伊勢崎」「大胡」  
 1 : 50,000 「高崎」「前橋」  
 1 : 200,000 「宇都宮」

9. 遺構の面積については、デジタルプランメーターで3回計測した平均値を採用した。水田跡の面積は畦畔の内側下端に囲まれた範囲を計測した。
10. 遺物観察表の法量において、推定値には全て( )を付すこととした。
11. 遺物観察表(土器)の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修「新版標準土色帖」に拠った。
12. 竪穴住居跡の主軸方位については、竈を有する辺に対して直交方向を主軸として計測を行った。竈を有しないものについては、北辺に対して直交方向を主軸として計測を行った。土坑の主軸方位は長軸を基準とした。





# 目次

口絵

序

例言

凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経過と方法	1
1. 発掘調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	2
3. 調査の方法	3
4. 調査区の設定	4
5. 基本土層	5
第2章 遺跡の地理的環境及び歴史的環境	7
1. 地理的環境	7
2. 歴史的環境	9
第3章 検出された遺構と遺物	15
1. 古墳時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴住居跡	17
(2) 方形周溝墓	86
(3) 掘立柱建物跡	128
(4) 井戸	130
(5) 溝	131
(6) 土坑	150
(7) 竪穴状遺構	152
(8) 耕作溝	154
(9) 道路跡	154
(10) 土器群	156
2. 奈良・平安時代の遺構と遺物	159
(1) 竪穴住居跡	161
(2) 掘立柱建物跡	246
(3) 井戸	252
(4) 溝	254
(5) 土坑	262
(6) 耕作溝	268
(7) As-B 下水田跡	270
3. 近世以降の遺構と遺物	273

(1) 井戸	275
(2) 溝	283
(3) 土坑	297
(4) 道路跡	310
4. 遺構外出土遺物	311
(1) 弥生時代出土遺物	312
(2) 古墳時代出土遺物	312
(3) 奈良・平安時代出土遺物	317
(4) 中世以降出土遺物	321
(5) 石製品	323
5. D 区の遺構と遺物	325
(1) 竪穴住居跡	325
(2) 方形周溝墓	334
(3) 溝	336
(4) 土坑	337
(5) 土坑墓	338
(6) 竪穴状遺構	339
第4章 自然科学分析	341
1. 自然科学分析の目的	341
2. 波志江中野面遺跡の土層とテフラ (A 区)	341
3. 波志江中野面遺跡の土層とテフラ (C 区)	346
4. 波志江中野面遺跡C区におけるプラント・オパール分析	348
5. 波志江中野面遺跡A区23号住居出土炭化材の樹種同定	351
6. 波志江中野面遺跡出土土器および粘土類の材料分析	355
7. 自然科学分析の成果と課題	366
第5章 調査の成果とまとめ	367
1. 前方後方形周溝墓について	367
2. 竪穴住居跡一覧表	376
報告書抄録	
写真図版	

# 挿 図 目 次

第 1 図	波志江中野面遺跡位置図	1	第 64 図	A 区 68 号住居跡	78
第 2 図	調査区設定図	4	第 65 図	A 区 68 号住居跡掘り方、出土遺物	79
第 3 図	土層柱状図	5	第 66 図	B 区 3 号住居跡	80
第 4 図	基本土層模式図	6	第 67 図	B 区 3 号住居跡出土遺物	81
第 5 図	遺跡周辺の地形分類図(群馬県史通史編より)	8	第 68 図	C 区 6 号住居跡、掘り方	82
第 6 図	周辺の遺跡位置図	14	第 69 図	C 区 6 号住居跡出土遺物	83
第 7 図	古墳時代の遺構全体図	16	第 70 図	C 区 12 号住居跡、出土遺物(1)	84
第 8 図	A 区 4 号住居跡	17	第 71 図	C 区 12 号住居跡出土遺物(2)	85
第 9 図	A 区 4 号住居跡掘り方、出土遺物	18	第 72 図	A 区 1 号方形周溝墓	86
第 10 図	A 区 9 号住居跡	19	第 73 図	A 区 1 号方形周溝墓出土遺物(1)	87
第 11 図	A 区 9 号住居跡掘り方、出土遺物(1)	20	第 74 図	A 区 1 号方形周溝墓出土遺物(2)	88
第 12 図	A 区 9 号住居跡出土遺物(2)	21	第 75 図	A 区 2 号方形周溝墓	89
第 13 図	A 区 10 号住居跡	22	第 76 図	A 区 2 号方形周溝墓出土遺物	90
第 14 図	A 区 10 号住居跡掘り方、出土遺物(1)	23	第 77 図	A 区 3 号方形周溝墓	90
第 15 図	A 区 10 号住居跡出土遺物(2)	24	第 78 図	A 区 3 号方形周溝墓出土遺物	91
第 16 図	A 区 12 号住居跡	25	第 79 図	A 区 4 号方形周溝墓	92
第 17 図	A 区 12 号住居跡掘り方、出土遺物	26	第 80 図	A 区 4 号方形周溝墓出土遺物	93
第 18 図	A 区 14 号住居跡	28	第 81 図	A 区 5 号方形周溝墓	94
第 19 図	A 区 14 号住居跡掘り方、出土遺物(1)	29	第 82 図	A 区 5 号方形周溝墓出土遺物	95
第 20 図	A 区 14 号住居跡出土遺物(2)	30	第 83 図	A 区 6・7 号方形周溝墓	97・98
第 21 図	A 区 16 号住居跡掘り方、出土遺物	32	第 84 図	A 区 6 号方形周溝墓出土遺物	99
第 22 図	A 区 17 号住居跡(1)	34	第 85 図	A 区 7 号方形周溝墓内窠み状況	100
第 23 図	A 区 17 号住居跡(2)、FA 範囲	35	第 86 図	A 区 7 号方形周溝墓出土遺物(1)	101
第 24 図	A 区 17 号住居跡掘り方	36	第 87 図	A 区 7 号方形周溝墓出土遺物(2)	102
第 25 図	A 区 17 号住居跡出土遺物(1)	37	第 88 図	A 区 7 号方形周溝墓出土遺物(3)	103
第 26 図	A 区 17 号住居跡出土遺物(2)	38	第 89 図	A 区 8 号方形周溝墓、出土遺物	107
第 27 図	A 区 17 号住居跡出土遺物(3)	39	第 90 図	A 区 9 号方形周溝墓(1)	108
第 28 図	A 区 17 号住居跡出土遺物(4)	40	第 91 図	A 区 9 号方形周溝墓(2)	109
第 29 図	A 区 17 号住居跡出土遺物(5)	41	第 92 図	A 区 9 号方形周溝墓出土遺物	110
第 30 図	A 区 18 号住居跡	43	第 93 図	A 区 10 号方形周溝墓、出土遺物	111
第 31 図	A 区 18 号住居跡掘り方、出土遺物(1)	46	第 94 図	A 区 11 号方形周溝墓	112
第 32 図	A 区 18 号住居跡出土遺物(2)	47	第 95 図	A 区 12 号方形周溝墓	113
第 33 図	A 区 22 号住居跡	48	第 96 図	A 区 13 号方形周溝墓、出土遺物	114
第 34 図	A 区 22 号住居跡掘り方、出土遺物	49	第 97 図	A 区 14 号方形周溝墓出土遺物(1)	115
第 35 図	A 区 23 号住居炭・焼土出土状況、住居跡	51	第 98 図	A 区 14 号方形周溝墓出土遺物(2)	116
第 36 図	A 区 23 号住居跡掘り方	52	第 99 図	A 区 14 号方形周溝墓	117・118
第 37 図	A 区 23 号住居跡柱穴、出土遺物	53	第 100 図	B 区 1 号方形周溝墓	119
第 38 図	A 区 24 号住居跡、出土遺物	55	第 101 図	B 区 1 号方形周溝墓出土遺物	120
第 39 図	A 区 25 号住居跡、炭・焼土出土状況	57	第 102 図	B 区 2 号方形周溝墓	121
第 40 図	A 区 25 号住居跡、出土遺物(1)	58	第 103 図	B 区 3 号方形周溝墓 FA 堆積状況	122
第 41 図	A 区 25 号住居跡出土遺物(2)	59	第 104 図	B 区 3 号方形周溝墓	123
第 42 図	A 区 27 号住居跡	61	第 105 図	B 区 3 号方形周溝墓出土遺物	124
第 43 図	A 区 27 号住居跡掘り方、出土遺物	62	第 106 図	B 区 4 号方形周溝墓	125
第 44 図	A 区 30 号住居跡(1)	62	第 107 図	B 区 4 号方形周溝墓出土遺物	126
第 45 図	A 区 30 号住居跡(2)、掘り方、出土遺物	63	第 108 図	C 区 1 号方形周溝墓	126
第 46 図	A 区 31 号住居跡	64	第 109 図	C 区 1 号方形周溝墓出土遺物	127
第 47 図	A 区 31 号住居跡出土遺物	65	第 110 図	C 区 4 号掘立柱建物跡、出土遺物	128
第 48 図	A 区 32 号住居跡掘り方、出土遺物	66	第 111 図	C 区 5 号掘立柱建物跡	129
第 49 図	A 区 34 号住居跡、出土遺物(1)	67	第 112 図	A 区 1・2 号井戸	130
第 50 図	A 区 34 号住居跡出土遺物(2)	68	第 113 図	C 区 3・6・7 号溝	132
第 51 図	A 区 35 号住居跡	68	第 114 図	C 区 8・9 号溝、C 区 3・9 号溝出土遺物	133
第 52 図	A 区 35 号住居跡掘り方、出土遺物	69	第 115 図	C 区 13 号溝	135
第 53 図	A 区 36 号住居跡、掘り方	70	第 116 図	C 区 16・24・25・32 号溝	136
第 54 図	A 区 36 号住居跡出土遺物	71	第 117 図	C 区 23・27 号溝、C 区 23 号溝出土遺物	137
第 55 図	A 区 37 号住居跡、出土遺物	72	第 118 図	C 区 23・25 号溝出土遺物	138
第 56 図	A 区 40 号住居跡	73	第 119 図	C 区 28・30 号溝、28 号溝遺物出土状況	140
第 57 図	A 区 41 号住居跡	74	第 120 図	C 区 28 号溝出土遺物(1)	141
第 58 図	A 区 41 号住居跡掘り方、FA 出土状況	75	第 121 図	C 区 28 号溝出土遺物(2)	142
第 59 図	A 区 41 号住居跡出土遺物	76	第 122 図	C 区 28 号溝出土遺物(3)	143
第 60 図	A 区 43 号住居跡	76	第 123 図	C 区 28 号溝出土遺物(4)	144
第 61 図	A 区 43 号住居跡出土遺物	77	第 124 図	C 区 28 号溝出土遺物(5)	145
第 62 図	A 区 44 号住居跡	77	第 125 図	A 区 1 号焼土坑、30・46・48・76 号土坑	150
第 63 図	A 区 44 号住居跡出土遺物	78	第 126 図	A 区 82・B 区 1 号土坑、A 区 1 号焼土坑、 A 区 48・76・B 区 1 号土坑出土遺物	151

第127図	A区1号竪穴状遺構	152
第128図	A区1号竪穴状遺構出土遺物	153
第129図	A区耕作溝	154
第130図	A区1・B区1号道路跡	155
第131図	A区1号土器群、出土遺物	156
第132図	B区1号土器群(1)	157
第133図	B区1号土器群(2)	158
第134図	奈良・平安時代の遺構全体図	160
第135図	A区1号住居跡、出土遺物	161
第136図	A区1号住居跡竈、出土遺物	162
第137図	A区2号住居跡、掘り方	163
第138図	A区2号住居跡竈、出土遺物	164
第139図	A区3号住居跡、掘り方	165
第140図	A区3号住居跡竈、出土遺物	166
第141図	A区5号住居跡、竈、出土遺物	167
第142図	A区6号住居跡	168
第143図	A区6号住居跡掘り方、竈、出土遺物	169
第144図	A区7号住居跡、竈	170
第145図	A区7号住居跡出土遺物	171
第146図	A区8号住居跡、掘り方	172
第147図	A区8号住居跡竈、出土遺物	173
第148図	A区11号住居跡、掘り方、竈	174
第149図	A区11号住居跡出土遺物	175
第150図	A区21号住居跡、竈	176
第151図	A区21号住居跡出土遺物	177
第152図	A区33号住居跡、竈、出土遺物(1)	178
第153図	A区33号住居跡出土遺物(2)	179
第154図	A区38号住居跡、竈	180
第155図	A区39号住居跡、掘り方、出土遺物(1)	181
第156図	A区39号住居跡竈、出土遺物(2)	182
第157図	A区42号住居跡、掘り方	183
第158図	A区42号住居跡竈、出土遺物	184
第159図	A区45号住居跡、竈、出土遺物(1)	185
第160図	A区45号住居跡出土遺物(2)	186
第161図	A区48号住居跡、竈	187
第162図	A区48号住居跡出土遺物	188
第163図	A区49号住居跡	188
第164図	A区49号住居跡竈、出土遺物	189
第165図	A区50号住居跡、竈	190
第166図	A区50号住居跡出土遺物	191
第167図	A区51号住居跡、掘り方	192
第168図	A区51号住居跡竈、出土遺物(1)	193
第169図	A区51号住居跡出土遺物(2)	194
第170図	A区51号住居跡出土遺物(3)	195
第171図	A区51号住居跡出土遺物(4)	196
第172図	A区52号住居跡	198
第173図	A区52号住居跡竈、出土遺物	199
第174図	A区53号住居跡、竈	200
第175図	A区53号住居跡出土遺物	201
第176図	A区54号住居跡、竈、出土遺物	202
第177図	A区55号住居跡	203
第178図	A区55号住居跡竈、出土遺物(1)	204
第179図	A区55号住居跡出土遺物(2)	205
第180図	A区56号住居跡、出土遺物	207
第181図	A区57号住居跡	208
第182図	A区57号住居跡竈、出土遺物	209
第183図	A区58・59号住居跡	211
第184図	A区60号住居跡出土遺物	211
第185図	A区60号住居跡、掘り方、竈	212
第186図	A区61号住居跡、竈	213
第187図	A区62号住居跡	214
第188図	A区62号住居跡竈、出土遺物	215
第189図	A区63号住居跡、竈、出土遺物(1)	217
第190図	A区63号住居跡出土遺物(2)	218
第191図	A区64号住居跡、掘り方、竈	219
第192図	A区64号住居跡出土遺物	220
第193図	A区65号住居跡、掘り方、竈	221

第194図	A区65号住居跡出土遺物	222
第195図	A区66号住居跡、竈、出土遺物(1)	223
第196図	A区66号住居跡出土遺物(2)	224
第197図	A区69号住居跡、掘り方、出土遺物(1)	225
第198図	A区69号住居跡竈、出土遺物(2)	226
第199図	B区1号住居跡、竈	227
第200図	B区1号住居跡出土遺物	228
第201図	B区2号住居跡、竈	229
第202図	B区2号住居跡出土遺物	230
第203図	C区1号住居跡、掘り方	231
第204図	C区1号住居跡竈、出土遺物	232
第205図	C区3号住居跡	233
第206図	C区3号住居跡竈、出土遺物	234
第207図	C区4号住居跡、竈	235
第208図	C区4号住居跡出土遺物	236
第209図	C区5号住居跡、掘り方	237
第210図	C区5号住居跡竈、出土遺物	238
第211図	C区7号住居跡、竈	239
第212図	C区7号住居跡出土遺物	240
第213図	C区8号住居跡、竈	241
第214図	C区9号住居跡	241
第215図	C区9号住居跡竈、出土遺物	242
第216図	C区10号住居跡、竈	243
第217図	C区10号住居跡出土遺物	244
第218図	C区11号住居跡、竈、出土遺物	245
第219図	A区1号掘立柱建物跡	246
第220図	A区2号掘立柱建物跡	247
第221図	A区3号掘立柱建物跡	248
第222図	C区1号掘立柱建物跡、出土遺物	249
第223図	C区2号掘立柱建物跡	250
第224図	C区3号掘立柱建物跡、出土遺物	251
第225図	C区1～4号井戸、C区1・4号井戸出土遺物	253
第226図	A区7号溝	254
第227図	A区15・B区4号溝	255
第228図	C区1・14号溝	257
第229図	C区31号溝	258
第230図	C区20・26・29・33号溝	259
第231図	C区26号溝工具痕、A区7・C区1号溝出土遺物(1)	260
第232図	C区1(2)・26・29・31号溝出土遺物	261
第233図	A区45・50・51・54号土坑	263
第234図	A区55～57・60～62号土坑	264
第235図	A区65～71号土坑	265
第236図	A区72、C区6・19・32・51・59・60号土坑	266
第237図	A区50・51・65・66・68、C区6号土坑出土遺物	267
第238図	C区耕作溝(1)	268
第239図	C区耕作溝(2)	269
第240図	C区As-B下水田	271・272
第241図	近世以降の遺構全体図	274
第242図	A区3、B区1・2、C区5・6号井戸	276
第243図	C区7～13号井戸	278
第244図	C区14～18号井戸	280
第245図	C区5・7(1)号井戸出土遺物	281
第246図	C区7(2)・17号井戸出土遺物	282
第247図	A区1～5号溝	284
第248図	A区8～12号溝	286
第249図	A区13・14・16号溝	288
第250図	A区17～19・21号溝	289
第251図	B区1～3・5～7号溝	291
第252図	B区8、C区2・4・5・10・11号溝	293
第253図	C区12・15・18・19・21・22号溝	295
第254図	A区8、B区7、C区5号溝出土遺物	296
第255図	A区1・2・4～8号土坑	300
第256図	A区9～16号土坑	301
第257図	A区17～25号土坑	302
第258図	A区26～28・36～39号土坑	303
第259図	A区47・52・53・59号土坑	304



第260図	A区63・64・73～75・77・78号土坑	305
第261図	B区2～5号土坑、3号土坑出土遺物	306
第262図	C区1～5号土坑	306
第263図	C区7～16号土坑	307
第264図	C区20・22・24～29・37・38号土坑	308
第265図	C区34・35・40～43・53・54・57・61号土坑	309
第266図	C区1号道路跡	310
第267図	弥生時代出土遺物	312
第268図	古墳時代出土遺物(1)	312
第269図	古墳時代出土遺物(2)	313
第270図	古墳時代出土遺物(3)	314
第271図	奈良・平安時代出土遺物(1)	317
第272図	奈良・平安時代出土遺物(2)	318
第273図	奈良・平安時代出土遺物(3)	319
第274図	中世以降出土遺物(1)	321
第275図	中世以降出土遺物(2)	322
第276図	石製品	323
第277図	D区1号住居跡、竈	325
第278図	D区1号住居跡出土遺物	326
第279図	D区2号住居跡	326
第280図	D区2号住居跡竈、出土遺物	327
第281図	D区3号住居跡、竈、出土遺物	328
第282図	D区4号住居跡	329
第283図	D区5号住居跡	329
第284図	D区5号住居跡竈、出土遺物	330

第285図	D区6号住居跡、竈	331
第286図	D区6号住居跡出土遺物	332
第287図	D区7号住居跡、出土遺物	333
第288図	D区1号方形周溝墓	334
第289図	D区1号方形周溝墓全体図、出土遺物	335
第290図	D区1・2号溝	336
第291図	D区1・2・4号土坑、1号ピット、 1・2号土坑出土遺物	337
第292図	D区1号土坑墓、出土遺物	338
第293図	D区1号竪穴状遺構、出土遺物(1)	339
第294図	D区1号竪穴状遺構出土遺物(2)	340
第295図	波志江中野面遺跡A区土層柱状図	345
第296図	自然科学分析資料採取地点	347
第297図	波志江中野面遺跡C区土層柱状図	348
第298図	波志江中野面遺跡C区プラント・オパール 分析結果図	350
第299図	波志江中野面遺跡A区23号住居跡 炭化材の産状と樹種	353
第300図	土器胎土および粘土類中の粒子組成図	364
第301図	群馬県の概要地質図(新井(1964)を改変)	365
第302図	県内の前方後方形周溝墓の分布	368
第303図	県内の前方後方形周溝墓	369
第304図	前方後方形周溝墓の規模	371
第305図	前方部と後部の関係	372

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	10～13
第2表	群馬県の前方後方形周溝墓一覧表	370

第3表	古墳・奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表	376～378
-----	--------------------	---------

## 写真図版目次

PL 1 1.	A区西側全景
PL 1 2.	A区東側全景
PL 2 1.	A区北側全景
PL 2 2.	B区全景
PL 3 1.	C区西側全景
PL 3 2.	C区東側全景
PL 4 1.	A区4号住居跡全景 東から
PL 4 2.	A区4号住居跡遺物出土状況 南から
PL 4 3.	A区4号住居跡柱穴3セクション 西から
PL 4 4.	A区4号住居跡柱穴1セクション 東南から
PL 4 5.	A区4号住居跡掘り方全景 南から
PL 5 1.	A区9号住居跡遺物出土状況全景 西から
PL 5 2.	A区9号住居跡遺物出土状況 東から
PL 5 3.	A区9号住居跡柱穴2セクション 西から
PL 5 4.	A区9号住居跡柱穴4遺物出土状況 南から
PL 5 5.	A区9号住居跡掘り方全景 西から
PL 6 1.	A区10号住居跡全景 南西から
PL 6 2.	A区10号住居跡東西セクション 南から
PL 6 3.	A区10号住居跡南北セクション 西から
PL 6 4.	A区10号住居跡中央部遺物出土状況 東から
PL 6 5.	A区10号住居跡掘り方全景 西から
PL 7 1.	A区12号住居跡全景 東から
PL 7 2.	A区12号住居跡東西セクション 南から
PL 7 3.	A区12号住居跡貯蔵穴セクション 北から
PL 7 4.	A区12号住居跡北側遺物出土状況 南から
PL 7 5.	A区12号住居跡掘り方全景 南から
PL 8 1.	A区14号住居跡全景 東から
PL 8 2.	A区14号住居跡東西セクション 南から

PL 8 3.	A区14号住居跡北東部分 南から
PL 8 4.	A区14号住居跡南壁付近出土遺物勾玉 北から
PL 8 5.	A区14号住居跡炉全景 南から
PL 9 1.	A区14号住居跡柱穴1セクション 南から
PL 9 2.	A区14号住居跡貯蔵穴 北から
PL 9 3.	A区14号住居跡掘り方全景 北から
PL 9 4.	A区16号住居跡柱穴全景 南から
PL 9 5.	A区16号住居跡全景 南から
PL 10 1.	A区17号住居跡全景(住居ライン入り) 南から
PL 10 2.	A区17号住居跡セクション 南から
PL 10 3.	A区17号住居跡遺物出土状況 南から
PL 10 4.	A区17号住居跡遺物出土状況 北から
PL 10 5.	A区17号住居跡遺物出土状況 西から
PL 11 1.	A区17号住居跡東西セクション 南から
PL 11 2.	A区17号住居跡南西端遺物出土状況 東から
PL 11 3.	A区17号住居跡全景 南から
PL 11 4.	A区17号住居跡南西端遺物出土状況 西から
PL 11 5.	A区17号住居跡北東端遺物出土状況 西から
PL 12 1.	A区17号住居跡炉跡全景 南から
PL 12 2.	A区17号住居跡柱穴3セクション 南から
PL 12 3.	A区17号住居跡柱穴1 南から
PL 12 4.	A区17号住居跡柱穴2 南から
PL 12 5.	A区17号住居跡柱穴3 南から
PL 12 6.	A区17号住居跡柱穴4 南から
PL 12 7.	A区17号住居跡貯蔵穴 南から
PL 12 8.	A区17号住居跡掘り方全景 南から
PL 13 1.	A区18号住居跡全景 北から
PL 13 2.	A区18号住居跡南北セクション 西から

- PL 13 3. A区18号住居跡柱穴1セクション 東から  
 PL 13 4. A区18号住居跡北側遺物出土状況 東から  
 PL 13 5. A区18号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 14 1. A区22号住居跡全景 東から  
 PL 14 2. A区22号住居跡東西セクション 南から  
 PL 14 3. A区22号住居跡7溝の切り合いセクション 南から  
 PL 14 4. A区22号住居跡ピット1 南から  
 PL 14 5. A区22号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 15 1. A区22号住居跡全景 東から  
 PL 15 2. A区23号住居跡全景 北から  
 PL 15 3. A区23号住居跡炭化材出土状況 西から  
 PL 15 4. A区23号住居跡炭化材出土状況 北から  
 PL 15 5. A区23号住居跡炭化材出土状況 南西から  
 PL 16 1. A区23号住居跡遺物出土状況 西から  
 PL 16 2. A区23号住居跡焼土・炭化材出土状況 北から  
 PL 17 1. A区23号住居跡柱穴1 上から  
 PL 17 2. A区23号住居跡柱穴2 上から  
 PL 17 3. A区23号住居跡柱穴3 上から  
 PL 17 4. A区23号住居跡柱穴4 上から  
 PL 17 5. A区23号住居跡貯蔵穴 上から  
 PL 17 6. A区23号住居跡掘り方全景 北から  
 PL 17 7. A区23号住居跡柱穴1石膏流し込み 南から  
 PL 17 8. A区23号住居跡柱穴2石膏流し込み 南から  
 PL 18 1. A区24号住居跡全景 南東から  
 PL 18 2. A区24号住居跡セクション 西から  
 PL 18 3. A区24号住居跡全景 西から  
 PL 18 4. A区24号住居跡東西セクション 南から  
 PL 18 5. A区24号住居跡南東部分遺物出土状況 西から  
 PL 19 1. A区25号住居跡全景 南から  
 PL 19 2. A区25号住居跡南東部分遺物出土状況 西から  
 PL 19 3. A区25号住居跡遺物2出土状況 北から  
 PL 19 4. A区25号住居跡貯蔵穴 南から  
 PL 19 5. A区25号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 20 1. A区27号住居跡全景 南から  
 PL 20 2. A区27号住居跡セクション 西から  
 PL 20 3. A区27号住居跡掘り方全景 南から  
 PL 20 4. A区30号住居跡セクション 南から  
 PL 20 5. A区30号住居跡貯蔵穴セクション 南から  
 PL 21 1. A区30号住居跡全景 西から  
 PL 21 2. A区30号住居跡掘り方全景 南から  
 PL 21 3. A区31号住居跡セクション 南から  
 PL 21 4. A区31号住居跡全景 南から  
 PL 21 5. A区31号住居跡柱穴2セクション 南から  
 PL 22 1. A区31号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 22 2. A区32号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 23 1. A区34号住居跡セクション 南から  
 PL 23 2. A区34号住居跡全景 西から  
 PL 23 3. A区34号住居跡掘り方全景 南から  
 PL 23 4. A区35号住居跡道路側セクション 北から  
 PL 23 5. A区35号住居跡全景 西から  
 PL 24 1. A区35号住居跡全景 西から  
 PL 24 2. A区35号住居跡柱穴2セクション 南から  
 PL 24 3. A区35号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 24 4. A区36号住居跡全景 西から  
 PL 24 5. A区36号住居跡柱穴1セクション 南から  
 PL 25 1. A区36号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 25 2. A区37号住居跡東西ベルトセクション 南から  
 PL 25 3. A区37号住居跡全景 南から  
 PL 25 4. A区37号住居跡柱穴セクション 南から  
 PL 25 5. A区37号住居跡掘り方全景 北から  
 PL 26 1. A区40号住居跡全景 西から  
 PL 26 2. A区40号住居跡東西セクション 南から  
 PL 26 3. A区40号住居跡南北セクション 西から  
 PL 26 4. A区41号住居跡FA全景 北から  
 PL 26 5. A区41号住居跡東西セクション 北から  
 PL 27 1. A区41号住居跡南北セクション 西から  
 PL 27 2. A区41号住居跡全景 北から  
 PL 27 3. A区41号住居跡掘り方全景 北から  
 PL 27 4. A区43号住居跡南北セクション 西から  
 PL 27 5. A区43号住居跡掘り方全景 南から  
 PL 28 1. A区43号住居跡全景 南から  
 PL 28 2. A区44号住居跡全景 北から  
 PL 29 1. A区44号住居跡全景 北から  
 PL 29 2. A区44号住居跡掘り方全景 北から  
 PL 29 3. A区68号住居跡全景 西から  
 PL 29 4. A区68号住居跡遺物1出土状況 南から  
 PL 29 5. A区68号住居跡遺物出土状況 南から  
 PL 30 1. A区68号住居跡柱穴1セクション 南から  
 PL 30 2. A区68号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 30 3. B区3号住居跡側道部全景 南から  
 PL 30 4. B区3号住居跡東西セクション 南から  
 PL 30 5. B区3号住居跡掘り方全景 南から  
 PL 31 1. C区6号住居跡全景 北から  
 PL 31 2. C区6号住居跡東西セクション 南から  
 PL 31 3. C区6号住居跡遺物出土状況 南から  
 PL 31 4. C区6号住居跡柱穴1セクション 西から  
 PL 31 5. C区6号住居跡掘り方全景 東から  
 PL 32 1. C区12号住居跡全景 西から  
 PL 32 2. C区12号住居跡東西セクション 南から  
 PL 32 3. C区12号住居跡南北セクション 西から  
 PL 32 4. C区12号住居跡貯蔵穴 東から  
 PL 32 5. C区12号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 33 1. A区1号方形周溝墓全景 北から  
 PL 33 2. A区1号方形周溝墓E-E'セクション 西から  
 PL 33 3. A区1号方形周溝墓A-A'セクション 南から  
 PL 33 4. A区1号方形周溝墓北溝 西から  
 PL 33 5. A区1号方形周溝墓西溝 北から  
 PL 34 1. A区2号方形周溝墓全景 北から  
 PL 34 2. A区2号方形周溝墓A-A'セクション 西から  
 PL 34 3. A区2号方形周溝墓B-B'セクション 東から  
 PL 34 4. A区2号方形周溝墓遺物出土状況 南から  
 PL 34 5. A区2号方形周溝墓周溝部 西から  
 PL 35 1. A区3号方形周溝墓全景 南から  
 PL 35 2. A区3号方形周溝墓A-A'セクション 北から  
 PL 35 3. A区3号方形周溝墓B-B'セクション 西から  
 PL 35 4. A区3号方形周溝墓遺物出土状況 西から  
 PL 35 5. A区3号方形周溝墓遺物出土状況 西から  
 PL 36 1. A区4号方形周溝墓全景 西から  
 PL 36 2. A区4号方形周溝墓D-D'セクション 東から  
 PL 36 3. A区4号方形周溝墓B-B'セクション 南から  
 PL 36 4. A区4号方形周溝墓周溝部 東から  
 PL 36 5. A区4号方形周溝墓周溝部 西から  
 PL 37 1. A区5号方形周溝墓全景 南から  
 PL 37 2. A区5号方形周溝墓D-D'セクション 南から  
 PL 37 3. A区5号方形周溝墓D-D'セクション 東から  
 PL 37 4. A区5号方形周溝墓遺物出土状況 西から  
 PL 37 5. A区5号方形周溝墓遺物出土状況 東から  
 PL 38 1. A区6号方形周溝墓全景 北西から  
 PL 38 2. A区6号方形周溝墓東側周溝セクション 北から  
 PL 38 3. A区6号方形周溝墓西側周溝セクション 北から  
 PL 38 4. A区7号方形周溝墓I-I'セクション 北から  
 PL 38 5. A区7号方形周溝墓E-E'セクション 南から  
 PL 39 1. A区7号方形周溝墓全景 北から  
 PL 39 2. A区7号方形周溝墓遺物出土状況 西から  
 PL 39 3. A区7号方形周溝墓遺物出土状況 南から  
 PL 39 4. A区7号方形周溝墓遺物出土状況 南西から  
 PL 39 5. A区7号方形周溝墓C軽石土坑 南から  
 PL 40 1. A区8号方形周溝墓全景 北から  
 PL 40 2. A区8号方形周溝墓A-A'セクション 南から  
 PL 40 3. A区8号方形周溝墓C-C'セクション 西から  
 PL 40 4. A区9号方形周溝墓D-D'セクション 西から  
 PL 40 5. A区9号方形周溝墓A-A'セクション 南から  
 PL 41 1. A区9号方形周溝墓全景 北から  
 PL 41 2. A区9号方形周溝墓遺物出土状況 南から

PL 41 3. A区9号方形周溝墓遺物出土状況 南から  
 PL 41 4. A区10号方形周溝墓全景 北から  
 PL 41 5. A区10号方形周溝墓A-A'セクション 西から  
 PL 42 1. A区10号方形周溝墓C-C'セクション 北から  
 PL 42 2. A区11号方形周溝墓全景 東から  
 PL 42 3. A区12号方形周溝墓全景 西から  
 PL 42 4. A区12号方形周溝墓C-C'セクション 西から  
 PL 42 5. A区12号方形周溝墓A-A'セクション 南から  
 PL 43 1. A区13号方形周溝墓全景 西から  
 PL 43 2. A区13号方形周溝墓C-C'セクション 西から  
 PL 43 3. A区13号方形周溝墓遺物出土状況 西から  
 PL 43 4. A区13号方形周溝墓遺物出土状況 西から  
 PL 43 5. A区13号方形周溝墓遺物出土状況 西から  
 PL 44 1. A区14号方形周溝墓全景 東から  
 PL 44 2. A区14号方形周溝墓C-C'セクション 南から  
 PL 44 3. A区14号方形周溝墓D-D'セクション 西から  
 PL 44 4. A区14号方形周溝墓遺物出土状況 北から  
 PL 44 5. A区14号方形周溝墓遺物出土状況 東から  
 PL 45 1. B区1号方形周溝墓全景 西から  
 PL 45 2. B区1号方形周溝墓南北セクション 西から  
 PL 45 3. B区2号方形周溝墓FA出土状況 北から  
 PL 45 4. B区2号方形周溝墓A-A'セクション 東から  
 PL 45 5. B区2号方形周溝墓B-B'セクション 北から  
 PL 46 1. B区2号方形周溝墓全景 南から  
 PL 46 2. B区3号方形周溝墓全景 東から  
 PL 47 1. B区3号方形周溝墓FA全景 北から  
 PL 47 2. B区3号方形周溝墓南北ベルトセクション 西から  
 PL 47 3. B区4号方形周溝墓全景 西から  
 PL 47 4. B区4号方形周溝墓D-D'セクション 南から  
 PL 47 5. B区4号方形周溝墓遺物出土状況 南から  
 PL 48 1. C区1号方形周溝墓全景 東から  
 PL 48 2. C区1号方形周溝墓全景 西から  
 PL 48 3. C区1号方形周溝墓B-B'セクション 北から  
 PL 48 4. C区1号方形周溝墓側道部セクション 東から  
 PL 48 5. C区4号掘立柱建物跡全景 南から  
 PL 49 1. C区5号掘立柱建物跡全景 東から  
 PL 49 2. A区1号井戸全景 南から  
 PL 49 3. A区2号井戸全景 西から  
 PL 49 4. C区3号溝全景 南東から  
 PL 50 1. C区3号溝セクション 北から  
 PL 50 2. C区6号溝全景 南から  
 PL 50 3. C区7号溝全景 東から  
 PL 50 4. C区9号溝全景 東から  
 PL 50 5. C区13号溝全景 北から  
 PL 51 1. C区16・24・25号溝セクション 南から  
 PL 51 2. C区25号溝全景 北から  
 PL 51 3. C区16・24号溝 北から  
 PL 51 4. C区23号溝セクション 南から  
 PL 51 5. C区27号溝全景 南から  
 PL 51 6. C区28号溝セクション 北から  
 PL 51 7. C区28号溝遺物出土状況 西から  
 PL 52 1. C区26・28・29・30号溝全景 南西から  
 PL 52 2. A区1号焼土坑全景 西から  
 PL 52 3. A区30号土坑セクション 西から  
 PL 52 4. A区46号土坑全景 南から  
 PL 52 5. A区48号土坑全景 西から  
 PL 53 1. A区76号土坑セクション 南から  
 PL 53 2. A区82号土坑全景 西から  
 PL 53 3. B区1号土坑土器片除去後セクション 西から  
 PL 53 4. A区1号竪穴状遺構セクション 南から  
 PL 53 5. A区1号竪穴状遺構全景 西から  
 PL 54 1. A区古墳時代耕作溝全景 北から  
 PL 54 2. A区1号道路跡C-C'セクション 南から  
 PL 54 3. B区1号道路跡セクション 北から  
 PL 54 4. A区1号土器群全景 北から  
 PL 54 5. B区1号土器群遺物出土状況 西から  
 PL 54 6. B区1号土器群遺物出土状況 西から  
 PL 54 7. A区1号住居跡南北セクション 東から  
 PL 54 8. A区1号住居跡竈付近 西から  
 PL 55 1. A区1号住居跡全景 西から  
 PL 55 2. A区2号住居跡全景 西から  
 PL 56 1. A区2号住居跡竈セクション 西から  
 PL 56 2. A区2号住居跡全景 西から  
 PL 56 3. A区3号住居跡全景 西から  
 PL 56 4. A区3号住居跡竈全景 西から  
 PL 56 5. A区3号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 57 1. A区5号住居跡全景 西から  
 PL 57 2. A区5号住居跡南北セクション 西から  
 PL 57 3. A区5号住居跡竈断ち割りセクション 西から  
 PL 57 4. A区6号住居跡東西セクション 南から  
 PL 57 5. A区6号住居跡竈断ち割りセクション 西から  
 PL 58 1. A区6号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 58 2. A区7号住居跡全景 西から  
 PL 59 1. A区7号住居跡南北セクション 西から  
 PL 59 2. A区7号住居跡竈全景 西から  
 PL 59 3. A区8号住居跡全景 西から  
 PL 59 4. A区8号住居跡東西セクション 南から  
 PL 59 5. A区8号住居跡竈全景 西から  
 PL 60 1. A区11号住居跡全景 南から  
 PL 60 2. A区11号住居跡南北セクション 西から  
 PL 60 3. A区11号住居跡竈全景 南から  
 PL 60 4. A区11号住居跡掘り方全景 南から  
 PL 60 5. A区11号住居跡竈断ち割りセクション 南から  
 PL 61 1. A区21号住居跡全景 西から  
 PL 61 2. A区21号住居跡セクション 西から  
 PL 61 3. A区21号住居跡竈全景 西から  
 PL 61 4. A区33号住居跡南北セクション 西から  
 PL 61 5. A区33号住居跡竈全景 西から  
 PL 62 1. A区33号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 62 2. A区38号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 63 1. A区39号住居跡全景 西から  
 PL 63 2. A区39号住居跡竈全景 西から  
 PL 63 3. A区39号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 63 4. A区42号住居跡遺物出土状況 北から  
 PL 63 5. A区42号住居跡竈全景 西から  
 PL 64 1. A区42号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 64 2. A区45号住居跡南北セクション 西から  
 PL 64 3. A区45号住居跡遺物出土状況 南から  
 PL 64 4. A区45号住居跡竈全景 西から  
 PL 64 5. A区45号住居跡貯蔵穴 北から  
 PL 65 1. A区45号住居跡全景 西から  
 PL 65 2. A区48号住居跡全景 西から  
 PL 66 1. A区48号住居跡竈全景 南西から  
 PL 66 2. A区48号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 66 3. A区49号住居跡全景 西から  
 PL 66 4. A区49号住居跡南北セクション 西から  
 PL 66 5. A区49号住居跡竈南北セクション 西から  
 PL 67 1. A区49号住居跡貯蔵穴2セクション 西から  
 PL 67 2. A区49号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 67 3. A区50号住居跡全景 西から  
 PL 67 4. A区50号住居跡竈全景 西から  
 PL 67 5. A区50号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 68 1. A区51号住居跡全景 西から  
 PL 68 2. A区51号住居跡南北セクション 西から  
 PL 68 3. A区51号住居跡竈全景 西から  
 PL 68 4. A区51号住居跡遺物出土状況(土鍾) 南から  
 PL 68 5. A区51号住居跡貯蔵穴セクション 東から  
 PL 69 1. A区52号住居跡全景 西から  
 PL 69 2. A区52号住居跡竈全景 西から  
 PL 69 3. A区52号住居跡床下土坑セクション 南から  
 PL 69 4. A区53号住居跡竈南北セクション 西から  
 PL 69 5. A区53号住居跡竈全景 西から  
 PL 70 1. A区53号住居跡全景 西から  
 PL 70 2. A区54号住居跡南北セクション 西から

PL 70 3. A区54号住居跡竈南北セクション 西から  
 PL 70 4. A区54号住居跡全景 西から  
 PL 70 5. A区54号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 71 1. A区55号住居跡南北セクション 西から  
 PL 71 2. A区55号住居跡遺物出土状況 西から  
 PL 71 3. A区55号住居跡全景 西から  
 PL 71 4. A区55号住居跡新旧竈全景 西から  
 PL 71 5. A区55号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 72 1. A区56・57号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 72 2. A区56・57号住居跡東西ベルトセクション 北から  
 PL 72 3. A区57号住居跡竈全景 西から  
 PL 72 4. A区58号住居跡南北セクション 西から  
 PL 72 5. A区58号住居跡貯蔵穴セクション 西から  
 PL 73 1. A区58・59号住居跡全景 東から  
 PL 73 2. A区60号住居跡南北セクション 西から  
 PL 73 3. A区60号住居跡竈全景 西から  
 PL 73 4. A区60号住居跡貯蔵穴 西から  
 PL 73 5. A区60号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 74 1. A区61号住居跡全景 西から  
 PL 74 2. A区61号住居跡竈セクション 西から  
 PL 74 3. A区61号住居跡竈全景 西から  
 PL 74 4. A区62号住居跡全景 西から  
 PL 74 5. A区62号住居跡竈全景 西から  
 PL 75 1. A区62号住居跡遺物出土状況 西から  
 PL 75 2. A区62号住居跡貯蔵穴1 南から  
 PL 75 3. A区62号住居跡貯蔵穴2 西から  
 PL 75 4. A区62号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 75 5. A区63号住居跡全景 西から  
 PL 76 1. A区63号住居跡竈全景 西から  
 PL 76 2. A区63号住居跡貯蔵穴セクション 南から  
 PL 76 3. A区63号住居跡墨書土器出土状況 西から  
 PL 76 4. A区63号住居跡刀子出土状況 南から  
 PL 76 5. A区64号住居跡全景 西から  
 PL 77 1. A区64号住居跡南北セクション 西から  
 PL 77 2. A区64号住居跡竈全景 西から  
 PL 77 3. A区64号住居跡竈掘り方セクション 南から  
 PL 77 4. A区64号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 77 5. A区65号住居跡全景 西から  
 PL 78 1. A区65号住居跡南北セクション 西から  
 PL 78 2. A区65号住居跡竈支脚石出土状況 西から  
 PL 78 3. A区66号住居跡竈全景 西から  
 PL 78 4. A区66号住居跡ピット1 南から  
 PL 78 5. A区66号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 79 1. A区69号住居跡全景 西から  
 PL 79 2. A区69号住居跡南北セクション 西から  
 PL 79 3. A区69号住居跡新北竈全景 南から  
 PL 79 4. A区69号住居跡旧東竈全景 西から  
 PL 79 5. A区69号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 80 1. B区1号住居跡全景 南から  
 PL 80 2. B区1号住居跡竈全景 南から  
 PL 80 3. B区1号住居跡竈全景 西から  
 PL 80 4. B区2号住居跡東西セクション 南から  
 PL 80 5. B区2号住居跡南北セクション 西から  
 PL 81 1. B区2号住居跡竈付近遺物出土状況 南から  
 PL 81 2. B区2号住居跡竈全景 南から  
 PL 81 3. B区2号住居跡全景 南西から  
 PL 81 4. C区1号住居跡竈全景 西から  
 PL 81 5. C区1号住居跡遺物出土状況 上から  
 PL 82 1. C区1号住居跡全景 北から  
 PL 82 2. C区3号住居跡全景 西から  
 PL 83 1. C区3号住居跡南北セクション 東から  
 PL 83 2. C区3号住居跡全景 西から  
 PL 83 3. C区3号住居跡竈全景 西から  
 PL 83 4. C区3号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 83 5. C区4号住居跡全景 西から  
 PL 84 1. C区4号住居跡東西セクション 南から  
 PL 84 2. C区4号住居跡遺物出土状況 西から  
 PL 84 3. C区4号住居跡竈全景 西から  
 PL 84 4. C区4号住居跡掘り方 西から  
 PL 84 5. C区5号住居跡全景 西から  
 PL 85 1. C区5号住居跡竈全景 西から  
 PL 85 2. C区5号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 85 3. C区7号住居跡遺物出土状況 西から  
 PL 85 4. C区7号住居跡竈全景 西から  
 PL 85 5. C区7号住居跡竈支脚石除去後 西から  
 PL 86 1. C区8号住居跡全景 西から  
 PL 86 2. C区8号住居跡竈セクション 南から  
 PL 86 3. C区9号住居跡全景 西から  
 PL 86 4. C区9号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 86 5. C区9号住居跡遺物出土状況 南から  
 PL 87 1. C区10号住居跡全景 西から  
 PL 87 2. C区10号住居跡南北セクション 西から  
 PL 87 3. C区10号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 87 4. C区11号住居跡竈全景 西から  
 PL 87 5. C区11号住居跡掘り方全景 西から  
 PL 88 1. C区11号住居跡全景 西から  
 PL 88 2. A区1号掘立柱建物跡全景 南から  
 PL 89 1. A区2号掘立柱建物跡全景 東から  
 PL 89 2. A区3号掘立柱建物跡全景 東から  
 PL 90 1. C区1号掘立柱建物跡全景 北から  
 PL 90 2. C区1号掘立柱建物跡P6遺物出土状況 北から  
 PL 90 3. C区2号掘立柱建物跡全景 西から  
 PL 90 4. C区3号掘立柱建物跡全景 北から  
 PL 91 1. C区1号井戸全景 南から  
 PL 91 2. C区1号井戸セクション 南から  
 PL 91 3. C区2号井戸全景 東から  
 PL 91 4. C区2号井戸セクション 西から  
 PL 91 5. C区3号井戸全景 西から  
 PL 91 6. C区3号井戸セクション 南から  
 PL 91 7. C区4号井戸全景 東から  
 PL 91 8. C区4号井戸セクション 東から  
 PL 92 1. A区7号溝全景 南から  
 PL 92 2. A区7・8号溝全景 北から  
 PL 93 1. A区7号溝D-D'セクション 南から  
 PL 93 2. A区15号溝セクション 北から  
 PL 93 3. A区15号溝全景 南から  
 PL 93 4. A区15号溝全景 南から  
 PL 93 5. A区15号溝全景 北から  
 PL 93 6. B区4号溝全景 南から  
 PL 93 7. B区2～4号溝セクション 南西から  
 PL 94 1. C区1号溝全景 西から  
 PL 94 2. C区14号溝セクション 南から  
 PL 94 3. C区14号溝全景 南から  
 PL 94 4. C区20号溝全景 南から  
 PL 95 1. C区26号溝セクション 南西から  
 PL 95 2. C区26号溝遺物出土状況 北から  
 PL 95 3. C区26号溝全景 南から  
 PL 95 4. C区31号溝全景 西から  
 PL 95 5. A区46号土坑全景 北から  
 PL 96 1. A区50号土坑全景 南から  
 PL 96 2. A区50号土坑遺物出土状況 北から  
 PL 96 3. A区51号土坑全景 北から  
 PL 96 4. A区54号土坑全景 南から  
 PL 96 5. A区55号土坑全景 西から  
 PL 96 6. A区56号土坑遺物出土状況 西から  
 PL 96 7. A区57号土坑全景 西から  
 PL 96 8. A区60号土坑全景 西から  
 PL 97 1. A区61号土坑全景 南から  
 PL 97 2. A区62号土坑全景 西から  
 PL 97 3. A区65号土坑全景 西から  
 PL 97 4. A区66号土坑全景 西から  
 PL 97 5. A区67号土坑全景 南から  
 PL 97 6. A区68号土坑全景 西から  
 PL 97 7. A区69号土坑全景 西から

- PL 97 8. A区70号土坑全景 西から
- PL 98 1. A区71号土坑全景 北から
- PL 98 2. A区72号土坑全景 西から
- PL 98 3. C区6号土坑全景 南から
- PL 98 4. C区19号土坑セクション 西から
- PL 98 5. C区32号土坑全景 西から
- PL 98 6. C区51号土坑全景 南から
- PL 98 7. C区59号土坑全景 東から
- PL 98 8. C区60号土坑全景 西から
- PL 99 1. C区耕作溝全景 北から
- PL 99 2. C区水田、水口 東から
- PL 99 3. C区水田 東から
- PL 99 4. C区水田 東から
- PL 99 5. C区水田 南から
- PL100 1. C区水田 西から
- PL100 2. A区3号井戸全景 西から
- PL100 3. B区1号井戸全景 南から
- PL100 4. B区2号井戸全景 南から
- PL100 5. C区5号井戸全景 西から
- PL101 1. C区6号井戸全景 東から
- PL101 2. C区7号井戸全景 西から
- PL101 3. C区8号井戸全景 南から
- PL101 4. C区9号井戸全景 南から
- PL101 5. C区10号井戸全景 西から
- PL101 6. C区11号井戸全景 南から
- PL101 7. C区12号井戸全景 南から
- PL101 8. C区13号井戸全景 南から
- PL102 1. C区14号井戸全景 南から
- PL102 2. C区15号井戸全景 東から
- PL102 3. C区16号井戸セクション 南から
- PL102 4. C区17号井戸セクション 西から
- PL102 5. C区17号井戸全景 西から
- PL102 6. C区18号井戸全景 西から
- PL102 7. A区1・2号溝全景 北西から
- PL102 8. A区3号溝全景 西から
- PL103 1. A区4号溝全景 東から
- PL103 2. A区5号溝全景 東から
- PL103 3. A区7・8号溝全景 北から
- PL103 4. A区9号溝全景 南から
- PL103 5. A区10号溝全景 南から
- PL104 1. A区11号溝全景 西から
- PL104 2. A区12号溝全景 東から
- PL104 3. A区12号溝南端追加部分全景 北西から
- PL104 4. A区13・14号溝全景 西から
- PL104 5. A区13・14号溝全景 西から
- PL104 6. A区16号溝東西セクション 南から
- PL104 7. A区16号溝(溝の形状) 南から
- PL105 1. A区16号溝全景 南から
- PL105 2. A区側道部18号溝全景 南から
- PL105 3. A区17号溝全景 南から
- PL105 4. A区21号溝全景 南から
- PL105 5. A区19号溝側道部全景 南から
- PL106 1. B区1～4号溝A-A'セクション 南西から
- PL106 2. B区1～4号溝全景 南から
- PL106 3. B区5・6号溝全景 東から
- PL106 4. B区7号溝全景 東から
- PL106 5. B区8号溝全景 西から
- PL106 6. C区2号溝全景 西から
- PL107 1. C区4・6～9号溝全景 東から
- PL107 2. C区5・10・11号溝全景 南から
- PL107 3. C区12号溝セクション 南から
- PL107 4. C区15号溝全景 南西から
- PL108 1. C区18・19号溝全景 東から
- PL108 2. C区21号溝全景 南から
- PL108 3. C区22号溝全景 南から
- PL108 4. A区1号土坑全景 南から
- PL108 5. A区2号土坑全景 南から
- PL108 6. A区4号土坑全景 南から
- PL109 1. A区5号土坑全景 東から
- PL109 2. A区6号土坑全景 東から
- PL109 3. A区7号土坑全景 東から
- PL109 4. A区8号土坑全景 東から
- PL109 5. A区9号土坑全景 北から
- PL109 6. A区10号土坑全景 南から
- PL109 7. A区11号土坑セクション 西から
- PL109 8. A区12号土坑全景 北から
- PL110 1. A区13号土坑全景 西から
- PL110 2. A区14号土坑セクション 西から
- PL110 3. A区15・16号土坑全景 北から
- PL110 4. A区17～21号土坑全景 西から
- PL110 5. A区22号土坑セクション 西から
- PL110 6. A区23号土坑セクション 南から
- PL110 7. A区24・25号土坑全景 西から
- PL110 8. A区26号土坑全景 東から
- PL111 1. A区27号土坑全景 西から
- PL111 2. A区36号土坑全景 西から
- PL111 3. A区37号土坑セクション 西から
- PL111 4. A区38号土坑セクション 西から
- PL111 5. A区39号土坑セクション 西から
- PL111 6. A区47号土坑全景 西から
- PL111 7. A区52号土坑全景 南から
- PL111 8. A区53号土坑全景 南から
- PL112 1. A区59号土坑全景 東から
- PL112 2. A区63号土坑全景 北から
- PL112 3. A区64号土坑全景 北から
- PL112 4. A区73号土坑全景 南から
- PL112 5. A区74号土坑全景 南から
- PL112 6. A区75号土坑全景 南から
- PL112 7. A区77号土坑セクション 南から
- PL113 1. A区78号土坑セクション 南から
- PL113 2. B区2号土坑全景 西から
- PL113 3. C区1号土坑全景 西から
- PL113 4. C区2号土坑全景 西から
- PL113 5. C区3～5号土坑全景 北から
- PL113 6. C区7号土坑全景 北から
- PL113 7. C区8号土坑全景 北から
- PL113 8. C区9号土坑、4号溝セクション 東から
- PL114 1. C区10号土坑全景 南から
- PL114 2. C区11号土坑全景 西から
- PL114 3. C区12号土坑全景 西から
- PL114 4. C区13号土坑全景 南から
- PL114 5. C区14号土坑全景 南から
- PL114 6. C区15号土坑セクション 西から
- PL114 7. C区16号土坑全景 南から
- PL114 8. C区20号土坑全景 南から
- PL115 1. C区22号土坑全景 南から
- PL115 2. C区24～26号土坑セクション 西から
- PL115 3. C区27・28号土坑セクション 西から
- PL115 4. C区29号土坑全景 南から
- PL115 5. C区34号土坑セクション 西から
- PL115 6. C区35号土坑全景 西から
- PL116 1. C区37号土坑全景 南から
- PL116 2. C区38号土坑全景 南から
- PL116 3. C区40号土坑全景 南から
- PL116 4. C区41・42号土坑全景 西から
- PL116 5. C区43号土坑全景 西から
- PL116 6. C区53・54号土坑全景 南から
- PL116 7. C区57号土坑全景 北から
- PL116 8. C区61号土坑全景 南から
1. 古墳時代の出土遺物
- PL117 A区4・9・10号住居跡
- PL118 A区10・12号住居跡
- PL119 A区12・14号住居跡
- PL120 A区14・16・17号住居跡

- PL121 A区17号住居跡  
 PL122 A区17号住居跡  
 PL123 A区17号住居跡  
 PL124 A区17号住居跡  
 PL125 A区17・18号住居跡  
 PL126 A区22・23・24号住居跡  
 PL127 A区24・25号住居跡  
 PL128 A区25号住居跡  
 PL129 A区27・30～32・34・35号住居跡  
 PL130 A区35～37・41・43・44・68、B区3号住居跡  
 PL131 C区6・12号住居跡、A区1号方形周溝墓  
 PL132 A区1～4号方形周溝墓  
 PL133 A区4～6号方形周溝墓  
 PL134 A区7号方形周溝墓  
 PL135 A区7号方形周溝墓  
 PL136 A区7号方形周溝墓  
 PL137 A区7～9号方形周溝墓  
 PL138 A区9・10・13・14号方形周溝墓  
 PL139 A区14、B区1・3・4、C区1号方形周溝墓  
 PL140 C区4号掘立柱建物跡、C区3・9・23・28号溝  
 PL141 C区28号溝  
 PL142 C区28号溝  
 PL143 C区28号溝  
 PL144 C区28号溝  
 PL145 C区28号溝、A区1号焼土坑、A区48・76号土坑  
 PL146 B区1号土坑、A区1号竪穴状遺構、A区1号土器群  
 PL147 A区1、B区1号土器群  
 2. 奈良・平安時代の出土遺物  
 PL148 A区1～3・5～8号住居跡  
 PL149 A区8・11・21・33号住居跡  
 PL150 A区39・42・45・48・49号住居跡  
 PL151 A区50・51号住居跡  
 PL152 A区52～55号住居跡  
 PL153 A区55～57・60・62号住居跡  
 PL154 A区62～65号住居跡  
 PL155 A区66・69、B区1号住居跡  
 PL156 B区2、C区1・3・4号住居跡  
 PL157 C区4・5・7・9号住居跡  
 PL158 C区9～11号住居跡、C区1・3号掘立柱建物跡、C区1・4号井戸、A区7号溝、C区1・26・29号溝  
 PL159 C区31号溝、A区50・51・65・66・68号土坑、C区6号土坑  
 3. 近世以降の出土遺物  
 PL159 C区5号井戸  
 PL160 C区7・17号井戸、A区8号溝、B区7号溝、C区5号溝、B区3号土坑  
 4. 遺構外出土遺物  
 PL161 (1)弥生時代～(2)古墳時代  
 PL162 (2)古墳時代  
 PL163 (2)古墳時代～(3)奈良・平安時代  
 PL164 (3)奈良・平安時代～(4)中世以降  
 PL165 (4)中世以降(5)石製品  
 PL166 1. D区全景 北から  
 PL166 2. D区全景 西から  
 PL167 1. D区1号住居跡全景 南から  
 PL167 2. D区1号住居跡竪電セクション 南から  
 PL167 3. D区1号住居跡竪電全景 南から  
 PL167 4. D区1号住居跡掘り方全景 南から  
 PL167 5. D区2号住居跡全景 南から  
 PL167 6. D区2号住居跡竪電セクション 南から  
 PL167 7. D区2号住居跡掘り方全景 南から  
 PL167 8. D区3号住居跡セクション 東から  
 PL168 1. D区3号住居跡全景 南から  
 PL168 2. D区3号住居跡竪電セクション 南から  
 PL168 3. D区3号住居跡掘り方全景 南から  
 PL168 4. D区4号住居跡全景 北から  
 PL168 5. D区5号住居跡セクション 南から  
 PL168 6. D区5号住居跡全景 西から  
 PL168 7. D区5号住居跡竪電セクション 南から  
 PL168 8. D区5号住居跡竪電全景 西から  
 PL169 1. D区5号住居跡掘り方全景 西から  
 PL169 2. D区5号住居跡掘り方全景 西から  
 PL169 3. D区6号住居跡セクション 南から  
 PL169 4. D区6号住居跡セクション 西から  
 PL169 5. D区6号住居跡全景 西から  
 PL169 6. D区6号住居跡遺物出土状況 西から  
 PL169 7. D区6号住居跡竪電セクション 南から  
 PL169 8. D区6号住居跡竪電全景 西から  
 PL170 1. D区6号住居跡掘り方全景 西から  
 PL170 2. D区6号住居跡掘り方全景 西から  
 PL170 3. D区7号住居跡セクション 南から  
 PL170 4. D区7号住居跡全景 南から  
 PL170 5. D区7号住居跡掘り方全景 西から  
 PL170 6. D区1号方形周溝墓セクション 南から  
 PL170 7. D区1号方形周溝墓セクション 南西から  
 PL170 8. D区1号方形周溝墓全景 南から  
 PL171 1. D区1号方形周溝墓全景 北西から  
 PL171 2. D区1号方形周溝墓遺物出土状況 北から  
 PL171 3. D区1号溝セクション 東から  
 PL171 4. D区1号溝全景 西から  
 PL171 5. D区2号溝セクション 南西から  
 PL171 6. D区2号溝セクション 北東から  
 PL171 7. D区2号溝全景 西から  
 PL172 1. D区2号溝全景 東から  
 PL172 2. D区1号土坑セクション 西から  
 PL172 3. D区1号土坑全景 南から  
 PL172 4. D区2号土坑セクション 南から  
 PL172 5. D区2号土坑全景 東から  
 PL172 6. D区4号土坑セクション 南から  
 PL172 7. D区4号土坑全景 南から  
 PL173 1. D区1号ピットセクション 南から  
 PL173 2. D区1号土坑墓全景 南から  
 PL173 3. D区1号土坑墓全景 西から  
 PL173 4. D区1号土坑墓セクション 北から  
 PL173 5. D区1号竪穴状遺構全景 北から  
 PL173 6. D区1号竪穴状遺構セクション 西から  
 5. D区の出土遺物  
 PL174 1～3・5・6号住居跡  
 PL175 7号住居跡、1号方形周溝墓、1・2号土坑、1号土坑墓  
 PL176 1号土坑墓、1号竪穴状遺構  
 PL177 植物珪酸体の顕微鏡写真(1)  
 PL178 植物珪酸体の顕微鏡写真(2)  
 PL179 波志江中野面遺跡23号住居跡出土炭化材  
 PL180 土器胎土および粘土類中の微化石類(1)  
 PL181 土器胎土および粘土類中の微化石類(2)



# 第1章 調査の経過と方法

## 1. 発掘調査に至る経緯

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査事業は、高崎市上滝町から伊勢崎市三和町の間、延長14.9kmの路線内に所在する遺跡を対象とする。平成7年度の全体計画では、遺跡数は35遺跡、総面積687,429㎡であった。

事業着手に先立ち、県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課、県土木部道路建設課高速道路対策室、原因者である日本道路公団東京第二建設局により協議が行われ、その結果、本線部分の発掘調査については（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することに決定した。

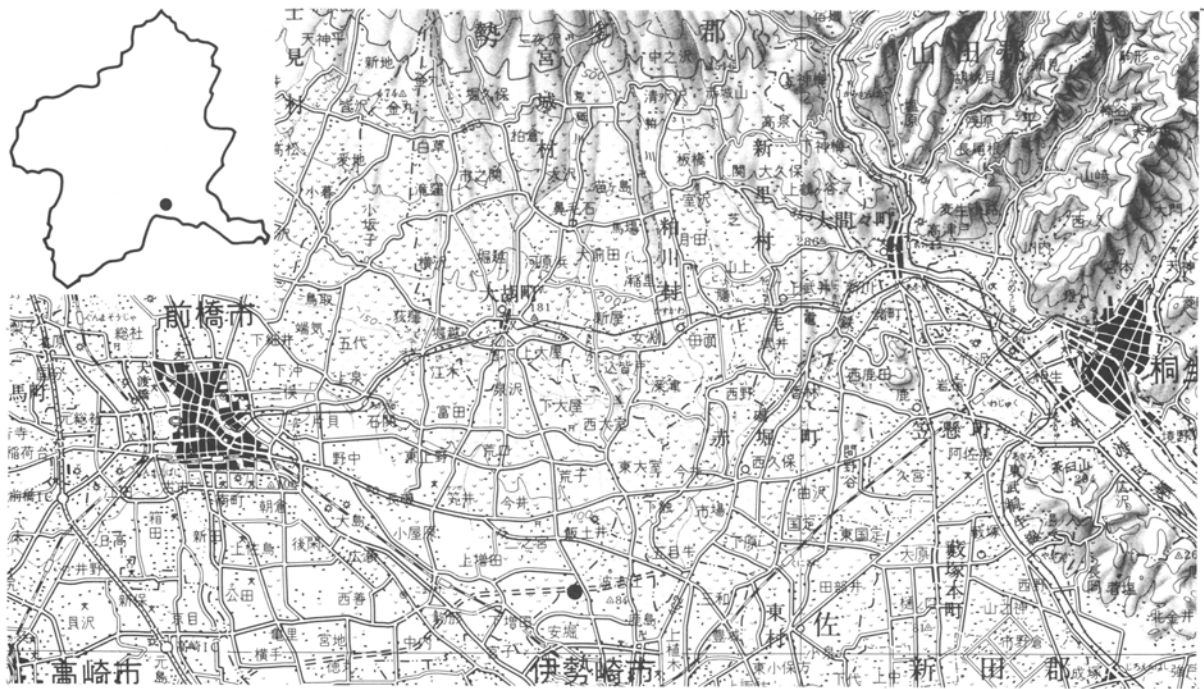
平成7年6月、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団により最初本格的発掘調査が高崎市上滝町において着手され、以後、用地取得、工事計画に基づく道路公団と群馬県教育委員会との協議に従って進められた。事業区間内全体の進行は、高崎市所在遺跡を皮切りに、平成8年1月に前橋市所在遺跡、平成8年

3月に伊勢崎市所在遺跡と続くが、波志江中野面遺跡の発掘着手は平成8年7月であった。

発掘調査に先立ち、群馬県教育委員会文化財保護課が平成8年7月31日から8月5日、及び平成8年11月11日に試掘調査を実施した。試掘は伊勢崎市と前橋市の境界部を流下する神沢川東岸から東へ約500mの間のうち用地買収の済んだ農地部分についてのトレンチ調査であった。

試掘の結果、神沢川から約90m区間は、神沢川の旧河床域に産業廃棄物の埋め立てが及んでおり遺跡の可能性はないものと判断された。他方、台地部は縄文時代から平安時代の遺構の存在が確認され、また、台地の東の低地では古代の水田跡が想定された。

平成9年度になって工事計画との調整上、調査実施が急を要してきたため、平成9年7月4日より集落跡が想定される遺跡西半部から、本格的発掘調査を開始した。



第1図 波志江中野面遺跡位置図

## 2. 調査の経過

波志江中野面遺跡は、平成9年7月4日から発掘調査を開始し、平成11年3月19日にほぼ終了した。平成11年8月17日から9月21日まで、先の期間に調査できなかった箇所を発掘調査を行った。最終的には延べ調査期間1年10ヶ月、調査対象表面積20,954㎡(延べ面積31,757㎡)であった。調査にあたって、便宜上、調査区内を南北に通る市道によって、西からA～C区として調査区を設定した。また、平成11年度に調査を行った地域をD区とした。当初、A区から順に調査を開始したが、平成10年度に入ると北関東自動車道建設工事との兼ね合いからC区の調査をA区と併行して実施することとなった。調査は地元の人々の理解もあって、順調に進んだ。また、この間、住民を対象とした遺跡見学会を2度実施した。

調査の結果、本遺跡から多くの遺構と遺物が見つかった。主な遺構としては竪穴住居跡92軒(縄文時代中期12軒、古墳時代前期28軒、奈良・平安時代52軒)、掘立柱建物跡8棟(古墳時代2棟、奈良・平安時代6棟)、方形周溝墓19基(古墳時代前期)、井戸23基、縄文時代の埋甕、As-B下水田跡等がある。

整理については、平成11年4月から古墳時代以降編に関する作業を先行して実施した。

### 調査日誌抄録

平成9年度

1997年

- 7.4 A区西部分表土掘削、遺構確認調査開始。
  - 7.8 発掘調査事務所、安全柵設置。
  - 8.1 調査体制を整え、本格的な発掘調査始まる。
  - 8.11 A区縄文時代から奈良・平安時代住居跡の調査開始。
  - 8.27 A区竪穴住居跡を高所作業車で写真撮影。
  - 9.9 A区奈良・平安時代の7号溝、近世の8号溝の調査開始。
  - 10.2 A区方形周溝墓調査開始。
  - 10.13 A区古墳時代の23号住居(焼失住居)調査開始。
  - 10.29 A区竪穴住居跡、溝、土坑群を高所作業車で写真撮影。
  - 10.30 A区古墳時代の17号住居調査開始。
  - 12.4 A区をRCヘリにより航空写真撮影。
  - 12.7 遺跡見学会(見学者680名)。
  - 12.16 A区方形周溝墓群を高所作業車で写真撮影。
  - 12.18 伊勢崎市教育委員会教育長来跡。
- 1998年
- 1.8 A区道路北側部分の表土掘削。遺構確認作業。午後より大雪。以後数日作業できず。
  - 1.26 A区東側部分の表土掘削。遺構確認作業。
  - 2.9 A区西側部分埋め戻し。
  - 3.17 A区道路北側部分、1号周溝墓を高所作業車で写真撮影。

- 3.23 B区安全柵設置。

平成10年度

- 4.8 B区表土掘削。
- 4.10 B区遺構確認作業開始。
- 4.17 C区東側部分安全柵設置。
- 4.20 C区東側部分表土掘削。
- 4.23 C区東側部分As-B下水田調査開始。
- 5.7 C区東側部分古墳時代～近世の溝調査。
- 5.13 C区東側部分平安時代竪穴住居跡調査開始。西屋敷班合流。この後、調査の状況により共同調査を実施。
- 5.20 B区平安時代竪穴住居跡調査開始。
- 5.28 A区道路北側部分、C区As-B下水田、A区6号方形周溝墓、C区溝をRCヘリにより航空写真撮影。併せて、高所作業車により写真撮影。
- 6.2 C区東側部分縄文時代の遺構、遺物調査。
- 6.9 県文化財保護課整理補助員遺跡見学のため来跡(20名)。
- 6.11 C区南側側道部表土掘削。溝、As-B下水田調査。
- 6.25 C区縄文時代埋甕取り上げ作業。
- 6.26 C区南側側道部を高所作業車により写真撮影。
- 7.1 C区東側部分調査終了。埋め戻し。
- 7.8 C区東側部分を工事関係者に引き渡し。
- 7.14 B区方形周溝墓調査開始。
- 7.15 群埋文創立20周年記念式典。
- 7.29 群馬県立太田女子高等学校生徒発掘体験学習(4名)。
- 8.10 同上 (9名)。
- 8.11 同上 (9名)。
- 8.12 C区西側部分表土掘削開始。
- 8.18 C区西側部分As-B下水田調査開始。
- 8.20 B区全景をRCヘリにより航空写真撮影。併せて、高所作業車により写真撮影。
- 9.25 B区埋め戻し。
- 9.28 古墳時代のA区14号前方後方形周溝墓調査開始。
- 10.6 伊勢崎市立第四中学校発掘体験学習(9名)。
- 10.7 埼玉県鶴ヶ島教育委員会遺跡見学のため来跡(30名)。
- 10.21 A区側道部表土掘削開始。遺構確認作業。
- 10.27 C区側道部表土掘削開始。
- 11.6 A区側道部(調査事務所前)表土掘削開始。
- 11.11 古墳時代のA区14号前方後方形周溝墓、C区西側部分As-B下水田を高所作業車にて写真撮影。
- 11.17 A区側道部、C区西側部分As-B下水田をRCヘリで航空写真撮影。
- 11.19 A区側道部埋め戻し。
- 11.23 遺跡見学会(見学者440名)。
- 11.30 C区西側部分でAs-B下水田の下層から、奈良・平安時代の26号溝検出。
- 12.3 B区側道部表土掘削。遺構確認作業。
- 12.9 A,B,C区の側道部全景を高所作業車で写真撮影。
- 12.22 C区西側部分の奈良・平安時代の26号溝を高所作業車で写真撮影。

1999年

- 1.5 A区側道部(調査事務所前)縄文時代竪穴住居跡調査開始。
- 1.11 A区東側部分、B区を工事関係者に引き渡し。
- 1.20 C区西側部分を工事関係者に引き渡し。
- 3.19 調査終了。A区全面埋め戻し。

平成11年度

- 8.17 D区表土掘削開始。
- 8.25 D区調査開始。遺構確認。
- 8.26 D区1号方形周溝墓調査開始。
- 8.27 D区平安時代竪穴住居跡調査開始。
- 9.13 D区全景をバルーンで空中写真撮影。
- 9.20 D区埋め戻し。
- 9.21 D区引き渡し。



### 3. 調査の方法

波志江中野面遺跡の発掘調査にあたっては、便宜上、調査区内を通る市道及び調査年度の違いによって、A～D区の4調査区に分け、実施した。なお、本遺跡は伊勢崎台地上に位置し、比較的安定した地形と考えられるが、南北方向に低地が入り込んでいる。調査対象遺構も台地部と低地部で違いがあった。台地部では竪穴住居跡、方形周溝墓等の集落遺構が検出され、低地部では水田跡や溝等が検出された。このため台地部と低地部の状況に応じて適宜、調査方法を切り替えて実施した。

#### (1) 台地部 (A・B・D区)

- ①掘削機 (バックホー) による表土 (現耕作土) の掘削を行った。
- ②遺構の確認作業の結果。竪穴住居跡、掘立柱建物跡、方形周溝墓、井戸、溝、土坑などを検出した。
- ③遺構名称は各調査区ごとに、種別ごとに通し番号を付した。
- ④埋没土層堆積状況の観察用ベルトを任意に設定して、移植ゴテほかにより、遺構を掘削した。
- ⑤遺構断面測量 (縮尺 1/20) 及びその写真撮影した。
- ⑥遺構平面測量にあたっては、平板を使用し、任意に縮尺 1/10、1/20、1/40、1/100を選択して行った。ただし、広範囲に及ぶ測量は、測量会社に委託した。
- ⑦作成された遺構平面図には、遺跡名・遺構名またはグリッド名・図種・縮尺・レベル高・ベンチマークの高さ・標高・実測者名・作成年月日を記入し、一枚一枚に遺構ごとの通し番号をつけて、図面袋に一括してまとめておいた。
- ⑧記録写真の撮影には、基本的に 6×7、35mmの白黒フィルムとリバーサルフィルムを使用した。全体写真の撮影 (個々の遺構でも必要に応じて) は、高所作業車、RCヘリを用いて行った。
- ⑨撮影したフィルムは現像処理し、白黒フィルムはベタ焼きを行った。ベタ焼きはネガ検索用台紙に遺構ごとに貼り付け、撮影対象・撮影方向・撮影日・

フィルム番号を記録した。リバーサルフィルムはコマごとに遺跡名・撮影対象・撮影方向・撮影日を記入し、遺構ごとに整理した。

⑩遺物の注記は遺跡略号 (KT-190)・調査区・遺構名またはグリッド名・遺物番号を書き込んだ。

⑪調査終了後、掘削機により試掘坑を掘り、土層観察を行った。

#### (2) 低地部 (C区)

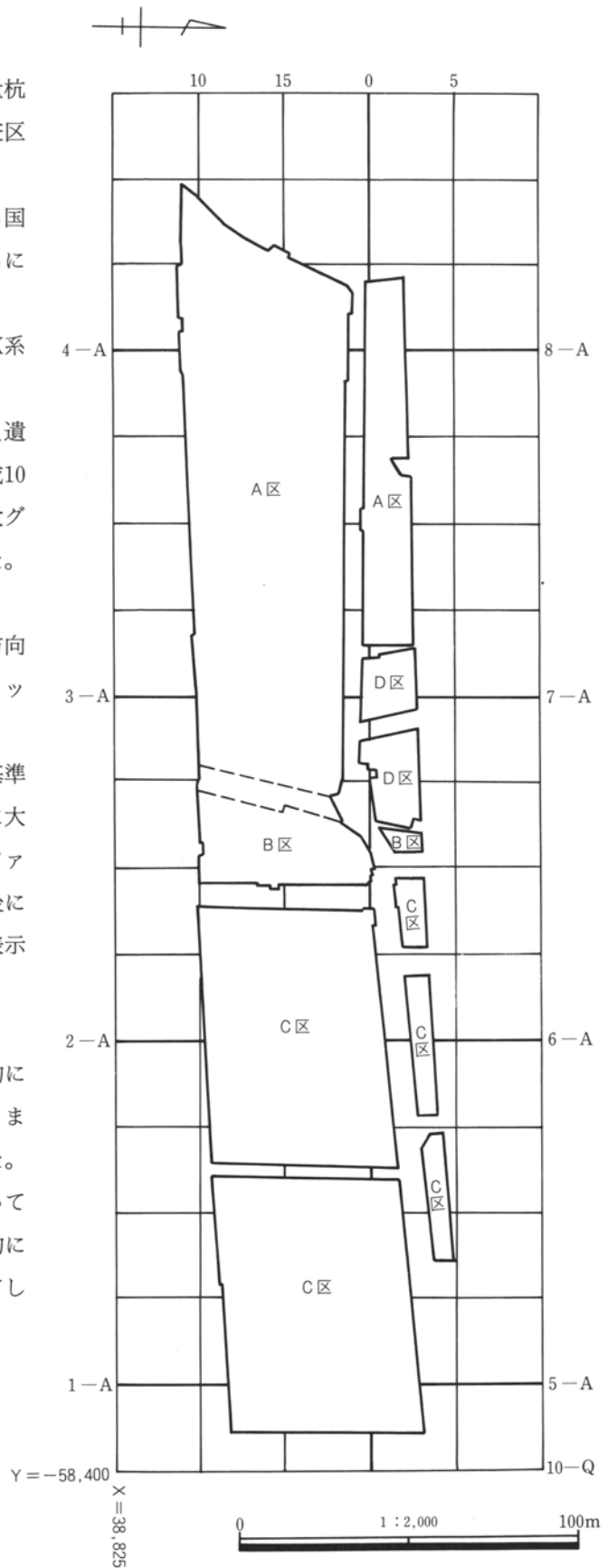
- ①掘削機 (バックホー) による表土 (現耕作土及び As-B混土) の掘削を行った。
- ② As-B上面の遺構の確認作業。溝、土坑、井戸跡ならびに As-B下水田跡検出。
- ③ As-B下面の遺構調査終了後、掘削機による As-B下水田耕土の掘削。
- ④ Hr-FA 下面及び As-C混土上面の確認作業。竪穴住居跡、耕作溝、溝を検出し調査。
- ⑤調査終了後、掘削機により試掘坑を掘り、土層観察を行った。

\*遺構名称の付け方、遺構測量及び作成した図面のまとめ方、記録写真の撮影・整理の方法などについては台地部のやり方と同じである。

## 4. 調査区の設定

波志江中野面遺跡の調査範囲は建設工事用測量杭のSTANo104～108にほぼ該当する。本遺跡の調査区の設定は、下記のように行った。

- (1) 調査区の設定には、群馬県を網羅している国家座標IX系を利用して行い、グリッドがのちに国家座標と置き換えられるように設定した。
- (2) 波志江中野面遺跡の基準点は、国家座標IX系  $X=38,800$ 、 $Y=-58,400$ である。
- (3) 座標の100m単位をもって大グリッドとし、遺跡を1～8までの8大グリッドとした。(平成10年度になり、調査面積の拡大に伴い、1,5の大グリッドの東側に9,10の大グリッドを追加した。このうち、10大グリッドとなる。)
- (4) 大グリッド内をX軸方向(西方向)、Y軸方向(北方向)それぞれ、5mごとに区切り、グリッドの最小単位を5m四方とした。
- (5) グリッドの呼称は、南東隅を起点にし、基準となる地点を1A-0と称した。これは、頭に大グリッド名を、X軸方向(西方向)をアルファベットでA～Tまでを使用して表示し、最後にY軸方向(北方向)を1～19までの数字で表示したものである。
- (6) 方眼杭の設定は、測量会社に委託した。
- (7) 発掘調査は南北に通る市道により、便宜的に西からA,B,C区の3調査に分けて実施した。また、平成11年度に調査した地域をD区とした。ただしA区とB区の境界とした市道についても、発掘調査を実施することになり、結果的にはA区とB区の境界がはっきりしなくなってしまった。

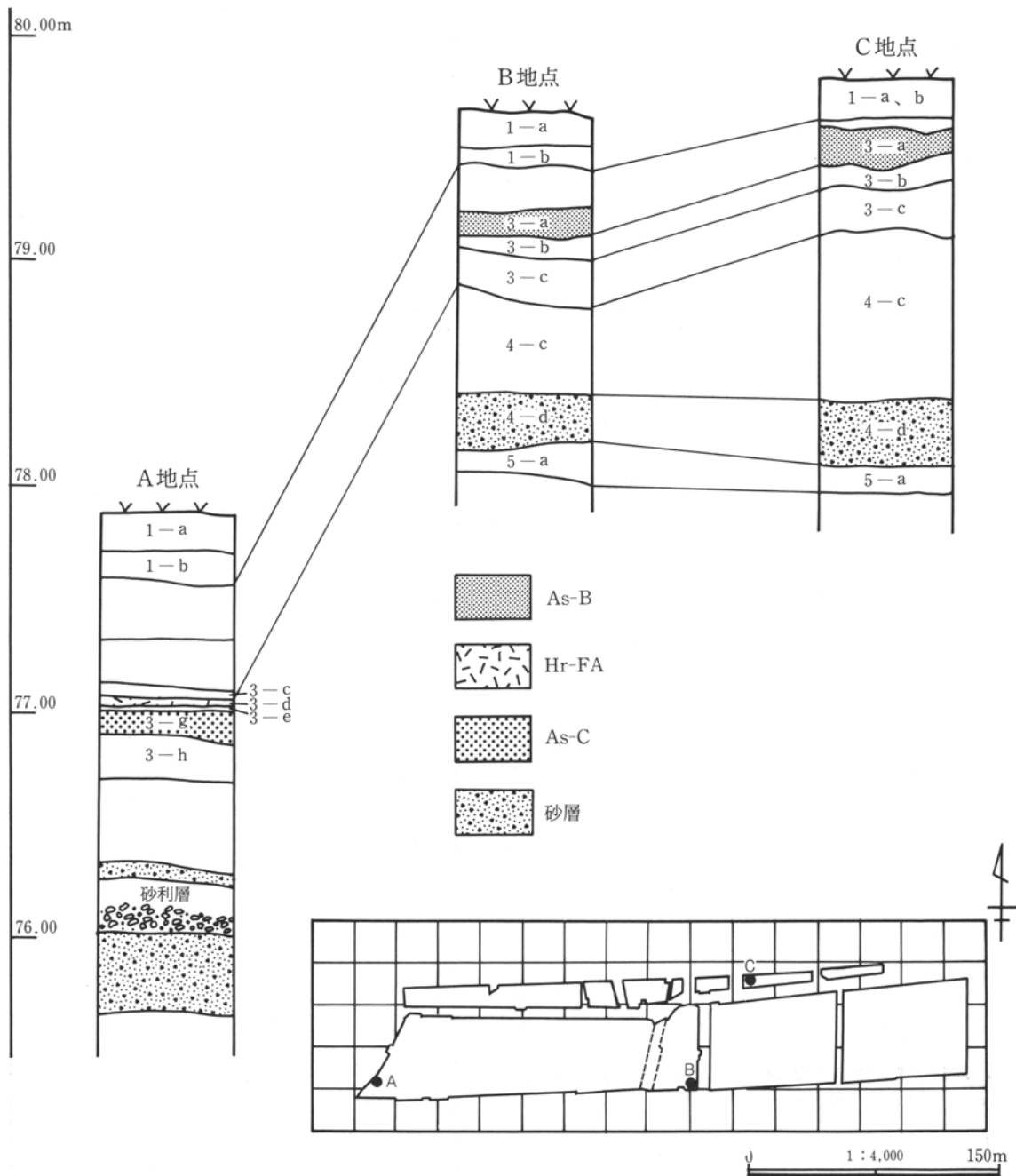


第2図 調査区設定図

## 5. 基本土層

波志江中野面遺跡は伊勢崎台地上にある。調査区の北から南へ傾斜し、また、台地の所々に南北方向に低地が入り込んでいる。第3図のA・B・C地点は土層観察地点である。これらの地点での土層柱状図を作成した。A地点は神沢川に近く、低地部にあたる。ここでは流れ込みによるものと思われるが、

Hr-FA や As-C などのテフラがよく残っていた。B、C 地点は台地部を深く掘りさげた遺構をもとに作成した。第4図は、以上のような土層観察、土層柱状図、遺構等の調査、自然科学分析を基に作成した基本土層模式図である。

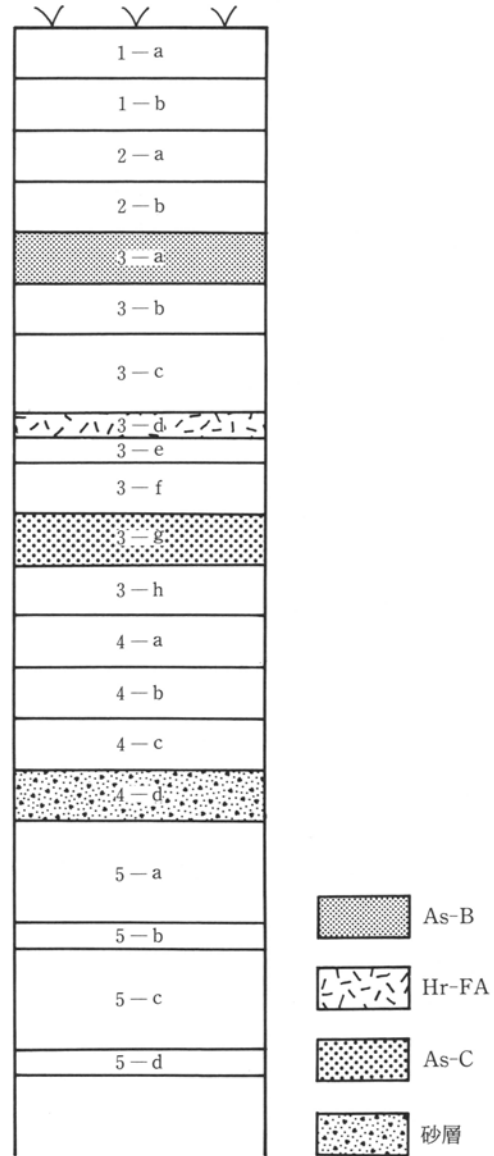


第3図 土層柱状図

第1章 調査の経過と方法

波志江中野面遺跡の基本土層

- (近現代の土層)
- 1-a 褐色土 耕作土。軟質。0.5cm前後の砂粒が多い。草の根が多い。
- 1-b 褐色土 やや軟質。0.5cm前後の砂粒少ない。草の根ほとんどなし。上層よりもやや黒色が強い。この時期の土坑は丸いものが多い。
- (中近世の土層)
- 2-a におい黄褐色土 粒子密。砂粒ほとんど含まず。ほぼ均一で軟質。多くの土坑と溝がこの土を覆土としている。この時期の土坑は長方形である。
- 2-b 褐色土 硬質。やや砂質。上層のにおい黄褐色土と下層のAs-B軽石粒および黒色土が混入したような土。
- (古代の土層)
- 3-a 褐色土 As-B軽石粒を多く含む。As-B軽石は純層ではなく、流れ込みで2-b下層に位置する。
- 3-b 黒色土 (黒褐色含) 硬質。やや粘性をもつ。同じ黒色土である3-e層より灰白色軽石粒が小さく、数が多い。平安時代の住居の覆土である。
- 3-c 黒褐色土 硬質。やや粘性をもつ。1mm前後の褐色の砂粒多く含む。調査区西端の低地部分でHr-FAを直接埋めている土である。
- 3-d 黄橙色土 Hr-FA。1cm前後の白色軽石粒(角閃石安山岩)を含む灰層。調査区の西端の低地、A区17号住居跡や方形周溝基の周溝の土層で確認されている。
- 3-e 黒色土 0.2~0.3cmの灰白色軽石粒(As-C軽石粒)を少量含む。古墳前期の住居と方形周溝基の覆土上面に堆積。
- 3-f 黒褐色土 (黒色含) 0.1~0.5cm前後のC軽石粒を大量に含む固い層。多くの住居と方形周溝基はこの土層の途中から掘り込む。
- 3-g 灰白色土 0.1~0.6cmの角張ったAs-C軽石粒を主体としている。数軒の住居覆土で4~5cmの層をなして堆積している。
- 3-h 黒褐色土 0.5cm前後の小さな石粒を少量含む。数軒の住居はこの土層を掘り込んで造られている。
- (原始の土層)
- 4-a 黄褐色土 やや軟質。1mm以下の黄褐色の砂粒を多く含む。やや粘性あり。ソフトロームに感じが似ている。
- 4-b 黒褐色土 非常に硬質。0.2~0.6cmの砂粒を多く含む。本遺跡の縄文時代の住居の覆土である。
- 4-c 明黄褐色土 0.1~0.5cmの丸い砂粒を主とした層。2×3、5×8cmの橙色の大きな塊を所々に含む。1cm前後の大きな砂利は部分的でA区7号住居付近に多い。
- 4-d 灰黄褐色土 砂層。粒子は全て、1mm以下で全体的に均一。上層に橙色の粒子をブロック状に含む。住居の多くはこの面まで掘り込んでいる。
- 5-a 黒紫色土 硬質。粒子密。粘性強い。1mm前後の白色軽石粒を多く含む。A区7号溝と14号住居の柱穴等深く掘り込まれた遺構はこの面まで掘り込んでいる。
- 5-b 灰黄褐色土 粘質。粒子密。4-d層より褐色が強い。23号住居の柱穴がこの層まで掘り込んでいる。
- 5-c 灰褐色土 1mm以下の砂粒が多く、全体に均一。A区23号住居の柱穴がこの層まで掘り込んでいる。
- 5-d 灰褐色土 粘質。褐色の鉄分と思われるブロックを全体に少し含む。23号住居がこの層まで掘り込んでいる。



第4図 基本土層模式図

5-d 灰褐色土 粘質。褐色の鉄分と思われるブロックを全体に少し含む。23号住居がこの層まで掘り込んでいる。

## 第2章 遺跡の地理的環境及び歴史的環境

### 1. 地理的環境

波志江中野面遺跡は、群馬県南部の伊勢崎市波志江町に所在する。遺跡の所在地は伊勢崎市街地から見ると北西約3kmに位置し、市域の北西部にあたる。また、神沢川の左岸にあり、対岸は前橋市飯土井町、新井町になっている。

本遺跡は地形的にみると、伊勢崎台地上の微高地と後背湿地が南北方向に連続した地点に立地している。標高は79m前後である。伊勢崎台地とは神沢川、広瀬川、粕川に囲まれた地域をいう。この台地は赤城山斜面から大量の伊勢崎砂層（細角礫質粗砂および凝灰質泥が互層をなす）と呼ばれる砂質物質が短期間に堆積して形成されたものである。風成の関東ローム層が堆積していないことから、洪積世の末期頃から沖積世初頭に堆積したきわめて新しい地層と考えられる。台地面は北から南へ傾斜しており、等高線の走向をみると、扇状地的である。扇状地またはそれに近い平野として堆積したものと思われる。

波志江中野面遺跡から見ると北方に赤城山がそびえる。赤城山は群馬県の中央部の東側にそびえる大規模な成層火山である。その山体は急な斜面の山頂部とのびやかな裾野で構成されている。その標高の最高点は黒檜山山頂で1,827.6mを測る。赤城山の火山活動は、約40～50万年前に始まったと言われ、古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘形成期の3つの時期に区分される。

古期成層火山形成期は約13万年前頃まで続いた。この間、20～30万年前に梨木泥流が発生した。梨木泥流は山体崩壊に起因する大規模な岩屑なだれで、赤城山の東麓から南東麓にかけて広い範囲を覆った。そして、伊勢崎市の波志江町から豊城町にかけて多くの泥流丘（流れ山）を形成させた。伊勢崎市の波志江町の稲岡、豊城町（八寸）の権現山や華蔵寺公園の小丘は代表的なものである。現在の伊勢崎

市を構成する地形の中で、最も古い地形である。約13万年前～4.5万年前頃まで新期成層火山形成期が続き、この間火砕流を伴う噴火が多く起こる。その中に棚下火砕流や大胡火砕流等がある。約3.1～3.2万年前に鹿沼軽石の噴火後、長七郎山、見晴山、地蔵岳の中央火口丘が形成された。

これらの赤城山の活動、及び山体を流下する小河川による開析によって、赤城山南斜面は帯状に谷地が刻まれている。また、赤城白川、荒砥川、神沢川、粕川等の小河川沿いには、土砂が堆積して扇状地が形成されている。扇状地はさらに、開析されて、複雑な起伏の多い地形となっている。

本遺跡の東側で粕川以東は大間々扇状地と呼ばれている。渡良瀬川は、今からおよそ5～6万年前まで、大間々町で流路を南西方向にとり、赤城山の裾野と新田郡笠懸村の鹿田山との間に河道を開削して伊勢崎方向に向かい、豊城町（八寸）の権現山の西側に流れ、その流路に扇状地を形成した。これが大間々扇状地で南北18km、東西（扇端部）約13kmの大規模なものである。この扇状地は新旧2つの扇状地から成り立つとされるが、伊勢崎市に見られるものは、古期扇状地（桐原面）である。

本遺跡の西側は、伊勢崎台地の縁を流れる広瀬川と前橋台地や利根川に挟まれた幅2～3kmの沖積平野で広瀬川低地帯という。かつて利根川が暴れた地域とされている。伊勢崎では最も広大かつ低平な平地である。前橋台地を形成した前橋泥流堆積物の古利根川による浸食は、前橋泥流堆積直後から始まり、続いて伊勢崎台地の一端をも浸食し、最終的にこの地に幅2～3km、深さ10～20mの谷を形成した。その後、この部分が氾濫原になり、砂礫層が堆積した。

#### 参考文献

「群馬県史」通史編1 原始古代1 1990  
「伊勢崎市史」通史編1 原始古代中世 1987



## 2. 歴史的環境

波志江中野面遺跡が所在する赤城南麓の周辺遺跡の各時代ごとの概要は次の通りである。

旧石器時代の遺跡は、扇状地形でローム層の堆積がよい地域のためか、昭和49年から始まった上武国道の発掘調査では二之宮千足遺跡(15)、飯土井中央遺跡(20)、飯土井二本松遺跡(21)、堀下八幡遺跡(26)など10ヶ所程発見された。また、下触牛伏遺跡(89)では第2文化層から出土した旧石器が直径50mの範囲に環状に分布する様子が検出された。これらは「環状ブロック」あるいは「環状ユニット」とよばれ、旧石器時代のムラの姿を想起する事が出来る貴重な遺跡として知られている。北関東自動車道関連でも、波志江西宿遺跡(11)で旧石器時代の遺物が検出されている。

縄文時代の遺跡は扇状地形、伊勢崎台地上に分布している。草創期の竪穴住居跡が見つかった五目牛新田遺跡(13)、早期の竪穴住居跡を検出した波志江中屋敷遺跡(8)、五目牛新田遺跡(13)。前期の竪穴住居跡が見つかった下鶴ヶ谷遺跡(48)、荒砥上ノ坊遺跡(71)、下触牛伏遺跡(89)。中期の竪穴住居跡が検出された二本松遺跡(75)、荒砥前原遺跡(84)がある。また、前期から後期までの継続した集落が営まれた荒砥二之堰遺跡(82)がある。この遺跡から後期の大型柄鏡形住居跡が検出された。

弥生時代の遺跡は、荒砥川の周辺や伊勢崎台地上で発見されている。荒砥川周辺地域では中期後半の竪穴住居跡が検出された頭無遺跡(49)鶴谷遺跡群(55)、荒砥島原遺跡(79)中期後半から後期の竪穴住居跡が検出された荒砥前原遺跡(84)などがある。伊勢崎台地上では中組遺跡(44)、中期後半、後期ともに竪穴住居跡が検出された西太田遺跡(45)等がある。いずれの遺跡も大集落を営んだ形跡は認められない。

古墳時代の遺跡は、赤城南麓の扇状地形を浸食する小河川の縁辺に立地している。前期の遺跡の中で竪穴住居跡を中心とする居住域と方形周溝墓を中心

とする墓域がセットされた形で検出された集落遺跡としては、間之山遺跡(38)、荒砥上川久保遺跡(61)、荒砥上ノ坊遺跡(71)、荒砥島原遺跡(79)、荒砥二之堰遺跡(82)などがある。なかでも、荒砥上ノ坊遺跡(71)は竪穴住居跡が31軒検出された大集落遺跡である。また、荒砥島原遺跡(79)の3号方形周溝墓の方台部からは埋葬主体部と思われる隅丸長方形の土坑が検出されている。

古墳時代中期の遺跡で竪穴住居跡が検出されたのは、八幡町B遺跡(41)、西太田遺跡(45)、荒砥天之宮遺跡(50)、荒砥下押切II遺跡(51)、荒砥中屋敷II遺跡(53)、二本松遺跡(75)、中畑遺跡(88)等がある。この時期に築造された古墳としては、県内でも古い古墳の一つである華蔵寺裏山古墳(40)、長持型石棺が検出された、この地域の首長の墓と思われるお富士山古墳(46)等がある。また、この時期の柵を伴う方形区画溝が検出され、豪族の居館と考えられている荒砥荒子遺跡(62)もある。

古墳時代後期の遺跡は115軒もの竪穴住居跡が検出された岡屋敷遺跡(6)をはじめ、八幡町D遺跡(42)、八幡町遺跡(43)、荒砥大日塚遺跡A区(70)、荒砥大日塚遺跡C区(72)、下触下寺遺跡(85)などがある。また、祝堂古墳(29)、波志江今宮遺跡(22)、宮貝戸古墳群(27)、台所山古墳群(37)、地田栗III遺跡(66)、富士山I遺跡(67)、荒砥二之堰遺跡(82)、下触牛伏遺跡(89)など、この地域の古墳や古墳群の多くはこの時期のものである。

古墳時代の水田跡が検出された遺跡としては、下増田越渡遺跡(2)、新井大田関遺跡(4)、波志江中屋敷西遺跡(7)、波志江中屋敷東遺跡(9)、二之宮千足遺跡(15)等がある。この中で特に、波志江中屋敷東遺跡(9)は畦畔から建築部材や木器が大量に出土した。

また、波志江中宿遺跡(12)では古墳時代の粘土採掘坑が66基検出されている。

奈良・平安時代の遺跡は、荒砥地域に大規模な集



第2章 遺跡の地理的環境及び歴史的環境

落遺跡が目立つ。下増田越渡遺跡(2)、波志江西屋敷遺跡(5)、二之宮千足遺跡(15)、二之宮宮東遺跡(18)、飯土井二本松遺跡(21)、波志江中峰岸遺跡(25)、頭無遺跡(49)、荒砥天之宮遺跡(50)、鶴谷遺跡群(55)、荒砥大日塚遺跡A区(70)、荒砥上ノ坊遺跡(71)、二本松遺跡(75)等がある。その中で特に、荒砥天之宮遺跡(50)は奈良・平安時代の竪穴住居跡100軒程検出され、平安時代の水田跡をはじめ、古代の溜井が見つかっている。

中世以降の遺跡としては、国指定の女堀(74)がある。前橋市上泉町付近から佐波郡東村西国定の終点まで12.75kmにわたって開削された用水路遺構である。屋敷跡や館跡は岡屋敷遺跡(6)、波志江中屋敷西遺跡(7)、波志江中屋敷遺跡(8)、二之宮宮下西遺跡(16)、二之宮宮東遺跡(18)等がある。その中で特に、岡屋敷遺跡(6)は堀と土塁がよく残っていた。城館跡は荒子の砦跡(58)、赤石城跡(81)、新土塚城跡(83)等がある。

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献等
1	波志江中野面遺跡	伊勢崎市波志江町	本遺跡	本書
2	下増田越渡遺跡	前橋市上増田町 下増田町 二之宮町	古墳時代の方形周溝墓3、As-C混水田跡、Hr-FA水田跡、溝。奈良・平安時代の竪穴住居跡52軒、As-B下水田跡、溝。中・近世の井戸、溝。	『年報16・17』群埋文 1997・1998
3	萩原遺跡	前橋市二之宮町 新井町	縄文時代の石鏃、凹石。古墳時代～平安時代の竪穴住居跡59軒、掘立柱建物跡2棟、As-B下水田跡、溝15条。近世の井戸4。近世以降の土坑、墓坑多数。	『年報16・17・18・19』群埋文 1997・1998・1999・2000
4	新井大田関遺跡	前橋市新井町	古墳時代の水田跡、溝。平安時代の竪穴住居跡4軒。	『年報16』群埋文 1997
5	波志江西屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代の掘立柱建物跡1棟。奈良・平安時代の竪穴住居跡28軒、溝23条。中近世の井戸15、溝23条、土坑多数。	『年報18・19』群埋文 1999・2000
6	岡屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代後期の竪穴住居跡115軒、土坑、溝、小鍛冶遺構。奈良・平安時代の竪穴住居跡15軒。中近世の屋敷跡、堀、土塁、掘立柱建物跡、井戸24、土坑、墓。近現代の土坑多数。	『年報18・19』群埋文 1999・2000
7	波志江中屋敷西遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代～弥生時代のピット多数、土坑。古墳時代の水田跡、溝。奈良・平安時代の竪穴住居跡5軒、溝、畠跡。中近世の館跡、堀、掘立柱建物跡、ピット、土坑、井戸、水田跡。	『年報17・18』群埋文 1998・1999
8	波志江中屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代早期の竪穴住居跡2軒。古墳時代の水田跡。平安時代の竪穴住居跡2軒、井戸、溝9条、土坑、ピット。中近世の環壕屋敷跡、堀、ピット、土坑、井戸、掘立柱建物跡13棟。	『年報18・19』群埋文 1999・2000
9	波志江中屋敷東遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代前期の土坑、ピット。古墳時代前期の水田跡、溝21条。As-B下水田跡、溝、土坑。	『年報17・18』群埋文 1998・1999
10	伊勢山遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物。近世の墓坑。	
11	波志江西宿遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物。縄文時代早期の土器、打製石斧、石鏃。古墳時代の竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡1軒。中近世の溝、土坑600基、井戸17基、畠耕作痕。	『年報18・19』群埋文 1999・2000
12	波志江中宿遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物。古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、粘土探掘坑66基、古墳時代の溝、As-C混水田跡。As-B下水田跡、平安時代の溝。中近世の井戸、土坑、ピット、溝。	『年報17・18』群埋文 1998・1999
13	五目牛新田遺跡	佐波郡赤堀町五目牛	縄文時代草創期の竪穴住居跡2軒。弥生～古墳時代の竪穴住居跡32軒。溝、土坑。	『年報17・18』群埋文 1998・1999
14	二之宮洗橋遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代の包含層。奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡2棟、水田跡、墨書土器多数出土。中近世の溝、土坑。	『二之宮洗橋遺跡』群埋文1994
15	二之宮千足遺跡	前橋市二之宮町	旧石器時代の遺物。縄文時代の埋甕、土坑、陥穴、集石遺構。As-C下水田跡、水路、溜井、木組遺構。平安時代の竪穴住居跡27軒、小鍛冶遺構、竪穴状遺構。中近世・近代の井戸。	『二之宮千足遺跡』群埋文1992
16	二之宮宮下西遺跡	前橋市二之宮町	旧石器時代の土坑。縄文時代の陥穴。古墳時代後期～平安時代の竪穴住居跡65軒、水田跡。中近世の館跡、堀、土橋状の掘り残り墓坑、井戸、溝、土坑、ピット。	『二之宮宮下西遺跡』群埋文 1995
17	二之宮宮下東遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代の陥穴1基。古墳時代後期～奈良・平安時代の集落、As-B下水田跡、溝、溜井。中世の館跡、堀、竪穴状遺構、井戸、土坑。則天文字の「天」を記した墨書土器出土。	『二之宮宮下東遺跡』群埋文 1994
18	二之宮宮東遺跡	前橋市二之宮町	平安時代の竪穴住居跡23軒、水田跡、水路、小鍛冶。中世の館跡、近世の屋敷跡、井戸、近世信仰遺物。	『二之宮宮東遺跡』群埋文1994
19	飯土井上組遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代の埋甕。古墳時代前期の竪穴住居跡4軒、溝。平安時代の竪穴住居跡2軒、土坑、。中近世の畠跡、墓坑、溝。	『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』群埋文 1995



2. 歴史的環境

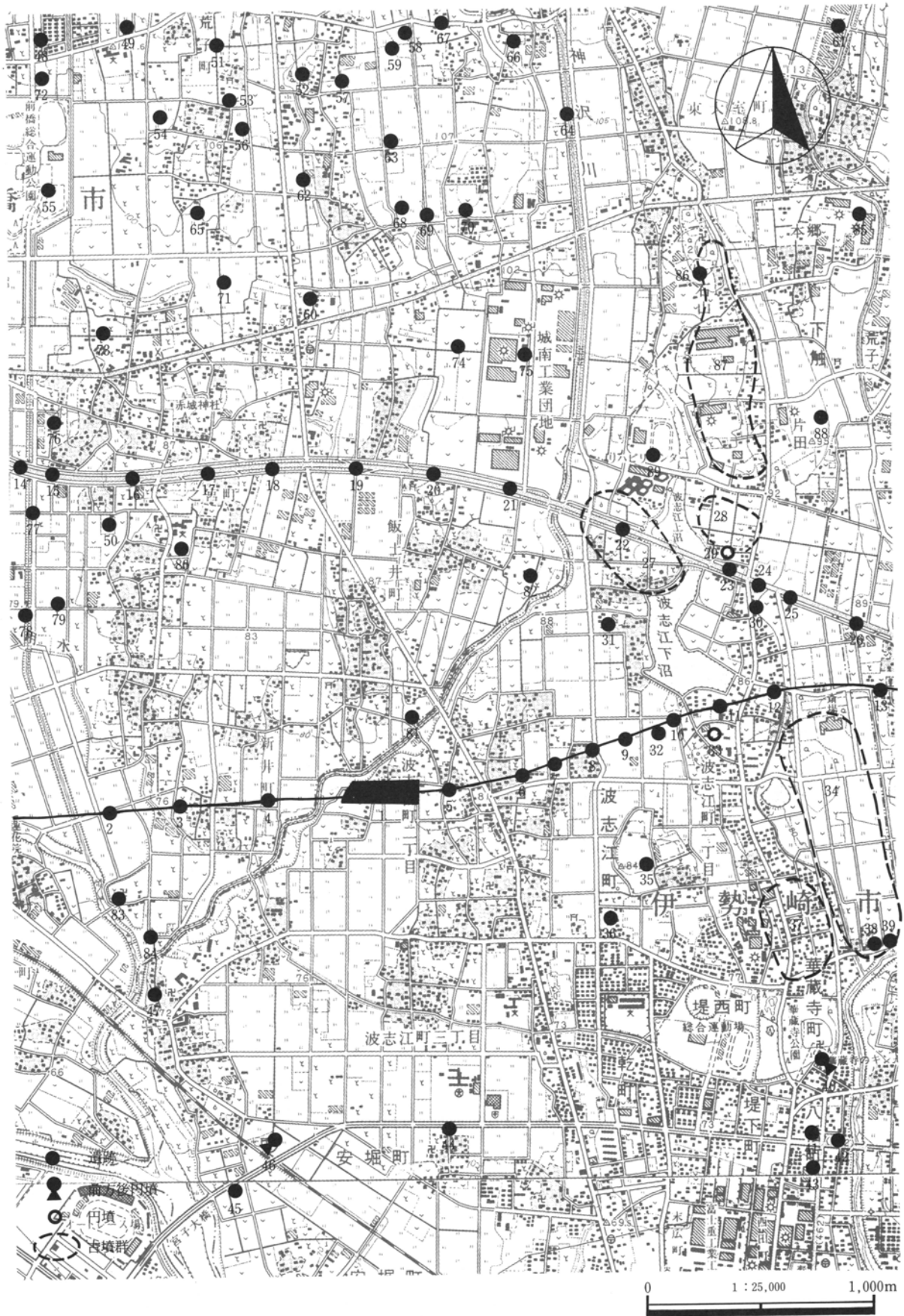
20	飯土井中央遺跡	前橋市飯土井町	旧石器時代の遺物210点。縄文時代草創期の爪形文・押圧文土器片、陥穴13基。古墳時代後期の焼失住居跡1軒。平安時代の竪穴住居跡1軒。	『飯土井中央遺跡』群埋文1991
21	飯土井二本松遺跡	前橋市飯土井町	旧石器時代の遺物。縄文時代の遺物包含層、陥穴。古墳時代前期の竪穴住居跡1軒。奈良・平安時代の竪穴住居跡24軒。中近世の溝。	『飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡』群埋文 1991
22	波志江今宮遺跡	伊勢崎市波志江町	6世紀末～7世紀初頭の円墳、帆立貝形古墳8基。形象埴輪、円筒埴輪、金属器(太刀、馬具など)。奈良時代の竪穴住居跡1軒。As・B下水田跡。近代の炭窯。	『波志江今宮遺跡』群埋文1995
23	波志江六反田遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の遺物。縄文時代の撚糸文系土器。平安時代の竪穴住居跡3軒、水田跡。近世の掘立柱建物跡1棟、土坑32基、井戸3基、溝6条。	『書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡』群埋文 1992
24	波志江天神山遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の陥穴5基、土坑1基。近世以降の掘立柱建物跡1棟、土坑32基、井戸1基。近代のサク状遺構。	23に同じ
25	波志江中峰岸遺跡	伊勢崎市波志江町	As・Bテフラに埋没した水田跡と溝。	19に同じ
26	堀下八幡遺跡	佐波郡赤堀町堀下	旧石器時代の遺物。縄文時代前期の竪穴住居跡1軒、土坑4基。奈良・平安時代の竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡1棟。近世以降の墓、井戸。	『堀下八幡遺跡』群埋文 1990
27	宮貝戸古墳群	伊勢崎市波志江町	7世紀前半の4基の古墳について発掘調査を実施。そのうち2基は横穴式両袖型石室をもつ。他の2基から円筒埴輪、朝顔形埴輪が出土。かつては20基をこえる古墳群であったことが推定される。	『宮貝戸古墳群 蟹沼東古墳群』伊勢崎市教委 1980
28	牛伏古墳群	伊勢崎市波志江町	1号墳の調査を実施。直径30m、横穴式石室。西60mに2号墳確認。	『牛伏第1号墳 祝堂古墳 大沼上遺跡』伊勢崎市教委 1982
29	祝堂古墳	伊勢崎市波志江町	墳丘の直径は30mの平地に築かれた円墳、2重の周堀、葺石を持つ、主体部は角閃石安山岩使用の横穴式両袖型石室。7世紀末に構築されたと推定される。	28に同じ
30	大沼上遺跡	伊勢崎市波志江町	土師器使用の竪穴住居跡1軒。	28に同じ
31	宮貝戸下遺跡	伊勢崎市波志江町	平安時代の竪穴住居跡2軒。板碑が検出された井戸、溝、墓壇、ピット。	『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』伊勢崎市教委 1978
32	大沼下遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代前期～奈良・平安時代の竪穴住居跡19軒。古墳時代の溝。井戸2基。ピット。	『大沼下遺跡・西稲岡遺跡』伊勢崎市教委 1977
33	波志江伊勢山古墳	伊勢崎市波志江町	旧三郷村71号墳。横穴式両袖型石室の円墳。	尾崎喜左雄『横穴式古墳の研究』1966
34	蟹沼東古墳群	伊勢崎市波志江町	5世紀後半～7世紀後半にかけて構築された古墳69基、その殆どが円墳である。縄文時代および古墳時代前期の竪穴住居跡、陥穴、方形周溝墓が検出。	『蟹沼東古墳群』伊勢崎市教委 1979～1981、1988
35	波志江権現山遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代早期の土器、石器が出土。	『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市 1987
36	西稲岡遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代の溝。奈良・平安時代の溝、井戸。	32に同じ
37	台所山古墳群	伊勢崎市波志江町	『上毛古墳総覧』によれば7基の古墳が数えられていたが、宅地化や開墾により平夷されてしまった。昭和46年凝灰岩質の箱式石棺の主体部をもつ古墳1基が検出された。石棺付近から円筒埴輪2基、土師器坏3個出土。6C半ばから後半頃の築造と推察される。	『台所山古墳』『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市 1987『上毛古墳総覧』群馬史跡名勝天然記念物報告第5輯 群馬県 1938
38	間之山遺跡	伊勢崎市波志江町	蟹沼東古墳群の南端部に間之山丘陵にかかる遺構を名称変更して、間之山遺跡とした。縄文時代草創期の土器片。弥生時代後期の住居跡1軒。古墳時代前期の竪穴住居跡、方形周溝墓。	『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』伊勢崎市教委 1978『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市 1987
39	上西根遺跡	伊勢崎市鹿島町	古墳時代後期～奈良・平安時代の竪穴住居跡26軒、方形周溝墓5基、石塚1基、溝15条。中近世の井戸3基。	『上西根遺跡』伊勢崎市教委 1985
40	華蔵寺裏山古墳	伊勢崎市華蔵寺町	5世紀初頭の主軸長約40mの前方後円墳、前方後方墳の可能性もある。粘土槨の可能性強い。複口縁壺型土器出土。	『華蔵寺裏山古墳』『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市1987
41	八幡町B遺跡	伊勢崎市八幡町	古墳時代中期・後期の竪穴住居跡19軒。平安時代の溝。近世の溝。土師器、須恵器、石製模造品、石製紡錘車出土。	『八幡町遺跡(B地区)』伊勢崎市教委 1988
42	八幡町D遺跡	伊勢崎市八幡町	古墳時代後期竪穴住居跡15軒、井戸10基、溝2条、土坑。	『八幡町遺跡(D地区)』伊勢崎市教委 1990
43	八幡町遺跡	伊勢崎市八幡町	古墳時代後期竪穴住居跡35軒、溝2条、土坑、ピット。	『八幡町遺跡』伊勢崎市教委 1999
44	中組遺跡	伊勢崎市波志江町	弥生時代の竪穴住居跡1軒。方形周溝墓1基。奈良・平安時代の竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡1棟。溝1条。	『中組遺跡』伊勢崎市教委 1981、県教委 1985

第2章 遺跡の地理的環境及び歴史的環境

45	西太田遺跡	伊勢崎市安堀町	弥生時代中期～平安時代にわたる竪穴住居跡209軒。(弥生時代中期住居跡3軒・後期1軒。竪穴住居跡の8割は古墳時代の中期・後期)。奈良時代の砂鉄集積遺構。粘土集積遺構。井戸17基、溝8条、掘立柱建物跡9棟、ピット、土坑墓。	『西太田遺跡』伊勢崎市教委 1983
46	お富士山古墳	伊勢崎市安堀町	全長125mの前方後円墳、墳丘は3段に構築されている。幅約30mの盾形の周堀をもつ。後円部頂に長持形石棺がおかれている。5世紀中葉の首長墓の可能性が高い。乳文鏡、円筒埴輪、滑石製石製模造品(刀子、斧型)、管玉など出土。	『お富士山古墳』伊勢崎市教委 1989
47	八坂遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の配石遺構、包含層から縄文後期～晩期にかけての土器片、石器、土偶などが出土している。	『八坂遺跡調査概報』東国文化研究所・前橋育英高校郷土部・伊勢崎市教委 1973
48	下鶴ヶ谷遺跡	前橋市荒子町	旧石器時代の遺物(尖頭器)。縄文時代早期の集石遺構、縄文時代前期の竪穴住居跡6軒、土坑、鶴ヶ島台土器。奈良・平安時代の竪穴住居跡6軒、炭窯7基、溝、掘立柱建物1棟。	『柳久保遺跡群IV・V』前橋市教委 前橋市埋文発掘調査団 1987・1988
49	頭無遺跡	前橋市荒子町	弥生時代中期の竪穴住居跡3軒。古墳時代後期の竪穴住居跡1軒。平安時代の竪穴住居跡25軒。近代の炭窯3基。	『昭和59年度荒砥北部遺跡群発掘調査概報』群馬県教委 1984
50	荒砥天の宮遺跡	前橋市二之町	古墳時代中期～平安時代の竪穴住居跡206軒の集落、古代の溜井4基、As-B下水田跡。畿内産の暗文土器出土。	『荒砥天の宮遺跡』群埋文 1988
51	荒砥下押切II遺跡	前橋市荒子町	古墳時代中・後期の竪穴住居跡12軒、6世紀末築造の円墳1基、井戸1基。平安時代の竪穴住居跡1軒、溝10条、水田跡。8号住居跡から9個の紡錘車出土。	『荒砥下押切II・荒砥中屋敷II遺跡』群埋文 1999
52	舞台西遺跡	前橋市荒子町	古墳4基(内1基は帆立貝形古墳)。埴輪円筒棺1基、甕棺1基出土。	『下境I・天神』付図 県教委 1990
53	荒砥中屋敷II遺跡	前橋市荒子町	古墳時代中・後期の竪穴住居跡6軒。平安時代の竪穴住居跡2軒、小鍛冶遺構1基、土坑2基、溝2条。	51に同じ
54	荒砥下押切I遺跡	前橋市荒子町	奈良時代の竪穴住居跡2軒。井戸1、土坑3。	『年報2』群埋文 1983
55	鶴ヶ谷遺跡群	前橋市荒口町 荒子町 二之宮町	弥生時代の竪穴住居跡2軒。古墳時代前期～後期の竪穴住居跡104軒(中でも後期が多い)。奈良・平安時代の竪穴住居跡62軒。中世古基20基。	『鶴ヶ谷遺跡群』『鶴ヶ谷遺跡群II』前橋市教委 1980・1981
56	荒砥中屋敷I遺跡	前橋市荒子町	弥生時代終末～古墳時代前期の竪穴住居跡5軒。中近世の溝。	『年報2』群埋文 1983
57	舞台遺跡	前橋市荒子町	竪穴式の埋葬主体部をもつと考えられる5世紀中頃～後半築造の古墳3基。このうち1基は全長42mの帆立貝形古墳。	『舞台・西大室丸山』群馬県教委 1991
58	荒子の砦跡	前橋市荒子町	中・近世の城館跡 東西80m、南北120mの単郭堡をもつ。北東、南は自然の濠を数m下に巡らす。	山崎一『群馬県古城址の研究』上巻 1971
59	稲荷山II遺跡	前橋市西大室町	平安時代の竪穴住居跡4軒、近世の溝1条。	『年報10』群埋文 1991
60	元屋敷遺跡	前橋市荒子町	古墳時代～平安時代の竪穴住居跡29軒。この集落跡の立地している台地で数本の地割れ跡が認められた。この地割れ跡から「噴砂」の状況があったことを確認。国史跡「女掘」の一部全面調査と規模・走向を調べる確認調査を実施。	『舞台・西大室丸山』県教委 1991
61	荒砥上川久保遺跡	前橋市大室町	古墳時代前期～平安時代の竪穴住居跡106軒、方形周溝墓6基、井戸4基。集落は平安時代が中心で小鍛冶遺構が含まれている。奈良時代の鋲、平安の方形陶硯、鐙付甕等出土。	『荒砥上川久保遺跡』群埋文 1982
62	荒砥荒子遺跡	前橋市荒子町	5世紀後半の棚を伴う方形区画の溝。区画溝の内側に古墳時代後期の竪穴住居跡10軒、井戸、土坑、掘立柱建物跡。外側に古墳時代後期の竪穴住居跡4軒。奈良時代の竪穴住居跡1軒。平安時代の竪穴住居跡5軒、溝、土坑、井戸。	『荒砥荒子遺跡』群埋文 2000 『年報2』群埋文 1983
63	西大室丸山遺跡	前橋市西大室町	古墳3基、巨石祭祀遺構1。大量の土師器、手捏土器、石製模造品出土。5世紀後半と思われる。	『舞台・西大室丸山』『西大室丸山遺跡』県教委 1991・1997
64	荒砥東原遺跡	前橋市東大室町	古墳時代前期～奈良・平安時代の竪穴住居跡22軒。	『荒砥東原遺跡』群埋文 1979
65	新屋遺跡	前橋市荒子町	古墳時代前期の竪穴住居跡1軒。S字状口縁台甕出土。	井上唯雄「前橋市城南地区の土師使用遺跡」荒砥史談会 1968
66	地田栗III遺跡	前橋市大室町	古墳時代の竪穴住居跡7軒(前期4、後期3)、6世紀後半～7世紀前半の古墳3基。奈良・平安時代の竪穴住居跡16軒、溝16条。奈良時代～中近世の土坑30基。近世以降の井戸4基。	『地田栗III遺跡』前橋市埋文文化財発掘調査団 1994
67	富士山I遺跡	前橋市西大室町	7世紀末の横穴式石室を埋葬主体とする円墳1基、墳丘直径36m。古墳～平安時代の竪穴住居跡32軒。近世の塚1基、溝4条。	『富士山I遺跡1号墳』県教委 1992
68	天神遺跡	前橋市西大室町	古墳～平安時代の竪穴住居跡12軒、古墳2基(そのうち1基は帆立貝形古墳)。溝2条。	『下境I・天神』県教委 1990

## 2. 歴史的環境

69	上蛭沼遺跡	前橋市荒子町	弥生時代中期末の竪穴住居跡1軒。古墳時代の竪穴住居跡15軒、古墳1基。	『舞台・西大室丸山』付図県教委1991
70	荒砥大日塚遺跡A区	前橋市二之宮町	古墳時代後期の竪穴住居跡7軒。奈良時代の竪穴住居跡12軒。平安時代の竪穴住居跡3軒、As-B下水田跡。竪穴状遺構2基、溝7条、井戸1基、土坑11基。	『荒砥大日塚遺跡』群埋文1994
71	荒砥上ノ坊遺跡	前橋市二之宮町 荒子町	縄文時代前期の竪穴住居跡3軒。古墳時代の竪穴住居跡60軒(前期31、中・後期29)、周溝墓6基、土坑。奈良・平安時代の竪穴住居跡186軒、土坑、井戸、溝。中近世の掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑。	『荒砥上ノ坊遺跡I～IV』群埋文1995～1998
72	荒砥大日塚遺跡C区	前橋市荒口町	古墳時代後期の竪穴住居跡5軒、As-B下水田跡、溝1条。	70に同じ
73	荒砥大日塚遺跡B区	前橋市二之宮町	古墳時代後期～奈良時代の竪穴住居跡4軒、As-B下水田跡、土坑4基。近世の井戸2基、溝6条。	70に同じ
74	女堀	前橋市	前橋市上泉町付近の旧利根川を起点に、幅15～30m・深さ3～4mの規模で佐波郡東村西国定の終点まで12.75kmにわたって開削された中世初頭の用水路遺構。国指定史跡。	『女堀』群埋文1984
75	二本松遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代中期の竪穴住居跡2軒(加曾利E期)。古墳時代中期の竪穴住居跡6軒。平安時代の竪穴住居跡84軒。奈良・平安時代の掘立柱建物跡3軒。国史跡「女堀」220m分調査。	『文化財調査報告書第13集』前橋市教委1983『女堀』群埋文1984
76	荒砥宮西遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代後期～平安時代の竪穴住居跡24軒、井戸、土坑、溝。平安時代の墨書土器出土。	『荒砥洗橋遺跡・荒砥宮西遺跡』群埋文1989
77	荒砥宮川遺跡	前橋市二之宮町	古墳～平安時代の竪穴住居跡28軒、掘立柱建物跡1棟、円墳4基、平安時代の道路状遺構、As-B下水田跡。	『荒砥宮川・宮原遺跡』群埋文1993
78	荒砥宮原遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代前期の竪穴住居跡3軒、円墳4基、円筒埴輪。	77に同じ
79	荒砥島原遺跡	前橋市二之宮町	弥生時代中期の竪穴住居跡2軒。古墳時代前期の竪穴住居跡8軒、方形周溝墓6基。古墳時代中期～奈良・平安時代の竪穴住居跡56軒、As-B下水田跡。	『荒砥島原遺跡』群埋文1984
80	荒砥青柳遺跡	前橋市二之宮町	奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒、溝、土坑。	『荒砥北原遺跡・今井神社古墳・荒砥青柳遺跡』群埋文1986
81	赤石城址	前橋市飯土井町	本丸は高さ4mの土居を巡らし西側に腰曲輪をもつ。南と北に虎口を開く。北、東、南の三方に濠あり。	『荒砥前原遺跡・赤石城址』群埋文1985山崎一『群馬県古城址の研究』上巻1971
82	荒砥二之堰遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代前期の竪穴住居跡8軒、中期18軒、後期9軒(柄鏡形)。古墳時代前期の竪穴住居跡13軒、方形周溝墓9基、円形周溝状遺構1基。古墳時代後期の竪穴住居跡9軒。古墳21基、山寄せ構造の群集墳で7世紀後半の築造と思われる。	『荒砥二之堰遺跡』群埋文1985
83	新土塚城址	前橋市新井町	東西150m南北250mの台土を占めて城跡がある。東側は幅10m以上の堀で掘切り、土橋と通じている。	山崎一『群馬県古城址の研究』上巻1971
84	荒砥前原遺跡	前橋市荒口町	縄文時代中期の竪穴住居跡14軒(敷石住居跡2軒を含む)、埋設土器1、土坑7。弥生時代竪穴住居跡5軒(中期2軒、後期3軒)、竪穴状遺構3。古墳時代前期竪穴住居跡10軒、祭祀遺物、築造時期不明の直径23mの円墳。	『荒砥前原遺跡・赤石城址』群埋文1985
85	下触下寺遺跡	佐波郡赤堀町下触	古墳時代後期竪穴住居跡26軒。平安時代の竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡3棟。古墳時代後期の古墳と想定される周溝遺構5基を検出。近世井戸5基。	『下触下寺遺跡及び磯十二所遺跡発掘調査概報』赤堀町教委1987
86	石山遺跡	佐波郡赤堀町下触	縄文時代包含層。100余点の尖頭器をはじめとし多数の剥片等の遺物を出土。	相沢忠洋『群馬県赤堀石山遺跡』『考古学ジャーナル』6』1967
87	石山片田古墳群	佐波郡赤堀町下触	石山・庚塚・片山と南北に続く低い丘陵上半に「上毛古墳総覧」によれば、70基以上の古墳が存在する。榑持ち人物埴輪出土。	『下触片田古墳群発掘調査概報』赤堀町教委1989
88	中畑遺跡	佐波郡赤堀町下触	古墳時代中・後期の竪穴住居跡35軒、掘立柱建物跡1棟。	『中畑遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報』赤堀町教委1986
89	下触牛伏遺跡	佐波郡赤堀町下触	旧石器時代文化層を2層検出し、約3,000点の遺物を出土。縄文時代前期の竪穴住居跡3軒、陥穴25基、土坑18基、集石3基。草創期の爪形文土器。古墳時代後期の竪穴住居跡13軒、古墳10基(円墳、方墳 横穴式石室 7世紀中葉以降)。	『下触牛伏遺跡』群埋文1986



第6図 周辺の遺跡位置図

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 1. 古墳時代の遺構と遺物

波志江中野面遺跡で見つかった古墳時代の遺構には、竪穴住居跡28軒、方形周溝墓19基、掘立柱建物跡2棟、井戸2基、溝14条、土坑7基、竪穴状遺構2基、道路跡2箇所、土器群2箇所、耕作溝等がある。

竪穴住居跡の内訳はA区25軒、B区1軒、C区2軒である。ほとんどの竪穴住居跡がA区で検出されている。地形的にはA区の中でも西端の低地部をさけて、安定した台地に竪穴住居群が造られている。これは、B,C区でも同様であった。また、方形周溝墓群との重複は少なく、居住域と墓域を分けて造られている。

本遺跡で見つかった竪穴住居跡の構造について、少し説明を加えたい。住居の平面形は1辺3.2m～6.18m、平均4.9mのほぼ方形である。平均面積は23.68㎡である。1辺が5m以上の住居跡には周溝が巡る。床面には柱穴が4基、貯蔵穴が1,2基あった。柱穴が残りのよい状態で見つかった住居跡としては、A区17号、23号住居跡がある。23号住居跡では、検出された柱穴に石膏を流し込んで、柱の復元を試み、その形状を確かめた。炉跡は住居北側の床面上で、柱穴の間に検出されることが多かった。なかには、A区14号住居跡のように板状に加工した砂岩を2枚埋め込んで炉に使用したと思われるものもある。しかし、ほとんどが床面上に焼土と炭が残る程度のものであった。

このような竪穴住居跡のなかで特徴的なものは、A区17号、23号住居跡であった。A区17号住居跡では住居南西部からおびただしい数の土器が出土した。その器種は高坏、壺、S字状口縁台付甕等である。これらの土器は床面上からではなく、最高で29cm床面から離れて出土した。おそらく、南西部から投げ込まれたものと考えられる。しかし、これらの土が何のために投げ込まれたのかは不明である。また、

A区23号住居跡は遺構確認面から地山に近い土層がみられ、同時期の住居跡とは異なる層序が認められた。そして、床面近くから炭化材、焼土が多く検出され、焼失住居であることがわかった。炭化材のなかには、放射状に出土し、垂木の残存と思われるものもあった。当初確認された地山に近い土は、火災の際に被せた周堤帯等の土と考えることが出来る。

方形周溝墓の内訳はA区14基、B区4基、C区1基、D区1基（但し、D区1号方形周溝墓はB区1号方形周溝墓と同一と考える）である。地形的には竪穴住居群と同じように低地部をさけ、安定した台地に造られている。位置的には竪穴住居群の東側に、居住域と分けて方形周溝墓群が造られている。方形周溝墓のほとんどは、方形の台部の周囲を周溝が巡った形状になっている。そのうちのA区14号周溝墓は前方後方形周溝墓である。前方後方形周溝墓については県内でもその出土例はあまり多くない。この地域のリーダーの墓ではないかと思う。方形周溝墓の周溝を含めた大きさは、かなり差がある。東西方向で7.55m～27.26m、南北方向で7.82m～29.87mを測る。周溝の上端幅は0.74m～9.66mを測る。周溝に堆積した土層を観察すると、掘り上げた土が崩落したような層位があった。かつては、低い墳丘状のものが存在したと思われる。また、周溝の土層の上層には、Hr-FAの層が見られる周溝墓もあった。方台部上の調査ではAs-C軽石が窪み状に検出された周溝墓があった。A区1号方形周溝墓の方台部上からはAs-C軽石が数cmの厚さをもって播り鉢状に堆積していた遺構が検出された。高坏、器台、壺、台付甕などの遺物も出土していることから、1号竪穴状遺構として掲載することにした。A区6号方形周溝墓では周溝の底に土坑が検出された。土層観察から周溝が造られた後に、土坑を掘り込んだ



### 第3章 検出された遺構と遺物

痕跡が見られる。しかし、その性格については不明である。19基の周溝墓の主体部については、調査したが、見つけれなかった。

その他の遺構については以下の通りである。掘立柱建物跡は2棟ともC区の台地部から検出された。井戸は2基ともA区の西端の低地部から検出された。この2基の井戸については竪穴住居群と近い位置にある。また、土坑は焼土土坑も含めて、7基ともA区から検出された。耕作溝はA区、道路跡はA区、B区から各1ずつ検出されている。14条の溝は、全てC区から検出されている。その走向はほぼ北から南である。確認全長、幅、深さについては差が大きい。土器群はA区、B区から各1ずつ見つかっている。A区1号土器群はA区の西端の低地部で、同時期の井戸2基の近くから見つかった。B区1号土器群はB区4号方形周溝墓の近くである。この土器群の中からほぼ完形のパレススタイルの壺が出土している。この壺は方形周溝墓の墓前祭等に使用されたとも考えられる。

本遺跡の古墳時代の遺物の総量は遺物収納箱で40箱ほどである。そのほとんどが古墳時代前期の遺物である。器種別では、土師器の鉢、甑、器台、高坏、埴、壺、甕類等が出土している。出土した遺物数量が多かった遺構としては、A区17号住居跡、A区7号方形周溝墓、C区28号溝等がある。A区17号住居跡からは投げ込まれたと思われるおびただしい数の遺物が出土した。この遺物は他の住居跡の遺物出土量のおよそ3倍ほどである。A区7号方形周溝墓の周溝からは、器高41.5cmの頸部～胴部上半に縄文の文様帯をもつ壺や器高37.5cmの単口縁台付甕等、大きさ、外形共にバラエティに富む多くの壺、甕類が出土している。C区28号溝は埋まる度に造られた溝の集合体のような溝で、奈良・平安時代のC区26号溝と重複する辺りから、S字状口縁台付甕をはじめ数多くの遺物が出土している。

※ D区古墳時代の遺構と遺物の詳細については「第3章 5.D区の遺構と遺物」に記載。

第7図 古墳時代の遺構全体図



(1) 竪穴住居跡

A区 4号住居跡 (第8・9図 PL4・117)

位置 3M-12グリッド

形状 東西4.15m、南北4.63m。隅丸方形を呈する。

面積 17.46㎡

方位 N-19°-E

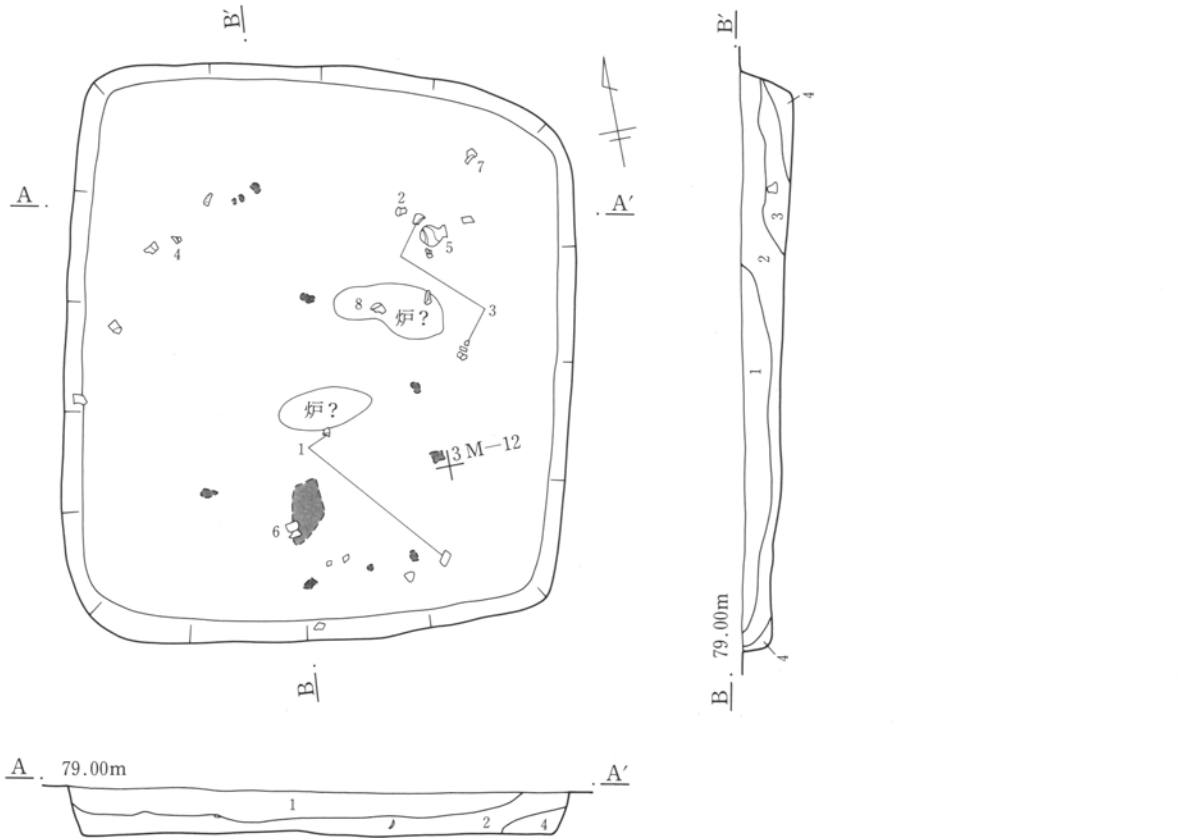
床面 遺構確認面より32cm掘り込んで床面になる。床面は細かい砂粒をやや多く含む黒褐色土で造られている。また、床面全域から炭が出土している。特に多い所は床面上に示した。さらに炭に関しては覆土中にも認められた。

柱穴 柱穴1は径34cm、深さ36cm。柱穴2は径38cm、

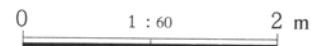
深さ49cm。柱穴3は径40cm、深さ50cm。柱穴4は径35cm、深さ38cm。柱穴の覆土は住居覆土と同じ黒褐色土に地山の明黄褐色土が混入した土である。

炉 柱穴に囲まれた住居の中央部に炭が集中している所が2ヶ所検出された。裁ち割って土層を確認したところ炭は確認できたが、焼土は見つけられなかった。そのため、炉として断定はできなかった。

遺物 土師器高坏、器台、壺、甕、甔が出土している。このうち、小型のS字状口縁台付甕はほぼ完形のものであった。

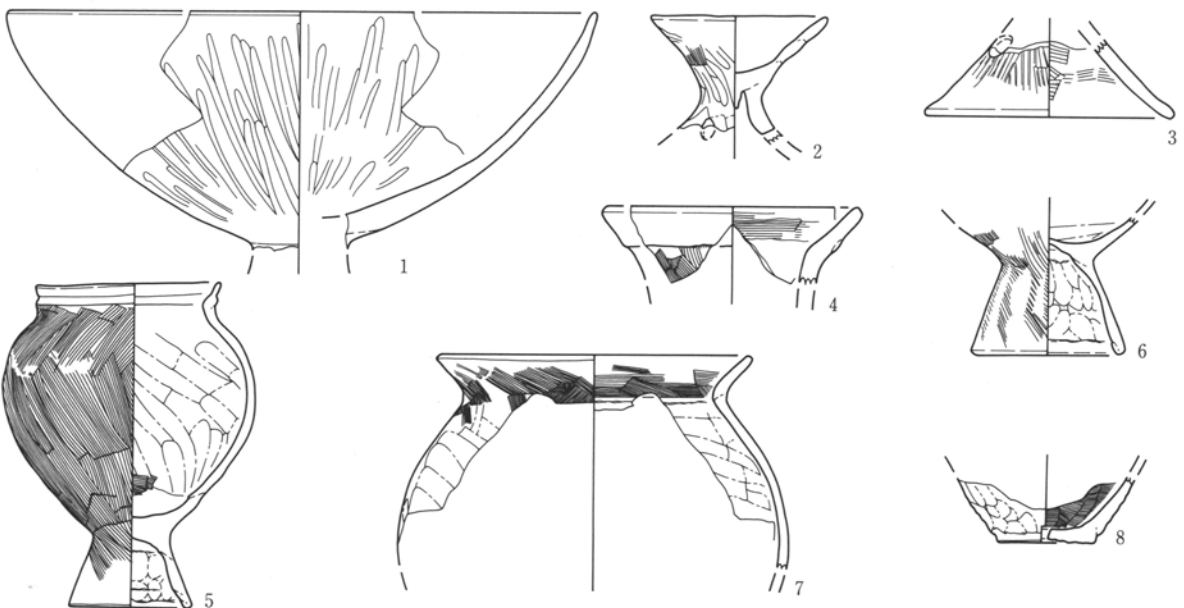
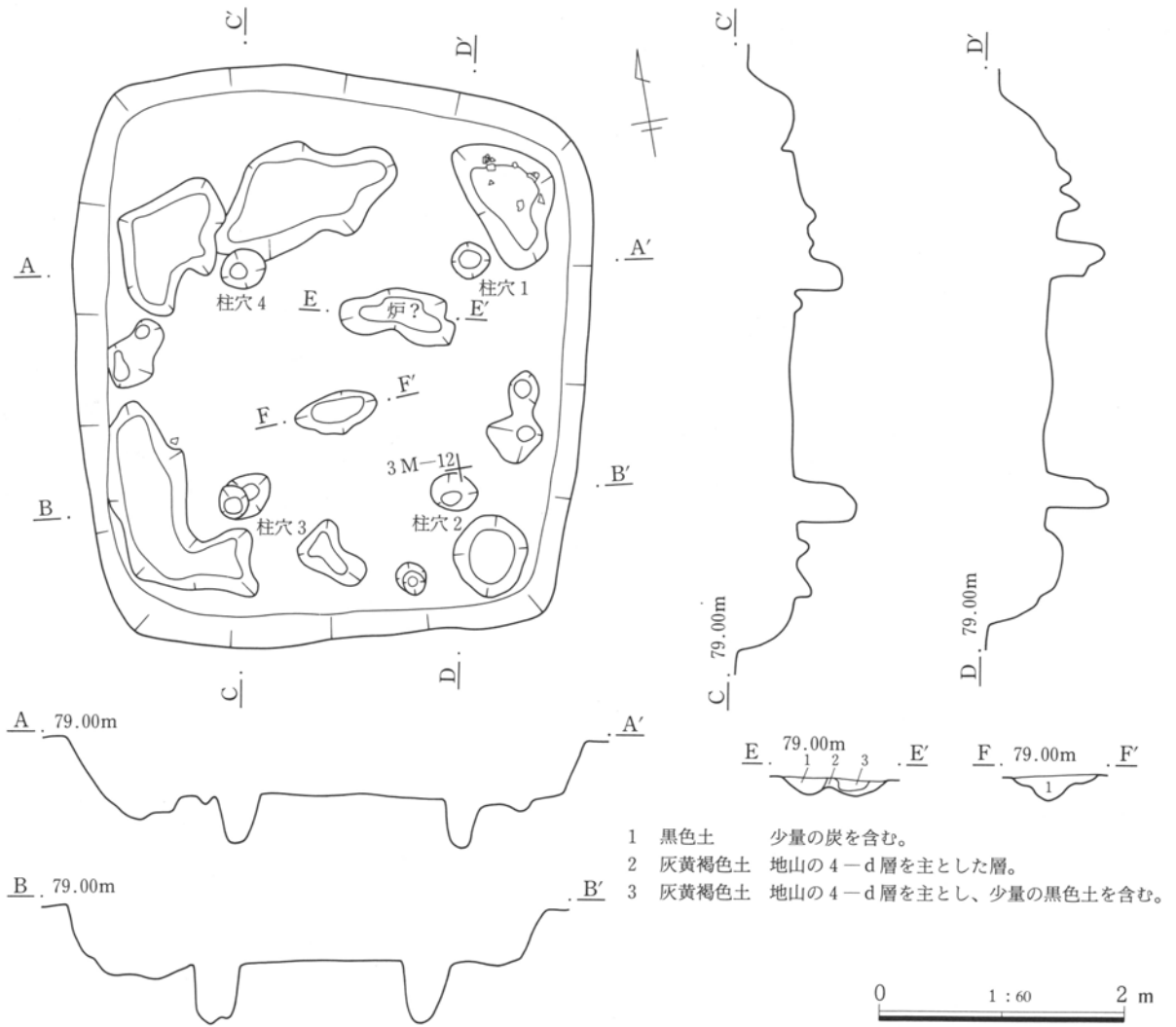


- |        |                                       |        |                        |
|--------|---------------------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒色土  | 2~6mmの多くの白色軽石粒を含む。3-e層を主とする。          | 3 黒褐色土 | 2層に近いが、より黒色が強い。        |
| 2 黒褐色土 | 5mm前後の小さな砂粒をやや多く含む。少量の炭を含む。3-f層を主とする。 | 4 褐色土  | 地山の明黄褐色土と2層との混入層。粒子が密。 |



第8図 A区4号住居跡





第9図 A区4号住居跡掘り方、出土遺物

A区 4号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	口〜坏部片 口径(23.4) 器高(9.4) 底径—	+20	①1〜3mmの小石 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	椀状の丸みをもつ坏部。口縁端部はやや内湾し、薄く仕上げている。 外面 口縁は横ナデ。以下坏部篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下坏部篋磨き。
2	土師器 器台	器受部〜脚上部 口径7.0 器高4.5 底径—	床直	①赤色細粒 輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	ラップ状に開いた器受部。脚部に円孔3あり。 外面 器受部上半は横ナデ。以下ハケメ後篋磨き。 内面 器受部上半は横ナデ。以下内面の荒れが著しい。
3	土師器 高坏	脚部片 口径— 器高(3.1) 底径(9.6)	+13	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	ラップ状に開く脚部に円孔あり。 外面 脚部下半はハケメ。裾部は横ナデ。 内面 脚部下半はハケメ。裾部はハケメ後横ナデ。
4	土師器 壺	口縁片 口径(13.4) 器高(4.0) 底径—	+8	①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	厚手で外反する複合口縁。口縁端部に面をもつ。 外面 口縁上半は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁上半はハケメ。
5	土師器 台付甕	ほぼ完形 口径 9.8 器高17.1 底径 6.7	+10	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部から直立気味に立ち上がるS字状口縁。胴部はやや肩が張る。裾部は折り返す。 外面 口縁は横ナデ。胴部は斜めハケメ。台部はナデ後ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。台部に指頭痕あり。
6	土師器 台付甕	台部 口径— 器高(7.3) 底径7.5	+10	①輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に立ち上がる胴部。台部中程は器壁が薄い。裾は折り返す。 外面 ハケメ。 内面 胴部はナデ。台部は指ナデ。
7	土師器 甕	口〜胴部1/4 口径(16.5) 器高(11.2) 底径—	床直	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	頸部からくの字に立ち上がる口縁。端部外側に面をもつ。球形の胴部。 外面 口縁はハケメ後横ナデ。胴部はナデ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。胴部はナデ。
8	土師器 甕	底部1/2 口径— 器高(3.6) 底径(5.1)	+10	①細砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部から内湾気味に立ち上がる胴部。底部に円孔あり。 外面 胴部はナデ。底部は篋削り。 内面 ハケメ。

A区 9号住居跡 (第10〜12図 PL5・117)

位置 3 I-16グリッド

重複 住居の南西部分で平安時代のA区6号住居と重複している。

形状 東西4.86m、南北3.89m。長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 (17.93)㎡

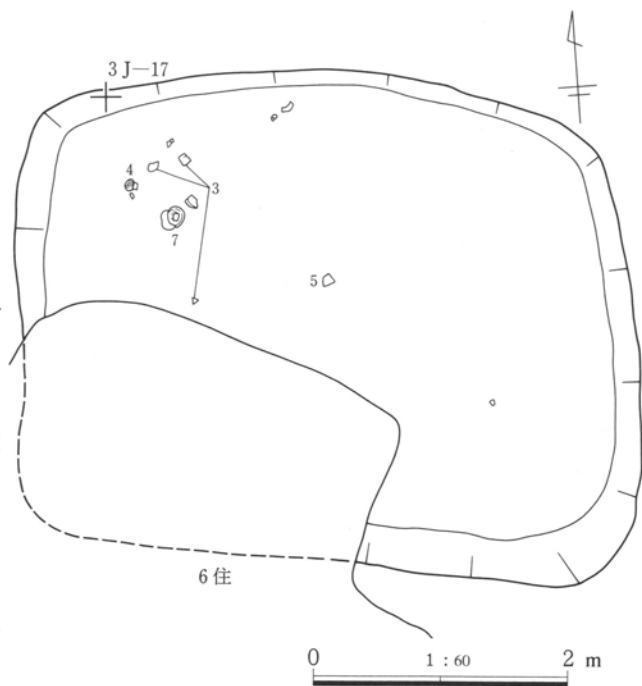
方位 N-20°-E

床面 遺構確認面より35cm掘り込んで床面になる。床面は黒色土と地山の灰黄褐色砂質土の混合した土で造られている。

柱穴 柱穴1は径39cm、深さ45cm。柱穴2は径46cm、深さ38cm。柱穴3は長径63cm、深さ40cm。柱穴4は長径79cm、深さ45cm。柱穴4の上層で床下部分から粘質土と炭が検出された。また、柱穴4の覆土中より器台や壺、甕類の土器片が出土している。

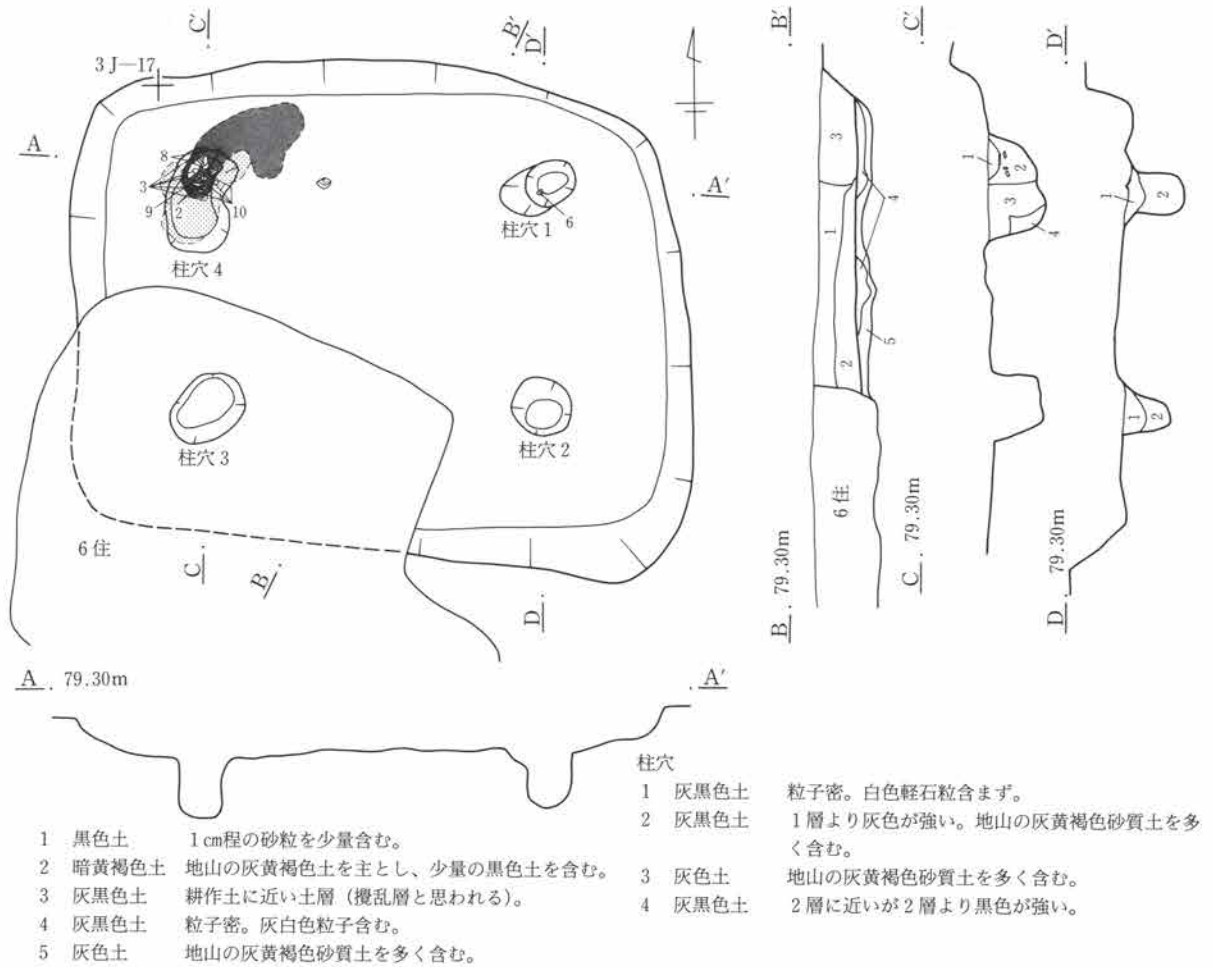
炉 柱穴4付近から炭が検出されたが、焼土は見つからず。炉らしきものは検出されなかった。

遺物 土師器器台、壺、甕類が出土している。このうち、小型甕は完形のものである。

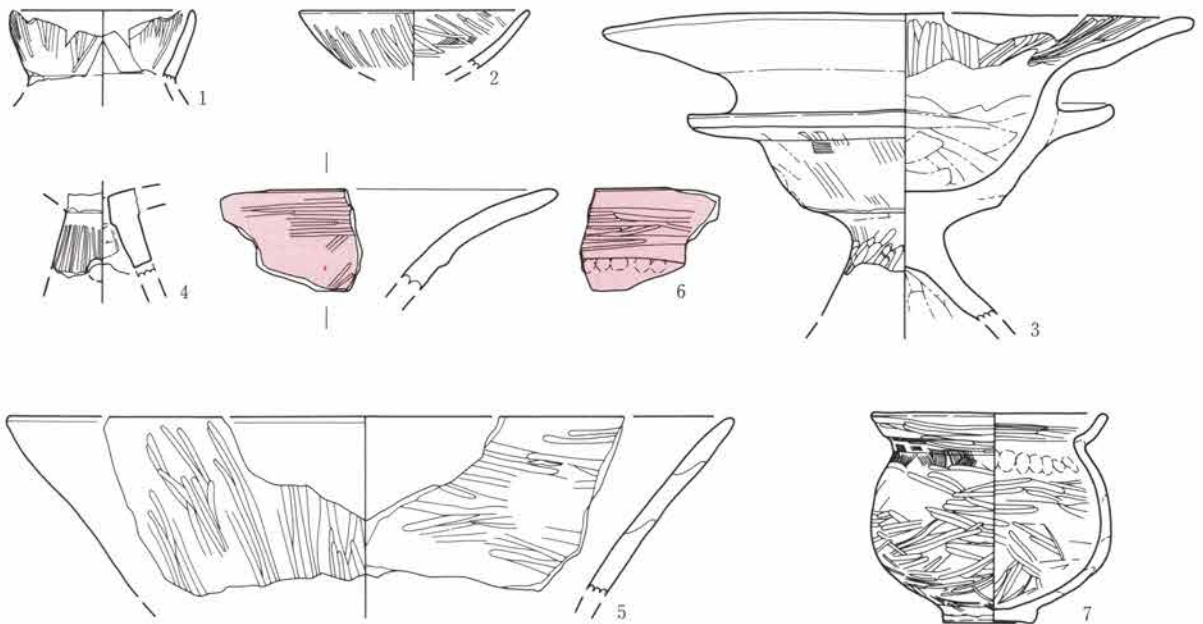


第10図 A区9号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



0 1:60 2 m



第11図 A区9号住居跡掘り方、出土遺物(1)

1. 古墳時代の遺構と遺物



第12図 A区9号住居出土遺物(2)

A区9号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 小型壺	口縁部 1/3 口径(9.5) 器高(4.1) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部から直立気味に立ち上がり、端部で内湾する口縁。 外面 横ナデ後笥磨き。 内面 横ナデ後笥磨き。
2	土師器 小型壺	口縁部 1/2 口径(12.0) 器高(3.1) 底径—	柱穴	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③黄橙色	外反し、端部で内湾する口縁。 外面 横ナデ後笥磨き。 内面 ハケメ後笥磨き。
3	土師器 器台	脚部裾部欠損 口径 23.4 器高(12.0) 底径—	柱穴 +9	①輝石 赤色細粒 2 ~5mmの小石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	外反し水平に長くのびる口縁をもつ器受部に、水平に長くのびる 口縁が接続した異形の器台である。 外面 口縁部は横ナデ。器受部はハケメ後横ナデ。脚部は笥磨き。 内面 上部口縁は笥磨き。以下はナデ。
4	土師器 器台	脚部片 口径— 器高(3.3) 底径—	+12	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	円孔あり。 外面 笥磨き。 内面 笥削り。
5	土師器 高坏	口縁片 口径(28.7) 器高(6.7) 底径—	+15	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	端部は丸い。 外面 口縁端部は横ナデ。以下笥磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下笥磨き。
6	土師器 壺	口縁部片 口径— 器高— 底径—	柱穴	①輝石 1~5mmの石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	大きく外反する口縁。 外面 横笥磨き。赤色塗彩。 内面 横笥磨き。赤色塗彩。
7	土師器 小型壺	完形 口径12.4 器高11.2 底径 4.6	+38	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反し、端部でやや内湾する口縁。やや下膨れの胴部。 外面 口縁は横ナデ(ハケに近い工具による)後笥磨き。以下はハ ケメ後笥磨き。特に頸部にハケメ痕が残る。 内面 口縁は横ナデ後笥磨き。頸部に指頭痕あり。以下は笥削り 後笥磨き。
8	土師器 台付甕	台部 1/2 口径— 器高(8.1) 底径(9.4)	柱穴	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	台部中程で器面が薄くなっている。裾は折り返す。 外面 ハケメ。 内面 ナデ。
9	土師器 台付甕	台部 3/4 口径— 器高(5.7) 底径(7.6)	柱穴	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	裾は折り返す。 外面 ハケメ。 内面 指ナデ。胴部との接合付近に粗い砂あり。
10	土師器 台付甕	台部 口径— 器高(6.2) 底径(7.9)	柱穴	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	裾は折り返す。 外面 ハケメ。 内面 ナデ。胴部との接合付近に粗い砂あり。
11	土製品 不明	破片 縦(2.5) 横(2.5) 厚さ0.6	覆土	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	ほぼ平板な器形。しっかりした面をもつ。円孔2あり。 外面 ハケメ。 内面 ナデ。胴部との接合付近に粗い砂あり。

A区 10号住居跡 (第13~15図 PL6・117・118)

位置 3L-16グリッド

重複 縄文時代の埋甕であるA区49号土坑を掘り込んで本住居が造られている。本住居の南東部分で古墳時代のA区2号方形周溝墓と重複している。2号方形周溝墓が本住居を掘り込んで造られている。

形状 東西6.06m、南北5.30m。長軸を東西方向に

もち、隅丸方形を呈する。

面積 30.73m<sup>2</sup>

方位 N-44°-E

覆土 As-C軽石が混入している黒褐色土が覆土の中心となっているが、住居の壁面近くからAs-C軽石粒の集中している箇所が確認出来た。

第3章 検出された遺構と遺物

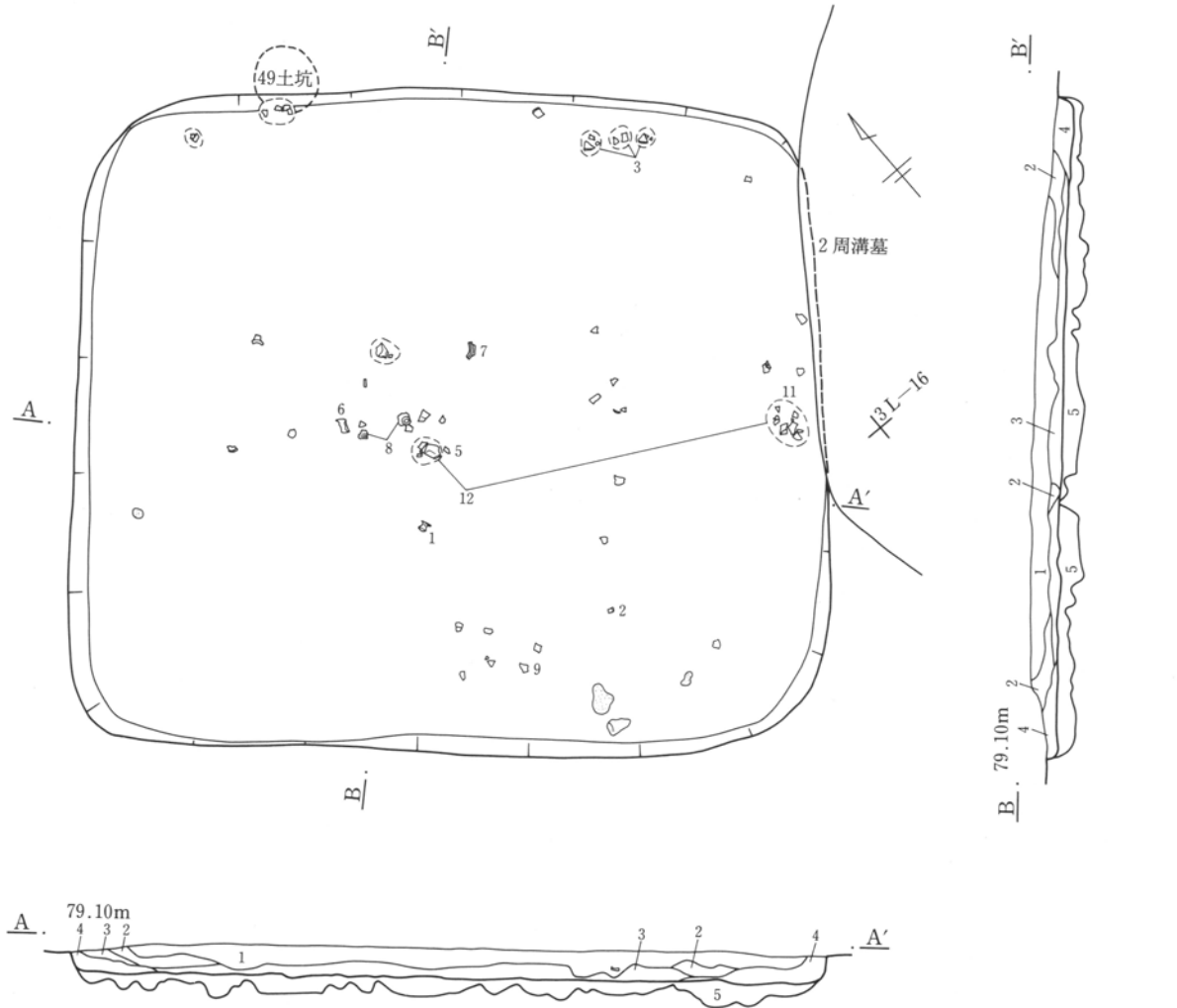
**床面** 遺構確認面より残りの良い所で24cm掘り込んで床面になる。床面はAs-C軽石粒を含む黒褐色土と地山の明黄褐色土の混合した土で造られていて踏み固められた硬い箇所は確認できなかった。

**ピット** 径、深さ、位置をみて柱穴として断定できなかったのでピットとして取り上げた。ピット1は径74cm、深さ26cm。ピット2は径52cm、深さ29cm。

ピット3は径38cm、深さ20cm。ピット4は径45cm、深さ35cm。覆土は地山の明黄褐色土を多く含む。

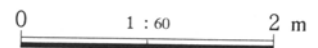
**炉** 炭、焼土が見つからず。炉らしきものは検出されなかった。

**遺物** 土師器高坏、壺、甕類が出土している。



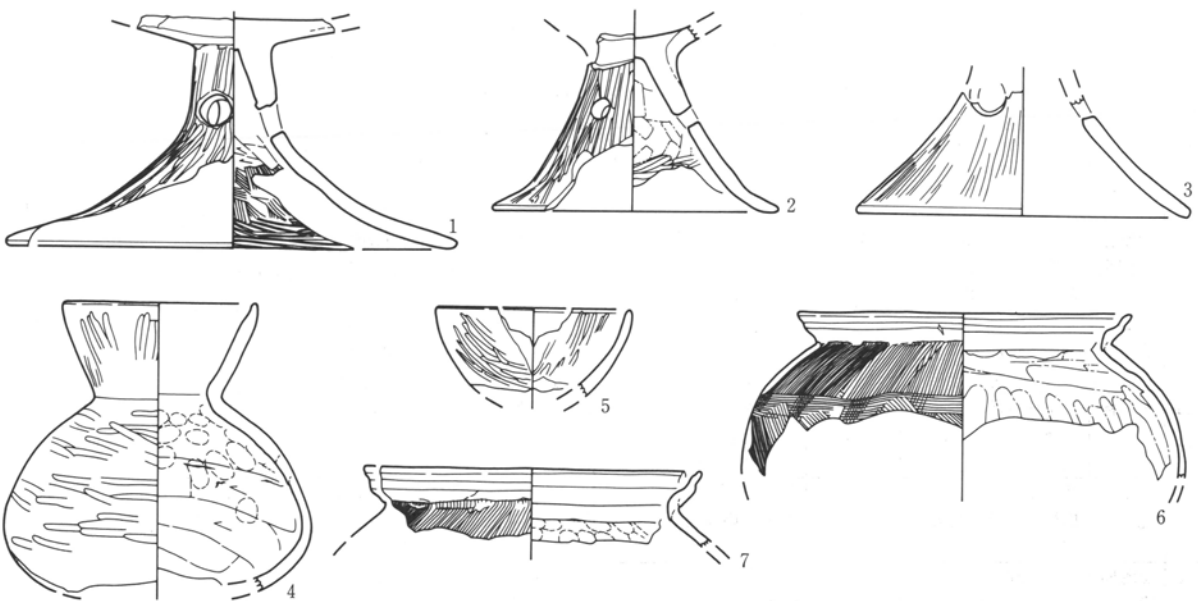
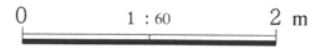
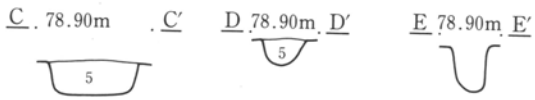
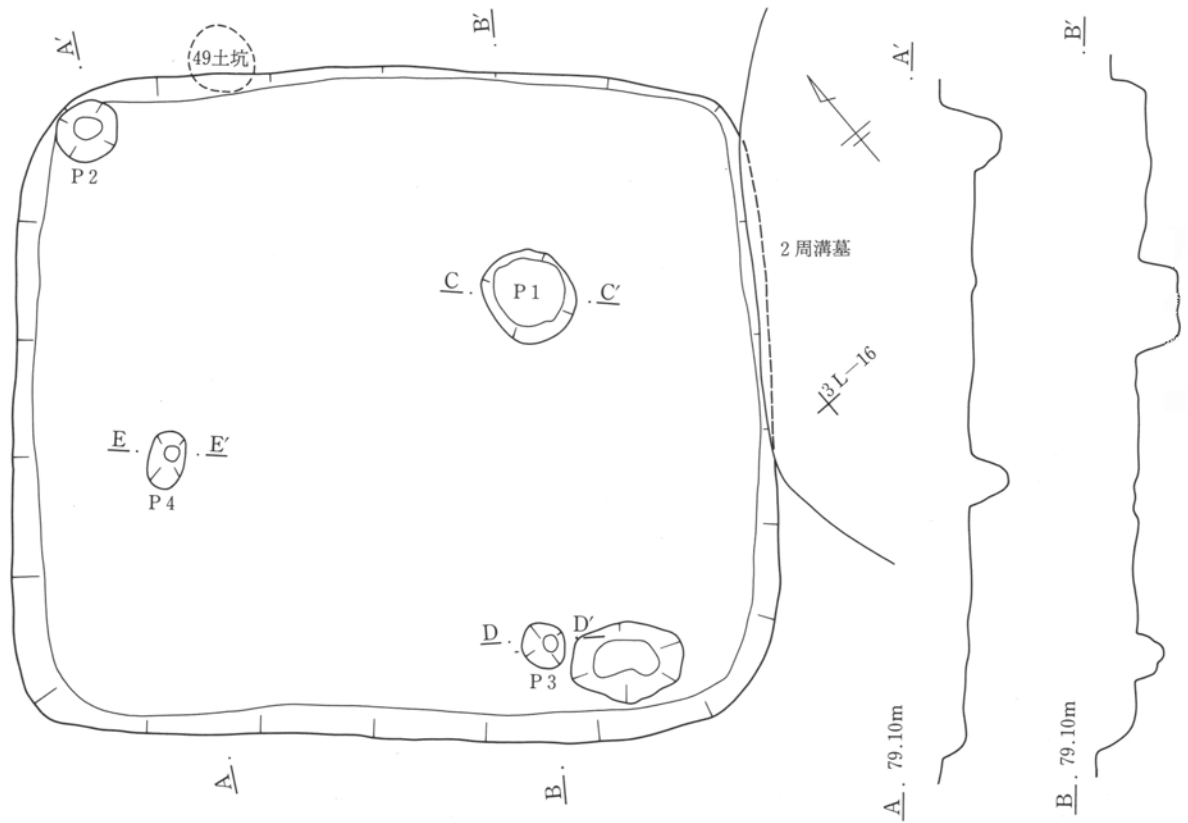
A区 10号住居・ピット

- 1 黒褐色土 5mm前後のAs-B軽石粒を多量に含む。
- 2 灰白色 As-C軽石粒が特に集中している層。
- 3 黒褐色土 1層に近いがよりAs-C軽石粒が多い。
- 4 黒色土 上位の1・3層よりも黒色が強い。小さな石粒を含む。
- 5 黒褐色土 地山の明黄褐色土が混入している。



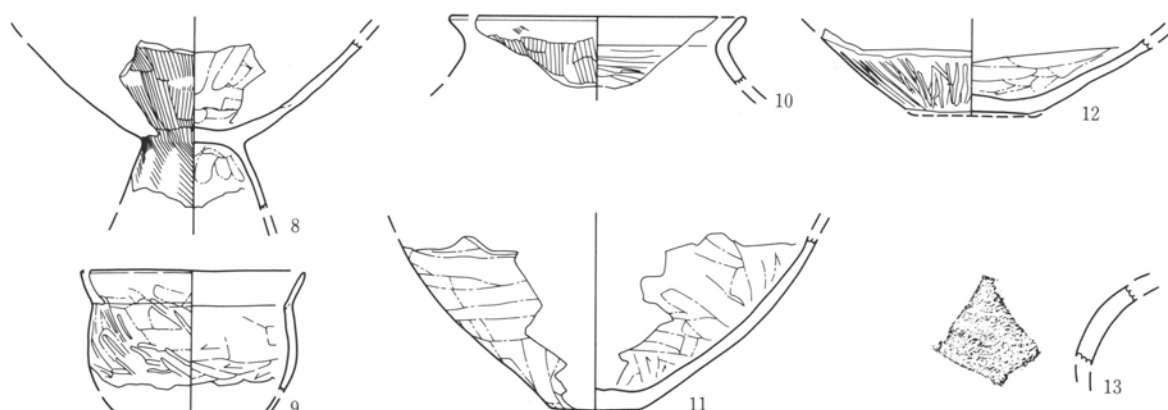
第13図 A区10号住居跡

1. 古墳時代の遺構と遺物



第14図 A区10号住居跡掘り方、出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第15図 A区10号住居跡出土遺物(2)

A区 10号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	土師器 高坏	坏底～脚部 1/3 口径— 器高(9.1) 底径(17.9)	+9	①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	脚部上半は円筒状であるが、下半から裾野を広げた形状。裾端部は丸い。円孔3あり。 外面 篋磨き。 内面 坏底部は篋磨き。脚部上半は篋削り。下半は細いハケメ。裾部は粗いハケメ後横ナデ。
2	土師器 高坏	坏底～脚部 2/5 口径— 器高(7.3) 底径(11.2)	+15	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③赤橙色	ラップ状に開き、裾部で短く外反する脚部。 外面 篋磨き。 内面 ナデ。裾部は篋磨き。
3	土師器 高坏	脚部 口径— 器高(5.0) 底径13.0	+7	①軽石 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	ラップ状に開く脚部。円孔3あり。 外面 篋磨き。 内面 横ナデ。
4	土師器 小型壺	口～胴部上半 3/5 口径 7.5 器高(10.9) 底径—	覆土	①輝石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直上気味に外反して立ち上がる口縁。端部で短く内湾する。下膨れの胴部。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。胴部上半に指頭痕あり。下半は篋削り。
5	土師器 小型壺	口縁 1/4 口径(10.4) 器高(4.4) 底径—	+9	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	内湾する口縁。端部は丸い。 外面 端部は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 横ナデ後篋磨き。
6	土師器 台付甕	口～肩部 1/4 口径(17.6) 器高(8.7) 底径—	+13	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反するS字状口縁。端部内側に面を持たせている。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。肩部は縦ハケメ後横ハケメ。 内面 横ナデ。胴部は指ナデ。
7	土師器 台付甕	口縁部 1/5 口径(17.8) 器高(4.0) 底径—	+14	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明黄橙色	2段目が丸く厚ぼったいS字状口縁。端部内側に面を持たせ、やや鋭く仕上げている。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部に指頭痕あり。
8	土師器 台付甕	胴下～台部 口径— 器高(9.0) 底径—	+12	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に立ち上がる胴部。 外面 ハケメ。 内面 ナデ。
9	土師器 小型甕	口～胴部 1/3 口径(11.7) 器高(6.5) 底径—	+7	①2mmの石 輝石 石英 ②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	薄手で外反する口縁。肩が張らず下へ続く胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下はナデ後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋削り。
10	土師器 甕	口縁片 口径(15.8) 器高(3.5) 底径—	覆土	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反する短い口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。
11	土師器 甕	胴下～底部 1/2 口径— 器高(9.3) 底径4.5	床直	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明橙色	小さい底部に向かって急にすぼまる胴部。 外面 ナデ。 内面 胴部はナデ。底部は篋削り。
12	土師器 甕	底部 口径— 器高(4.0) 底径—	+19	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	底部から大きく外反する胴部 外面 篋磨き。 内面 ナデ。底部に粗い砂。
13	土師器 甕	口縁部片 口径— 器高一 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③明黄褐色	外反する口縁。 外面 波状文あり。



A区 12号住居跡 (第16・17図 PL7・118・119)

位置 4B-18グリッド

形状 東西4.49m、南北4.40m。隅丸方形を呈する。壁沿いに周溝が幅25cm、深さ13cmで巡っている。

面積 20.00m<sup>2</sup>

方位 N-6°-W

床面 遺構確認面より19cm掘り込んで床面になる。床面はやや大粒のAs-C軽石が混入している黒褐色土と砂質の灰黄褐色土の混ざった土で造られている。床面の高さはほぼ均等で標高77.90mを測る。

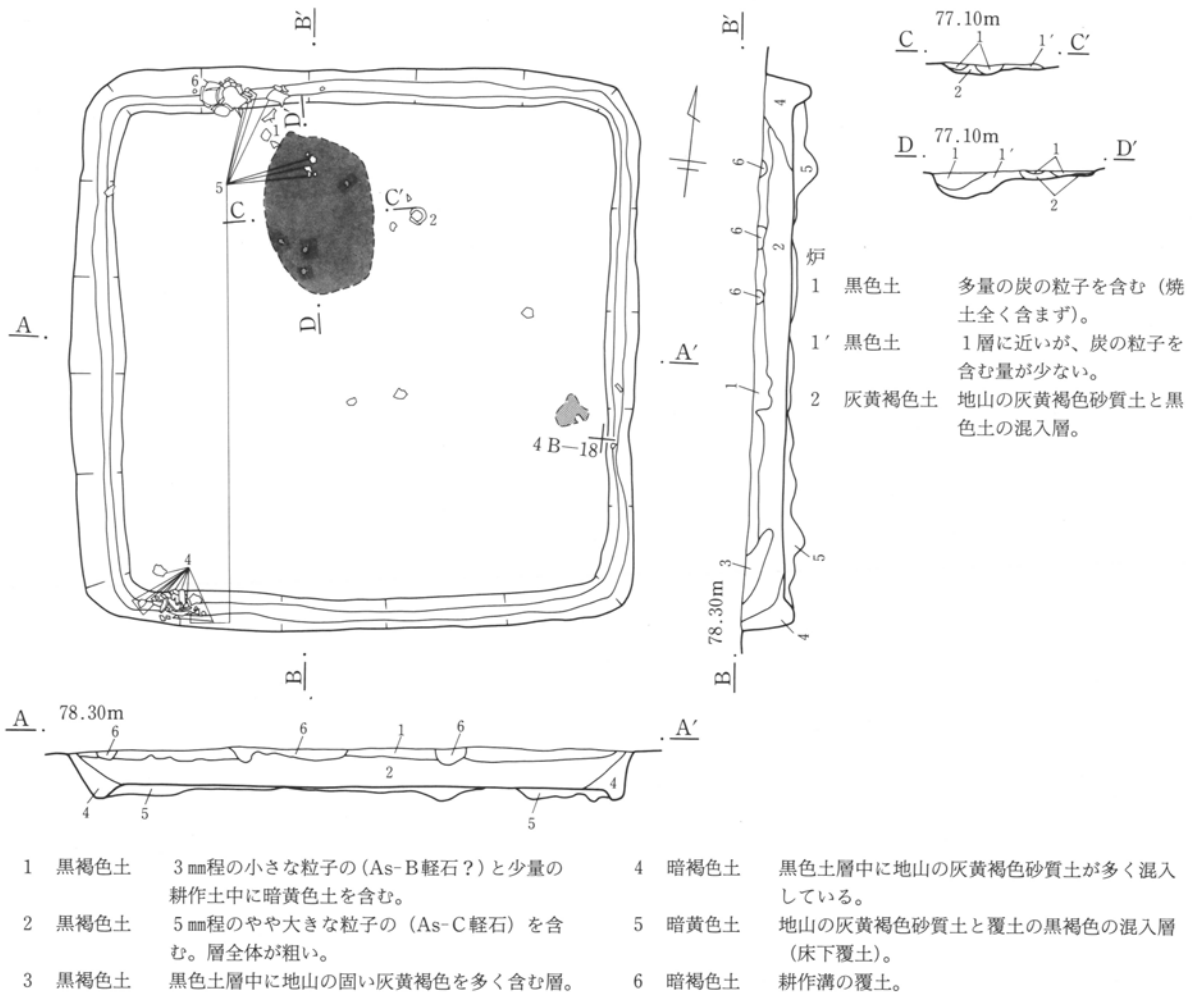
柱穴 柱穴1は径26cm、深さ18cm。柱穴2は径27cm、深さ10cm。柱穴3は径34cm、深さ13cm。柱穴4は径45cm、深さ20cm。覆土は地山の灰黄褐色土が多く入った黒褐色土である。径や深さを見ると柱穴として疑

問も残るが、位置的には問題ないと思われる。

貯蔵穴 貯蔵穴1は径50cm、深さ22cm。貯蔵穴2は径46cm、深さ20cm。覆土は黒褐色土と地山の灰黄褐色土の混ざった土である。貯蔵穴1については残存が良かったので断面図を作成した。

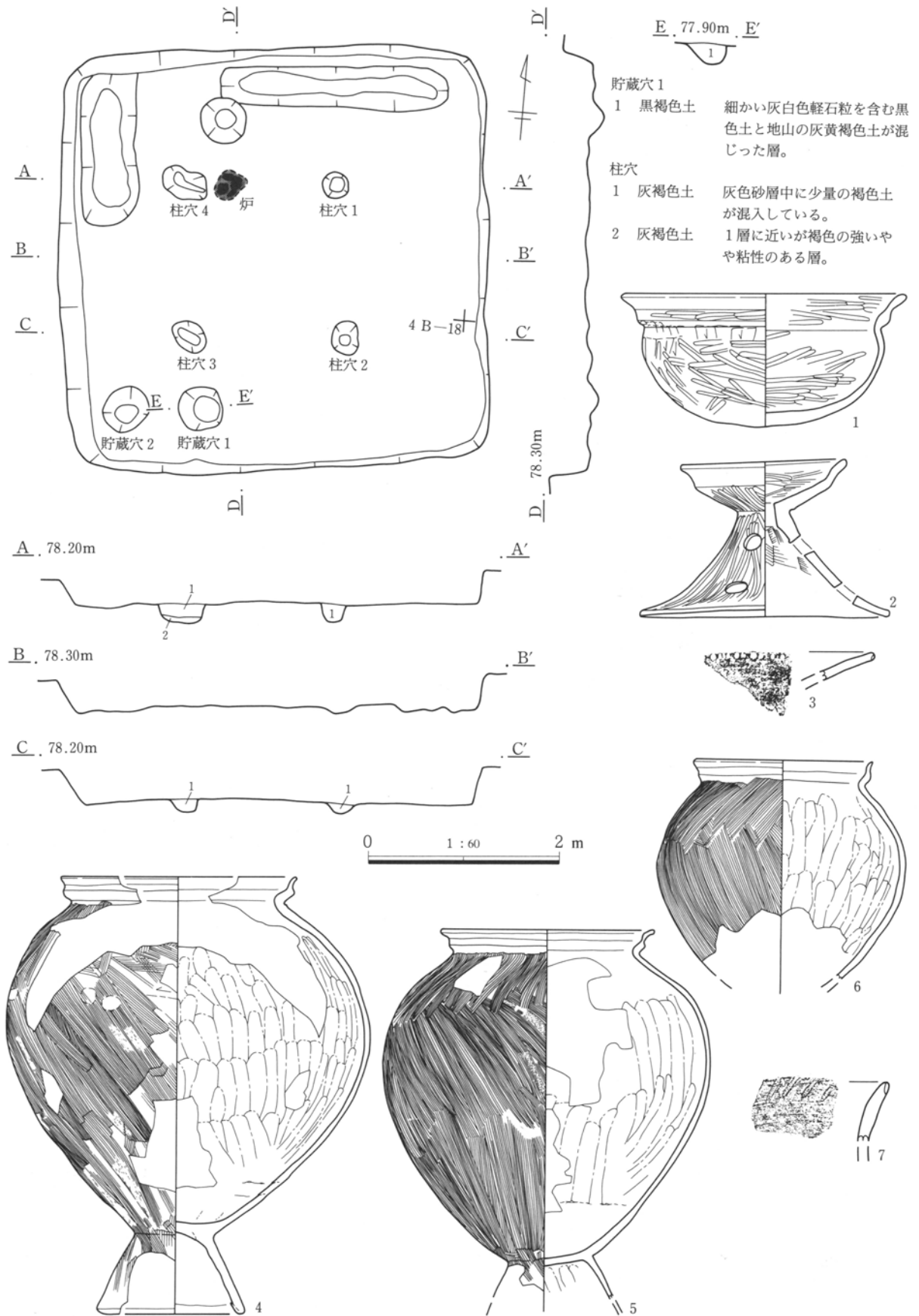
炉 柱穴1と柱穴4の間で住居の北壁付近に炭と焼土が混ざった箇所が検出された。断ち割って土層を確認したところ、断面で炭は確認できたが、焼土は確認できなかった。検出時の状況から判断して、炉として掲載しておくことにする。

遺物 土師器器台、壺、台付甕、丸底の鉢が出土している。このうち器台はほぼ完形のものがあった。



第16図 A区12号住居跡

0 1 : 60 2 m



第17図 A区12号住居跡掘り方、出土遺物

1. 古墳時代の遺構と遺物

A区 12号住居

番号	器種	残存 法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	土師器鉢	ほぼ完形 口径14.9 器高7.0 丸底	床直	①輝石 赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反する複合口縁をもつ。胴部は椀状で丸底。 外面 口縁は横ナデ後笥磨き。胴部は笥削り後笥磨き。 内面 口縁は横ナデ後笥磨き。胴部は笥磨き。
2	土師器器台	ほぼ完形 口径 8.5 器高 8.0 底径12.8	床直	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外湾する口縁。脚部は裾野を広げた形状。脚部上半に円孔3あり。脚部下半にも円孔3あり。裾端部は外向きに面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下は笥磨き。 内面 器受部は笥磨き。脚部上半はハケメ。下半から裾部は横ナデ。
3	土師器器台?	口縁片 口径一 器高一 底径一	覆土	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	端部にきざみ痕あり。 外面 口縁は横ナデ後笥磨き。 内面 口縁は横ナデ後笥磨き。
4	土師器台付甕	2/3 口径(16.4) 器高 30.6 底径 10.2	床直	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	やや受け口状に立ち上がるS字状口縁。肩が張り最大径を胴上位にもつ。裾部を折り返す台部。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
5	土師器台付甕	2/3 口径 15.0 器高(25.7) 底径一	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反するS字状口縁。端部は丸い。肩が張らず、長めの胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下は指ナデ。
6	土師器台付甕	口~胴下部 口径 12.4 器高(15.6) 底径一	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直立気味に立ち上がるS字状口縁。肩が張らず、長めの胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下は指ナデ。
7	土師器甕	口縁片 口径一 器高一 底径一	覆土	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反する口縁部片。 外面 口縁は横ナデ。端部にハケメ工具による刺突文あり。 内面 口縁は横ナデ。

A区 14号住居跡 (第18~20図 PL8・9・119・120)

位置 4E-15グリッド

重複 重複なし。

形状 東西5.48m、南北5.57m。隅丸方形を呈する。

面積 29.84m<sup>2</sup>

方位 N-9°-W

床面 遺構確認面より30cm掘り込んで床面になる。

風倒木を掘り込んで造られているせいか、床面は黒褐色土と灰黄褐色土の混合した土であるが、北西端と南西端部分は他の床面と色合いが異なる。床面の高さは77.64mを測る。住居の中央部北壁寄りに炉跡と思われる焼土と炭の混ざったものが、また西壁中央部にも焼土が、さらに、南壁東よりも焼土が確認された。床下からは、土坑状の細長い掘り込みが検出された。

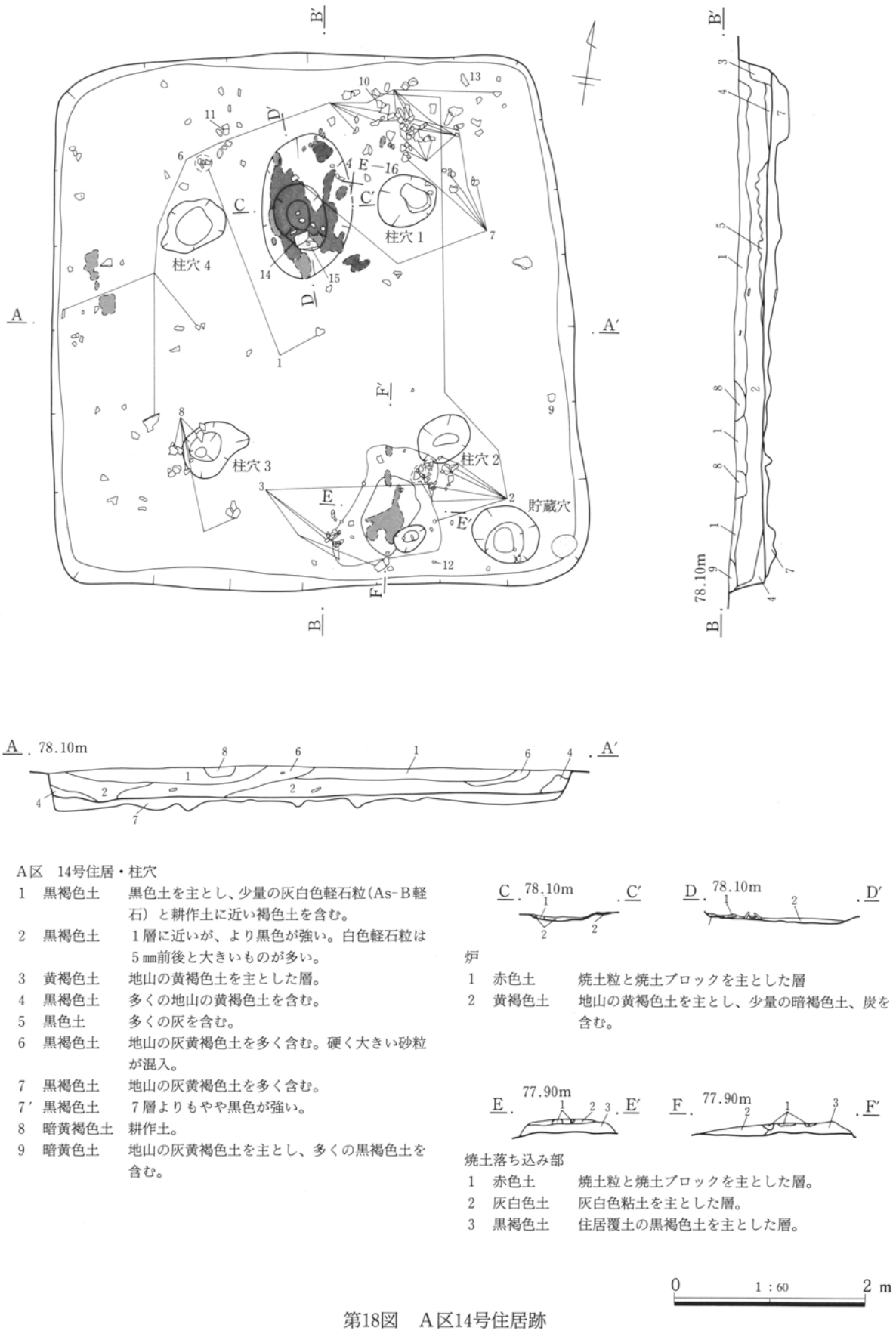
柱穴 柱穴1は径61cm、深さ39cm。柱穴2は径55cm、深さ25cm。柱穴3は径68cm、深さ19cm。柱穴4は径60cm、深さ24cmで、覆土は黒色土に地山の灰黄褐色土が多く混入したものであった。

貯蔵穴 径70cm、深さ42cmで住居の南東端で検出さ

れた。覆土は黒色土に地山の灰黄褐色土が多く混入した土であった。

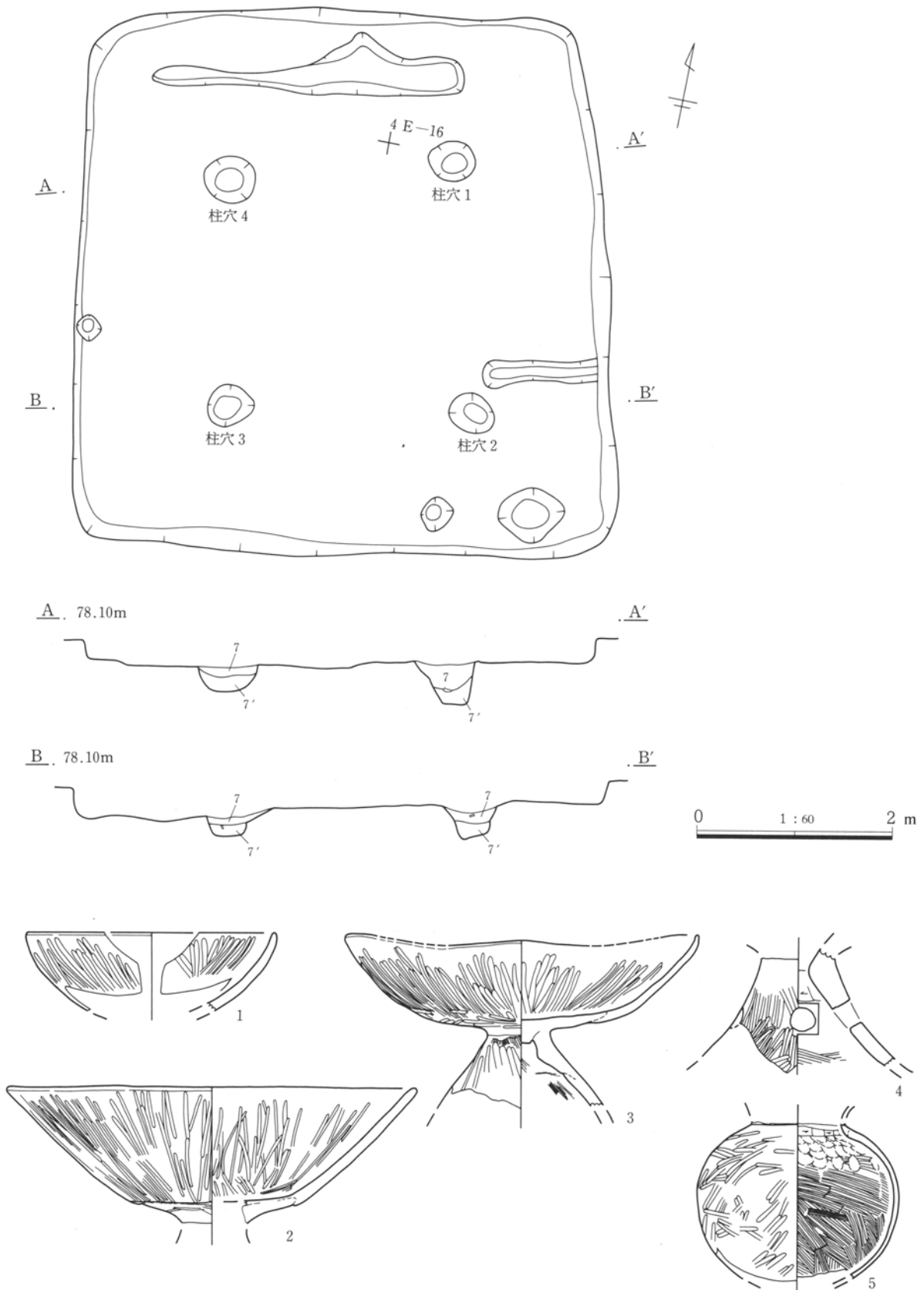
炉 住居の中央部北壁寄りのところに長径70cm・短径52cmの楕円状の炭と焼土が集中している箇所を検出。さらに炉石に使用したと思われる石材も確認した。この石材のすぐ南に焼土が多く、さらにその南側には炭が検出されている。また、断面をみると、焼土の下層には粘質土の層があり、この石材を固定するために使われた可能性がある。

遺物 土師器坏、高坏、壺、台付甕、砥石が出土している。また、住居の南壁付近から小型の勾玉が出土している。

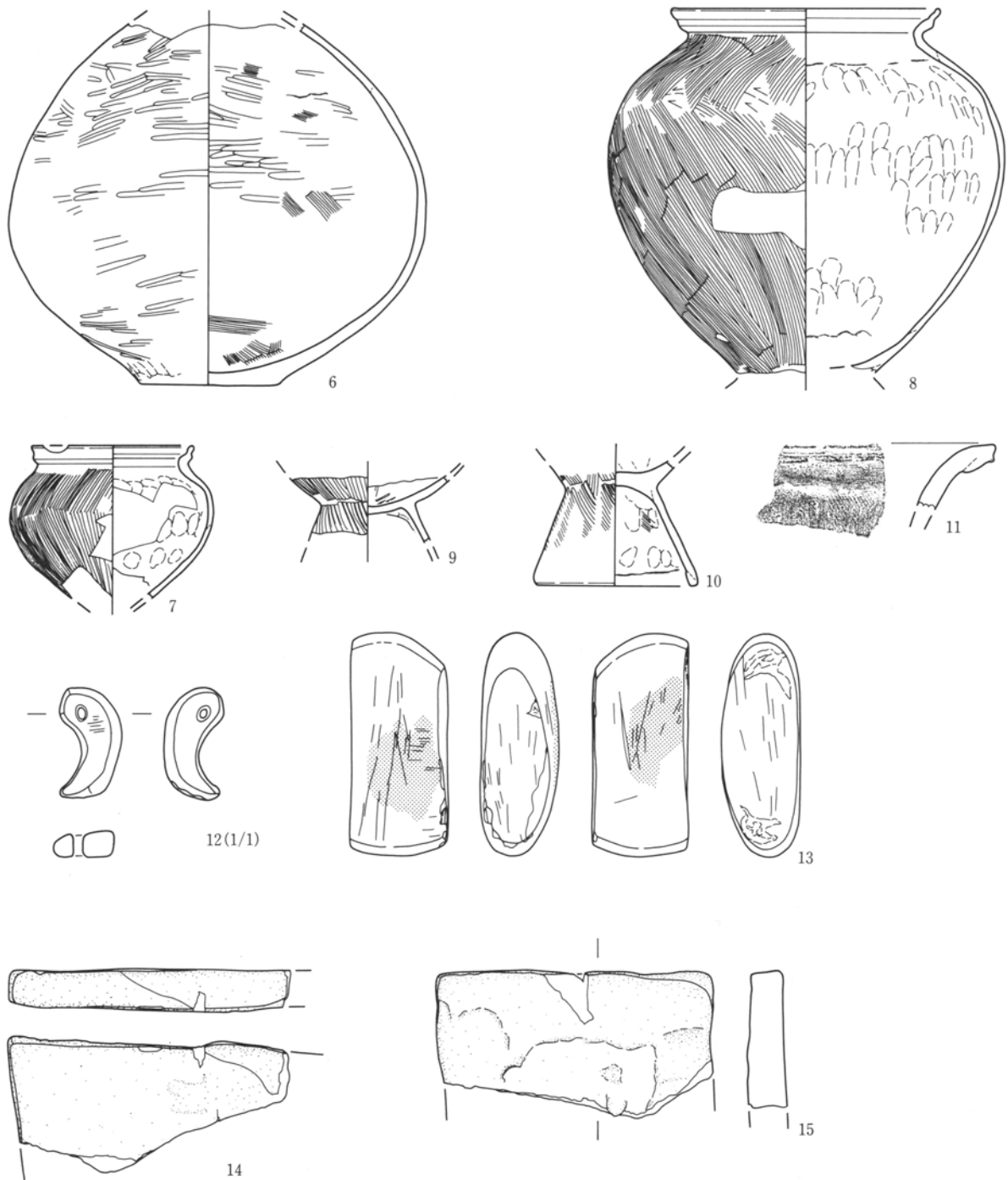


第18図 A区14号住居跡

1. 古墳時代の遺構と遺物



第19図 A区14号住居跡掘り方、出土遺物(1)



第20図 A区14号住居跡出土遺物(2)

A区 14号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	口~胴 1/7 口径(12.8) 器高(4.0) 底径-	+7.5	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	内湾する口縁をもつ。体部は椀状。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 篋磨き。
2	土師器 高坏	坏部のみ 口径(21.0) 器高(7.0) 底径-	床直	①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	坏底部に稜をもつ。大きく外反する坏部。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。

1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調 (石 材)	器形・整形・文様の特徴
3	土師器 高環	坏部 口径(18.2) 器高(8.7) 底径—	床直	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	坏底部にやや稜をもつ。内湾する坏部口縁。端部はいびつである。 外面 坏部口縁は横ナデ。以下は篋磨き。脚部はハケメ後篋磨き。 内面 坏部口縁は横ナデ。以下は篋磨き。脚部はハケメ。
4	土師器 器台	脚部 2/3 口径— 器高(5.8) 底径—	覆土	①1~2mmの石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	ラッパ状に開く脚部。円孔4あり。 外面 篋磨き。 内面 上半は篋削り。下半はハケメ。
5	土師器 小型壺	頸~胴部 2/5 口径— 器高(10.7) 底径—	覆土	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	球状の胴部。直上気味に立ち上がる頸部 外面 篋磨き。 内面 頸部は篋削り。胴部上半に指頭痕あり。下半はハケメ。
6	土師器 壺	胴~底部 4/5 口径— 器高(22.6) 底径8.6	床直	①1~2mmの石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	下膨れ状の胴部。 外面 胴部は篋磨き。底部は篋削り後篋磨き。 内面 胴部はハケメ後篋磨き。底部はハケメ。
7	土師器 台付甕	口~胴部 4/5 口径10.0 器高(9.5) 底径—	床直	①軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	上段が長めで受け口状のS字状口縁。端部に面あり。肩が張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。
8	土師器 台付甕	口~胴部 2/5 口径(16.6) 器高(22.8) 底径—	床直	①粗砂 軽石 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反するS字状口縁。端部は面をもつ。胴部はやや肩が張る。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ 胴部は指ナデ。
9	土師器 台付甕	胴~底部 口径— 器高(4.3) 底径—	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	台部からくの字状に立ち上がる胴部。 外面 ハケメ。 内面 胴底部に篋あて痕あり。台部に指頭痕あり。
10	土師器 台付甕	台部 口径— 器高(7.8) 底径 9.7	床直	①輝石 細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	ラッパ状の台部。端部は折り返す。 外面 ハケメ。 内面 指ナデ。
11	土師器 甕	口縁部片 口径— 器高一 底径—	+11.5	①輝石 細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反する折り返し口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 端部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 篋磨き
12	石製品 勾玉	完形 長さ1.7 幅 0.9 厚さ0.5 重さ1.3	+7.5	滑石	祭祀に用いられた勾玉よりも造りが丁寧であるので、装身具として使用された可能性がある。穿孔の幅は均一と思われる。
13	石製品 砥石	完形 長さ10.4 幅 3.6 厚さ 4.5 重さ245.0	床直	変質デイサイト	全体的に磨ってあるが、特に使用したのは2面。深い擦痕は見受けられず。
14	石製品 炉石?	長さ8.0 幅 17.3 厚さ2.6 重さ463.0	床直	砂岩	板状に加工され炉の焚口に使用された。火を受け変色した箇所あり。
15	石製品 炉石?	長さ8.0 幅 17.4 厚さ2.4 重さ522.0	床直	砂岩	板状に加工され上記13と組ませて炉の焚口に使用された。火を受け変色した箇所あり。

A区 16号住居跡 (第21図 PL9・120)

位置 4E-13グリッド

形状 東西5.48m、南北4.91m。隅丸方形を呈する。

面積 26.96㎡

方位 N-28°-E

床面 遺構確認面より12cm掘り込んで床面になる。

床面は黒褐色土と灰黄褐色土の混合した土である。

残りの状態が良くなく、ほとんど掘り方に近い。

ピット ピット1は径41cm、深さ13cm。ピット2は

径28cm、深さ14cm。ピット3は径32cm、深さ15cm。

ピット4は径43cm、深さ24cm。ピット5は径48cm、

深さ12cm。ピット6は径47cm、深さ11cm。ピット7

は径43cm、深さ20cm。ピット8は径44cm、深さ6cm。

ピット9は径54cm、深さ12cm。ピット10は径35cm、

深さ12cm。覆土は黒褐色土と地山の灰黄褐色土の混

入した土であった。位置、径、深さを考えると柱穴

として断定できるものがなく、ピットとして掲載す

ることとした。

炉 住居の北壁東寄りに焼土粒が集中して出土して

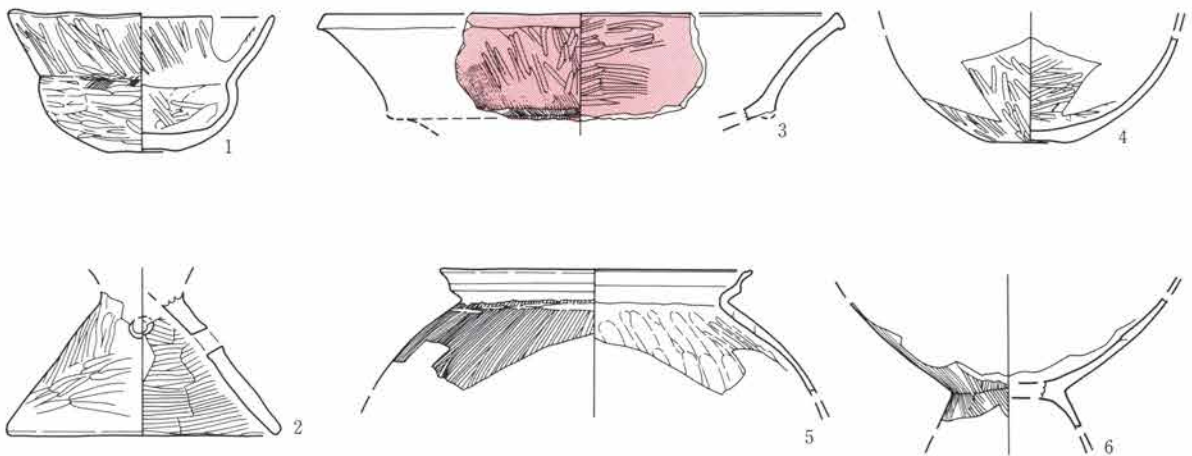
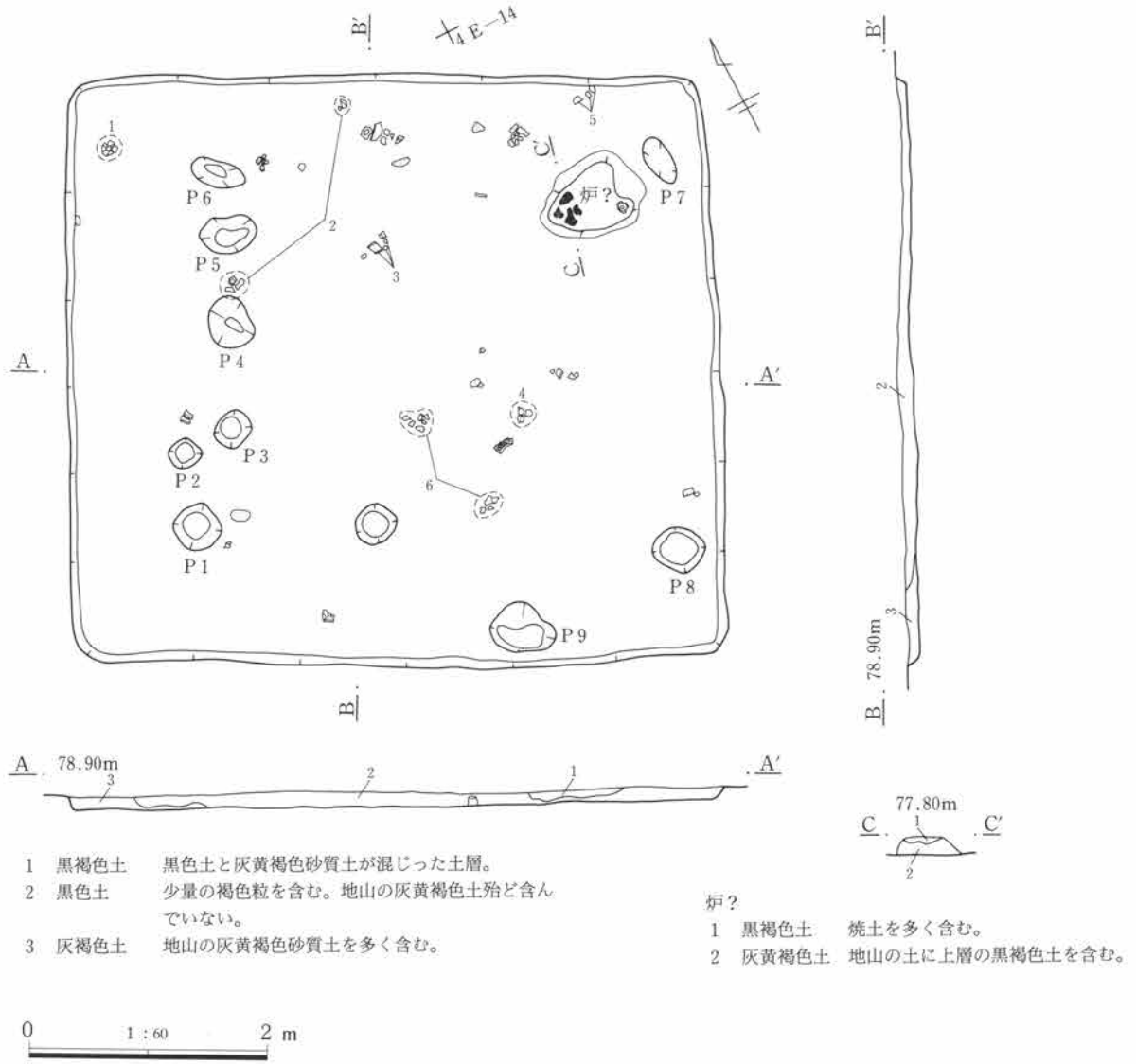
いるところを確認したが、覆土に炭や焼土が混入せ

ず、炉として断定できなかった。

遺物 土師器埴、高環、壺、台付甕が出土している。



第3章 検出された遺構と遺物



第21図 A区16号住居跡掘り方、出土遺物

1. 古墳時代の遺構と遺物

A区 16号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	土師器 埴	ほぼ完形 口径10.5 器高 5.4 底径 2.4(窪み底)	床直	①輝石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反し端部でやや内湾する口縁。椀状の胴部。底部は小さい。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。胴部は篋削り後篋磨き。底部は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ後篋磨き。胴部はナデ後篋磨き。
2	土師器 高坏	脚部1/4 口径— 器高(5.7) 底径10.9	床直	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	断面が三角形に近い脚部。円孔4あり。 外面 篋磨き。 内面 ハケメ。
3	土師器 壺	口縁部片 口径(27.4) 器高(5.7) 底径—	+ 8	①1~2mmの石 輝石 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄橙色	やや外湾する口縁。端部は面をもつ。 外面 赤色塗彩。端部は横ナデ。以下は篋磨き。頸部にハケメ。 内面 赤色塗彩。ハケメ後篋磨き。
4	土師器 壺	胴下部~底部片 口径— 器高(5.7) 底径(4.3)	+5.5	①輝石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	球形の胴部。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。
5	土師器 台付甕	口縁部片 口径(16.6) 器高(6.5) 底径—	床直	①輝石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反するS字状口縁。端部に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。頸部に幾筋かの篋磨き痕あり。 内面 口縁は横ナデ。以下は指ナデ。
6	土師器 台付甕	底部片 口径— 器高(7.7) 底径—	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	台部からくの字状に立ち上がる胴部。 外面 ハケメ。

A区 17号住居跡 (第22~29図 PL10~12・120~125)

位置 3T-15グリッド

形状 東西5.36m、南北5.14m。隅丸方形を呈する。  
また、幅34cm・深さ7cmの周溝が周囲を巡っている。

面積 26.93m<sup>2</sup>

方位 N-25°-W

覆土 住居覆土の上方で住居のほぼ中央部に黄橙色のHr-FAが2~4cmの厚さをもって検出された。Hr-FA層の下層は住居覆土であるAs-C軽石粒の混入した黒色土であった。Hr-FA層は本住居埋没後に堆積したものと思われる。

床面 遺構確認面より34cm掘り込んで床面になる。床面の高さは78.00mを測る。床面の土は黒褐色土と地山の明黄褐色土の混入したものである。北壁付近の床下からは灰褐色の粘質土が検出された。柱穴の覆土からも同様な粘質土がでてくる。

柱穴 柱穴1は径33cm、深さ42cm。柱穴2は径36cm、深さ38cm。柱穴3は径48cm、深さ41cm。柱穴4は径30cm、深さ35cm。粘性の強い灰褐色土を主な覆土としている。柱穴を裁ち割ったところ柱材の痕跡と思われる中空の状態がでてきた。

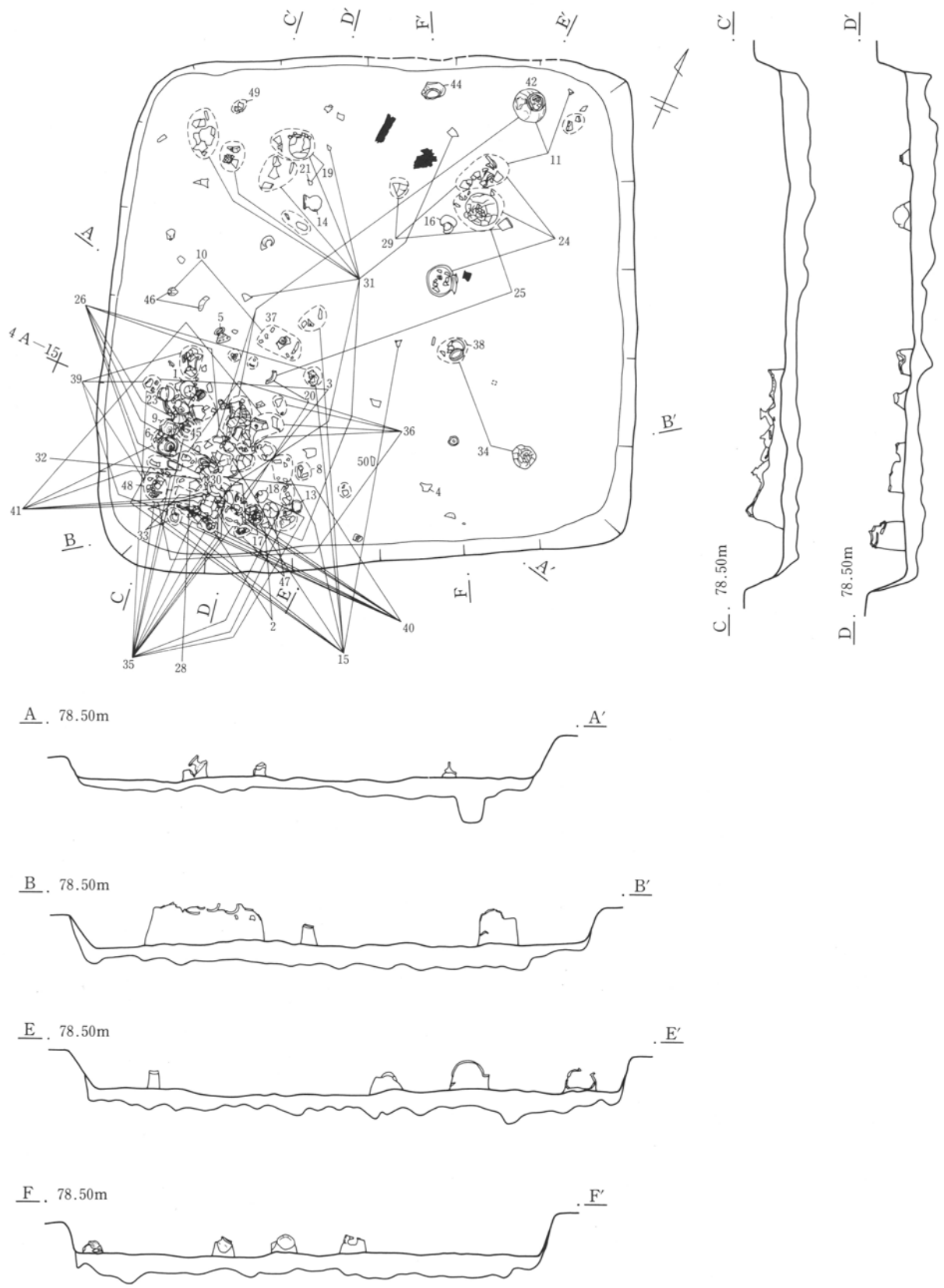
ピット 南壁付近で検出された。径35cm、深さ33cm

で覆土は軽石粒を含む黒色土と地山の明黄褐色土の混入したものである。

貯蔵穴 住居の南東端で検出。長径85cm・短径61cm、深さ40cmで覆土は軽石粒を含む黒色土と地山の明黄褐色土の混入したものである。

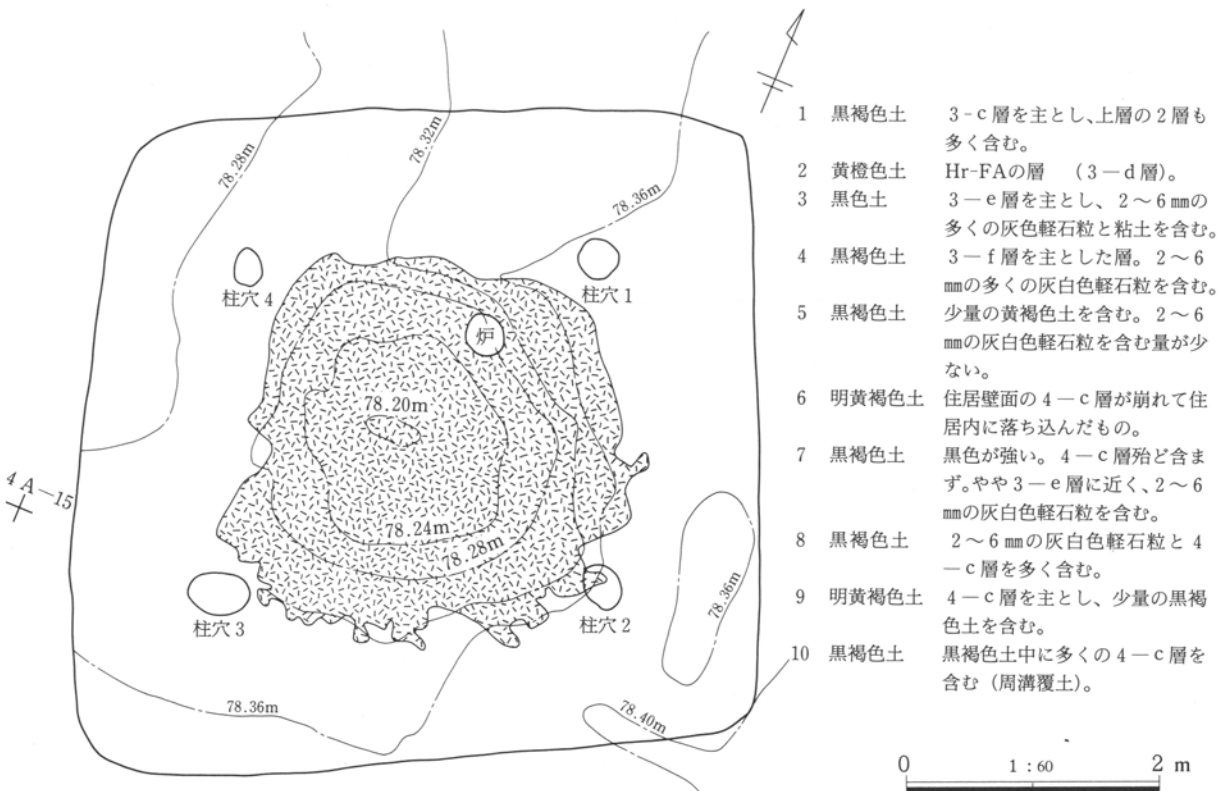
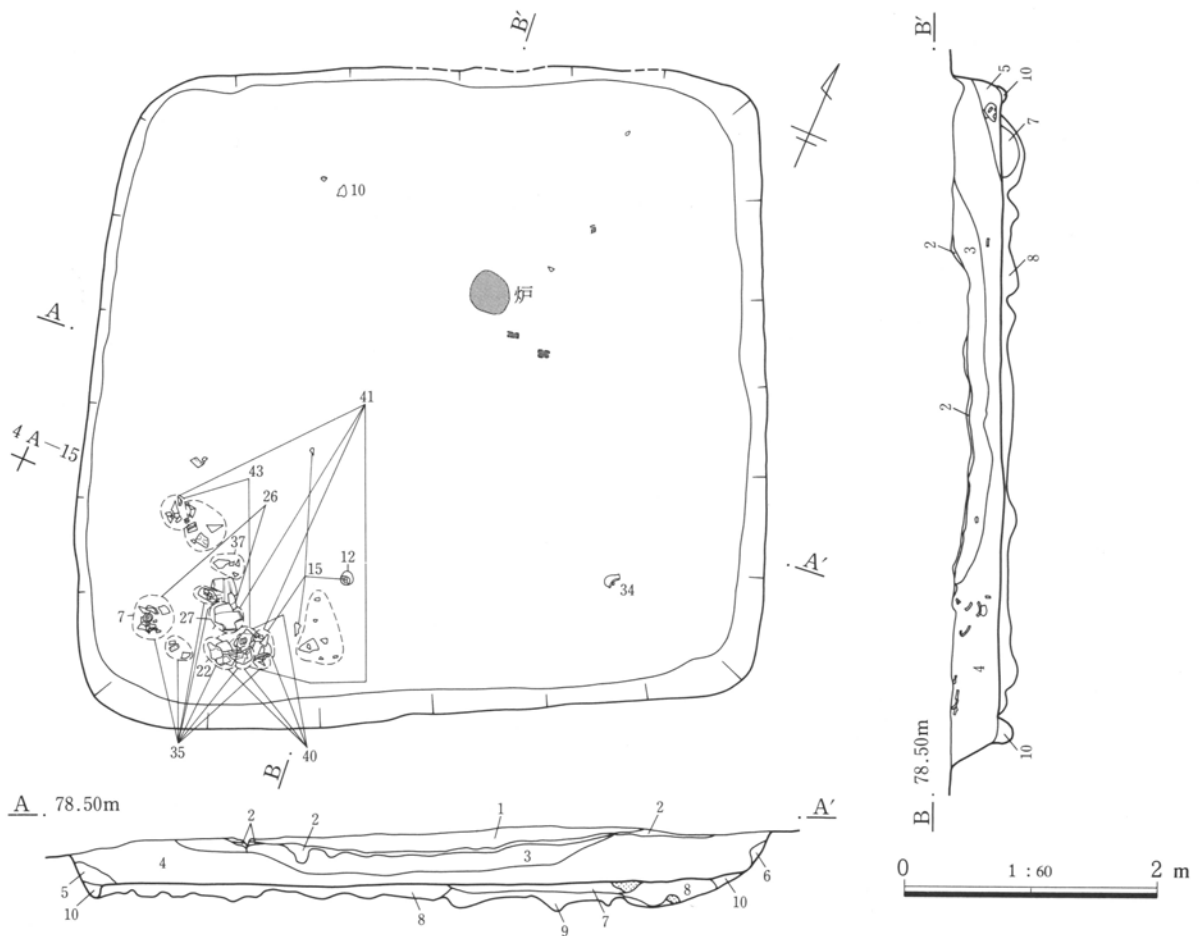
炉 住居の北壁東寄りのところに焼土粒が集中して出土している箇所を確認した。周囲には炭や炭化材も出土している。

遺物 住居の南西部からは数多くの遺物が積み重なるように出土した。これらの遺物は住居中央部ほど床面に近い位置から、南西壁に近づくにつれて床面よりずいぶん高い位置から検出された。住居の南西部より投げ込まれたのではないかと考える。器種も器台、高坏、埴、壺、甗、甕類などバラエティーに富んでいる。完形やほぼ完形のものも目立つ。

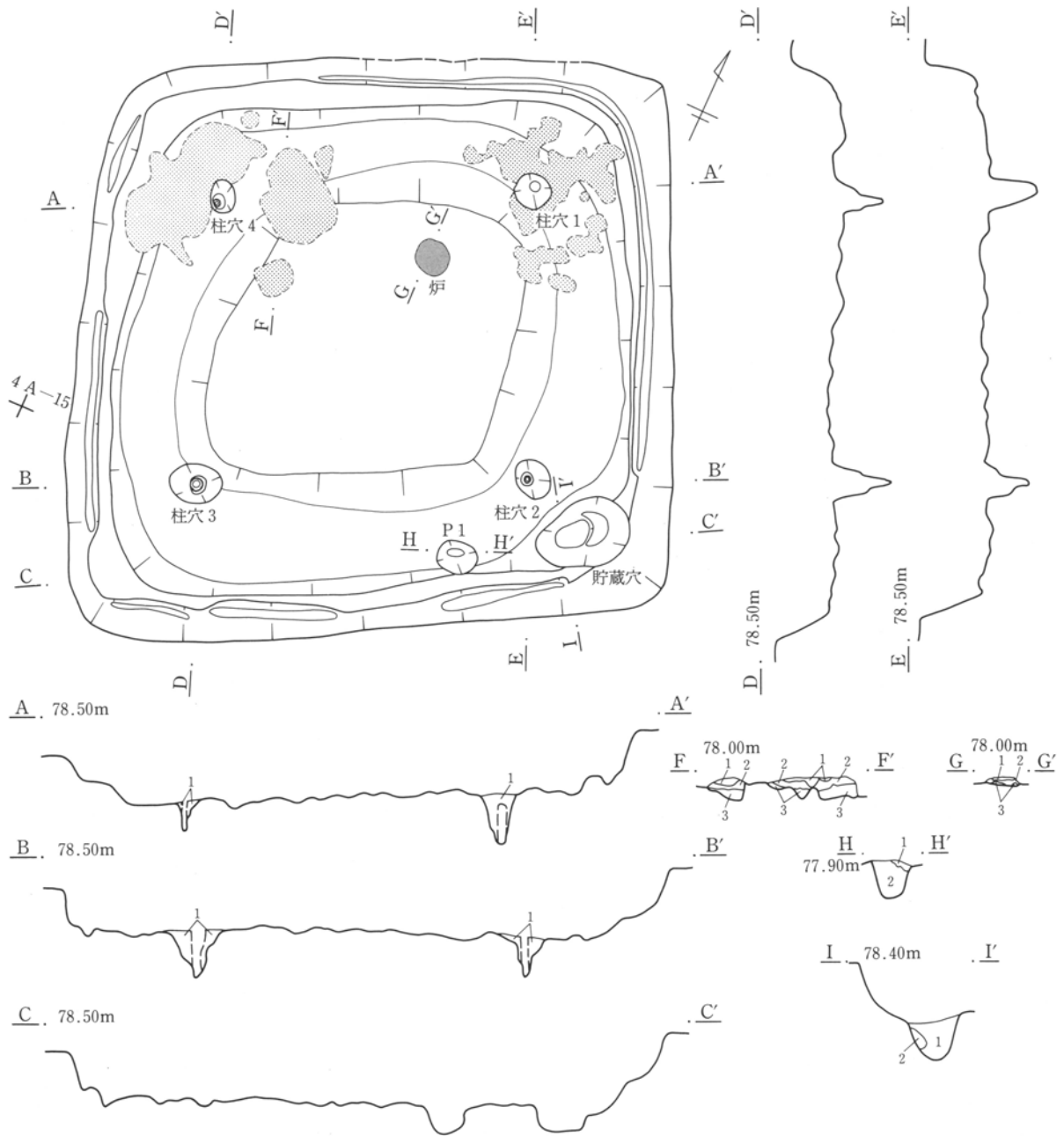


第22図 A区17号住居跡(1)

1. 古墳時代の遺構と遺物



第23図 A区17号住居跡(2)、FA範囲



柱穴  
1 灰褐色土 5-a層を主とし、少量の灰褐色砂質土を含む。

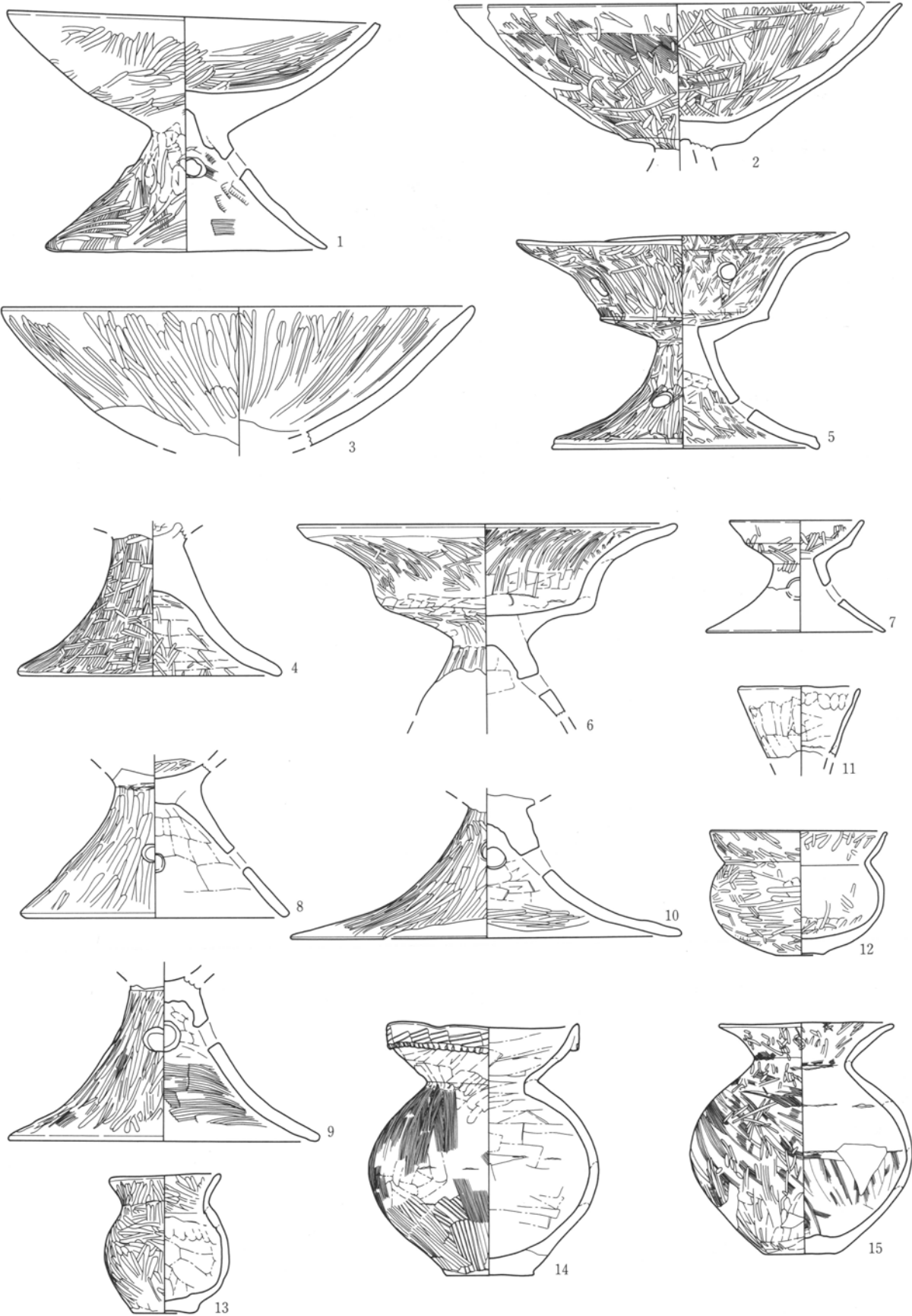
炉  
1 赤色土 焼土を主としている層。  
2 黒褐色土 黒色の強い層。やや3-e層に近い。少量の4-c層を含む。  
3 明黄褐色土 4-c層を主とした層。

貯蔵穴  
1 黒褐色土 3-e層の黒色土と4-c層の明黄褐色土の混入したような層。1~5mmの砂粒を多く含む。  
2 黒褐色土 地山の4-c層を多く含む層。

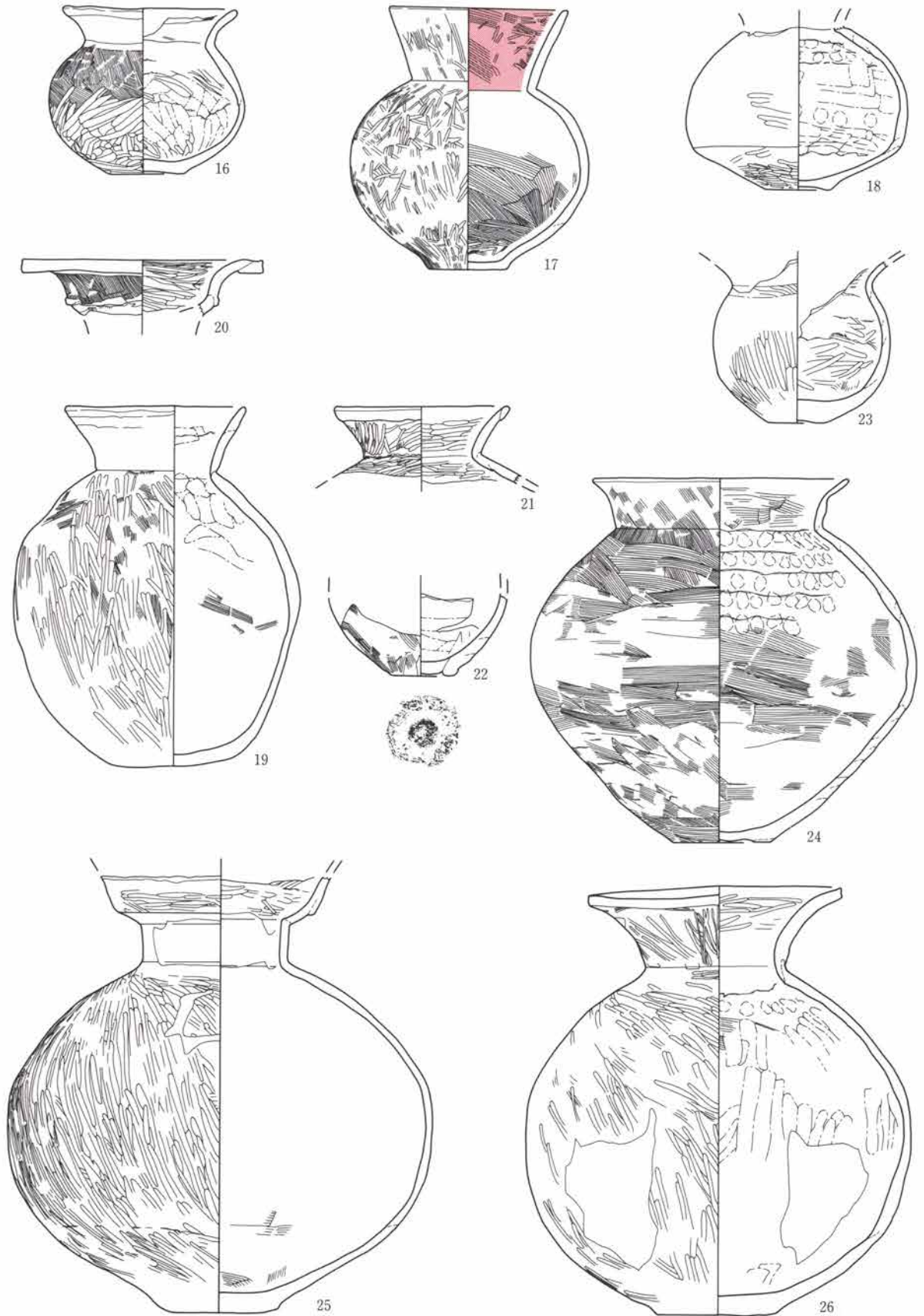
粘土  
1 灰褐色土 5-a層を主とした層。柱穴等を扱った時に、掘り上げる床面に残されたと思われる層。  
2 灰黄褐色土 4-d層を主とした層。砂質。少量の黒褐色土を含む。  
3 黒褐色土 黒褐色土を主とし、少量の灰黄褐色土(4-d層)を含む。

Pit  
1 黒褐色土 黒色土を多く、少量の砂質の灰黄褐色土(4-d層)を含む。  
2 黒褐色土 少量の黒色土と多くの砂質の灰黄褐色土(4-d層)を含む。

第24図 A区17号住居跡掘り方

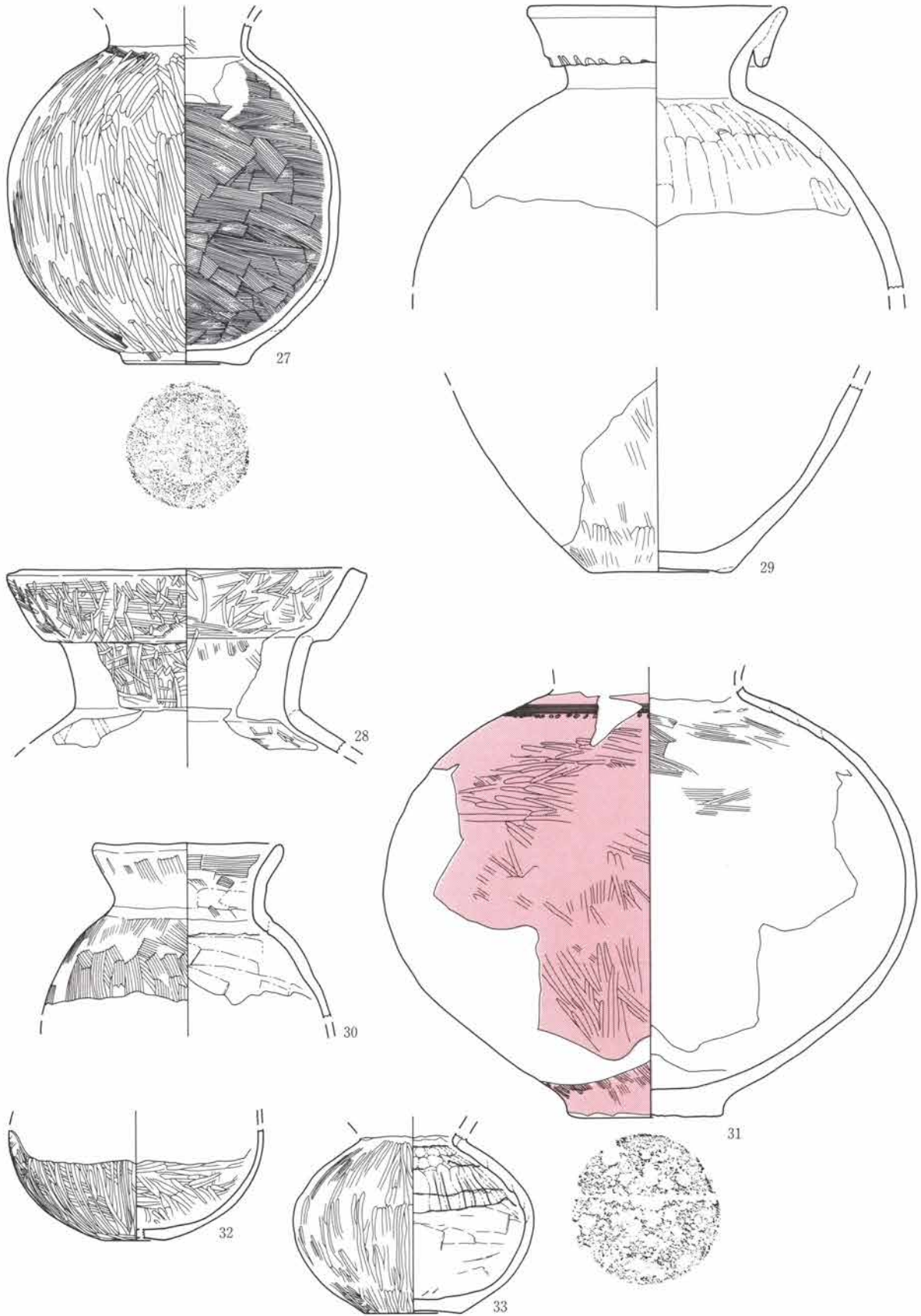


第25図 A区17号住居跡出土遺物(1)

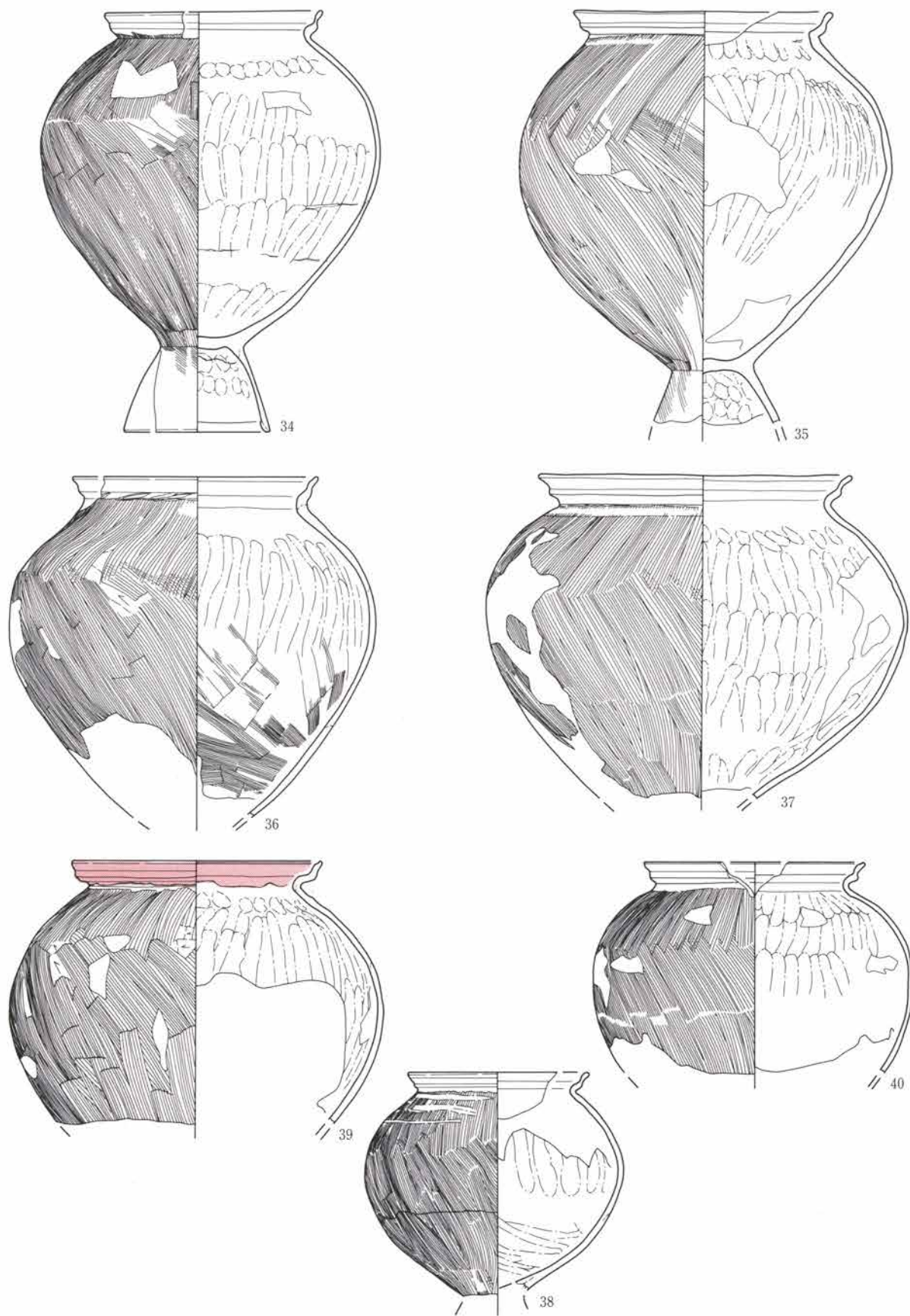


第26図 A区17号住居跡出土遺物(2)

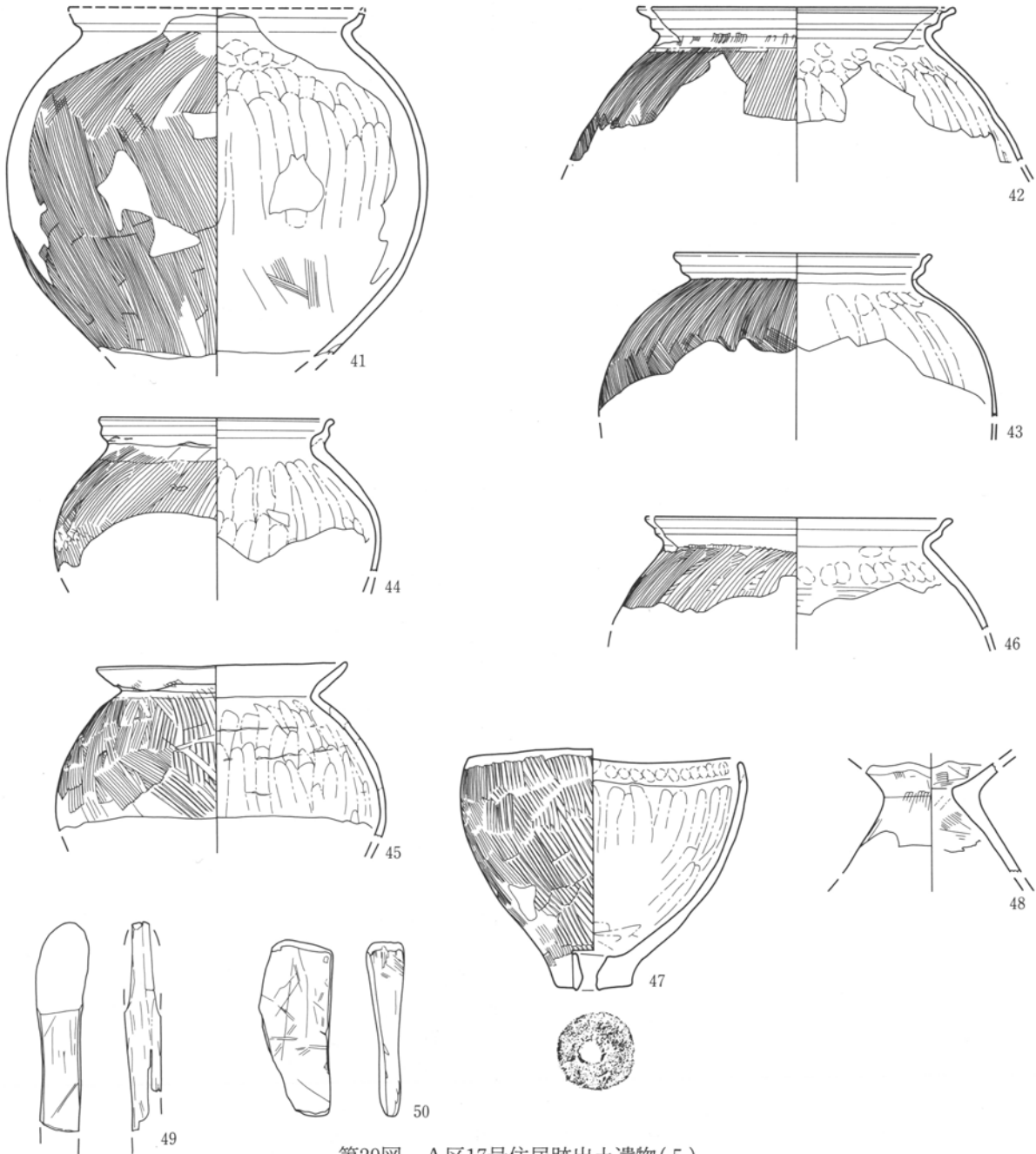




第27図 A区17号住居跡出土遺物(3)



第28図 A区17号住居跡出土遺物(4)



第29図 A区17号住居跡出土遺物(5)

A区 17号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	完形 口径19.6 器高12.5 底径14.8	+10	①角閃石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	深皿状の坏部。口縁端部は短く内湾する。ラップ状に開き裾部で外湾する脚部。円孔4あり。 外面 坏部口縁は横ナデ。以下坏部は篋磨き。脚部上半は篋削り後篋磨き。下半はハケメ後篋磨き。 内面 坏部口縁は横ナデ。以下坏部は篋磨き。脚部はハケメ後横ナデ。
2	土師器 高坏	坏部 1/2 口径 23.2 器高 (7.6)底径 -	+29	①細砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	坏底部に稜をもち外反する坏部。口縁はやや内湾する。 外面 口縁はハケメ後横ナデ後篋磨き。以下ハケメ後篋磨き。 内面 口縁はハケメ後横ナデ後篋磨き。以下ハケメ後篋磨き。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
3	土師器 高坏	坏部 2/3 口径24.9 器高(7.2) 底径—	+14	①2~3mmの石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反する坏部。口縁はやや内湾する。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ後笥磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下ハケメ後笥磨き。
4	土師器 高坏	脚部 口径— 器高(8.0) 底径(13.5)	床直	①粗砂 石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	ラッパ状に開き、裾部で更に外反する。 外面 笥磨き。裾部は横ナデ後笥磨き。 内面 笥磨き。裾部は横ナデ後笥磨き。
5	土師器 高坏	完形 口径17.2 器高11.0 底径13.8	床直	①細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	坏底部に稜をもち外反し、口縁部で更に水平近く外反する坏部。 坏部に円孔5あり。裾野を広げたような脚部。円孔3あり。 外面 口縁は横ナデ。坏部上半は笥削り後笥磨き。下半は横ナデ。 脚部は笥削り後笥磨き。裾部は横ナデ。 内面 坏部は笥磨き。脚部は笥削り後笥磨き。裾部はハケメ後横 ナデ後笥磨き。
6	土師器 高坏	口~脚部上半 口径20.0 器高10.0 底径—	+21	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	坏底部に稜をもち外反し、口縁部で更に水平近く外反する坏部。 やや内湾気味の脚部。円孔あり。 外面 口縁は横ナデ。坏部上半は横ナデ後笥磨き。以下は笥削り 後笥磨き。 内面 口縁は横ナデ。坏部は笥削り後笥磨き。脚部はナデ。
7	土師器 器台	器受~脚部 1/3 口径(6.8) 器高5.8 底径(9.2)	+28	①赤色細粒 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	脚部から2段階に外反する器受部。脚部に円孔3あり。 外面 笥磨き。 内面 笥磨き。
8	土師器 高坏	脚部 3/4 口径— 器高(8.0) 底径13.6	+16	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	ラッパ状に開く脚部。裾端部に面をもつ。脚部に円孔4あり。 外面 笥磨き。裾部は横ナデ。 内面 坏底部は笥磨き。脚部は笥ナデ。裾部は横ナデ。
9	土師器 高坏	脚部 口径— 器高(9.3) 底径16.0	+19	①細砂 角閃石 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	裾野を広げたように開く脚部。裾部に面をもつ。脚部に円孔4あり。 外面 ハケメ後笥磨き。裾部は横ナデ。 内面 脚部上半は笥削り。下半はハケメ。裾部は横ナデ。
10	土師器 高坏	脚部 2/3 口径— 器高(7.5) 底径20.6	+7	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	裾野を広げたように大きく開く脚部。裾部に面をもつ。脚部に円 孔4あり。 外面 笥磨き。裾部は横ナデ後笥磨き。 内面 脚部上半は笥削り。下半から裾部は横ナデ後笥磨き。
11	土師器 小型壺	口縁 口径8.5 器高(5.0) 底径—	床直	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③黒褐色	外反する口縁端部は丸い。 外面 端部は横ナデ。以下はナデ。 内面 端部は横ナデ。以下上半に指頭痕あり。下半はナデ。
12	土師器 埴	ほぼ完形 口径9.2 器高6.5 底径2.4	+10	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反し、端部がやや内湾する口縁。下膨れの胴部。 外面 口縁は横ナデ後笥磨き。胴部は笥削り後笥磨き。底部は笥 磨き。 内面 口縁は横ナデ後笥磨き。胴部は笥削り後笥磨き。
13	土師器 小型壺	口縁 2/3 欠損 口径(7.7) 器高10.0 底径 4.5	+20	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部からゆるやかに立ち上がる口縁。肩が張らず底部へ続く胴部。 外面 口縁は横ナデ後笥磨き。胴部は笥削り後笥磨き。底部はナ デ後笥磨き。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。胴部はナデ後笥磨き。
14	土師器 壺	ほぼ完形 口径13.4 器高17.3 底径 6.2	床直	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	大きく外反し、端部でやや内湾する折り返し口縁。折り返した部 分に刺突文をもつ。球形の胴部。 外面 口縁端部に粗いハケメ痕あり。頸部は笥削り。胴部上半は 細いハケメ。下半から粗いハケメ。 内面 笥ナデ。
15	土師器 小型壺	ほぼ完形 口径12.1 器高16.2 底径 4.8	床直	①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部からくの字に大きく屈曲する口縁。肩が張らない胴部。 外面 口縁はハケメ後横ナデ後笥磨き。胴部上半はハケメ後笥磨 き。下半は笥削り後笥磨き。 内面 口縁はハケメ後横ナデ後笥磨き。胴部はハケメ。
16	土師器 小型壺	口縁 1/2 欠損 口径12.2 器高11.6 底径 5.0	床直	①角閃石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	外反する口縁端部は丸い。球形の胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部上半はハケメ。下半は笥磨き。底部は ナデ後笥磨き。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。胴部はナデ後笥磨き。
17	土師器 小型壺	口縁 1/3 欠損 口径12.2 器高18.0 底径 5.4	+18	①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直立気味に立ち上がる口縁。球形で底部付近ですぼまる胴部。 外面 口縁端部は横ナデ。以下ハケメ後笥磨き。底部は笥削り後 笥磨き。 内面 口縁は赤色塗彩。ハケメ後笥磨き。



1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
18	土師器 小型壺	胴部 4/5 口径— 器高(11.2) 底径 4.5	+20	①1~2mmの石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	下膨れの胴部。 外面 胴部上半は器面の荒れが著しい。篋磨き。下半は篋削り後篋磨き。 内面 篋ナデ。接合部は篋削り。
19	土師器 壺	口~底 4/5 口径(12.5)器高25.0 丸底に近い	床直	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	外反する口縁、端部は丸い。いびつな胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。ハケメ痕あり。
20	土師器 壺	口縁 1/3 口径(16.6) 器高(3.9) 底径—	+10	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	外反する二重口縁。端部は外面に水平にのびる面をもつ。 外面 端部は横ナデ。以下上半はハケメ。下半は横ナデ。 内面 横ナデ後篋磨き。
21	土師器 壺	口~肩 2/3 口径12.2 器高(5.3) 底径—	床直	①細砂 角閃石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	外反し端部を折り返す口縁。 外面 端部は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。 内面 端部は横ナデ。以下は横ナデ後篋磨き。
22	土師器 壺	胴下部~底部 口径— 器高(5.7) 底径4.5	+30	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	胴部が底部付近ですぼまる。 外面 胴部はハケメ。底部は無調整。 内面 ナデ。
23	土師器 小型壺	頸~底部 2/3 口径— 器高(11.3) 底径 4.1	+18	①2~4mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	大きく外反する口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁から頸部は横ナデ後篋磨き。胴部は器面が荒れているが篋磨き。底部も篋磨き。 内面 ハケメ後篋磨き。
24	土師器 壺	ほぼ完形 口径17.8 器高25.1 底径 6.6	床直	①粗砂 角閃石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	頸部から直上気味に立ち上がり端部付近で短く外反する口縁。中央部で最大径をもち、すぼまる胴部。底部はドーナツ状あげ底になっている。 外面 口縁はハケメ後横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。胴部上半に指頭痕。以下はハケメ。
25	土師器 壺	口縁 1/3~底部 口径— 器高(30.0) 底径 7.5	床直	①2~3mmの石 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部が直立気味に立ち上がり、外反し端部が折り返す複合口縁。球形の胴部。 外面 ハケメ後篋磨き。底部は篋削り。 内面 口縁はハケメ後篋磨き。胴下部はハケメ。
26	土師器 壺	口~底部 2/3 口径17.4 器高29.6 底径 8.3	+8	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	大きく外反する口縁。端部外側に面をもつ。ほぼ球形の胴部。 外面 口縁端部は横ナデ。以下ハケメ後篋磨き。底部は無調整。 内面 口縁端部は横ナデ。以下口縁部は篋磨き。胴部はハケメ後指ナデ。底部は篋ナデ。
27	土師器 壺	頸~底部 2/3 口径— 器高(23.2) 底径8.0	床直	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	直立気味の頸部。球形の胴部。 外面 ハケメ後篋磨き。底部に木葉痕あり。 内面 頸部は篋磨き。以下はハケメ。
28	土師器 壺	口~肩 1/3 口径(23.0) 器高(12.6) 底径—	+8	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	直立気味に立ち上がる頸部。外反し上側に面をもつ複合口縁。 外面 口縁部はハケメ後横ナデ後篋磨き。頸部はハケメ後篋磨き。肩部はナデ。 内面 口縁部はハケメ後横ナデ後篋磨き。頸部はハケメ後篋磨き。
29	土師器 壺	口~肩 1/3、胴下部 1/4~底部 口径(17.4) 器高— 底径 9.9	+6	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直立する頸部。外反し大きく折り返す口縁。球形で下部ですぼまる胴部。 外面 口縁端部に刺突文あり。胴部は篋磨き。底部は篋削り。 内面 胴部は上半はナデ。下部は器面が荒れている。
30	土師器 壺	口~胴上位 口径 13.0 器高(12.0) 底径—	+8	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	直立する頸部。短く外反する口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁~頸部はハケメ後横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁~頸部はハケメ後横ナデ。胴部は篋ナデ。
31	土師器 壺	頸~底 1/4 口径— 器高(29.1) 底径 10.0	床直	①1~3mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	肩が張り、胴部中程に最大径をもつ。底部に向かって急にすぼまる。 外面 頸部に12本の横線文。その下部に列点状刺突文あり。頸~胴部は赤彩。胴下半は荒れが目立つ。ハケメ後篋磨き。底部に木葉痕。 内面 ハケメ。
32	土師器 小型壺	胴下部~底部 1/2 口径— 器高(7.6) 底径(4.0)	+24	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③明黄褐色	球形の胴部。 外面 胴部はハケメ後篋磨き。底部は篋磨き。 内面 篋磨き。
33	土師器 小型壺	頸~底部 2/3 口径— 器高(12.3) 底径6.7	+16	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③明黄褐色	球形の胴部。 外面 胴部は篋削り後篋磨き。底部は篋磨き。 内面 胴部上半は篋押さえ後指ナデ。下半は篋ナデ。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存 法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調 (石 材)	器形・整形・文様の特徴
34	土師器 台付甕	台部1/2欠損 口径 15.2 器高 29.3 底径(10.1)	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	外反するS字状口縁。端部は丸い。やや肩の張る胴部。台部は折り返す。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。台部は指頭痕あり。
35	土師器 台付甕	口～台部 口径 17.5 器高(29.5) 底径—	床直	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	外反するS字状口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。台部接合部に粗い砂目立つ。台部は指頭痕あり。
36	土師器 台付甕	底～台部欠損 口径 17.0 器高(23.7) 底径—	+9	①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	一段目が長く外反するS字状口縁。端部は内側に面をもつ。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部上半は指ナデ。下半はハケメ。
37	土師器 台付甕	口～胴下部2/3 口径(22.0) 器高(22.6) 底径—	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反するS字状口縁。端部は内側に面をもつ。やや肩の張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁～頸部は横ナデ。胴部は指ナデ。
38	土師器 台付甕	口～胴下部 口径 12.6 器高(15.2) 底径—	床直	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	上段、中段が連続して外反するようなS字状口縁。やや肩の張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部上半は指ナデ。下半はナデ。
39	土師器 台付甕	口～胴部1/2 口径 17.5 器高(18.4) 底径—	+7	①1～3mmの石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	受け口状のS字状口縁。口縁内外面ともに赤色顔料と粘土の混合したもので塗り付けたような赤色塗彩。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
40	土師器 台付甕	口～胴中位1/2 口径 15.3 器高(14.8) 底径—	+11	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反するS字状口縁。端部内側に面をもつ。やや肩の張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
41	土師器 台付甕	口～胴部1/2 口径(17.9) 器高(21.2)底径—	床直	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	上段が直立気味のS字状口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部上半は指ナデ。下半はハケメ。
42	土師器 台付甕	口～肩1/3 口径(19.6) 器高(9.4) 底径—	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③オリーブ黒色	大きく外反するS字状口縁。端部内側にしっかりした面をもつ。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
43	土師器 台付甕	口～肩1/3 口径 15.6 器高(10.0) 底径—	+12	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	薄手で外反するS字状口縁。やや肩の張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部はナデ。
44	土師器 台付甕	口～肩 口径14.1 器高(9.4) 底径—	床直	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反するS字状口縁。端部は丸い。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
45	土師器 台付甕	口～肩1/3 口径 15.5 器高(10.7) 底径—	+15	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	厚手で頸部からくの字状に立ち上がる口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁はハケメ後横ナデ。胴部はハケメ。部分的にナデ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
46	土師器 台付甕	口～肩 口径(18.8) 器高(6.8) 底径—	+9	①石英 2～3mmの石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	大きく外反するS字状口縁。端部は丸い。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部は粗いハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部は指頭痕。胴部は粗いハケメ。
47	土師器 甕	口～底部2/3 口径16.5 器高14.7 底径 4.5	+25	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	内湾する口縁。底部に向かってすぼまる胴部。 外面 口縁に指紋あり。胴部は粗いハケメ。底部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁に指頭痕あり。胴部はナデ。
48	土師器 台付甕	底～台部1/2 口径— 器高(6.7) 底径—	+29	①角閃石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	断面が三角形に近い台部。 外面 ハケメ。 内面 胴部はハケメ。台部もハケメであるが部分的にナデあり。
49	石製品 砥石	? 長さ(9.4) 幅 2.0 厚さ 1.7 重さ45.0	+21	珪質粘板岩	原型は直方体と思われるが欠損部多く断定出来ない。使用面は4面。うち2面は砥ぎ減り目立つ。
50	石製品 砥石	3/4 長さ7.8 幅 3.2 厚さ1.6 重さ47.0	床直	珪質粘板岩	原型は直方体と思われる。使用面は5面。使用面はいずれも砥ぎ減り目立つ。直線状の擦痕も目立つ。

A区 18号住居跡 (第30~32図 PL13・125)

位置 3Q-15グリッド

重複 本住居の覆土の上面を近世のA区3号溝が掘り込んでいる。

形状 東西6.10m、南北6.18m。隅丸方形を呈する。

面積 34.25m<sup>2</sup>

方位 N-24°-W

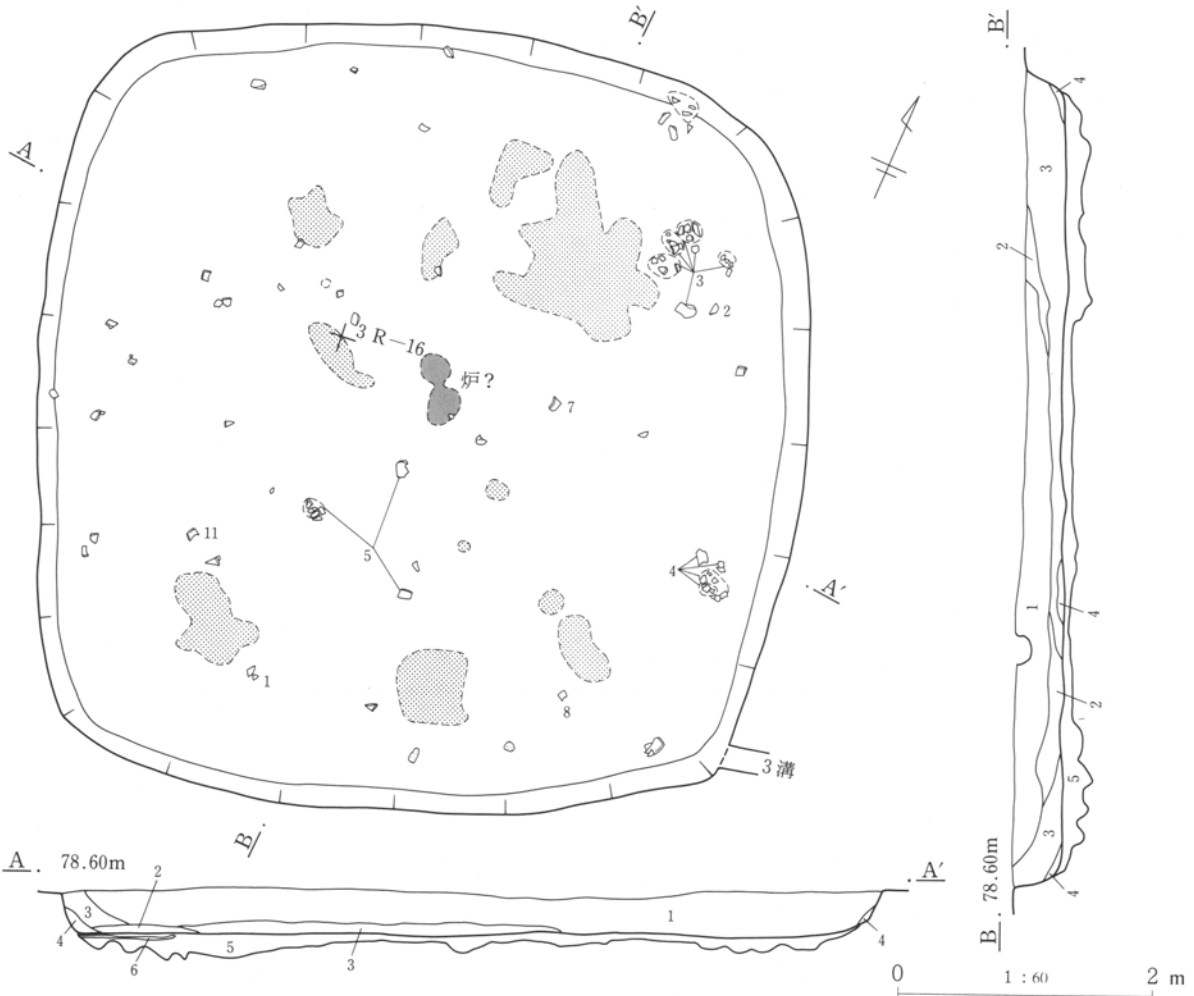
床面 遺構確認面より35cm掘り込んで床面になる。床面は軽石粒を含む黒色土に砂質の灰黄褐色土や粘性のある黄褐色土が混入した土である。また、床面全域にわたり粘質土が集中している箇所が検出された。さらに、風倒木の上に本住居が造られているた

めに性格不明のピットや掘り込みも床下から検出された。床高は78.12mを測る。

柱穴 柱穴1は径85cm、深さ40cm。柱穴2は径64cm、深さ46cm。柱穴3は径57cm、深さ41cm。柱穴4は径39cm、深さ24cm。覆土は軽石粒の含まれた黒色土と砂質の灰黄褐色土の混入した土であった。

炉 住居のほぼ中央部に焼土が検出された。裁ち割ってその断面をみたが、焼土の層が薄く堆積していた。位置や焼土の層から炉として断定できなかった。

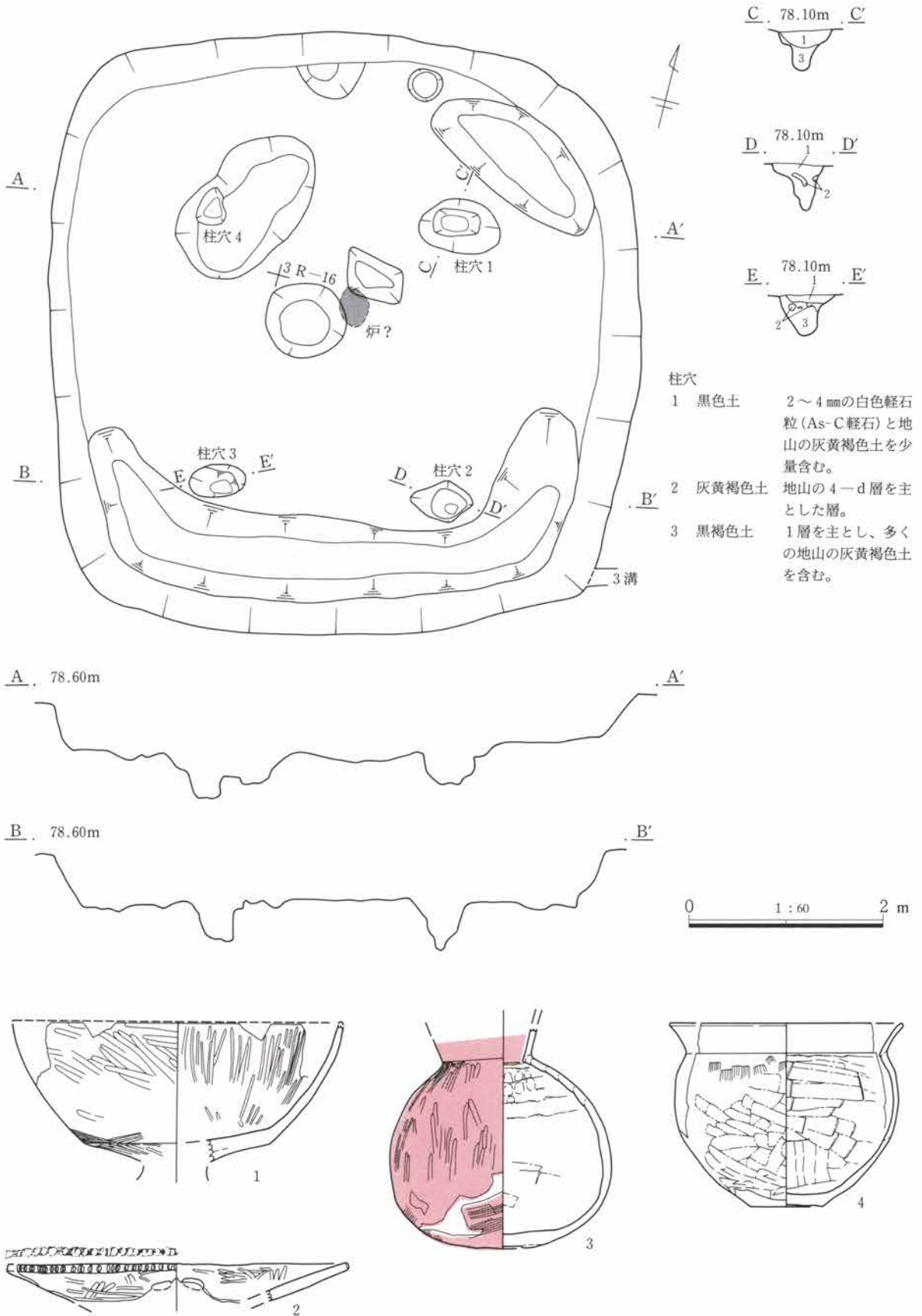
遺物 土師器器台、高坏、壺類、甕類が出土している。



- |        |  |         |   |
|--------|--|---------|---|
| 1 黒色土  | 2~3mmの白色軽石粒 (As-C軽石) を多量に含む。全体に粗い土層。   | 4 黒褐色土  | 地山の黄褐色土を多く含む。As-C軽石粒を含まず、全体に密な土層。                   |
| 2 黒褐色土 | 黒色土中に地山の黄褐色砂質土を多く混入した層。As-C軽石粒を全く含まない。 | 5 黒色土   | 2~4mmの白色軽石粒 (As-C軽石) と地山の灰黄褐色砂質土を少量含む (床として使用している)。 |
| 3 黒褐色土 | 1層に近いが、白色軽石粒を含む量が少なくやや明るい黒褐色土を含む。      | 6 灰黄褐色土 | 4-d層を主とした層。   |

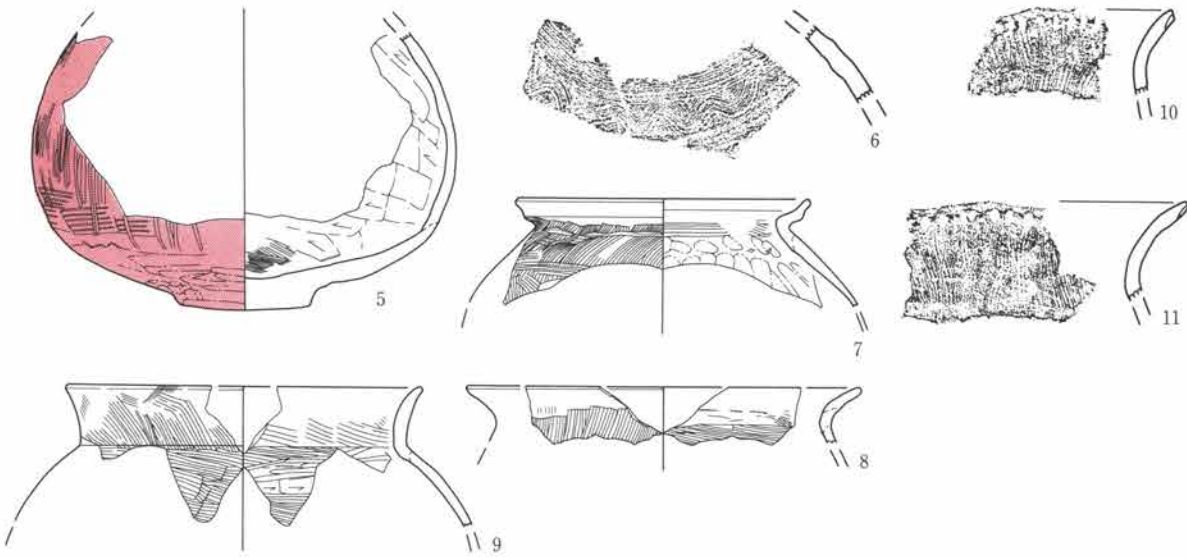
第30図 A区18号住居跡





第31図 A区18号住居跡掘り方、出土遺物(1)

1. 古墳時代の遺構と遺物



第32図 A区18号住居跡出土遺物(2)

A区 18号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部 1/4 口径— 器高(7.0) 底径—	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	坏底部に稜をもち、やや内湾する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ後篔磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下縦篔磨き。
2	土師器 器台	口縁部片 口径(17.5) 器高(2.0) 底径—	+7	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	水平近く外反する口縁。外側に面をもち、刺突が刻まれている。 円孔あり。 外面 篔磨き。 内面 横ナデ後篔磨き。
3	土師器 壺	口縁下半～底部 口径— 器高(15.0) 底径4.3	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直上気味に立ち上がる口縁。球形の胴部。 外面 全体に赤色塗彩。胴部はハケメ後篔磨き。 内面 口縁は赤色塗彩。肩部に指頭痕。胴部下半は篔削り。
4	土師器 小型甕	1/3 口径(16.0) 器高 12.6 底径 5.0	+7	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	頸部からくの字に立ち上がる口縁。肩部に最大径をもち、底部に近づくにつれてすぼまる胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部上半はハケメ後ナデ、下半は篔削り。 内面 口縁は横ナデ。胴部上半は篔ナデ、下半はナデ。
5	土師器 壺	胴中部～底部 2/3 口径— 器高(14.5) 底径 7.0	+9	①2～3mmの石 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい橙色	下膨れの胴部。 外面 全体に赤色塗彩。胴部上部は粗いハケメ後篔磨き。下部はナデ。底部は篔削り後篔磨き。 内面 胴部は篔削り。底部はハケメ。
6	土師器 壺	肩部片 口径— 器高— 底径—	覆土	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	球形の胴部。 外面 横線文の間に波状文に近いコンパス文あり。
7	土師器 甕	口縁肩部 口径(21.0) 器高(3.0) 底径—	床直	①軽石 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	大きく外反する厚手の口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。肩部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。肩部はハケメ。
8	土師器 台付壺	口縁部 1/4 口径(15.6) 器高(5.7) 底径—	+17	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	外反するS字状口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。胴部は縦ハケメ後横ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ、一部指頭痕あり。以下指ナデ。
9	土師器 甕	口縁肩部 口径(18.8) 器高(7.3) 底径—	覆土	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄色	直立気味に立ち上がる口縁。端部は丸い。 外面 口縁はハケメ後横ナデ。肩部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後篔削り後粗い篔磨き。以下はハケメ。
10	土師器 壺	口縁部片 口径— 器高— 底径—	覆土	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直立気味に立ち上がる口縁。端部に刺突痕あり。 外面 ハケメ。 内面 横ナデ。
11	土師器 壺	口縁部片 口径— 器高— 底径—	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字に立ち上がる口縁。端部に刺突痕あり。 外面 ハケメ。 内面 ハケメ後横ナデ。

第3章 検出された遺構と遺物

A区 22号住居跡 (第33・34図 PL14・126)

位置 3N-18グリッド

重複 本住居の西側部分を南北方向に近世のA区8号溝、奈良・平安時代のA区7号溝が掘り込んでいる。さらに、住居覆土の上面を中近世のA区13号、14号溝が東西方向に掘り込んでいる。

形状 本住居の北側部分は住民の生活道路のため発掘調査することができなかった。また、上記のように多くの溝に掘り込まれているため、本住居全体の正確な形状を把握することは難しかったが、調査できた箇所や同時期の本遺跡の住居跡から推し量って隅丸方形になると考える。幅37cm、深さ14cmの周溝が、東壁から南壁にかけて検出された。

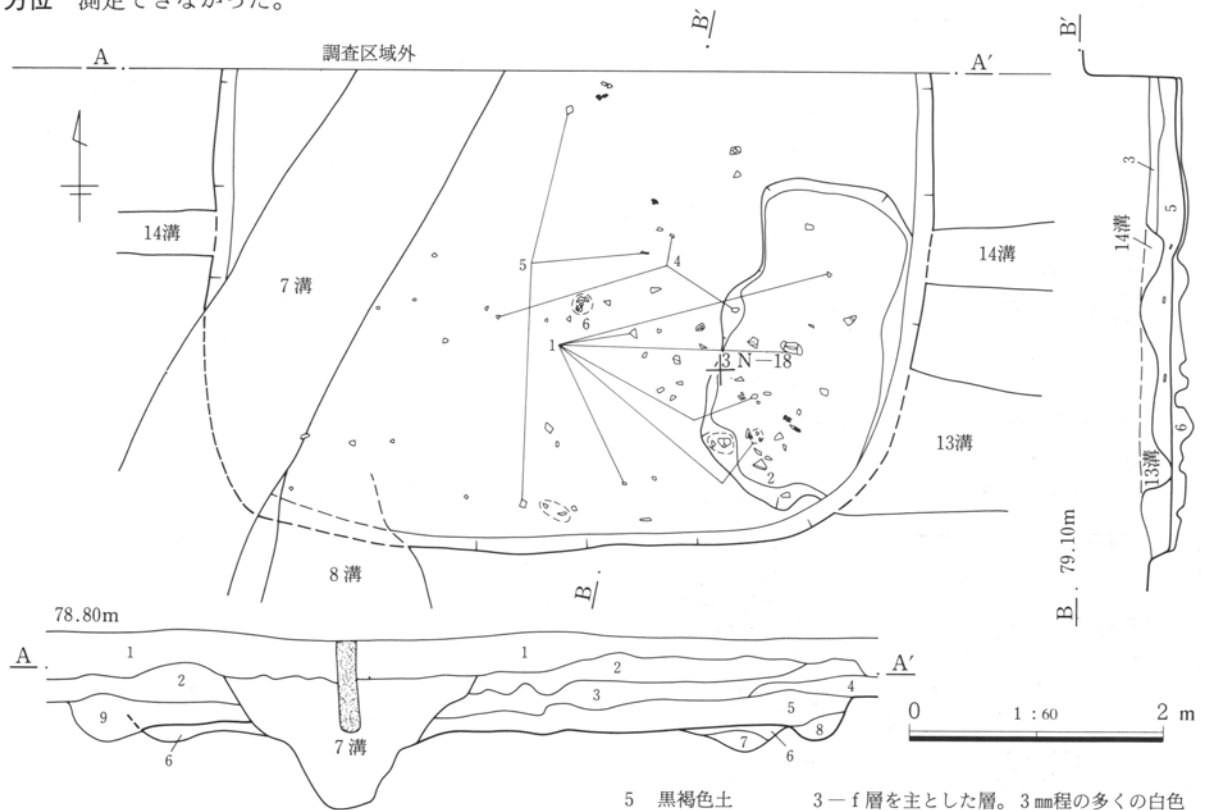
面積 (18.50) m<sup>2</sup>

方位 測定できなかった。

床面 住居上面を多くの溝に掘り込まれているため残りが良くない。残りの良い所で遺構確認面より22cm掘りこんで、床面になる。床面は軽石粒の含まれる黒色土に灰黄褐色土が混入した土である。床高は78.37mを測る。床下からはピットが検出された。  
 ピット 位置や深さから柱穴と判断するのは難しくピットとして記載することにした。ピット1は径61cm、深さ30cm。ピット2は径58cm、深さ31cm。ピット3は径42cm、深さ27cm。覆土は黒色土と地山の灰黄褐色土の混入した土であった。

炉 検出されなかった。

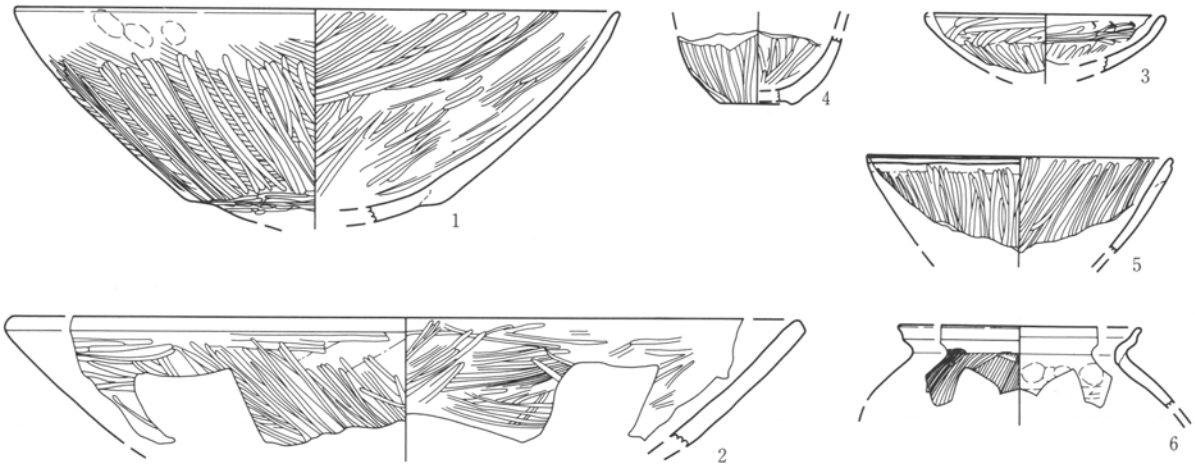
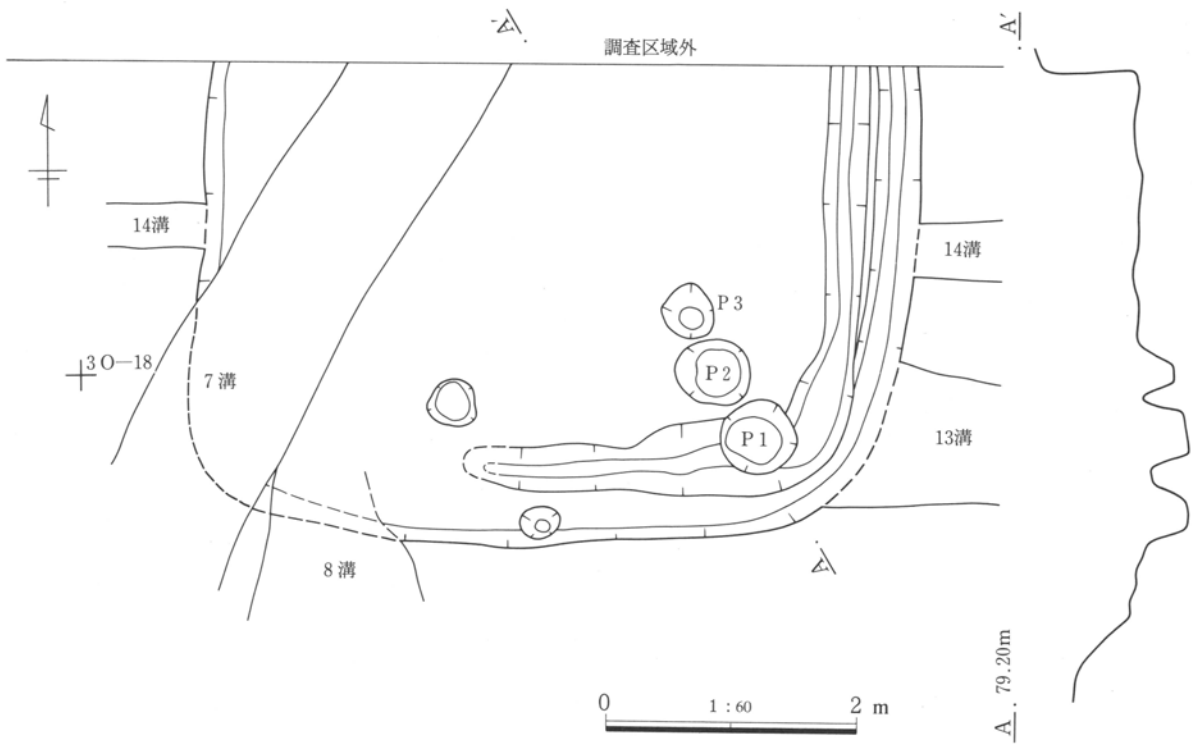
遺物 土師器高坏、壺、S字状口縁台付甕が出土している。



- 1 褐色土 1-a、1-b層。上層が耕作土。下層がやや固い層。
- 2 にぶい黄褐色土 2-a、2-b層が混入しているような層。2mm程の多くの軽石粒を含む。
- 3 黒色土 3-e層を主とした層。3mm程の多くの軽石粒を含む。
- 4 黒褐色土 3-f層を主とした層。多くの褐色の粒子を含む。

- 5 黒褐色土 3-f層を主とした層。3mm程の多くの白色軽石粒を含む。
- 6 黒褐色土 地山の灰黄褐色土(4-d層)を多く含む。(床面)
- 7 黒褐色土 少量の灰黄褐色土を含む。白色軽石粒を殆ど含まず。
- 8 黒褐色土 7層に近い。7層より多くの灰黄褐色土を含む(周溝覆土)。
- 9 にぶい黄褐色土 2層に近い。黒色土は殆ど含まない。

第33図 A区22号住居跡



第34図 A区22号住居跡掘り方、出土遺物

A区 22号住居

番号	器種	残存量 (cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部 1/4 口径(24.0) 器高(8.5) 底径—	床直	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	坏底部に稜をもち、口縁端部でやや内湾する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下篋磨き。
2	土師器 高坏	坏部 1/8 口径(31.2) 器高(5.2) 底径—	床直	①石英 輝石 細砂 ②酸化焰 やや軟質 ③明赤褐色	口縁は外反し、端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下篋磨き。
3	土師器 高坏	坏部片 口径(9.5) 器高(2.2) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄橙色	外反し、端部はやや直立気味に立ち上がる坏部。 外面 篋削り後篋磨き。 内面 篋磨き。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
4	土師器 小型壺	胴下部～底部片 口径— 器高(3.7) 底径(4.0)	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	やや凹底の底部。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。
5	土師器 壺	口縁部 1/3 口径(16.0) 器高(5.0) 底径—	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反する口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。横線文が目立つ。以下は篋磨き。 内面 横ナデ後磨き。
6	土師器 台付甕	口縁部片 口径(12.7) 器高(4.8) 底径—	床直	①粗砂 軽石 角閃石 ②酸化焰 やや軟質 ③明黄褐色	外反するS字状口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部はナデ。

A区 23号住居跡 (第35～37図 PL15～17・126)

位置 4C-9グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区40号、41号住居を掘り込んで造られている。

形状 東西5.43m、南北5.31m。隅丸方形を呈する。

面積 28.12㎡

方位 N-13°-W

覆土 本住居は同時期の住居の覆土上層に見られる軽石混じりの黒色土があまり確認出来ず、本来床面以下の覆土に含まれる地山の明黄褐色土や灰黄褐色土が上層よりブロック状に検出された。さらに、壁面や床面付近より多くの炭化材や焼土が出土している。これらの状況から、本住居は造られた後、黒色土が堆積する前に火災に遭い、周堤帯の土を用いて意図的に埋められた住居と考えられる。

床面 遺構確認面より39cm掘り込んで床面になる。床面は黒色土に明黄褐色土や灰黄褐色土が混入した土である。また床面付近より焼土や炭化材が出土している。検出された炭化材の中には柱材や垂木に使用したと思われるものが認められる。床高は77.64mを測る。特に踏み固められていた箇所は確認できなかった。

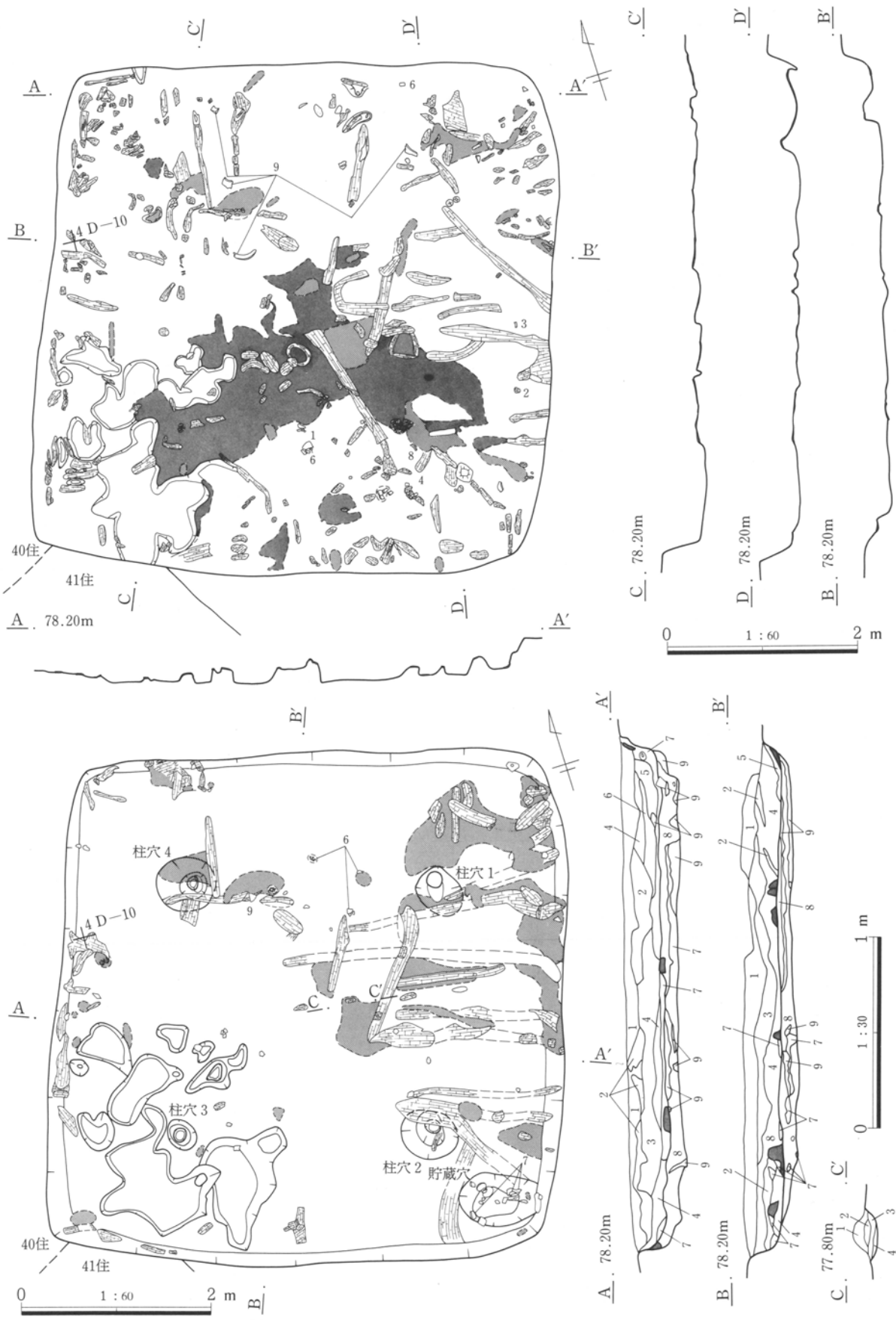
柱穴 柱穴1は径51cm、深さ81cm。柱穴2は径60cm、深さ80cm。柱穴3は径35cm、深さ74cm。柱穴4は径51cm、深さ76cm。どの柱穴も柱材のあとが空洞として残っていた。中にはその空洞部分にどろどろしたものが入っている柱穴もあった。この住居の柱材の形状を調べるため、柱穴の空洞部分に、石膏を流し込み石膏取りをした。それをうまく掘り出し、当時の柱材の形状を確かめた。その結果柱材は丸材では

なく、割材で面取りをしていることが確認できた。柱穴の覆土は黒褐色土と地山の灰黄褐色土の混入した土がまだら状にはいつていた。

貯蔵穴 本住居の南東コーナーに楕円形状の長径89cm・短径53cm、深さ31cmの貯蔵穴が検出された。覆土は炭と黒褐色土と灰黄褐色土の混入したものであった。

炉 炭化材や焼土を取り除いた後、床面の中央から北壁寄りに焼土が集中している箇所が検出された。位置的に炉であると考えられる。裁ち割って断面をみたところ焼土の層と炭の層が重なって堆積している様子が確認された。

遺物 土師器鉢、高坏、小型壺、甕類が出土している。



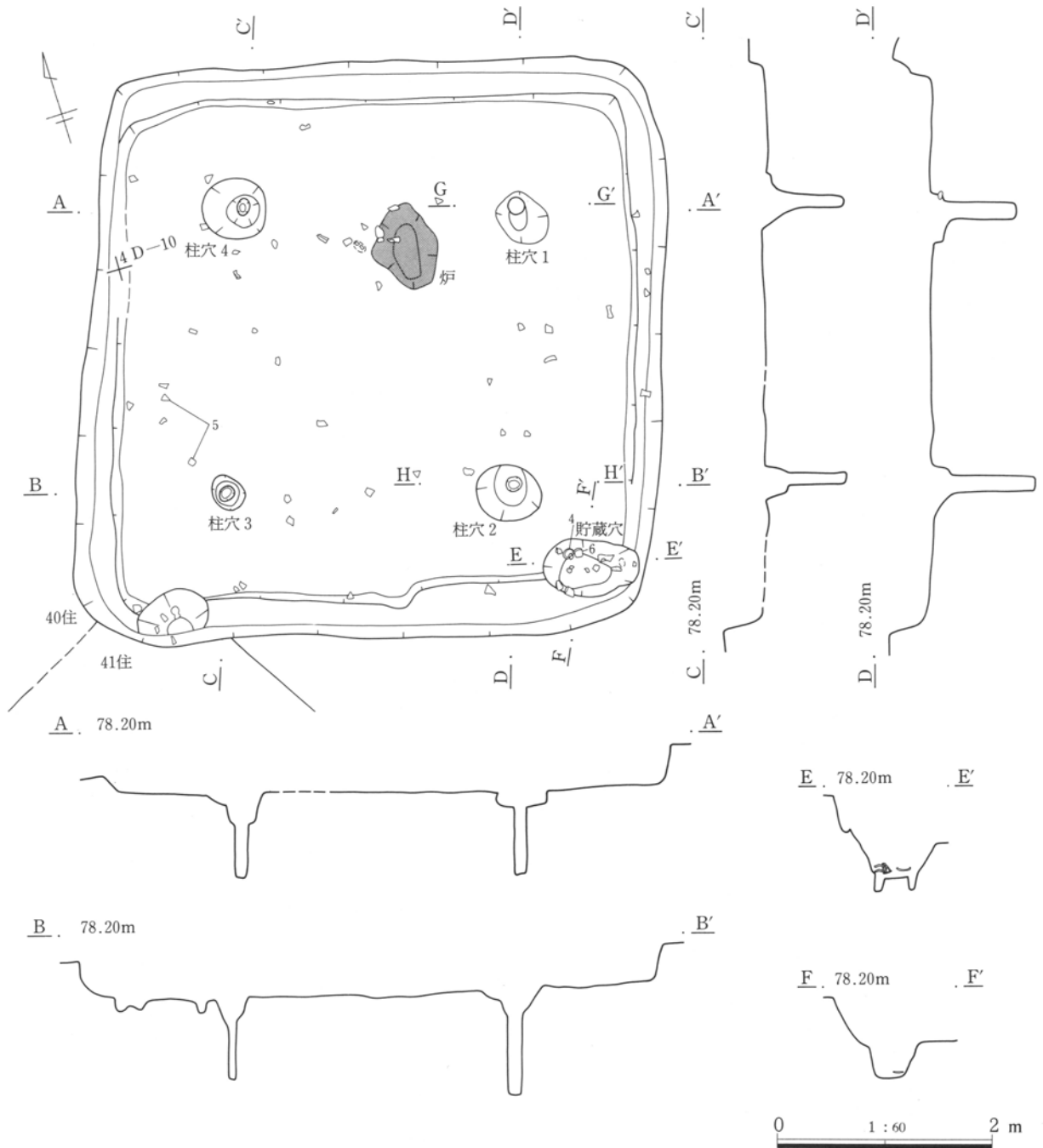
第35図 A区23号住居炭・焼土出土状況、住居跡



第3章 検出された遺構と遺物

A区 23号住居

- |        |   |         |                              |
|--------|---|---------|------------------------------|
| 1 黄褐色土 | 4-a層を主とした層。1mm前後の白色軽石粒と1mm以下の黄褐色土の砂粒を多く含む。      | 6 黒褐色土  | 4層を主とし、少量の炭を含む。              |
| 2 黄褐色土 | 1層に近いが、少量の4-b層、4-c層をブロック状に含む。部分的に4-c層を多く含む所もある。 | 7 黒紫色土  | 5-a層を主とした層。粘性が強い。            |
| 3 黒褐色土 | 4-b層を主とした層。1~3mmの砂粒を多く含む。少量の4-d層を含む。            | 8 黒褐色土  | 黒褐色土(砂質)中に多くの灰黄褐色土(4-d層)を含む。 |
| 4 黒褐色土 | 4-b層と4-c層を主とした層。炭は含まない。                         | 9 灰黄褐色土 | 4-d層をブロック状に多く含む。             |
| 5 黒褐色土 | 4層に近い。4層より多くの4-c層を含む。炭は含まない。                    | 焼土      |                              |
|        |   | 1 赤橙色土  | やや濃い焼土。燃え残りと思われる。            |
|        |   | 2 暗赤褐色土 | 焼土混じりの黒。                     |
|        |   | 3 黒色土   | 粘土質にてやや濃い色。                  |
|        |   | 4 暗灰褐色土 | 砂混じりで薄黒い灰色。                  |



第36図 A区23号住居跡掘り方

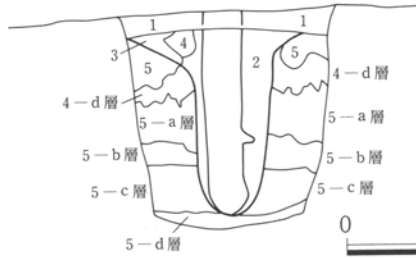
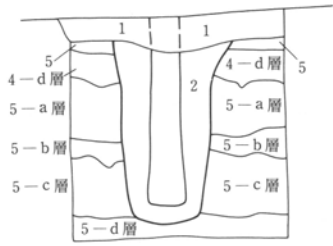


G. 77.90m

G'

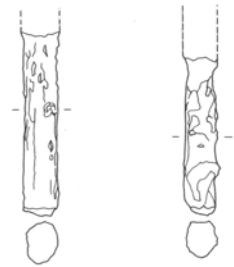
H. 77.90m

H'

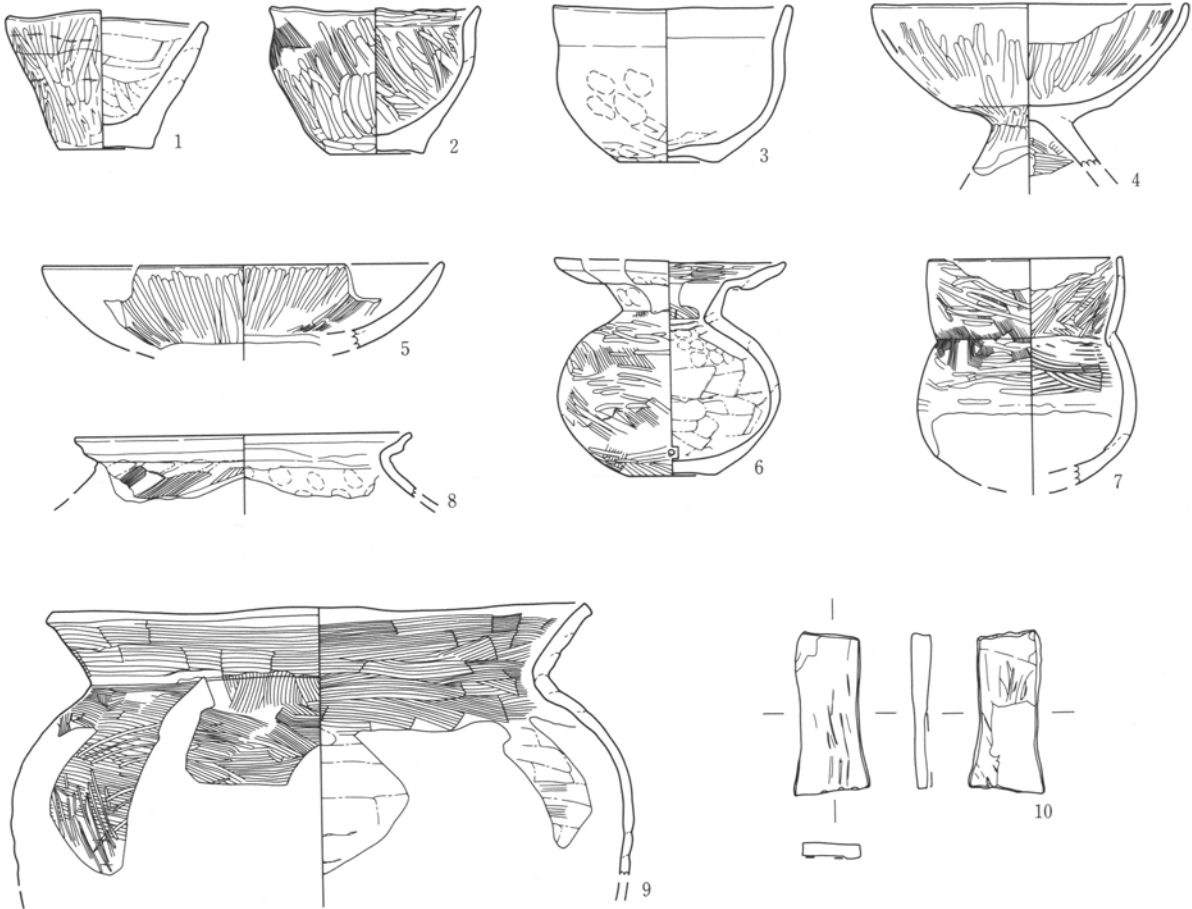


柱穴

- 1 黒褐色土 床面の土。灰黄褐色土（4-d層）の小ブロック、黒褐色土（4-b層）、明黄褐色土（4-c層）が混入している層。全体が砂質で固い。
- 2 黒褐色土 4-b～5-c層の土が小ブロックや粒子として全体にまだら状態で混入している土（柱穴を掘った土を、柱を固定した後に埋め込んだ土）。
- 3 灰褐色土 5-a層のブロック。
- 4 灰黄褐色土 4-d層のブロック。
- 5 灰黄褐色土 4-d層を基本としているが、少し攪乱を受けて4-b層の土を含んでいる。



復元した柱材の実測図



第37図 A区23号住居跡柱穴、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

A区 23号住居

番号	器種	残存法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調 (石 材)	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	完形 口径8.0 器高5.4 底径3.6	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③明黄褐色	コップ状の鉢。 外面 口縁は横ナデ後磨き。以下篋削り後磨き。底部はナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
2	土師器鉢	完形 口径8.4 器高5.7 底径3.6	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	口縁が短く外反し、体部上半に最大径をもつ鉢。 外面 口縁は横ナデ。体部上半はハケメ後磨き。以下底部まで篋削り後磨き。 内面 ハケメ後磨き。
3	土師器鉢	3/5 口径9.5 器高6.1 底径3.9	+17	①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	口縁が短く内湾し、球形に近い体部をもつ鉢。 外面 口縁は横ナデ。体部上部は指頭痕あり。以下篋削り。底部は無調整。 内面 口縁は横ナデ。底部はナデ。
4	土師器高坏	坏部から脚上部 口径12.4 器高(6.8) 底径—	床直	①大粒の石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	碗状の坏部。坏部口縁はやや内湾する。坏底部にやや稜をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下坏部は磨き。坏底部～脚部は篋削り後磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下坏部は磨き。脚部はハケメ。
5	土師器高坏	坏部 1/4 口径(15.8) 器高(3.3) 底径—	床直	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	皿状の坏部。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ後磨き。以下は磨き。 内面 口縁は横ナデ後磨き。以下は磨き。
6	土師器壺	ほぼ完形 口径12.4 器高11.4 底径 4.5	床直	①角閃石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部からくの字に立ち上がり、水平近く長く外反する複合口縁。球形の胴部。 外面 口縁～頸部は横ナデ。胴部はハケメ後磨き。底部は篋削り後磨き。 内面 口縁は横ナデ後磨き。頸部はハケメ。胴部上半は指頭痕あり。以下はナデ。
7	土師器小型壺	底部欠 口径(10.4) 器高(12.0) 底径—	床直	①赤色細粒 輝石 粗砂 ②酸化焰 やや軟質 ③赤褐色	直上気味に立ち上がりやや内湾する口縁。球形の胴部。 外面 口縁は横ナデ後磨き。以下はハケメ後磨き。 内面 口縁はハケメ後磨き。以下はハケメ。
8	土師器台付甕	口縁部片 口径(17.7) 器高(3.5) 底径—	床直	①粗砂 軽石 角閃石 ②酸化焰 やや軟質 ③明黄褐色	大きく外反するS字状口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
9	土師器甕	口～肩部 2/3 口径(28.4) 器高(14.5) 底径—	床直	①細砂 輝石 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に立ち上がる口縁。端部は外側に面とりをしている。肩の張らない胴部。 外面 口縁上半は横ハケメ後横ナデ。下半は横ハケメ。頸部は縦ハケメ。胴部は横ハケメ後磨き。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。頸部はハケメ。以下はハケメ後ナデ。
10	石製品砥石	一部欠 縦 6.4 幅 3.0 厚さ0.8 重さ20.0	掘り方	珪質粘板岩	原型は直方体と思われる。使用面は6面。使用面はいずれも砥ぎ減り目立つ。直線状の擦痕目立つ。

A区 24号住居跡 (第38図 PL18・126・127)

位置 30—15グリッド

重複 本住居の大部分を奈良・平安時代のA区7号溝と近世のA区8号溝が掘り込んでいる。

形状 大きな2条の溝に掘り込まれているため、住居の南東コーナーしか確認できなかった。確認できた部分についても、全体的に削平されていて住居の上端が確認出来なかった。しかし、同時期の住居の形状から本住居も隅丸方形になると考えられる。

面積 (2.54) m<sup>2</sup>

方位 測定できなかった。

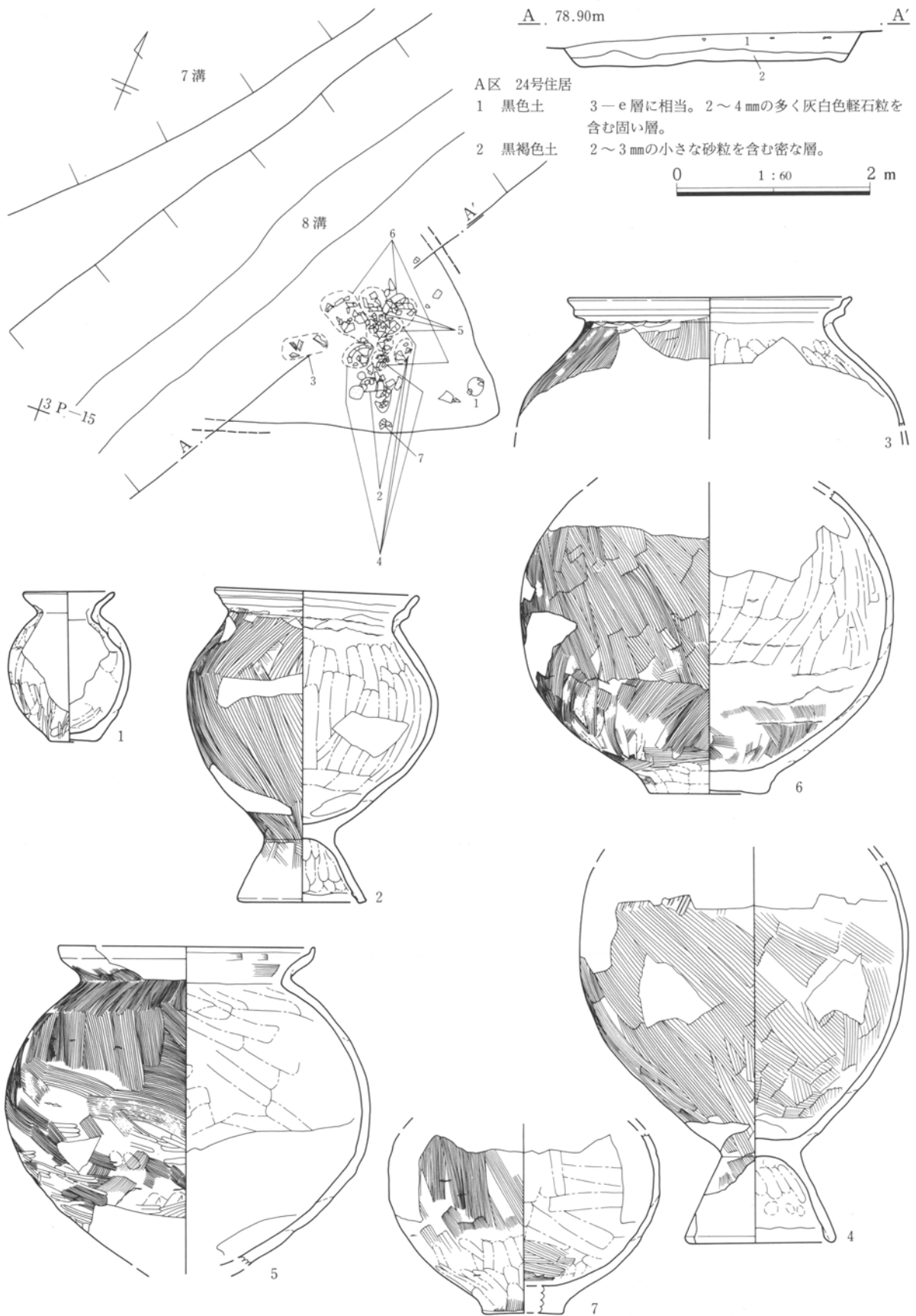
床面 8号溝と重複している箇所住居の断面を計測することができた。断面から掘り込みの深さを測ると、27cm掘り込んで床面になる。床面は黒色土に灰黄褐色土が混入した土である。床高は78.65mを測る。

柱穴 検出されなかった。

炉 検出されなかった。

遺物 土師器壺、甕類が出土している。

1. 古墳時代の遺構と遺物



第38図 A区24号住居跡、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

A区 24号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 小型壺	口～底部 1/5 口径(6.3) 器高10.4 底径 3.5	+8	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③灰黄褐色	くの字に屈曲する頸部。口縁は端部付近でやや内湾する。胴部は長めである。 外面 口縁は横ナデ。胴部上半はナデ、下半はナデ後一部篋磨き。底部はナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
2	土師器 台付甕	ほぼ完形 口径14.1 器高21.6 底径(6.8)	床直	①粗砂 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反し、ほとんど段をもたないS字状口縁。台部も大きく外反する。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。台部はナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。胴部と台部の接合部に粗い砂粒目立つ。
3	土師器 台付甕	口縁部 2/3 口径19.4 器高(9.0) 底径—	+13	①粗砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	やや受け口状のS字状口縁。端部は内側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
4	土師器 台付甕	胴～底部 3/4 口径— 器高(25.0) 底径10.0	床直	①粗砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	長めの胴部。 外面 粗いハケメ。 内面 粗いハケメ。台部は指ナデ。
5	土師器 甕	底部欠 口径18.0 器高(22.2) 底径—	+7	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反し、端部が直上に立ち上がる受け口状の口縁。胴部は球形で下部ですぼまる。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。口縁、胴部に煤が付着。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。以下はナデ。
6	土師器 甕	底～胴部 2/3 口径— 器高(21.1) 底径8.4	+7	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	球形の胴部 底部は張り付けて上げ底。 外面 胴部はハケメ。底部はナデ。 内面 上半はナデ。以下はハケメ。
7	土師器 甕	底～胴部 1/3 口径— 器高(12.5) 底径 (5.4)	+12	①軽石 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	球形の胴部。底部に近づくにつれてすぼまる。 外面 胴部上半は細いハケメ。下半は粗いハケメ。底部付近は細いハケメ。 内面 上半はナデ。以下は粗いハケメ後ナデ。

A区 25号住居跡 (第39～41図 PL18・19・127・128)

位置 4A-11グリッド

重複 本住居の北東部分の上層を近代のA区4号溝が掘り込んでいる。

形状 東西4.84m、南北4.84m。隅丸方形を呈する。

面積 19.69m<sup>2</sup>

方位 N-18°-W

覆土 本遺跡の同時期の住居の覆土は上層から黒色土、黒褐色土、地山の明黄褐色土や灰黄褐色土の層位になっているのがほとんどであるが、本住居は上層に地山の灰黄褐色土を中心にした土層がきていて、壁面から床面にかけて、焼土や炭が検出される。この住居は前述の23号住居に比べると炭化材は出ていないが、焼土化、炭化した箇所を多く検出した。本住居も23号住居同様に焼失住居であると考え。地山を主体にした土で、本来床下にあるはずのものが上層に検出されたのは、人為的にこの土を被せたためと考えられる。特に、周堤帯として積み上げた土を使用したのではないかと推定する。

床面 遺構確認面より30cm掘り込んで床面になる。

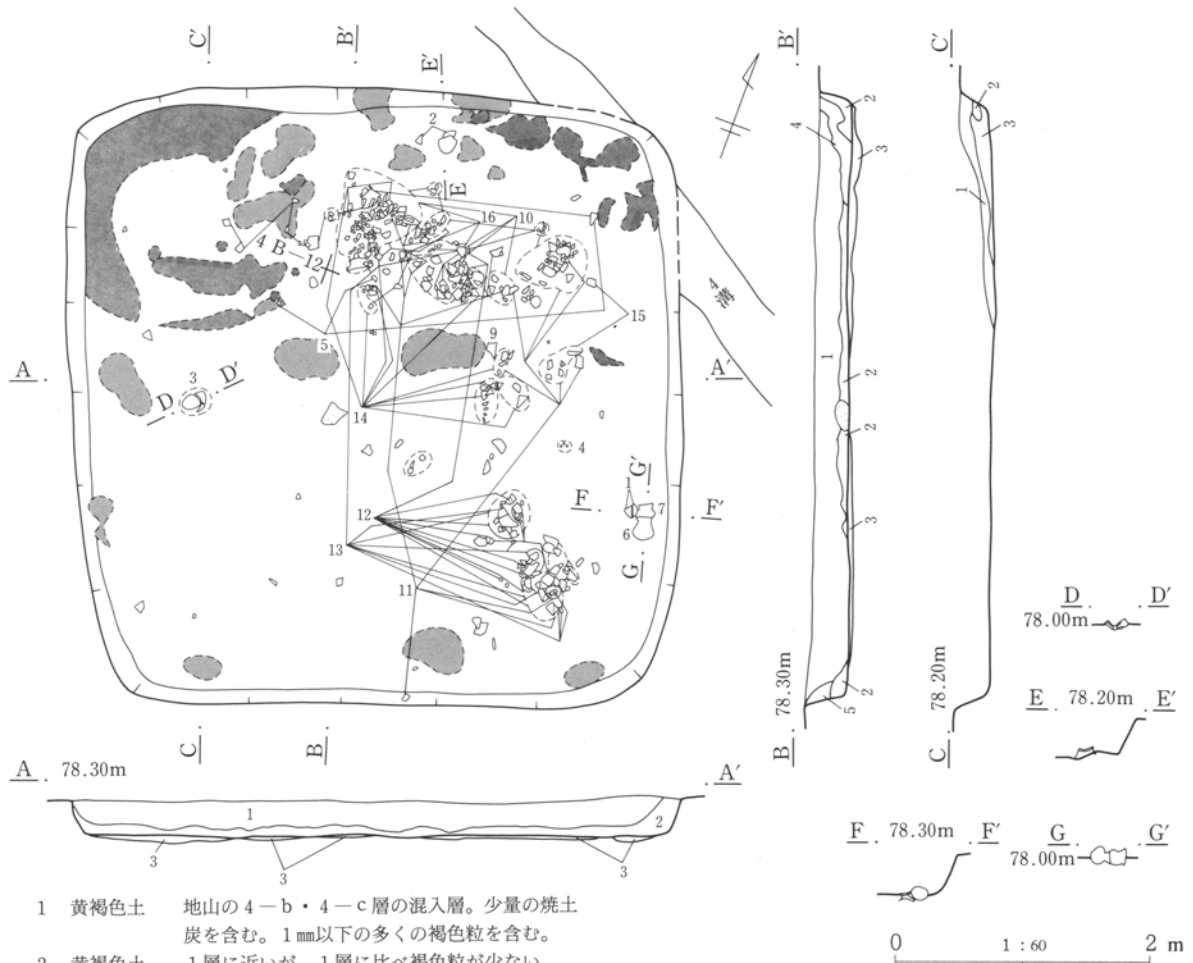
床面は軽石粒を含む黒色土に灰黄褐色土が混入した土である。床高は77.89mを測る。また、床面に炭と焼土が広範囲に検出された。

柱穴 柱穴1は径28cm、深さ15cm。柱穴2は径32cm、深さ17cm。柱穴3は39cm、深16cm。柱穴4は径30cm、深さ19cmを測る。覆土は地山の灰黄褐色土を中心にした土であった。

貯蔵穴 径64cm、深さ38cmを測る。覆土は住居床面の土とほぼ同じの黒褐色土である。下層から焼土粒もみられるので、焼失時に一緒に埋まったものと思われる。

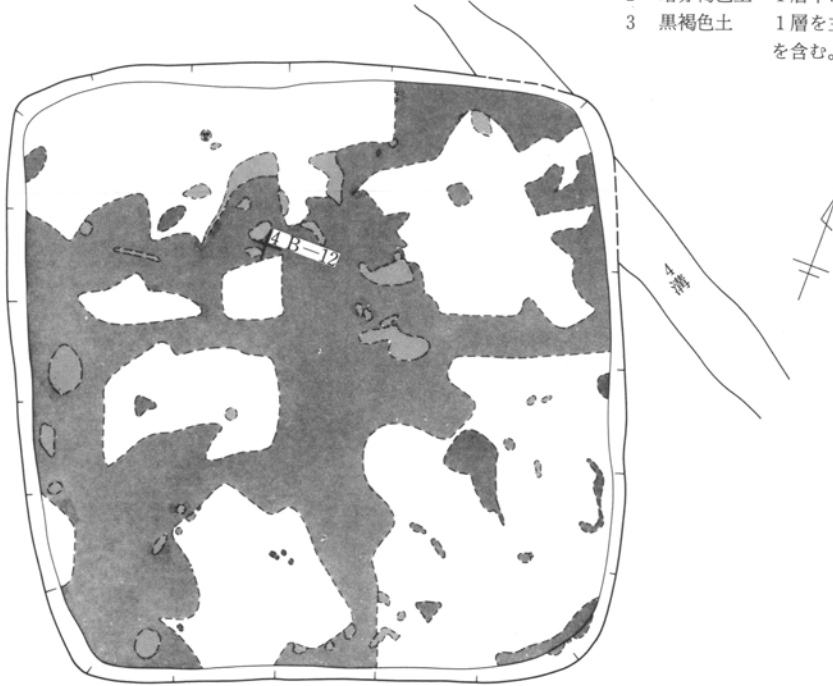
炉 住居全体から炭と焼土が検出されたこともあり、炉として特定できる焼土や炭の箇所が検出されなかった。

遺物 土師器器台、高坏、壺、甕類が出土している。中には完形の直口壺やほぼ完形の高坏、器台も出土した。

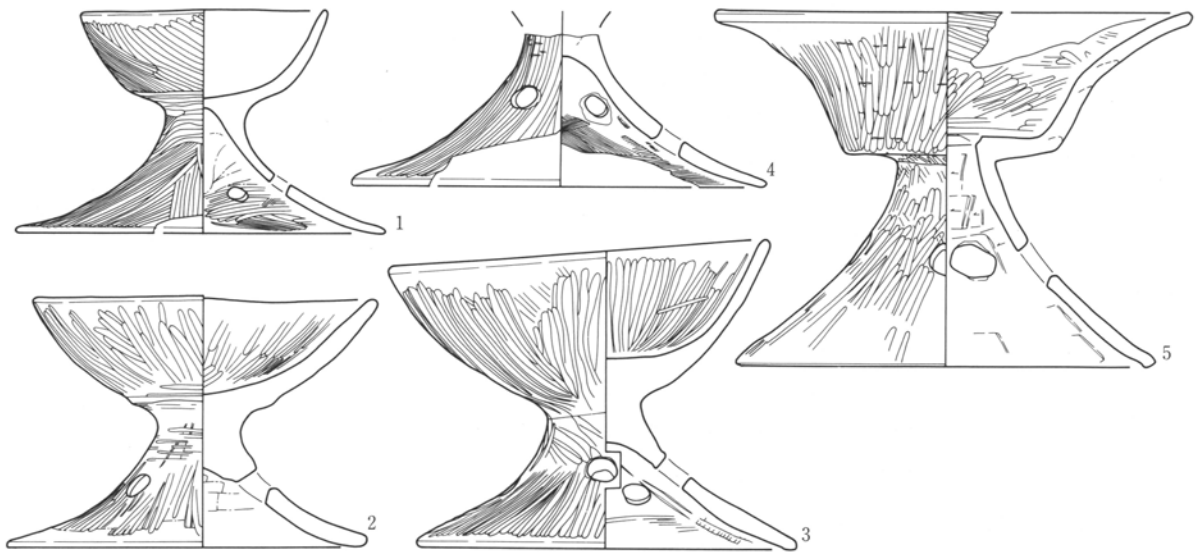
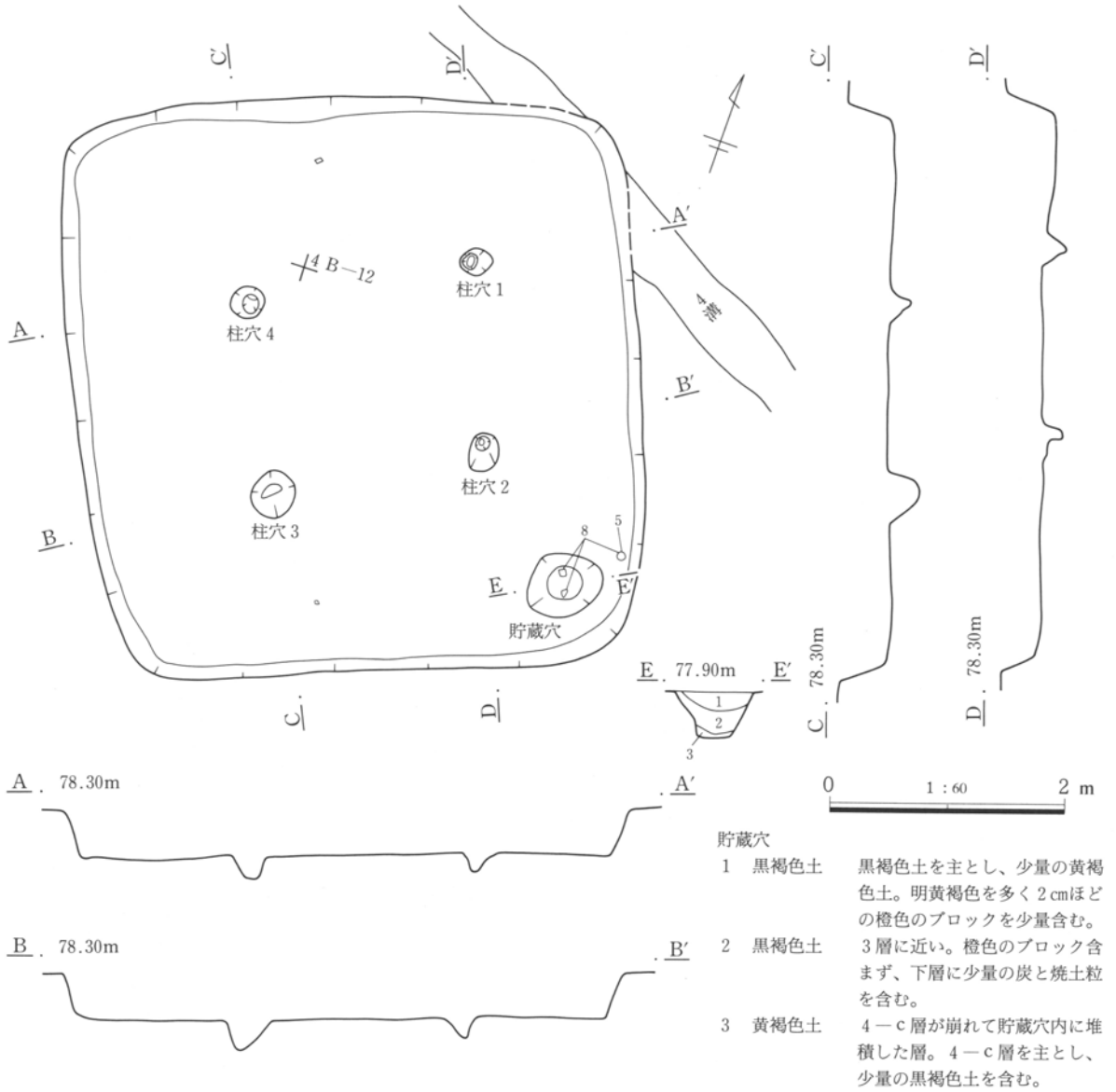


- 1 黄褐色土 地山の4-b・4-c層の混入層。少量の焼土炭を含む。1mm以下の多くの褐色粒を含む。
- 2 黄褐色土 1層に近いが、1層に比べ褐色粒が少ない。
- 3 黒褐色土 黄褐色土と黒褐色土の混入層。
- 4 暗赤褐色土 多量の焼土ブロックを含む。
- 5 黄褐色土 地山に近い。壁面からの落ち込み。

- 1 黄褐色土 地山の4-b・4-c層の混入層。少量の焼土炭を含む。1mm以下の多くの褐色粒を含む。
- 2 暗赤褐色土 1層中に多量の焼土粒を含む。
- 3 黒褐色土 1層を主とし、多量の炭と少量の焼土ブロックを含む。

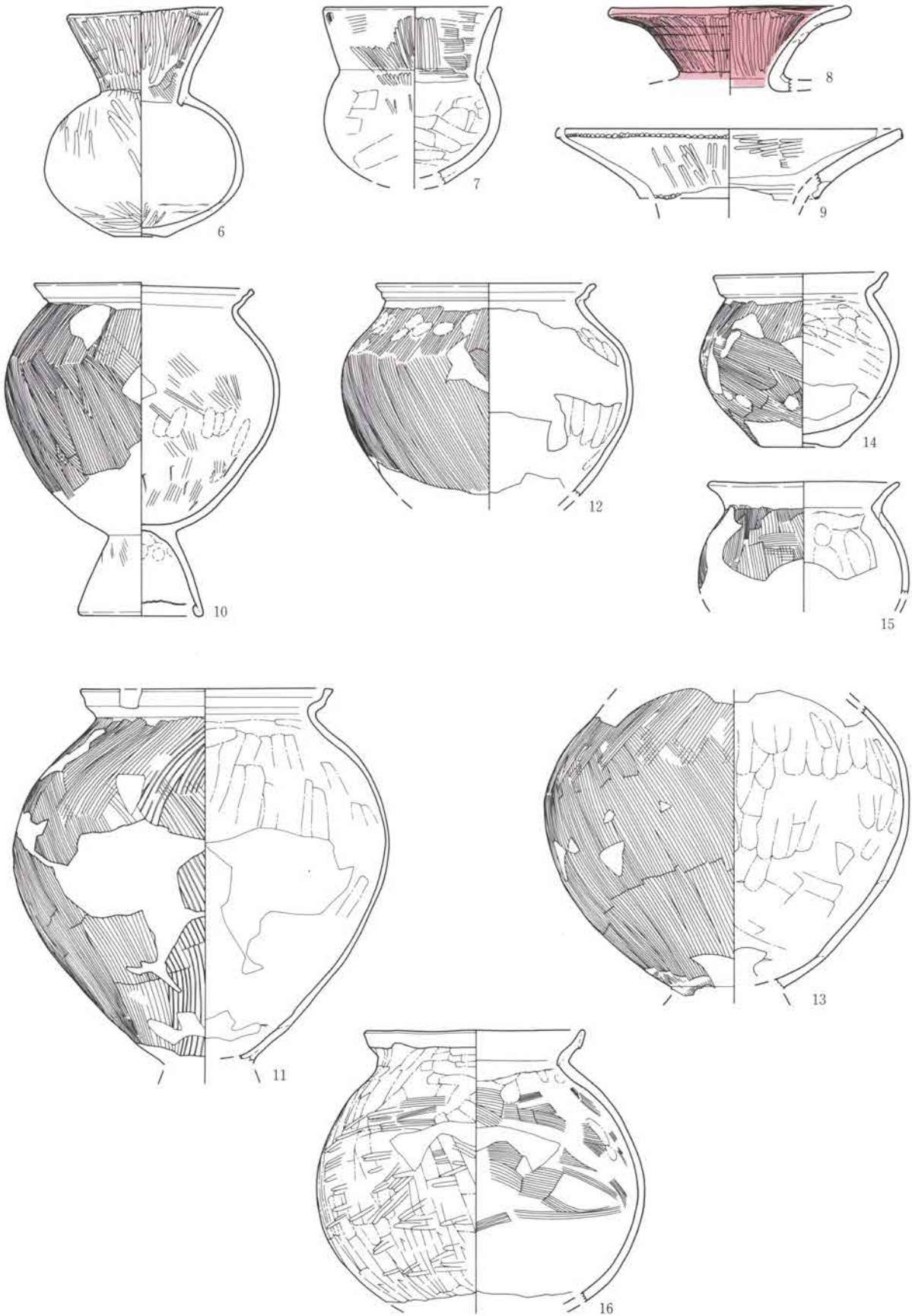


第39図 A区25号住居跡、炭・焼土出土状況



第40図 A区25号住居跡、出土遺物(1)

1. 古墳時代の遺構と遺物



第41図 A区25号住居跡出土遺物(2)



第3章 検出された遺構と遺物

A区 25号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部1/3欠損 口径9.8 器高8.7 底径14.8	床直	①輝石 細砂 1~2mm の石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③黄橙色	底部に稜をもち、口縁が外反する坏部。裾野を長く広げたような脚部。円孔4あり。 外面 口縁は横ナデ。以下篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。脚部上半はナデ。下半はハケメ後篋磨き。裾部は横ナデ。
2	土師器 高坏	ほぼ完形 口径13.5 器高9.8 底径14.0	床直	①細砂 3~5mmの石 赤色細粒 ②酸化焰。硬質 ③橙色	底部に稜をもち、厚手で外反する坏部。やや裾野を広げたような脚部。円孔4あり。 外面 口縁は横ナデ。以下坏部は篋磨き。脚部はハケメ後篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 坏部は篋磨き。脚部はナデ。裾部は横ナデ。
3	土師器 高坏	完形 口径15.0 器高11.0~12.3 底径14.5	床直	①1~3mmの石 赤色細 粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	椀状の坏部。裾野を広げたような脚部。歪みが大きい。円孔4あり。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 口縁は横ナデ。坏部は篋磨き。坏底部は内面が荒れている。脚部はハケメ。裾部は横ナデ。
4	土師器 高坏	脚部1/3 口径一 器高(6.6) 底径16.4	+27	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	裾野を大きく広げたような脚部。脚部上半に円孔3、下半に円孔3。 外面 篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 下半はハケメ。裾部は横ナデ。
5	土師器 器台	ほぼ完形 口径18.9 器高14.1 底径16.0	床直	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③橙色	器受部は底部に稜をもちながら外反し、さらに上半で大きく外反する。ラップ状に開く脚部。脚部に円孔4あり。 外面 口縁は横ナデ。以下器受部は篋磨き。脚部はハケメ後篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下器受部は篋磨き。脚部は篋削り。裾部は篋削り後横ナデ。
6	土師器 壺	完形 口径10.7 器高15.4~16.0 底径3.7	床直	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直上気味に長く立ち上がり、外反する口縁。やや下膨れの胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。底部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。
7	土師器 小型壺	底部欠 口径12.3 器高(12.6) 底径一	床直	①2~5mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直上気味に立ち上がりやや外反する厚手の口縁。球形の胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後篋磨き。胴部はやや器面が荒れているが、篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後篋磨き。胴部はナデ。
8	土師器 壺	口縁部 口径17.0 器高(5.9) 底径一	掘り方	①2~5mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部から大きく外反し、端部に近づくにつれて水平に近く広がる。 外面 横ナデ後篋磨き。赤色塗彩 内面 横ナデ後篋磨き。頸部はナデ。赤色塗彩
9	土師器 壺	口縁2/5 口径(23.8) 器高(4.8) 底径一	+10	①細砂 角閃石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部から大きく外反し、端部外側に面をもつ有段口縁。 外面 端部は横ナデ。以下は篋磨き。端部と有段部に刺突痕あり。 内面 端部は横ナデ。以下は篋磨き。
10	土師器 台付甕	胴部1/3欠損 口径15.4 器高23.3 底径8.3	床直	①粗砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	ほとんど段を感じさせないS字状口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。台部はハケメ後ナデ。 内面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。部分的に指頭痕あり。下半は篋押しえ痕あり。台部は指頭痕あり。折り返す。
11	土師器 台付甕	口~胴部4/5 口径17.5 器高(26.3) 底径一	床直	①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	外反するS字状口縁。端部は上向きに面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下は指ナデ。
12	土師器 台付甕	口~胴部4/5 口径15.4 器高(15.3) 底径一	床直	①粗砂 軽石 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	外反するS字状口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後指頭痕。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下は指ナデ。
13	土師器 台付甕	胴部2/3 口径一 器高(21.4) 底径一	床直	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	やや肩の張る胴部。 外面 ハケメ。 内面 上半は指ナデ。以下は篋ナデ。
14	土師器 小型甕	4/5 口径12.2 器高12.1 底径5.5	床直	①粗砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	上段が長く外反した複合口縁。底部はドーナツ状の凹底。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ後部分的にナデ。 内面 口縁は横ナデ。頸部は面とり篋削り。胴部はナデ。
15	土師器 小型甕	口~胴部1/2 口径(13.4) 器高(8.5) 底径一	+12	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	頸部からくの字に屈曲し、外反した口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。頸部は細かいハケメ。胴部は粗いハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。

1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
16	土師器 甕	口～胴部 1/2 口径 15.5 器高(18.8) 底径 —	+7	①細砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部からくの字に屈曲し、外反した折り返し口縁。丸い胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部はナデ。胴部上半はハケメ後ナデ後窠磨き。下半は窠削り後窠磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。

A区 27号住居跡 (第42・43図 PL20・129)

位置 4D-12グリッド

重複 本住居の南東コーナー部分を近代のA区5号溝が掘り込んでいる。

形状 東西3.77m、南北4.26m。隅丸方形を呈する。

面積 15.25m<sup>2</sup>

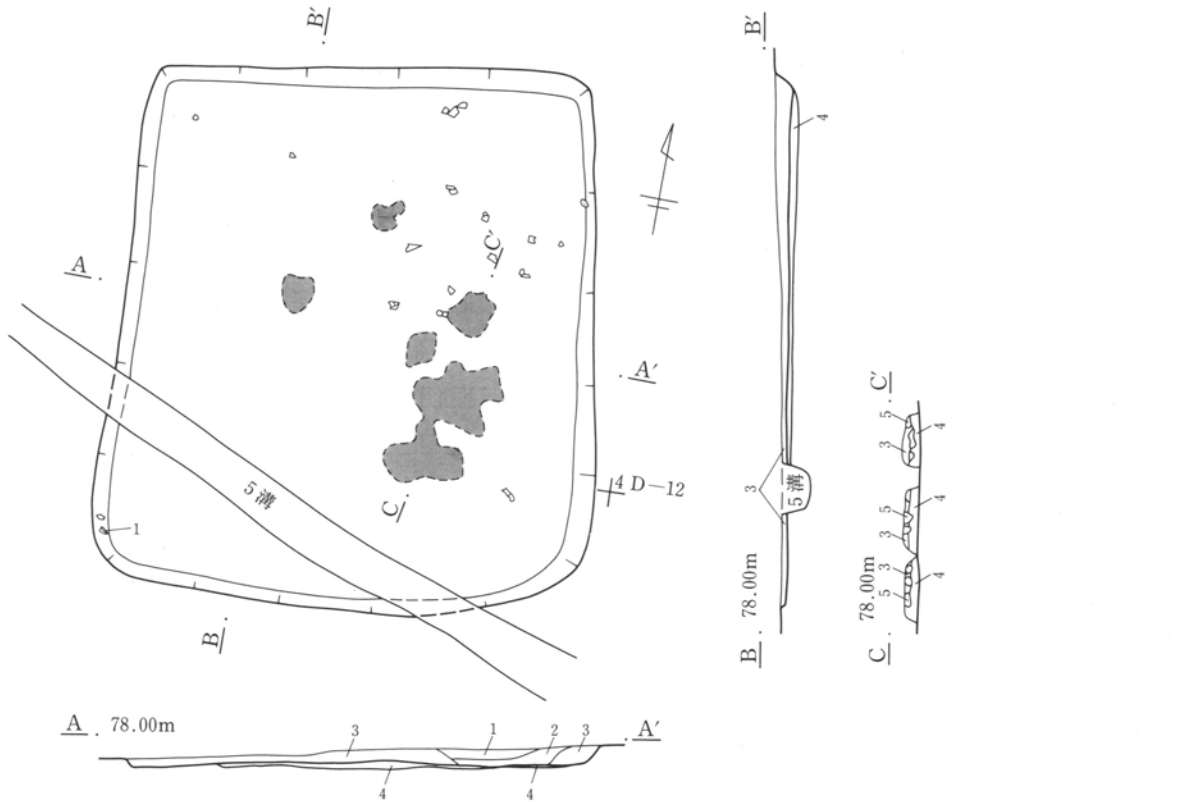
方位 N-8°-W

床面 残りの良いところで遺構確認面より9cm掘り

込んで床面になる。住居の中央部から東壁にかけて床面の高さで焼土が検出された。床面は地山の明黄褐色土に黒褐色土が混入した土である。床高は77.80mを測る。床下面で不整形なピットや小ピットが検出されたが、柱穴や貯蔵穴として断定できなかった。

炉 検出されなかった。

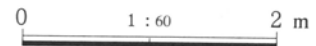
遺物 土師器小型甕が出土している。



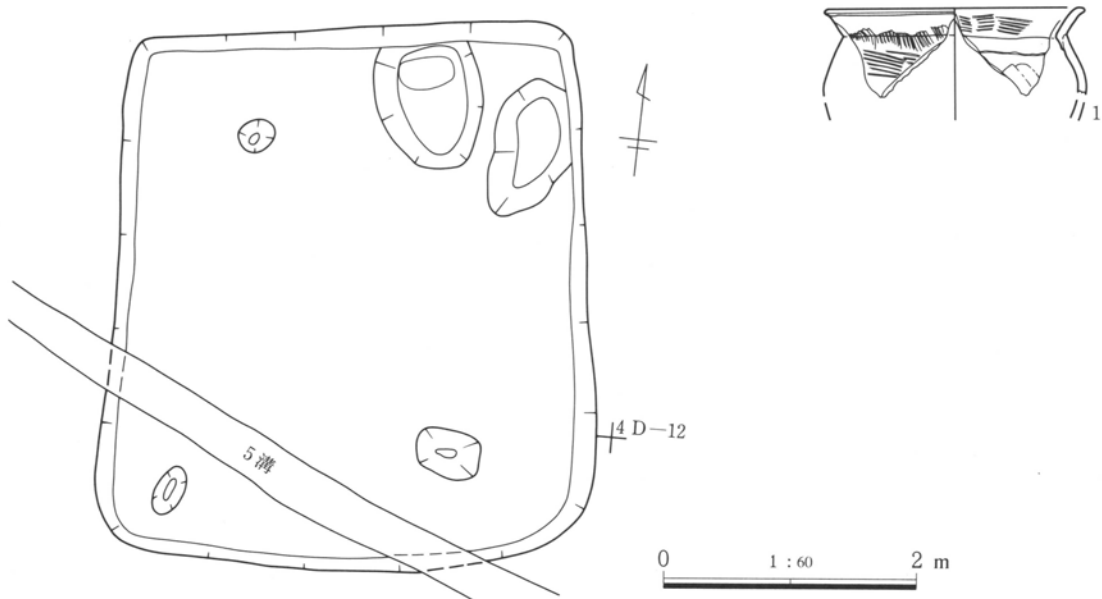
A区 27号住居・焼土

- 1 黒褐色土 明黄褐色土中に多くの炭を含む。
- 2 黒褐色土 明黄褐色土中に少量の炭を含む。
- 3 明黄褐色土 4-c層の明黄褐色土を主とし、少量の黒褐色土を含む。

- 4 明黄褐色土 上層の3層に近いが、より多くの地山の4-c層に近い層(床下)。
- 5 赤色土 焼土層。



第42図 A区27号住居跡



第43図 A区27号住居跡掘り方、出土遺物

A区 27号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 小型甕	口縁片 口径(13.5) 器高(4.8)底径—	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	くの字に屈曲する。口縁端部で短く外反する。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下ハケメ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。以下ナデ。

A区 30号住居跡 (第44・45図 PL20・21・129)

位置 8B-0グリッド

重複 本住居は北東コーナー部分で古墳時代のA区31号住居を掘り込んで造られている。

形状 東西3.29m、南北3.20m。隅丸方形を呈する。

幅 17cm、深さ8cmの周溝が巡っている。

面積 8.97m<sup>2</sup>

方位 N-3°-W

床面 遺構確認面より17cm掘り込んで床面になる。床面は軽石粒を含む黒色土に砂質の灰黄褐色土が混入した土である。床高は77.70mを測る。また床面状の北壁付近で炭と焼土が集中している箇所を検出した。断面を確認したところ、炭については、層位で確認出来ず、土坑状の落ち込みになった。また焼土については焼土の層は薄く、炉として判断することはできなかった。

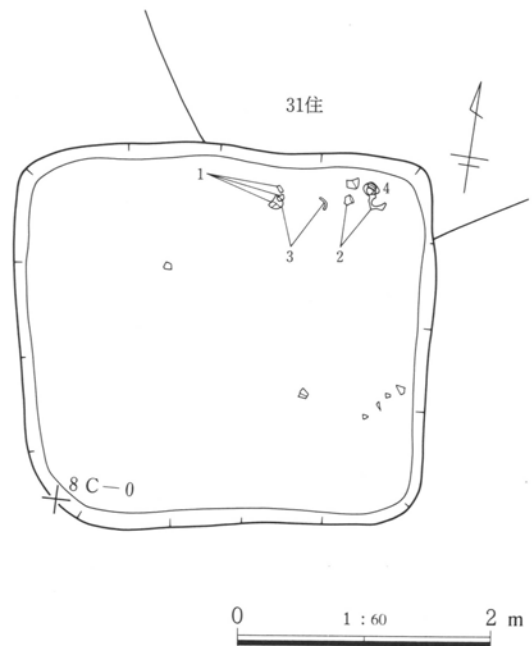
柱穴 床面で柱穴になるようなピットが検出されなかったが、掘り方の面で他の部分と異なる色をした箇所があり柱が置かれていた可能性があると思う。

貯蔵穴 径43cm、深さ27cmを測る。覆土は灰白色軽

石粒が多く含まれる黒褐色土と地山の灰黄褐色土の混ざった土である。

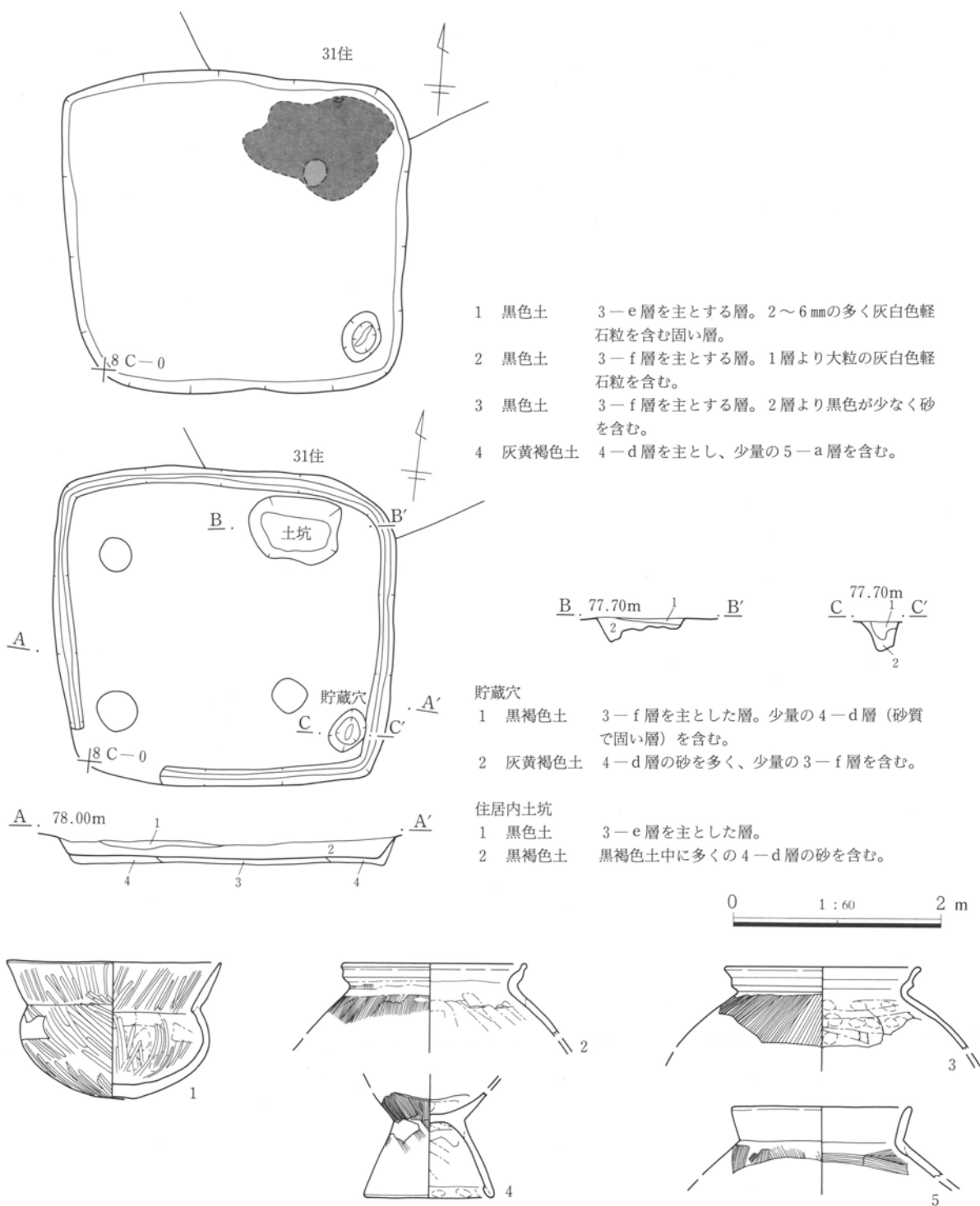
炉 断定することができなかった。

遺物 土師器埴やS字状口縁台付甕が出土している。



第44図 A区30号住居跡(1)

1. 古墳時代の遺構と遺物



第45図 A区30号住居跡(2)、掘り方、出土遺物

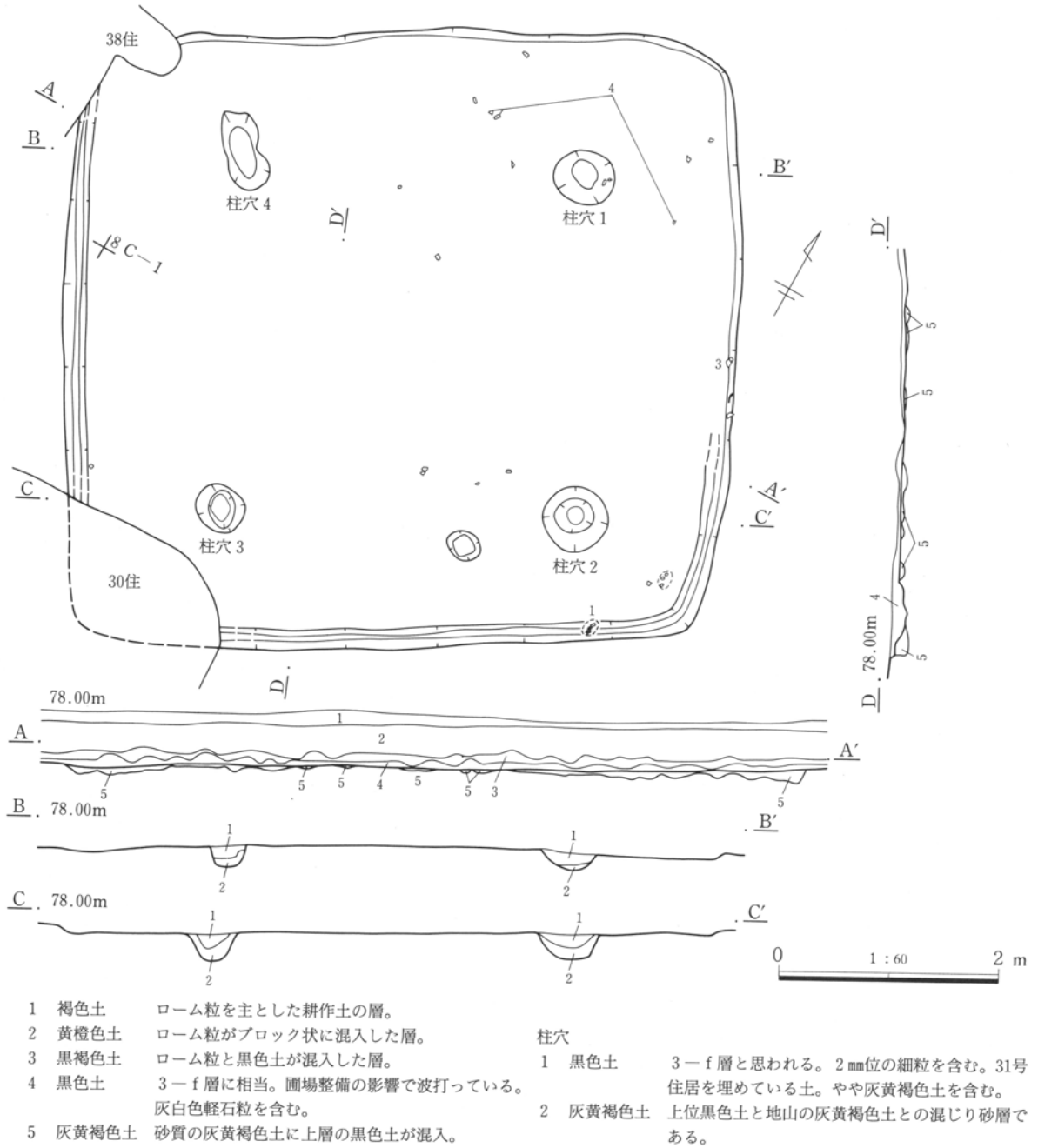
A区 30号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 埴	1/3 口径(10.3) 器高6.5 底径(1.8)	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反し、端部で薄くなる口縁。椀状の胴部。凹底。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。以下篋磨き。 内面 口縁は横ナデ後篋磨き。以下ナデ後篋磨き。
2	土師器 台付甕	口~頸部片 口径(11.7) 器高(4.7) 底径—	床直	①細砂 ②酸化焰。硬質 ③にぶい褐色	くの字状に近いS字状口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
3	土師器 台付甕	口～頸部片 口径(12.3) 器高(5.3)底径—	床直	①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反するS字状口縁。やや肩が張る。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下は筥ナデ。
4	土師器 台付甕	胴底～上部 1/2 口径— 器高(6.8) 底径(8.2)	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	上部は折り返す。 外面 ハケメ。裾部は横ナデ。 内面 胴底部はナデ。上部はナデ。
5	土師器 甕	口～頸部片 口径(11.3) 器高(4.4)底径—	覆土	①赤色細粒 ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	直立気味に立ち上がる短い口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。

A区 31号住居跡 (第46・47図 PL21・22・129)



第46図 A区31号住居跡

1. 古墳時代の遺構と遺物

位置 8B-1グリッド

重複 本住居の南西コーナー部分を古墳時代のA区30号住居が掘り込んで、造られている。また、北西コーナー部分を平安時代のA区38号住居の竈部分に掘り込まれている。

形状 東西6.16m、南北5.59mを測る。形状は隅丸方形を呈する。本住居の南側には幅19cm、深さ4cmの周溝が巡っている。しかし、北側部分では周溝が確認できなかった。

面積 31.29m<sup>2</sup>

方位 N-30° -W

床面 圍場整備のために住居上面が削平され、住居跡の残りが悪かった。遺構確認面より16cm掘り込んで床面になる。床面は灰白色軽石粒を含む黒色土に砂質の灰黄褐色土が混入した土である。床高は77.82

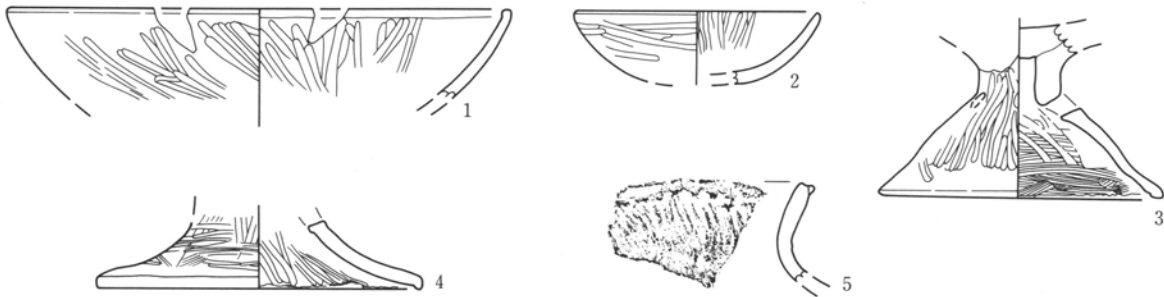
mを測る。また床面上の南壁付近で炭と焼土のやや集中している箇所を検出した。

柱穴 柱穴1は径45cm、深15cm。柱穴2は径60cm、深さ22cm。柱穴3は径46cm、深さ23cm。柱穴4は径75cm、深さ20cmを測る。覆土は灰白色軽石粒を含む黒色土に地山の灰黄褐色土が混入した土であった。

炉 南壁付近の床面上より炭と焼土のやや集中した箇所は検出したが、炉として断定できるものは検出されなかった。

遺物 土師器高坏や甕が出土している。

備考 平成9年度に本住居の南側部分の調査を行い、平成10年度に北側部分を拡張して調査を実施。



第47図 A区31号住居跡出土遺物

A区 31号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部片 口径(20.0) 器高(3.5) 底径—	床直	①細砂 2~3mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反し端部で、やや内湾する口縁。 外面 坏部上半は横ナデ後磨き。下半は篋削り後磨き。 内面 横ナデ後磨き。
2	土師器 高坏	坏部片 口径(9.6) 器高(2.8) 底径—	覆土	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	椀状の坏部。 外面 口縁は横ナデ。以下はナデ後磨き。 内面 横ナデ後磨き。
3	土師器 高坏	接合部~裾部片 口径— 器高(6.8) 底径(10.7)	床直	①輝石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	接合部から円筒状に短く下がり、2段にわたって外反する脚部。 裾部は下向きに面をもつ。円孔3あり。 外面 磨き。 内面 ハケメ後ナデ。
4	土師器 高坏	裾部片 口径— 器高(2.6) 底径(3.0)	床直	①1~2mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反し裾部付近で水平に長くのびる。端部は外向きに面をもつ。 円孔あり。 外面 脚部はハケメ後磨き。裾部は横ナデ。 内面 横ナデ後磨き。
5	土師器 甕	口縁部片 口径— 器高一 底径—	柱穴 覆土	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	くの字状に立ち上がる口縁。端部は上向きに面をもち、刺突痕あり。 外面 ハケメ。 内面 横ナデ。

第3章 検出された遺構と遺物

A区 32号住居跡 (第48図 PL22・129)

位置 7T-0 グリッド

形状 長軸4.57m、短軸4.51m測る。隅丸方形を呈する。住居の南側には幅28cm、深さ6cmの周溝が巡っている。

面積 18.30m<sup>2</sup>

方位 N-26°-W

床面 圃場整備のために住居床面が削平されていて残りが悪かったので、掘り方の調査から始めた。床

下の状況から住居の中央部が高く周辺部はやや低いことがわかった。

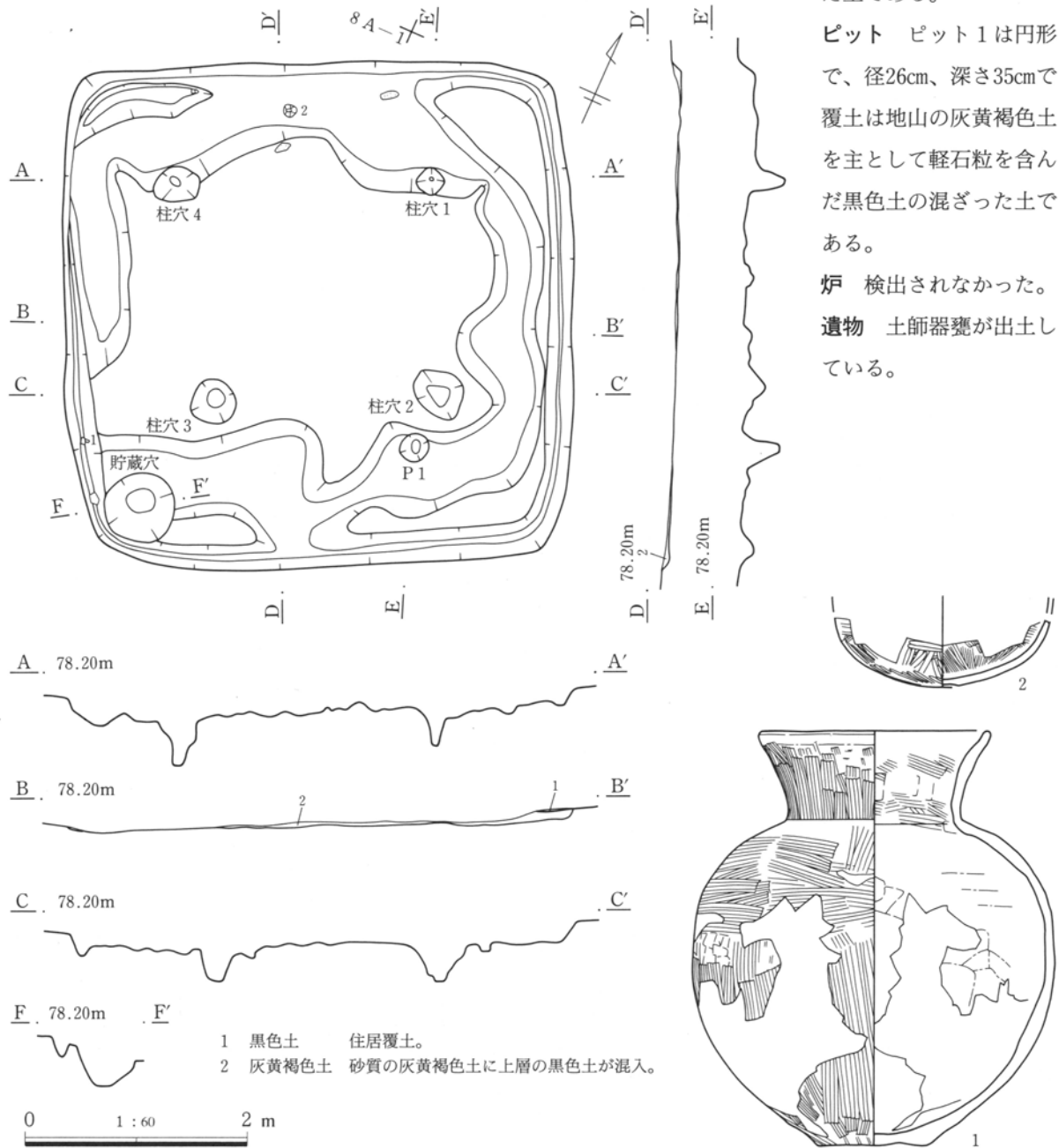
柱穴 柱穴1は径25cm、深さ25cm。柱穴2は径50cm、深さ33cm。柱穴3は径42cm、深さ26cm。柱穴4は径43cm、深さ41cmを測る。覆土は黒色土と地山の灰黄褐色土の混入した土であった。

貯蔵穴 径65cm、深さ22cmを測る。覆土は地山の灰黄褐色土を主として軽石粒を含んだ黒色土の混ざった土である。

ピット ピット1は円形で、径26cm、深さ35cmで覆土は地山の灰黄褐色土を主として軽石粒を含んだ黒色土の混ざった土である。

炉 検出されなかった。

遺物 土師器甕が出土している。



第48図 A区32号住居跡掘り方、出土遺物



A区 32号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器壺	全体の2/3 口径13.7 器高25.0 底径7.0	+13	①軽石 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直立気味に立ち上がり、上半で外反する口縁。やや肩が張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。胴部は篋削り後ハケメ。底部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。
2	土師器甕?	胴~底部片 口径一 器高(4.0) 底径(1.8)	+16	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	椀状に立ち上がる胴部。凹底。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 ハケメ。

A区 34号住居跡 (第49・50図 PL23・129)

位置 7R-1グリッド

形状 東西3.66m、南北(3.39)m。本住居の北東部は圃場整備によって上端から床面付近まで削平されていた。形状は隅丸方形になると考える。

面積 (11.86)m<sup>2</sup>

方位 N-20°-W

床面 残りの良いところで遺構確認面から15cm掘り込んで床面になる。床面は灰白色軽石粒を含む黒色土に灰黄褐色土が混入した土である。床下からピット

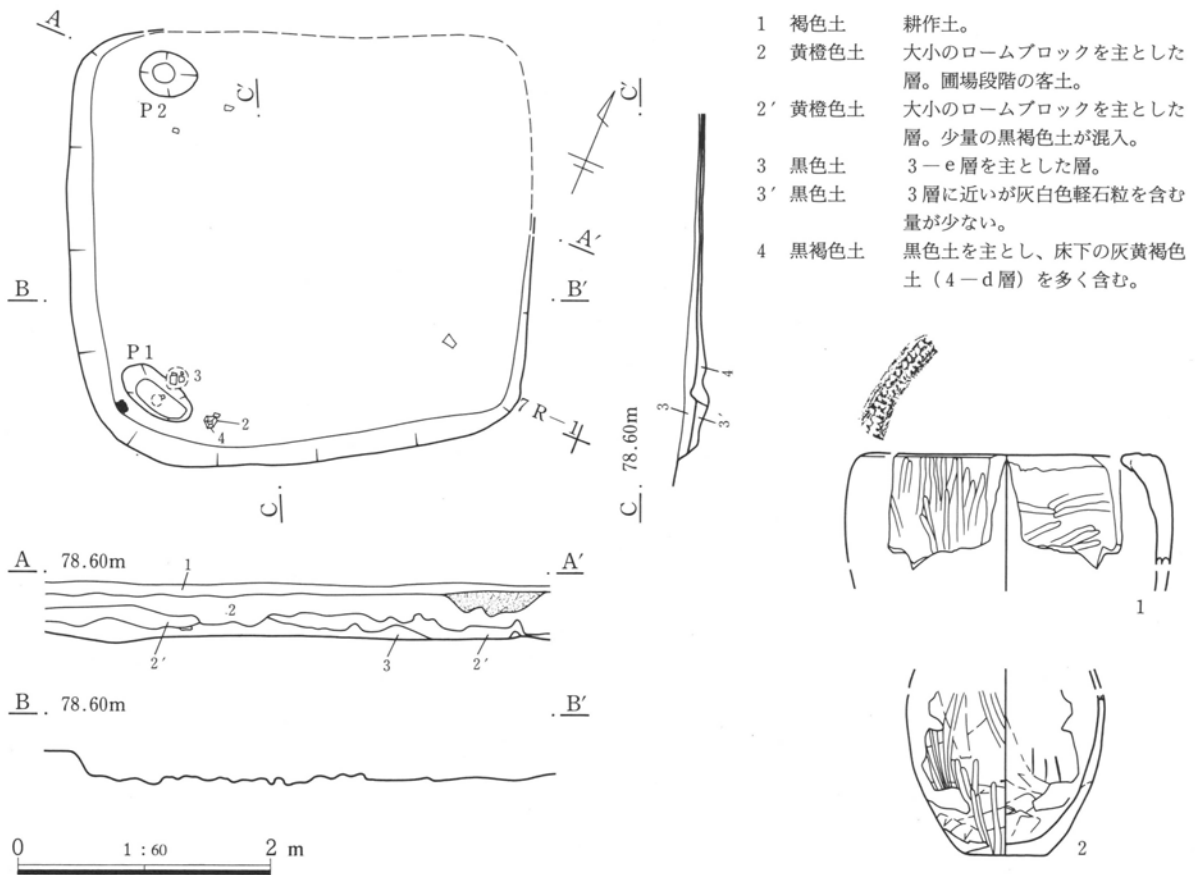
トが2基検出された。

ピット ピット1は楕円形で、長径63cm・短径30cm、深さ25cm。ピット2は径45cm、深さ12cm。覆土は灰白色軽石粒が含まれる黒色土と地山の灰黄褐色土の混入した土であった。

炉 検出されなかった。

遺物 土師器小形壺、甕が出土している。

備考 平成9年度に本住居の南側部分の調査を行い、平成10年度に北側部分を拡張して調査を実施。



第49図 A区34号住居跡、出土遺物(1)



第50図 A区34号住居跡出土遺物(2)

A区 34号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	口縁部片 口径(11.6) 器高(4.3) 底径—	覆土	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	端部でやや内湾する。端部上面に刺突痕あり。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。
2	土師器小型壺	胴~底部片 口径— 器高(8.5) 底径(4.2)	+16	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	長めの胴部。 外面 篋削り後篋磨き。 内面 篋削り。
3	土師器台付甕	口~肩部片 口径(18.8) 器高 5.5 底径—	+10	①細砂 軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	上段が長めのS字状口縁。端部は内側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下は縦ハケメ後横ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部以下に指頭痕あり。
4	土師器甕	口縁部片 口径— 器高— 底径—	+16	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に立ち上がる。 外面 端部は横ナデ。以下ハケメ 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。
5	土師器甕	口縁部片 口径— 器高— 底径—	覆土	①細砂 軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直立気味に立ち上がる。 外面 ハケメ。 内面 ハケメ。

A区 35号住居跡 (第51・52図 PL23・24・129・130)

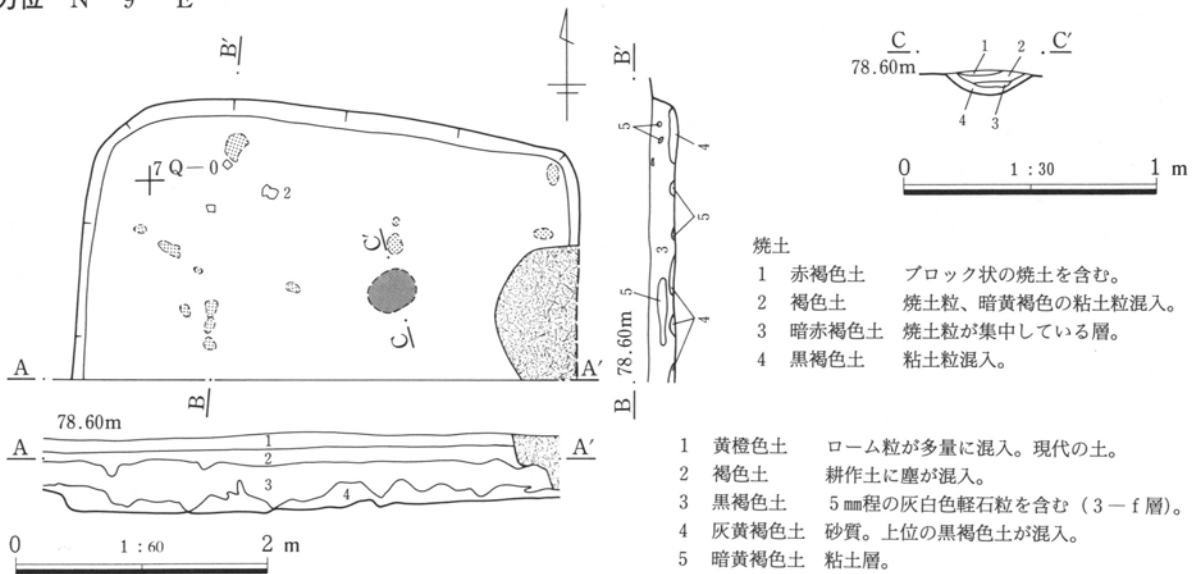
位置 3P-19グリッド

形状 本住居の南半分は住民の生活用道路であったため、発掘調査を行うことができなかった。また、東壁付近は後世の攪乱が入っている。東西方向3.93mを測る。隅丸方形になると考える。

面積 (7.90)㎡

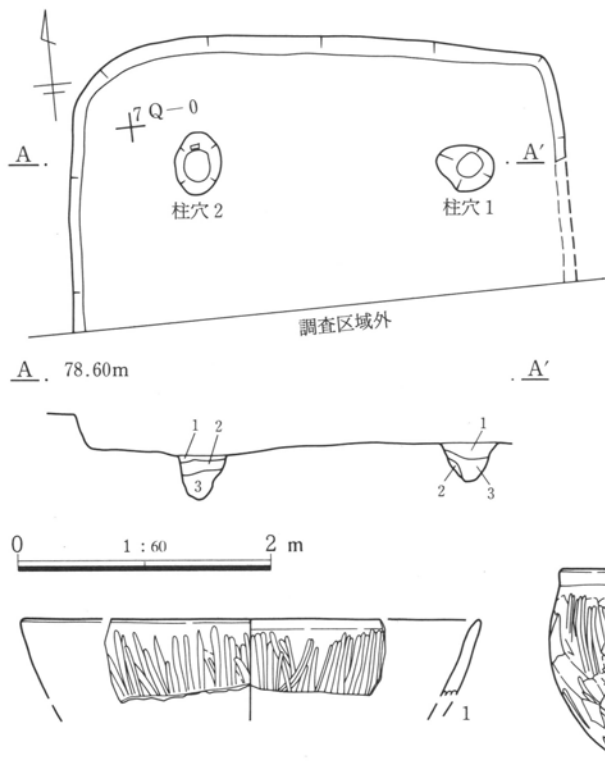
方位 N-9°-E

床面 残りの良いところで遺構確認面から12cm掘り込んで床面になる。床面は黒褐色土に地山の灰黄褐色土が混入した土である。また、床面上に暗黄褐色の粘性の強い土が数多く検出された。床高は78.30mを測る。床下の状況はやや中央部が高く周辺部が低くなっている。



第51図 A区35号住居跡

1. 古墳時代の遺構と遺物



**柱穴** 柱穴1は径46cm、深さ30cm。柱穴2は径48cm、深さ35cm。覆土は黒褐色土と地山の灰黄褐色土の混入した土であった。また、暗黄褐色の粘性のある土も混入していた。

**炉** 柱穴1と柱穴2の間に焼土の固まりが検出された。断面に焼土の層があったが、炭は検出されず、炉として断定できなかった。

**遺物** 土師器高坏、鉢が出土している。

柱穴

- 1 黒褐色土 白色粒混じり。3-f層と思われる。
- 2 黒褐色土 灰黄褐色(砂質)の混入。
- 3 黒褐色土 暗黄褐色土の混入と思われる。粘性有り。

第52図 A区35号住居跡掘り方、出土遺物

A区 35号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部片 口径(18.0) 器高(3.0) 底径—	覆土	①軽石 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	椀状の坏部。口縁端部は内側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ後篋磨き。
2	土師器 鉢	口~体下部1/2 口径(9.1) 器高(7.5) 底径—	床直	①軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	短く外反する口縁。丸みをもつ体部。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋ナデ。

A区 36号住居跡 (第53・54図 PL24・25・130)

**位置** 70-0グリッド

**重複** 本住居の北西部分を平安時代のA区66号住居が掘り込んで造られている。

**形状** 本住居跡の北半分は圃場整備のため、壁、床面が重機により削平されていて、残りの状態が悪かった。そのため、本住居の形状を性格に把握することは難しかった。しかし、これまでの本遺跡の同時期の住居の調査から、形状は隅丸方形になると考える。東西方向は5.78mを測る。

**面積** (14.86)㎡

**方位** 測定できなかった。

**床面** 残りの良いところで遺構確認面から11cm掘り

込んで床面になる。床面は灰白色軽石粒の混じる黒色土に地山の灰黄褐色土が混入した土である。また、床高は78.45mを測る。床下の状況を見るとやや中央部が高く周辺部が低くなっている傾向がある。

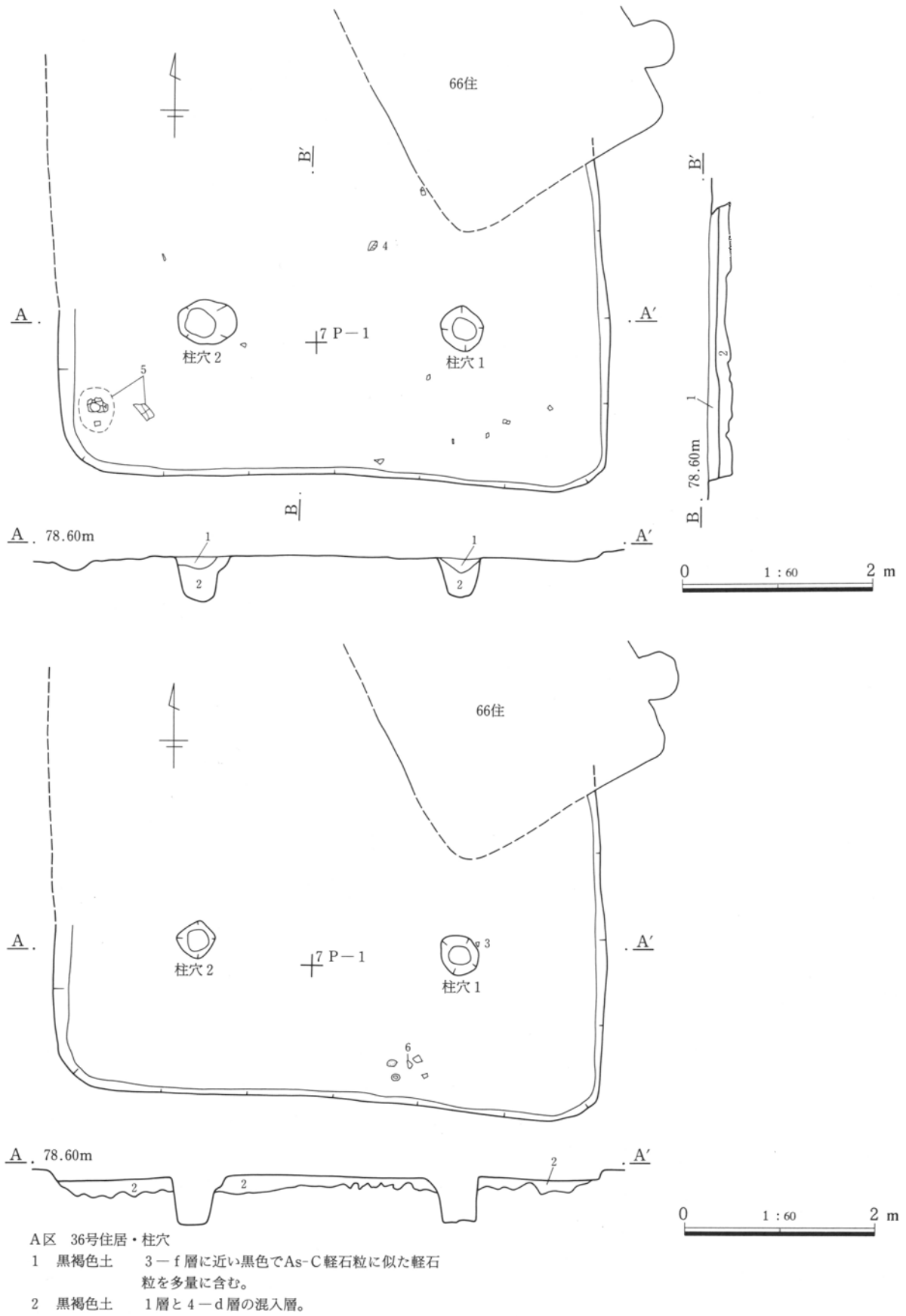
**柱穴** 柱穴1は径47cm、深さ39cm。柱穴2は径62cm、深さ46cm。覆土は軽石粒を含む黒褐色土と地山の灰黄褐色土の混入した土であった。

**炉** 検出されなかった。

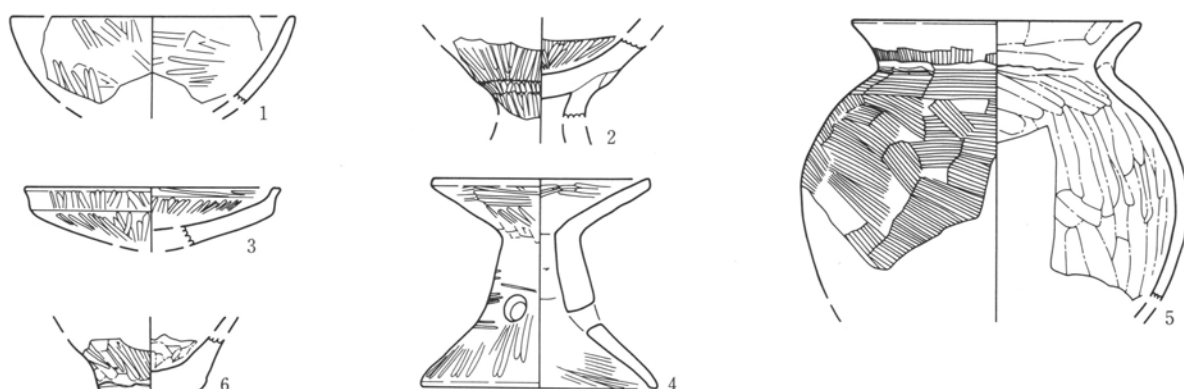
**遺物** 土師器器台、高坏、甕が出土している。

**備考** 平成9年度に本住居の南側部分の調査を行い、平成10年度に北側部分を拡張して調査を実施。

第3章 検出された遺構と遺物



第53図 A区36号住居跡、掘り方



第54図 A区36号住居跡出土遺物

## A区 36号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏?	坏部片 口径(11.0) 器高(3.5) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	碗状の坏部。口縁端部は上側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋削り後篋磨き。
2	土師器 高坏	坏部片 口径— 器高(3.3) 底径—	覆土	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	稜をもち、外反する坏部。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。
3	土師器 器台	器受部片 口径(9.8) 器高(2.4) 底径—	掘り方	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	短く外反する口縁をもつ器受部。口縁端部は上側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。
4	土師器 器台	器受部 1/4～台部 口径8.5 器高8.3 底径9.3	床直	①1～2mmの石 8mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	大きく外反する器受部。口縁端部は外側に面をもつ。脚部に円孔3あり。円孔下より外反し、裾部でやや内湾する。 外面 篋削り後篋磨き。 内面 器受部は篋磨き。脚部は篋削り。裾部はハケメ後横ナデ。
5	土師器 甕	口～胴部 口径 15.1 器高(14.7) 底径—	床直	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字状に立ち上がる口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 ナデ。
6	土師器 甕	底部 口径— 器高(3.0) 底径5.0	掘り方	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	底部から外反して立ち上がる胴部。 外面 胴部は篋削り後篋磨き。底部は篋削り。 内面 ナデ。

## A区 37号住居跡 (第55図 PL25・130)

位置 8D-0 グリッド

形状 本住居は圃場整備による削平及び攪乱によって住居の北側部分は壁、床面が残っていなかった。また、西側は調査区外にあたり、調査できなかった。僅かに南東コーナー周辺部分のみ検出することが出来た。そのため、住居の正確な形状を把握することは難しかった。しかし、これまでの本遺跡の同時期の住居の調査から、形状は隅丸方形になると考える。

面積 (7.34)m<sup>2</sup>

方位 測定できなかった。

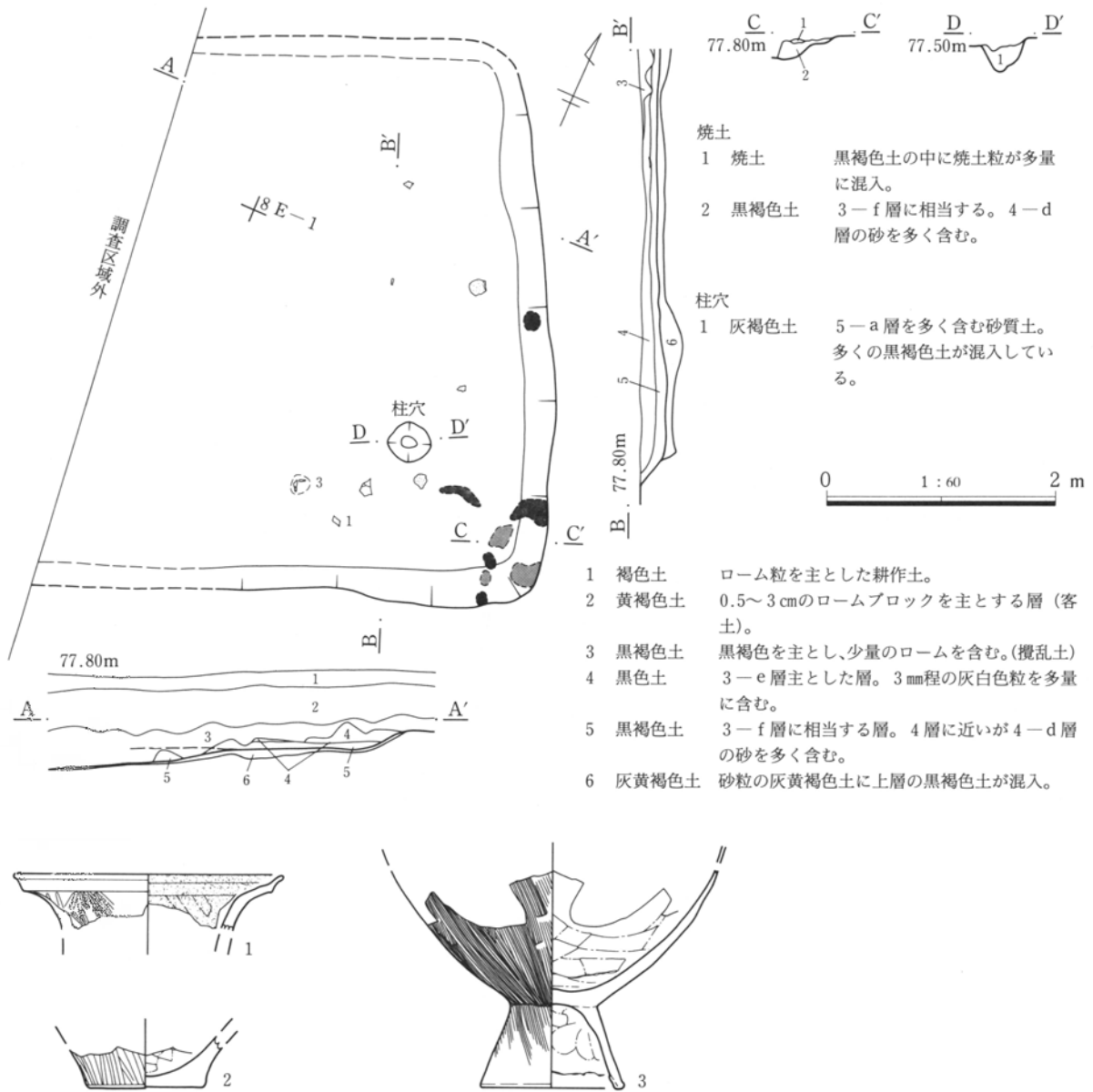
床面 残りの良いところで遺構確認面から18cm掘り込んで床面になる。床面は灰白色軽石粒の混じる黒

色土に地山の灰黄褐色土が混入した土である。また、床高は77.55mを測る。本住居の南東コーナー部の壁面から床面にかけて、炭および焼土が検出された。柱穴 柱穴1は径38cm、深さ21cm。覆土は黒褐色土と地山の灰黄褐色土の混入した土であった。炉 検出されなかった。

遺物 土師器壺や台付甕が出土している。

備考 平成9年度に本住居の南側部分の調査を行い、平成10年度に北側部分を拡張して調査を実施。

第3章 検出された遺構と遺物



第55図 A区37号住居跡、出土遺物

A区 37号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 壺	口縁部片 口径(15.6) 器高(3.2) 底径—	+15	①輝石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	外反する複合口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。内面は黒色。以下はナデ。
2	土師器 壺	底部片 口径— 器高(3.0) 底径(6.8)	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部から外反する胴部。 外面 篋磨き。 内面 ナデ。
3	土師器 台付甕	胴下部~台部 口径— 器高(12.5) 底径8.0	+10	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	台部からくの字に立ち上がる胴部。台部は折り返す。 外面 ハケメ。 内面 胴部は篋ナデ。台部はナデ。

A区 40号住居跡 (第56図 PL26)

位置 4 D-9 グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区23号住居に東側を掘り込まれ、古墳時代のA区41号住居にも南東部を掘り込まれている。

形状 本住居は2つの住居に掘り込まれているだけでなく、圃場整備による削平のため、北側部分も確認できなかった。

面積 (3.65) m<sup>2</sup>

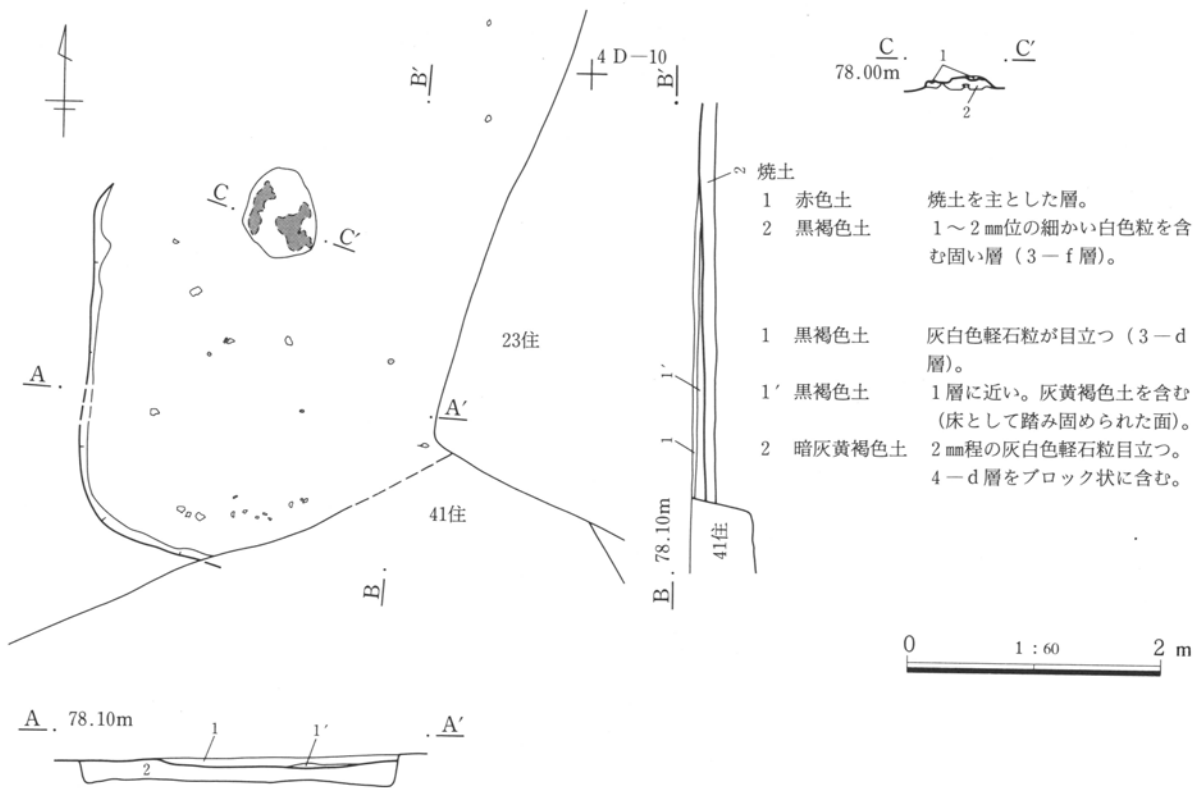
方位 測定できなかった。

床面 断面のみで床面を確認できるだけで、調査は掘り方面の調査を行った。断面に残された床面の覆土は灰白色軽石粒の混じる黒褐色土に地山の灰黄褐色土が多く混入した土である。

柱穴 検出されなかった。

炉 焼土が本住居北側部分より検出された。床面が殆ど残っていない状態では炉跡として断定することは出来ず。断面図も焼土という名称にした。

遺物 土師器の坏や甕の破片が出土している。



第56図 A区40号住居跡

A区 41号住居跡 (第57~59図 PL26・27・130)

位置 4 D-9 グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区23号住居に東側を掘り込まれ、古墳時代のA区40号住居を掘り込む。

形状 本住居は2つの住居との切り合い関係だけでなく、南側は調査区外にあたり、全貌を確認できなかった。幅47cm、深さ3cmの周溝が巡る。

面積 (16.87) m<sup>2</sup>

方位 N-24°-W

覆土 前述のA区17号住居と同様に住居覆土の上に黄橙色のHr-FAの層が掘り鉢状に残っていた。床面 遺構確認面より33cm掘り込んで床面になる。床高は78.60mを測る。床面は灰白色の軽石粒を多く含む黒褐色土を主体とした土である。床面から柱穴、ピットが検出された。床下は中央部が高く、周辺部が低く囲むようになっていた。



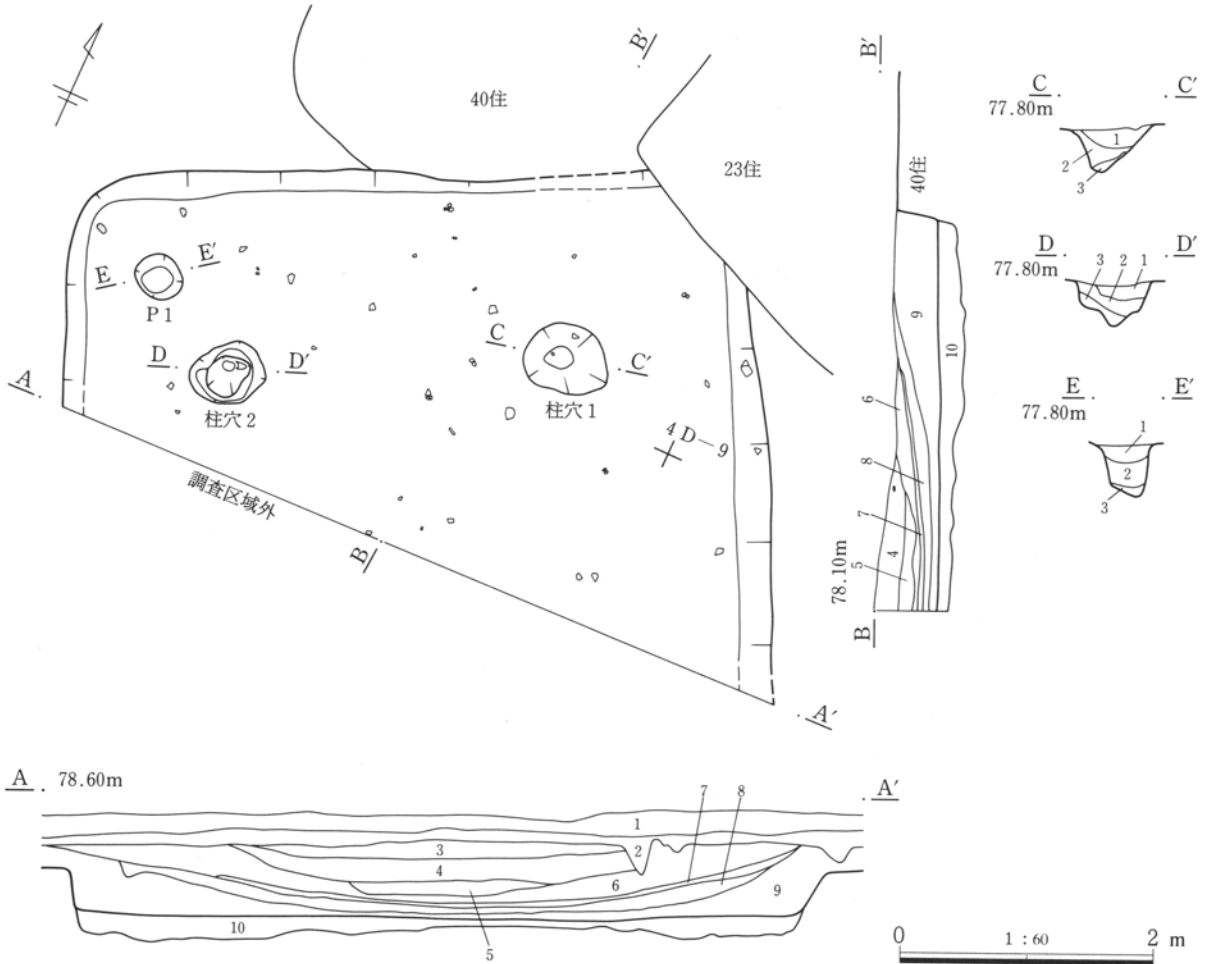
第3章 検出された遺構と遺物

**柱穴** 柱穴1は径68cm、深さ35cm。柱穴2は径61cm、深さ32cm。覆土は砂質の灰黄褐色土を多く含む黒褐色土であった。

**ピット** 径37cm、深さ40cmを測る。覆土は砂質の灰黄褐色土を多く含む黒褐色土であった。

**炉** 掘り方調査の段階で、2つの柱穴の間に炭と焼土が検出された。断面を確認した際に炭と焼土が層になっていた。検出した位置も考慮し、炉跡として記載しておくことにする。

**遺物** 土師器甕類が出土している。



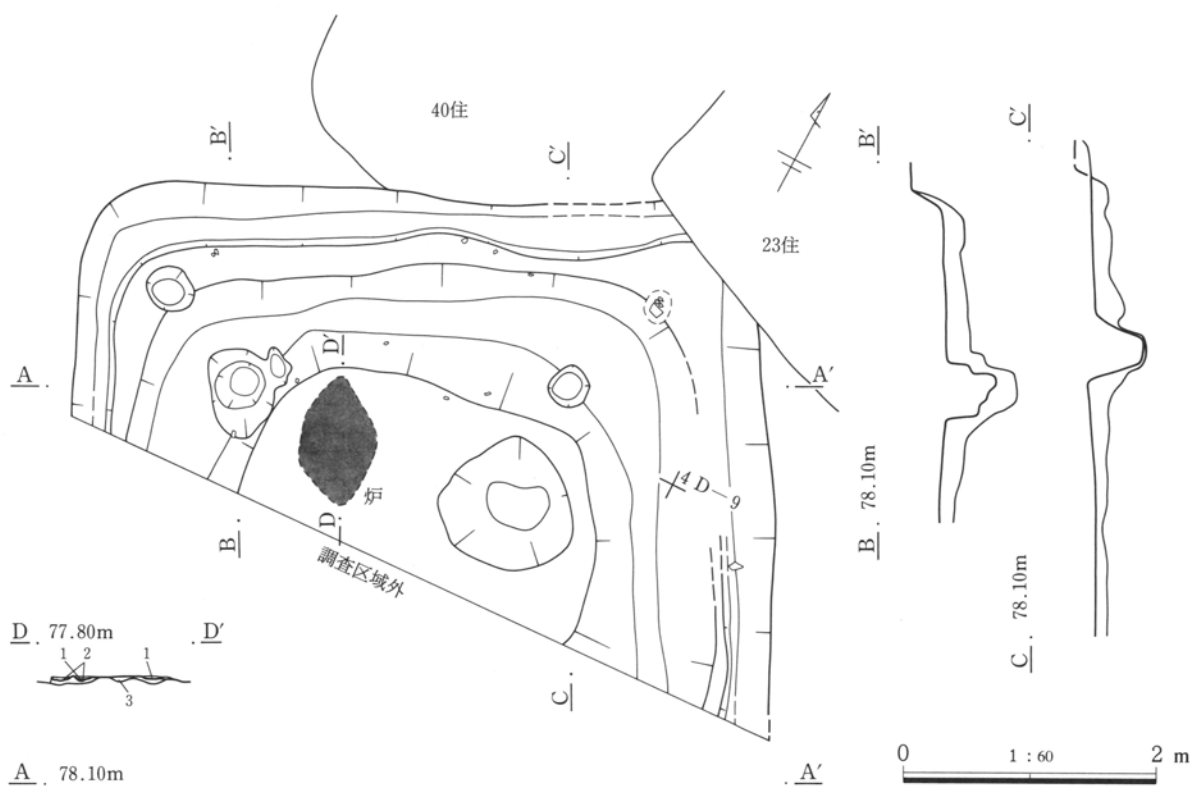
- |          |   |
|----------|---|
| 1 褐色土    | 耕作土 (1-a層)。                                       |
| 2 褐色土    | 2層よりやや黒色が強い (1-b層)。                               |
| 3 黒色土    | 細かい灰白色粒が混入。                                       |
| 4 黒褐色土   | 褐色の砂粒、灰白色軽石粒を含む (3-c層)。                           |
| 5 黒褐色土   | 4層と同じ成分である。赤色の鉄分と思われる粒子を多く含む。                     |
| 6 黒褐色土   | 白色粒とHr-FAの塊が混入。                                   |
| 7 黄橙色土   | Hr-FAの層 (3-d層)。                                   |
| 8 黒色土    | 灰白色軽石粒が多く含まれる (3-e層)。                             |
| 9 黒褐色土   | 黄橙の大きい粒、白色粒を含む。                                   |
| 10 灰黒褐色土 | 黒褐色土中に多くの4-d層の灰黄褐色土を含む層。4-d層をブロック (1cm内外) 状に多く含む。 |

柱穴・Pit

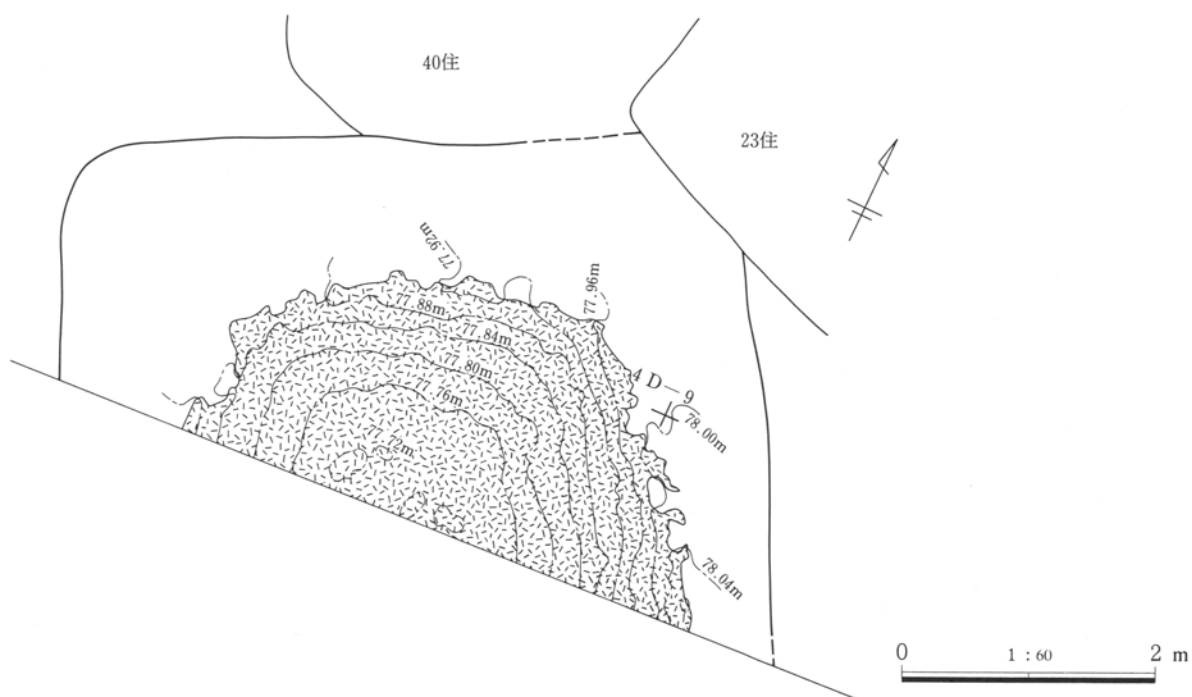
- |        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 砂質。1mm以下の砂を主とし、全体に均一。                 |
| 2 黒褐色土 | 砂質。1層に近いがやや黒色を帯びている。少量の炭 (1cm以下) を含む。 |
| 3 黒褐色土 | 砂質。1層に近いが砂質部分が多い。4-d層の灰黄褐色土の砂粒を多く含む。  |

第57図 A区41号住居跡

1. 古墳時代の遺構と遺物



- 炉
- |         |                            |
|---------|----------------------------|
| 1 黑色土   | 多くの炭を含む。                   |
| 2 赤褐色土  | 焼土粒を主とした層。                 |
| 3 灰黄褐色土 | 4-d層の灰黄褐色土を主とし、少量の黒褐色土を含む。 |



第58図 A区41号住居跡掘り方、FA出土状況

第3章 検出された遺構と遺物

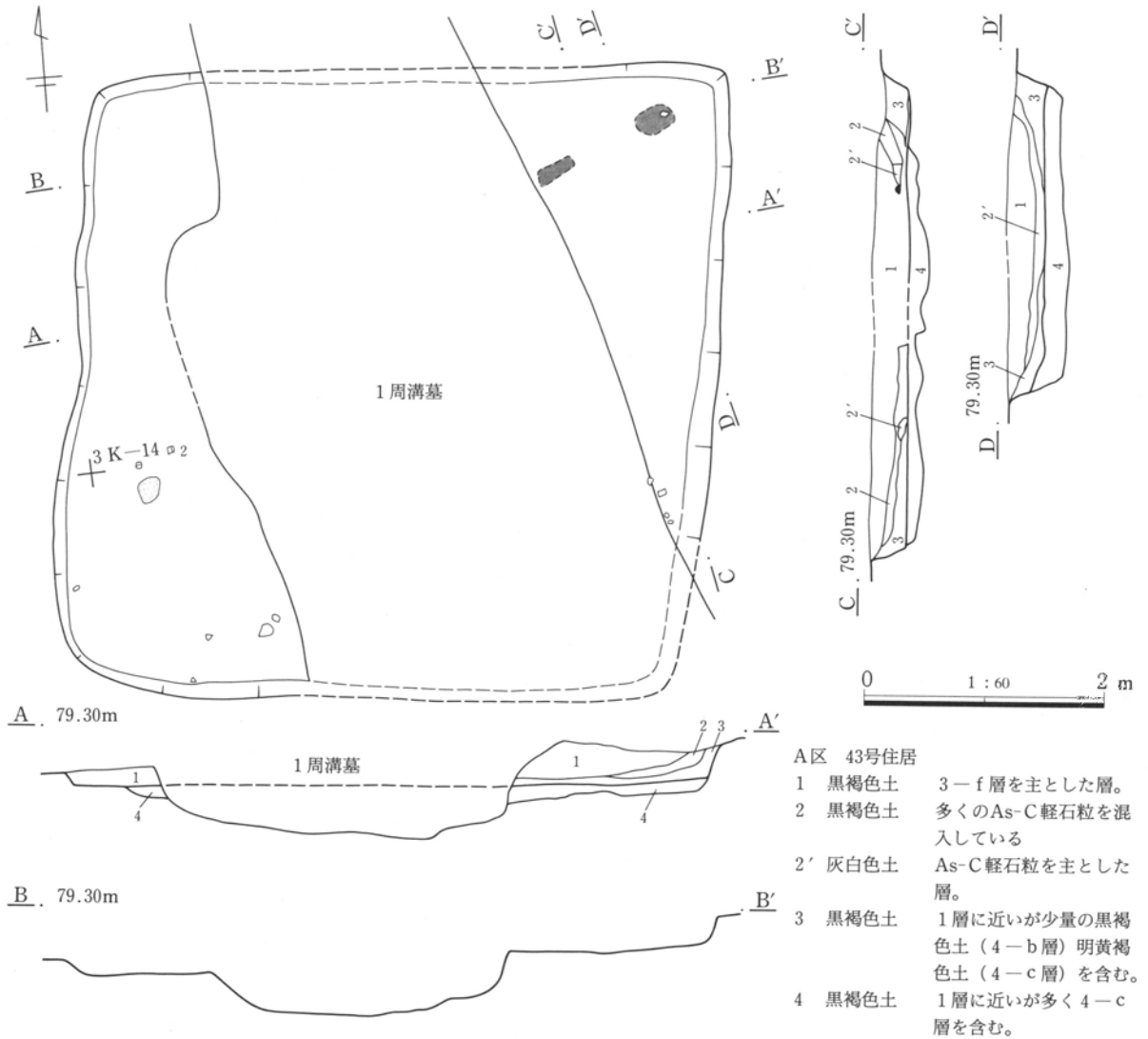


第59図 A区41号住居跡出土遺物

A区 41号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 甕	口縁部片 口径(11.5) 器高(2.5) 底径—	覆土	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	頸部はくの字に屈曲する。口縁端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。 内面 口縁は横ナデ。
2	土師器 甕	口縁部 1/3 口径(21.6) 器高(5.7) 底径—	覆土	①石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部はくの字に屈曲する。口縁端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。

A区 43号住居跡 (第60・61図 PL27・28・130)



第60図 A区43号住居跡

1. 古墳時代の遺構と遺物

位置 3 J-14グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区1号方形周溝墓に中央部を掘り込まれている。本住居はこの遺跡の中でも珍しい、周溝墓に掘り込まれている住居である。

形状 本住居は中央部を周溝によって切られているため、住居の全貌が検出できたわけではないが、隅丸方形を呈すると考える。東西方向5.33m、南北方向5.16mを測る。

面積 (27.81)m<sup>2</sup>

方位 N-6°-W

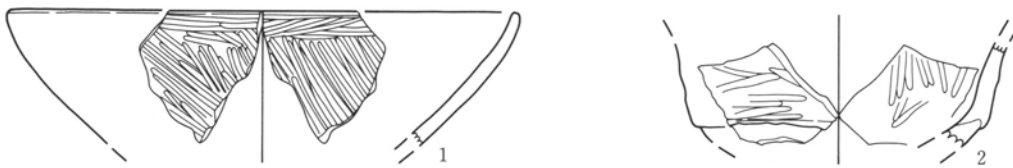
覆土 本住居の土層断面上の黒褐色土の下層にAs-C軽石粒が4.5cmの厚さをもって挿り鉢状に混入している。

床面 残りの良いところで遺構確認面から30cm掘り込んで床面になる。床高は78.78mを測る。床面は灰白色軽石粒の混じる黒褐色土に地山の明黄褐色土が多く混入した土である。

柱穴 検出されなかった。

炉 検出されなかった。

遺物 土師器の高坏が出土している。



第61図 A区43号住居跡出土遺物

A区 43号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部片 口径(20.2) 器高(5.3) 底径—	覆土	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	碗状の坏部。端部はやや内湾する。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。
2	土師器 高坏	坏部片 口径— 器高(4.2) 底径—	床直	①2~3mmの石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	稜をもち外反する坏部。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。

A区 44号住居跡 (第62・63図 PL28・29・130)

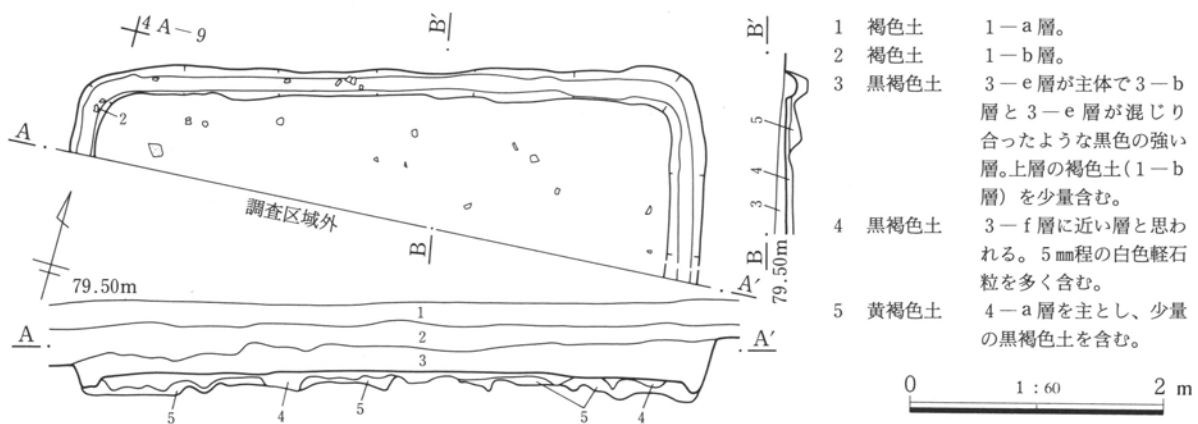
位置 3 T-8グリッド

形状 本住居の大部分は調査区外のため、発掘調査ができたのは、北壁付近のみであった。東壁北壁西壁の内側に幅25cm、深さ9cmの周溝が巡っていた。東西方向5.02mを測る。

面積 (6.37)m<sup>2</sup>

方位 N-14°-W

床面 遺構確認面ですでに床面になってしまった。床高は78.30mを測る。床面は灰白色軽石粒の混じる黒色土に地山の黄褐色土が混入した土である。



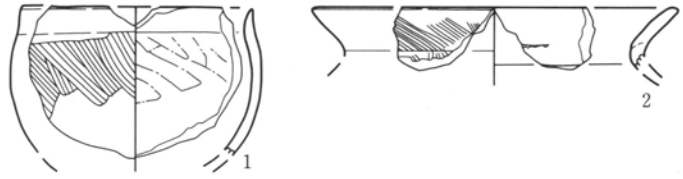
第62図 A区44号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

炉 検出されなかった。

遺物 土師器の鉢、甕が出土している。



第63図 A区44号住居跡出土遺物

A区 44号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 鉢	口～体部片 口径(9.3) 器高(6.0) 底径—	覆土	①軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	丸みのある体部。口縁はやや内湾する。端部は内側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
2	土師器 甕	口縁部片 口径(19.2) 器高(3.2) 底径—	床直	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	口縁はくの字に外反する。内側に折り返しをもつ。 外面 ハケメ後横ナデ。 内面 横ナデ。

A区 68号住居跡 (第64・65図 PL29・30・130)

位置 3 I-19グリッド

重複 本住居は近世のA区17号溝に中央部を掘り込まれている。

形状 本住居の南半分は調査区内に地域住民の生活道路があり、発掘調査する事ができなかった。東西方向5.13m、南北方向(3.88)mを測り、隅丸方形を呈すると考える。

面積 (19.18)m<sup>2</sup>

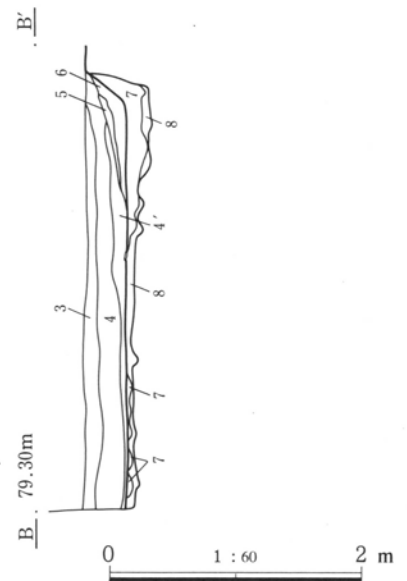
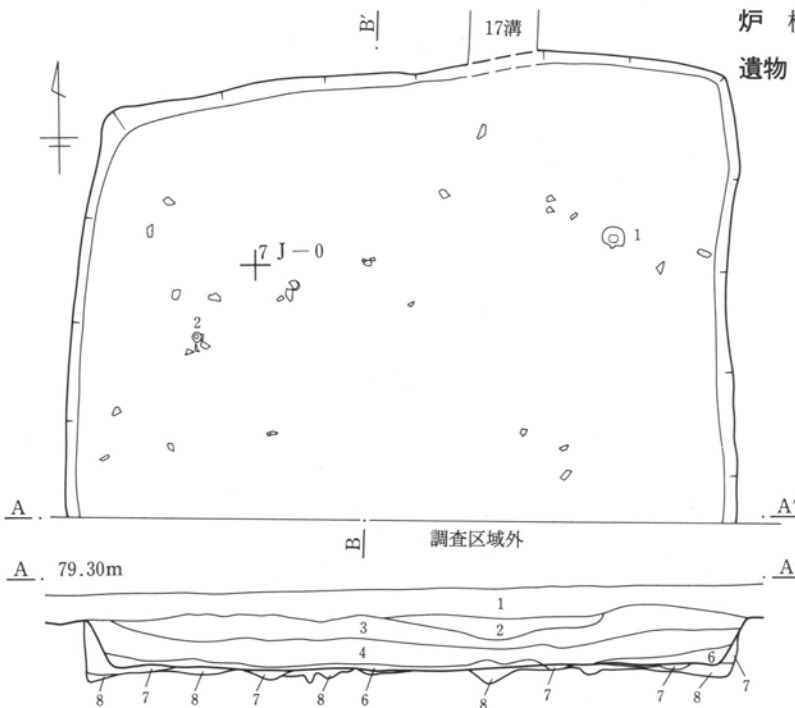
方位 N-7°-W

床面 残りの良いところで遺構確認面から36cm掘り込んで床面になる。床高は78.58mを測る。床面は軽石粒の混じる黒色土に砂質の灰黄褐色土が多く混入した土である。床下は壁面に近いところが低くなり、住居の中央部が高くなっていた。

柱穴 本住居の北壁近くに柱穴1と柱穴2を検出した。柱穴1は径65cm、深さ40cm。柱穴2は径55cm、深さ44cm。覆土は地山の灰黄褐色土にやや黒色土が混入した土である。

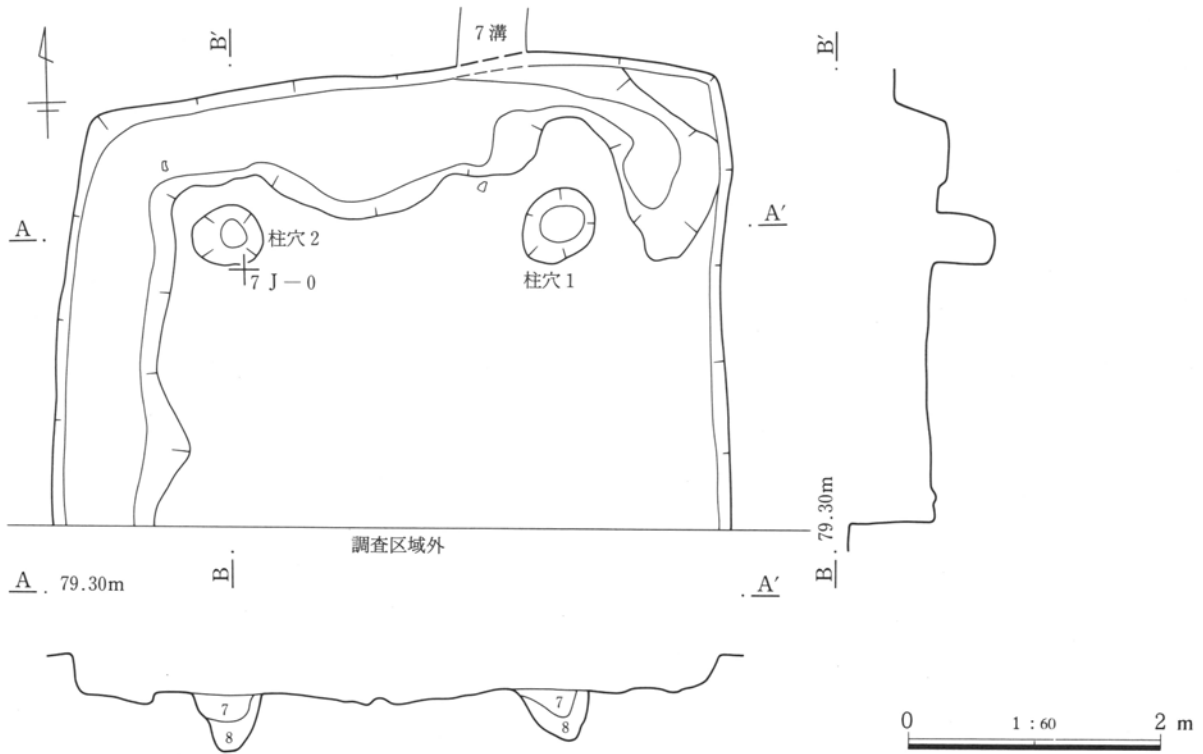
炉 検出されなかった。

遺物 土師器の壺や台付甕が出土している。



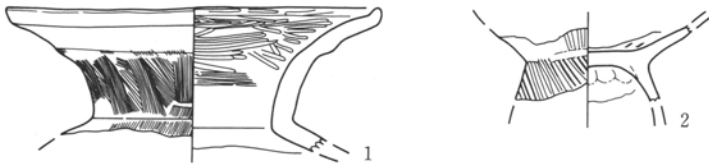
第64図 A区68号住居跡

1. 古墳時代の遺構と遺物



A区 68号住居・柱穴

- |        |  |         |                                     |
|--------|--|---------|-------------------------------------|
| 1 褐色土  | 草の根や細かい灰白色粒、橙色の粒の混入した土。耕作土と思われる（1-a層）。 | 4' 黒褐色土 | 上位の4層に近いが、黄褐色の成分が多く含まれている。          |
| 2 褐色土  | 草の根殆どなし。上位の1層よりも黒色が強い（1-b層）。           | 5 黄褐色土  | 黄褐色の粒が集中している層（3-d層）。                |
| 3 黒褐色土 | 灰白色軽石粒多量に含まれている（3-b層）。                 | 6 黒色土   | 上位の灰白色軽石粒よりも大粒な灰白色軽石粒が含まれている（3-f層）。 |
| 4 黒褐色土 | 3mm前後の褐色の砂粒を多く含む。また鉄分の塊を多く含む（3-c層）。    | 7 灰褐色土  | 砂質。橙色の大きな塊を含む。やや黒色土が混入。             |
|        |  | 8 灰褐色土  | 7層に似ているが黒色が薄い。                      |



第65図 A区68号住居跡掘り方、出土遺物

A区 68号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	土師器 壺	口～頸部片 口径19.6 器高(7.6) 底径—	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	頸部から直立気味に立ち上がり、上半は大きく外反し、端部は再び直立気味に立ち上がる複合口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下ハケメ後磨き。
2	土師器 台付甕	接合部片 口径— 器高(4.0) 底径—	+8	①輝石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	台部からくの字に立ち上がる胴部。口縁はやや内湾する。 外面 ハケメ。 内面 底部に窺あて痕。接合部に多くの砂粒。

**B区 3号住居跡** (第66・67図 PL30・130)

**位置** 6L-2グリッド

**重複** 本住居は北壁及び北西部分を古墳時代のB区1号方形周溝墓によって掘り込まれている。また、西壁の南よりから南東コーナーにかけて近世のB区8号溝に掘り込まれている。

**形状** 本住居は方形周溝墓や溝によって掘り込まれ、遺存の状態が良くないが、隅丸方形を呈すると考える。

**面積** (18.46)㎡

**方位** 測定できなかった。

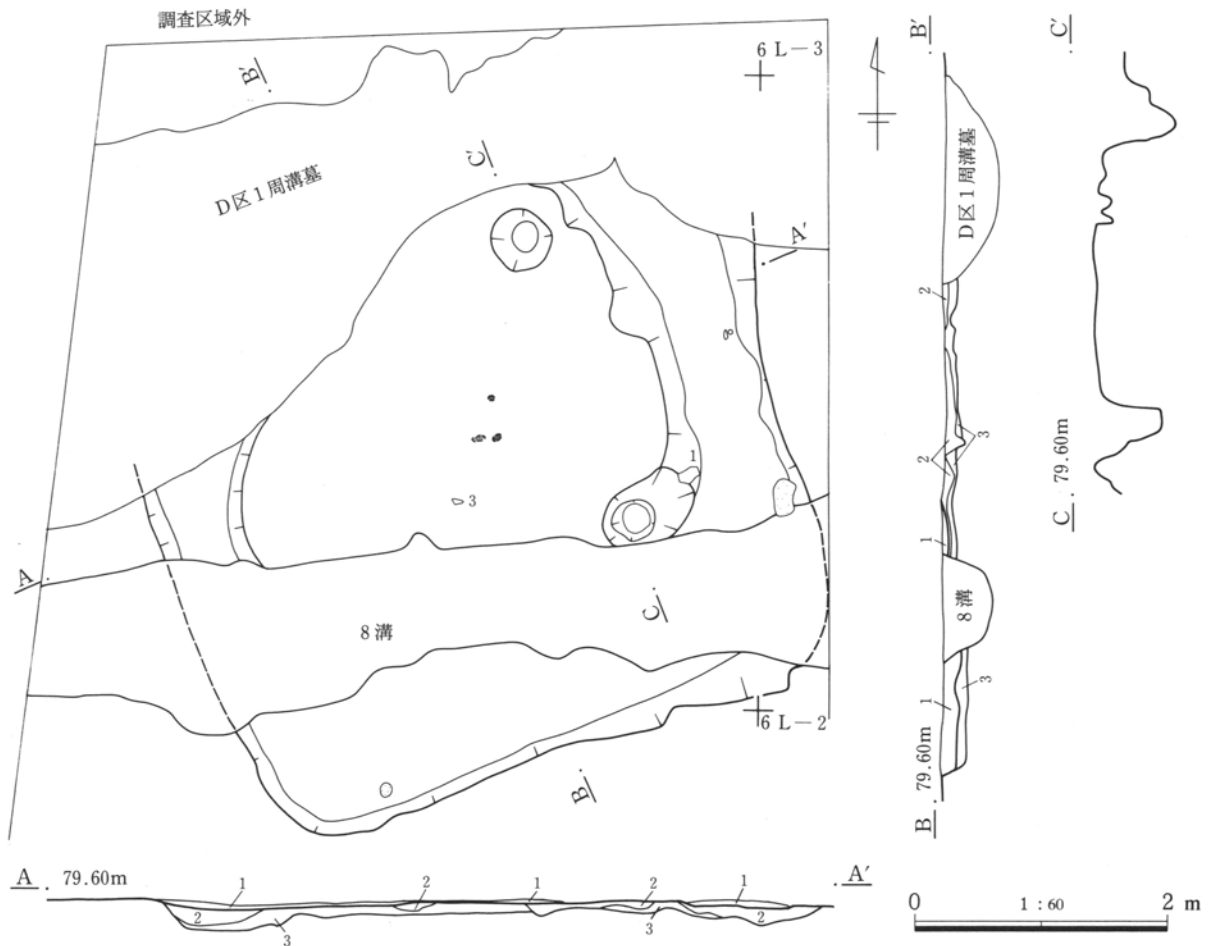
**床面** 残りの良いところで遺構確認面から11cm掘り込んで床面になる。床高は79.45mを測る。床面は軽

石粒の混じる黒色土に砂質の灰黄褐色土が多く混入した土である。住居の中央部はやや高くなっていて、しかも踏み固められたような硬さをもつ。掘り方面では周辺部はやや低い。

**柱穴** 本住居の東壁近くに柱穴1と柱穴2を検出した。柱穴1は径48cm、深さ41cm。柱穴2は径78cm、深さ56cmを測る。覆土は地山の灰黄褐色土にやや軽石粒を含む黒色土が混入した土である。

**炉** 床面中央部で黒色が強く、焼土も含む箇所を検出したが、状態が悪く、炉として断定できなかった。

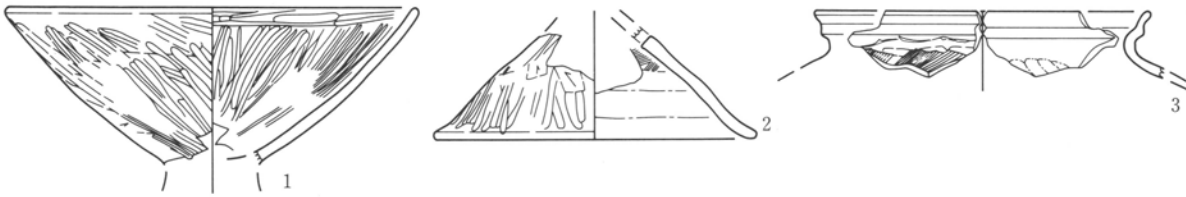
**遺物** 土師器高坏、台付甕が出土している。



- 1 黒色土 やや大粒の灰白色軽石粒混入 (3-f層)。
- 2 黒褐色土 砂質上層と下層の灰黄褐色土の混じり。
- 3 灰黄褐色土 砂質。地山の灰黄褐色土に黒色土が混じる。

第66図 B区3号住居跡





第67図 B区3号住居跡出土遺物

## B区 3号住居

番号	器種	残存 法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	土師器 高坏	坏部 1/2 口径(16.2) 器高(6.0) 底径—	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③におい黄橙色	大きく外反する坏部。口縁部でやや内湾する。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横篋磨き。以下縦篋磨き。
2	土師器 高坏	脚部 1/2 口径— 器高(4.2) 底径(12.5)	覆土	①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	大きく外反する坏部。裾部は外側に面をもつ。 外面 脚部は篋削り後篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 脚部上半はハケメ。以下横ナデ。
3	土師器 台付甕	口縁部片 口径(17.8) 器高(3.4) 底径—	床直	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	やや直立気味のS字状口縁。頸部がコの字状になっている。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部は指ナデ。

## C区 6号住居跡 (第68・69図 PL31・131)

位置 2H-19グリッド

重複 本住居は北壁付近を平安時代のC区7号住居に掘り込まれている。また、北東コーナーの上端を攪乱によって切り取られている。

形状 本住居は圃場整備による削平、重複による掘り込みだけでなく、西壁から南西コーナーにかけて、生活用道路にかかっていたため、発掘調査をできなかった。そのため住居の全貌を把握するのは大変だったが、隅丸方形と考える。

面積 (17.36)㎡

方位 N-43°-W

覆土 圃場整備の削平のため住居の覆土も薄い状態であったが、遺構確認面から焼土、炭化材などが検出された。覆土は、上位の層に本来床下部分に多く含まれるブロック状の灰黄褐色土が多数混入していて、その下の層に軽石粒が含まれる黒色土で炭や焼土が混じる層になっていた。これは層位がこの遺跡の同時代の住居覆土と異なっており、人為的に被せたものと思われる。すなわち、焼失住居であると考える。

床面 残りの良いところで遺構確認面から19cm掘り込んで床面になる。床高は79.36mを測る。床面は軽

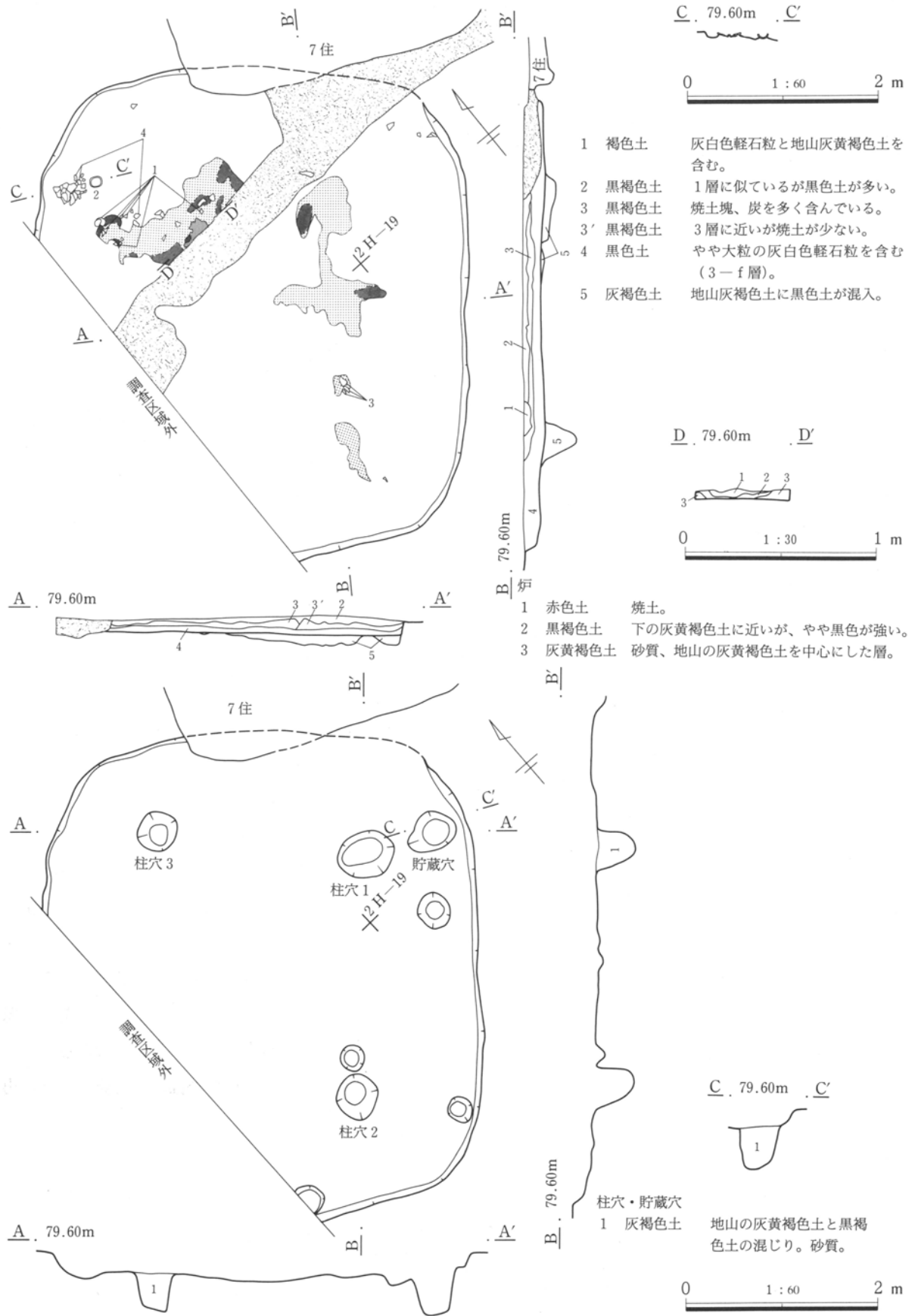
石粒の混じる黒色土に砂質の灰黄褐色土、炭が混入し、全体的に黒い土である。

柱穴 本住居の北東コーナー近くに柱穴1、南東コーナー付近に柱穴2、北西コーナー付近に柱穴3を検出した。柱穴1は径61cm、深さ37cm。柱穴2は径48cm、深さ39cm。柱穴3は径44cm、深さ40cmを測る。覆土は地山の灰黄褐色土にやや黒色土、炭が混入した土である。

貯蔵穴 北東コーナー付近に検出した。径54cm、深さ43cmを測る。覆土は地山の灰黄褐色土に黒色土、炭が混入した土である。

炉 床面中央部に北壁寄りに焼土層のある箇所を検出した。攪乱によって切り取られていて残りが悪かった。炉として断定することができなかった。

遺物 土師器の鉢、高坏の坏部、台付甕の底部が出土している。



第68図 C区6号住居跡、掘り方



第69図 C区6号住居跡出土遺物

## C区 6号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	3/5 口径(12.0) 器高 6.6 底径—	床直	①白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	口縁は短く外反する。口縁端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。体部は篋磨き。底部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ後篋磨き。以下篋ナデ。
2	土師器高坏	坏部 口径11.2 器高(5.0) 底径—	床直	①1~2mmの石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	大きく外反し、口縁部で短く内湾する坏部。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。
3	土師器高坏	坏部1/3 脚部1/3 口径 (8.8) 器高 (8.2) 底径(13.0)	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	底部に稜をもち、大きく外反する坏部。円孔のところで膨らみをもち、ラップ状に広がる脚部。円孔あり。 外面 坏部は横ナデ後篋磨き。脚部はハケメ後篋磨き。 内面 坏部は篋磨き。脚部はハケメ後篋磨き。
4	土師器台付甕	胴下部~台上部 口径— 器高(15.1) 底径—	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③灰黄褐色	台部から大きく丸みをもって立ち上がる胴部。 外面 ハケメ。 内面 胴部上半はナデ。下半は篋削り。

## C区 12号住居跡 (第70・71図 PL32・131)

位置 6H-2グリッド

重複 重複なし。

形状 本住居は北西コーナーから北東コーナー及び東壁にかけて、調査区外であったため、発掘調査をできなかった。しかし、調査できた箇所から隅丸方形を呈すると考える。東西方向5.10m南北方向 4.93mを測る。

面積 (16.70)㎡

方位 N-47°-E

覆土 覆土は、基本土層に従えば、住居覆土の上層は灰白色軽石粒を大量に含む黒色または黒褐色土であるべきだが、本来下層にあるべき明黄褐色土や砂質の灰黄褐色土がブロック状に多数混入していて、人為的に埋められたのではないと思われる。しかし、焼土はあまりなく、焼失住居とは言い難い。また床面近くには、As-C軽石粒と思われる層もあった。

床面 遺構確認面から24cm掘り込んで床面になる。

床高は79.22mを測る。床面は軽石粒の混じる黒色土に砂質の灰黄褐色土、やや炭が混入し、全体的に黒い土である。

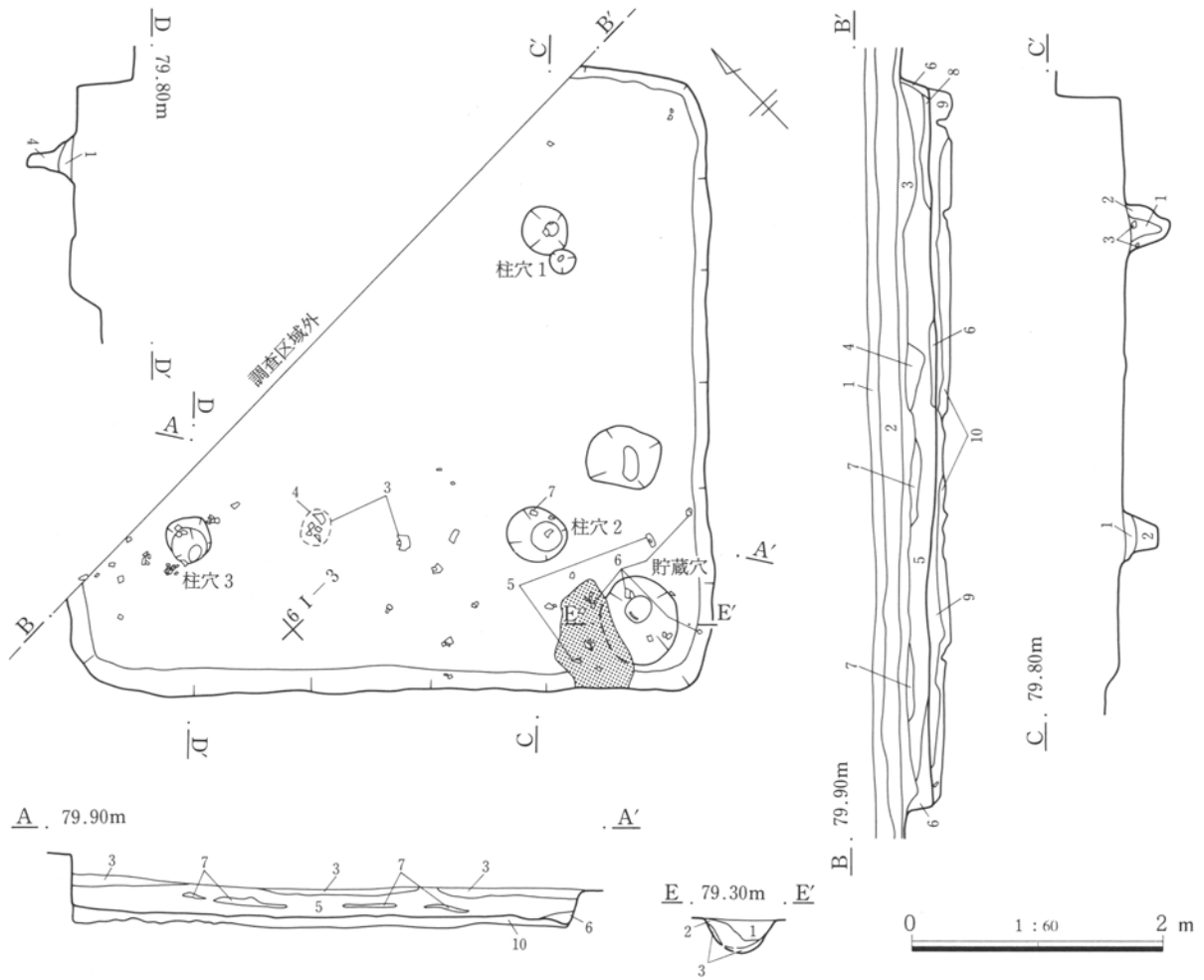
柱穴 本住居の南東コーナー近くに柱穴1、南西コーナー付近に柱穴2、北西コーナー付近に柱穴3を検出した。柱穴1は径38cm、深さ31cm。柱穴2は径47cm、深さ26cm。柱穴3は径38cm、深さ34cmを測る。覆土は黄褐色土や明黄褐色土を主にした土である。

貯蔵穴 南西コーナー付近に検出した。径71cm、深さ26cmを測る。覆土は地山の灰黄褐色土にやや炭、As-C軽石粒と思われる軽石粒が混入した土である。

炉 床面北部に炭が集中している箇所があった。断面での確認が不十分なので炉として断定することは難しい。

遺物 土師器の手捏ね土器、高坏、S字状口縁台付甕が出土している。

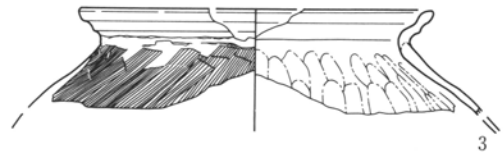
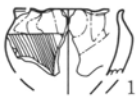
第3章 検出された遺構と遺物



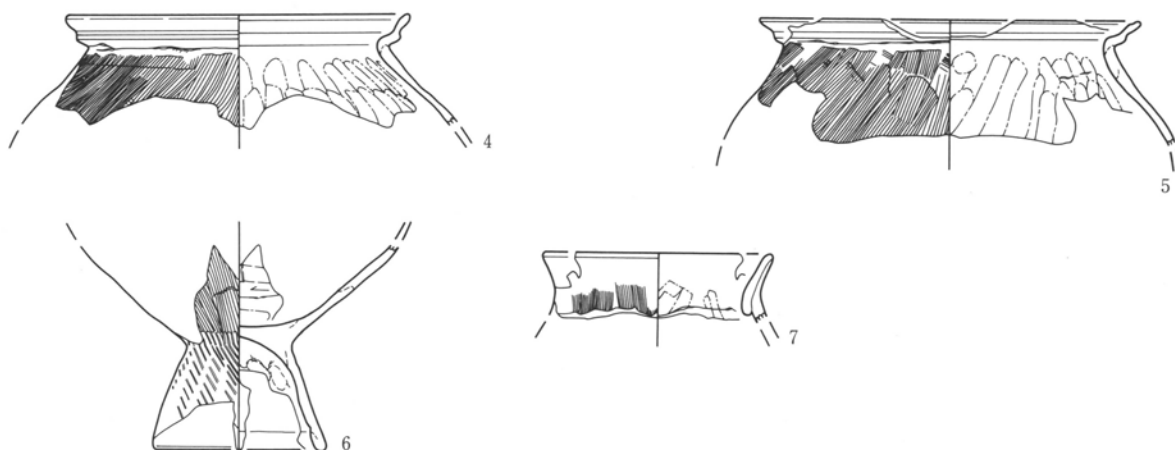
- 1 褐色土 軟質な耕作土。
- 2 褐色土 植物の根大量に含む。1層よりも黒色が強い。
- 3 黄赤褐色土 地山の明黄褐色土（4-c層）を少量含む。水田下の鉄分を多く含む層。
- 4 黒色土 3-f層に相当する層。固い。1mm以下の白色軽石粒を多く含む。
- 5 暗黄褐色土 明黄褐色土（4-c層）灰黄褐色土（4-d層）をブロック状に全体に含む層。人為的に埋められた層。
- 6 黒褐色土 4層に近い。1mm以下の白色軽石粒を多く含む。
- 7 灰黄褐色土 4-d層の灰黄褐色土を主とし、黒色土を含む。
- 8 灰白色土 As-C軽石粒を主とした層。
- 9 黒褐色土 6層に近い。灰黄褐色土が混入。
- 10 黒色土 9層よりも黒色が強い。

- 柱穴
- 1 黄褐色土 多くの黄褐色土粒と暗褐色土粒を含む軟質な層。
  - 2 黄褐色土 1層に近いがより多くの黄褐色土を含み、明るい土層。
  - 3 明黄褐色土 4-c層を主とした層のブロック。
  - 4 明黄褐色土 4-c層を主とした層中に1cm内外の小石を少量含む。

- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 大粒の灰白色軽石粒が混入。
  - 2 黒褐色土 灰白色軽石粒が大量に含まれている。
  - 3 灰黄褐色土 橙色のブロック状の塊。上位2層の黒褐色土の砂粒も含まれている。



第70図 C区12号住居跡、出土遺物(1)



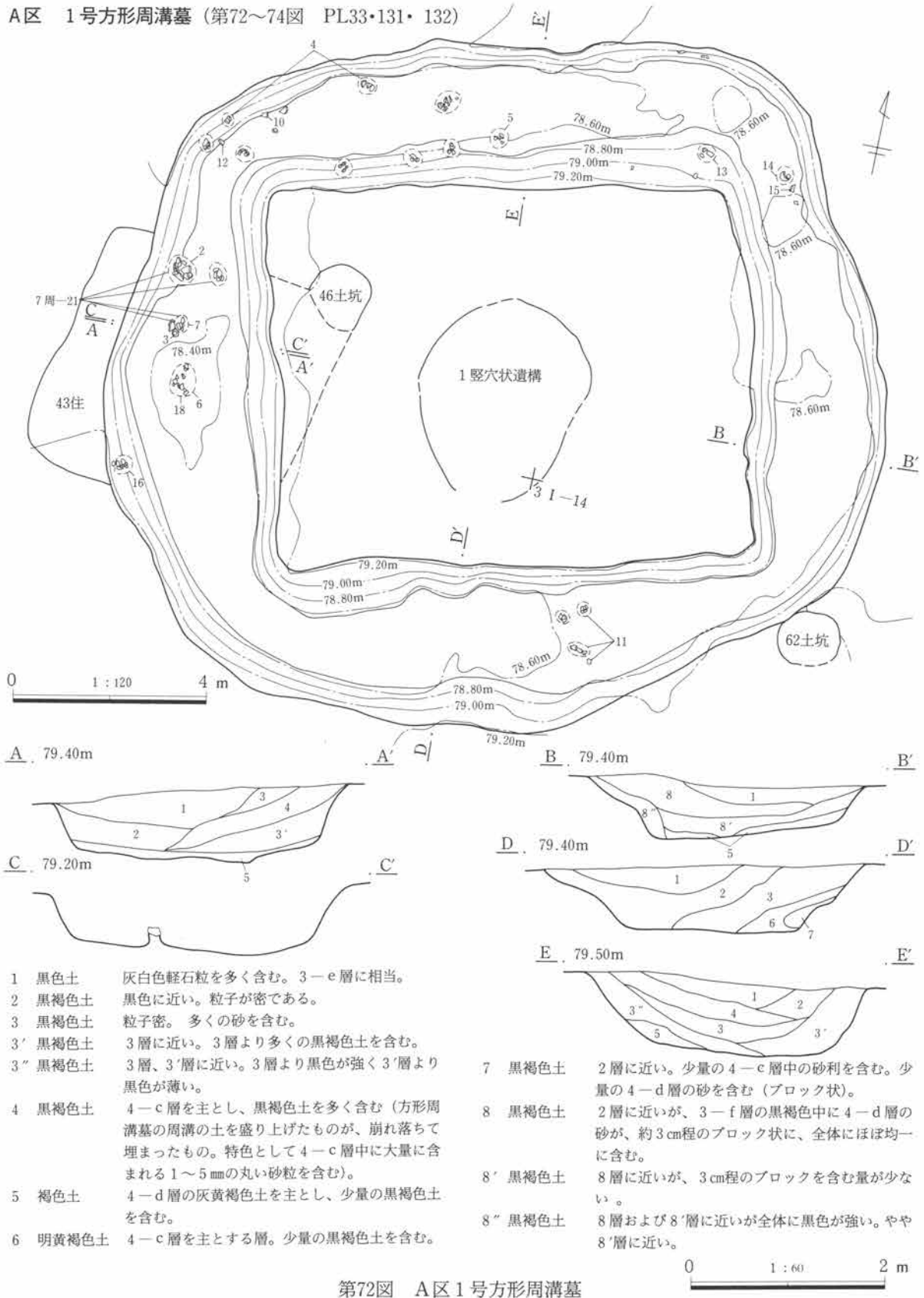
第71図 C区12号住居跡出土遺物(2)

## C区 12号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	口～体部上半 1/6 口径(4.3) 器高(2.6) 底径—	覆土	①白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③黄灰色	口縁は体部に比べ、薄手で短く外反する手捏ね土器。 外面 口縁は指ナデ。体部はハケメ。 内面 口縁は指ナデ。体部はナデ。
2	土師器高坏	坏部口縁部片 口径(15.5) 器高(2.0) 底径—	覆土	①石英、輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	大きく外反し、端部で短く内湾する坏部。 外面 横ナデ後筥磨き。 内面 横ナデ後筥磨き。
3	土師器台付甕	口～肩部 2/5 口径(18.7) 器高(5.5) 底径—	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	大きく外傾する厚手のS字状口縁。端部は上部に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
4	土師器台付甕	口～肩部 2/5 口径(18.1) 器高(6.0) 底径—	床直	①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	2段目が大きく外反するS字状口縁。端部は内側にやや面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
5	土師器台付甕	口～肩部 1/3 口径(20.2) 器高(6.6) 底径—	床直	①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	大きく外傾し、1段目がやや長めのS字状口縁。端部は上部に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
6	土師器台付甕	胴下部～台部 口径— 器高(10.9) 底径(9.0)	貯蔵穴	①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	台部からくの字状に立ち上がる胴部。台部裾は折り返す。 外面 胴部は細いハケメ。台部は粗いハケメ。 内面 胴下部は筥削り。底部は筥ナデ。接合部に砂粒多い。台部は指頭痕あり。
7	土師器甕	口縁部 1/3 口径(12.0) 器高(3.6) 底径—	柱穴	①軽石 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直立気味に立ち上がる折り返し口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部はナデ。

(2) 方形周溝墓

A区 1号方形周溝墓 (第72~74図 PL33・131・132)



第72図 A区1号方形周溝墓

位置 3G~K-13~16グリッド

重複 本周溝墓の西側周溝は古墳時代のA区43号住居、A区46号土坑を掘り込んで造られている。また、周溝の北東コーナー部は最近まで使用されたコンクリート製の井戸によって掘り込まれていた。さらに、方台部状にAs-C軽石粒を覆土に含むA区1号竪穴状遺構が検出された。

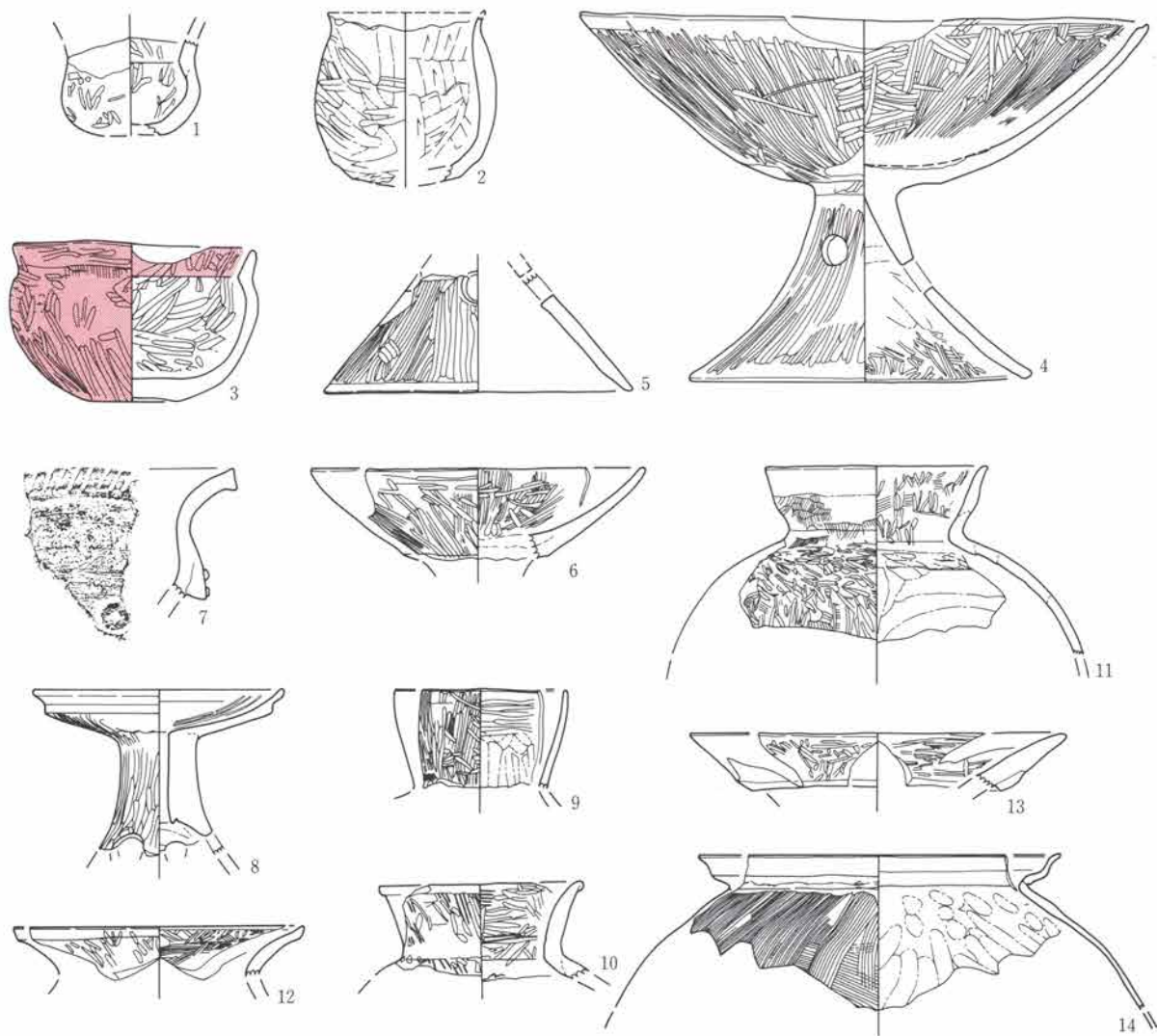
形状 周溝を含めた平面の規模は南北14.24m、東西16.04mを測る。方台部の規模は南北7.80m、東西9.82mを測る。やや長方形を呈している。

周溝 周溝は方台部の四隅がくびれる形になっていて、上端幅は1.68~3.77m、下端幅は0.72~2.56m、周溝の掘り込みの深さは42~88cmを測る。周溝の断

面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様で、逆台形状を呈する。周溝の覆土は灰白色軽石粒を多く含む黒色土が主体である。周溝の方台部に近い覆土中に地山の灰黄褐色土を多く含む土が流れ込んでいる箇所がある。これは周溝を掘る際に、掘り上げた土が崩れ落ちて埋まったものと考えられる。

主体部 主体部は方台部上を慎重に調査したが、検出できなかった。前述したように方台部の中央部からAs-C軽石粒を層状に堆積した覆土をもつA区1号竪穴状遺構が検出された。

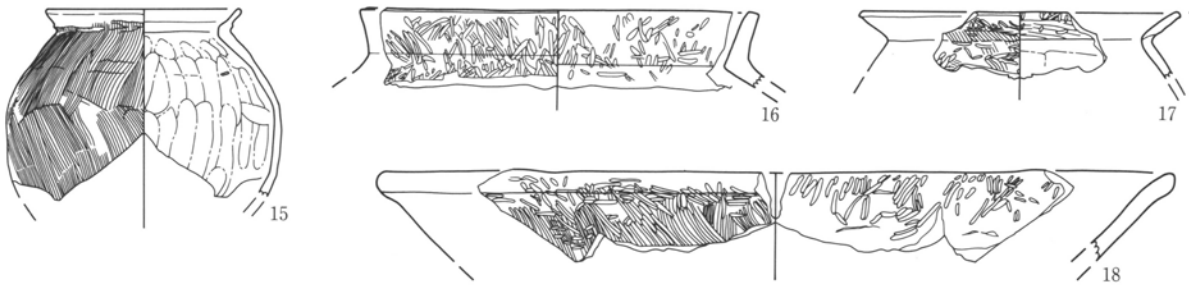
遺物 土師器鉢、器台、高坏、壺、甕が出土している。中には手捏ね土器、完形の鉢などもある。



第73図 A区1号方形周溝墓出土遺物(1)



第3章 検出された遺構と遺物



第74図 A区1号方形周溝墓出土遺物(2)

A区 1号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	口～体部 1/3 口径— 器高(4.0) 底径—	覆土	①石英 軽石 ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄色	手捏ね鉢型土器。口縁部は外反。胴部に丸みをもつ 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。
2	土師器鉢	頸～底部 1/3 口径— 器高(6.8) 底径—	周溝	①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	手捏ね鉢型土器。頸部はゆるやかに屈曲。胴部に丸みをもつ 外面 体部は斜め方向のナデの後、篋磨き。底部は横方向篋削り。 内面 縦方向を中心にした篋削り。
3	土師器鉢	完形 口径10.0 器高 6.5 底径 3.6	周溝	①粗砂 輝石 軽石多し ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄色	口縁部は外反し、口縁端部はやや内湾する。口縁端部上面は面取りしてある。胴部上位に最大径をもち、丸く底部に向ってすぼまる。 外面 口縁部は篋削り後横ナデ後篋磨き。口縁部と胴部の境界付近に縦方向のハケメあり。胴部は篋削り後篋磨き。口～胴部赤色塗彩。 内面 篋削り後篋磨き。口縁部は赤色塗彩。
4	土師器高坏	1/3 口径(23.3) 器高 14.8 底径(14.0)	周溝	①粗砂 石英 大粒軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	坏部は内湾し、口縁端部は内側に面をもつ。底部に稜あり。脚部はラップ状に開く。上半部に円孔3あり。裾部は外側に面をもつ。 外面 坏部は縦方向篋磨き、口縁部横ナデ。脚部縦方向篋磨き。 内面 坏部は縦方向を中心にした篋磨き。脚部横ハケメ後篋磨き。
5	土師器高坏	脚部 1/4 口径— 器高(4.9) 底径(12.6)	周溝	①細砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	坏部の形状は不明。脚部はラップ状に開く。円孔あり。裾部端部は丸い。 外面 縦方向を中心にした篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 全体的に横ナデ。
6	土師器高坏	坏部 1/4 口径(13.6) 器高(3.7) 底径—	周溝	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	坏部は内湾し、口縁端部は丸い。坏底部に稜をもつ。 外面 坏部口縁部は横ナデ後篋磨き。他の坏部は縦方向のハケメ後篋磨き。 内面 口縁部は横ナデ後篋磨き。
7	土師器高坏(壺?)	坏部片 口径— 器高— 底径—	周溝	①石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	くの字に屈曲し、端部に巾広い面をもつ。端部には斜め直線の刺突痕あり。口縁下部には棒状工具でつけられた円形付文あり。断面形から高坏としたが、壺の可能性もある。 外面 横ナデ後篋磨き。 内面 横ナデ後篋磨き。
8	土師器器台	器受部 1/3 脚部上半口径(10.2) 器高(6.8) 底径—	覆土	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	器受部の口縁部はやや内湾し2段になっている。脚部に円孔4。 外面 器受部口縁部は横ナデ。他の部分は篋磨き。脚部は縦方向の篋磨き。 内面 口縁部は横ナデの後、篋磨き。脚部内面に絞り込みあり。
9	土師器壺	口縁部 1/4 口径(9.4) 器高(5.4) 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	口縁部は直線状に立ち上がり端部に近づくにつれやや内湾し端部上面に面をもつ。 外面 口縁端部は横ナデ後篋磨き。他の部分は斜め方向のハケメ後篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ調整。上半は横方向の篋磨き。下半はナデ。
10	土師器壺	口縁部 1/3 口径(11.4) 器高(5.4) 底径—	周溝	①5mm位の小石 赤色細粒 ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	頸部でくの字に屈曲し、口縁端部近くでやや外湾し、折り返し口縁となっている。頸部に輪積み痕あり。 外面 口縁端部は横ナデ。他の部分は斜め方向のハケメ後、横ナデ後篋磨き。 内面 ハケメ後横ナデ。横ナデ後、上半は横方向の篋磨き。
11	土師器壺	口縁部～胴部 1/3 口径(12.1) 器高(10.4) 底径—	周溝	①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	口縁部は中位に段をもって肥厚しながら直立し、端部で短く外反する。口縁中位と胴部上半に輪積み痕あり 外面 口縁上半は横ナデ調整。下半～胴部にかけてハケメ後篋磨き 内面 口縁はハケメ後横ナデ調整。さらに篋磨き。胴部はナデ。

1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
12	土師器壺	口縁部片 口径(16.0) 器高(2.5) 底径—	周溝	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	やや外湾し、端部外側に面をもつ。また内側を積み上げるように面をもたせている。 外面 横ナデ後笥磨き。 内面 口縁端部は横ナデ調整。以下はハケメ後笥磨き。
13	土師器壺	口縁部片 口径(20.8) 器高(3.2) 底径—	周溝	①細砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	大きく外反する二重口縁。端部内側にやや面をもたせている。 外面 横ナデ後笥磨き。 内面 横ナデ後笥磨き。
14	土師器台付甕	口~胴上位1/3 口径(20.0) 器高(8.4) 底径—	周溝	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	2段目が大きく外傾するS字状口縁。端部は内側に面をもつ。 外面 口縁部は横ナデ調整。胴上位から斜め方向にハケメ。 内面 口縁~頸部は横ナデ調整。胴部に指頭痕、その下部は指ナデ。
15	土師器台付甕	口~胴上位1/3 口径(10.2) 器高(10.1) 底径—	周溝	①1~2mmの小石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	2段目が短く、1段目がやや外湾するS字状口縁。端部は丸い。 外面 口縁部は横ナデ調整。口縁2段目から下向に斜めハケメを施し、胴部下位から口縁に向かって斜めハケメを施す。 内面 口縁~頸部は横ナデ調整。胴部に指頭痕、その下部は指ナデ。
16	土師器甕	口縁部片 口径(21.2) 器高(3.6) 底径—	周溝	①石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	厚みがあり直立気味に立ち上がる口縁。端部に巾広い面をもつ。 外面 横ナデ後笥磨き。 内面 口縁部は横ナデ後笥磨き。頸部からはナデ後笥磨き。
17	土師器甕	口縁部片 口径(16.8) 器高(3.6) 底径—	覆土	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	くの字状に屈曲する。口縁端部は外側に面をもつ。 外面 口縁上半は横ナデ後笥磨き。それ以下はハケメ後笥磨き。 内面 口縁上半は横ナデ後笥磨き。口縁下半はハケメ後笥磨き。頸部からはナデか?
18	土師器甕	口縁部片 口径(21.0) 器高(4.7) 底径—	周溝	①2~5mmの赤い小石 ②酸化焰 軟質 ③明黄褐色	外反し、端部近くでやや外湾する。端部は丸いが、外側にやや面をもつ。 外面 上半は横ナデ後笥磨き。下半は縦ハケメ後笥磨き。 内面 上半は横ナデ後笥磨き。下半は笥磨き。

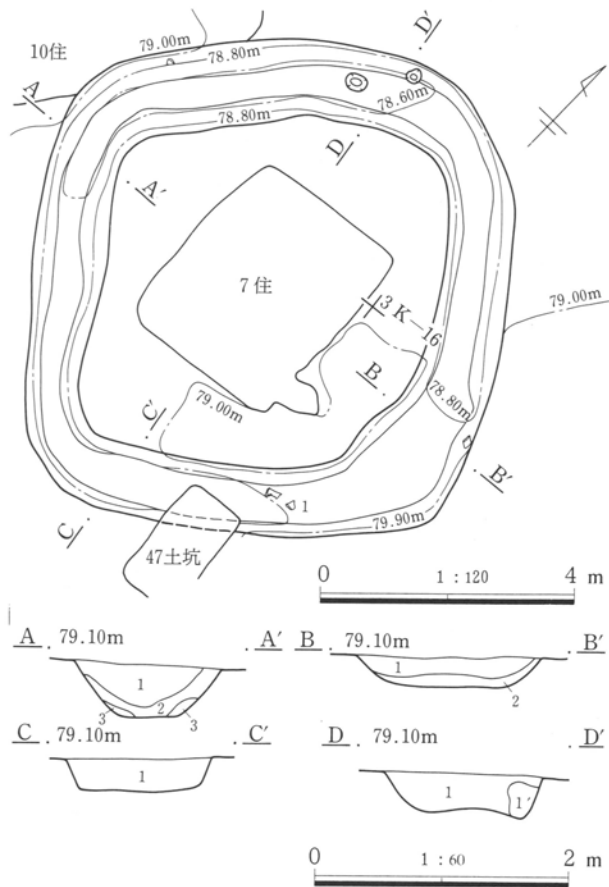
A区 2号方形周溝墓 (第75・76図 PL34・132)

位置 3J~L-15~17グリッド

重複 本周溝墓の北側周溝は古墳時代のA区10号住居を掘り込んで造られている。また、方台部上に平安時代のA区7号住居が掘り込んで造られている。また、周溝の南側を近世のA区47号土坑が掘り込む。

形状 周溝を含めた平面の規模は南北7.82m、東西7.55mを測る。方台部の規模は南北5.56m、東西5.32mを測る。ほぼ方形を呈している。

周溝 周溝は方台部の周囲をほぼ同じ幅で巡っている。上端幅は0.83~1.70m、下端幅は0.30~1.19m、周溝の掘り込みの深さは29~43cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上が



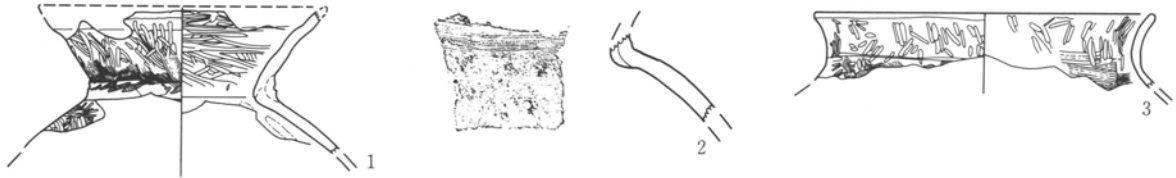
第75図 A区2号方形周溝墓

第3章 検出された遺構と遺物

りもほぼ同様で、逆台形状を呈する。周溝の覆土は灰白色軽石粒を少量含む黒色土の層及び地山の灰黄褐色砂質土を多く含む層に分けられ、方台部から地山に近い土層が流れ込んでいる箇所は認められなかった。

**主体部** 方台部上の広い範囲を平安時代のA区7号住居が掘り込んでいるため、その周辺を慎重に調査したが、主体部らしきものは検出できなかった。

**遺物** 土師器壺、甕が出土している。

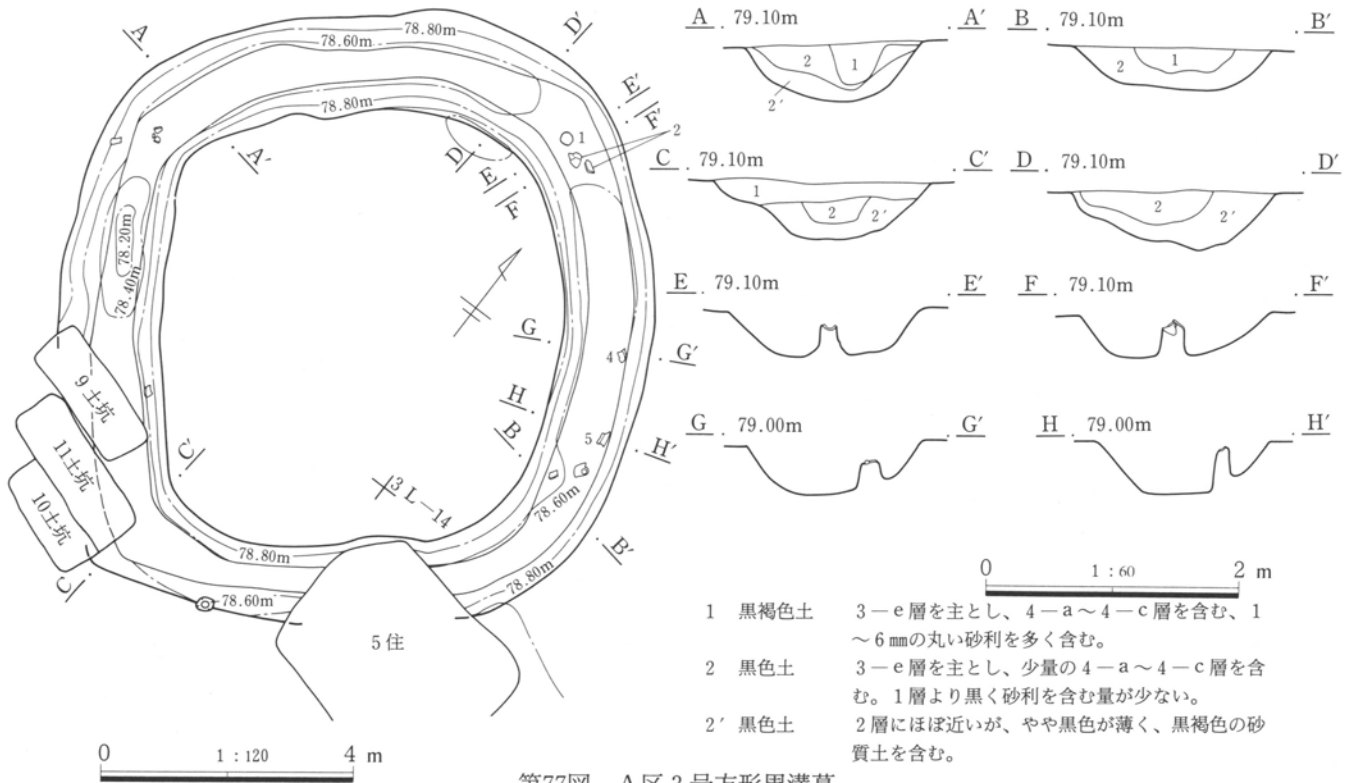


第76図 A区2号方形周溝墓出土遺物

A区 2号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器壺	口縁部片 口径— 器高(7.5) 底径—	周溝	①輝石 大粒の軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄色	頸部がくの字に屈曲している。2段階に外反している。頸部に貼り付けた突帯があり、そのなかにハケメ用具による斜めの刺突痕を入れている。 外面 口縁上半は横ナデ後笥磨き。下半はハケメ。頸部は笥磨き。 内面 口縁は笥磨き。頸部は指ナデ。
2	土師器壺	肩部片 口径— 器高一 底径—	覆土	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明褐色	肩部に12条の横線文あり。口縁はやや直立気味に立ち上がる。 外面 笥磨き。 内面 横ナデ後笥磨き。
3	土師器壺	口縁部1/4 口径(18.0) 器高(3.8) 底径—	覆土	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明黄褐色	ゆるやかに屈曲。口縁端部は面をもつ。 外面 口縁は横ナデ後笥磨き。頸部は斜めハケメ後笥磨き。 内面 口縁は横ナデ後笥磨き。頸部は横方向のハケメ。

A区 3号方形周溝墓 (第77・78図 PL35・132)



第77図 A区3号方形周溝墓

1. 古墳時代の遺構と遺物

位置 3 K～N-13～16グリッド

重複 本周溝墓の南側周溝を平安時代のA区5号住居が掘り込んで造られている。また、西側周溝を近世のA区9号、10号、11号土坑が掘り込んでいる。

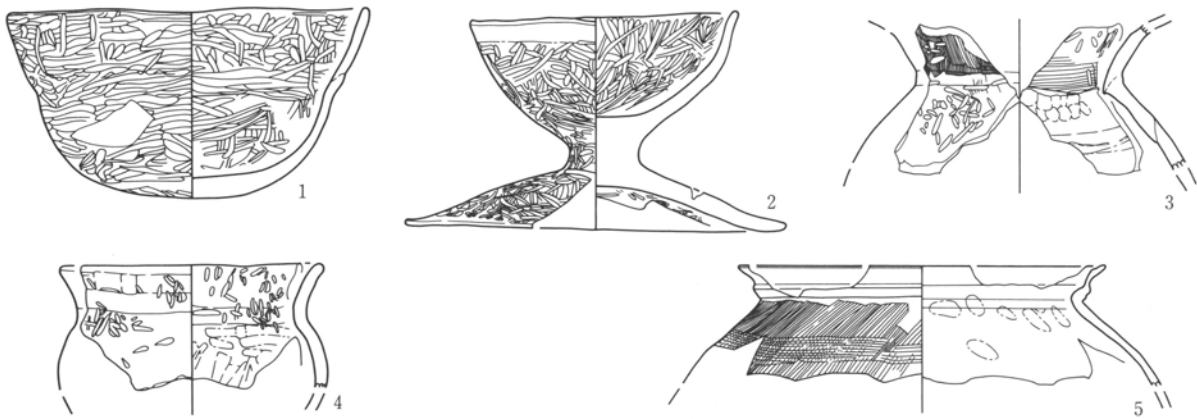
形状 周溝を含めた平面の規模は南北9.56m、東西9.40mを測る。方台部の規模は南北6.70m、東西6.44mを測る。やや北側に丸みをもつが、ほぼ方形を呈している。

周溝 周溝は方台部の周囲をほぼ同じ幅で巡っている。上端幅は1.10～1.63m、下端幅は0.39～0.91m、

周溝の掘り込みの深さは35～75cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもなだらかで椀状を呈する。周溝の覆土は灰白色軽石粒を含む黒色土が主体であった。地山に近い土層が方台部から流れ込んでいる箇所は確認できなかった。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、検出できなかった。

遺物 土師器坏、高坏、壺、甕が出土している。中にはほぼ完形の坏もある。



第78図 A区3号方形周溝墓出土遺物

A区 3号方形周溝墓

番号	器種	残存 方法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 埴	ほぼ完形 口径14.1 器高7.5 丸底	周溝	①輝石 2～3mmの赤い石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	体部は椀状に丸く、口縁はやや内湾しながら、立ち上がる。口縁端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ後磨き。体部はハケメ後磨き。 内面 口縁は横ナデ後磨き。体部は磨き。
2	土師器 高坏	脚部一部欠損 口径10.6 器高8.4 底径15.2	周溝	①輝石 石英 2～3mmの赤い石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	少し深い椀型の坏部。裾が大きく開き、低い脚部。口縁端部はやや外反し、丸い。 外面 口縁端部付近は横ナデ。坏部～裾部まで磨き。裾端部は横ナデ後磨き。体部はハケメ後磨き。 内面 坏部は磨き。脚部も磨き。裾端部は横ナデ後磨き。
3	土師器 壺	頸部片 口径— 器高(8.5) 底径—	覆土	①細砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	頸部がくの字に屈曲し、口縁はやや外湾する。内面肩部に2条の輪積み痕あり。 外面 ハケメ後磨き。上半はハケメ痕が目立ち、下半は磨き痕が目立つ。 内面 上半はハケメ後横ナデ。さらに磨き。下半は指頭痕があり、ナデ調整。
4	土師器 壺	口縁～肩部1/5 口径(13.6) 器高(6.0) 底径—	周溝	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	口縁部の下半が直線状に立ち上がり、上半で外反する。端部は丸い。肩部は丸みをもつ。 外面 口縁部は横ナデ後磨き。上半は横ナデ痕が目立つ。肩部は磨き。 内面 口縁部は横ナデ後磨き。肩部上半は横ナデ。下半は縦方向の削り痕あり。
5	土師器 台付甕	口～肩部1/5 口径(19.4) 器高(6.4) 底径—	周溝	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③黄灰色	口縁部の2段目がくの字状に屈曲し、1段目がやや長めに外湾するS字状口縁。端部上面にやや面をもつ。 外面 口縁部は横ナデ調整。口縁2段目から下向に斜めハケメを施し、肩部に横ハケメを施す。 内面 口縁～頸部は横ナデ調整。肩部に指頭痕、その下部は指ナデ。

第3章 検出された遺構と遺物

A区 4号方形周溝墓 (第79・80図 PL36・132・133)

位置 3O～R-12～14グリッド

重複 本周溝墓の方台部を含めた西側部分は近世のA区8号溝に掘り込まれている。

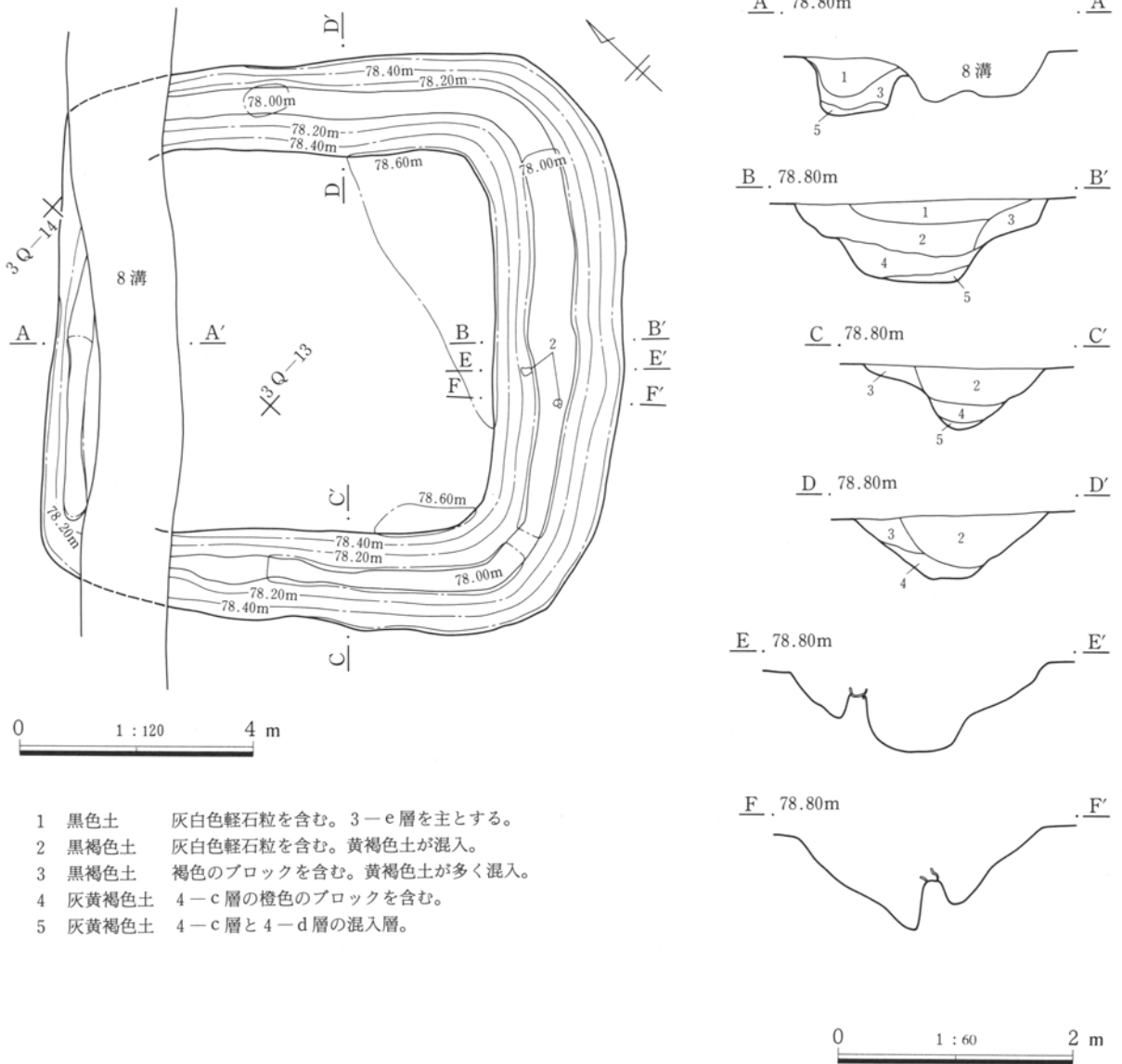
形状 周溝を含めた平面の規模は南北9.76m、東西9.72mを測る。方台部は西側部分を近世の8号溝に掘り込まれているので、方台部の東西方向は計測できなかった。南北方向は6.45mを測る。方形を呈する。

周溝 周溝はほぼ同じ幅で方台部の周囲を巡っている。上端幅は1.30～2.24m、下端幅は0.20～0.84m、周溝の掘り込みの深さは46～73cmを測る。周溝の断

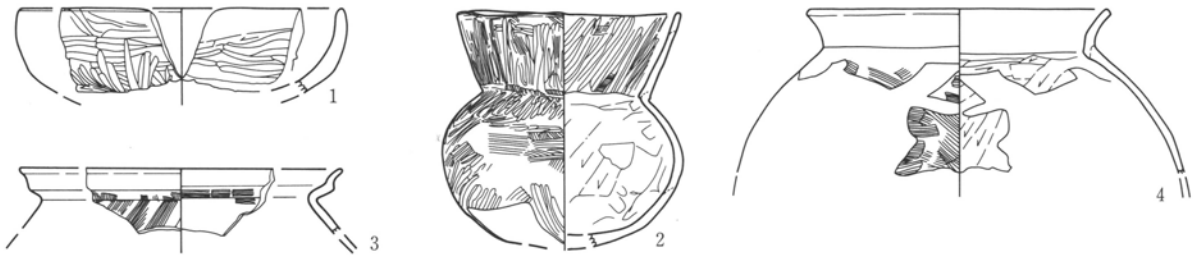
面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様で、逆台形状を呈する。周溝の覆土は灰白色軽石粒を含む黒色土と地山の灰黄褐色土との混入の比率によって層位を分けることができる。なお、西側の周溝そのものは近世のA区8号溝に掘り込まれているため、残りが悪かった。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、主体部及び土坑状のものも検出できなかった。

遺物 土師器鉢、壺、甕が出土している。中にはほぼ完形の小型壺がある。



第79図 A区4号方形周溝墓



第80図 A区4号方形周溝墓出土遺物

A区 4号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	土師器鉢	口～体部片 口径 12.8 器高(3.2) 底径—	覆土	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	口縁部は碗状に丸く、やや内湾しながら立ち上がる。口縁端部は丸い。 外面 口縁上半は横ナデ。下半は篋磨き。以下は篋磨き。 内面 口縁上半は横ナデ。下半から篋削り後篋磨き。
2	土師器壺	ほぼ完形 口径 12.0 器高(12.5) 底径—	周溝	①細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	口縁部は直線状に長く立ち上がり、端部に近づくにつれ、やや内湾する。胴部中程に最大径をもち、丸い。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。胴部中程は篋磨きをあまり入れず、ハケメ痕が目立つ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下の口縁部はハケメ後篋磨き。胴部は篋削り。
3	土師器台付甕	口縁部片 口径(17.0) 器高(3.2) 底径—	覆土	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	口縁部の2段目がくの字状に屈曲し、1段目が直上気味に立ち上がり、やや外反するS字状口縁。端部は外側に肥厚し、丸い。 外面 口縁部は横ナデ調整。口縁2段目の中程から下向に斜めハケメを施している。 内面 口縁部は横ナデ調整。頸部にハケメ痕残る。
4	土師器甕	口縁部片 口径(16.2) 器高(8.7) 底径—	覆土	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③明褐色	口縁部は直線状に短く立ち上がり、上半で外反する。端部は外向きに面をもつ。肩部は丸みをもち、張り出す。 外面 口縁部は横ナデで頸部まで調整。肩部から小さい単位ハケメが入る。 内面 口縁部は横ナデ。頸部から下は篋削り。

A区 5号方形周溝墓 (第81・82図 PL37・133)

位置 3Q～T-10～13グリッド

重複 本周溝墓の西側周溝は平安時代のA区7号溝、近現代のA区2号溝に、周溝南西コーナーを近世のA区4号溝に掘り込まれている。また、方台部西側を近世のA区8号溝、近世のA区5号土坑によって掘り込まれている。

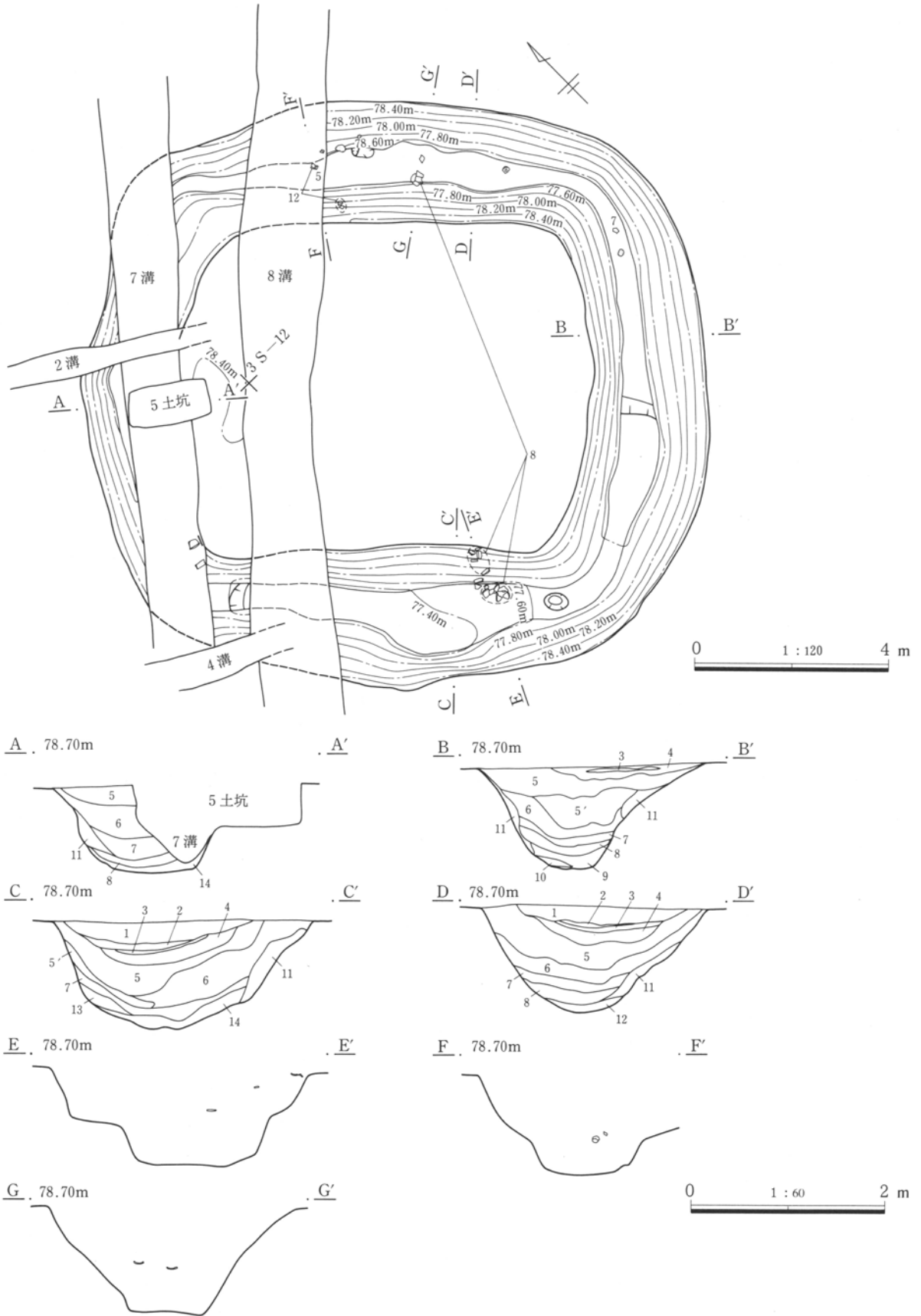
形状 周溝を含めた平面の規模は南北12.09m、東西12.92mを測る。方台部の規模は南北6.67m、東西8.60mを測る。南側周溝がやや外側に膨らむが、ほぼ方形を呈している。

周溝 周溝は方台部の四隅が僅かにくびれる形になっていて、やや浅くなっている。上端幅は2.13～3.00m、下端幅は0.28～1.38m、周溝の掘り込みの深さは88～115cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様に、

逆台形状を呈する。周溝の覆土上層にHr-FAの層があり、南側周溝は特に黄橙色のHr-FAの層がよく残っていた。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、主体部は検出できなかった。

遺物 土師器鉢、高坏、埴、壺、甕が出土している。中には完形の埴もある。



第81図 A区5号方形周溝墓

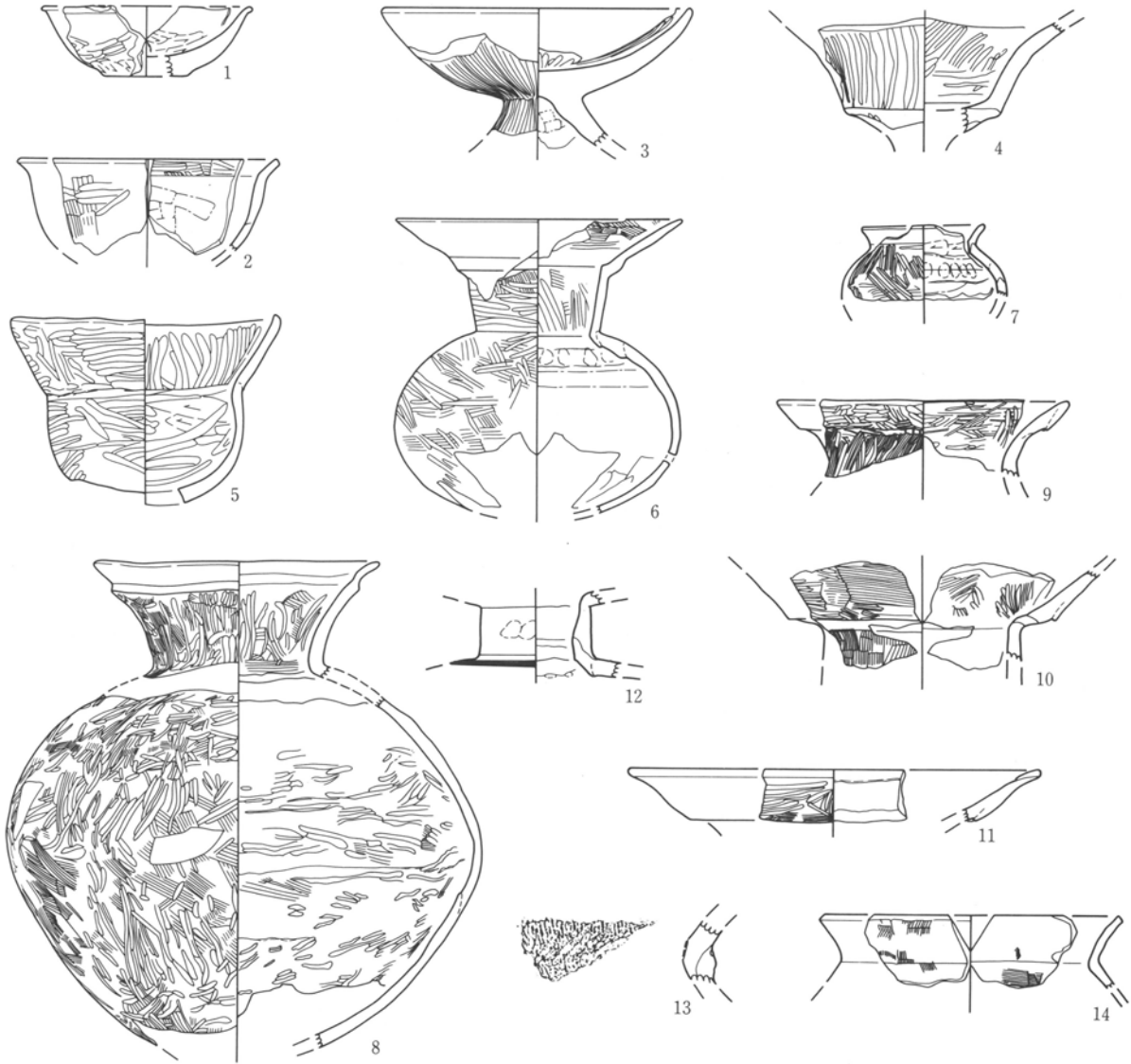


1. 古墳時代の遺構と遺物

A区 5号方形周溝墓

- 1 黒色土 細かい灰白色軽石粒が混入(3-b層)。
- 2 黒褐色土 灰白色軽石粒が入る。やや粘性あり、褐色も含まれる(3-c層)。
- 3 黄橙色土 Hr-FA層(3-d層)。
- 4 黒色土 灰白色軽石粒を多く含む(3-e層)。1層より黒色が強い。
- 5 暗褐色土 4-a層、4-b層を主とし、少量の4-c層を含む。
- 5' 黒褐色土 5層に近いが、5層よりも黒色が強い。
- 6 灰褐色土 4-c層を多く、4-a、4-b、4-d層を少量含む。

- 7 黒褐色土 4-b層を多く、4-c層を少量含む。
- 8 黒褐色土 7層に近い、ブロック状に4-d層を含む。
- 9 明黄褐色土 4-d層を主とした層。黒褐色土も含む。
- 10 黒褐色土 黒褐色土を主とし、灰黄褐色土(4-d層)も少量含む。
- 11 暗黄褐色土 4-c層を主とし、橙色のブロックも含む。
- 12 灰黄褐色土 4-d層を主とし、多量の黒褐色土を含む。
- 13 灰白色土 4-d層の崩壊土である。色は灰黄褐色でなく、この場所は灰白色である。砂質。
- 14 黒褐色土 6層に近い。灰白色の4-b層を1cm程のブロック状に多く含む。4-c層中の橙色の土をブロック状に少量含む。



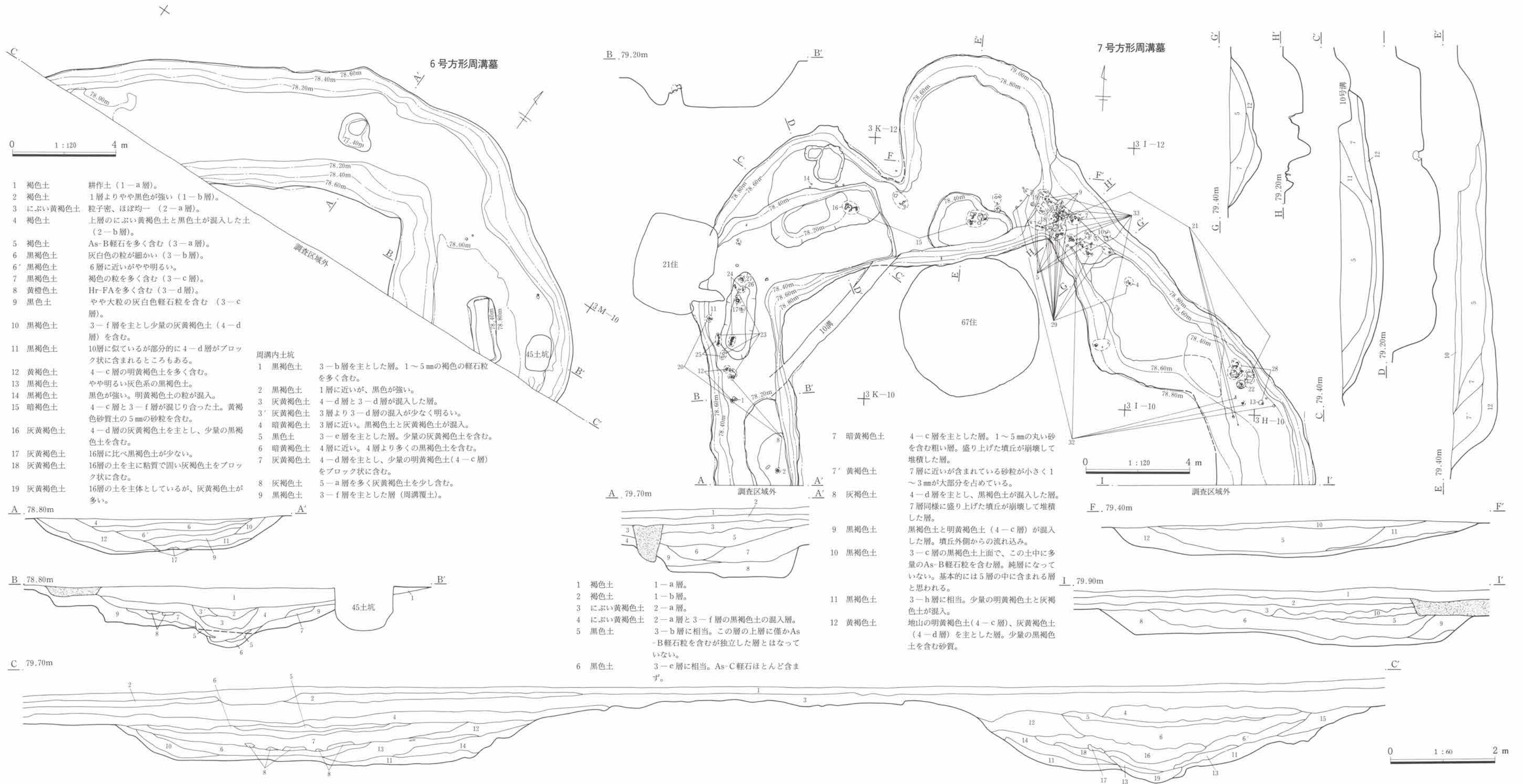
第82図 A区5号方形周溝墓出土遺物

A区 5号方形周溝墓

番号	器種	残存法量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 小型鉢	1/8 口径(8.8) 器高 2.9 底径(3.4)	覆土	①細砂 石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	口縁部は短く外反する。胴部は椀状に丸みをもつ。 外面 口縁部付近は横ナデ。胴部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁端部~胴部上半は面をもたせるように横ナデ調整。下半から篋削り。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
2	土師器 小型鉢	口縁片 口径(10.6) 器高(3.8) 底径—	覆土	①細砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	口縁部は短く外反し、内側に面をもつ。胴部は椀状に丸みをもつ。 <b>外面</b> 口縁部は横ナデ。胴部は縦方向のハケメ筥削り後筥磨き。 <b>内面</b> 口縁部は面をもたせるようにハケメ調整。胴部は筥ナデ。
3	土師器 高坏	坏~脚部上位 口径(12.6) 器高(5.7) 底径—	覆土	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	坏部はやや厚みがあり、内湾している。口縁部は丸い。脚部は円錐形状に広がる。 <b>外面</b> 坏部は丁寧な放射状の筥磨き。脚部も縦方向の筥磨き。 <b>内面</b> 口縁部は荒れているが、筥磨き痕あり。脚部はナデ調整。
4	土師器 高坏	坏体~坏底部片 口径— 器高(4.7) 底径—	覆土	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	坏底部に稜をもち、そこから外反し、坏体部の中程でさらに外湾する。 <b>外面</b> 縦方向の筥磨き。 <b>内面</b> 筥磨き。坏底部近くは横方向の筥磨き痕あり。
5	土師器 埴	完形(底部穿孔?) 口径10.9 器高7.8 底径—	周溝	①粗砂 2mmの小石 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部に口縁部と胴部を区切るように、磨き痕が残る。口縁部は長く外反し、端部はやや内湾する。胴部は椀状に膨らむ。底部穿孔か? <b>外面</b> 口縁部は横ナデ後筥磨き。胴部は筥削り後筥磨き。 <b>内面</b> 口縁部は横ナデ後筥磨き。胴部は筥削り後筥磨き。
6	土師器 小型壺	底部欠 口径12.0 器高(12.3) 底径—	覆土	①細砂 輝石 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部はやや外反しながら立ち上がる。口縁は複合口縁になっていて、2段目は短く外反しすぐに真上に立ち上がる。1段目はやや内湾気味に長く外傾する。端部は短く外反し、外向きに面をもつ。胴部は下半がややすぼむような丸みをもつ。また、胴部中位よりやや下の部分に直径3mm程の円孔あり。 <b>外面</b> 口縁1段目は横ナデ後筥磨き。2段目から胴部までハケメ後筥磨き。胴部はハケメ痕残る。 <b>内面</b> 口縁~頸部はハケメ後筥磨き。肩部は指頭痕残り。以下はナデ調整。
7	土師器 小型壺	口~胴上半1/3 口径(6.8) 器高(4.1) 底径—	周溝	①細砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	口縁は肩部からくの字に屈曲し、口縁端部は短くやや外反する。端部は丸い。胴部は中程に最大径を持ち丸い。頸部と胴部に2段の輪積み痕あり。 <b>外面</b> 口縁部は横ナデ。胴部はハケメ後筥磨き。 <b>内面</b> 口縁部は横ナデ。頸部は筥削り。肩部に指頭痕あり。以下はナデ調整。
8	土師器 壺	底部欠損5/6 口径15.9 器高(27.2) 底径—	周溝	①粗砂 石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部はやや外反しながら立ち上がる。口縁は複合口縁になっていて、2段目はすぐに真上に立ち上がる。1段目は外反し、端部はやや内湾する。端部は丸い。胴部は中程よりやや上で最大径をもち、下半がややすぼむような丸みをもつ。 <b>外面</b> 口縁部は横ナデ。以下はハケメ後筥磨き。 <b>内面</b> 口縁部は横ナデ。以下はハケメ後筥磨き。
9	土師器 壺	口縁部1/4 口径(16.2) 器高(4.2) 底径—	覆土	①3mmの小石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸く屈曲する頸部。外反し端部はやや内湾する口縁。巾のあまりない折り返しをもつ。 <b>外面</b> 口縁部はハケメ後横ナデ後筥磨き。以下はハケメ後筥磨き。 <b>内面</b> ハケメ後横ナデ後筥磨き。
10	土師器 壺	口縁部片端部欠 口径— 器高(5.9) 底径—	覆土	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	くの字に屈曲する頸部。外反し端部はやや内湾する口縁。巾の広い折り返しをもつ。 <b>外面</b> ハケメ後筥磨き。頸部はハケメ痕が目立つ。 <b>内面</b> ハケメ後筥磨き。
11	土師器 壺	口縁部片 口径(22.9) 器高(2.9) 底径—	覆土	①3mmの小石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	口縁部外反し端部はやや外湾する口縁。口縁内面に巾のあまりない折り返しをもつ。また、外面下部にも巾の広い折り返しをもつ。 <b>外面</b> ハケメ後横ナデ後筥磨き。 <b>内面</b> 横ナデ。
12	土師器 壺	頸部片 口径— 器高(4.8) 底径—	周溝	①2mmの小石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	肩部に対してほぼ直角に立ち上がる。口縁部は外反する。 <b>外面</b> 頸部に指頭痕あり。ナデ調整。肩部9条の横線文あり。 <b>内面</b> 頸部は横ナデ。肩部に指頭痕あり。
13	土師器 壺	頸部片 口径— 器高— 底径—	覆土	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部に貼り付けた突帯の部分でハケメ用工具による斜めの刺突文あり。2号方形周溝墓1の壺と同じような形と思われる。 <b>外面</b> ハケメ。 <b>内面</b> ハケメ痕あり。
14	土師器 甕	口縁部片 口径(16.4) 器高(4.1) 底径—	覆土	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字状に屈曲する頸部。口縁端部で短く外反する。端部は外向きに面をもつ。 <b>外面</b> 口縁端部は横ナデ。口縁上半はハケメ。下半はナデ調整。 <b>内面</b> 口縁部はハケメ後横ナデ。肩部にハケメ痕あり。



- 1 褐色土 耕作土(1-a層)。
- 2 褐色土 1層よりやや黒色が強い(1-b層)。
- 3 にぶい黄褐色土 粒子密、ほぼ均一(2-a層)。
- 4 褐色土 上層のにぶい黄褐色土と黒色が混入した土(2-b層)。
- 5 褐色土 As-B軽石を多く含む(3-a層)。
- 6 黒褐色土 灰白色の粒が細かい(3-b層)。
- 6' 黒褐色土 6層に近いがやや明るい。
- 7 黒褐色土 褐色の粒を多く含む(3-c層)。
- 8 黄褐色土 Hr-FAを多く含む(3-d層)。
- 9 黒色土 やや大粒の灰白色軽石粒を含む(3-e層)。
- 10 黒褐色土 3-f層を主とし少量の灰黄褐色土(4-d層)を含む。
- 11 黒褐色土 10層に似ているが部分的に4-d層がブロック状に含まれるところもある。
- 12 黄褐色土 4-c層の明黄褐色土を多く含む。
- 13 黒褐色土 やや明るい灰系の黒褐色土。
- 14 黒褐色土 黒色が強い。明黄褐色土の粒が混入。
- 15 暗褐色土 4-c層と3-f層が混じり合った土。黄褐色砂質土の5mmの砂粒を含む。
- 16 灰黄褐色土 4-d層の灰黄褐色土を主とし、少量の黒褐色土を含む。
- 17 灰黄褐色土 16層に比べ黒褐色土が少ない。
- 18 灰黄褐色土 16層の土を主に粘質で固い灰褐色土をブロック状に含む。
- 19 灰黄褐色土 16層の土を主体としているが、灰黄褐色土が多い。

- 周溝内土坑
- 1 黒褐色土 3-b層を主とした層。1~5mmの褐色の軽石粒を多く含む。
  - 2 黒褐色土 1層に近いが、黒色が強い。
  - 3 灰黄褐色土 4-d層と3-d層が混入した層。
  - 3' 灰黄褐色土 3層より3-d層の混入が少なく明るい。
  - 4 暗黄褐色土 3層に近い。黒褐色土と灰黄褐色土が混入。
  - 5 黒色土 3-e層を主とした層。少量の灰黄褐色土を含む。
  - 6 暗黄褐色土 4層に近い。4層より多くの黒褐色土を含む。
  - 7 灰黄褐色土 4-d層を主とし、少量の明黄褐色土(4-c層)をブロック状に含む。
  - 8 灰褐色土 5-a層を多く灰黄褐色土を少し含む。
  - 9 黒褐色土 3-f層を主とした層(周溝覆土)。

- 1 褐色土 1-a層。
- 2 褐色土 1-b層。
- 3 にぶい黄褐色土 2-a層。
- 4 にぶい黄褐色土 2-a層と3-f層の黒褐色土の混入層。
- 5 黒色土 3-b層に相当。この層の上層に僅かAs-B軽石粒を含むが独立した層とはならない。
- 6 黒色土 3-e層に相当。As-C軽石ほとんど含まず。

- 7 暗黄褐色土 4-c層を主とした層。1~5mmの丸い砂を含む粗い層。盛り上げた墳丘が崩壊して堆積した層。
- 7' 黄褐色土 7層に近いが含まれている砂粒が小さく1~3mmが大部分を占めている。
- 8 灰褐色土 4-d層を主とし、黒褐色土が混入した層。7層同様に盛り上げた墳丘が崩壊して堆積した層。
- 9 黒褐色土 黒褐色土と明黄褐色土(4-c層)が混入した層。墳丘外側からの流れ込み。
- 10 黒褐色土 3-c層の黒褐色土上面で、この土中に多量のAs-B軽石粒を含む層。純層になっていない。基本的には5層の中に含まれる層と思われる。
- 11 黒褐色土 3-h層に相当。少量の明黄褐色土と灰褐色土が混入。
- 12 黄褐色土 地山の明黄褐色土(4-c層)、灰黄褐色土(4-d層)を主とした層。少量の黒褐色土を含む砂質。

第83図 A区6・7号方形周溝墓





1. 古墳時代の遺構と遺物

A区 6号方形周溝墓 (第83・84図 PL38・133)

位置 3M～R-9～12グリッド

重複 本周溝墓の東側周溝は平安時代のA区45号土坑に掘り込まれている。

形状 本周溝墓の南側部分は調査区外であったため、発掘調査を行うことが出来なかった。本周溝墓の全貌を確認出来たわけではないが、周溝の巡る様子から、大型の方形周溝墓と考える。

周溝 周溝はほぼ同じ幅で方台部の周囲を巡る。上端幅は4.53～6.54m、下端幅は1.94～4.60m、周溝の掘り込みの深さは52～121cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様に緩やかで、椀状を呈する。西側周溝の断面をみると覆土中には黄橙色のHr-FAの層位もみ

られる。覆土の主体は灰白色軽石粒を含む黒色土である。方台部に近い部分では地山に近い土層が流れ込んでいる箇所がある。これは周溝を掘り上げた土が崩れ落ちて埋まったものとする。また、東側周溝の底面に周溝内土坑が検出された。周溝内土坑は長径2.55m、短径0.98m、深さ32cmを測る。その土坑覆土の観察から、方台部上の土の崩れが始まって、あまり時間がたたないうちにこの土坑が掘り込まれ、崩れた土の上にこの土坑を掘った土を載せたものと思われる。この土坑の性格は不明である。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、主体部の検出はできなかった。

遺物 土師器高環、壺、小型甕が出土している。



第84図 A区6号方形周溝墓出土遺物

A区 6号方形周溝墓

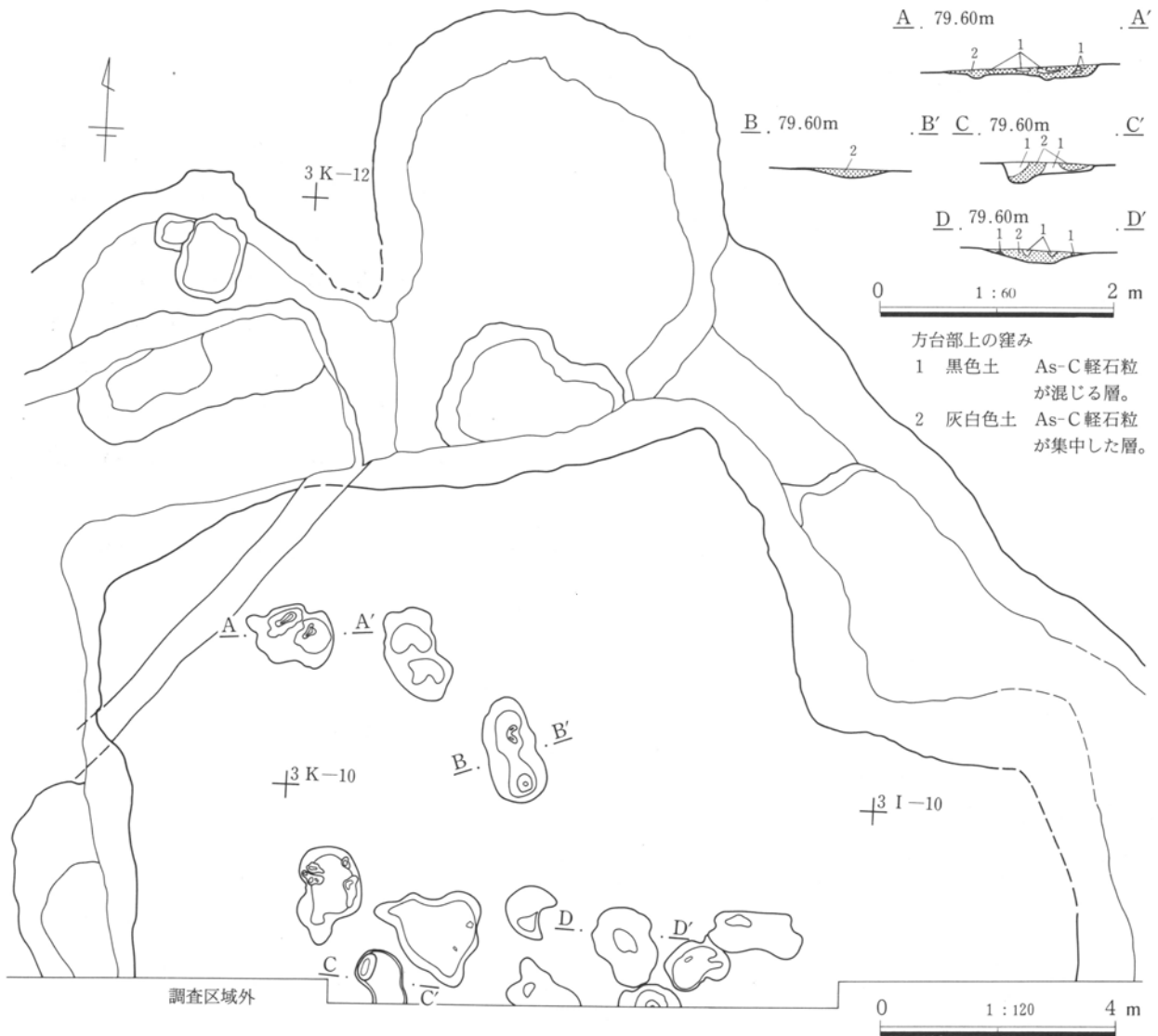
番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高環	坏部片 口径(24.3) 器高(2.8) 底径—	覆土	①2～3mmの小石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	坏底部から外反し、端部で短く内湾する。 外面 口縁端部は横ナデ。他は篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。他は篋磨き。
2	土師器 壺	口縁部片 口径(13.0) 器高(4.0) 底径—	覆土	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	口縁下半までは外反し、上半は大きく外湾する。端部は丸い。 外面 口縁端部は横ナデ。他はハケメ後篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。他はハケメ後篋磨き。
3	土師器 小型甕	口～頸部片 口径(13.4) 器高(3.3) 底径—	覆土	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	くの字状に屈曲する頸部。口縁端部はやや内湾し、外側に面をもつ 外面 口縁部は横ナデ。他はハケメ。 内面 ハケメ。

A区 7号方形周溝墓 (第83・85～88図 PL38・39・134～137)

位置 3G～M-9～12グリッド

重複 縄文時代のA区67号住居を掘り込むことなく方台部上に残し、本周溝墓が造られている。また、方台部の北西コーナー部を近世のA区9,10,11号溝が掘り込んでいる。さらに、西側周溝の北西コーナー部も平安時代のA区21号住居に掘り込まれている。北側周溝は近世のA区22,23号土坑および近現代のA区14,15,16,17,18号土坑に掘り込まれている。(なお、本周溝墓の図面が見にくくなることを考慮して、一部の重複関係を省いた。)

形状 本周溝墓の南側部分は調査区外であったので、調査を実施しなかった。方台部の周囲を周溝がほぼ同じ幅で巡っている他の方形周溝墓と違い、本周溝墓の周溝は不定形であった。方台部の形も北半分だけなので断定は出来ないが、他の方形周溝墓が方形の方台部をもっているのに対して、前方部、後方部があるかのような形状を呈している。ただし、14号周溝墓ほど完全な前方後方形をなしていないので、断定はできない。周溝を含めた平面の規模は南北(16.44)m、東西23.05mを測る。方台部の東側部



第85図 A区7号方形周溝墓内窪み状況

分の一部と周溝部は近現代の攪乱により、掘り込まれている。方台部の東西方向は15.84mを測る。後方部にみえる方台部の南北方向は(8.46)mを測る。

**覆土** 方台部上からAs-C軽石粒が詰まった窪みが多数検出された。そこで平面図にその位置を記し、断面図を作成した。そのうち、断面の形状がよくわかるものについて、記載しておく。これらの窪みは方形周溝墓を造る際に、周溝を掘り、その土を盛り上げたため、当時の地表面に近い面がパックされたものと思われる。なお、周溝の土層からはAs-C軽石粒の層位がないことから、本周溝墓はAs-C軽石粒が降下した後に造られたものと思われる。

**周溝** 周溝は幅が同じでなく形も不定形であった。

上端幅は2.56~7.92m、下端幅は0.97~6.32m、周溝の掘り込みの深さは39~94cmを測る。前述したように他の方形周溝墓と比べ、不定形のため、他の遺構によって掘り込まれているのではないかと思われたが、土層断面から本周溝墓の覆土である黒色土や地山の明黄褐色土が層をなしていることが確認された。なぜ、周溝の形状がこれほど不定形なのかは不明である。周溝の断面形は皿状や椀状を呈する。また、周溝の覆土中に地山に近い土層が流れ込んでいる箇所がある。これは周溝の土を盛り上げたものが崩れ落ちて埋まったものと考えられる。

**主体部** 方台部上を慎重に調査したが、主体部は検出できなかった。

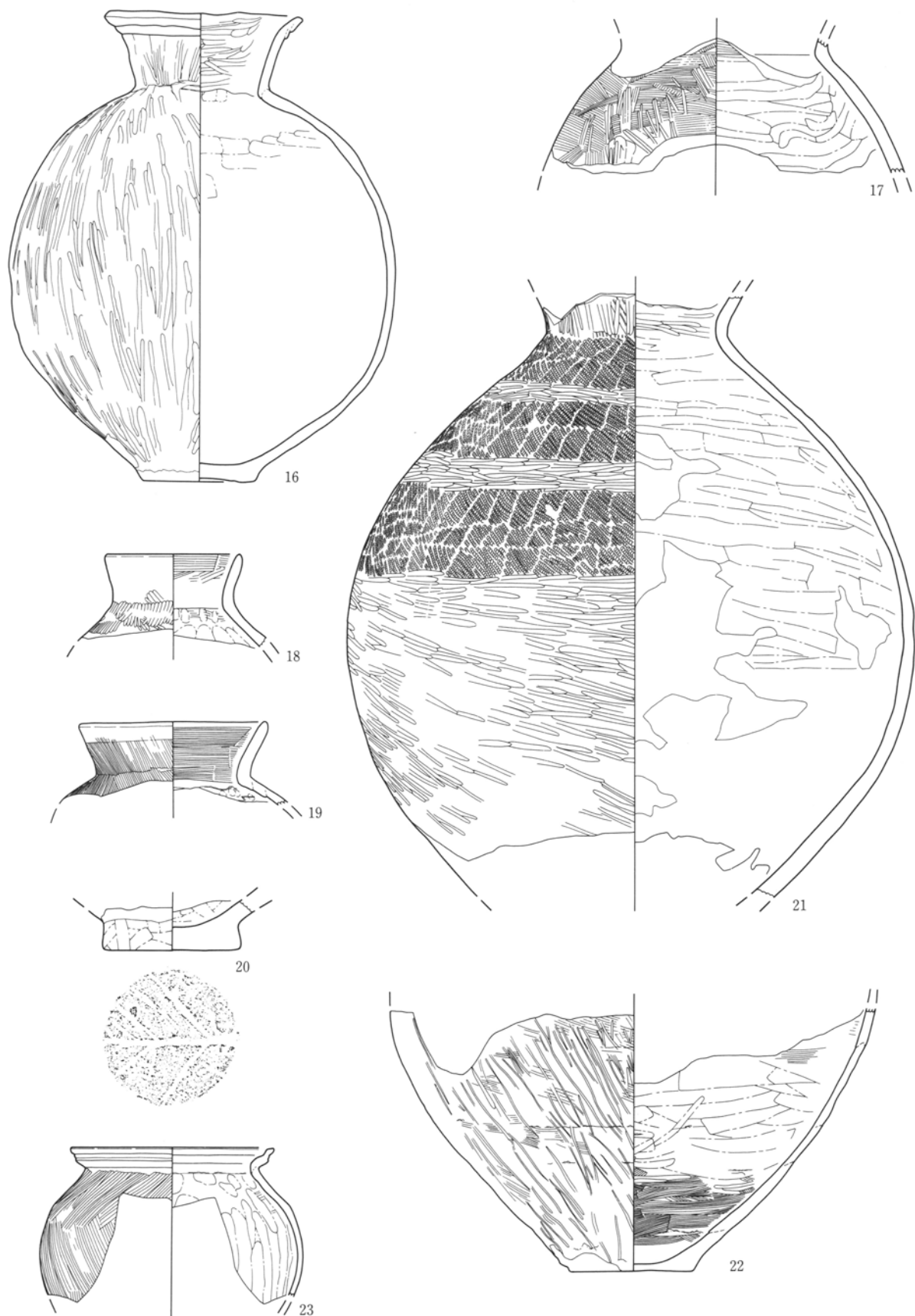
遺物 周溝内から多数の遺物が出土した。また、器種、大きさも様々であった。土師器鉢、器台、高坏、壺、甕が出土している。鉢、器台、小形壺の中に完

形やほぼ完形のものが目立つ。



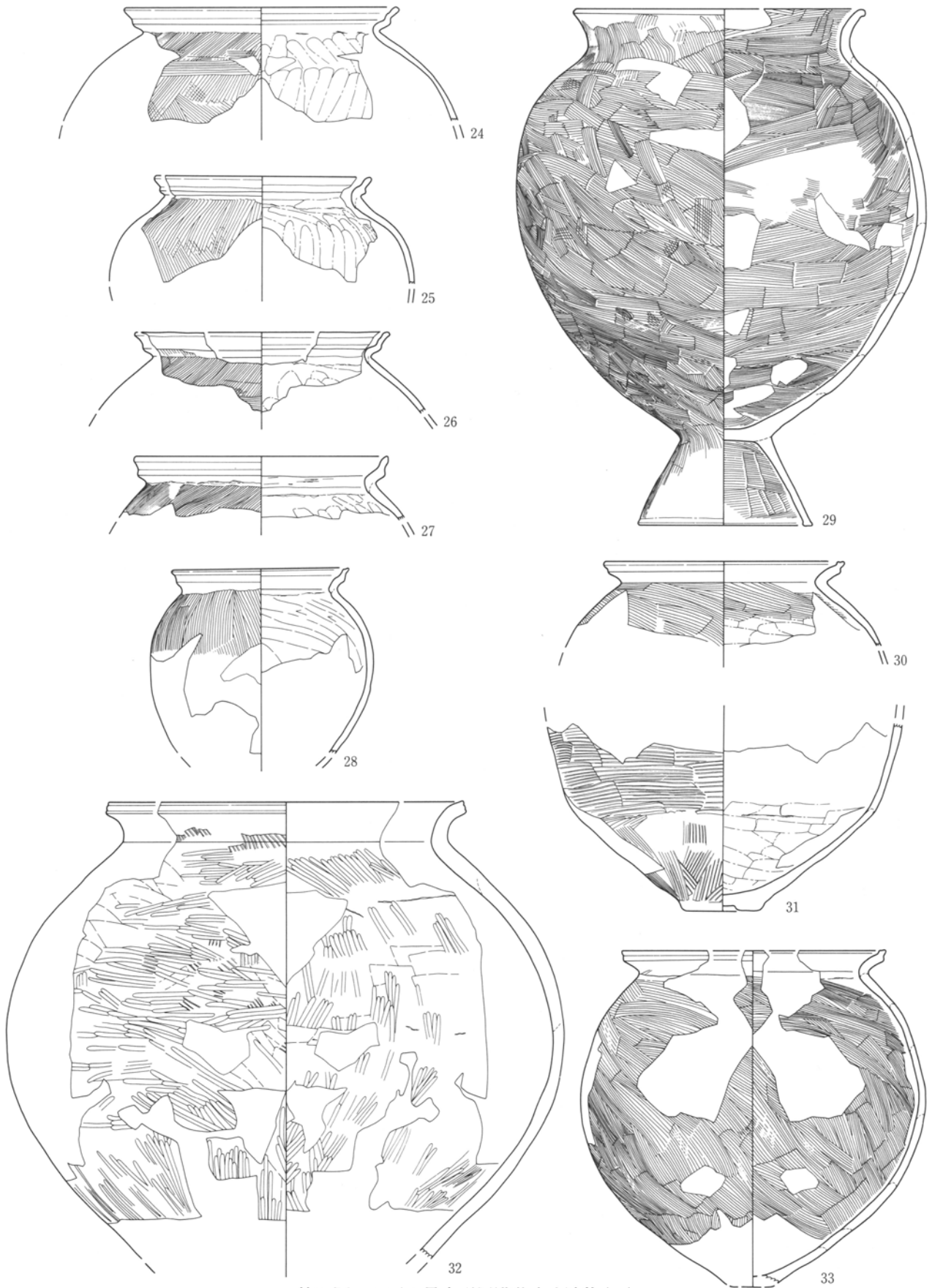
第86図 A区7号方形周溝墓出土遺物(1)





第87図 A区7号方形周溝墓出土遺物(2)

1. 古墳時代の遺構と遺物



第88図 A区7号方形周溝墓出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

A区 7号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	完形 口径10.6 器高 5.1 底径 3.6	周溝	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	口縁部は胴部から大きく外傾するが内湾しながら端部に至る。胴部は底部の方にすぼまるようになっている。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は篋削り後縦篋磨き。胴部下半は横方向の篋削り痕が目立つ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下は篋削り後縦篋磨き。
2	土師器鉢	2/3 口径10.9 器高 6.2 底径 4.3	周溝	①細砂 角閃石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	口縁部は胴部から外反し、上半で内湾しながら端部に至る。端部はつまむようにして薄手に仕上げている。 外面 口縁上半は横ナデ痕がよく残る。下半はハケメ後ナデ調整。胴部上半はハケメ痕が残る。以下は篋削り後篋磨き。胴部下半は器面が荒れている。 内面 口縁上半は横ナデ痕がよく残る。下半はハケメ後ナデ調整。以下は篋削り後篋磨き。
3	土師器鉢	口縁部片 口径(11.5) 器高(4.0) 底径—	覆土	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	口縁部がやや外反し、端部は丸い。内側に折り返す口縁。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は斜めハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下横方向のハケメ。
4	土師器高坏	脚部 1/3 口径— 器高(6.9) 底径—	周溝	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	ラッパ状に広がる脚部。脚部中程に4個の円孔。その下位に上位の円孔の間の位置関係になるように4個の円孔あり。合計8個の円孔。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 坏部との接合付近で絞り目痕あり。以下はナデ調整。
5	土師器高坏	坏部 3/4 口径25.8 器高(7.9) 底径—	周溝	①細砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	坏底部にゆるやかな稜をもつ。坏底部からは外反し、端部で短く内湾する。端部は外向きに面をもつ。 外面 口縁端部付近は横ナデ。他は縦篋磨き。 内面 口縁端部付近は横ナデ。他は縦篋磨き。
6	土師器器台	ほぼ完形 口径 9.5 器高 9.5 底径12.8	周溝	①細砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	器受部は脚部より外反する。口縁部は短く直上し、短く外半して端部に至る。端部は上向きに面をもつ。脚部はラッパ状に開き、裾部内側にやや面をもつ。脚部中程に円孔3あり。 外面 器受部口縁部は横ナデ後篋磨き。以下脚部までは縦方向の篋磨き。 内面 口縁部は横ナデの後篋磨き。脚部内面に絞り目痕あり。脚部下半はナデ。裾部は横ナデ。
7	土師器器台	台部 2/5 欠損 口径 9.2 器高 8.3 底径10.4	周溝	①粗砂 1~2mmの小石 軽石多い ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	器受部は脚部よりくの字に屈曲し、端部付近でやや内湾する。端部は巾の広い面を外向きにもつ。口縁部内側は鋭く立ち上がる。脚部はラッパ状に開き、中程でやや内湾する。円孔3あり。 外面 器受部口縁端部は横ナデ。口縁上半は横ナデ後篋磨き。以下裾部までは篋磨き。ただし脚部上半にハケメ後篋磨きあり。裾部は横ナデ後篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。他の器受部は篋磨き。脚部上半は篋削り。脚部下半はナデ。裾部は横ナデ。
8	土師器器台	ほぼ完形 口径 8.8 器高 9.4 底径10.0	周溝	①1~2mmの小石 ②酸化焰 やや軟質 ③浅黄色	器受部は椀状の形をしていて、口縁端部で短く外反する。端部は外向きに巾の狭い面をもつ。また口縁内側も上面が平らに整形されている。脚部はラッパ状に開き、裾部に近づくにつれ外湾する。中程に円孔3あり。円孔については外側から孔をあけた跡が内側に残る。 外面 器受部口縁端部は横ナデ。以下の器受部は口縁上半はハケメ後篋磨き。以下裾部まではハケメ。裾部は横ナデ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下の器受部はハケメ。裾部はナデ。裾部端部は横ナデ。
9	土師器器台	ほぼ完形 口径21.9 器高13.9 底径15.5	周溝	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	器受部に稜をもつ。器受底部より大きく外湾し、口縁端部に至る。端部は外向きに面をもち、刻み痕あり。端部内側は巾広い面を上面にもつ。器受部中程に三角形に近い孔が上下交互に13あけられている。脚部は上半は円錐状に開き、中程で大きく外湾し、裾端部で短く内湾する。脚部中程に円孔3あり。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 口縁端部は横ナデ。脚部上半は絞り目痕あり。中程は篋ナデ。下半はハケメ痕。裾部はハケメ後横ナデ。
10	土師器壺	口縁部 1/3 口径(12.3) 器高(5.0) 底径—	周溝	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	口縁部下半が内湾気味に立ち上がり、口縁中程で外傾しつつも幾分内湾し、口縁端部で短く外反する。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 ハケメ後篋磨き。

## 1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存 法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
11	土師器 壺	口縁部 1/3 口径(14.5) 器高(5.7) 底径—	周溝	①2mm位の小石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	口縁部は頸部からやや外反しながら立ち上がる。口縁中程で肥厚する。口縁端部は斜め外向きに面をもち、面の内側と外側はともにつまみあげるように整形されている。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ後縦磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ後縦磨き。
12	土師器 小型壺	ほぼ完形 口径11.1 器高14.1 底径 5.5	周溝	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部からくの字状に屈曲し、口縁端部でやや内湾する。端部は外向きに面をもつ。胴部は中程を最大径にもつように丸みをもち、底部近くで急にすぼまる。 外面 口縁部は粗いハケメ後横ナデ。器面の荒れが著しいが、以下は粗いハケメ痕残る。 内面 口縁部は粗いハケメ後横ナデ。頸部に指頭痕あり。胴部下部にナデ痕とハケメ痕あり。
13	土師器 壺	口縁部欠 口径— 器高(18.8) 底径 6.3	周溝	①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部が大きくくの字に屈曲する。球形の胴部。 外面 頸部は粗いハケメ後縦ハケメ。胴部は横方向のハケメ後磨き。底部は斜めハケメ後磨き。底部底面に木葉痕あり。 内面 頸部に輪積み痕あり。内面は無調整か。
14	土師器 小型壺	ほぼ完形 口径 10.0 器高(14.0) 底径—	周溝	①粗砂 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部はくの字に屈曲したまま立ち上がり、口縁は端部でさらに短く外反する。胴部は下膨れになっており、底部穿孔か? 外面 全体赤色塗彩。口縁はハケメ後横ナデ後磨き。以下はハケメ後磨き。 内面 口縁のみ赤色塗彩。口縁はハケメ後横ナデ後磨き。以下頸部まではハケメ後磨き。胴部はナデ。頸部2段輪積み痕あり。
15	土師器 壺	ほぼ完形 口径16.0 器高31.5 底径 8.0	周溝	①2～5mm位の小石 粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部は短く直に立ち上がる。中程で外反する。口縁は折り返しの複合口縁。端部は丸い。胴部は肩が張り、中程で最大径をもつ。底部に近づくにつれて急にすぼまる。 外面 口縁部は横ナデ。頸部はハケメ。以下はハケメ縦磨き。底部近くと底面は磨削り。 内面 口縁部はハケメ後縦磨き。胴部は磨ナデ。底部は磨で押さえている。
16	土師器 壺	ほぼ完形 口径13.1 器高32.4 底径 7.8	周溝	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部から外反する。口縁部でさらに外反する二重の折り返し口縁。端部の上面は面取りしている。ほぼ球形の胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ後磨き。 内面 口縁部は横ナデ。頸部は磨ナデ。胴部は磨ナデ。
17	土師器 壺	肩部片 口径— 器高(6.3) 底径—	周溝	①粗砂 石英 角閃石 赤色粗粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	下膨れと思われる胴部に外反した口縁が立ち上がる。 外面 磨削り後横方向のハケメを施し、さらに磨きを行っている。 内面 ナデ。
18	土師器 壺	口～肩部 口径 9.2 器高(6.4) 底径—	周溝	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	口縁はやや直立気味に外反し、上半でやや内湾する。端部は内側に面をもつ。頸部からあまり肩が張らない。 外面 口縁部は器面が荒れているが、端部は横ナデ。以下は磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下横ハケメ。肩部はハケメ後指ナデ。
19	土師器 甕	口～頸部 口径 12.8 器高(5.6) 底径—	周溝	①粗砂 白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部がくの字に屈曲し、口縁端部で短く内湾する。端部は丸いが、内側に面をもつ。輪積み痕あり。 外面 口縁部上半は横ナデ。以下は縦ハケメ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下横ハケメ。頸部以下は指ナデ。
20	土師器 壺	底部 口径— 器高(3.5) 底径9.0	周溝	①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	厚い底部に下膨れと思われる胴部が立ち上がる。 外面 底面に木葉痕あり。底部側面はナデ。 内面 ナデ。
21	土師器 壺	口縁部、底部欠損 口径— 器高(41.5) 底径—	周溝	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字に屈曲する頸部。下膨れの胴部。 外面 頸部はハケメ縦磨き。胴部上半はRL2,3段横位に施文後横方向磨きを1つの単位とするのが3回続く。下半は磨き。 内面 頸部は横方向磨き。胴部は磨ナデ。
22	土師器 壺	胴下半 口径— 器高(17.7) 底径 8.5	周溝	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部から球形と思われる胴部が立ち上がる。 外面 ハケメ後磨き。 内面 上半はハケメ後ナデ。下半はハケメ後部分的に磨き。底面は磨削り。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
23	土師器 台付甕	口～胴上位 2/3 口径 14.0 器高(10.8) 底径—	周溝	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	2段目から短く直に上がり、やや内湾する1段目をもつS字状口縁。端部は上に面をもつ。胴部の肩の張りが無い。 外面 口縁部は横ナデ。頸部から斜め下へハケメ痕。下方から斜め上に向かってハケメ痕あり。ただしハケメは粗い。 内面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ後指ナデ。
24	土師器 台付甕	口～胴上位 1/4 口径(20.0) 器高(8.2) 底径—	周溝	①細砂 軽石 赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	2段目はくの字に屈曲し、外湾する1段目をもつS字状口縁。端部は丸く、内側に面をもつ。胴部の肩の張りがある。 外面 口縁部は横ナデ。頸部から斜め下へハケメ後横ハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。以下は指ナデ。
25	土師器 台付甕	口～肩部 2/5 口径(15.6) 器高(7.7) 底径—	周溝	①細砂 石英 白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部が短く丸く屈曲し、2段目は短くつまむ用に外へ張り出し、2段目よりも長く外反する1段目をもつS字状口縁。端部は丸い。頸部から次第に肩が張り出す。 外面 口縁～頸部は横ナデ。特に口縁の2段目はシャープになっている。胴部の下から上へ斜めハケメ、頸部から斜め下へハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。頸部はハケメ後ナデの痕跡あり。以下は指ナデ。
26	土師器 台付甕	口～肩部 1/3 口径(18.6) 器高(5.7) 底径—	周溝	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	頸部が短くくの字に屈曲し、2段目は丸く外へ張り出し、2段目よりも長く外反する1段目をもつS字状口縁。端部は丸い。端部内側に面をもつ。頸部から肩が張り出す。 外面 口縁～頸部は横ナデ。頸部から斜め下へハケメ後横ハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。以下は指ナデ。
27	土師器 台付甕	口～肩部 1/2 口径(18.4) 器高(4.5) 底径—	周溝	①粗砂 2～3mm程の小石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部が短くくの字に屈曲し、2段目は短くつまむ様に外反し、1段目は長めに外反するS字状口縁。端部は丸い。 外面 口縁部は横ナデ。特に2段目はシャープな感じである。頸部から斜め下へハケメ。ハケメの中に指頭痕あり。 内面 口縁部は横ナデ。頸部は横ハケメ後ナデ。以下は指ナデ。
28	土師器 台付甕	口～胴部 口径 12.8 器高(13.9) 底径—	周溝	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部がくの字に屈曲し、2段目は丸みをもち、1段目は外側につまみ出すような端部をもつS字状口縁。肩は張らず、なだらか。 外面 口縁は横ナデ。胴部上半は縦ハケメ。下半は無調整。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋削り。
29	土師器 台付甕	5/6 口径20.5 器高37.2 底径12.5	周溝	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に屈曲する頸部。口縁端部で短く外湾する。端部は外側に面をもつ。胴部は肩が張る。台裾端部は下に面をもつ。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は短い単位のハケメ。台裾部は横ナデ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下は短い単位のハケメ。台裾部は横ナデ。
30	土師器 甕	口縁部 1/2 口径17.4 器高(6.1) 底径—	周溝	①細砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部がくの字に屈曲し、口縁は2段に外反する。端部は内側上面を面取りし、1段目をつまむようになっている複合口縁。 外面 口縁から頸部は横ナデ。以下は斜めハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。頸部は横方向のハケメ後ナデ。肩部は斜めハケメ。以下はナデ。
31	土師器 甕	胴・底部片 1/2 口径— 器高(13.6) 底径(5.6)	覆土	①細砂 角閃石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	小さな底部に大きな胴部がつく壺形土器。 外面 粗い横方向ハケメ。胴部下半は縦ハケメ。 内面 篋ナデ。
32	土師器 甕	口～胴部 1/3 口径(25.8) 器高(33.6) 底径—	周溝	①細砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部が短く丸く屈曲し、口縁はやや外湾する。端部は外向きに面をもち、沈線2本をめぐらす。 外面 口縁端部は横ナデ。頸部はハケメ後横ナデ。胴部はハケメ後篋磨き。 内面 口縁部は横ナデ。以下は篋削り後篋磨き。
33	土師器 甕	口～胴下部 2/3 口径 19.0 器高(24.1) 底径—	周溝	①細砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部がくの字に屈曲し、口縁は2段に外反する。端部は内側上面に段を持つように面取りした複合口縁。 外面 口縁～頸部は横ナデ。胴部は短い単位のハケメ。 内面 口縁～頸部は横ナデ。胴上部は下からの斜めハケメ。下部は上からの縦方向のハケメ。

A区 8号方形周溝墓 (第89図 PL40・137)

位置 3F～I-11～14グリッド

重複 本周溝墓の北側から東側にかけての周溝は平安時代のA区53号住居、A区61号土坑に掘り込まれている。また、南側周溝も平安時代のA区54号土坑に掘り込まれている。方台部は現代の攪乱によって大きく掘り込まれていた。

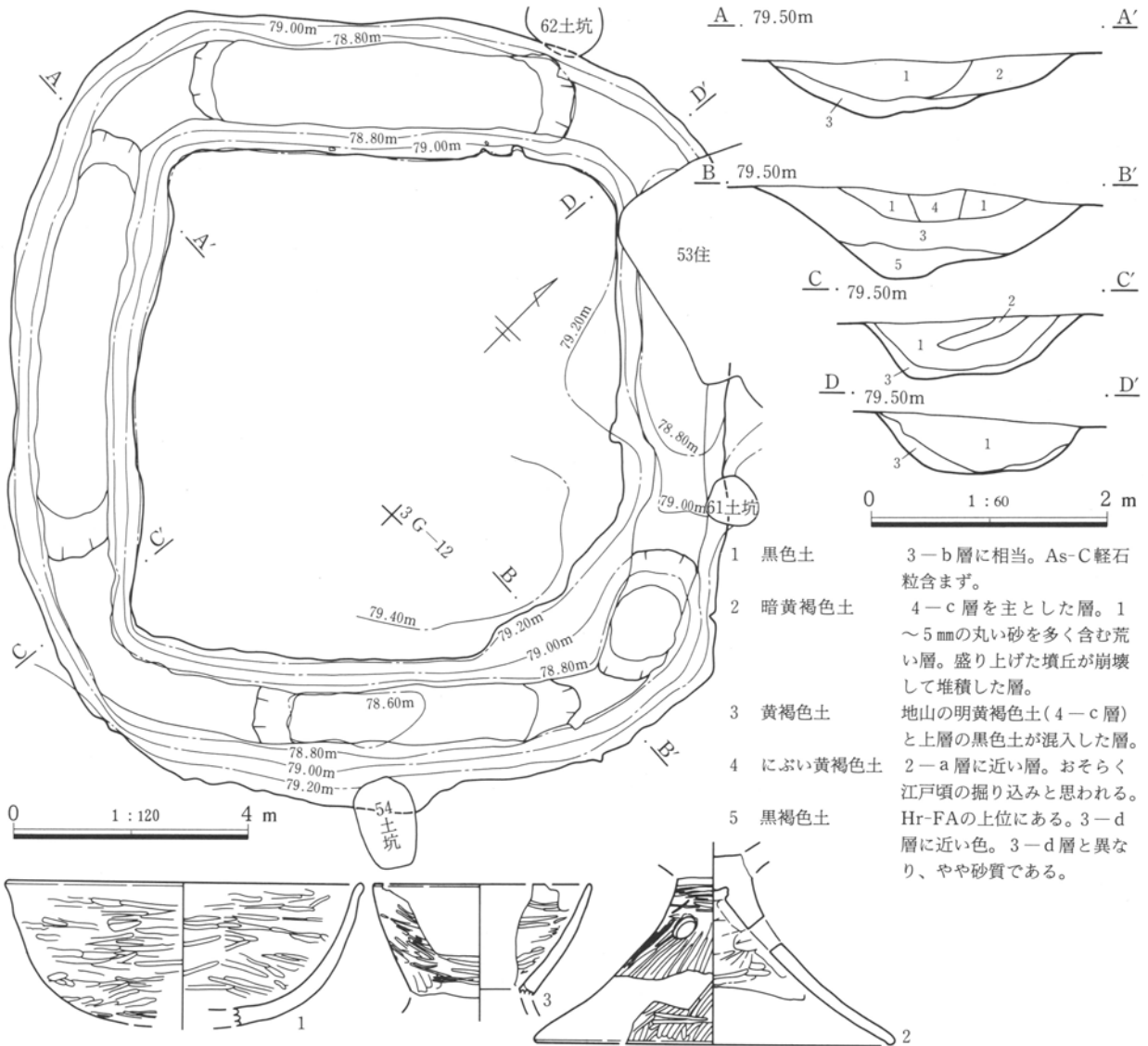
形状 周溝を含めた平面の規模は南北12.13m、東西13.31mを測る。方台部の規模は南北4.32m、東西4.52mを測る。ほぼ方形を呈している。

周溝 周溝は方台部の四隅がやや浅くなる形になっていて、上端幅は1.43～2.90m、下端幅は0.62～1.48m、ほぼ同じ幅で方台部の周りを巡っている。周

溝の掘り込みの深さは23～80cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様で、逆台形状を呈する。周溝の覆土は細かい灰白色軽石粒を含む黒色土が上層で、下層は地山の明黄褐色土が混入してくる。また覆土中に地山に近い土層が方台部から流れ込んでいる箇所がある。これは周溝を掘り上げたものが崩れ落ちて埋まったものと考えられる。

主体部 攪乱によって掘り込まれている箇所もあつたが、方台部上を慎重に調査したが、検出できなかった。

遺物 土師器高坏、壺が出土している。



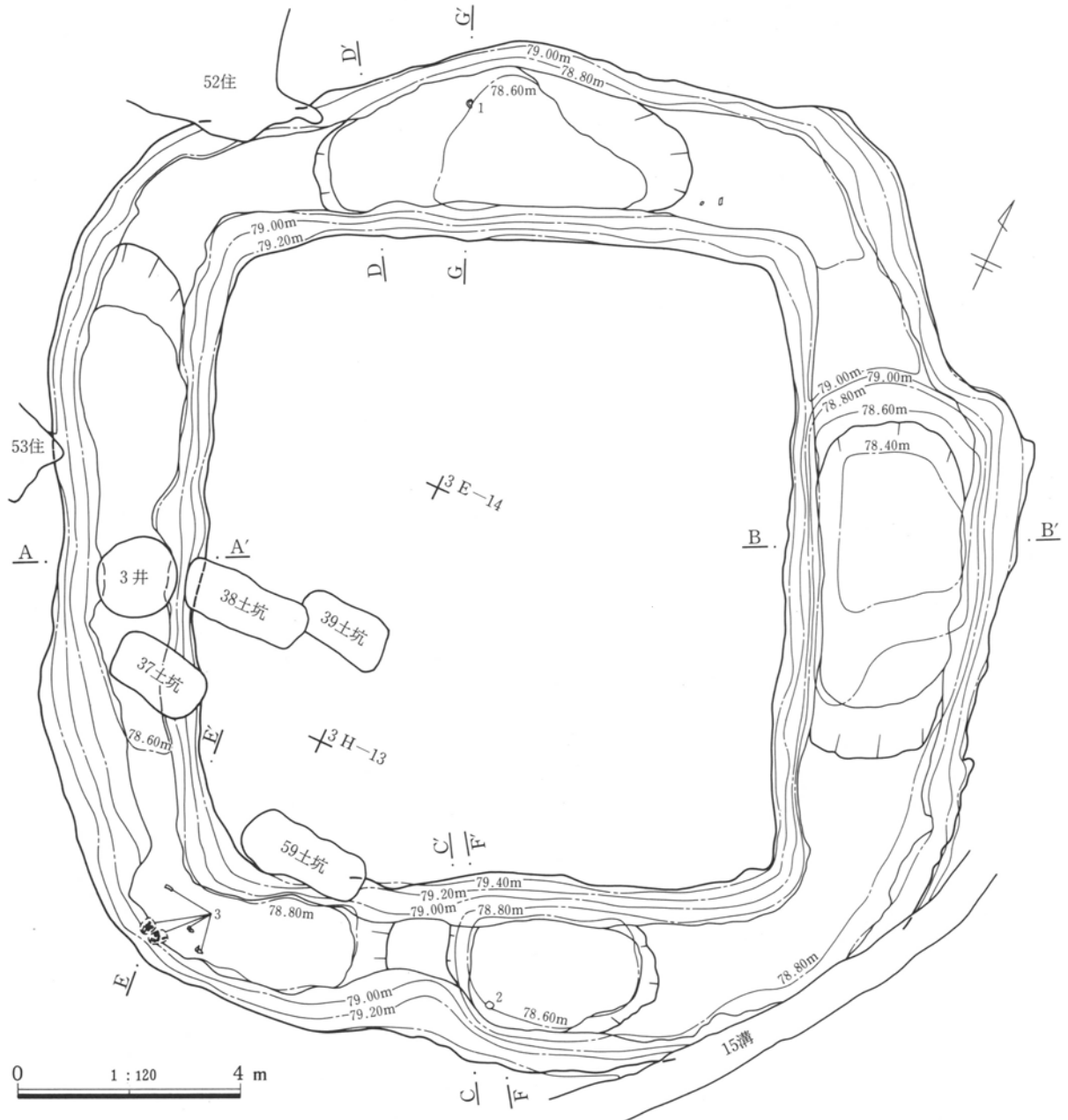
第89図 A区8号方形周溝墓、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

A区 8号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部 1/3 口径(15.0) 器高(6.1) 底径—	覆土	①雲母 輝石 緻密 ②酸化焰 軟質 ③赤色	椀状の坏体部。口縁端部は短く外反する。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。
2	土師器 高坏	脚部 1/3 口径— 器高(8.0) 底径(15.4)	覆土	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	ラップ状に開く脚部。裾端部は短く内湾し面をもつ。脚部上半に円孔3あり。内面の坏部との接合部に円孔1あり。 外面 上半は横篋磨き。下半は縦篋磨き。 内面 上半は篋削り。下半は篋削り後篋磨き。
3	土師器 小型壺	口縁部 口径(12.3) 器高(6.5) 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	やや内湾しながら立ち上がる口縁。 外面 端部は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 端部は横ナデ。以下は篋磨き。

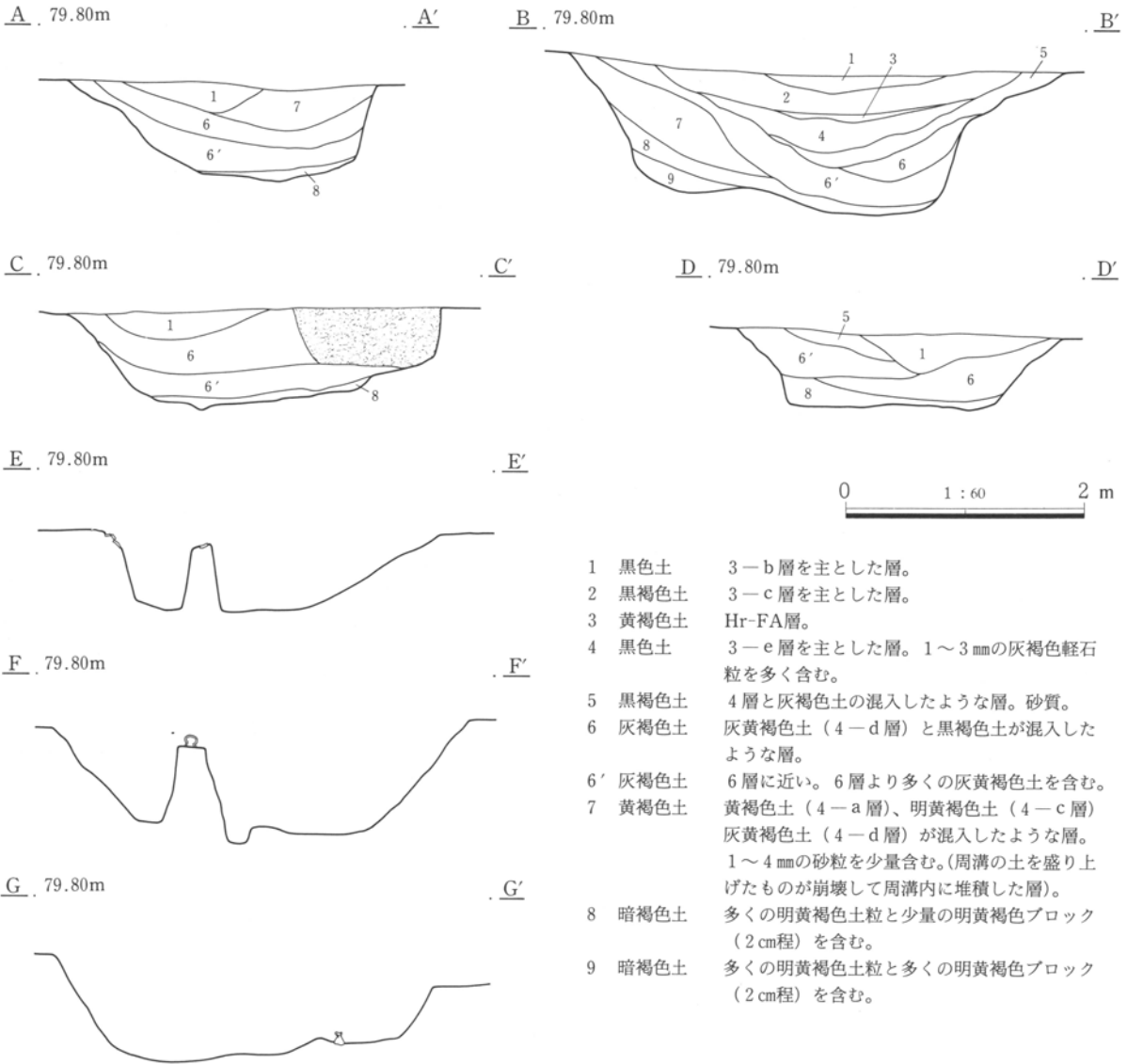
A区 9号方形周溝墓 (第90~92図 PL40・41・137・138)



第90図 A区9号方形周溝墓(1)



1. 古墳時代の遺構と遺物



第91図 A区9号方形周溝墓(2)

**位置** 3C~G-13~16グリッド

**重複** 本周溝墓の南側周溝は平安時代のA区15号溝に掘り込まれている。北側周溝は平安時代のA区52号、53号住居に掘り込まれていた。また、本周溝墓の方台部や周溝部は近世のA区37,38,39,59号土坑及び近現代のA区3号井戸に掘り込まれていた。

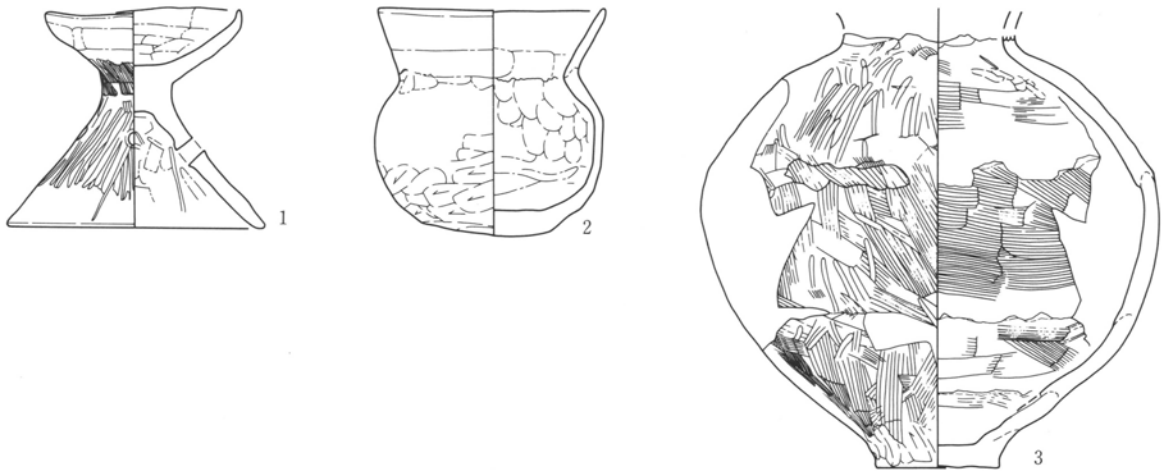
**形状** 周溝を含めた平面の規模は南北18.33m、東西17.67mを測る。方台部の規模は南北11.62m、東西10.43mを測る。ほぼ方形を呈している。

**周溝** 周溝は方台部の四隅がくびれ、やや浅い形になっていて、上端幅は2.30~4.40m、下端幅は0.51~2.86m、周溝の掘り込みの深さは55~122cmを測

る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様で、逆台形状を呈する。東側周溝の土層断面の上層にHr-FAの層がみられた。周溝の土層断面をみると地山に近い土層が方台部から流れ込んでいる箇所がある。これは周溝を掘り上げて盛り土状にしたものが崩れ落ちて埋まったものと考えられる。

**主体部** 方台部上を慎重に調査したが、検出できなかった。

**遺物** 完形の埴、ほぼ完形の器台、甕が出土している。



第92図 A区9号方形周溝墓出土遺物

A区 9号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	土師器 器台	ほぼ完形 口径 7.7 器高 8.6 底径10.0	周溝	①細砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	器受部は外反し、口縁端部で短く内湾する。端部はつまみ上げるようになっている。脚部はラッパ状に開き、裾端部は短く内湾する。端部は下面に面をもつ。 外面 器受部は横ナデ。脚部はハケメ後笥磨き。裾部は横ナデ。 内面 器受部端部は横ナデ。他はナデ。脚部はナデ後笥磨き。裾部は横ナデ。
2	土師器 罎	完形 口径8.9 器高8.9 底径 丸底	周溝	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	頸部がくの字に屈曲し、端部で短く内湾する口縁。胴部は球形。 外面 口縁は横ナデ。頸部はナデ。胴部上半は無調整以下は笥削り。 内面 口縁は横ナデ。頸部はナデ。胴部上半指頭痕あり。以下はナデ。
3	土師器 壺	胴～底部 1/3 口径— 器高(22.9) 底径6.5	周溝	①粗砂 石英 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	肩が張る。胴部上半で最大径をもち、底部ですぼまる。 外面 胴部はハケメ後笥磨き。底部は笥削り。 内面 肩部に指頭痕あり。以下胴部はハケメ。

A区 10号方形周溝墓 (第93図 PL41・42・138)

位置 3D～H-9～11グリッド

重複 本周溝墓の南側周溝部分は調査区外なので発掘調査を行うことは出来なかった。平安時代のA区15号溝に本周溝墓のほぼ中央部を掘り込まれている。また、北側周溝部分は平安時代のA区50号住居に掘り込まれていた。さらに、東側周溝部分の土層断面を見ると、平安時代の道路跡と思われる固い面が検出された。しかし本周溝墓の平面上では道路跡が確認できなかった。

形状 周溝を含めた平面の規模は南北10.3m、東西12.3mを測る。方台部の規模は南北7.30m、東西8.12mを測る。ほぼ方形を呈している。

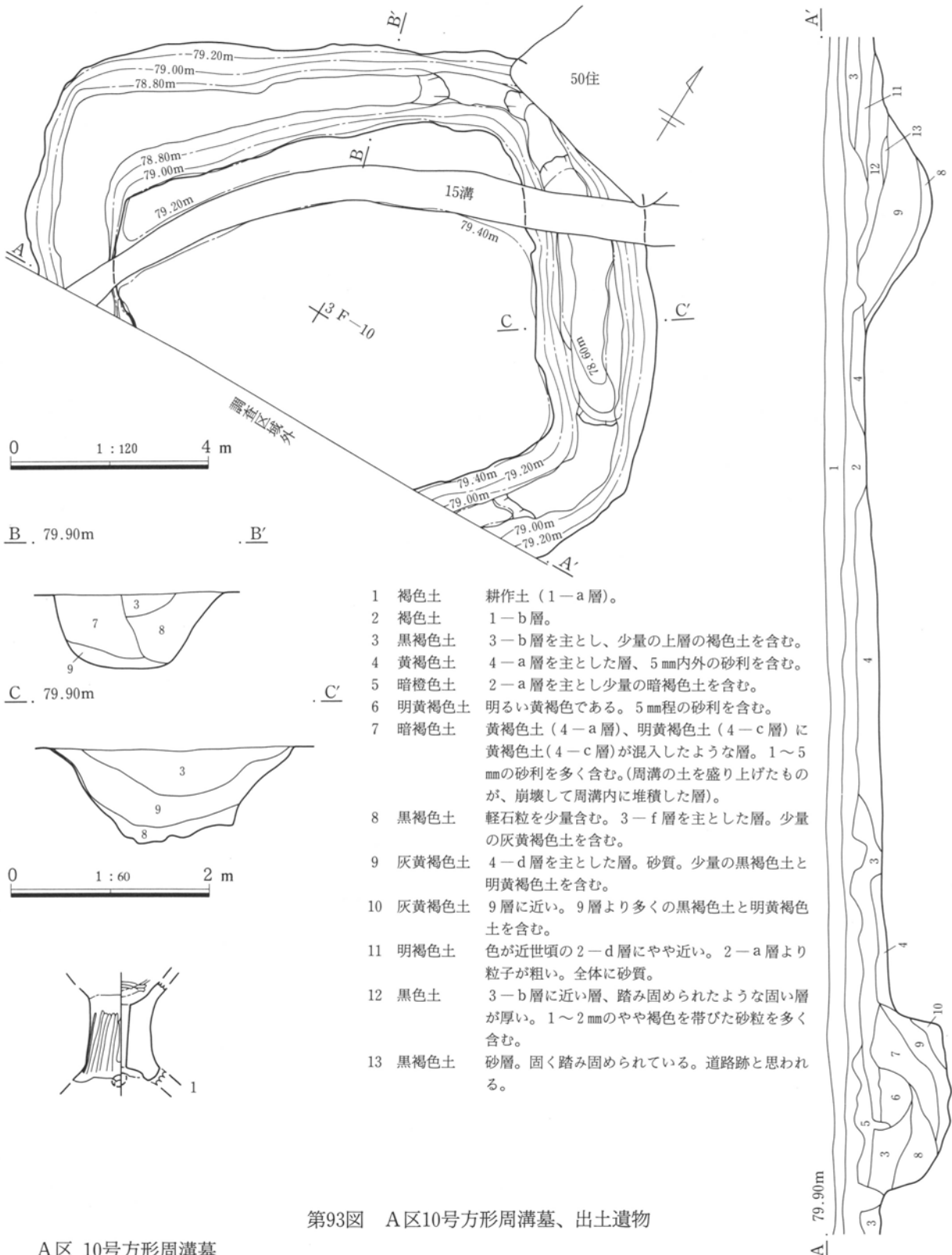
周溝 周溝は方台部の四隅がややくびれ、浅くなる形になっていて、上端幅は1.90～2.82m、下端幅は

0.44～1.48m、周溝の掘り込みの深さは46～95cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様で、逆台形状を呈する。周溝の覆土は灰白色軽石粒を含む黒色土や黒褐色土、そして、地山の明黄褐色土を多く含む土である。覆土中に方台部から明黄褐色土を多く含む土層が流れ込んでいる箇所がある。これは周溝を掘り上げたものが崩れ落ちて埋まったものと考えられる。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、主体部は検出できなかった。

遺物 土師器器台が出土している。

1. 古墳時代の遺構と遺物

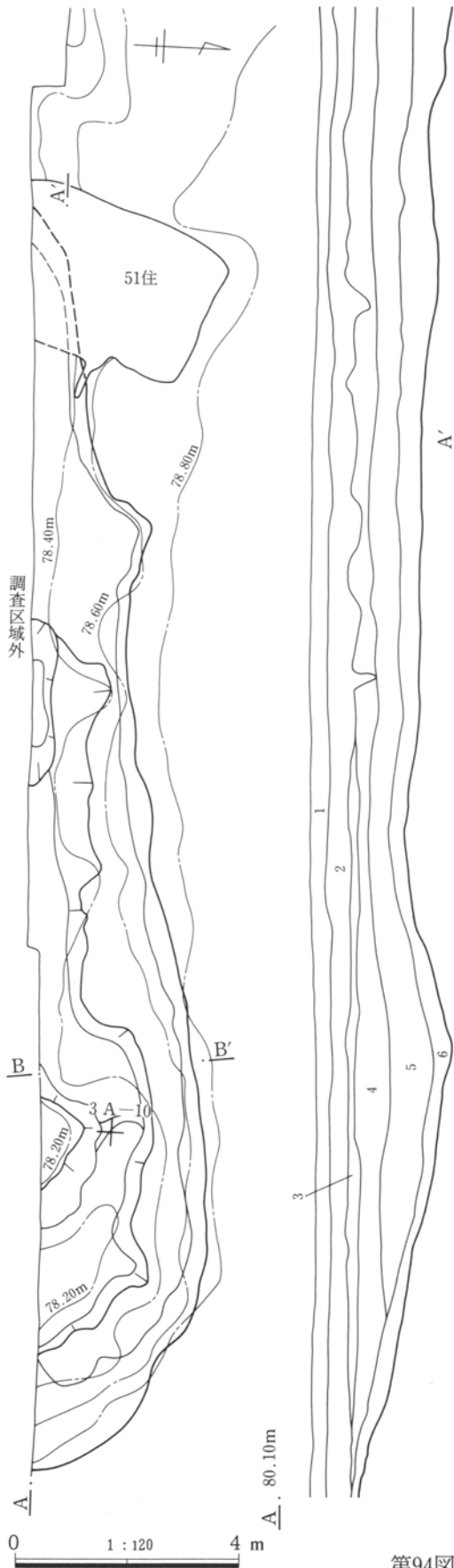


- 1 褐色土 耕作土(1-a層)。
- 2 褐色土 1-b層。
- 3 黒褐色土 3-b層を主とし、少量の上層の褐色土を含む。
- 4 黄褐色土 4-a層を主とした層、5mm内外の砂利を含む。
- 5 暗橙色土 2-a層を主とし少量の暗褐色土を含む。
- 6 明黄褐色土 明るい黄褐色である。5mm程の砂利を含む。
- 7 暗褐色土 黄褐色土(4-a層)、明黄褐色土(4-c層)に黄褐色土(4-c層)が混入したような層。1~5mmの砂利を多く含む。(周溝の土を盛り上げたものが、崩壊して周溝内に堆積した層)。
- 8 黒褐色土 軽石粒を少量含む。3-f層を主とした層。少量の灰黄褐色土を含む。
- 9 灰黄褐色土 4-d層を主とした層。砂質。少量の黒褐色土と明黄褐色土を含む。
- 10 灰黄褐色土 9層に近い。9層より多くの黒褐色土と明黄褐色土を含む。
- 11 明褐色土 色が近世頃の2-d層にやや近い。2-a層より粒子が粗い。全体に砂質。
- 12 黒色土 3-b層に近い層、踏み固められたような固い層が厚い。1~2mmのやや褐色を帯びた砂粒を多く含む。
- 13 黒褐色土 砂層。固く踏み固められている。道路跡と思われる。

第93図 A区10号方形周溝墓、出土遺物

A区 10号方形周溝墓

番号	器種	残存法量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 器台	脚部上半 口径一 器高(4.7) 底径一	覆土	①緻密 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	脚部上半は円筒形で、下半からラッパ状に開き始める。円孔4あり。 外面 脚部は篋磨き。 内面 器受部は篋磨き。



A区 11号方形周溝墓 (第94図 PL42)

位置 2T~3D-9~11グリッド

重複 本周溝墓は北側周溝のみ検出された。方台部やその他の周溝は調査区外にあたり、発掘調査できなかった。周溝の北西部は平安時代のA区51号住居に掘り込まれていた。

形状 北側周溝の一部しか検出できなかったので全体の形状は把握できなかった。

周溝 周溝はなだらかで、方台部への立ち上がりは検出できなかった。

主体部 検出できなかった。 遺物 遺物なし

- |         |   |
|---------|---|
| 1 褐色土   | 耕作土 (1-a層)。   |
| 2 褐色土   | やや硬質。にぶい黄褐色も含まれており、1-b層と2-a層が混入したような層。                |
| 3 黒褐色土  | 砂質。3-b層の黒色土を主とし、多くのAs-B軽石粒含む層。                        |
| 4 黒色土   | 3-b層を主とした層。   |
| 5 黒色土   | 3-f層を主とした層。As-C軽石粒は殆ど含まれていない。                         |
| 6 灰黄褐色土 | 4-d層を多く、少量の黒褐色土を含む。砂質の層。                              |
| 7 黒褐色土  | 3-f層を主とし多くの灰黄褐色土(4-d層)を含む。5層と6層の中間的な層。As-C軽石粒は全く含まない。 |

第94図 A区11号方形周溝墓

A区 12号方形周溝墓 (第95図 PL42)

位置 2T～3B-17～18グリッド

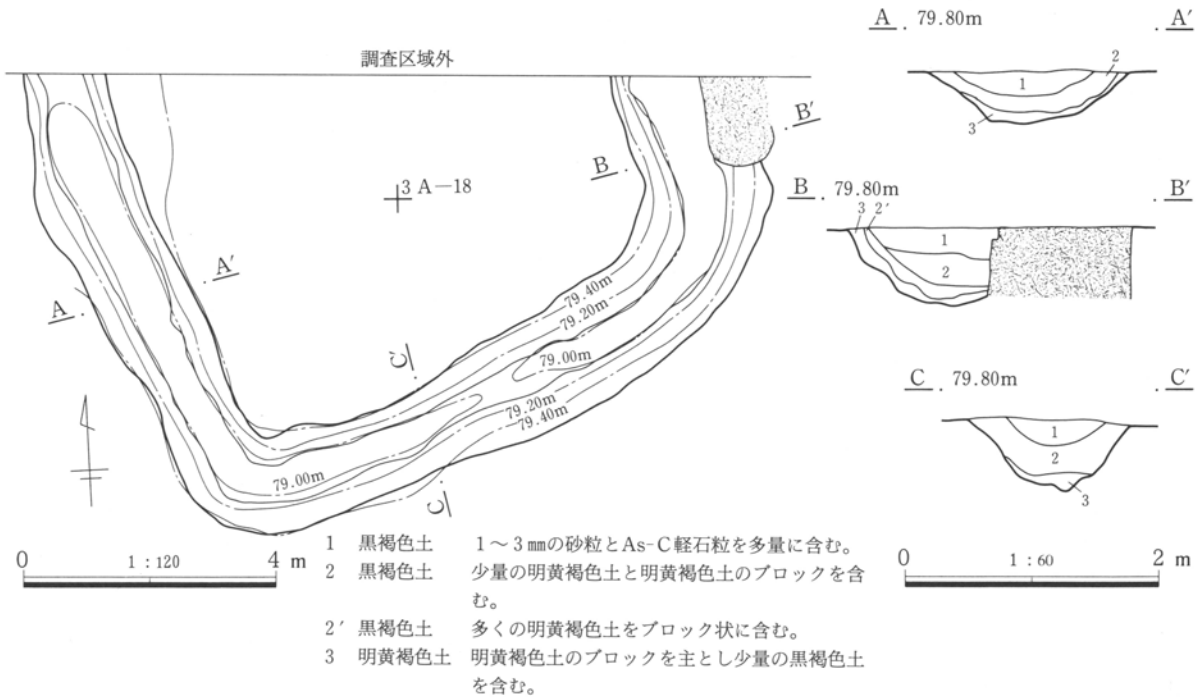
重複 本周溝墓の東側周溝は現代のコンクリート製の井戸に掘り込まれていた。

形状 北側周溝から東側周溝にかけては、地域住民の生活道路の下部にあたり、発掘調査を行うことができなかった。周溝を含めた平面の規模は東西10.52mを測る。方台部の規模は東西7.48mを測る。ほぼ方形を呈していると考える。

周溝 周溝は方台部の周りをほぼ同じ幅で巡っている。上端幅は1.15～2.05m、下端幅は0.37～1.00m、周溝の掘り込みの深さは43～70cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様に、U字形状を呈する。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、主体部は検出できなかった。

遺物 土師器甕の破片が出土している。



第95図 A区12号方形周溝墓

A区 13号方形周溝墓 (第96図 PL43・138)

位置 3-C～E-16～18グリッド

重複 本周溝墓の方台部の南西コーナーから西側周溝にかけて、平安時代のA区55号住居に掘り込まれていた。

形状 周溝を含めた平面の規模は南北8.34m、東西8.10mを測る。方台部の規模は南北5.50m、東西5.00mを測る。ほぼ方形を呈している。

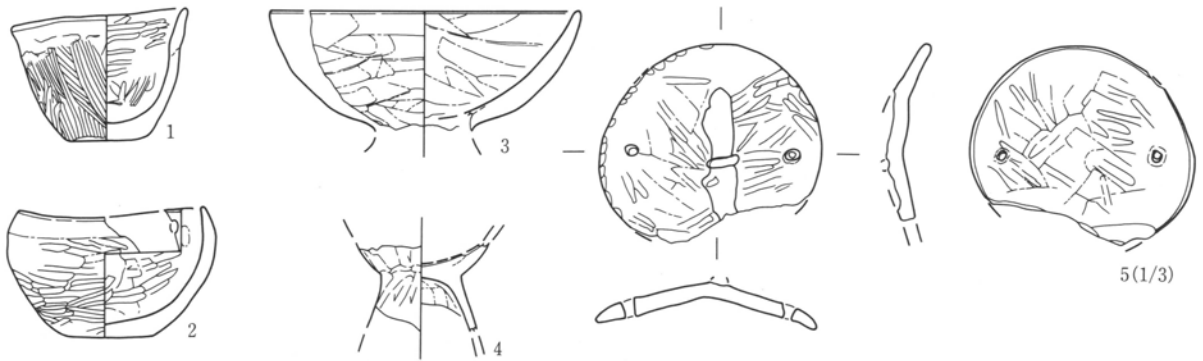
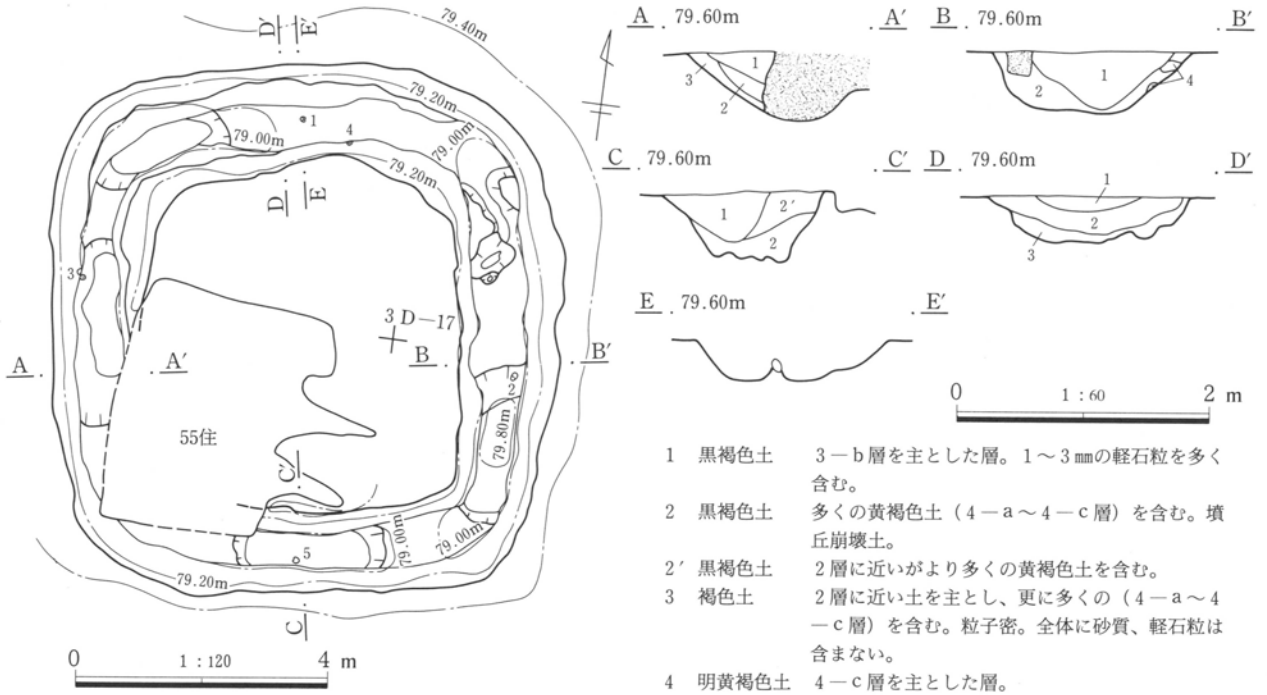
周溝 周溝は方台部の周囲をほぼ同じ幅で巡っている。上端幅は0.74～1.96m、下端幅は0.49～1.14m、周溝の掘り込みの深さは18～53cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様に、U字形状を呈する。周溝の覆土は

灰白色軽石粒を含む黒褐色土や地山の明黄褐色土が層位をなしている。覆土中に多くの明黄褐色土を含む土が方台部から流れ込んでいる。これは周溝を掘り上げたものが崩れ落ちて埋まったものと考える。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、主体部は検出できなかった。

遺物 土師器鉢、高坏、台付甕、蓋?が出土している。中でも鉢は完形のものもある。

第3章 検出された遺構と遺物



第96図 A区13号方形周溝墓、出土遺物

A区 13号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 鉢	完形 口径7.0 器高5.0 底径3.0	周溝	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	口縁は短く外反する。 外面 口縁部は横ナデ。胴部はハケメ後篋磨き。底部は篋磨き。 内面 口縁部は横ナデ。胴部は篋削り後篋磨き。
2	土師器 鉢	3/4 口径7.3 器高5.0 底径3.5	周溝	①粗砂 雲母 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	口縁は短く内湾する。 外面 口縁部は横ナデ。胴部は篋磨き。 内面 口縁部は横ナデ。頸部に指頭痕あり。胴部は篋削り後篋磨き。
3	土師器 高坏	坏部 1/5 口径(12.3) 器高(4.8) 底径—	周溝	①石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	碗状の坏部、端部はやや内湾し、内側に面をもつ。 外面 ナデ。 内面 ナデ。
4	土師器 台付甕	台部 1/2 口径— 器高(4.8) 底径—	周溝	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	台部がくの字に屈曲し胴部へ続く。 外面 器面が荒れている。篋削り。 内面 ナデ。
5	土師器 蓋?	坏部 4/5 短径(7.8) 長径 8.8 底径—	周溝	①石英 雲母 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	円盤状で中央部が盛り上がる蓋か?。外側からあけた円孔2あり。 中央部に把手がついていた痕跡あり。端部に面をもつ。 外面 端部は横ナデ。他の部分はナデ後篋磨き。 内面 端部は横ナデ。他の部分はナデ後篋磨き。

A区 14号方形周溝墓 (第97~99図 PL44・138・139)

位置 2N~T-11~18グリッド

重複 本周溝墓の前方部を平安時代のA区61号住居に掘り込まれていた。また、後方部の東側を近世のA区16号溝が、北東コーナー部を平安時代のA区71、72号土坑が掘り込んでいた。

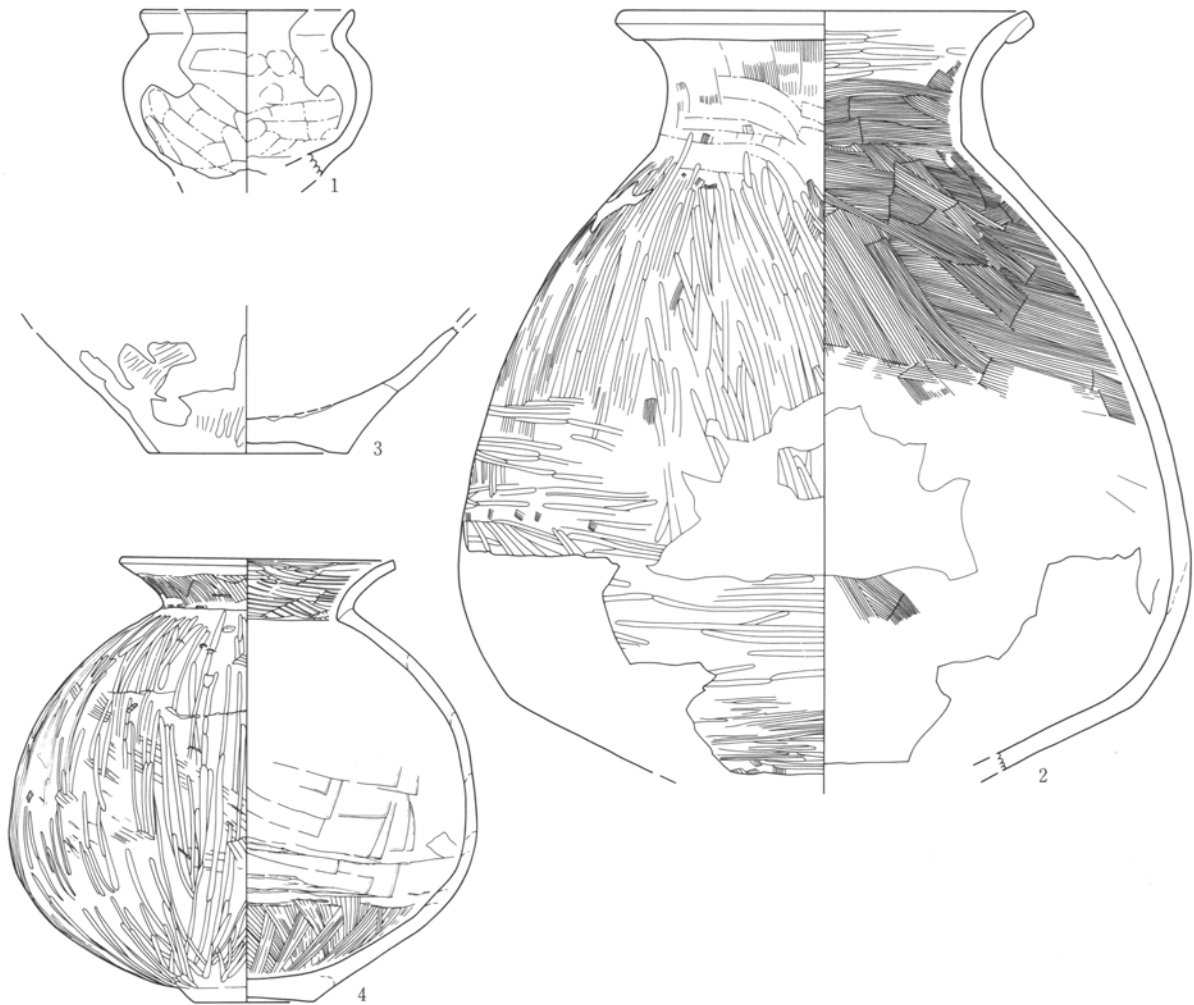
形状 周溝を含めた平面の規模は南北29.20m、東西27.32mを測る。方台部の規模は前方部後方部あわせ方台部長は23.20m。前方部長7.8m、後方部長15.40m、前方部幅(7.6)m、後方部幅15.20mを測る。県内でも有数の前方後方形の周溝墓である。

周溝 周溝は後方部の北側と西側のコーナー部がくびれる形になっていて、後方部の辺にそって外側へ膨らむ。全体としては楕円形に近い形で方台部を取り囲んでいる。上端幅は2.18~9.66m、下端幅は0.

80~7.69m、周溝の掘り込みの深さは43~98cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりよりも、方台部への立ち上がりの方がやや急である。周溝の覆土は灰白色軽石粒を含む黒色土、地山の灰黄褐色土を多く含む土などである。覆土中に方台部から灰黄褐色土を多く含む層が流れ込んでいる箇所がある。これは周溝を掘り上げた土が方台部から崩れ落ちて埋まったものと考えられる。

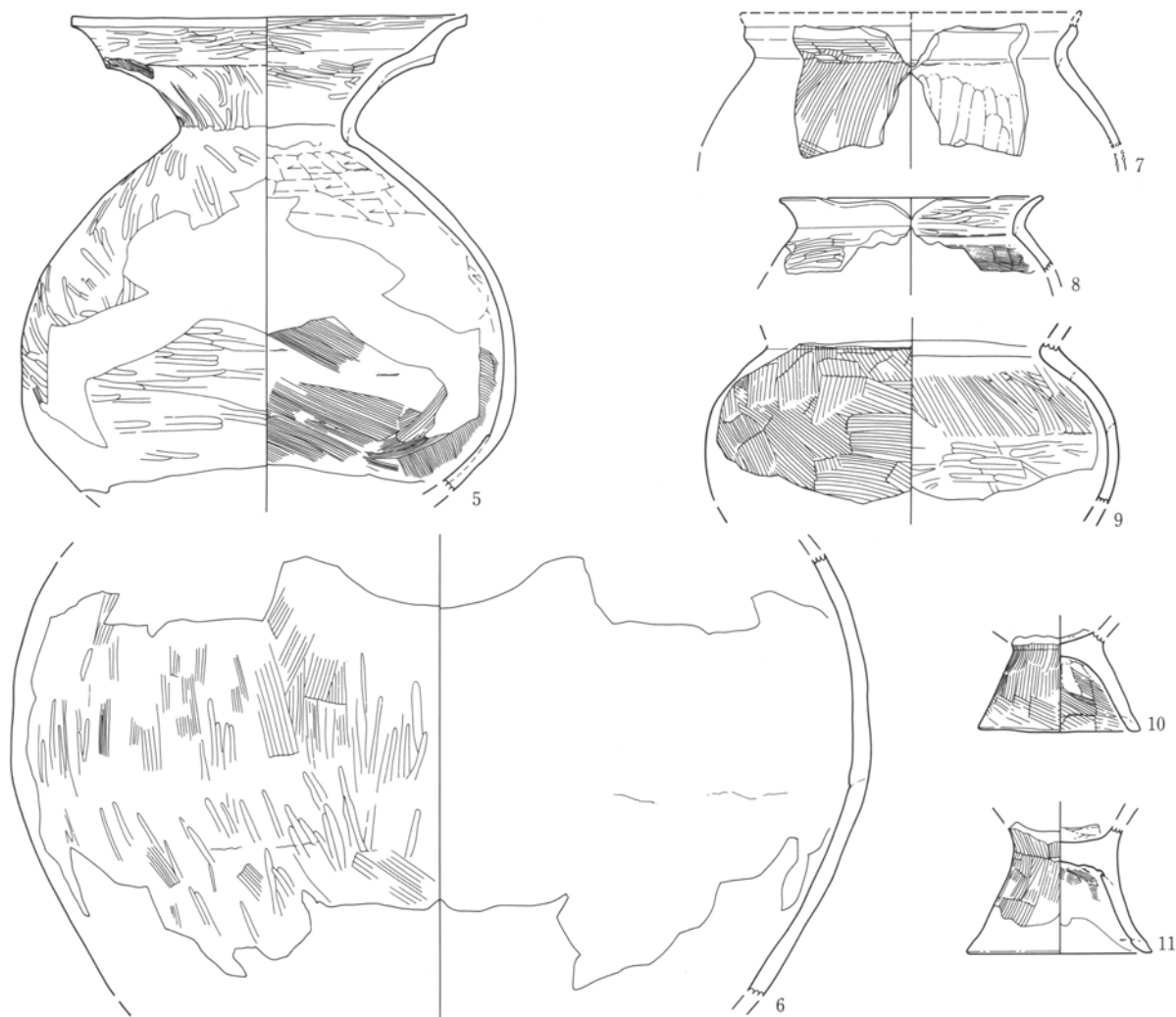
主体部 方台部上にベルトを設定し、慎重に調査したが、主体部を検出できなかった。しかし、後方部上からA区7号周溝墓ほどではないが、As-C軽石粒の混入した窪みが検出された。

遺物 土師器鉢、壺、甕が出土している。中には完形の壺もある。



第97図 A区14号方形周溝墓出土遺物(1)





第98図 A区14号方形周溝墓出土遺物(2)

A区 14号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	口~胴下部 1/4 口径(8.3) 器高(6.6) 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	球形の胴部。口縁は外反し、端部を上へつまみ上げる。 <b>外面</b> 口縁部は横ナデ。胴部はナデ。 <b>内面</b> 口縁部は横ナデ。胴部上半は指頭痕。下半はナデ。
2	土師器壺	口~胴下部 1/2 口径 21.5 器高(39.8) 底径—	周溝	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	肩の張らない下膨れの胴部。胴部から直立気味に立ち上がる頸部。 口縁は外反し、端部を折り返し、外側に面をもつ。 <b>外面</b> 口縁部は横ナデ。頸部は縦ハケメ後ナデ。胴部はハケメ後 篋磨き。 <b>内面</b> 口縁部は横ナデ。頸部上半は篋磨き、下半以下はハケメ。
3	土師器壺	底部 1/3 口径— 器高(6.5) 底径(10.5)	周溝	①2~5mmの小石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部から大きく外反して立ち上がる胴部。 <b>外面</b> 篋削り後篋磨き。
4	土師器壺	完形 口径14.2 器高23.4 底径 6.2	周溝	①2~3mmの小石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部はくの字に屈曲し、口縁端部は外向きに面をもつ。球形で最大径をやや下方にもつ胴部。 <b>外面</b> 口縁端部は横ナデ。頸部はハケメ。胴部はハケメ後篋磨き。 <b>内面</b> 口縁端部は横ナデ。頸部は横ハケメ。胴部は篋削り。底部はハケメ。
5	土師器壺	口~胴中部 1/2 口径 21.4 器高(25.7) 底径—	周溝	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部がくの字に屈曲し、中段で更に外湾する複合口縁。外向きに面をもつ。口縁の接合部分が剥離しているが、中にハケメ痕あり。胴部は肩が張らず、下膨れ。 <b>外面</b> 口縁は横ナデ後篋磨き。以下は篋磨き。 <b>内面</b> 口縁は横ナデ後篋磨き。頸部は篋磨き。胴部上半は篋削り。下半はハケメ。





1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
6	土師器 壺	胴部片 口径— 器高(20.5) 底径—	周溝	①2～5mmの小石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	球形の胴部。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 無調整か。
7	土師器 台付甕	口～肩部片 口径— 器高(6.9) 底径—	覆土	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	頸部から外反して立ち上がり、中段で短く内反し、つまむように短く外反する複合口縁 外面 口縁は横ナデ。頸部は横ハケメ。以下は粗い縦ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
8	土師器 甕	口～頸部片 口径(14.0) 器高(4.2) 底径—	覆土	①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部から外反して立ち上がり、端部をつまむようにしている。 外面 口縁は横ナデ。頸部は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ後篋磨き。以下はハケメ。
9	土師器 甕	頸～胴上位1/4 口径— 器高(8.2) 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	球形の胴部。 外面 ハケメ。 内面 上半はハケメ。以下は磨き。
10	土師器 台付甕	台部 口径— 器高(5.4) 底径 8.7	周溝	①軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	厚手で短い台部。底部に面をもつ。 外面 ハケメ。端部はハケメ後横ナデ。 内面 胴部との接合部はナデ。以下はハケメ。底部に折り返しの痕跡が見える。
11	土師器 台付甕	台部 口径— 器高(7.1) 底径(10.1)	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	折り返しがつく台部。くの字状に立ち上がる胴部。 外面 ハケメ。底部は横ナデ。 内面 胴部との接合部に深めなハケメ。以下はハケメ後横ナデ。

B区 1号方形周溝墓 (第100・101図 PL45・139)

位置 6K-0グリッド

重複 重複なし。

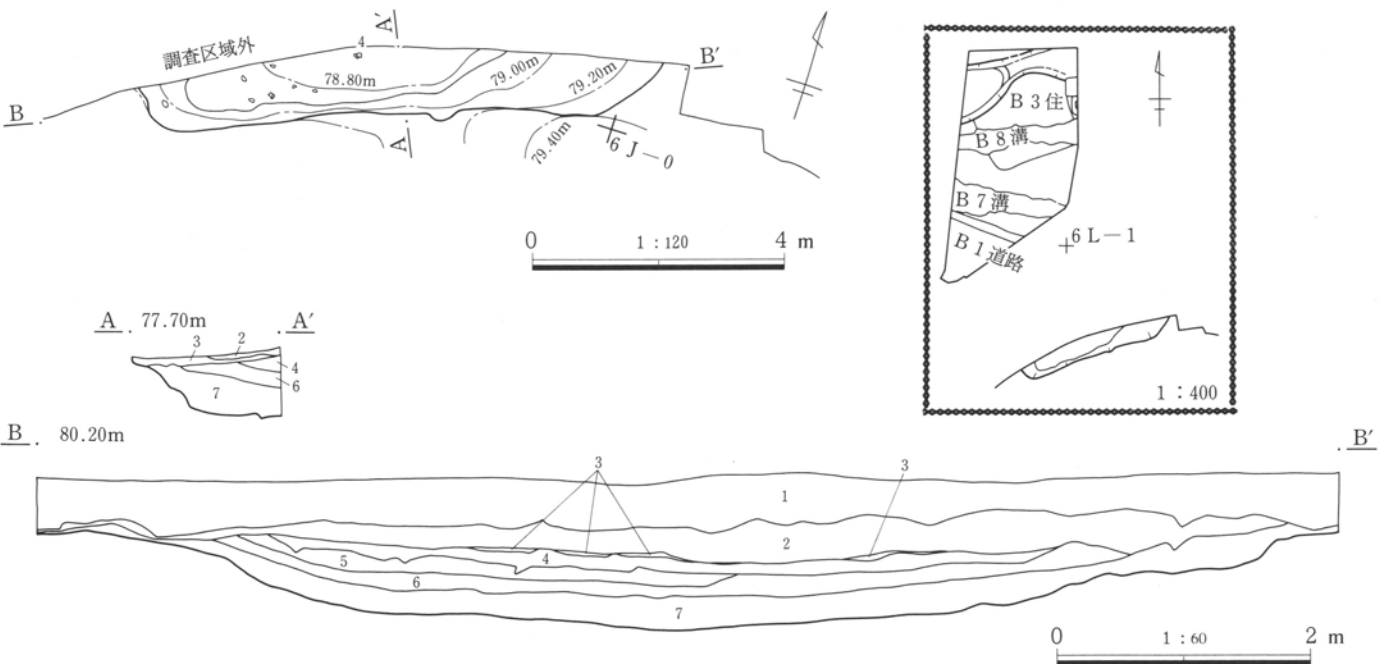
形状 本周溝墓は住民の生活道路に関わり、周溝の一部しか発掘調査をすることが出来なかった。しかし、本遺構の北側に位置するB区3号住居跡の調査の際に、方形周溝墓がこの住居を掘り込んでいることがわかった。位置的にこの周溝墓は本周溝墓と同一

のものである可能性が高いと考えている。

周溝 周溝の上端幅、下端幅、最大深さを測定することは出来ない。周溝の覆土に Hr-FA 層や灰白色軽石粒を多く含む黒色土が目立つ。また、地山の黄褐色土を含んだ黒褐色土が流れ込む層もみられた。

主体部 主体部は検出できなかった。

遺物 土師器鉢、壺、甕が出土している。



第100図 B区1号方形周溝墓

第3章 検出された遺構と遺物

- 1 褐色土 耕作土。砂利石を含む（1-a層）。
- 2 黒色土 3-b層相当と考える。細かい灰白色軽石粒を含む。
- 3 黄褐色土 3-d層。Hr-FAの層。
- 4 黒色土 3-e層。2層よりも灰白色軽石粒が大量に含まれている。
- 5 黒褐色土 黒褐色土中に黄褐色土粒を多く含む（盛土が崩壊して堆積した層）。
- 6 黒褐色土 3-f層に相当すると思われるが、As-C軽石粒を含む。
- 7 黒褐色土 3-f層と思われる。黒褐色土と黄褐色土（4-c層）粒が多く混入した土層。盛土の崩壊と周溝側面の土と黒褐色土の混入。



第101図 B区1号方形周溝墓出土遺物

B区 1号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	頸～胴上半 1/5 口径— 器高(3.8) 底径—	覆土	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	球形の胴部。口縁は外反する。 外面 口縁部は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。胴部はナデ。
2	土師器小型壺	口～胴上半 1/3 口径(8.4) 器高(8.1) 底径—	覆土	①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直立気味に立ち上がる頸部。口縁端部は丸い。球形の胴部。 外面 口縁部は横ナデ。以下は篋削り。 内面 口縁部は横ナデ。以下は篋削り。
3	土師器壺	口縁片 口径(14.0) 器高(1.5) 底径—	覆土	①細砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外湾する折り返し口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。
4	土師器甕	口縁片 口径(14.3) 器高(5.7) 底径—	周溝	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部から丸みをもつて立ち上がり外反する口縁。端部上面にやや面をもつ。 外面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ。

B区 2号方形周溝墓（第102図 PL45・46）

位置 2M～Q-10～12グリッド

重複 本周溝墓の方台部上に近世のB区2号土坑が掘り込まれている。

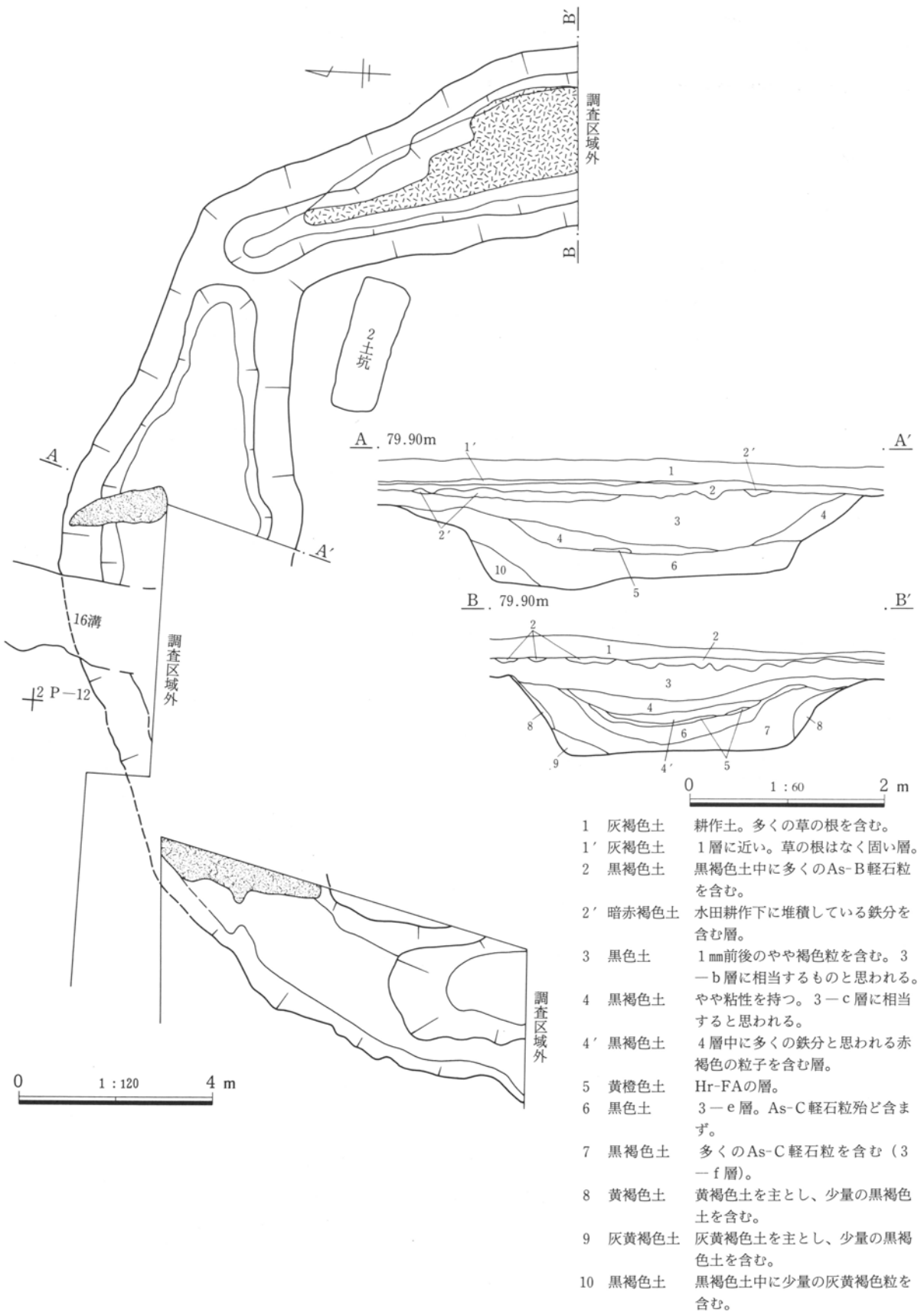
形状 本周溝墓の南半分は調査区外に位置しているため発掘調査を行うことが出来なかった。また、北西部分も住民の生活道路や水道本管が関係しているため発掘調査ができなかった箇所がある。周溝を含めた平面の規模や形状を正確に把握することは難しい。

周溝 周溝は方台部のコーナー部でくびれ、浅くなっていた。上端幅は2.45～4.93m、下端幅は0.32～2.54m、周溝の掘り込みの深さは63～90cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様に、逆台形状を呈する。周溝の覆土中に Hr-FA の集中した黄橙色の層があり、特に東側周溝では面でとらえることが出来た。

周溝覆土の主体は灰白色軽石粒を含む黒色土である。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、主体部は検出できなかった。

遺物 遺物なし。



第102図 B区2号方形周溝墓

B区 3号方形周溝墓 (第103~105図 PL46・47・139)

位置 2J~M-10~13グリッド

重複 本周溝墓の中央部を北東コーナーから南西コーナーにかけて、近現代のB区1,2,3号溝、平安時代のB区4号溝に掘り込まれていた。また、南東コーナー部を奈良・平安時代のB区26号溝が掘り込んでいた。さらに、方台部を近世のB区1,2号井戸が掘りこんでいた。

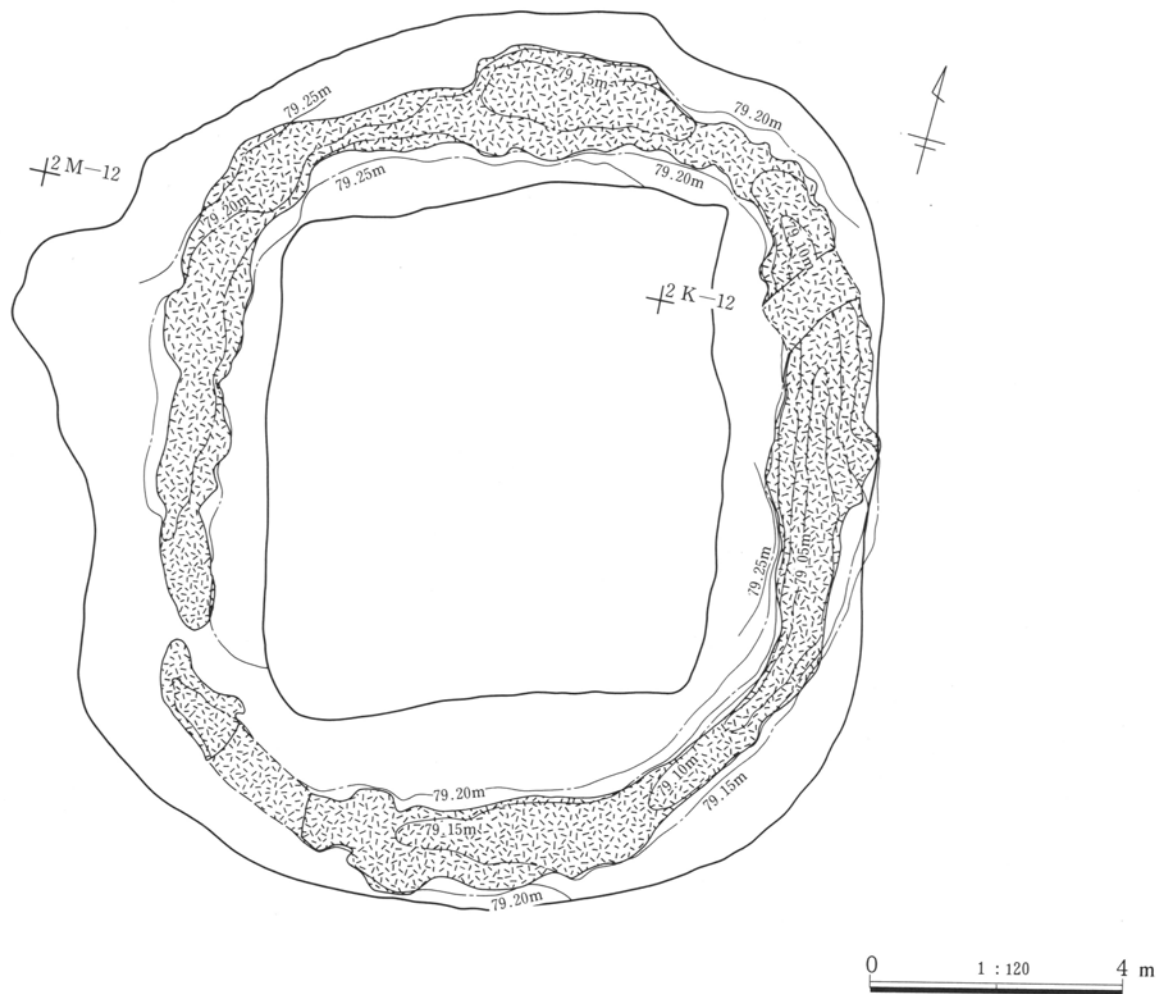
形状 周溝を含めた平面の規模は南北14.05m、東西13.83mを測る。方台部の規模は南北7.97m、東西7.18mを測る。ほぼ方形を呈している。

周溝 周溝は方台部の周囲をほぼ同じ幅で巡っているが、方台部の四隅はややくびれて深さも浅い。上

端幅は1.99~4.24m、下端幅は0.37~3.08m、周溝の掘り込みの深さは35~77cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様に緩やかで、逆台形状を呈する。周溝の覆土中に Hr-FA 層があり、周溝の全面に Hr-FA 層の黄橙色の土が平面的に確認できた。周溝覆土の主体は灰白色軽石粒を含む黒色土である。

主体部 方台部上を慎重に調査したが、他の遺構によって掘り込まれていることもあり、主体部は検出できなかった。

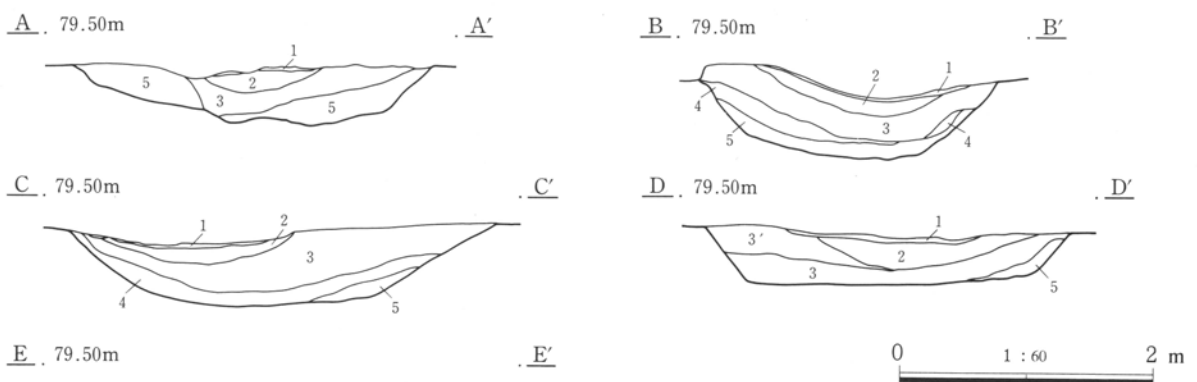
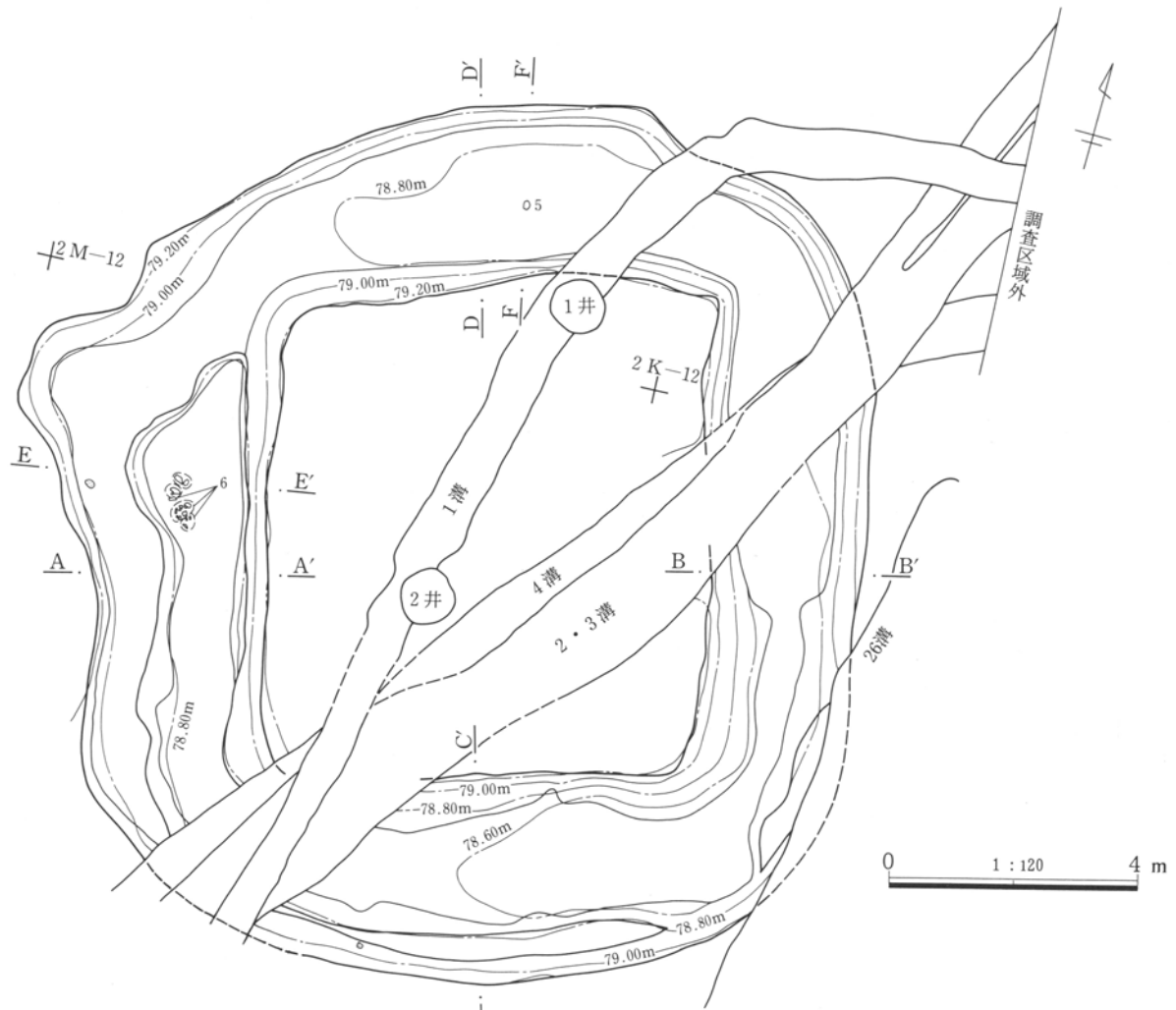
遺物 土師器片口、器台、埴、壺、甕が出土している。



第103図 B区3号方形周溝墓 FA 堆積状況



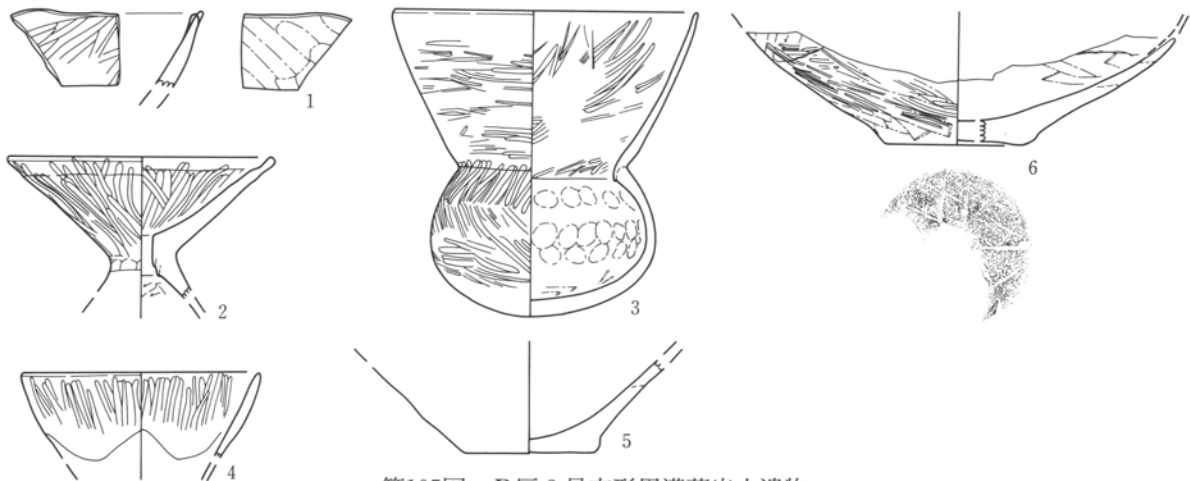
1. 古墳時代の遺構と遺物



- 1 黄橙色土 3-d層。Hr-FAを主とした層。粒子密。
- 2 黒色土 3-e層を主とした層。少量の黒褐色土を含む。粒子密。
- 3 黒褐色土 少量の黄褐色土粒を含む。粒子密。
- 3' 黒褐色土 3層に近いが3層より黒色が強い。
- 4 黒褐色土 多くの黄褐色土粒を含む。粒子密。
- 5 暗黄褐色土 暗褐色土中に多くの黄褐色土ブロック(1cm程)と黄褐色土粒を含む。粒子密。

第104図 B区3号方形周溝墓

第3章 検出された遺構と遺物



第105図 B区3号方形周溝墓出土遺物

B区 3号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 片口	口縁部片 口径— 器高— 底径—	覆土	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	胴部が内湾気味に立ち上がる。片口部分はつまむように整形。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はナデ。 内面 篋磨き。
2	土師器 器台	器受部 口径10.5 器高(5.5) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反する器受部。 口縁端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下器受部は篋磨き。脚部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下器受部は篋磨き。脚部は篋削り。
3	土師器 罎	2/3 口径(12.0) 器高 12.0 丸底	覆土	①細砂 輝石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部がくの字に屈曲する。口縁は上へのびながら外反し、端部でやや内湾する。丸い胴部。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は横ナデ後篋磨き。胴部は篋磨き 内面 口縁～頸部は横ナデ後篋磨き。胴部横ナデで指頭痕あり。 底部は篋ナデ。
4	土師器 小型壺	口縁部片 口径(12.5) 器高(4.5) 底径—	覆土	①輝石、細砂 ②酸化焰。硬質 ③淡黄色	外反し、端部でやや内湾する口縁。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下は篋磨き。
5	土師器 壺	胴下部～底部 口径— 器高(5.0) 底径 7.0	周溝	①輝石 石英 2～4mm の石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部から大きく外反する胴部。 外面 器面が荒れている。底部は確認出来ず。胴部は篋磨きか? 内面 器面が荒れている。ハケメか?
6	土師器 壺	胴下部～底部 2/3 口径— 器高(5.8) 底径7.3	周溝	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色土	下膨れ状の胴部。 外面 胴部篋削りおよび篋ナデ後篋磨き。底部に木葉痕あり 内面 接合部分が剝離している箇所あり。底部は篋ナデ

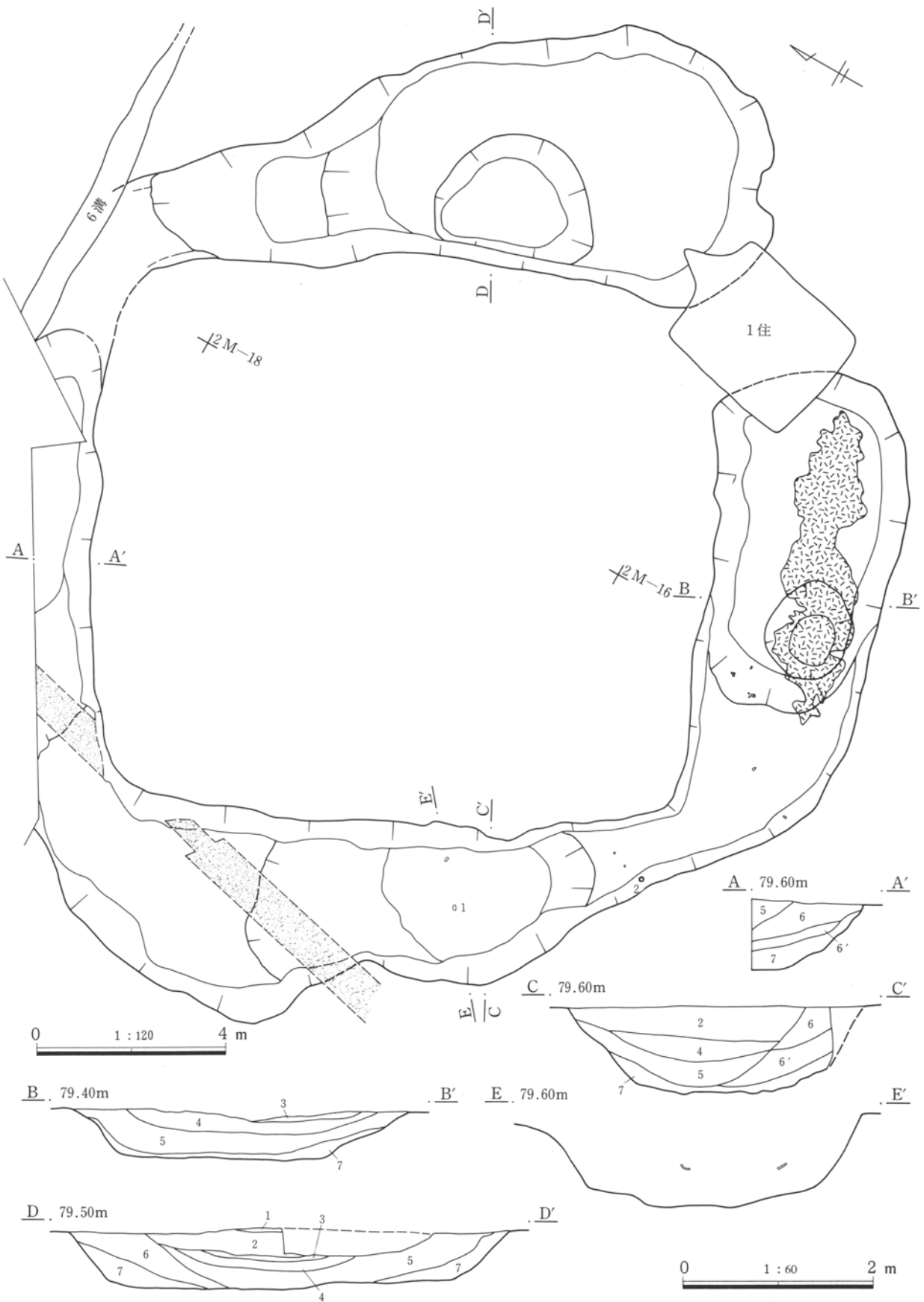
B区 4号方形周溝墓 (第106・107図 PL47・139)

位置 2K～P-15～19グリッド

重複 本周溝墓の南東コーナー部を平安時代のB区1号住居に掘り込まれていた。

形状 北側周溝の一部は住民の生活道路のため発掘調査を実施できなかった。また、西側周溝も水道本管への配慮のため調査を実施できなかった箇所がある。このような点も考慮しつつ、周溝を含めた平面の規模は南北(18.51)m、東西19.76mを測る。方台部の規模は南北13.27m、東西11.94mを測る。ほぼ方形を呈している。

周溝 周溝は方台部の四隅でくびれ、浅くなっている。上端幅は1.50～5.45m、下端幅は0.89～4.63m、周溝の掘り込みの深さは11～95cmを測る。周溝の断面形は外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様で、逆台形状を呈する。周溝の覆土上層中に Hr-FA 層があり、東側周溝には平面的に Hr-FA の黄橙色が認められた。また、周溝の覆土中に方台部から地山の灰黄褐色土を主体とした土層が流れ込んでいる。これは周溝を掘り上げた土が崩れ落ちて埋まったものと考えられる。

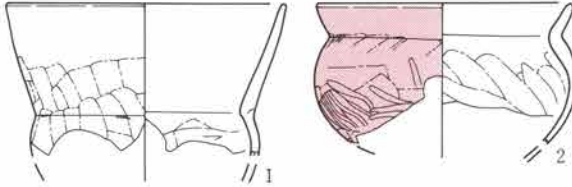


第106図 B区4号方形周溝墓

第3章 検出された遺構と遺物

**主体部** 方台部上を慎重に調査したが、主体部は検出できなかった。

**遺物** 土師器埴や鉢が出土している。なお、本周溝墓の南東のB区1号土器群から完形のパレススタイル壺が出土している。



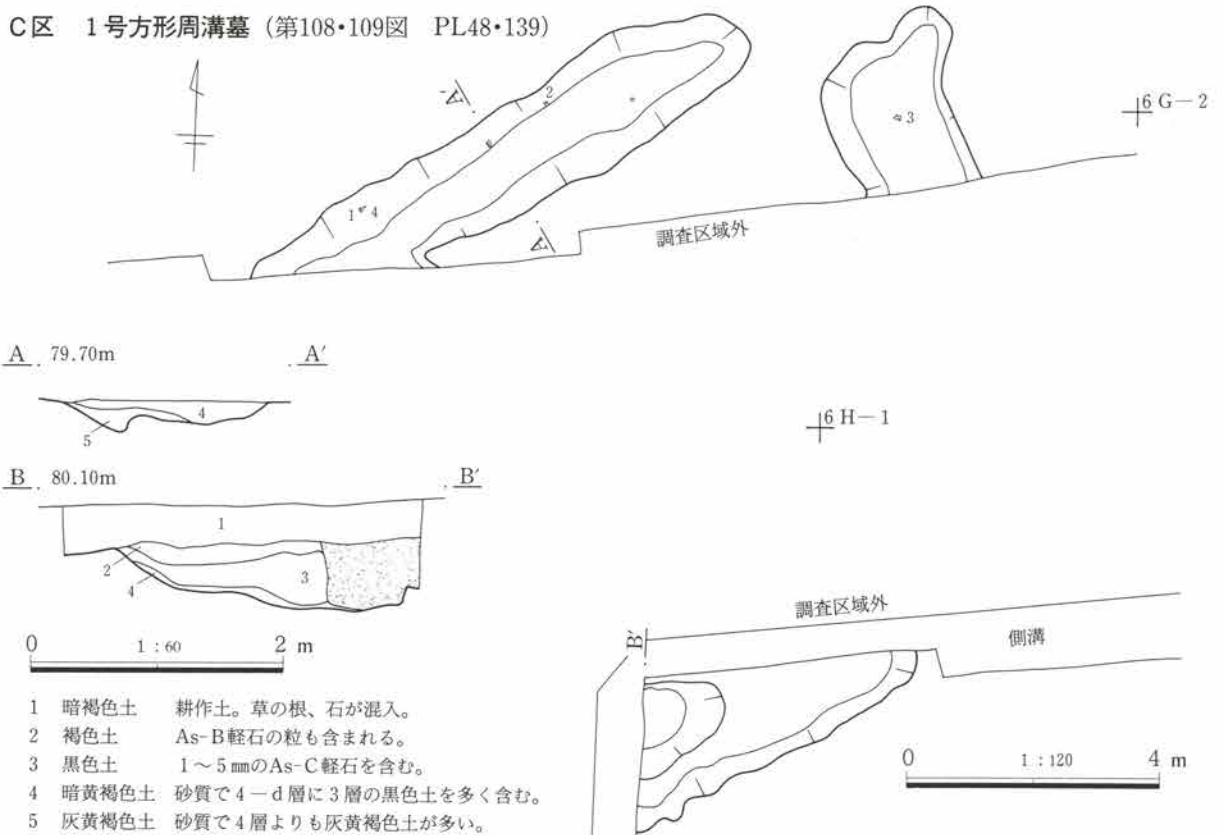
- 1 暗褐色土 暗褐色土を主とし、少量の鉄分を含む層。
- 2 黒色土 3-b層を主とした層、上層に僅かにAs-B軽石粒を含む。粒子密。
- 3 黒褐色土 3-c層に相当すると思われる層。やや粘性を持つ。
- 4 黒色土 3-e層に相当すると思われる層。粒子密。As-C軽石粒を殆ど含まない。
- 5 黒褐色土 3-f層に相当すると思うが、As-C軽石粒を含む量が多い。
- 6 暗褐色土 5~15mmの砂利と砂質土を多く含む。地山の4-d層を主とした盛土が崩壊して堆積した層。
- 6' 暗褐色土 6層とほぼ同じ。やや黒色が強い。
- 7 黒褐色土 5層中に地山の4-d層に相当すると思われる黄褐色砂を少量含む層。

第107図 B区4号方形周溝墓出土遺物

B区 4号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 埴	口縁部1/3 口径(11.0) 器高(6.0)底径—	周溝	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	上方にのびるように外反し、口縁端部でやや内湾する。 <b>外面</b> 口縁端部は横ナデ。以下はナデ。 <b>内面</b> 横ナデ。胴部は篋削り。
2	土師器 鉢	口~胴部上半 口径10.0 器高(5.5)底径—	周溝	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	短く外反する口縁。丸みのある胴部。 <b>外面</b> 赤色塗彩。口縁は横ナデ。頸部はナデ。以下は篋削り後磨き <b>内面</b> 口縁は横ナデ。以下はナデ。

C区 1号方形周溝墓 (第108・109図 PL48・139)



- 1 暗褐色土 耕作土。草の根、石が混入。
- 2 褐色土 As-B軽石の粒も含まれる。
- 3 黒色土 1~5mmのAs-C軽石を含む。
- 4 暗黄褐色土 砂質で4-d層に3層の黒色土を多く含む。
- 5 灰黄褐色土 砂質で4層よりも灰黄褐色土が多い。

第108図 C区1号方形周溝墓

1. 古墳時代の遺構と遺物

位置 6G～J-0～2グリッド

重複 重複なし。

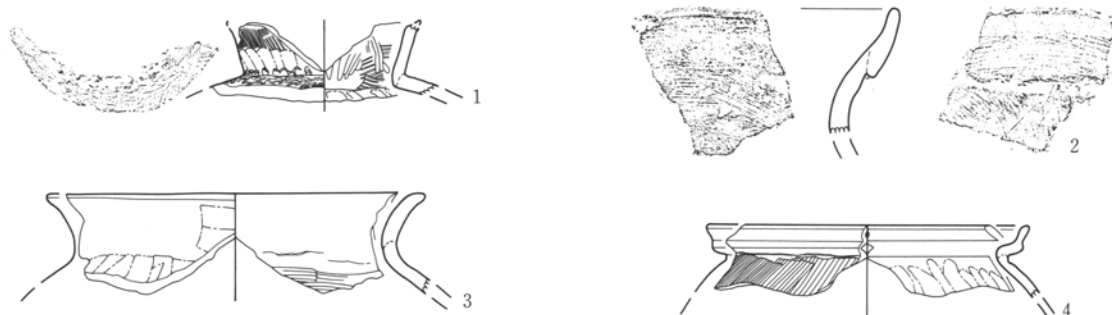
形状 本周溝墓のほとんどの部分は生活道路の下部に位置しているため、道路の北側、南側を調査し周溝の一部のみしか検出できなかった。従ってその形状や周溝を含めた平面の規模、方台部の規模は把握できなかった。

周溝 周溝も北側周溝、東側周溝、南側周溝の一部しか調査できなかったため、あまりはっきりしない。

上端幅は1.33～2.42m、下端幅は0.55～1.60m、周溝の掘り込みの深さは12～53cmを測る。北側周溝、東側周溝は圃場整備のため削平されていた。また、南側周溝は現代の用水路建設の際の土層が入り込んでいた。そのため、周溝の断面形もはっきりしなかった。

主体部 方台部上の調査ができず、主体部は検出できなかった。

遺物 土師器壺、甕が出土している。



第109図 C区1号方形周溝墓出土遺物

C区 1号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器壺	口縁部片 口径— 器高(3.6) 底径—	周溝	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	口縁は直立気味、頸部は水平に近く開く。 外面 口縁はハケメ後ナデ。頸部に結節した捺糸を横位に施文したものや縄文のLRを横位に施文したのが見られる。 内面 口縁はハケメ後篋磨き。頸部に指頭痕あり。
2	土師器壺	口縁部片 口径— 器高— 底径—	周溝	①輝石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	外反し、折り返す口縁 外面 口縁端部はハケメ後横ナデ後篋磨き。以下はハケメ後篋磨き 内面 口縁端部はハケメ後横ナデ後篋磨き。以下はハケメ後篋磨き
3	土師器壺	口縁部片 口径(20.0) 器高(5.3) 底径—	周溝	①軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	頸部に丸みをもって外反し、端部上側に面をもつ口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下はナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。
4	土師器台付甕	口縁部 1/5 口径(17.0) 器高(3.7) 底径—	周溝	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄色	2段目が水平にのびるS字状口縁。端部上側に面をもつ。 外面 口縁部は横ナデ。頸部にかけてハケメ後篋磨き。 内面 口縁部は横ナデ。頸部にかけてナデか。

(3) 掘立柱建物跡

C区 4号掘立柱建物跡 (第110図 PL48・140)

位置 2G-16 グリッド

重複 覆土にAs-B軽石が混入している平安時代のC区21号溝の下層から検出された。

方位 N-69°-W

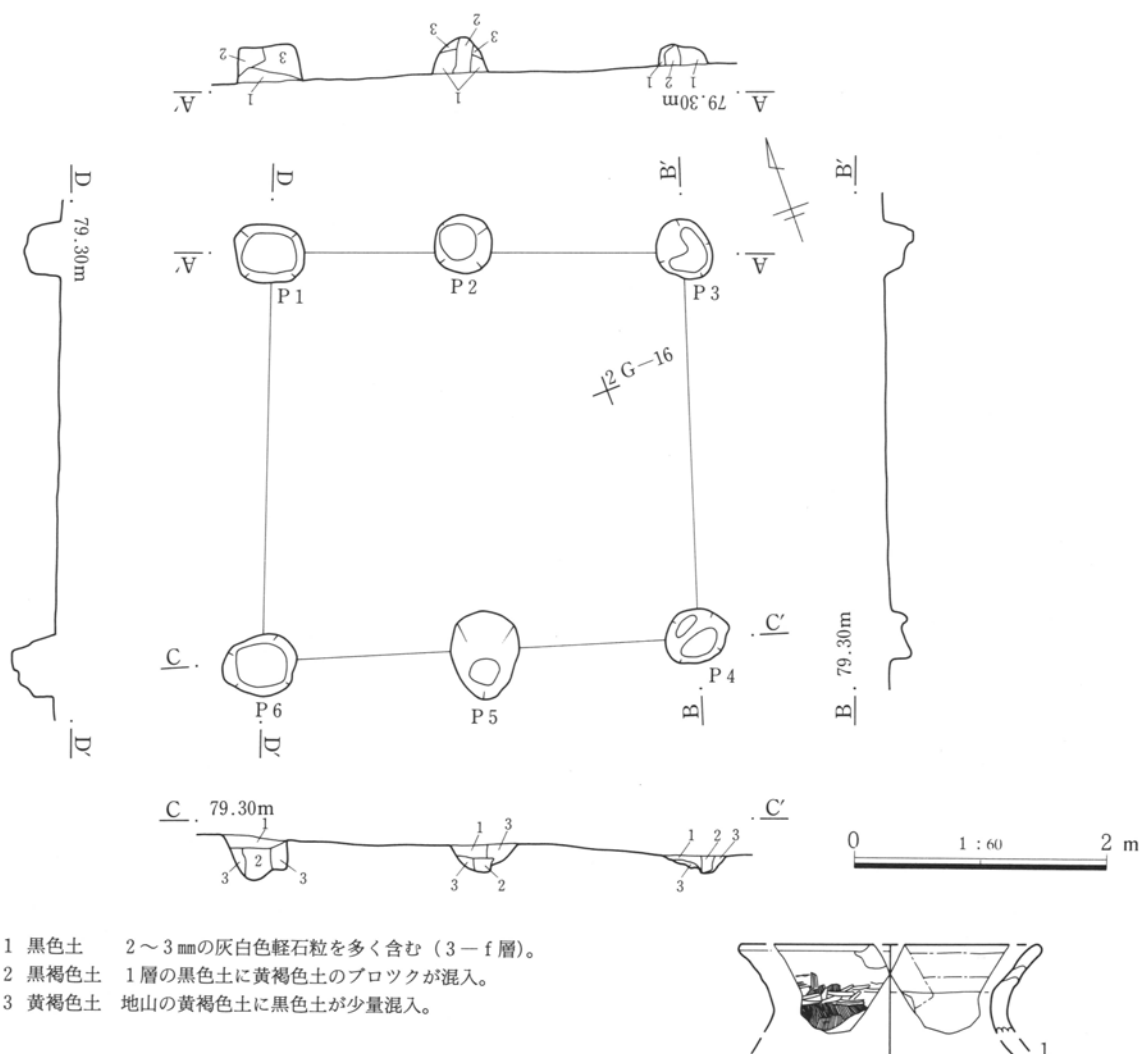
形態 1×2間(東西3.26~3.46m×南北3.03~3.20m)の東西棟。桁行の柱間は1.50~1.88m。北辺・南辺ともほぼ等間隔であるが、P6は柱軸からや

や南へ外れる。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。柱痕跡は見られない。柱穴の規模は径43~70cm、深さ14~34cmを測る。

内部施設 なし

遺物 土師器の甕の口縁がP1より出土している。



- 1 黒色土 2~3mmの灰白色軽石粒を多く含む(3-f層)。
- 2 黒褐色土 1層の黒色土に黄褐色土のプロックが混入。
- 3 黄褐色土 地山の黄褐色土に黒色土が少量混入。

第110図 C区4号掘立柱建物跡、出土遺物

C区 4号掘立柱建物跡

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 甕	口縁部片 口径(15.7) 器高(4.6) 底径—	柱穴 (覆土)	①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	上方にのびるように外反し、口縁端部でやや内湾する。 外面 口縁部は横ナデ。頸部にかけてハケメ後窺磨き。 内面 口縁部は横ナデ。頸部にかけてナデか。

1. 古墳時代の遺構と遺物

C区 5号掘立柱建物跡 (第111図 PL49)

位置 6C-3グリッド

重複 東寄り南北方向に平安時代のC区20号溝が掘り込んでいる。

方位 N-82°-W (東西方向を棟と考えた場合)

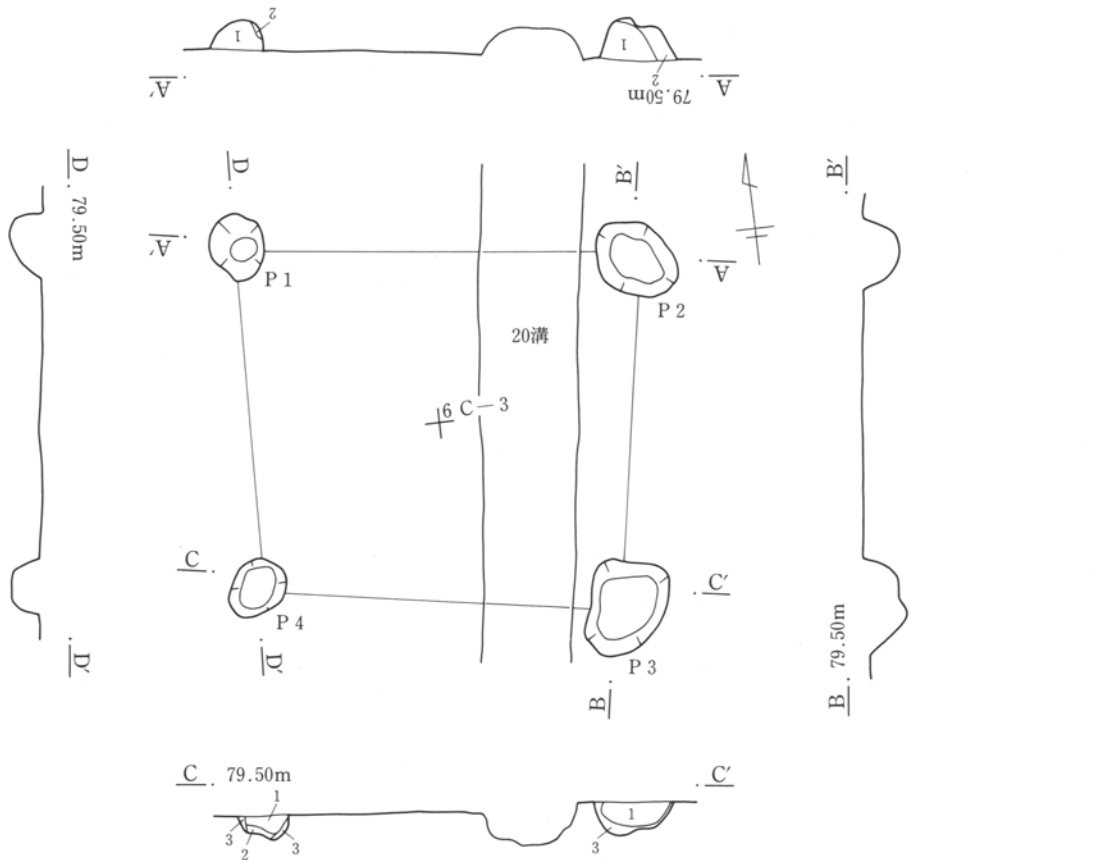
形態 1×1間 (東西2.82~3.22m×南北2.70~2.83m)。ほぼ方形である。棟方向は確定できない。

P1は柱軸からやや西へ外れる。平面形はやや菱形に歪む。

柱穴 柱穴の平面形はほぼ円形である。柱痕跡はみられない。柱穴の規模は径42~81cm、深さ20~34cmを測る。

内部施設 なし

遺物 遺物なし



- 1 黒色土 3-f層を主とした層。1~6mmのAs-C軽石粒を多く含む。
- 2 黒褐色土 1層を主とし、少量の明黄褐色土を含む。
- 3 明黄褐色土 4-c層。

0 1:60 2 m

第111図 C区5号掘立柱建物跡



(4) 井戸

A区 1号井戸 (第112図 PL49)

位置 4G-11グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.78m×1.46m

下面 0.70m×0.58m

深さ 0.95m

断面形 漏斗状

内部施設 見つからなかった。底に当たる箇所が2箇所あり、掘り返した可能性有り。

覆土 この井戸の周辺は、黄褐色をした Hr-FA の軽石粒で覆われ、この井戸の上層にもあたかも蓋をするように覆っていた。また、灰白色の As-C 軽石粒の流れ込みの層も確認できた。

遺物 遺物なし

A区 2号井戸 (第112図 PL49)

位置 4H-10グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.25m×1.10m

下面 0.55m×0.43m

深さ 1.06m

断面形 円筒形

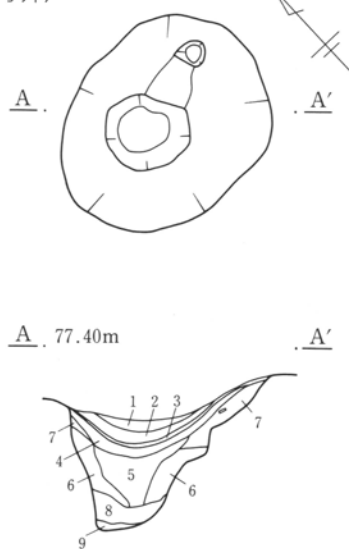
内部施設 特に確認出来なかった。

覆土 この井戸の周辺は、1号井戸同様に黄褐色をした Hr-FA の軽石粒で覆われ、この井戸の上層はこの軽石粒の混入した土で覆われていた。

遺物 遺物なし

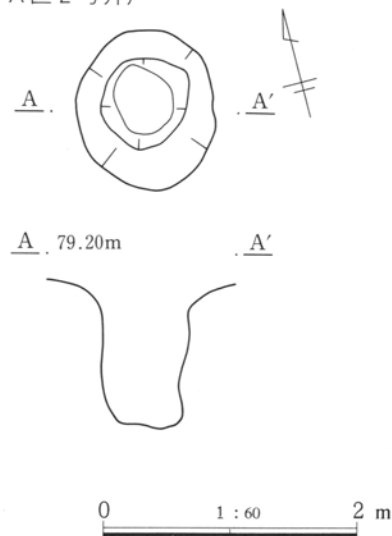
備考 A区1号、2号井戸の南に土器片が数多く出土した箇所があり、1号土器群とした。土師器の鉢、器台、壺、甕が出土している。

A区 1号井戸



- |        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 褐色の砂粒を多く含む。2層よりも粘性薄い。(3-b層)。         |
| 2 黒褐色土 | 粘性を持つ。                               |
| 3 黄橙色  | Hr-FAの層(3-d層)。                       |
| 4 黒色土  | 3-e層。粘土質。                            |
| 5 黒色土  | 2層に近い。粘土質。地山の黄灰色砂質土を少量含む、やや灰色を帯びている。 |

A区 2号井戸



- |        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 6 黒褐色土 | 黒色粘土と地山の黄灰色砂質土が多く混入した層。粘性が強い。 |
| 7 黒色土  | 3-e層。粘土質。                     |
| 8 黄灰色土 | 地山の黄灰色を主とし、少量の黒褐色土を含む。軟質で砂質。  |
| 9 黄灰色土 | 6層中に1~3mmの砂粒を多量に含む。砂層。        |

第112図 A区1・2号井戸

(5) 溝

**C区 3号溝** (第113・114図 PL49・50・140)

**位置** 5J-4~9S-11グリッド

**重複** 近現代のC区5号、11号、18号、19号溝、平安時代のC区1号溝、近世のC区4号溝に掘り込まれている。

**走向** 北西方向から南東方向の走向(N-124°-E)。中程で走向方向がやや南にずれる(N-153°-E)。

**覆土** 本溝の南東端では断面状にHr-FAの黄橙色の層が見られ、Hr-FA直下の溝と断定した。

**規模** 調査区内に地域住民の生活道路が通っているため、一部発掘調査をできない部分があったが、確認全長70.7mを測る。おそらく神沢川の水を水源にしたものと思われる。溝の上端100~170cm、下端10~50cm、深さ55~65cmを測る。

**断面形** 北西部の法面はやや緩やかであるが、南にくるに従いV字形にちかい断面を持つ。

**遺物** 土師器器台、甕が出土している。

**C区 6号溝** (第113図 PL50)

**位置** 1C-15グリッド

**重複** 溝の北端を平安時代のC区1号溝に掘り込まれている。また南端部は、古墳時代のC区7号溝を掘り込んでいる。

**走向** 北方向から南方向に走向(N-177°-E)

**規模** 確認全長3.6mを測る。溝の上端30~40cm、下端5~18cm、深さ18~22cmを測る。

**断面形** 法面はやや緩やかで椀状の断面を持つ。

**遺物** 遺物なし

**C区 7号溝** (第113図 PL50)

**位置** 1C-15~1G-13グリッド

**重複** 溝の東端を古墳時代のC区6号溝に掘り込まれている。また中頃を近世のC区4号溝に、西端を近現代のC区5号溝に掘り込まれている。

**走向** 北東方向から南西方向に走向(N-119°-W)。近世のC区4号溝に掘り込まれているあたりからやや西に傾く(N-104°-W)。

**規模** 確認全長23.4mを測る。溝の上端20~50cm、下端10~30cm、深さ6~23cmを測る。

**断面形** 法面はやや緩やかでU字形にちかい断面を持つ。

**遺物** 遺物なし

**C区 8号溝** (第114図)

**位置** 1A-15~1D-14グリッド

**重複** 溝の東端を近世のC区4号溝に掘り込まれている。

**走向** 北東方向から南西方向に走向(N-152°-E)。

**規模** 確認全長18.8mを測る。溝の上端28~90cm、下端8~58cm、深さ7~30cmを測る。

**断面形** 法面は緩やかで皿状の断面を持つ。

**遺物** 遺物なし

**C区 9号溝** (第114図 PL50・140)

**位置** 1F-13~1G-12グリッド

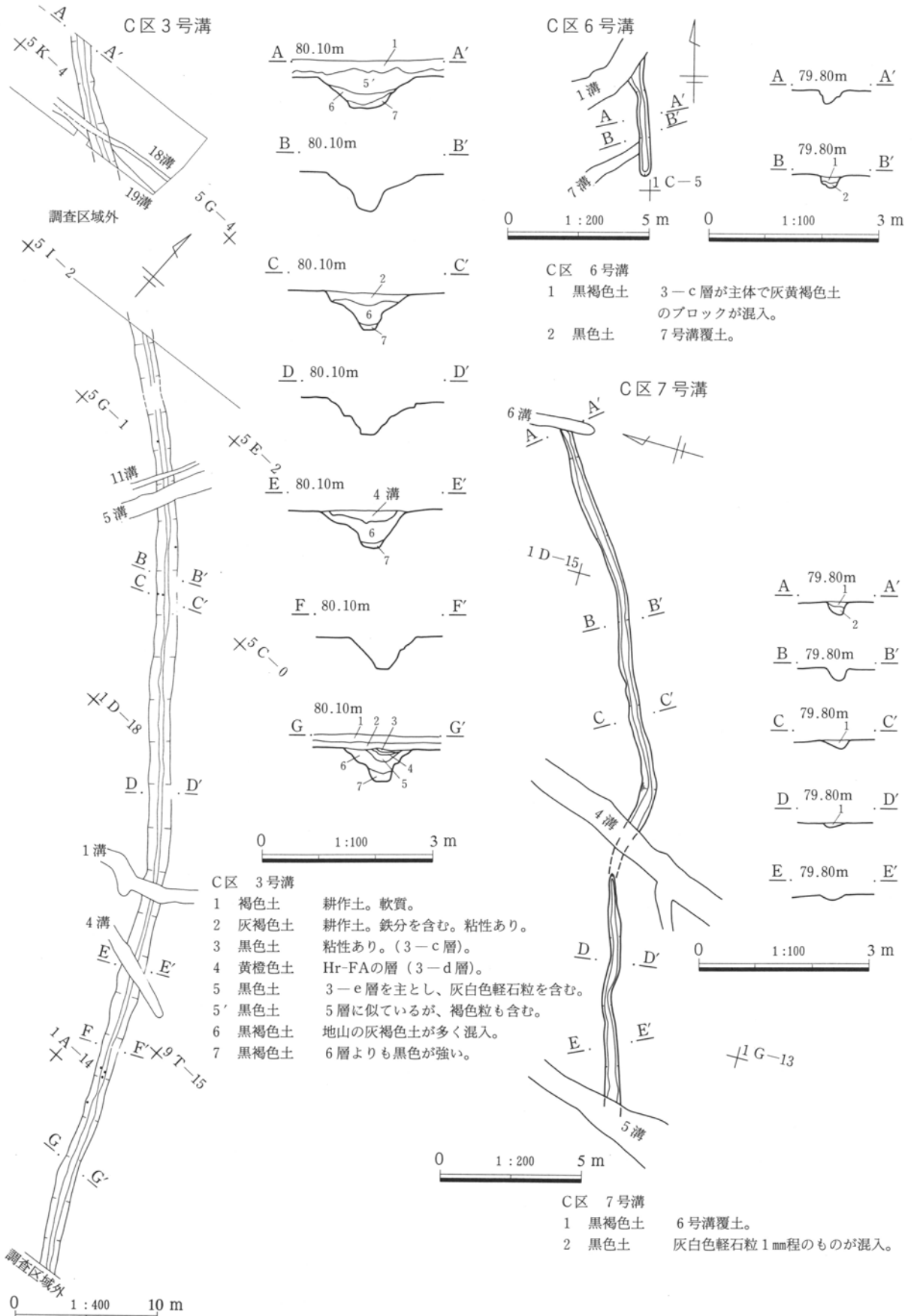
**重複** 溝の東端を近世のC区4号溝、西端を近現代のC区5号溝に掘り込まれている。

**走向** 北東方向から南西方向に走向(N-111°-W)。西端でやや南へ走向する(N-130°-W)。

**規模** 確認全長10.8mを測る。溝の上端38~60cm、下端10~35cm、深さ16~20cmを測る。

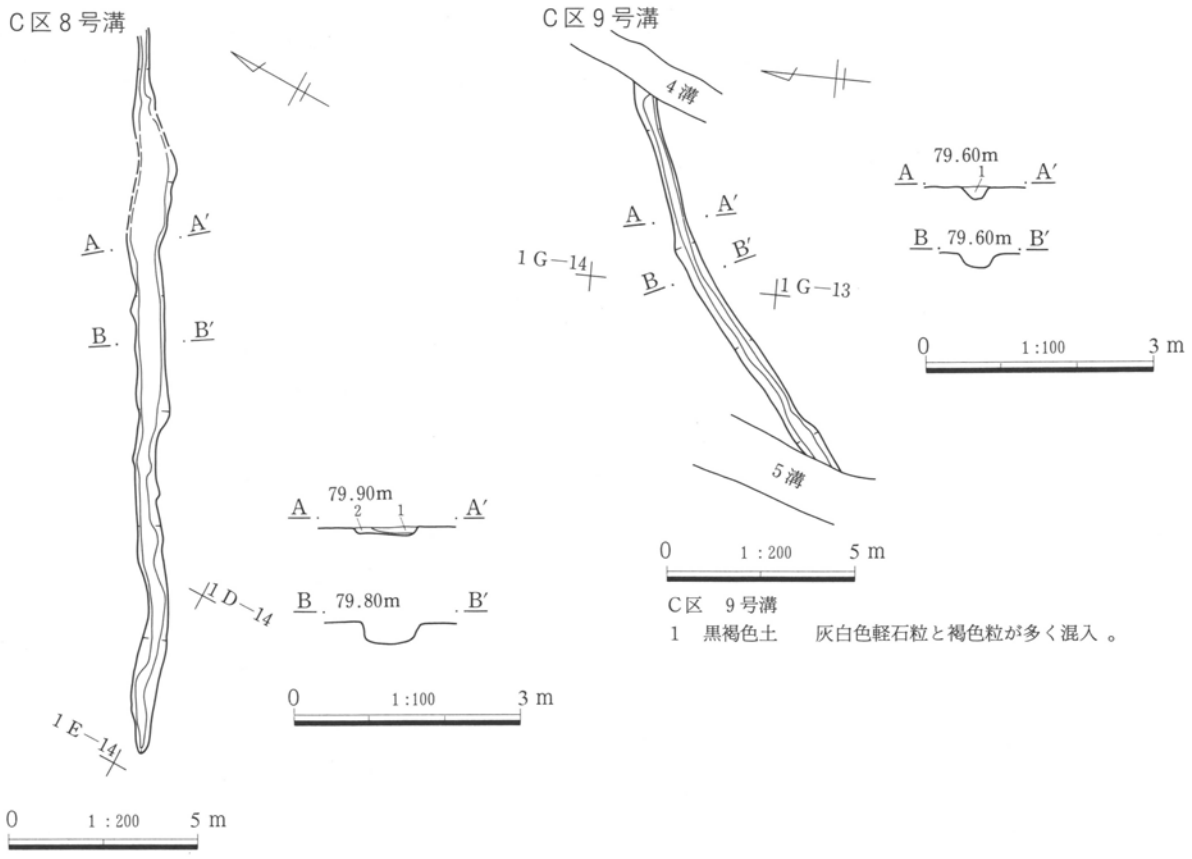
**断面形** 法面はやや急で逆台形にちかい断面をもつ。

**遺物** 土師器甕が出土した。



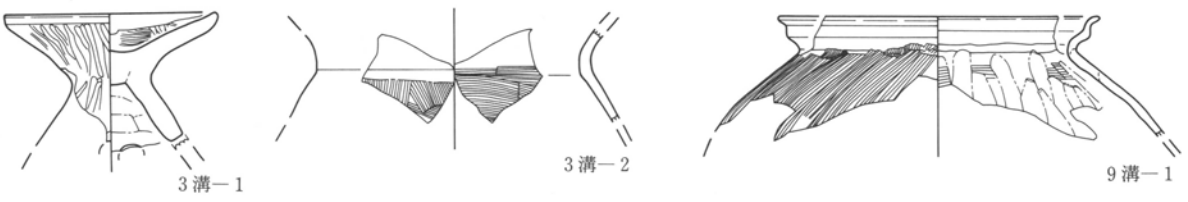
第113図 C区3・6・7号溝

1. 古墳時代の遺構と遺物



C区 8号溝  
 1 黒色土 灰白色軽石粒、褐色粒が混入。  
 2 黒褐色土 上位の層に地山の灰黄褐色土が混入。

C区 9号溝  
 1 黒褐色土 灰白色軽石粒と褐色粒が多く混入。



第114図 C区8・9号溝、C区3・9号溝出土遺物

C区 3号溝

番号	器種	残存法量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器器台	器受～脚部上半2/5 口径(8.5) 器高(5.4) 底径—		①粗砂 軽石 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	大きく外反し、口縁端部でやや内湾する器受部。円孔4あり。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は篋磨き。 内面 器受部は篋磨き。脚部はナデか。
2	土師器甕	頸部片 口径— 器高(5.0) 底径—		①細砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	くの字よりもやや丸みをもつ頸部。 外面 頸部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 頸部は横ナデ。以下はハケメ。

C区 9号溝

番号	器種	残存法量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器台付甕	口～肩部1/4 口径(17.0) 器高(6.2) 底径—		①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	全体的に外反しながらも2段目が立ち気味なS字状口縁。 外面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ後指ナデ。

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### C区 13号溝 (第115図 PL50)

**位置** 5L-4~1I-11グリッド

**重複** 溝の北端近くを平安時代のC区8号住居に掘り込まれている。また、そのすぐ南を近現代のC区18,19号溝に掘り込まれている。中頃を近世の道路に、南寄りを平安時代のC区1号溝に掘り込まれている。

**走向** 北西方向から走向(N-159°-E)。中程で南東方向に走向(N-153°-E)。後半は南西方向に走向(N-159°-W)。

**規模** 調査区内に地域住民の生活道路が通っているため、一部発掘調査をできない部分があったが、確認全長64.5mを測る。溝の上端24~100cm、下端10~42cm、深さ24~40cmを測る。

**断面形** 法面はやや緩やかでU字形にちかい断面をもつ。

**遺物** 遺物なし

#### C区 16号溝 (第116図 PL51)

**位置** 5M-4~1S-10グリッド

**重複** 古墳時代のC区25号溝に掘り込まれている。また、本溝は古墳時代C区の24号溝の上層に造られている。さらに、南端で古墳時代のC区32号溝を掘り込んでいる。

**走向** ほぼ北から走向(N-166°-E)。途中二股に分かれて走向(N-166°-E)(N-145°-W)。後半は南西方向に走向(N-121°-W)。

**覆土** 灰黄褐色の砂が溝を埋めている。

**規模** 調査区内に地域住民の生活道路が通っているため、一部発掘調査をできない部分があった。北東から南西方向に走向し、1Q-18グリッド付近で二股に分かれる。本流はその後蛇行し、再び古墳時代のC区25号溝の下層にその姿を見せ、再び分かれて南流する。確認全長71.1mを測る。溝の上端13~235cm、下端3~110cm、深さ8~35cmを測る。

**断面形** 法面はやや緩やかでU字形にちかい断面をもつ。

**遺物** 遺物なし

#### C区 23号溝 (第117・118図 PL51・140)

**位置** 5S-3~2C-18グリッド

**重複** 重複なし

**走向** 北東方向から南西方向に走向(N-149°-W)。

**規模** 調査区内に地域住民の生活道路が通っているため、一部発掘調査をできない部分があった。また、29号溝に接する付近から南にかけて溝の経路を確認できなかった。確認された全長は24.3mを測る。溝の上端76~144cm、下端34~94cm、深さ17~35cmを測る。

**断面形** 法面はやや緩やかでU字形にちかい断面をもつ。

**遺物** 土師器高坏、壺、甕類が出土している。

**備考** 土層断面を見ると、踏み固められた硬い面があり、道路として使用された時期があったのではないかと考える。

#### C区 24号溝 (第116図 PL51)

**位置** 5M-4~1Q-11グリッド

**重複** 本溝の北端の上層部を古墳時代のC区16号、25号溝に掘り込まれている。また、中程を奈良・平安時代のC区31号溝によって掘り込まれている。

**走向** 北から走向(N-171°-E)。途中から南西方向に走向(N-160°-W)。

**覆土** 灰黄褐色の砂が溝を埋めている。

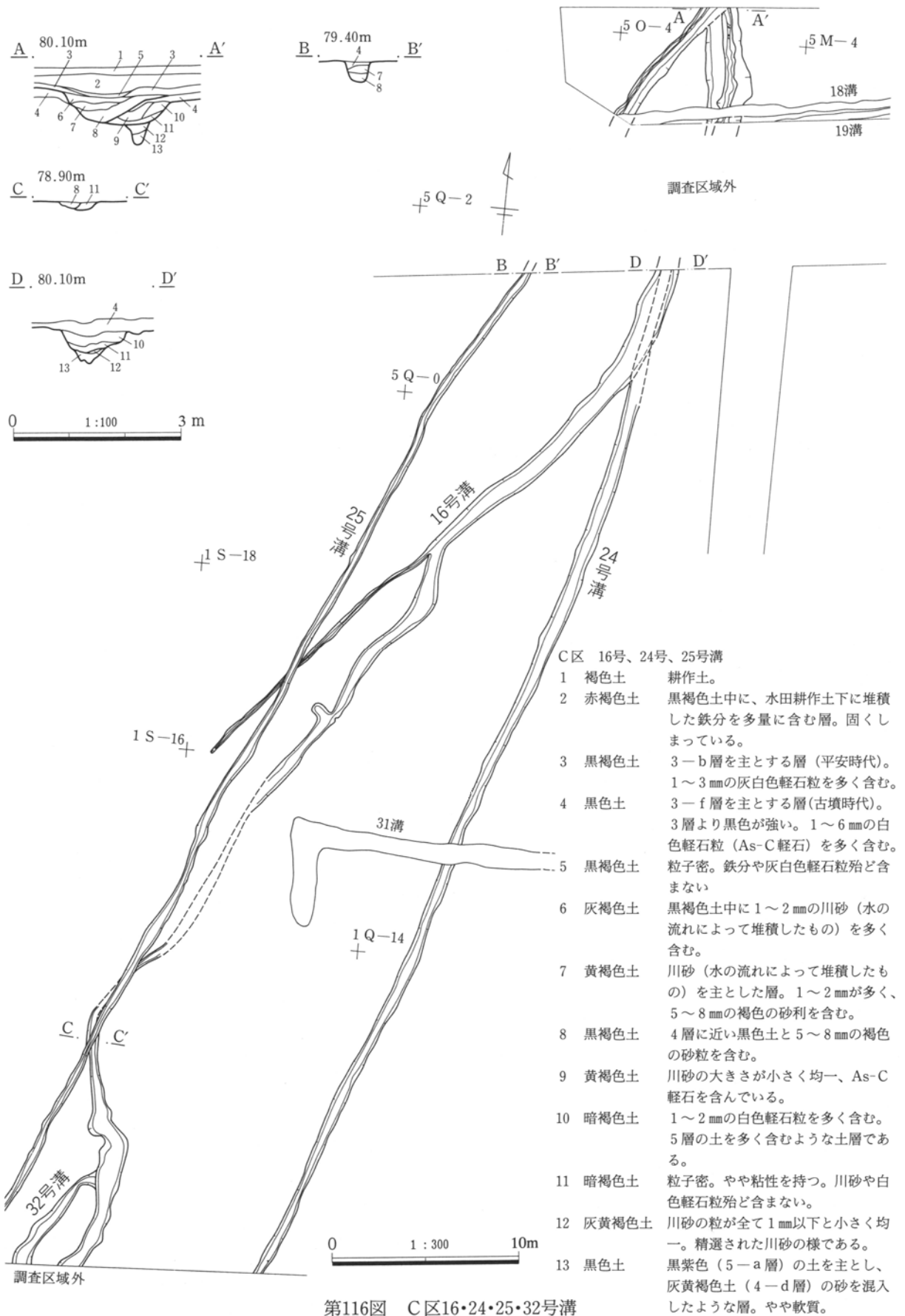
**規模** 調査区内に地域住民の生活道路が通っているため、一部発掘調査をできない部分があったが、確認全長63.5mを測る。溝の上端40~95cm、下端12~55cm、深さ18~36cmを測る。

**断面形** 法面はやや緩やかでU字形にちかい断面をもつ。

**遺物** 遺物なし



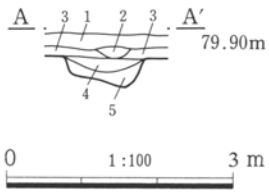
第3章 検出された遺構と遺物



第116図 C区16・24・25・32号溝

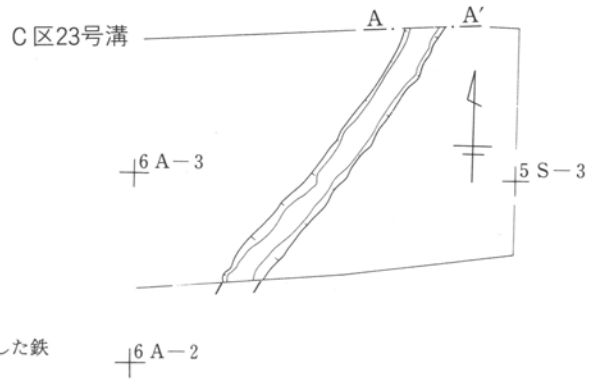


1. 古墳時代の遺構と遺物

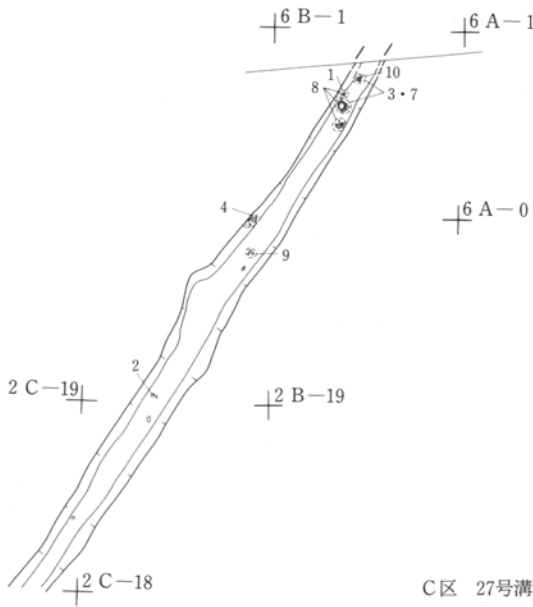


C区 23号溝

- 1 褐色土 耕作土。
- 2 褐色土 固く踏み固められた層。
- 3 黒色土 3-b層を主とする。水田耕作土下に堆積した鉄分を少し含む。
- 4 黒色土 3-f層を主とする層。1~6mmのAs-C軽石を多く含む。
- 5 黒褐色土 5mm程の砂利と川砂を多く含む。

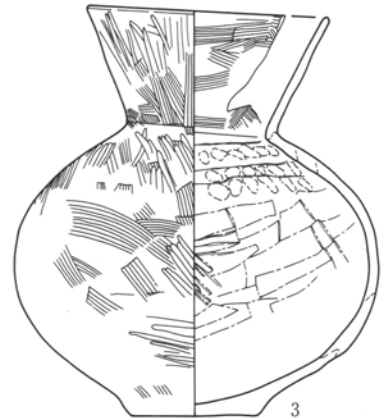
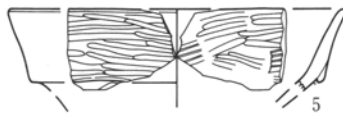
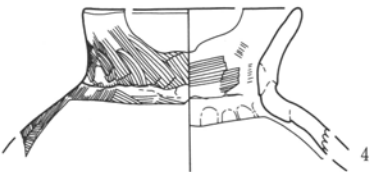
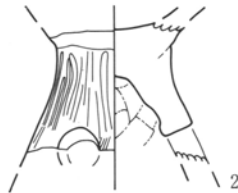
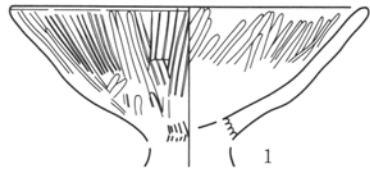
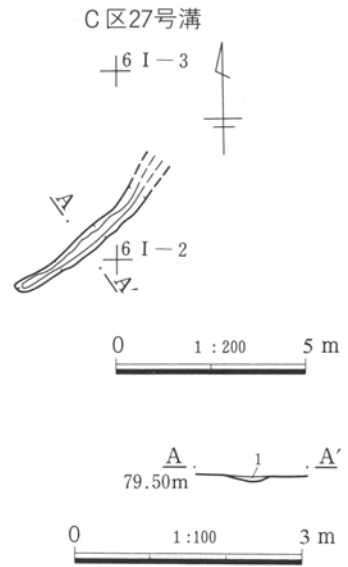


調査区域外



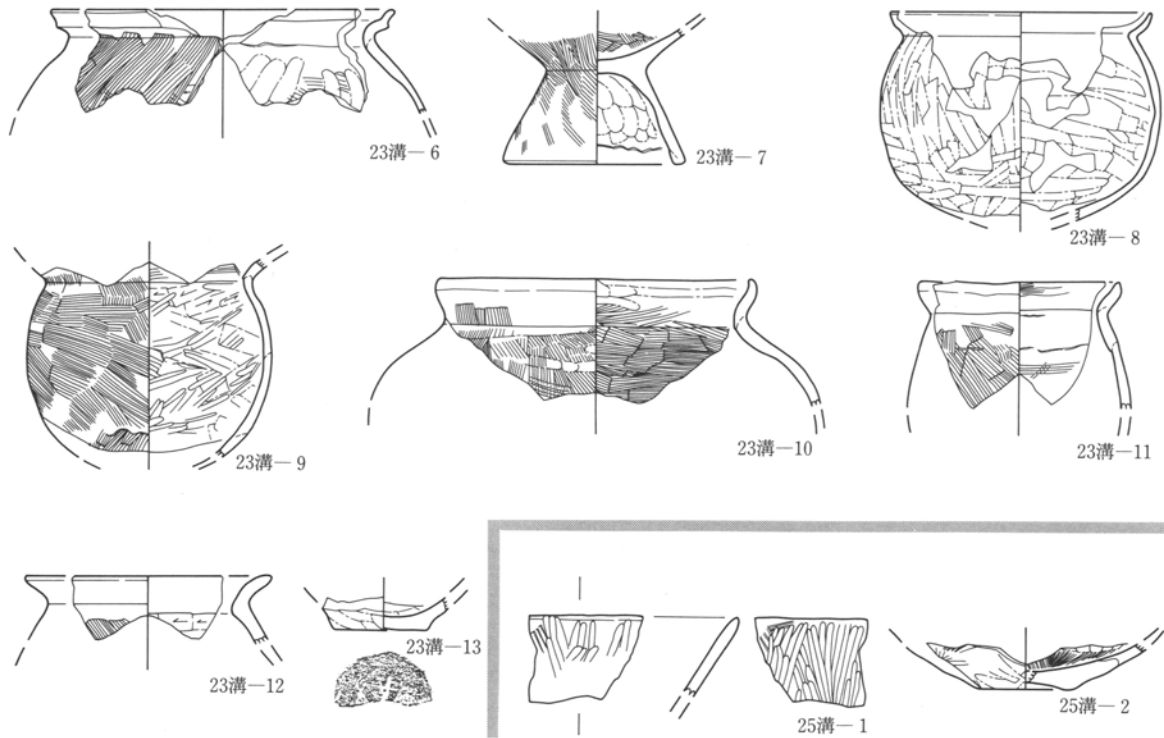
C区 27号溝

- 1 黒色土 1~5mmの灰白色軽石粒を多く含む(3-f層)。地山の灰黄褐色土も含む。



第117図 C区23・27号溝、C区23号溝出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第118図 C区23・25号溝出土遺物

C区 23号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部 1/4 口径(14.0) 器高(5.3) 底径—		①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反し、椀状の坏部。口縁端部は丸い。 外面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。 内面 口縁部は横ナデ。以下は篋磨き。
2	土師器 高坏	脚上半 口径— 器高(5.7) 底径—		①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	ラップ状に広がる脚部。円孔あり。 外面 篋磨き。 内面 ナデ。
3	土師器 壺	口縁部 2/3 欠損 口径(12.6) 器高 21.4 底径 6.5		①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	真っ直ぐ立つ口縁。やや下膨れの胴部。 外面 口縁部は横ナデ後篋磨き。以下ハケメ後篋磨き。底部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下ハケメ。頸部に指頭痕あり。胴部は篋ナデ。
4	土師器 壺	口～肩部 3/4 口径11.2 器高(7.8) 底径—		①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	直立気味に立ち上がる厚手の口縁。口縁端部は丸い。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁部はハケメ後横ナデ。頸部はハケメ。肩部は指ナデ。
5	土師器 壺	口縁部片 口径(17.8) 器高(4.3) 底径—		①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	外反する折り返し口縁。口縁端部は丸い。 外面 横ナデ後篋磨き。 内面 ハケメ後横ナデ後篋磨き。
6	土師器 台付甕	口～肩部片 口径(18.0) 器高(5.5) 底径—		①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部から大きく屈曲するS字状口縁。 外面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁部は横ナデ。以下はハケメ後ナデ。
7	土師器 台付甕	底～台部 口径— 器高(7.3) 底径9.7		①粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	ラップ状に開くやや短めな台部。裾部は折り返す。 外面 ハケメ。 内面 底部はハケメ。台部は指ナデ。
8	土師器 小型甕	口～胴部 1/3 口径(13.8) 器高(11.1) 底径—		①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	短く外反する口縁。いびつな球形の胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下はナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
9	土師器 小型甕	頸～胴部 1/4 口径— 器高(10.5) 底径—		①粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部からくの字に立ち上がる口縁。球形な胴部。 外面 ハケメ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。頸部は篋削り後篋磨き。胴部はナデ後篋磨き。

1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
10	土師器甕	口～肩部 1/3 口径(16.7) 器高(6.5) 底径—		①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直立気味に立ち上がり、端部で短く内湾する口縁。 外面 口縁はハケメ後横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。以下はハケメ。
11	土師器小型甕	口～肩部 1/4 口径(10.7) 器高(7.4) 底径—		①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	頸部からくの字に立ち上がり、端部で短く内湾する口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁～肩部はハケメ後横ナデ。以下はハケメ。
12	土師器甕	口～頸部片 口径(13.0) 器高(3.5) 底径—		①白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	頸部からくの字に立ち上がり端部で上側に面をもつ口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁～頸部は横ナデ。以下は篋削り。
13	土師器壺?	底部 1/2 口径— 器高(1.8) 底径4.9		①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	底部から丸みをもって外反する胴部。 外面 胴下部はナデ。底部は木葉痕か。 内面 ナデ。

C区 25号溝

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器壺	口縁部片 口径— 器高— 底径—		①輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反する口縁。 外面 ハケメ後横ナデ後篋磨き。 内面 ハケメ後横ナデ後篋磨き。
2	土師器甕	底部 1/3 口径— 器高(2.5) 底径(5.0)		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	底部から大きく外反する胴部。 外面 胴下部はハケメ後ナデ。底部は無調整。 内面 粗いハケメ。

C区 28号溝(第119～124図 PL51・52・140～145)

位置 2F-17～2G-11グリッド

重複 奈良・平安時代のC区26号、29号、33号溝に掘り込まれている。

走向 北東から南西方向に走向すると考える(N-159°-W)。

覆土 この溝を埋めている土は上層では褐色の砂を多く含む土であるが、下層は灰白色軽石粒を含む黒色土である。

規模 奈良・平安時代のC区26号溝がほぼこの溝に重なるように掘り込まれているため、C区29号溝に掘り込まれるあたりまで流路がはっきりしなかった。確認できた部分は全長41.6mを測る。溝の上端155～295cm、下端25～58cm、深さ96cmを測る。また、この溝は、数条の溝の集合体のようになっている。これは溝が埋まるたびに掘り返したためと考える。

断面形 法面は緩やかに立ち上がり皿状にちかい断面を持つ。数条の流路が確認できる。

遺物 夥しい数の遺物が出土している。器種も様々で土師器鉢、高坏、器台、埴、小形壺、壺、台付甕、甗が出土している。

C区 30号溝(第119図 PL52)

位置 6D-0～2D-19グリッド

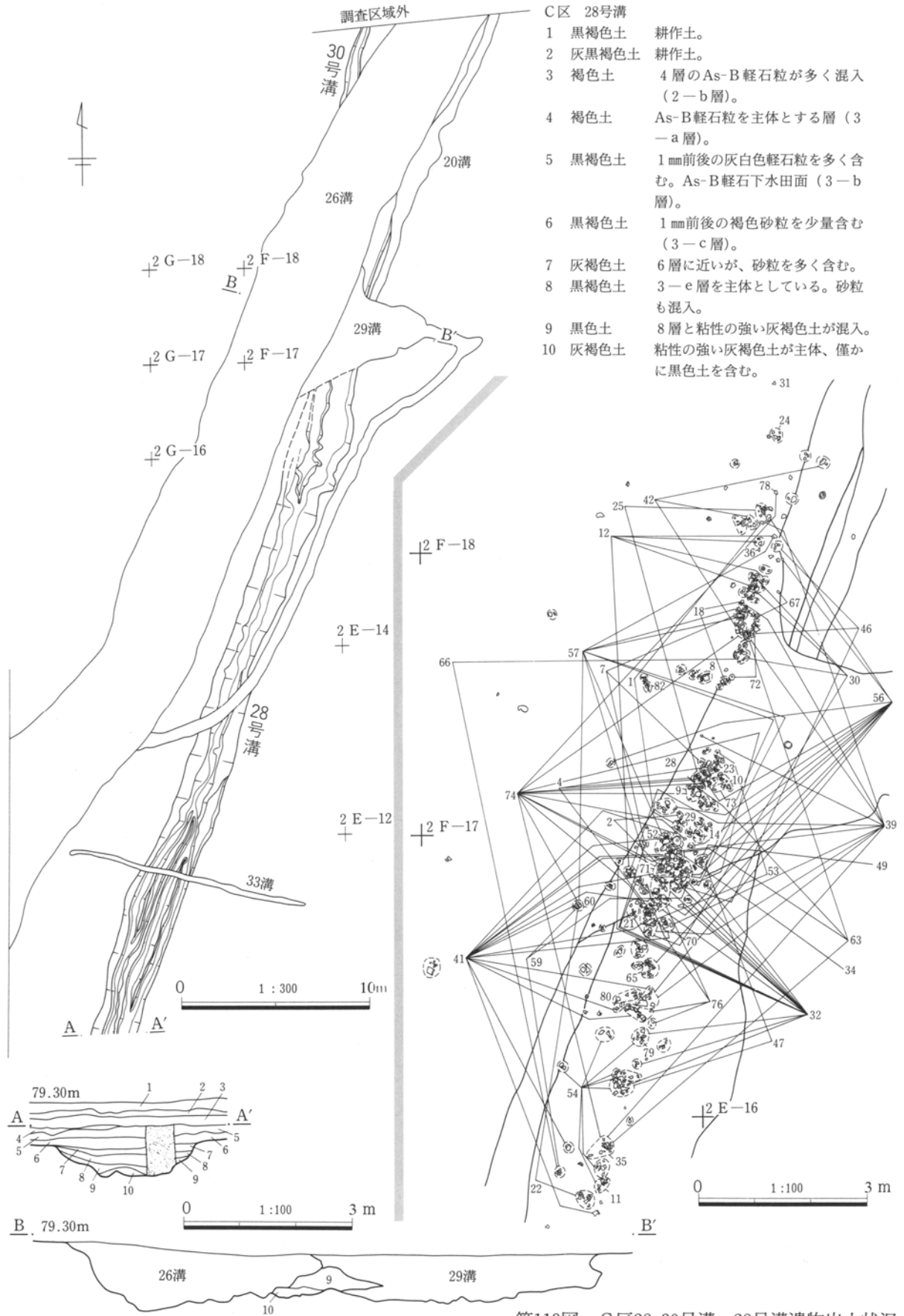
重複 奈良・平安時代のC区26号溝に掘り込まれている。

走向 北方向から南方向に走向(N-164°-W)。

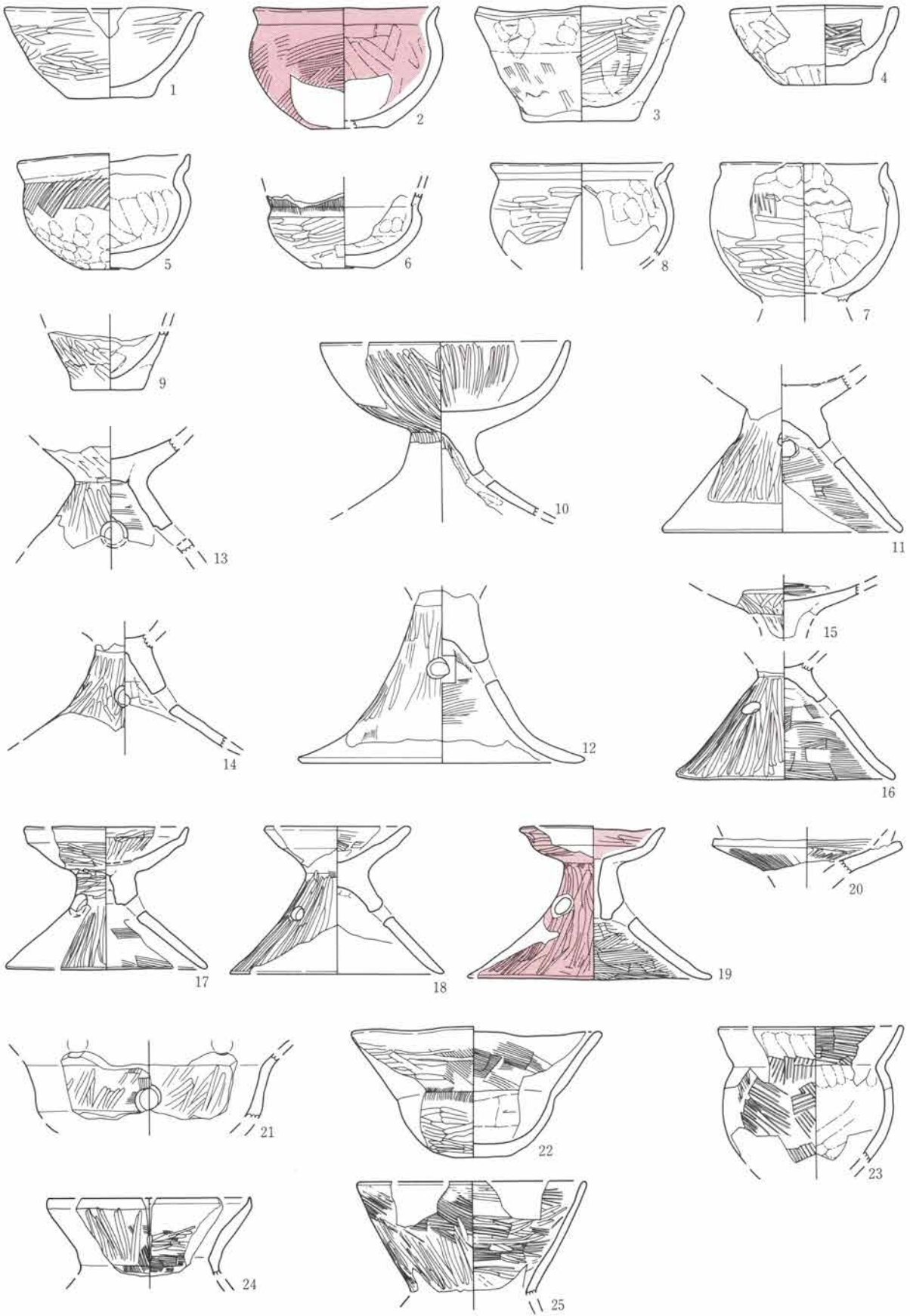
規模 確認全長3.4mを測る。溝の上端23～70cm、下端22～40cm、深さは測定できなかった。

断面形 法面はやや急に立ち上がり、U字形にちかい断面を持つ。

遺物 遺物なし



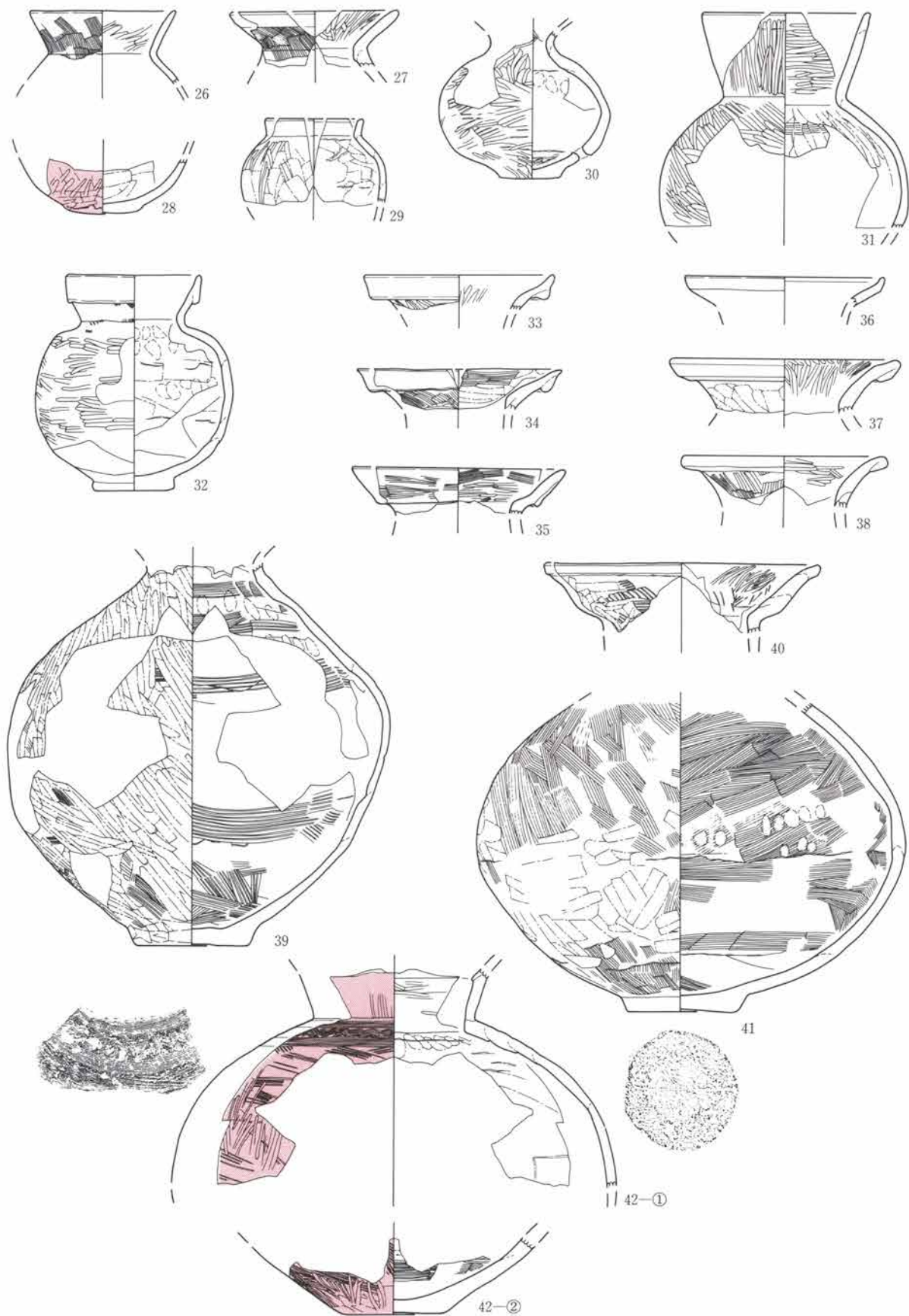
1. 古墳時代の遺構と遺物



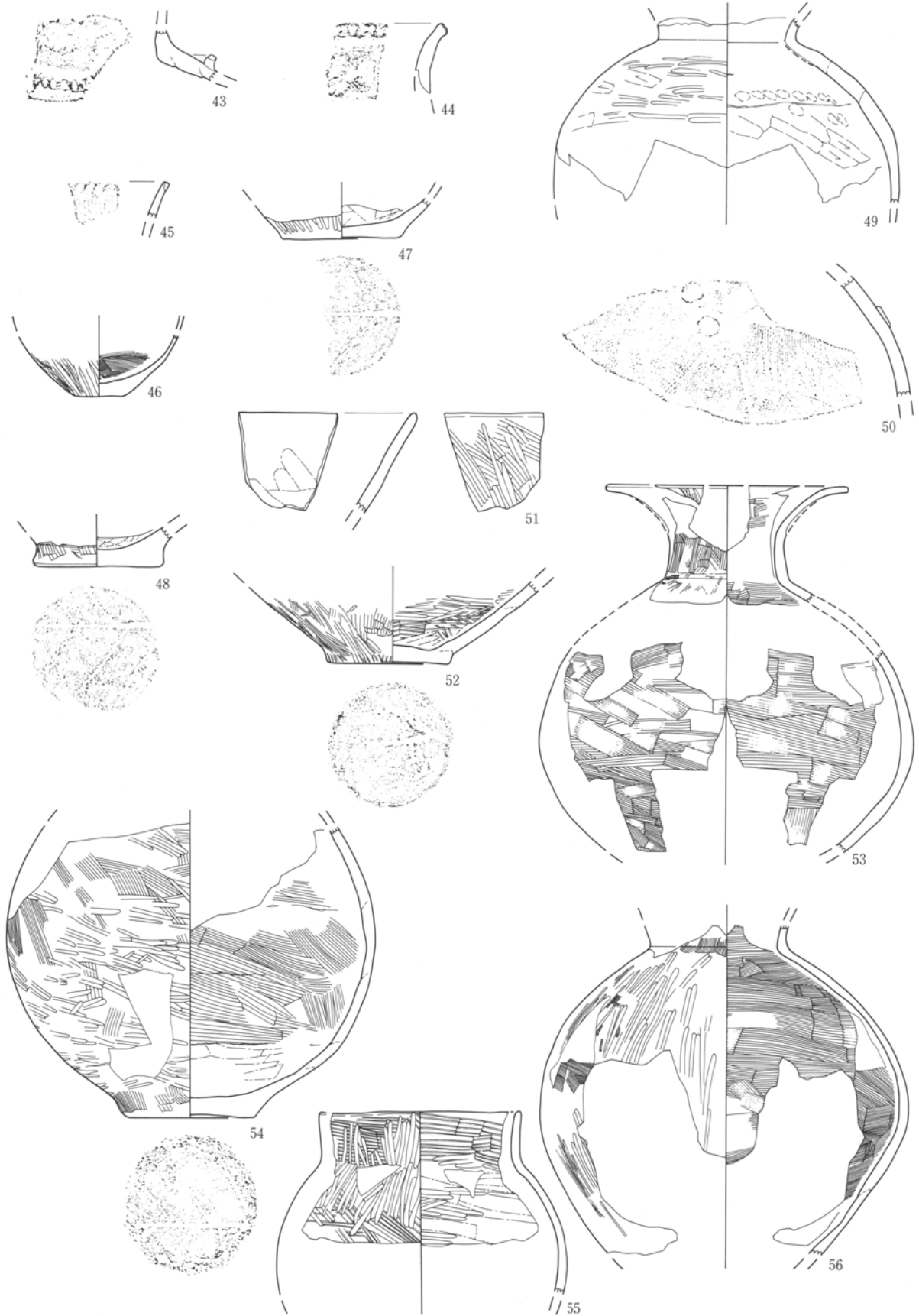
第120図 C区28号溝出土遺物(1)



第3章 検出された遺構と遺物

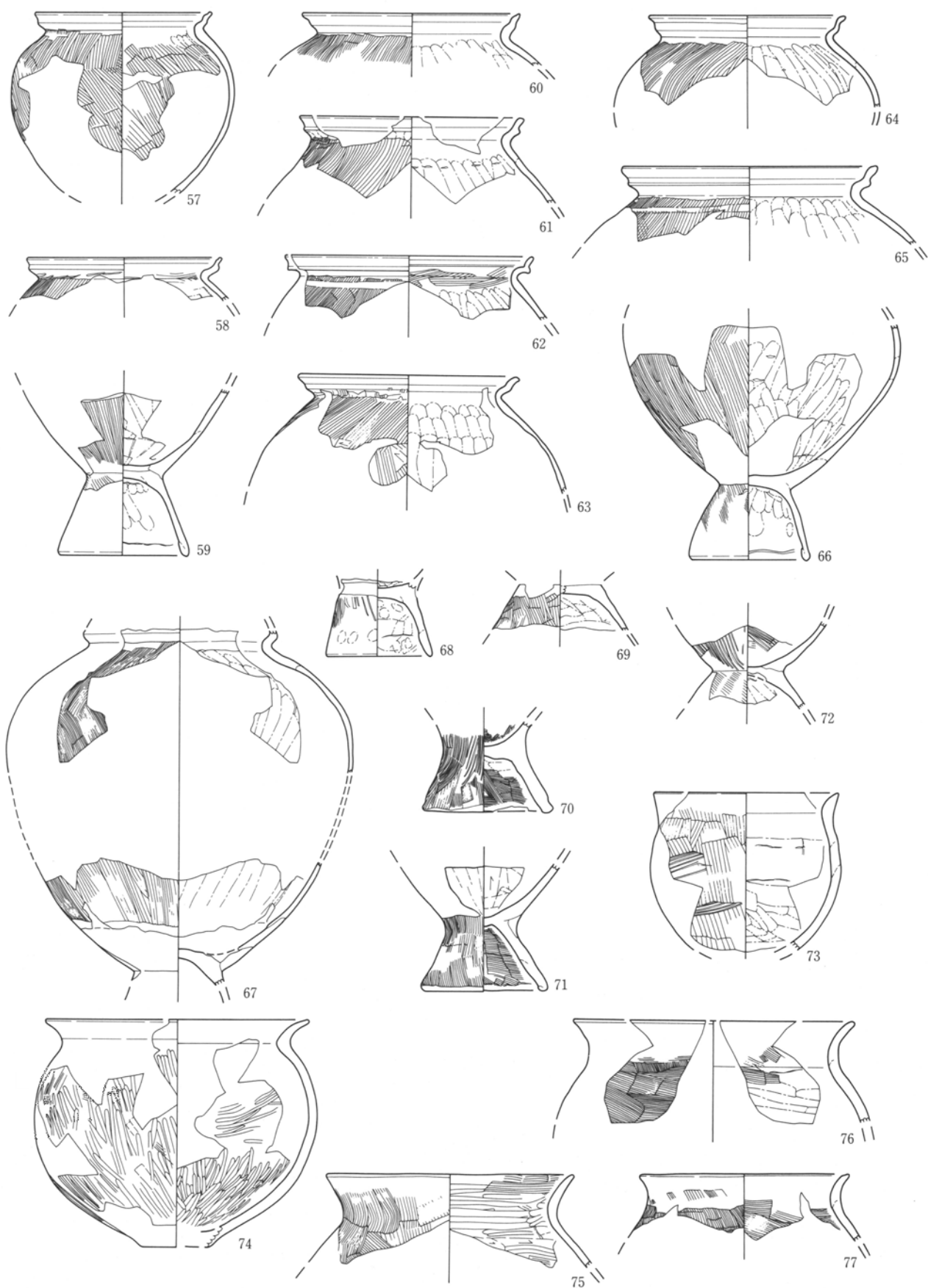


第121図 C区28号溝出土遺物(2)



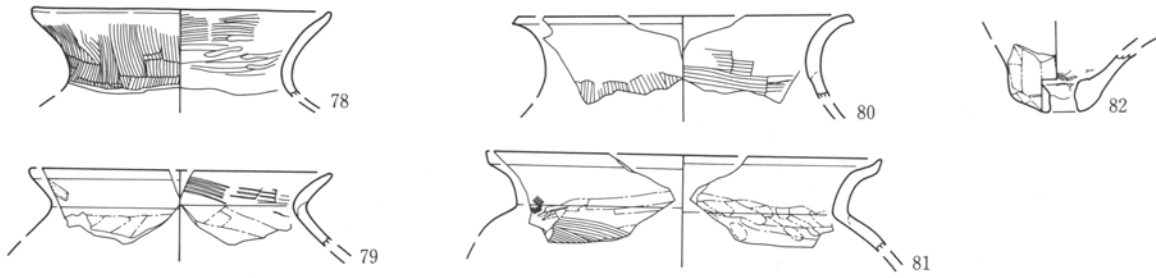
第122図 C区28号溝出土遺物(3)





第123図 C区28号溝出土遺物(4)

1. 古墳時代の遺構と遺物



第124図 C区28号溝出土遺物(5)

C区 28号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	2/5 口径10.2 器高4.6 底径 4.6		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部からやや内湾気味に立ち上がり、口縁で短く外反する。 外面 口縁は横ナデ。体～底部は篋磨き。 内面 横ナデ後篋磨き。
2	土師器鉢	1/3 口径(9.6) 器高6.3 底径(4.0)		①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	球形に近い体部。口縁は短く外反する。内外面赤色塗彩。 外面 口縁は横ナデ。体部はハケメ。底部は篋削り。 内面 ナデ。
3	土師器鉢	1/3 口径(10.6) 器高 6.0 底径5.8		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部から外反する。口縁端部は外側に面をもつ。 外面 口縁～体部上半は横ナデ。下半はハケメ後ナデ。底部はナデ。 内面 口縁はハケメ後篋磨き。体部はナデ。
4	土師器鉢	1/3 口径(8.5) 器高 4.2 底径 4.7		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部からやや外反する。口縁端部は上側に面をもつ。 外面 口縁～体部上半は横ナデ。下半は篋削り。底部は無調整。 内面 口縁は横ナデ。体部は粗いハケメ。底部は篋削り。
5	土師器鉢	完形 口径9.0 器高 6.1 底径2.6		①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みのある体部。口縁は頸部から外反し、端部で短く内湾する。 外面 口縁は横ナデ。体部上半はハケメ。下半は指頭痕あり。底部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
6	土師器鉢	口縁部欠損 口径— 器高(4.0) 底径3.3		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	肩が張る体部。頸部から外反する口縁。 外面 頸部はハケメ。体部は篋削り後篋磨き。底部はナデ。 内面 頸部は横ナデ。体部はナデ。
7	土師器鉢?	口～体 2/5 口径(8.8) 器高(7.8) 底径—		①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	口縁端部は短く外反する。球形の体部。底部が僅かに残る。 外面 口縁は指押え後横ナデ。体部はハケメ後篋磨き。 内面 口縁は指押え後横ナデ。体部はナデ。
8	土師器鉢	口～体上半 1/3 口径(9.5) 器高(4.8) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③灰白色	頸部から短く2段に外反する口縁。球形の体部。 外面 口縁は横ナデ。体部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。体部はナデ。
9	土師器鉢	体下半～底部 口径— 器高(3.1) 底径3.7		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	底部から外反する体部。 外面 篋磨き。 内面 篋ナデ。
10	土師器高坏	坏～脚 1/3 口径13.0 器高(9.1) 底径—		①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	腕状の坏部。口縁端部は上側に面をもつ。円筒形から次第に裾野を広げるような脚部。円孔あり。 外面 坏口縁部は横ナデ。以下坏部は篋磨き。脚部は篋削り後篋磨き。 内面 坏口縁部は横ナデ。以下坏部は篋磨き。脚部は指ナデ。接合部に絞り目痕あり。
11	土師器高坏	脚部 2/5 口径— 器高(8.5) 底径(12.4)		①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	ラッパ状に開く脚部。裾端部は丸い。円孔4あり。 外面 篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 坏底部は剥離しているが、篋磨き。脚部はハケメ。
12	土師器高坏	脚部 4/5 口径— 器高(9.0) 底径(15.0)		①輝石 石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	ラッパ状に開く脚部。裾部は水平方向に広がる。円孔3あり。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 ハケメ。
13	土師器高坏	坏底部～脚上半 1/2口径— 器高(6.0) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	ラッパ状に開く脚部。裾端部は丸い。円孔あり。外反する坏部。 外面 坏底部は篋削り。脚部は篋磨き。 内面 坏底部は篋磨き。脚部はハケメ。
14	土師器高坏	脚部 1/3、裾部欠損 口径— 器高(5.8) 底径—		①輝石 石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	ラッパ状に開く脚部。下半から大きく外反する。円孔4あり。 外面 篋磨き。 内面 篋削り。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
15	土師器 高坏	坏底部 1/3 口径— 器高(3.0) 底径—		①輝石 軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	水平方向に近く外反する坏部。 外面 篋削り後篋磨き。 内面 篋磨き。
16	土師器 高坏	脚部 口径— 器高(6.1) 底径11.5		①角閃石 石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	ラッパ状に開く脚部。裾部で短く外反する。円孔3あり。 外面 篋磨き。裾部は横ナデ。 内面 坏底部は篋磨き。脚部はハケメ。裾部は横ナデ。
17	土師器 器台	1/3 口径(8.4) 器高 7.4 底径(10.6)		①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	外反し、端部で直立する器受部。円筒形から下半でラッパ状に開く脚部。裾端部は丸い。円孔3あり。 外面 口縁は横ナデ。以下器受部は篋磨き。脚部は篋削り後篋磨き。 内面 器受部は横ナデ後篋磨き。脚部はハケメ後横ナデ。
18	土師器 器台	1/3 口径(7.5) 器高 7.8 底径(11.2)		①輝石 石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反する器受部。端部は丸い。ラッパ状に開く脚部。円孔3あり。 外面 器受部は横ナデ。脚部はハケメ後篋磨き。 内面 器受部はハケメ。脚部上半はナデ。下半は横ナデ。
19	土師器 器台	3/5 口径 7.7 器高 7.9 底径(12.8)		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	器受底部から外反する口縁。ラッパ状に開き、裾部が広がる脚部。円孔3あり。 外面 器受部は篋磨き。脚部はハケメ後篋磨き。赤色塗彩。 内面 器受部は篋磨き。器受部のみ赤色塗彩。脚部はハケメ。
20	土師器 器台	器受部片 口径(9.5) 器高(1.7) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	水平近くに外反する器受部。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁端部は横ナデ。器受部はハケメ。 内面 篋磨き。
21	土師器 器台	器受部片 口径— 器高(3.5) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反する器受部。円孔あり。 外面 ハケメ後横ナデ後篋磨き。 内面 横ナデ後篋磨き。
22	土師器 罎	2/5 口径13.1 器高 6.8 丸底		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反する口縁。丸い胴部。 外面 口縁端部は横ナデ。以下ハケメ後篋磨き。頸部はハケメ。胴～底部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。胴部は篋削り。
23	土師器 小型甕	口～胴部 1/2 口径12.8 器高(9.6) 底径—		①粗砂 輝石 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい赤褐色	外反し、端部でやや内湾する口縁。端部は上側に面をもつ。丸い胴部 外面 口縁端部は横ナデ。以下の口縁はナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁はハケメ。胴部はナデ。
24	土師器 壺	口縁部片 口径(14.0) 器高(4.8) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	頸部からくの字に立ち上がり、端部で短く内湾する口縁。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。
25	土師器 壺	口縁部 1/3 口径(16.0) 器高(8.0) 底径—		①石英 粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部からくの字に外反する口縁。端部付近でやや内湾する。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。頸部は横ナデ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ横ナデ。
26	土師器 小型壺	口～肩部 口径(10.2) 器高(5.0) 底径—		①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部からくの字に外反する口縁。肩は張らない。 外面 ハケメ後横ナデ。 内面 横ナデ後篋磨き。
27	土師器 小型壺	口縁片 口径(11.5) 器高(3.8) 底径—		①石英 粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部からくの字に屈曲する口縁。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 篋磨き。
28	土師器 小型壺	胴下位～底部 1/3 口径— 器高(3.9) 底径(5.0)		①石英 細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	球形に近い胴部。 外面 篋削り後篋磨き。外面赤色塗彩。 内面 篋ナデ。
29	土師器 小型壺	口～胴上半 1/4 口径(6.7) 器高(5.8) 底径—		①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	短く直立する口縁。端部は丸い。肩の張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はナデ後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。胴部はナデ。
30	土師器 小型壺	頸～底部 2/3 口径— 器高(10.3) 底径 4.2		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部から丸みをもって立ち上がる口縁。下膨れの胴部。胴部下半に円孔1あり。 外面 胴部は粗いハケメ後篋磨き。底部は無調整。 内面 頸部は粗いハケメ。胴部上半はナデ。下半は粗いハケメ。
31	土師器 小型壺	口～胴上半 1/3 口径(11.6) 器高(15.0) 底径—		①輝石 石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部から直立気味に立ち上がる口縁。胴部は丸い。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は縦篋磨き。胴部は篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下は横篋磨き。頸部はハケメ後指ナデ。
32	土師器 小型壺	4/5 口径 9.3 器高15.1 底径 5.8		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	頸部からくの字に外反する折り返し口縁。肩の張る胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後横ナデ。胴～底部は篋磨き。 内面 口～頸部は横ナデ。胴部は指押え後横ナデ。底部は篋ナデ。

1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
33	土師器壺	口縁部 1/4 口径(13.2) 器高(2.4) 底径一		①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反する複合口縁。 外面 口縁端部は横ナデ。以下は横ナデ後篋磨き。 内面 横ナデ後篋磨き。
34	土師器壺	口縁片 口径(14.2) 器高(2.7) 底径一		①石英 細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	外反する複合口縁。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 ハケメ後ナデ。
35	土師器壺	口縁片 口径(14.7) 器高(3.2) 底径一		①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	外反し幅の広い複合口縁。 外面 ハケメ後横ナデ。 内面 ハケメ後篋磨き。
36	土師器壺	口縁片 口径(14.0) 器高(2.0) 底径一		①石英 粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	外反し、端部で直立する口縁。 外面 横ナデ。 内面 横ナデ。
37	土師器壺	口縁部 1/3 口径(15.5) 器高(3.9) 底径一		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反する折り返し口縁。 外面 端部は横ナデ。以下はナデ。 内面 横ナデ後篋磨き。
38	土師器壺	口縁片 口径(14.0) 器高(3.5) 底径一		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	外反する折り返し口縁。 外面 端部は横ナデ。以下はハケメ後横ナデ後篋磨き。 内面 横ナデ後篋磨き。
39	土師器壺	頸～底部 口径一 器高(26.4) 底径7.8		①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	最大径を胴部上半にもつ胴部。 外面 粗いハケメ後篋ナデ。底部は篋削り。 内面 頸部は細いハケメ。胴部は粗いハケメ。
40	土師器壺	口縁片 口径19.0 器高(4.6) 底径一		①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直立する頸部。2段階に外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 端部は横ナデ。以下はハケメ後ナデ。 内面 ハケメ後横ナデ後篋磨き。
41	土師器壺	胴～底部 口径一 器高(21.6) 底径7.6		①軽石 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	算盤玉のような胴部。 外面 ハケメ後ナデ。底部に木葉痕あり。 内面 ハケメ。底部は粗いハケメ。
42	土師器壺①	頸～胴上半 口径一 器高(15.5) 底径一		①軽石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄褐色	直立気味の頸部。球形の胴部。パレス壺か?。 外面 頸部は篋磨き。肩部に12本の横線文が2条、その間に波状文のコンパス文。以下胴部は粗いハケメ後篋磨き。外面赤色塗彩 内面 頸部は横ナデ後篋磨き。以下篋ナデ。
42	土師器壺②	胴下部～底部 口径一 器高(5.4) 底径7.4		①軽石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄褐色	底部から大きく外反する胴部。42①と似ているが接点なし。 外面 胴部はハケメ後篋磨き。底部は篋削り。外面赤色塗彩。 内面 胴部は篋削り。底部はハケメ。
43	土師器壺	肩部片 口径一 器高一 底径一		①石英 細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直立気味の頸部。肩が張らない。 外面 ハケメ後篋磨き。肩部に棒状の突起があり。突起の上部に刺突文あり。突起の前後は横ナデ。 内面 頸部はハケメ後篋磨き。肩部はナデ。
44	土師器壺	口縁片 口径一 器高一 底径一		①角閃石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	直立気味の口縁。端部に刺突文あり。 外面 ハケメ後横ナデ。 内面 ハケメ後横ナデ。
45	土師器壺	口縁片 口径一 器高一 底径一		①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反する口縁。端部に刺突文あり。 外面 縦ハケメ。 内面 横ハケメ。
46	土師器壺	胴下位～底部 2/3 口径一 器高(4.2) 底径 3.3		①軽石 粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	底部から外反し立ち上がる薄手の胴部。 外面 胴部は篋磨き。底部は篋削り。 内面 ハケメ。
47	土師器壺	底部 2/3 口径一 器高(2.7) 底径 8.0		①軽石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部から外反する胴部。 外面 胴部は篋磨き。底部に木葉痕あり。 内面 篋ナデ。
48	土師器壺	底部 口径一 器高(2.8) 底径 8.4		①軽石 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部から外反する胴部。 外面 胴部はハケメ。底部に木葉痕あり。 内面 篋ナデ。
49	土師器壺	頸～胴上半 1/5 口径一 器高(12.7) 底径一		①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みのある胴部。 外面 篋削り後篋磨き。 内面 胴部上半は指頭痕あり。下半は篋削り。
50	土師器壺	肩部片 口径一 器高一 底径一		①角閃石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	丸みのある肩部。円形付文あり。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 ナデ。

第3章 検出された遺構と遺物

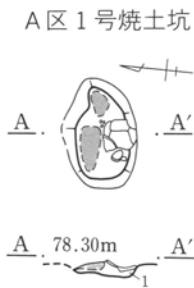
番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
51	土師器 壺	口縁片 口径— 器高一 底径—		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反する口縁。 外面 篋磨き。 内面 ナデ。
52	土師器 壺	胴下位～底部 口径— 器高(5.8) 底径 8.4		①輝石 細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	底部から大きく外反する胴部。 外面 胴部はハケメ後篋磨き。裾部に粗いハケメ。底部に木葉痕あり。 内面 胴部は粗いハケメ後篋磨き。底部は粗いハケメ後ナデ。
53	土師器 壺	口縁部片、胴部片 口径(16.5) 器高(25.4) 底径—		①輝石 石英 白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	接合出来なかったため図上復元。直立する頸部。頸部より外湾する口縁。下膨れ気味の胴部。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。頸部はハケメ。肩部はハケメ後横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。肩部はハケメ。胴部は粗いハケメ。
54	土師器 甕	胴中位～底部 2/3 口径— 器高(20.3) 底径8.8		①粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	球形の胴部。 外面 胴部はハケメ後篋磨き。底部に木葉痕あり。 内面 胴部はハケメ。底部はナデ。
55	土師器 甕	口～胴上半 1/4 口径(13.8) 器高(12.7) 底径—		①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	直立する口縁。球形の胴部。 外面 口縁端部は横ナデ。粗いハケメ後篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。以下頸部までは粗いハケメ。胴部は篋ナデ後篋磨き。
56	土師器 甕	頸～胴部 2/3 口径— 器高(22.6) 底径—		①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	最大径をやや下方にもつ胴部。頸部は直立気味。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 ハケメ。
57	土師器 台付甕	口～胴部 1/3 口径12.7 器高(13.0) 底径—		①輝石 1～2mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反し、2段目が短いS字状口縁。端部は上側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部に指頭痕あり。胴部はハケメ。
58	土師器 台付甕	口縁部片 口径(13.8) 器高(3.1) 底径—		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	2段目が大きく外反し、端部内側に面をもつS字状口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。以下篋ナデ。
59	土師器 台付甕	胴下部～台部 1/3 口径— 器高(12.1) 底径(9.2)		①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	台部からくの字に立ち上がる胴部。裾部は折り返す。 外面 胴部はハケメ。台部はナデ後ハケメ。 内面 胴部は篋ナデ。台部接合部は粗い砂粒目立つ。以下は指ナデ。
60	土師器 台付甕	口縁部 2/3 口径 7.8 器高(3.7) 底径—		①軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③褐灰色	外反し、1,2段目の差があまりないS字状口縁。端部は上側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部以下は指ナデ。
61	土師器 台付甕	口縁片 口径(16.2) 器高(4.0) 底径—		①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③灰褐色	外反し、2段目をつまむように仕上げてあるS字状口縁。端部は上側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。頸部に指頭痕あり。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
62	土師器 台付甕	口～頸部 1/5 口径(17.7) 器高(4.5) 底径—		①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③灰黄褐色	受け口に近いS字状口縁。端部は内側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後一部横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁に強い稜あり。頸部はハケメ。胴部は指ナデ。
63	土師器 台付甕	口～肩部 1/3 口径(15.6) 器高(8.4) 底径—		①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反するS字状口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下は篋削り後ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
64	土師器 台付甕	口～肩部 1/5 口径(14.2) 器高(6.7) 底径—		①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	外反するS字状口縁。端部は上側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部は指ナデ。
65	土師器 台付甕	口～肩部 1/3 口径(18.2) 器高(5.7) 底径—		①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反し、厚手のS字状口縁。端部は上側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後一部横ナデ。 内面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。
66	土師器 台付甕	胴下部～台部 口径— 器高(17.0) 底径(8.3)		①輝石 粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	台部からくの字に立ち上がりやや肩が張る胴部。裾部は折り返す。 外面 胴部はハケメ。台部はナデ後ハケメ。 内面 胴部、台部ともに指ナデ。裾部は横ナデ。
67	土師器 台付甕	頸～胴下部 1/3 口径—器高上(10.0) 器高下(8.7) 底径—		①輝石 1～2mmの石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	2つの土器片であり、接点がないので図上復元した。肩の張った胴部。 外面 ハケメ。底部に粘土紐接合箇所あり。 内面 指ナデ。
68	土師器 台付甕	台部 口径— 器高(5.5) 底径 7.5		①輝石 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	円筒形に近い台部。 外面 ハケメ。裾部は横ナデ。 内面 ナデ。

## 1. 古墳時代の遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
69	土師器 台付甕	台部 2/5 口径— 器高(3.3) 底径—		①輝石 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく下方へ外反する台部。 外面 ハケメ。 内面 ナデ。
70	土師器 台付甕	台部 口径— 器高(6.6) 底径 8.9		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	厚手の台部。端部は下側に面をもつ。 外面 ハケメ後粗いハケメ。 内面 底部はハケメ。台部接合部はナデ。以下ハケメ。
71	土師器 台付甕	胴下部～底部 口径— 器高(9.2) 底径8.5		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③明褐色	短めな台部。裾部は短く折り返す。 外面 ハケメ。 内面 胴部は篋削り。台部はハケメ。
72	土師器 台付甕	胴下部～台上部 1/2 口径— 器高 (6.4) 底径—		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	台部からくの字に立ち上がる胴部。 外面 粗いハケメ。 内面 胴部は粗いハケメ。台部はナデ。
73	土師器 鉢	口～胴部 1/5 口径(9.8) 器高(8.5) 底径—		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	短く外反する口縁。丸みのある胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部はナデ。
74	土師器 壺	口～胴部 2/3 口径(18.8) 器高16.4 底径(5.0)		①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	短く外反する口縁。端部は丸い。丸く底部になるとすぼまる胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。胴部は篋磨き。
75	土師器 甕	口～肩部 1/3 口径(17.6) 器高(6.7) 底径—		①石英 1～2mmの石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	頸部からくの字に屈曲する口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁端部はハケメ後横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁端部はハケメ後横ナデ。以下ハケメ後篋磨き。頸部は 篋削り後篋磨き。
76	土師器 甕	口～肩部片 口径(19.8) 器高(7.2) 底径—		①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	外反する口縁。端部は丸い。肩の張らない胴部。 外面 口縁～頸部は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。肩部はナデ。
77	土師器 甕	口縁部 1/4 口径(15.0) 器高(4.8) 底径—		①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	頸部から丸みをもって外反する口縁。端部は上側に面をもつ。 外面 口縁～頸部は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。
78	土師器 甕	口縁部片 口径(15.8) 器高(4.5) 底径—		①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	外反する口縁。端部は短く内湾する。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 ハケメ後篋磨き。
79	土師器 甕	口縁部片 口径(15.8) 器高(3.9) 底径—		①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	頸部からくの字に屈曲し、外反する口縁。端部は丸い。 外面 口縁はハケメ後横ナデ。以下ナデ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。以下ナデ。
80	土師器 甕	口縁部片 口径(17.5) 器高(4.5) 底径—		①石英 白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③灰色	外湾する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。
81	土師器 甕	口縁部 1/6 口径(21.0) 器高(4.8) 底径—		①1～2mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部からくの字に屈曲し、端部で短く外反する口縁。端部は外側 に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部はナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
82	土師器 甕	底部 口径— 器高(3.6) 底径—		①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	底部から外反する胴部。 外面 ナデ。 内面 ハケメ。

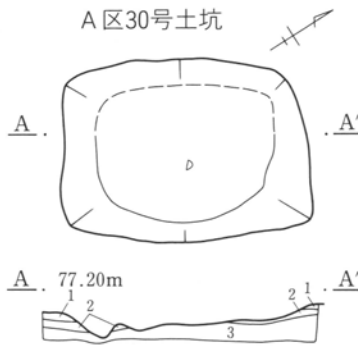
(6) 土坑

遺構番号 (第図 PL)	平面形 グリッド	長軸方向	長軸×短軸 深さ(cm)	覆土の特徴 出土遺物	備考
A区1号焼土坑 (第125・126図 PL52・145)	楕円形 2M-11	N-75°-E	58×40 7	黒色土に焼土粒、炭を含む。 土師器高坏。	
A区30号土坑 (第125図 PL52)	ほぼ長方形 4G-12	N-28°-E	130×98 13	この土坑周辺にHr-FAが堆積して いたが、この土坑内にはない。	
A区46号土坑 (第125図 PL52)	円形に近い 3J-14	N-40°-W	134×(120) 73	As-C軽石粒を含む黒褐色土。	A区1号方形周溝墓、43号住居を掘り込んでいる。
A区48号土坑 (第125・126図 PL52・145)	楕円形 3K-14	N-70°-E	92×75 20	As-C軽石粒を含む黒褐色土。 土師器壺口縁部片。	
A区76号土坑 (第125・126図 PL53・145)	楕円形 3F-19	N-27°-E	95×64 17	As-C軽石粒を含む黒色土。 完形の土師器壺。	
A区82号土坑 (第126図 PL53)	やや楕円形 7J-0	N-40°-W	82×70 12	細かい白色粒を含む黒色土。	
B区1号土坑 (第126図 PL53)	円形 2M-11		32×- 20	細かい白色粒を含む黒色土。 土師器壺。	



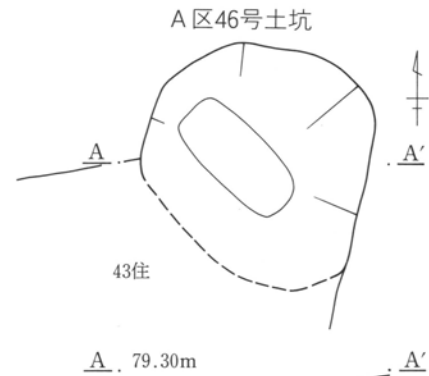
A区1号焼土坑

1 灰褐色土 少量の焼土粒と僅かな炭を含む。



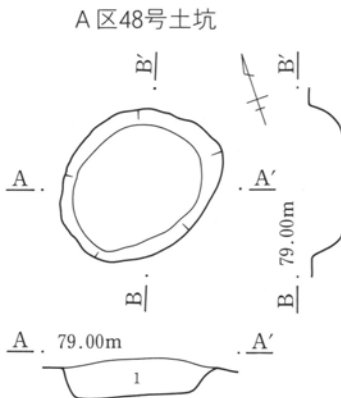
A区30号土坑

1 黄橙色土 3-d層。Hr-FAの層。粒子全体に密。  
2 黒色土 3-e層。粒子密。  
3 黒褐色土 3-f層。黒褐色土に多くのAs-C軽石粒が混入している。



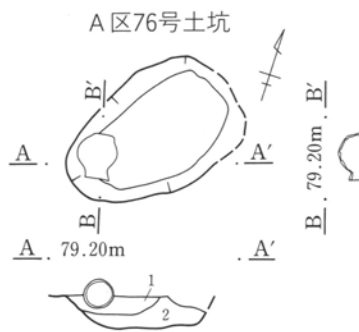
A区46号土坑

1 黒褐色土 3-f層を主とし、やや褐色を帯びている。  
1' 黒褐色土 3-f層を主とし、1層より黒色が強い。  
2 黒褐色土 3-f層を主とし、3-c層の粒子(地山で壁面の土)を多く含む。  
3 暗褐色土 3-f層を主とし、多くの3-c層を含む。



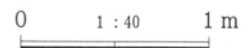
A区48号土坑

1 黒褐色土 3-f層を主とした土層。As-C軽石粒を少量含む。



A区76号土坑

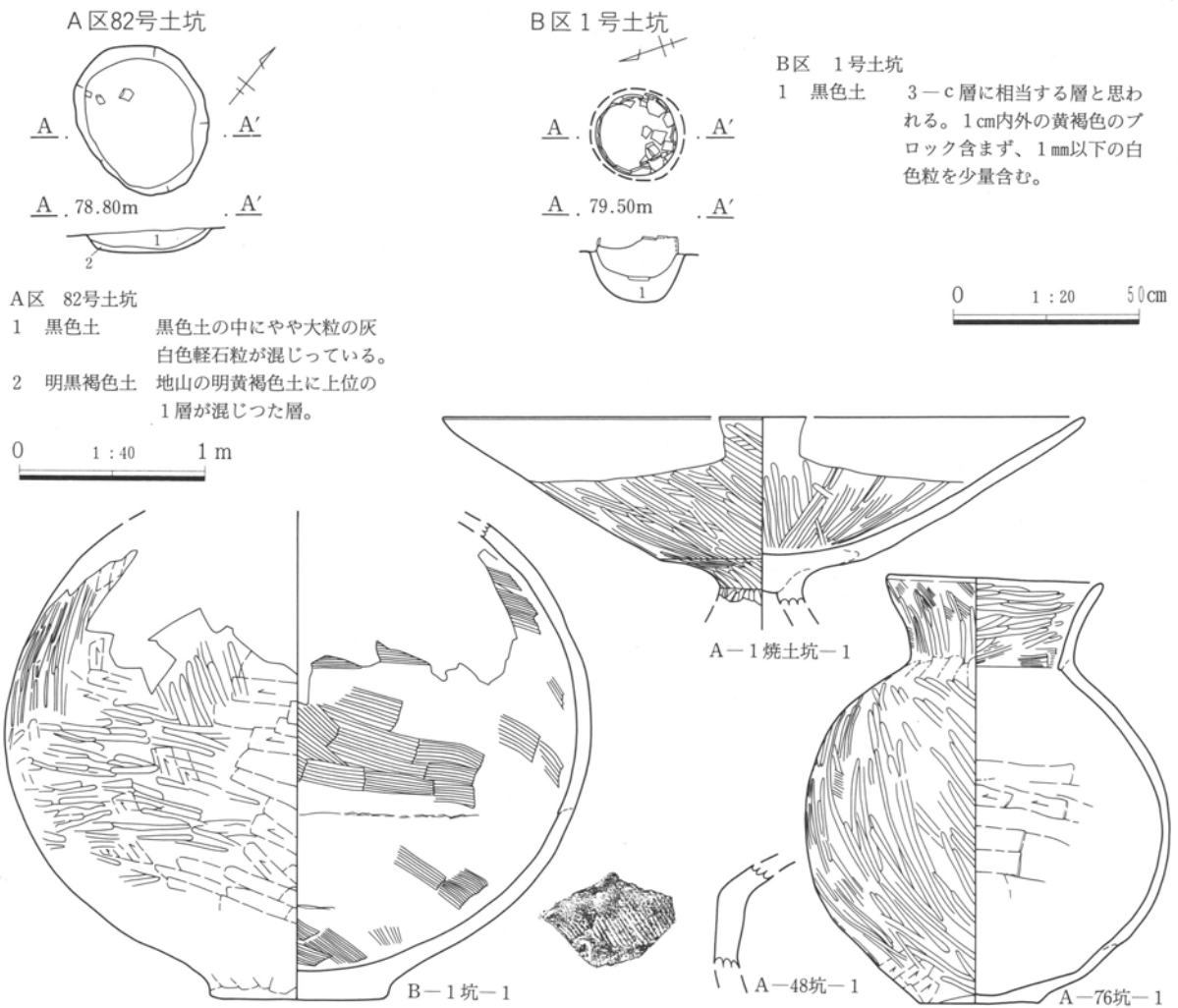
1 黒褐色土 黒色土の中にやや大粒の灰白色軽石粒が混じっている。  
2 明黒褐色土 上位の1層と2層の混じりのような土。全体として茶色っぽ見える。



第125図 A区1号焼土坑・30・46・48・76号土坑



1. 古墳時代の遺構と遺物



A区 82号土坑  
 1 黒色土 黒色土の中にやや大粒の灰白色軽石粒が混じっている。  
 2 明黒褐色土 地山の明黄褐色土に上位の1層が混じった層。

B区 1号土坑  
 1 黒色土 3-c層に相当する層と思われる。1cm内外の黄褐色のブロック含まず、1mm以下の白色粒を少量含む。

第126図 A区82・B区1号土坑、A区1号焼土坑・A区48・76・B区1号土坑出土遺物

A区 1号焼土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部 1/3 口径(25.2) 器高(7.5) 底径—		①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	稜をもち、坏底部から大きく外反する坏部。端部はやや内湾する。 外面 篋磨き。 内面 篋磨き。

A区 48号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 壺	口縁部片 口径— 器高一 底径—		①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	頸部から直立気味に立ち上がり、外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下はハケメ。

A区 76号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 壺	完形 口径11.3 器高22.8 底径 6.3		①石英 1~3mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部からくの字に立ち上がる口縁。端部は丸い。球形の胴部。 外面 口縁~胴下部はハケメ後篋磨き。以下底部まで篋削り後篋磨き。 内面 口縁はハケメ後篋磨き。以下は篋削り。

B区 1号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 壺	胴~底部 口径— 器高(25.7) 底径9.7		①粗砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	最大径を中央部にもつ球形の胴部。 外面 篋削り後篋磨き。 内面 ハケメ。

(7) 竪穴状遺構

A区 1号竪穴状遺構 (第127・128図 PL53・146)

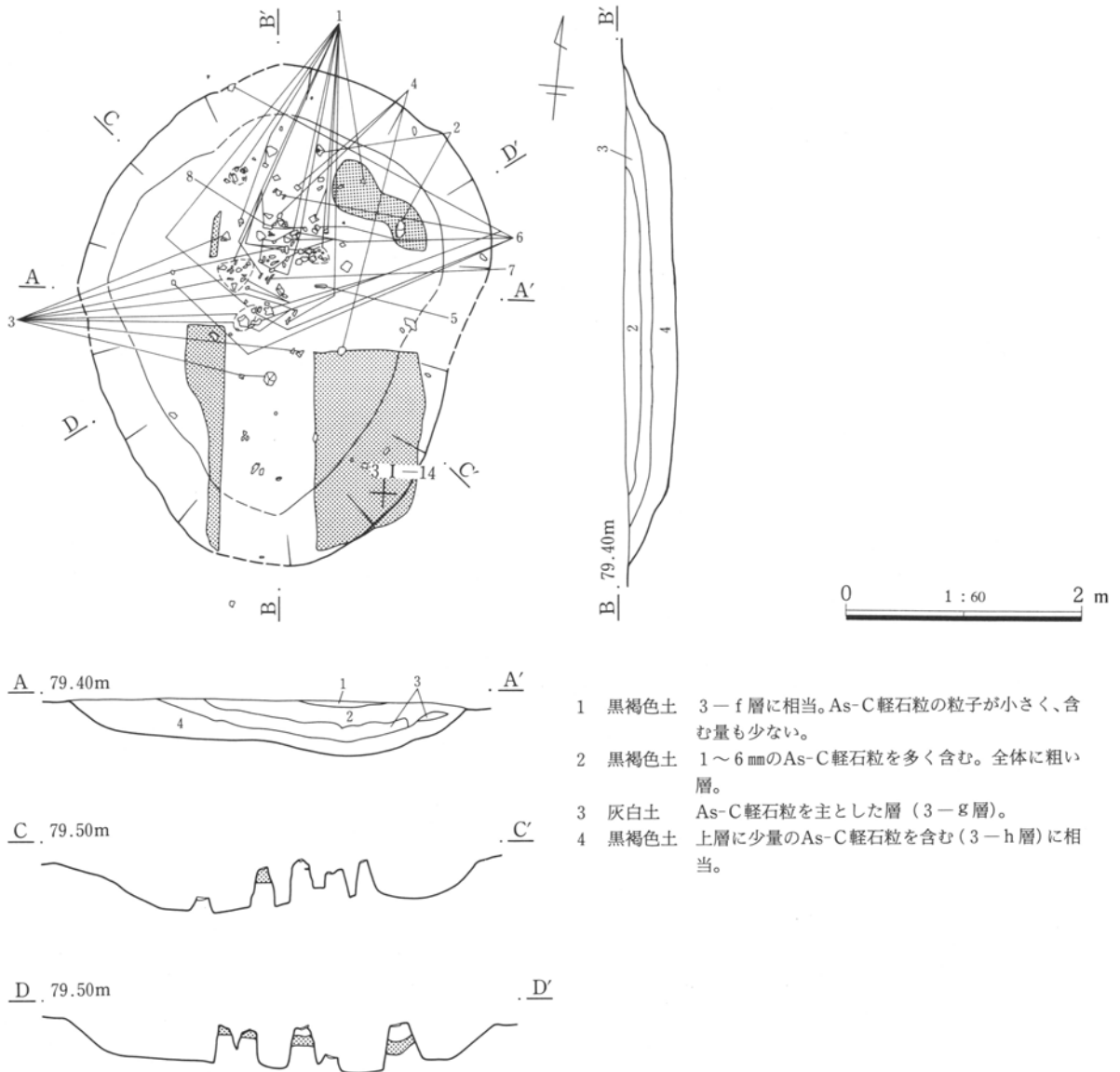
位置 3 I-14グリッド

概要 古墳時代の1号方形周溝墓の方台部にAs-C軽石粒が広い範囲で出土した。その範囲は南北方向4.32m、東西方向3.49mの楕円状であった。As-C軽石粒を追って地山まで掘り下げたところ、楕円形になった。As-C軽石粒は10cmほどの厚さをもってすり鉢状に層位をなしていた。この遺構の最大の

深さは56cm。住居跡にしては、同時期のものと形状が違いすぎるので竪穴状遺構とした。

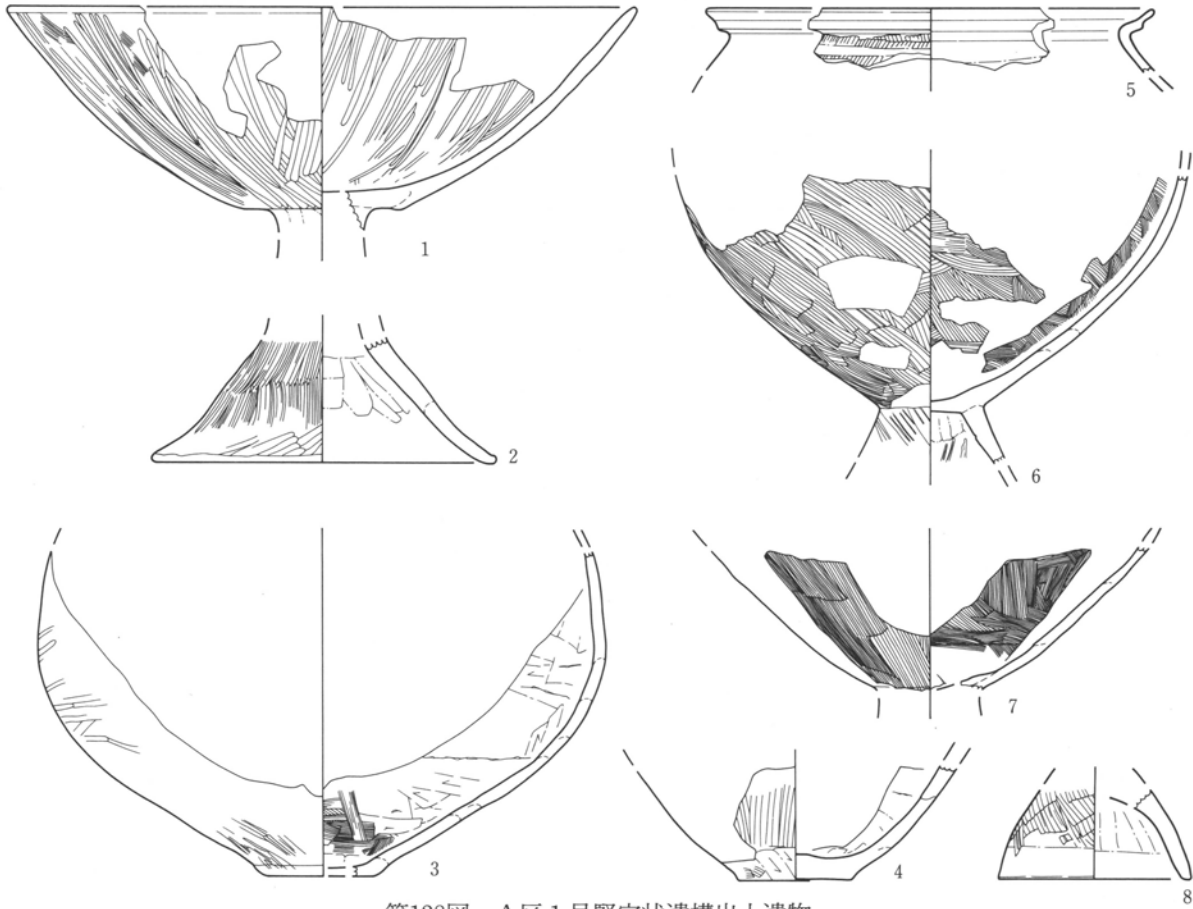
面積 10.89㎡

遺物 As-C軽石粒の層の前後から数多くの土師器が出土した。土師器の高坏、坏、壺、台付甕である。



第127図 A区1号竪穴状遺構

1. 古墳時代の遺構と遺物



第128図 A区1号竖穴状遺構出土遺物

A区 1号竖穴状遺構

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 高坏	坏部片 口径24.8 器高(8.8) 底径—		①細砂 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部に稜をもち、やや丸味をもって外反する坏部。 外面 端部は横ナデ。以下はハケメ後篋磨き。 内面 端部は横ナデ。以下は篋削り後篋磨き。
2	土師器 高坏	脚部 口径— 器高(4.5) 底径13.4		①軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	裾部に近づくにつれ外湾する脚部。裾端部は丸い。 外面 脚部はハケメ。裾部は横ナデ後篋磨き。 内面 脚部はナデ。裾部は横ナデ。
3	土師器 壺	胴~底部 1/3 口径— 器高(17.5) 底径(5.6)		①細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部に近いところすばまる下膨れの胴部。 外面 篋削り後篋磨き。 内面 篋削り。
4	土師器 甕	胴下部~底部 1/5 口径— 器高(6.0) 底径6.0		①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部から外反する胴部。 外面 胴部は篋削り後ハケメ。底部は無調整。 内面 篋ナデ。
5	土師器 台付甕	口縁部片 口径(23.4) 器高(3.2) 底径—		①細砂 輝石 4mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反するS字状口縁。端部は内側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下はハケメ後横ナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
6	土師器 台付甕	胴下部~台中位 2/3 口径— 器高 (15.5) 底径—		①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	台部から大きく外反する胴部。 外面 ハケメ。 内面 胴部はハケメ。台部接合部はナデ。台部に篋押え痕あり。
7	土師器 台付甕	胴下部 口径— 器高(6.9) 底径—		①粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反する胴部。 外面 ハケメ。 内面 ハケメ。
8	土師器 台付甕	台部片 口径— 器高(4.2) 底径(10.2)		①細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	裾部に向かってやや内湾する厚手の台部。端部は下側に面をもつ。 外面 台部はハケメ。裾部は横ナデ。 内面 台部接合部はナデ。裾部は横ナデ。

(8) 耕作溝

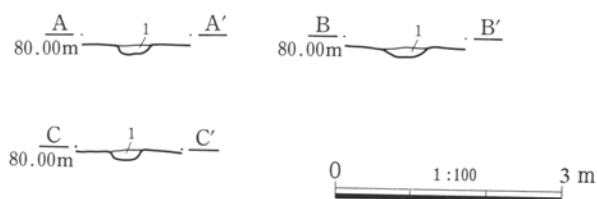
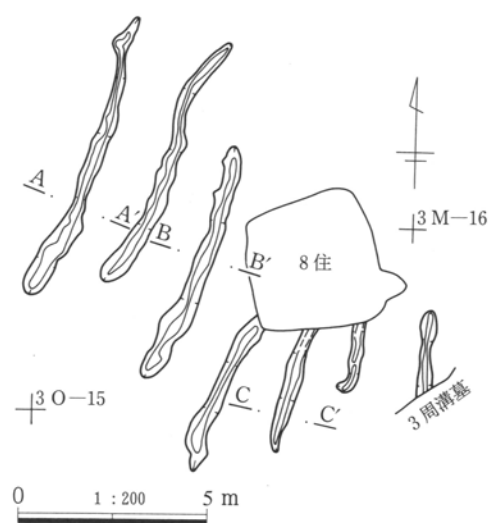
A区 耕作溝 (第129図 PL54)

**位置** 3 L～O-15～17グリッド  
**重複** 平安時代のA区8号住居に掘り込まれている。  
**地形** 全体に南西方向に緩やかに傾斜している。  
**走向** 北東から南西の走向 (N-22°-E)。  
**形態** 全体の確認範囲は南北11.5m、東西11mである。検出された耕作溝は7本である。耕作溝の最大長さ7.9m、最大幅68cmを測る。溝と溝の間隔は1.

20～1.50mである。断面形は法面が急な逆台形になる。

**覆土** 多くの灰白色軽石粒を含む黒色土に黄褐色土が混入したものである。基本土層から古墳時代耕作溝と考える。

**遺物** 遺物なし



1 黒褐色土 3-f層を主とし、少量の黄褐色土を含む。

第129図 A区耕作溝

(9) 道路跡

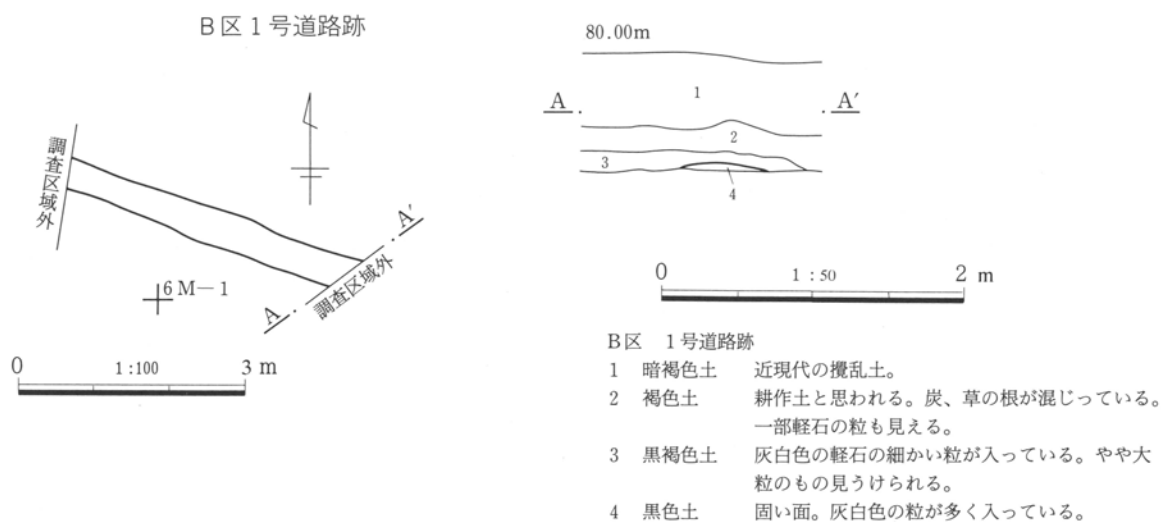
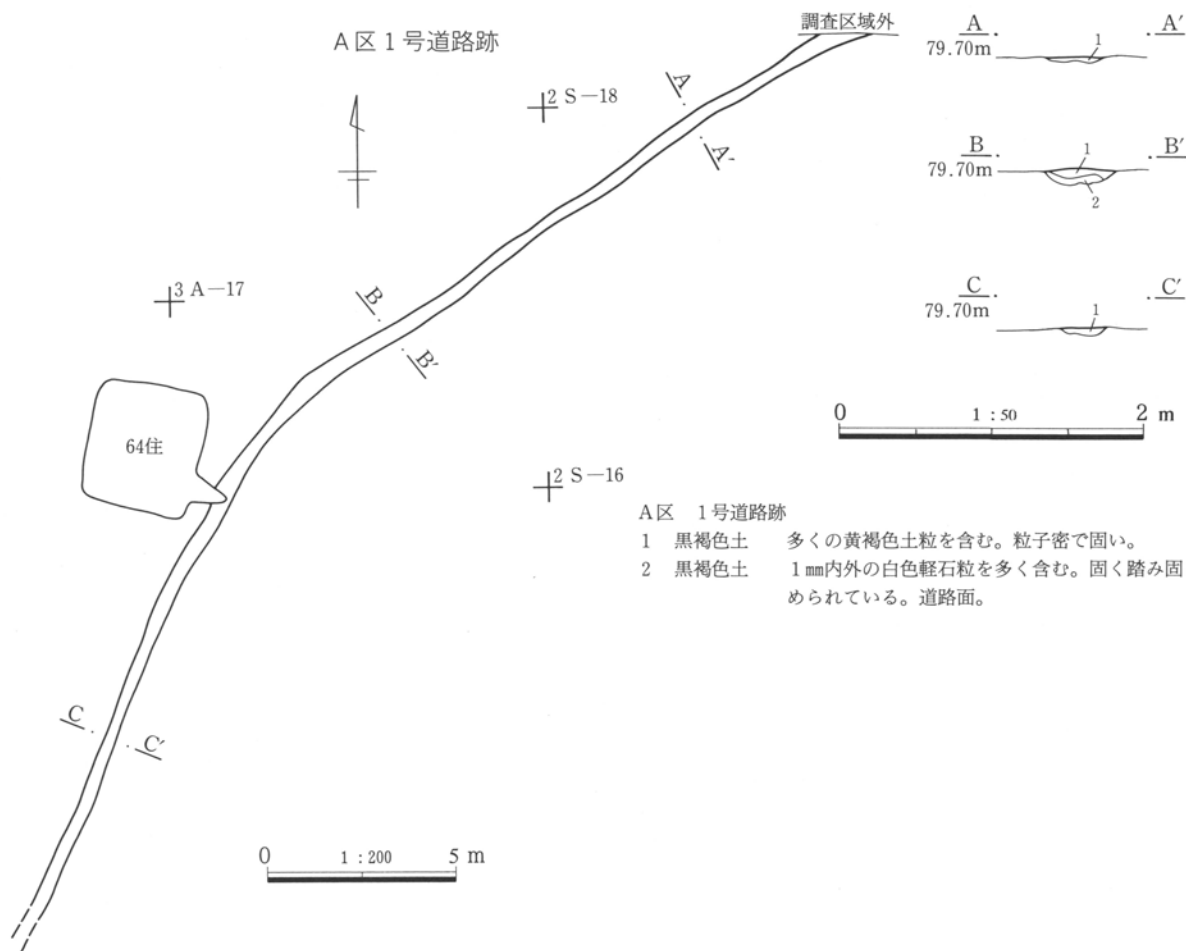
A区 1号道路跡 (第130図 PL54)

**位置** 2 Q-19～3 A-13グリッド  
**重複** 平安時代のA区64号住居に掘り込まれている。  
**走向** 地形の傾斜からみて、北東から南西の走向と考える。北東からほぼ西に走向 (N-123°-W)、64号住居のあたりから南西方向へ走向 (N-152°-W)。  
**形態** 確認全長は32.6m、最大幅51cmを測る。道路面の土は細かい白色軽石粒を多く含む黒褐色土で、非常に固い面であった。基本土層から古墳時代の道路跡と考える。この1号道路跡は、途中で走向が不明になった。  
**遺物** 遺物なし

B区 1号道路跡 (第130図 PL54)

**位置** 6 L-1グリッド  
**重複** 重複なし。  
**走向** 地形の傾斜からみて、北西から南東の走向と考える (N-110°-E)。  
**形態** 確認全長は7.75m、最大幅95cmを測る。道路面の土は細かい白色軽石粒を多く含む黒褐色土で、非常に固い面であった。基本土層から古墳時代の道路跡と考える。  
**遺物** 遺物なし

1. 古墳時代の遺構と遺物



第130図 A区1・B区1号道路跡

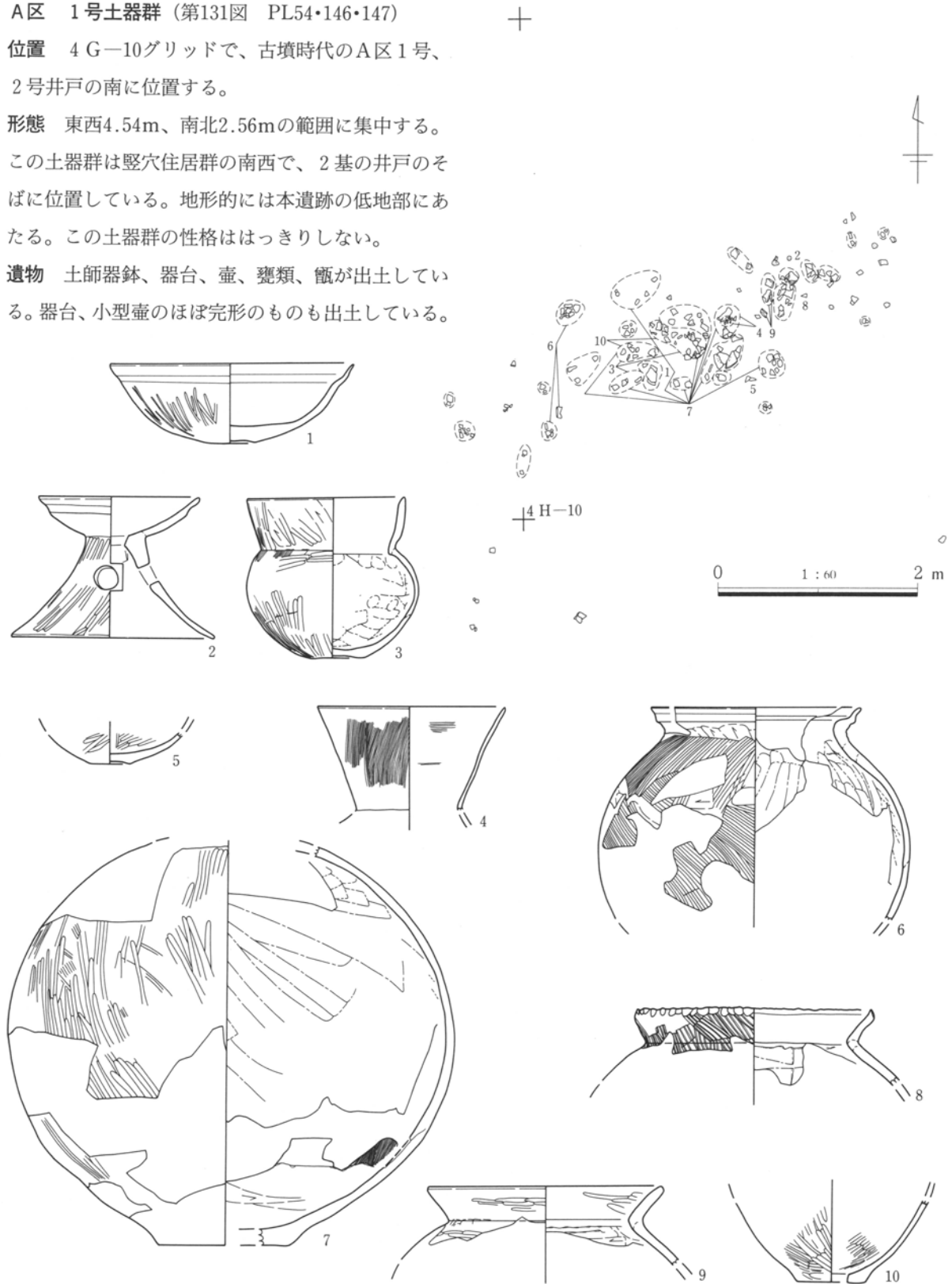
(10) 土器群

A区 1号土器群 (第131図 PL54・146・147)

位置 4G-10グリッドで、古墳時代のA区1号、2号井戸の南に位置する。

形態 東西4.54m、南北2.56mの範囲に集中する。この土器群は竪穴住居群の南西で、2基の井戸のそばに位置している。地形的には本遺跡の低地部にあたる。この土器群の性格ははっきりしない。

遺物 土師器鉢、器台、壺、甕類、甗が出土している。器台、小型壺のほぼ完形のものも出土している。



第131図 A区1号土器群、出土遺物

1. 古墳時代の遺構と遺物

A区 1号土器群

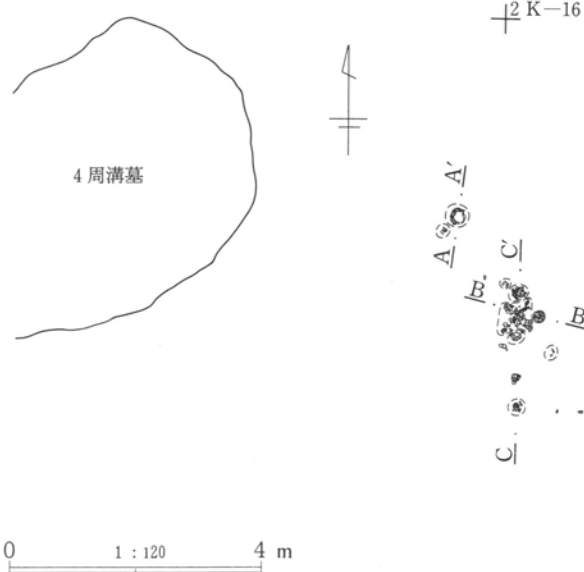
番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	ほぼ完形 口径12.2 器高4.0 底径 2.6		①粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	2段にわたって外反する口縁。底部は窪み底になっている。 外面 口縁は横ナデ。以下底部まで篔磨き。 内面 口縁は横ナデ。内面の荒れが目立つ。
2	土師器器台	ほぼ完形 口径 8.0 器高 7.0 底径10.1		①赤色細粒 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	2段にわたって外反する口縁。端部は上側に面をもつ。器受部は丸みをもつ。脚部はラップ状に開く。円孔3あり。 外面 口縁は横ナデ。脚部は篔磨き。器面の荒れが目立つ。 内面 口縁は横ナデ。脚部は篔削り。器面の荒れが目立つ。
3	土師器小型壺	ほぼ完形 口径10.5 器高10.7 底径 3.5		①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部から直立気味に立ち上がり、やや内湾する口縁。端部は丸い。 丸みのある胴部。 外面 口縁端部は横ナデ。以下肩部まで篔削り後篔磨き。胴部はハケメ後篔磨き。底部は篔削り。 内面 口縁は横ナデ。胴部はナデ。
4	土師器壺	口縁部片 口径(12.5) 器高(7.0) 底径—		①細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	長く外反する口縁。端部は丸い。 外面 ハケメ。 内面 ハケメ。
5	土師器小型壺	底部片 口径— 器高(2.0) 底径2.6		①赤色細粒 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部は窪み底。 外面 篔磨き。 内面 篔磨き。
6	土師器台付甕	口～胴中部 2/3 口径(13.9) 器高(14.1) 底径—		①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	2段目がほぼ水平方向に開くS字状口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。頸部は篔削り。胴部は粗いハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部以下はナデ。
7	土師器甕	胴～底部 2/3 口径— 器高(26.9) 底径 8.7		①輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	最大径を中央部にもつ、ほぼ球形の胴部。 外面 胴部はハケメ後篔磨き。底部は篔削り後篔磨き。 内面 胴上半はナデ。下部に接合部分が剥離している箇所あり。接合する前にハケメを施している。底部は篔削り。
8	土師器壺	口～頸部 2/3 口径(15.6) 器高(5.0) 底径—		①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	頸部からくの字に立ち上がる口縁。端部は外側に向かって刺突文が並ぶ。 外面 口縁～頸部は粗いハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部以下は篔ナデ。
9	土師器甕	口～頸部 1/2 口径(15.6) 器高(5.3) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	頸部からくの字に立ち上がる口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ後篔磨き。頸部以下は篔削り後篔磨き。 内面 口縁は横ナデ後篔磨き。頸部以下は篔削り。
10	土師器甕	底部片 口径— 器高(5.4) 底径(5.3)		①赤色細粒 輝石 ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	底部から丸味をもって外反する胴部。 外面 器面が荒れている。篔磨き。 内面 器面が荒れている。篔磨き。

B区 1号土器群 (第132・133図 PL54・147)

位置 2K-15グリッドで、古墳時代のB区4号方形周溝墓の南東に位置する。

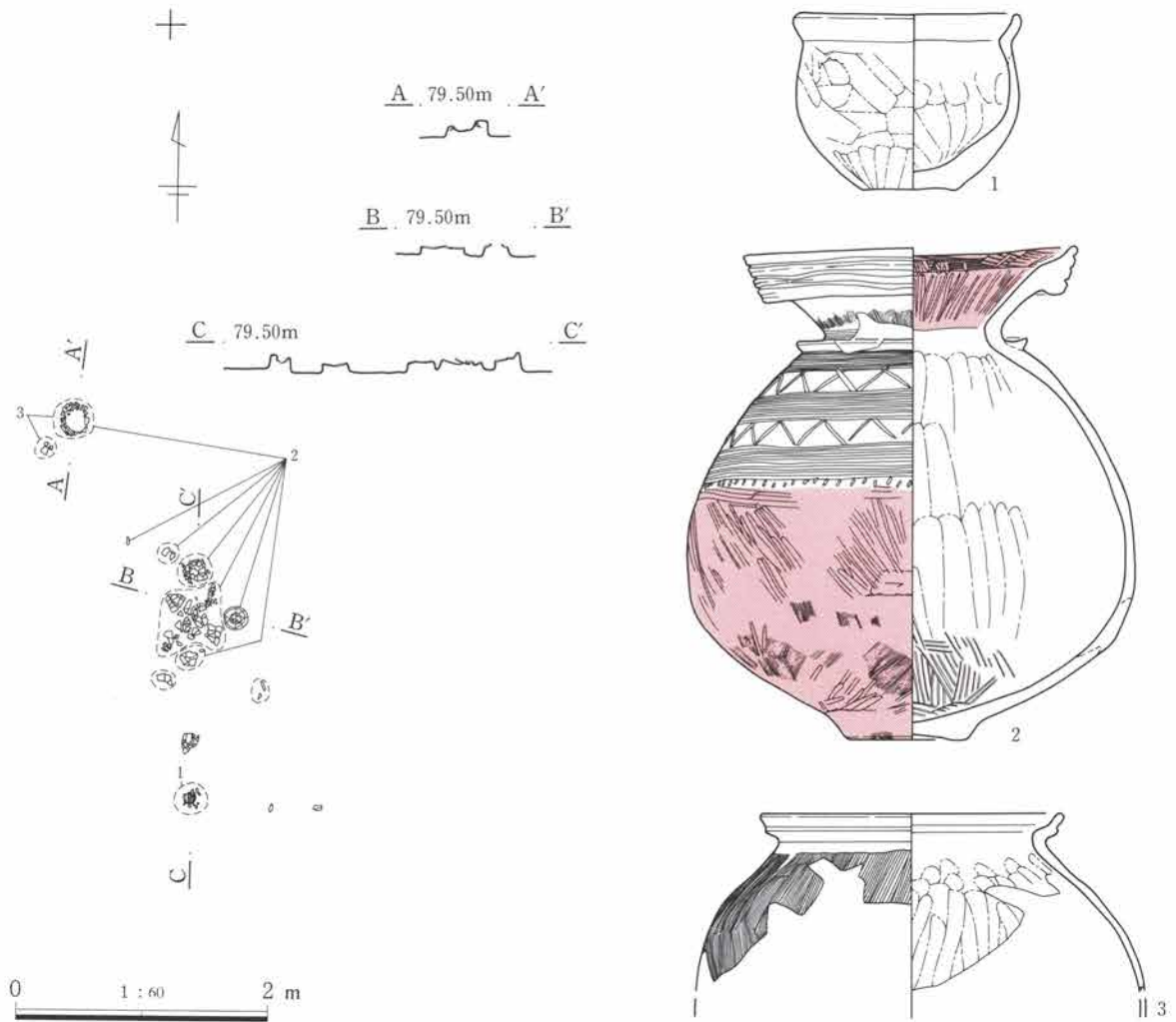
形態 東西2.38m、南北3.13mの範囲に集中する。この土器群は方形周溝墓群の東の端に位置している。直接、方形周溝墓から検出されたわけではないが、位置的に方形周溝墓群と何らかの関連があるのではないかと考える。

遺物 土師器鉢、台付甕、そしてほぼ完形のパレススタイル壺が出土している。



第132図 B区1号土器群(1)





第133図 B区1号土器群(2)

B区 1号土器群

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	1/2 口径(8.7) 器高6.9 底径3.7		①軽石 輝石 石英 細砂 ②酸化焙 硬質 ③明赤褐色	外反し端部で短く内湾する口縁。丸みのある体部。 外面 口縁～体部上半は横ナデ。体部下半～底部はナデ。 内面 口縁は横ナデ。体部はナデ。
2	土師器壺	ほぼ完形 口径17.7 器高26.0 底径6.4		①2～5mmの石 輝石 ②酸化焙 硬質 ③にぶい黄橙色	下膨れの胴部をもつパレススタイル壺。 外面 口縁は3本のやや太めの沈線が引かれている。頸部には凸帯が巡る。胴部上半には12本の横線文が3段にわたって巡り、その間に山形文が2段に巡る。3段目の横線文の下部に刺突文が巡る。胴部下半は赤彩されている。整形技法としては、篋磨きが目立つ部分とハケメ後篋磨きをしている部分に分かれる。底部は篋削り。 内面 口縁端部は粗いハケメ後横ナデ。以下頸部までは篋磨き。口縁～頸部までは赤彩。胴部は指ナデ。底部は粗いハケメ。
3	土師器台付甕	口～胴上位 口径15.8 器高(9.3) 底径—		①粗砂 石英 輝石 ②酸化焙 硬質 ③にぶい黄橙色	2段目が水平に近く開くS字状口縁。肩が張らず、丸みをもつ胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下ハケメ。

## 2. 奈良・平安時代の遺構と遺物

波志江中野面遺跡で見つかった奈良・平安時代の遺構には、竪穴住居跡52軒、掘立柱建物跡6棟、井戸4基、溝10条、土坑27基、耕作溝、As-B下水田跡等がある。

竪穴住居跡の内訳はA区34軒、B区2軒、C区9軒、D区7軒である。A,B区では方形周溝墓群が見つかった地域から、多くの竪穴住居跡が検出された。いくつかの住居跡は方形周溝墓を掘り込んで造られている。C区ではAs-B下水田の周辺部の台地部に住居跡が造られていた。D区でも安定した台地部から住居が検出された。

本遺跡における奈良・平安時代の竪穴住居跡の構造は以下の通りである。その形状は、小型の住居跡の場合に方形、やや大きくなると長方形を呈する。竪穴住居跡の大きさは、東西方向で2.30m～4.21m、南北方向で2.54m～3.29mを測る。住居跡の平均面積は10.47㎡である。床面には踏み固められたような硬い箇所がみられた。柱穴はなく、貯蔵穴又はピットが1,2基見つかった。また、粘質土を貼り込んだような浅い床下土坑が1,2基検出される住居跡も多かった。竈のほとんどは東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。北壁に竈を持つ住居跡としては、A区11号、48号、69号住居跡、B区1号住居跡等数例あった。また、新旧2基の竈が検出できた住居跡としては、A区55号住居跡、A区69号住居跡の2例あった。竈からは支脚石や両袖石が検出され、竈の天井や外形を整えるのに使用したと思われる粘質土も出土している。残りがよい竈が見つかった住居例としては、粘質土を使用した竈の天井の一部が検出されたA区49号住居跡、良好な状態で両袖石、支脚石が検出されたB区1号、C区6号住居跡等がある。また、土器片も竈内から数多く出土した。特に、B区2号住居跡の竈からは、煙道部に土器を敷き詰めたように数多くの土器が出土した。

特色ある遺物が出土した竪穴住居跡の例として

は、次のようなものがある。A区51号住居跡およびその周辺からは86個の管状土錘が出土した。特に、この住居の貯蔵穴から多くの土錘が出土している。貯蔵穴の覆土に焼土や炭が多数混ざっており、住居床面から粘質土が検出されることなどから、この住居は土錘の工房跡ではないかとの推測も出来る。また、A区63号住居跡から体部に「白米」と書かれた内黒磨きの墨書土器、刃長18.5cmの刀子が出土した。C区3号住居跡からは、多量の焼土と炭に混じって総重量12,046gの鉄滓が出土している。小鍛冶の住居とも考えられるが、羽口はみつかっておらず、チップも検出できなかつた。

掘立柱建物跡の内訳はA区3棟、C区3棟である。あまり大きい建物はなく、1×2間又は2×2間である。遺物もほとんど出土していないが、C区1号掘立柱建物跡の柱穴から体部に「倍」と書かれた墨書土器が出土している。

井戸4基は全てC区から検出された。断面の形状は漏斗状になっていて、底部に近づくほど径が狭くなっている。覆土中から土師器の坏、甕、須恵器の坏が出土している。

溝の内訳はA区2条、B区1条、C区7条、D区1条（但しD区2号溝とA区15号溝は同一のものとする）である。これらの溝の中で2つの大溝を取り上げたい。A区7号溝はA区内を北東から南西に走向する溝で、確認全長62.3mを測る。古墳時代の竪穴住居跡や方形周溝墓を掘り込んでいる。その断面はV字形で、底面の一部から鋤跡と思われる痕跡も見つかっている。その走向から考えると水源は遺跡を取り囲むように流れている神沢川と思われるが、現在流れている川の水位とこの溝との高低差がかなりあり、断定はできない。C区26号溝はC区内を北から南西へ走向する溝で、確認全長62mを測る。古墳時代のC区28号溝を掘り込んでいる。この溝はAs-B軽石が厚く堆積していた面の下から見つかっ

### 第3章 検出された遺構と遺物

た。上端で最大5mの幅をもつ大溝であるが、調査を進めていくと、単一の溝ではなく、多くの溝の集合体であることがわかった。多いところで9条を数える。おそらく何かの原因で溝が埋まり、新たな溝を造り変えたため、このような形状になったと思われる。また、溝の底に鋤跡が明瞭に残っていた。この溝の水源もA区7号溝と同様に神沢川と予想できるが、断定は難しい。

その他の遺構としては、以下の通りである。土坑の内訳はA区18基、C区6基、D区3基である。耕作溝、As-B下水田跡はC区から検出されている。As-B下水田跡は、大畦畔を検出したものの、全体的に畦畔がはっきりしなかった。水口は1ヶ所見つかった。

本遺跡の奈良・平安時代の遺物の総量は遺物収納箱で26箱分である。器種別にみると、土錘、土師器甕、土釜、須恵器坏、埴、羽釜、灰釉陶器皿、埴、緑釉陶器埴、瓦等が出土している。灰釉陶器が出土した竪穴住居跡は奈良・平安時代の住居跡総数52軒中13軒であった。中でもA区55号住居跡は灰釉陶器埴(ほぼ完形2点も含む)6点、皿1点が出土した。緑釉陶器は遺構外遺物として取り上げられた。

※ D区の奈良・平安時代の遺構と遺物の詳細については「第3章 5.D区の遺構と遺物」に記載。



第134図 奈良・平安時代の遺構全体図

(1) 竪穴住居跡

A区 1号住居跡 (第135・136図 PL54・55・148)

位置 3N-11グリッド

形状 東西2.44m、南北3.48m。長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。周溝は北、西、南側の壁を廻っている。残りの良いところで幅24cm、深さ4cmを測る。

面積 8.09m<sup>2</sup>

方位 N-103°-E

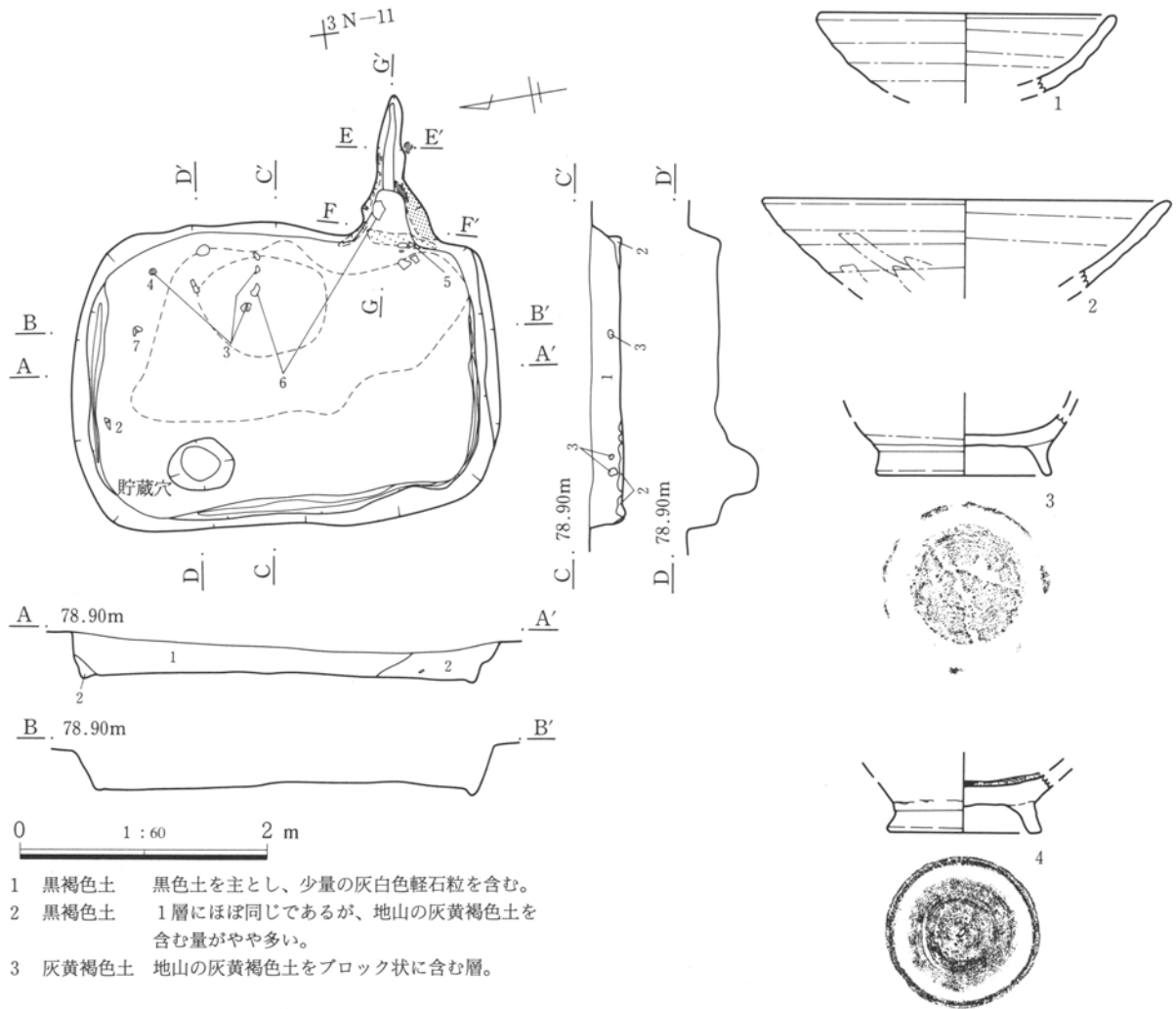
床面 遺構確認面から23cm掘り込んで床面となる。床面は砂質の灰黄褐色土で作られている。住居の東半分に踏み固められた床面が検出された。そして、

その中に更により踏み固められた部分もあった。(踏み固められた箇所は点線で表示。以後同様に表示)

貯蔵穴 径55cm、深さ29cmの大きさに住居の北西部分に掘り込まれている。平面の形状は円形である。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚口の両袖は石材でなく、黄色粘質土を張り付けて造られており、支脚部には土器片が使用されていた。両袖方向45cm、煙道方向120cmを測る。

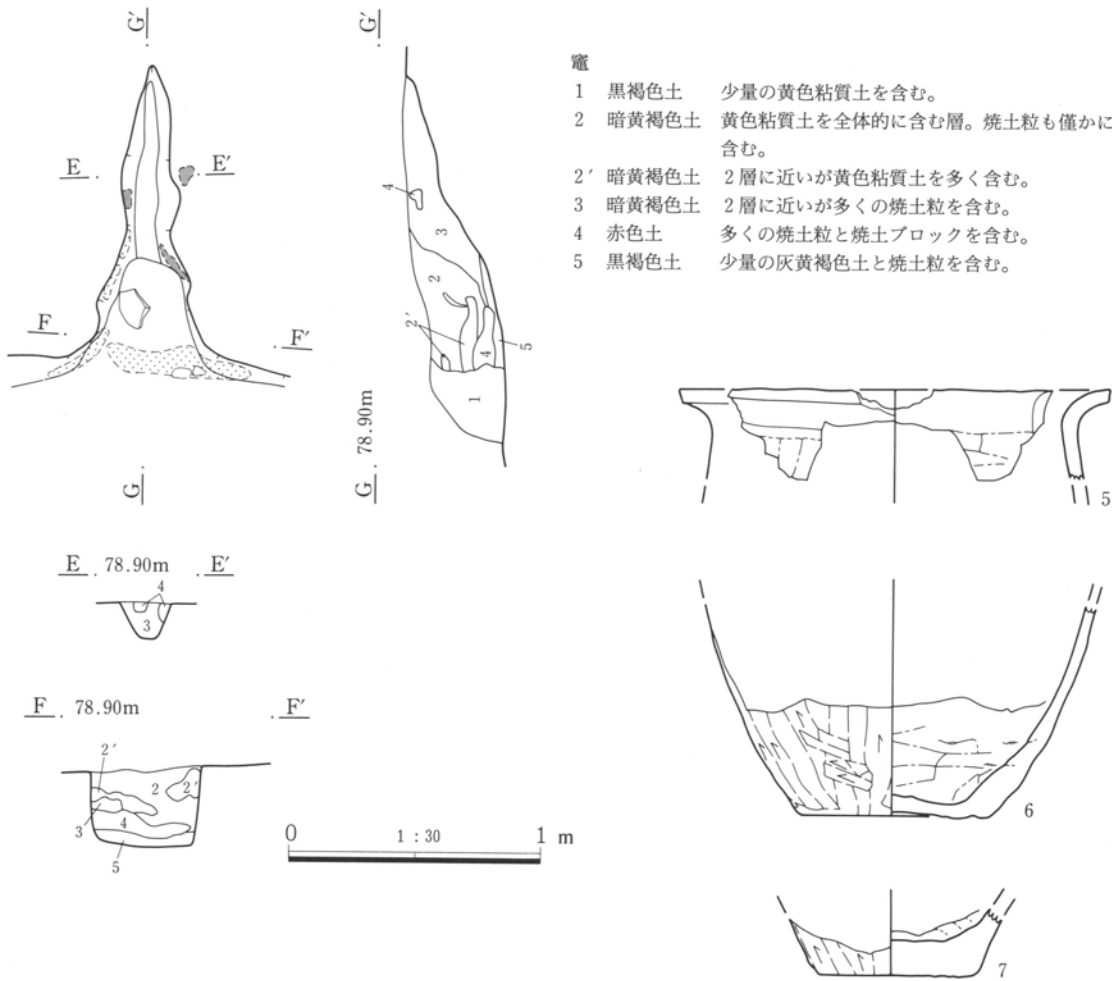
遺物 竈付近を中心に出土している。須恵器杯、壺、土釜、羽釜が出土している。



- 1 黒褐色土 黒色土を主とし、少量の灰白色軽石粒を含む。
- 2 黒褐色土 1層にほぼ同じであるが、地山の灰黄褐色土を含む量がやや多い。
- 3 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土をブロック状に含む層。

第135図 A区1号住居跡、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第136図 A区1号住居跡竈、出土遺物

A区 1号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口～体部 2/5 口径(12.0) 器高(3.2) 底径—	覆土	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁端部は丸い。右回転ロクロ整形、切り離し技法不明。
2	須恵器 坏	口～体部 1/4 口径(16.6) 器高(3.5) 底径—	床直	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。右回転ロクロ整形、切り離し技法不明。外面に一部ナデ痕が残る。
3	須恵器 塊	底～高台部 口径— 器高(2.2) 底径7.0	+5	①細砂 ②酸化焰 やや軟質 ③浅黄色	やや長めの高台。付け高台の塊。
4	須恵器 塊	底～高台部 口径— 器高(2.0) 底径(6.4)	+5	①輝石 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい赤褐色	やや厚めの高台。付け高台の塊。底部内面は黒色処理、篋磨き。
5	土師器 土釜	口縁部片 口径(23.0) 器高(4.8) 底径—	床直	①輝石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	頸部から丸みを帯びて、大きく外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 内外面 ナデ。
6	土釜又 は羽釜	胴下位～底部 1/3 口径— 器高(11.2) 底径(10.2)	+7	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	長めの胴部。 外面 胴～底部は篋削り。 内面 ナデ。
7	土釜又 は羽釜	底部 3/4 口径— 器高(3.5) 底径(8.2)	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	厚めの底部。 外面 胴～底部は篋削り。 内面 ナデ。

A区 2号住居跡 (第137・138図 PL55・56・148)

位置 3N-12グリッド

形状 東西2.76m、南北3.28m。長軸を南北方向に  
もち、隅丸長方形を呈する。

面積 9.43m<sup>2</sup>

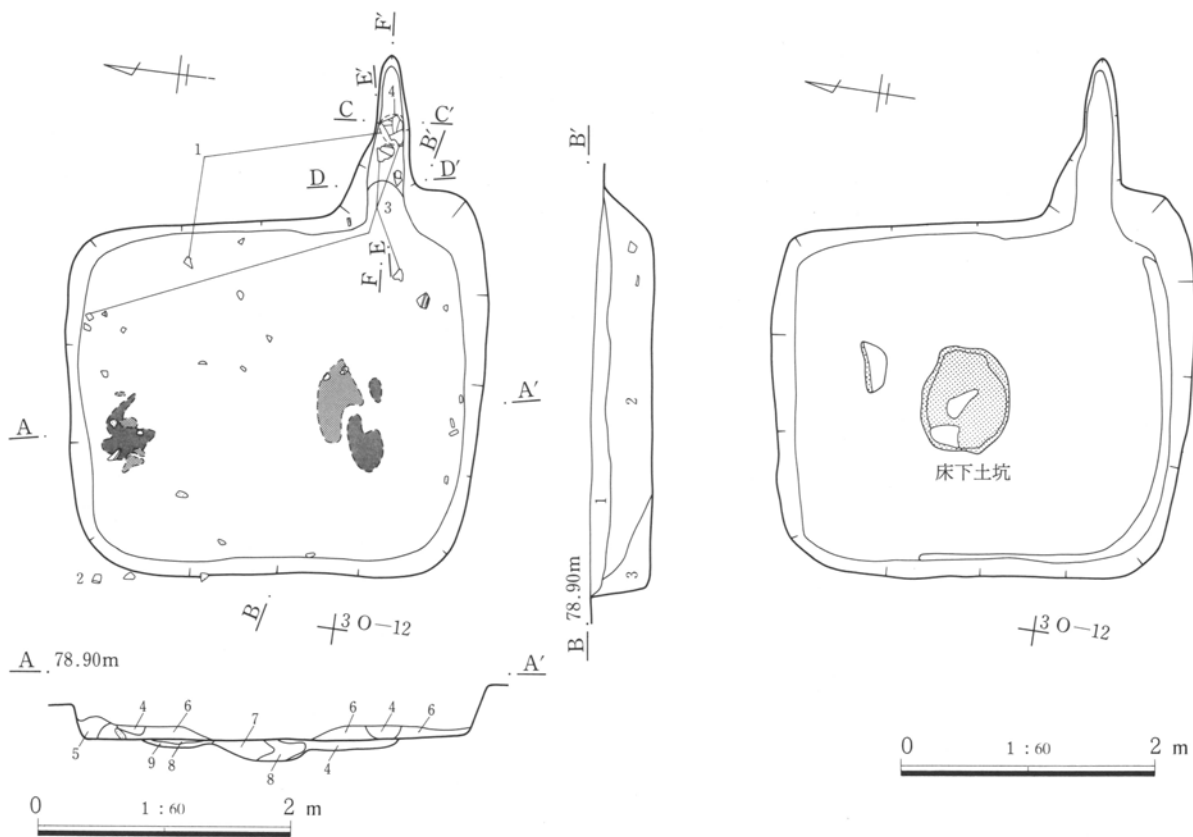
方位 N-78°-E

床面 住居の北側が削平されて遺構確認面が一定で  
なかったが、残りの良いところで、47cm掘り込んで  
床面となる。床面は黒褐色土と砂質の灰黄褐色土で  
造られている。住居の北側と南側に炭と焼土と灰黄

色粘質土で盛り上がった部分があった。また、床面  
下に灰黄色粘質土を塗り固めたような床下土坑と思  
われる径82cm、深さ15cmの椀状のものが検出された。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚  
口の両袖は石材でなく、黄色粘質土を張り付けて造  
られており、支脚部には土器片が使用されていた。  
両袖方向31cm、煙道方向138cmを測る。

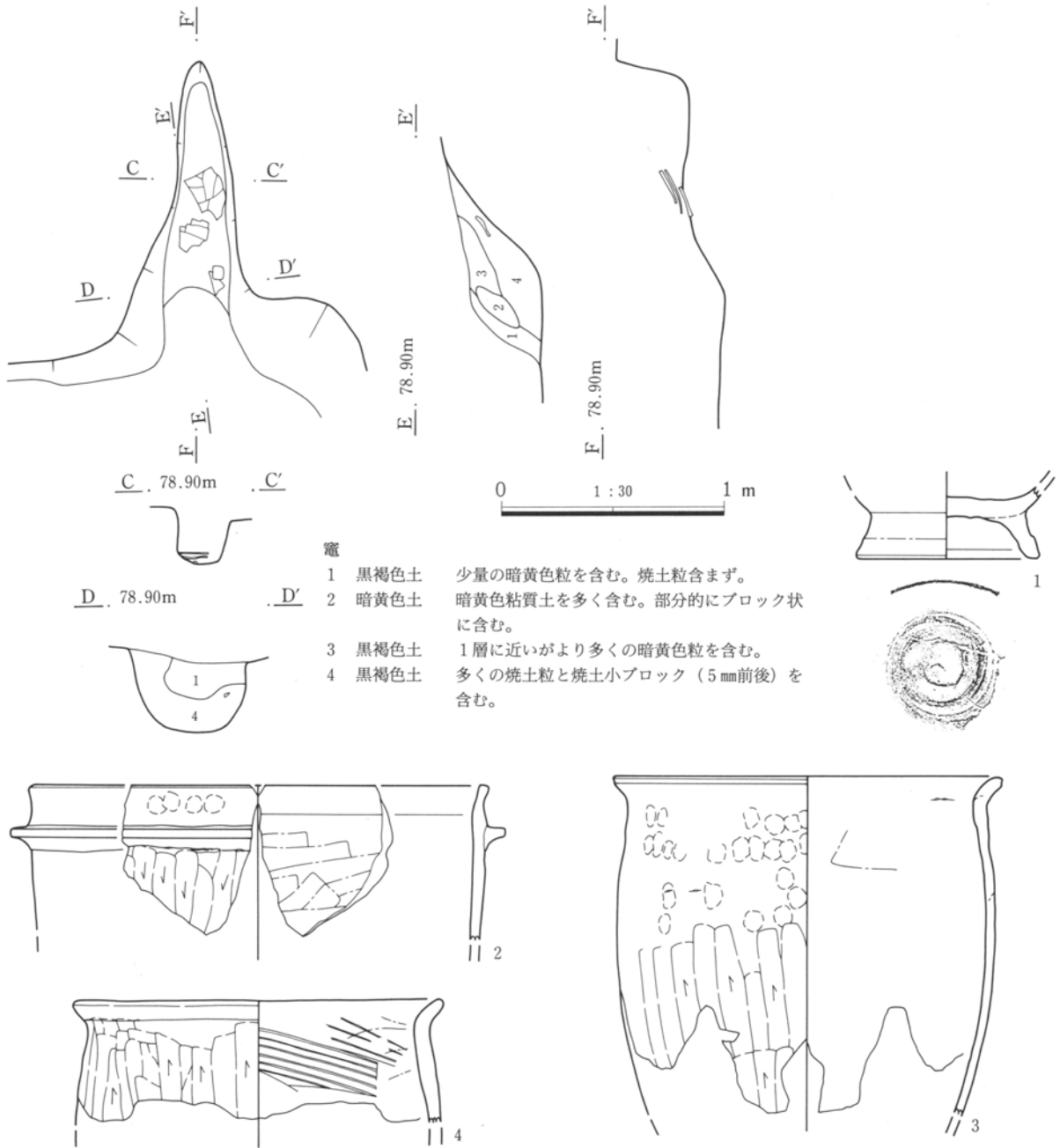
遺物 須恵器碗、土釜、羽釜が出土している。



- 1 黒褐色土 黒色土を主とし、少量の白色軽石粒(As-B軽石粒)を含む。
- 2 黒褐色土 1層とほぼ同じであるが、やや黒色が強い。
- 3 黒褐色土 地山の灰黄褐色土を多く含む。
- 4 黒色土 炭を多量に含む。
- 5 灰黄色土 灰黄色粘質土を主とした層。炭も少量含む。
- 6 黒褐色土 少量の灰黄色粘質土、焼土粒、焼土ブロック、黒色土の混入層。
- 7 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土を主とし、多くの黒褐色土を含む。
- 8 暗灰褐色土 灰褐色粘土と灰黄褐色砂質土の混入層土。
- 9 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土を主とし、少量の黒褐色土を含む。

第137図 A区2号住居跡、掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



第138図 A区2号住居跡竈、出土遺物

A区 2号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	底～高台部 口径— 器高(3.1) 底径(8.0)	床直	①石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	長めの高台。付け高台の埴。
2	羽釜	口縁部片 口径(27.0) 器高(9.0) 底径—	+18	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	罅はやや外湾する。短く外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り 内面 口縁は横ナデ。頸部以下はナデ。
3	土師器 土釜	口縁～胴部上半 口径(23.2) 器高(20.4) 底径—	床直	①輝石 粗砂 石英 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい赤褐色	頸部から短く外反する口縁。胴部中位に最大径をもつ長めの胴。 外面 口縁は横ナデ。頸～胴部中位は指頭圧痕残る。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。頸部以下はナデ。
4	土師器 土釜	口縁部 1/4 口径(22.2) 器高(7.4) 底径—	床直	①輝石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	頸部から短く外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。頸部は粗いハケメ後ナデ。



A区 3号住居跡 (第139・140図 PL56・148)

位置 3N-12グリッド

形状 東西3.54m、南北2.44m。長軸を南北方向に  
もち、隅丸長方形を呈する。

面積 8.91 m<sup>2</sup>

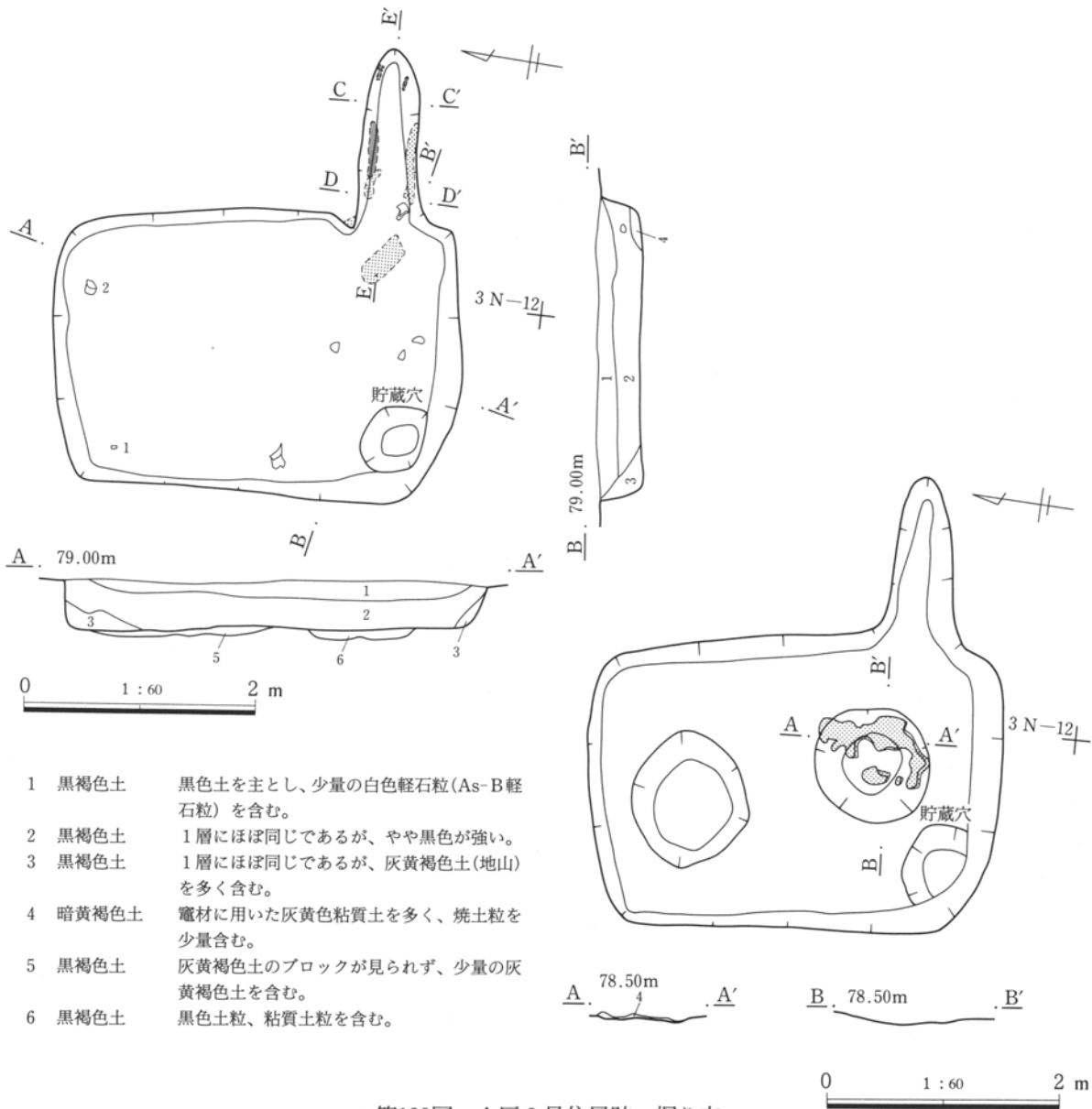
方位 N-99°-E

床面 遺構確認面から38cm掘り込んで床面となる。  
床面は黒褐色土と砂質の灰黄褐色土で造られてい  
る。踏み固められた部分は検出されなかったが、床  
面下に灰黄色粘質土で塗り固めたような椀状のもの  
の残骸と思われるものが検出された。

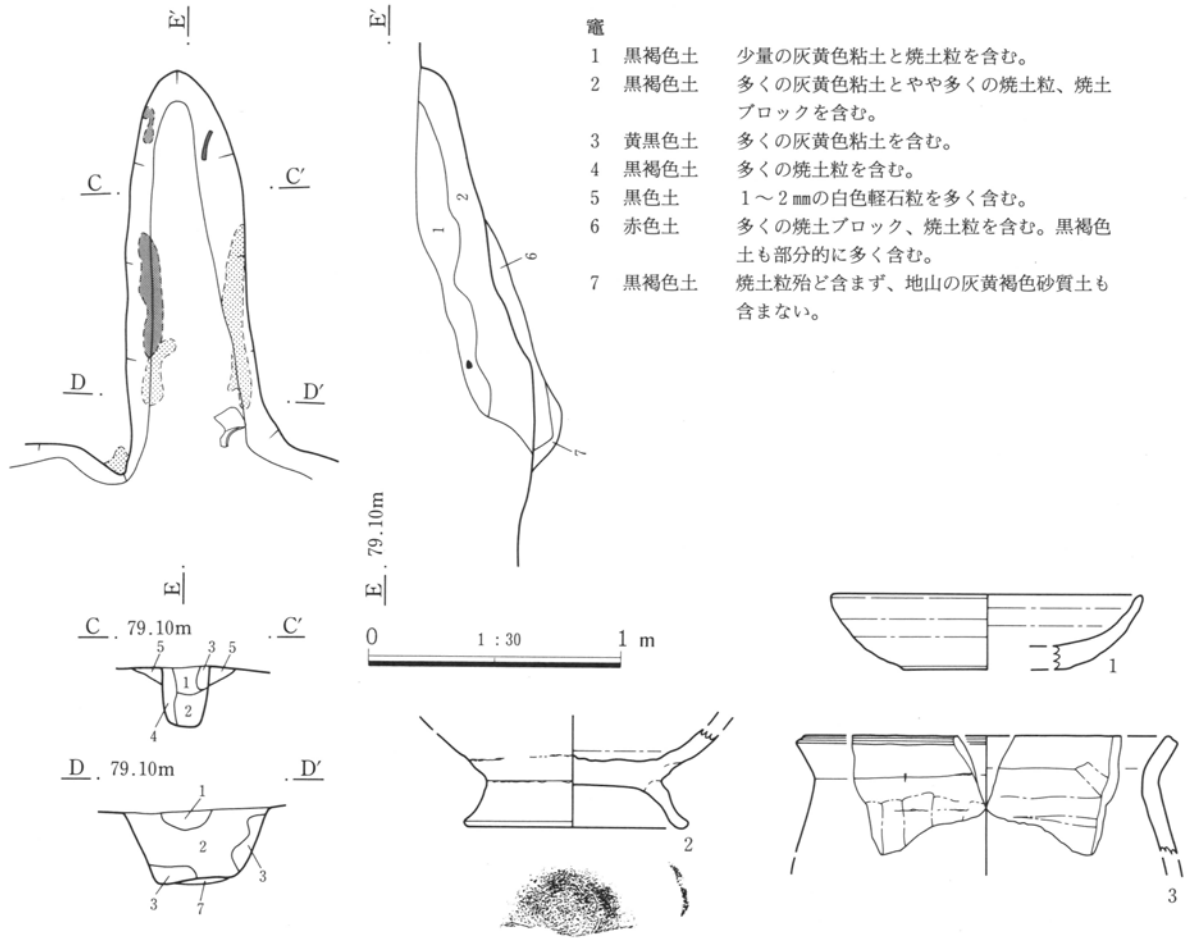
貯蔵穴 径68cm、深さ14cmの大きさに住居の南西隅  
部分に掘り込まれている。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚  
口の両袖は石材でなく、黄色粘質土を張り付けて造  
られており、住居の東壁面よりやや張り出している。  
右袖部分は崩れて床面に飛び出していた。支脚部は  
確認できなかった。両袖方向48cm、煙道方向154cmを  
測る。

遺物 須恵器坏、埴、土釜が出土している。



第139図 A区3号住居跡、掘り方



第140図 A区3号住居跡竈、出土遺物

A区 3号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口～底部片 口径(12.3) 器高(2.9)底径(6.7)	+7	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③黄橙色	丸みを帯びて立ち上がり、端部でやや内湾する。右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切りか。
2	須恵器 壺	体下半～高台部2/5 口径— 器高(3.8) 底径(8.9)	+12	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる体部。裾部で短く外反する高台部。付け高台の壺。
3	土師器 土釜	口縁部片 口径(19.6) 器高(6.3) 底径—	覆土	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部からくの字に屈曲する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下はナデ。 内面 口縁は横ナデ。頸部以下はナデ。

A区 5号住居跡 (第141図 PL57・148)

位置 3K-13グリッド

重複 住居の北西部分で古墳時代のA区3号方形周溝墓と重複している。本住居が方形周溝墓の溝を掘り込んで造られている。

形状 東西3.46m、南北2.73m。長軸を東西方向にもち、やや隅丸長方形を呈する。

面積 9.27m<sup>2</sup>

方位 N-98°-E

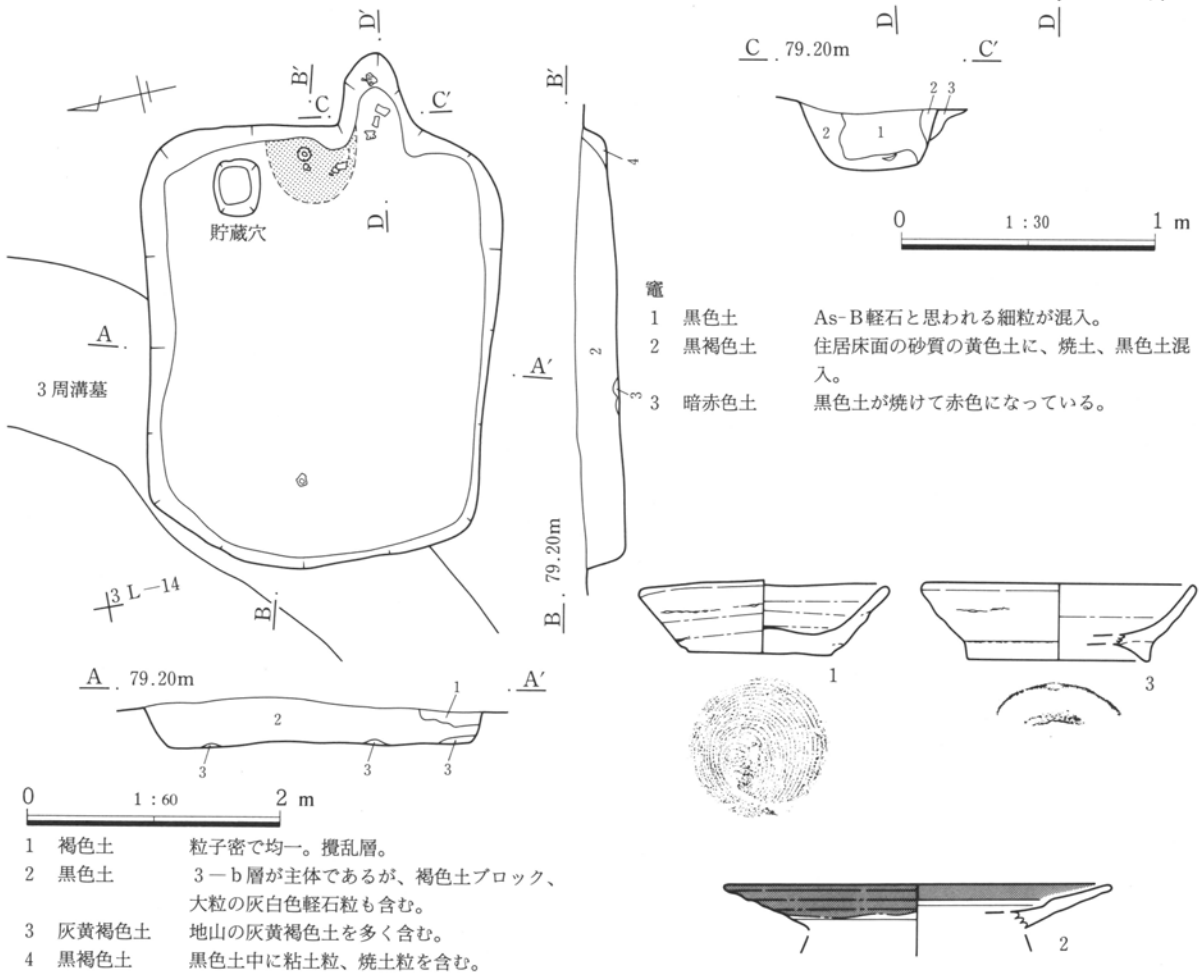
床面 遺構確認面から32cm掘り込んで床面となる。床面は黒褐色土と砂質の灰黄褐色土で造られている。竈の左袖近くに焼土の混入したやや盛り上がった部分が検出された。

貯蔵穴 径39cm、深さ23cmの大きさに住居の北東隅部分、竈の左側に掘り込まれていた。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚口の両袖は石材でなく、黄色粘質土を張り付けて造

られており、住居の東壁面より僅かに張り出している。燃焼部内から土器片が4点出土した。これらの土器片を支脚として使用したものと思われる。燃焼部の先に焼土粒が良く残っていた。両袖方向33cm、煙道方向79cmを測る。

**遺物** 須恵器、坏、埴、灰釉陶器の段皿の一部が出土。上記の竈左袖近くの盛り上がった箇所の中から完形の須恵器坏が出土した。



第141図 A区5号住居跡、竈、出土遺物

A区 5号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	完形 口径7.8 器高2.9 底径5.8	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。端部は外側に面をもつ。右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	灰釉陶器 段皿	口縁片 口径(15.4) 器高(1.8) 底径—	覆土	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	直線的に立ち上がる。端部は短く外反する。内側に段をもつ。右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
3	須恵器 埴	口縁部片 口径(10.6) 器高(3.0)底径(3.6)	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。断面が三角に近い高台部。付け高台の埴。ロクロ成形。

A区 6号住居跡 (第142・143図 PL57・58・148)

位置 3 I-16グリッド

重複 住居の北西部分で古墳時代のA区9号住居と重複している。本住居が9号住居を掘り込んで造られている。

形状 東西3.12m、南北3.12m。方形を呈する。

面積 10.37㎡

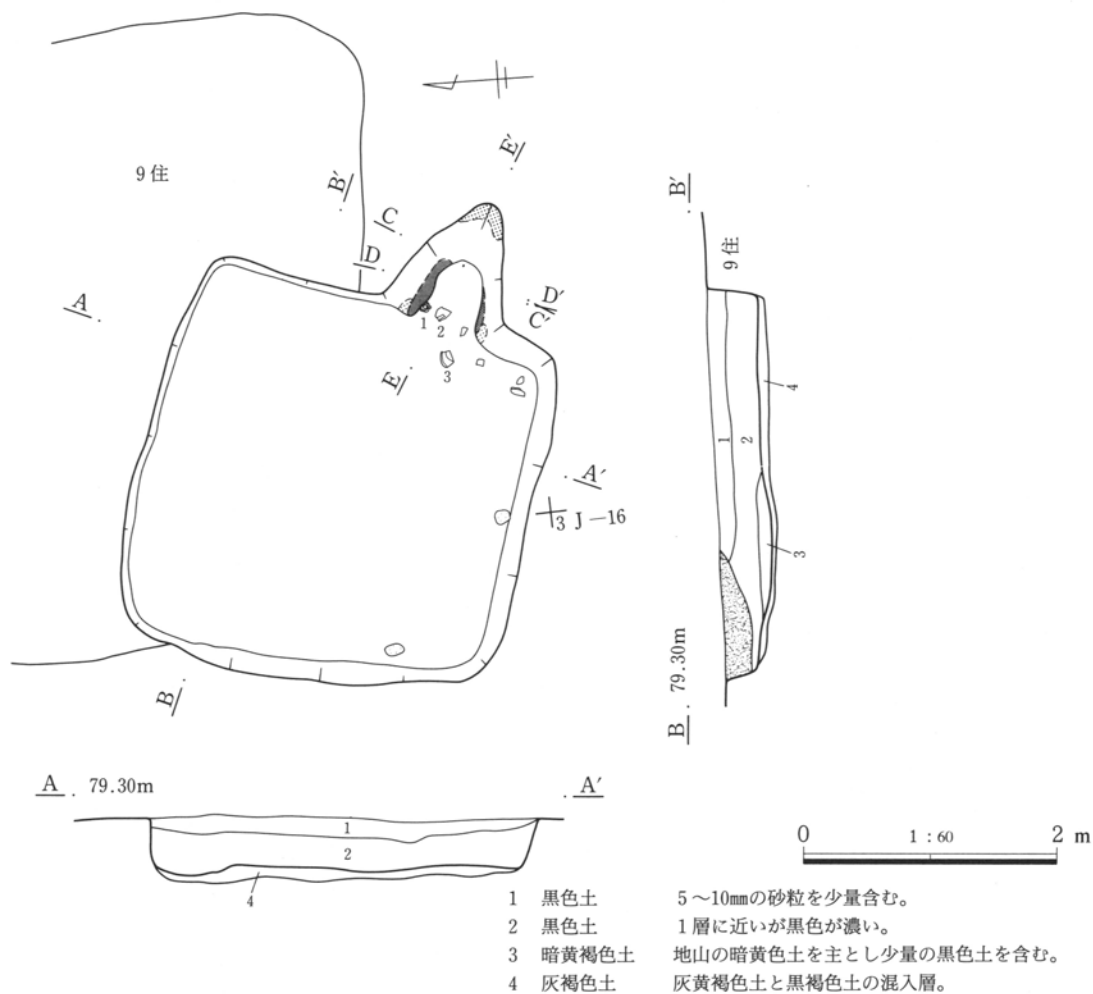
方位 N-113°-E

床面 遺構確認面から38cm掘り込んで床面となる。床面は黒褐色土と砂質の灰黄褐色土で造られている。踏み固められた硬い部分ははっきりしなかった。床下の竈近くに径100cm、深さ9cmの床下土坑と思われる浅い土坑が検出された。また、西壁付近にも径

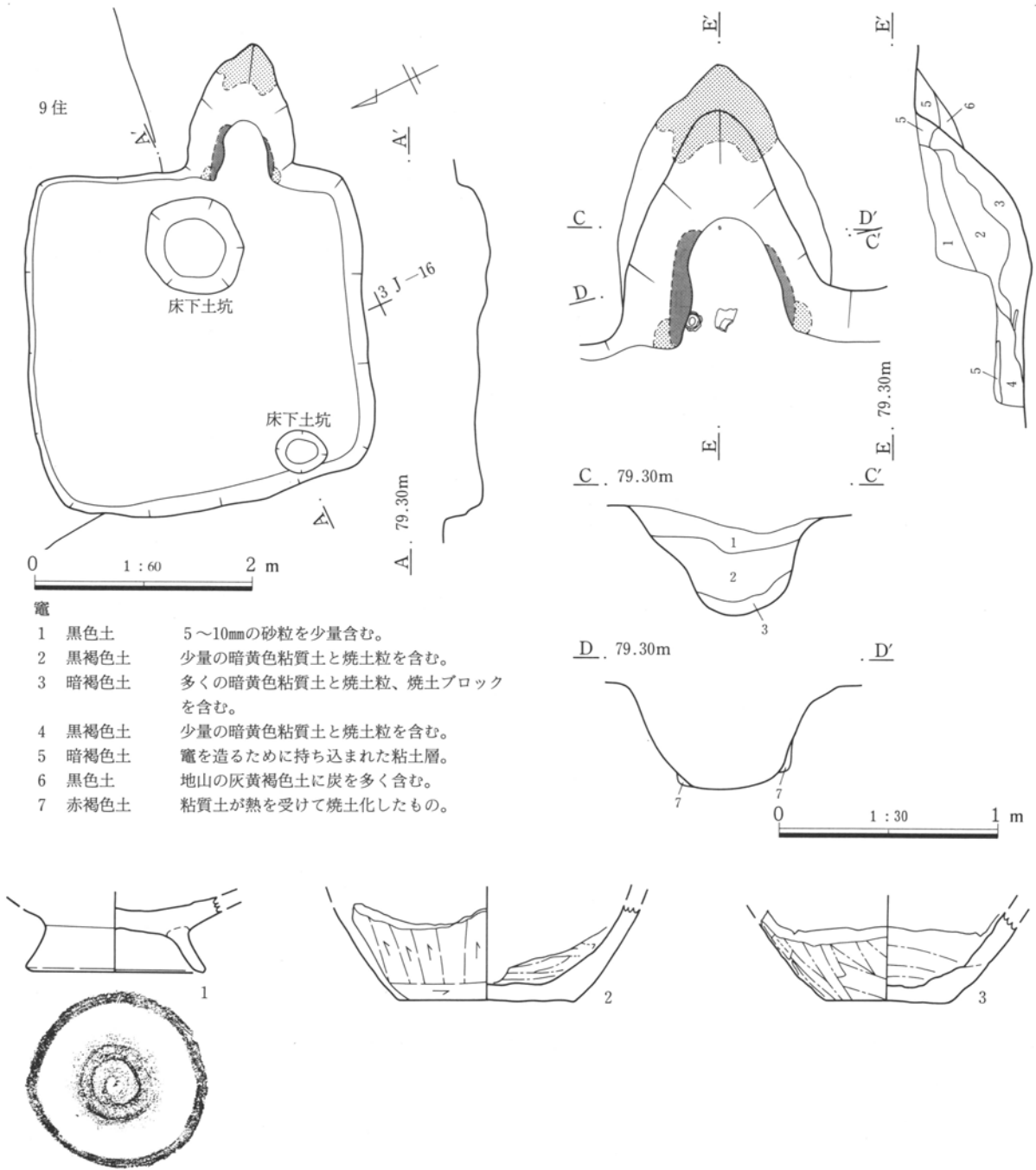
48cm、深さ6cmの同様な土坑が検出された。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚口の両袖は石材ではなく、黄色粘質土を張り付けて造られており、住居の東壁面より僅かに張り出している。燃烧部の内壁には焼土がよく残っていた。竈の前には竈を造るために持ち込まれた暗黄色粘質土が崩れて堆積していた。燃烧部内から土器片が2点出土した。これらの土器片を支脚として使用したものと思われる。両袖方向45cm、煙道方向105cmを測る。

遺物 須恵器壺や土釜、羽釜が出土している。



第142図 A区 6号住居跡



第143図 A区6号住居掘り方、竈、出土遺物

A区 6号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	底~高台部 口径— 器高(3.4) 底径8.0	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	長めの高台。付け高台の埴。
2	土釜又は 羽釜	胴下位~底部 1/3 口径— 器高(5.9) 底径(11.0)	竈	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	底部からやや丸みを帯びて立ち上がる胴部。 外面 胴~底部は篋削り。 内面 ナデ。
3	土釜又は 羽釜	胴下位~底部 1/3 口径— 器高(5.5) 底径(7.5)	+13	①輝石 2~5mmの石 ②酸化焰 硬質 ③明褐色	底部からやや丸みを帯びて立ち上がる胴部。 外面 胴部はナデ。底部は篋削り後ナデか。 内面 ナデ。

A区 7号住居跡 (第144・145図 PL58・59・148)

位置 3K-15グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区2号方形周溝墓の方  
台部上を掘り込んで造られていた。

形状 東西2.76m、南北3.29m。長軸を南北方向に  
もち、隅丸長方形を呈する。

面積 9.27m<sup>2</sup>

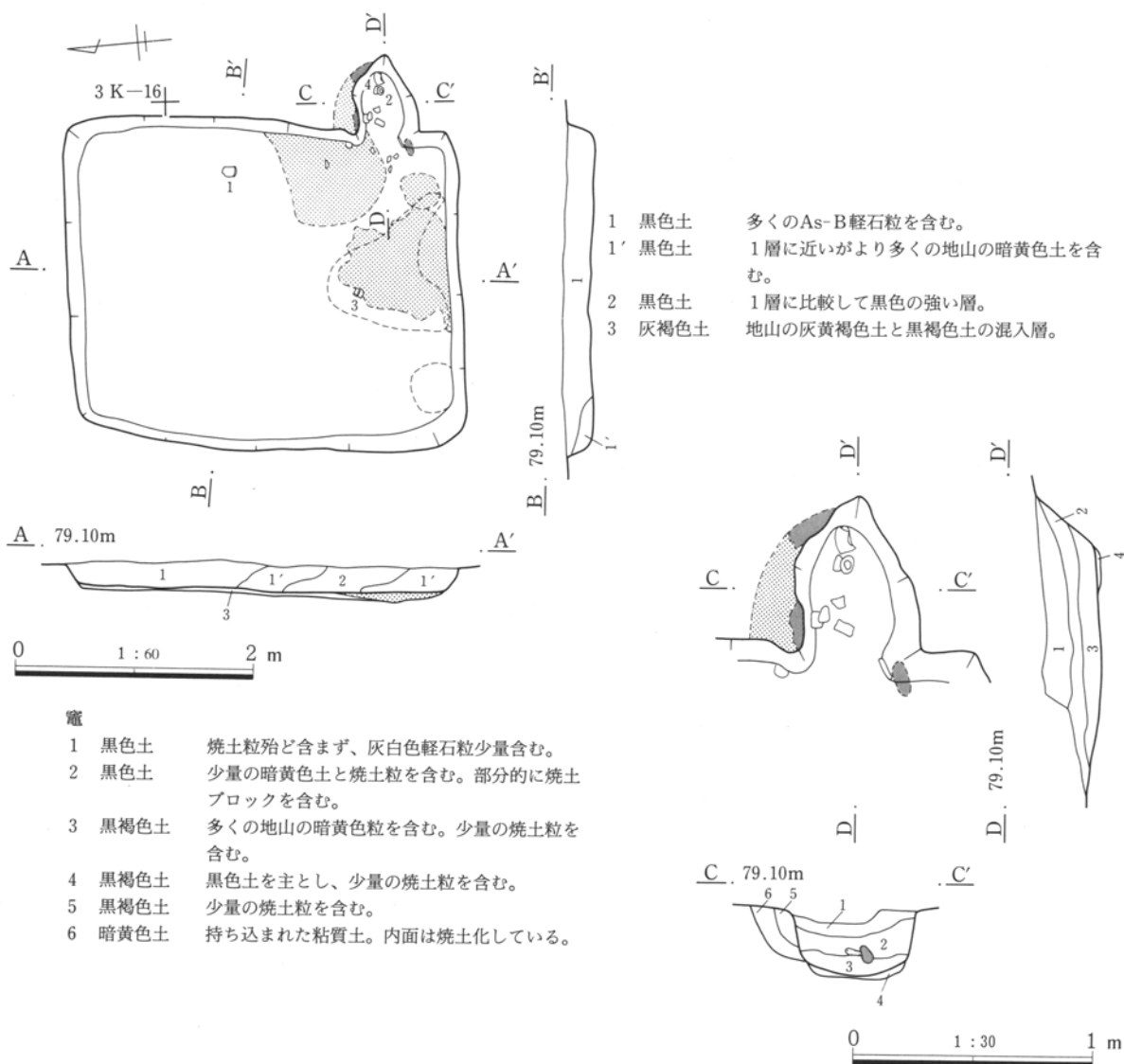
方位 N-94°-E

床面 遺構確認面から25cm掘り込んで床面となる。  
床面は黒褐色土と砂質の灰黄褐色土で造られてい  
る。床下の南壁付近に暗黄色粘質土を踏み固めた硬  
い箇所が検出された。

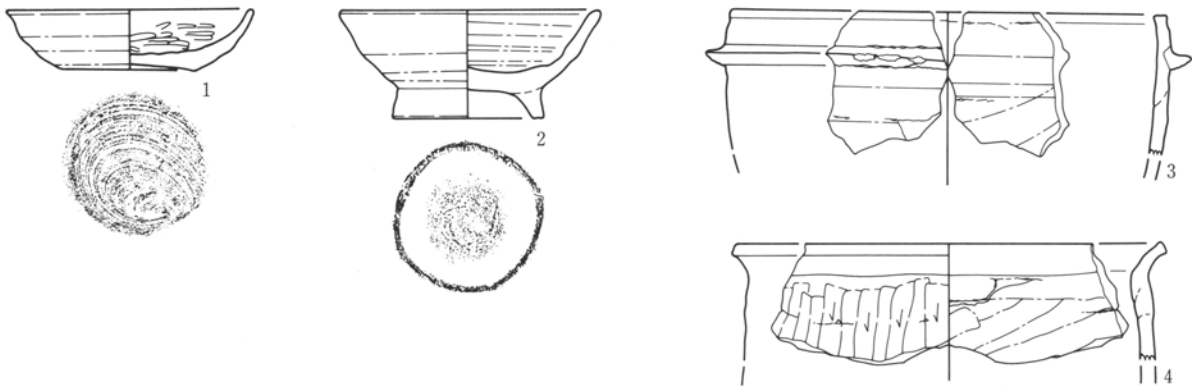
竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚

口の両袖は石材でなく、黄色粘質土を張り付けて造  
られており、左袖部分から竈手前にかけて広い範囲  
で暗黄色粘質土が検出された。左袖部分からは粘質  
土だけでなく、焼土粒も確認された。竈から離れた  
部分にある粘質土には焼土が見あたらなかった。  
よって、これらの粘質土のすべてが竈の構築材が崩  
れたものとはいえ、竈の構築材とは別のものも  
あったと考えざるを得ない。また、燃焼部内から土  
器片が出土しており、これらの土器片を支脚として  
使用したと思われる。両袖方向28cm、煙道方向  
75cmを測る。

遺物 須恵器坏、埴や土釜、羽釜が出土している。



第144図 A区7号住居跡、竈



第145図 A区7号住居跡出土遺物

A区 7号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	2/3 口径(6.7) 器高2.5 底径5.2	+7	①輝石 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がる体部。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。内面は篋磨き調整。
2	須恵器 碗	1/3 口径(10.5) 器高4.2 底径6.0	竈	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	やや丸みを帯びて立ち上がる体部。高台端部は下側に面をもつ。 付高台の碗。 右回転ロクロ成形。
3	須恵器 羽釜	口縁部片 口径(23.2) 器高(7.5) 底径—	+8.5	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③灰黄色	銚はやや上向きに付けられている。やや内湾する口縁。 右回転ロクロ成形。
4	土師器 土釜	口縁部片 口径(22.6) 器高(6.2) 底径—	竈	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部から短く外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。頸部以下は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。頸部以下はナデ。

A区 8号住居跡 (第146・147図 PL59・148・149)

位置 3M-15グリッド

重複 本住居は古墳時代の耕作溝を掘り込んで造られている。

形状 東西3.45m、南北3.48m。隅丸方形を呈する。

面積 11.85㎡

方位 N-79°-E

床面 遺構確認面から30cm掘り込んで床面となる。床面は黒褐色土と砂質の灰黄褐色土で造られている。床下の竈手前付近から南西コーナーにかけて踏み固められた硬い部分が検出された。更にその下に椀状に暗黄色粘質土を塗り込めたような浅い床下土坑と思われるものが見つかった。

ピット 西壁付近にピット1が、北壁付近にピット2が検出された。ピット1は径38cm、深さ27cmで埋没土は黒色土に地山の灰黄褐色土を混入した土であった。ピット2は径76cm、深さ20cmで覆土は地山の灰黄褐色土を中心にした砂質土であった。

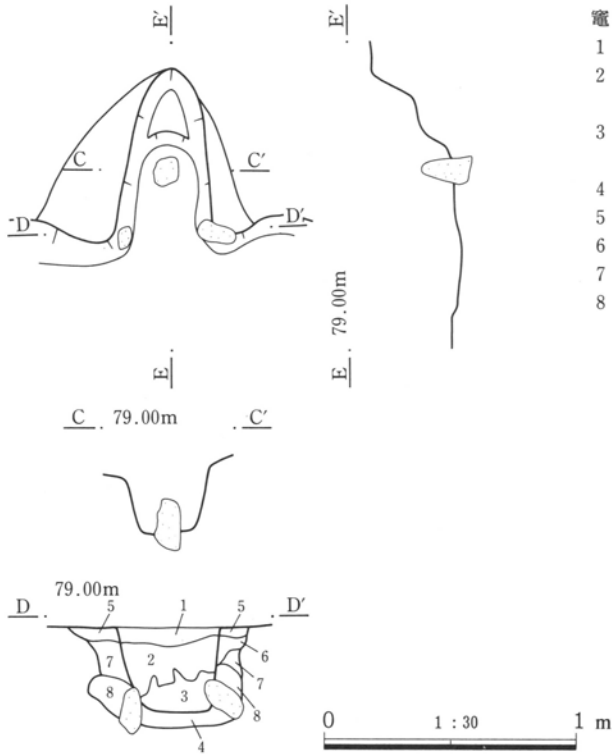
竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚口の右袖には21.5cm×10.6cm×10.1cm、重さ3,300gの砂岩、左袖には9.0cm×12.8cm×9.2cm、重さ1,350gの二ツ岳軽石の石を置き、暗黄色粘質土で補強をしているように地山を削り、張り付けて造られている。また、支脚にも19.2cm×13.6cm×9.0cm、重さ2,450gの粗粒輝石安山岩の石を使用している。焼土は燃焼部左壁面によく見られた。竈の左側部分に粘質土が多く見られた。両袖方向26cm、煙道方向74cmを測る。

遺物 須恵器坏が出土している。覆土中から4.6cm×3.3cm×5.8cm、重さ40gの鉄滓も出土している。

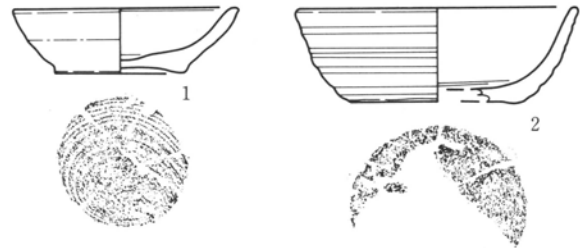




2. 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 竈
- 1 黒色土 少量の灰白色軽石粒と粘質土を含む。
  - 2 黒色土 1層より多くの灰白色軽石粒を含む。粘質土はほとんど含まず。
  - 3 暗黄色土 竈天井部分が崩壊した層。天井下部にあたる部分が焼土化している。
  - 4 黒褐色土 地山の灰褐色土を含む焼土粒をわずかに含む。
  - 5 黒褐色土 1層に近いが、1層よりも粘質土を多く含む。
  - 6 黄褐色土 3層よりも褐色が強い。焼土粒含まず。
  - 7 灰褐色土 地山の灰褐色土を多く含む。
  - 8 灰白色土 竈を造る部分を掘り込んで粘土を埋めたと思われる粘土層。



第147図 A区8号住居跡竈、出土遺物

A区 8号住居

番号	器種	残存量 (cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口縁～底部 2/3 口径8.9 器高2.6 底径5.1	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	丸みを帯びて立ち上がる体部。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/2 口径(11.0) 器高3.7 底径 (6.8)	+9	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	丸みを帯びて立ち上がる体部。 右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。

A区 11号住居跡 (第148・149図 PL60・149)

位置 4A-17グリッド

重複 本住居は縄文時代のA区26号住居を掘り込んで造られている。

形状 東西2.93m、南北3.25m。長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 9.50m<sup>2</sup>

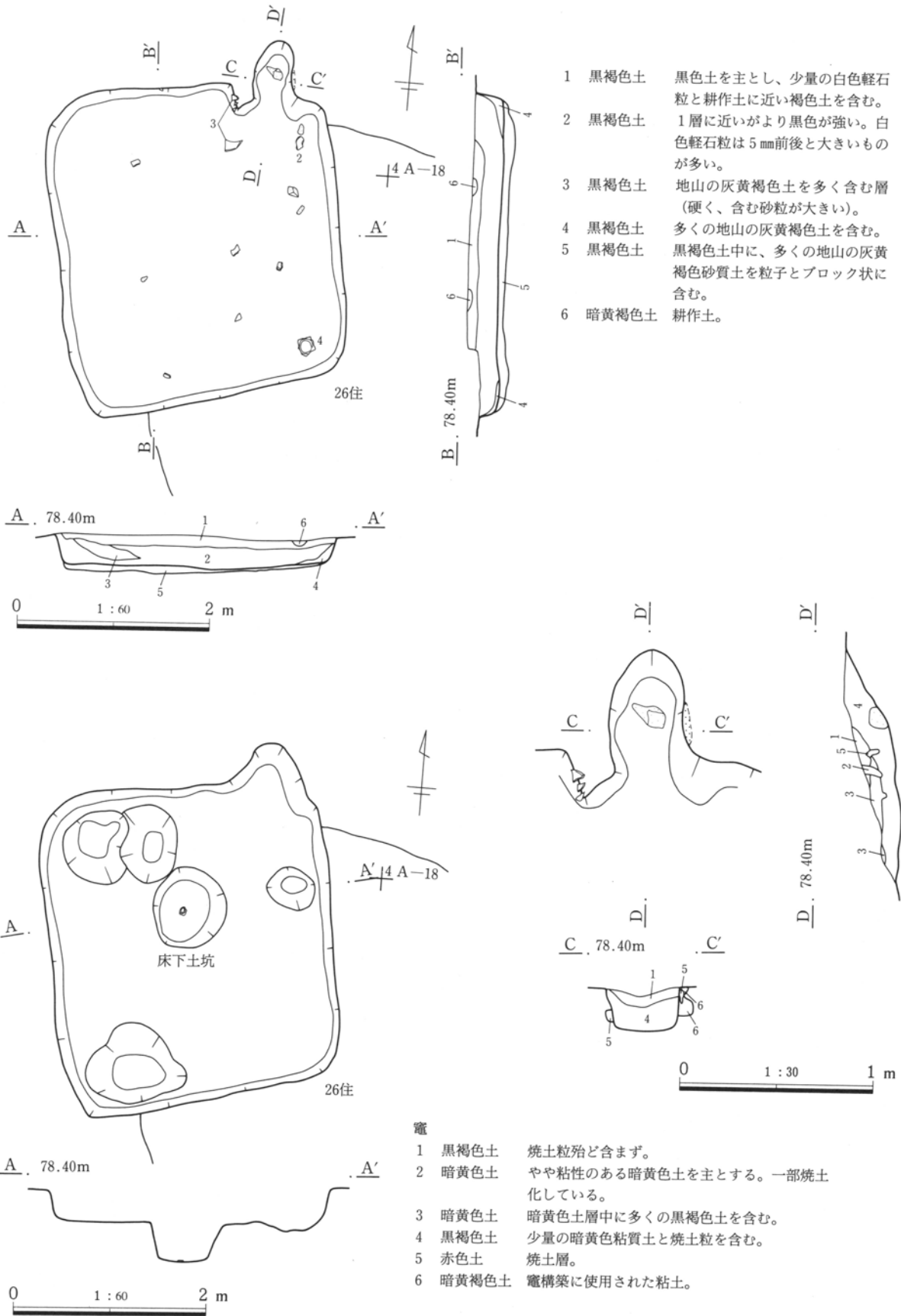
方位 N-6°-W

床面 遺構確認面から30cm掘り込んで床面となる。床面は黒褐色土と砂質の灰黄褐色土で造られている。住居中央部の床下に径85cm、深さ40cmの床下土坑と思われるものが検出された。

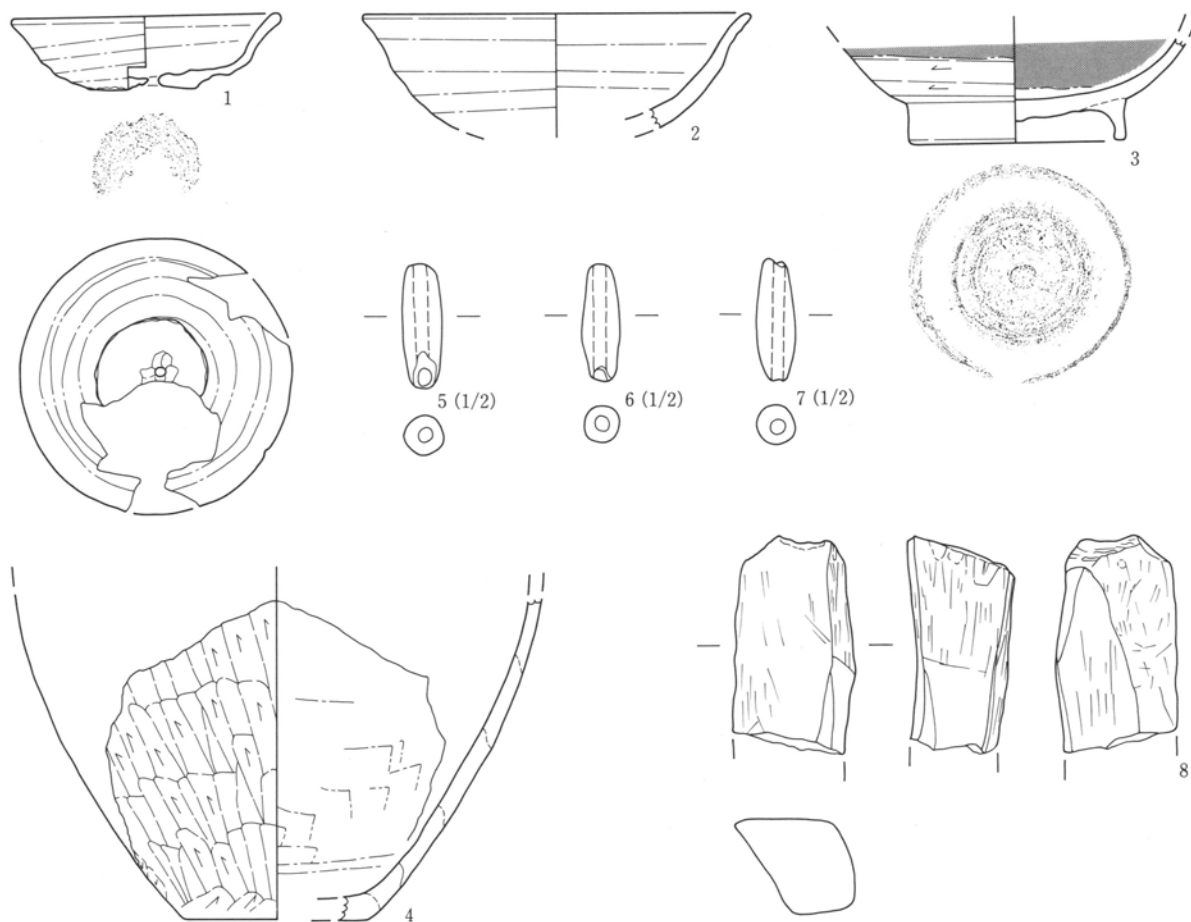
竈 本遺跡では数軒しか例がないが、北壁面の東寄りを掘り込んで竈が造られている。焚口の両袖は石

材でなく、暗黄色粘質土と黒褐色土の混ざったものを張り付けて造られている。支脚には16.0cm×11.4cm×10.0cm、重さ1,200gの未固結凝灰岩の石が使用されている。火を受けて、脆くなっていた。両袖方向22cm、煙道方向81cmを測る。

遺物 須恵器坏、灰釉陶器塊、土釜、砥石、土錘が出土している。



第148図 A区11号住居跡、掘り方、竈

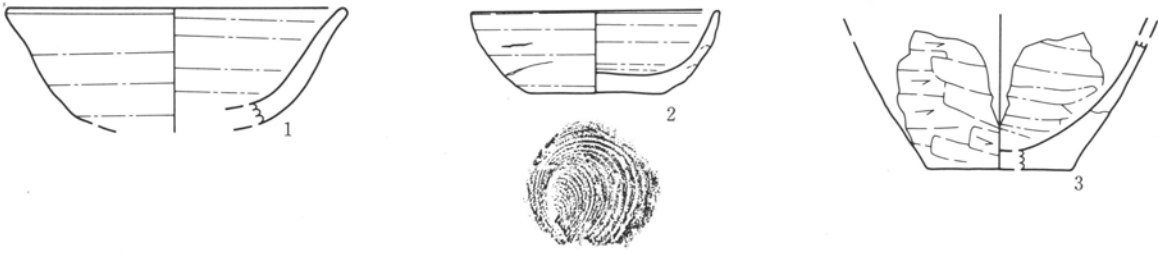


第149図 A区11号住居跡出土遺物

A区 11号住居

番号	器種	残存法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調 (石 材)	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口縁～底部 2/3 口径10.6 器高2.9 底径 4.3	覆土	①輝石 軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	腰部が張り、口縁部が外反する。底部穿孔。 右回転ロクロ成形。
2	須恵器 坏	口縁～体部片 口径(15.2) 器高(4.8) 底径—	+7	①石英 3～5mmの石 ②酸化焰。軟質 ③橙色	腰部が張り、口縁部が外反する。 右回転ロクロ成形。
3	灰釉陶 器塊	体～底部 口径— 器高(4.6) 底径8.6	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	丸みを帯びて立ち上がる体部。内湾する付け高台。 右回転ロクロ成形。底部は回転篋削り調整。施釉方法は漬け掛け。 釉薬は乳白色。
4	土師器 土釜	胴～底部 1/3 口径— 器高(17.0) 底径10.0	+12.5	①粗砂 ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	底部から丸みを帯びて立ち上がる胴部。 外面 篋削り。 内面 篋ナデ。
5	土製品 土錘	ほぼ完形 縦 3.4 横 1.0 厚さ1.1	覆土		やや中央部が膨らむ管状土錘。
6	土製品 土錘	完形 縦 3.1 横 1.0 厚さ1.0	覆土		やや中央部が膨らむ管状土錘。
7	土製品 土錘	ほぼ完形 縦 3.3 横 1.0 厚さ1.0	覆土		やや中央部が膨らむ管状土錘。
8	石製品 砥石	欠損部多し 長さ(8.6) 幅 4.8 厚さ 4.3 重さ146	覆土	流紋岩	原型は直方体と思われるが欠損部多し。使用面は4面。いずれの面も砥ぎ減りのため、歪みが目立つ。





第151図 A区21号住居跡出土遺物

A区 21号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 壺	口縁～体部 1/3 口径(13.4) 器高(4.5) 底径—	床直	①輝石 細砂 ②還元焰 硬質 ③灰白色	腰部が張り、口縁がやや外反する。 右回転ロクロ成形。
2	須恵器 坏	1/2 口径9.9 器高3.2 底径5.2	覆土	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる体部。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
3	土師器 土釜	底部片 口径— 器高(6.8) 底径(7.6)	竈	①石英 粗砂 ②酸化焰 やや軟質 ③明赤褐色	底部からやや丸みを帯びて立ち上がる胴部。 外面 篋削り。 内面 篋ナデ。

A区 33号住居跡 (第152・153図 PL61・62・149)

位置 7T-1グリッド

形状 東西2.70m、南北2.62mを測り、ほぼ方形を呈する。

面積 7.11㎡

方位 N-66°-E

床面 圃場整備により、削平されており、残りの良いところで遺構確認面から11cm掘り込んで床面となる。床面は1～2mm前後の軽石粒を含む黒色土と砂質の灰黄褐色土で造られている。床高は77.95mを測る。硬く踏み固められた部分は確認できなかった。

貯蔵穴 住居の北壁東寄りに、径41cm、深さ15cmの貯蔵穴1が検出された。住居の北壁中央寄りに、長径76cm・短径38cm、深さ17cmの貯蔵穴2が検出された。住居南西コーナーに径46cm、深さ21cmの貯蔵穴3が検出された。覆土はいずれも灰白色軽石粒を含む黒色土であった。

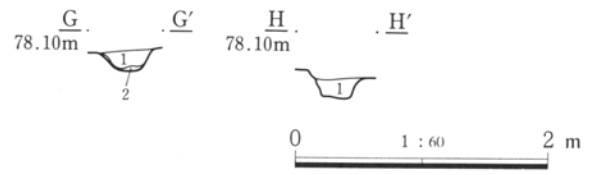
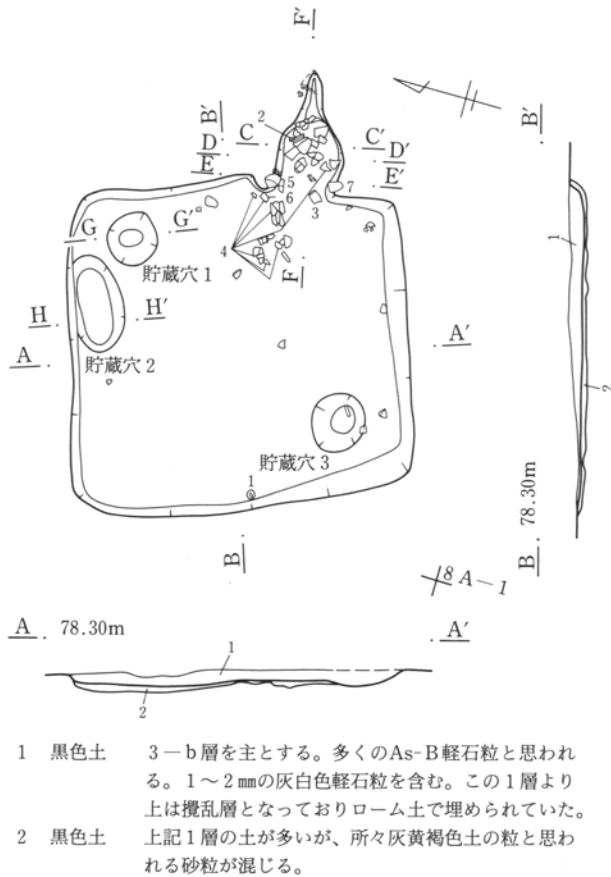
竈 東壁面の南寄りを掘り込んで竈が造られている。焚口の右袖に(19.2)cm×15.5cm×(12.1)cm、重さ3,623gで粗粒輝石安山岩。左袖に25.2cm×12.3cm×9.2cm、重さ4,250g、石英閃緑岩の石を使用していた。燃焼部から支脚に使用したと思われる21.4

cm×14.3cm×8.3cm、重さ3,250g、粗粒輝石安山岩がやや傾いた状態で出土した。これらの石材はいずれも割られており、竈の石材として加工した可能性がある。また、燃焼部内からは土釜の破片が数多く検出された。燃焼部は円形に近い形をしており、煙道は細い。燃焼部壁面の焼土はあまり多くなかった。両袖方向45cm、煙道方向100cmを測る。

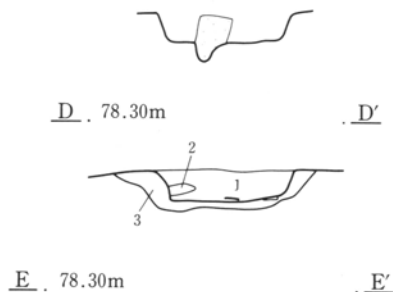
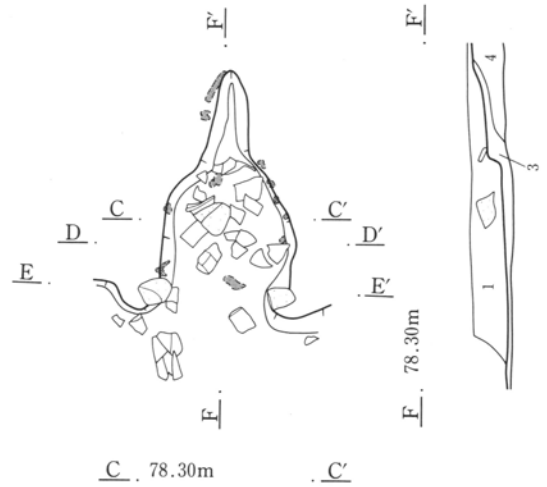
遺物 須恵器壺、土釜が出土している。

備考 本住居は平成9年度に南西コーナー部分のみ発掘調査を行った。平成10年度になり、北側部分を拡張して、本住居の調査を行った。

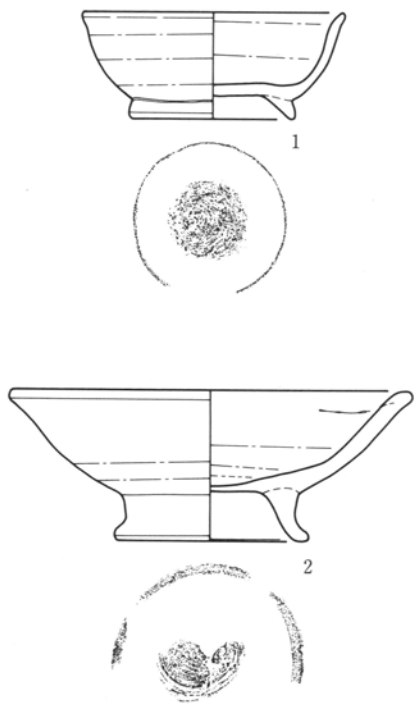
第3章 検出された遺構と遺物



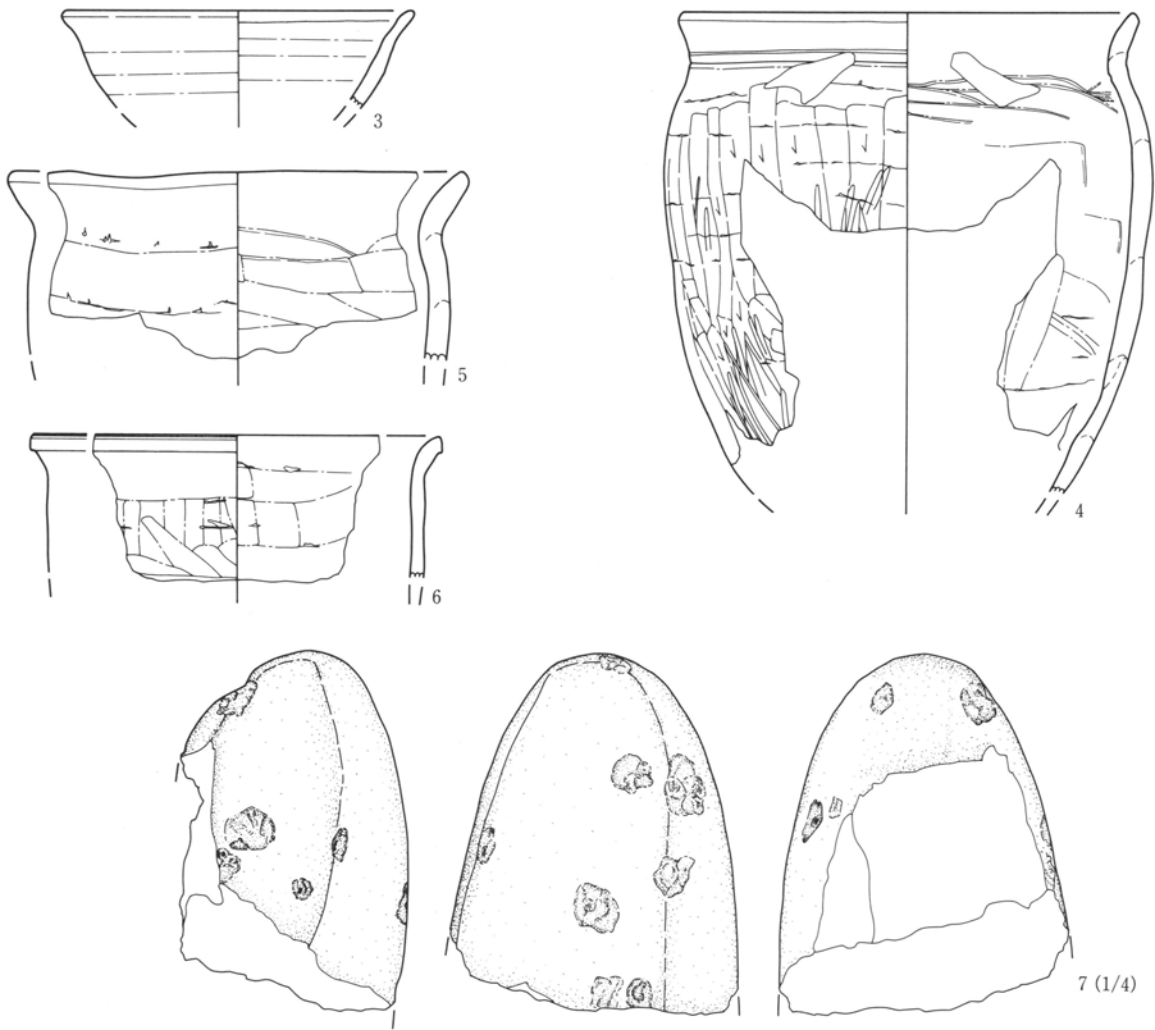
貯蔵穴  
 1 黒色土 3-b層を主とした層。1~2mmの灰白色軽石粒を多く含む。  
 2 黒色土 1層に近い。やや多くの灰黄褐色土(4-d層)を多く含む。



竈  
 1 暗灰褐色土 1~2mmの灰白色軽石粒を多く含む。少量の焼土粒を含む。  
 2 灰黄褐色土 4-d層に相当する土をブロック状に含む。  
 3 灰黄褐色土 少量の焼土粒とロームブロックを含む。  
 4 灰黄褐色土 1~2mmの灰白色軽石粒と灰色砂層を少量含む。一部焼土化している部分がある。  
 5 明黄褐色土 4-c層に相当すると思われる固い層。



第152図 A区33号住居跡、竈、出土遺物(1)



第153図 A区33号住居跡出土遺物(2)

A区 33号住居

番号	器種	残存法量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調(石材)	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	口～高台部 1/3 口径(10.4) 器高 4.2 底径6.2	床直	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部が張り、外反する口縁。外傾する付け高台の埴。右回転ロクロ成形。
2	須恵器 埴	口～高台部 1/5 口径(15.7) 器高 6.0 底径7.6	床直	①石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部が直線的で、外反する口縁。端部で短く外反する付け高台の埴。右回転ロクロ成形。
3	須恵器 埴	口縁部片 口径(13.7) 器高 (3.8) 底径—	床直	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	腰部が張り、外反する口縁。右回転ロクロ成形。
4	土師器 土釜	口～胴部 1/3 口径(23.8) 器高(25.5) 底径—	床直	①輝石 細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	くの字よりも直立気味に立ちあがる口縁。丸みを帯びている胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部は無調整。以下胴部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋ナデ。
5	土師器 土釜	口～頸部片 口径(17.8) 器高 (7.3) 底径—	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部から外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。頸部はナデか(無調整に近い)。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
6	土師器 土釜	口～胴上部片 口径(21.5) 器高(7.5)底径—	床直	①石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 ナデ。 内面 ナデ。
7	右袖石	長さ(19.2) 幅 15.5 厚さ(12.1) 重さ3,623	床直	粗粒輝石安山岩	縄文時代の石棒の転用と思われる。砲弾形で一部欠損している。火を受け、変色した箇所あり。



A区 38号住居跡 (第154図 PL62)

位置 8C-1グリッド

重複 本住居の竈付近が古墳時代のA区31号住居を掘り込んでいる。

形状 圃場整備による削平のため、形状を把握しづらかった。ほぼ方形を呈する。東西2.79m、南北2.9mを測る。

面積 8.31m<sup>2</sup>

方位 N-95°-E

床面 床面が殆ど残っておらず、掘り方の調査で住居範囲を確認した。掘り方面の高さは77.75mを測る。

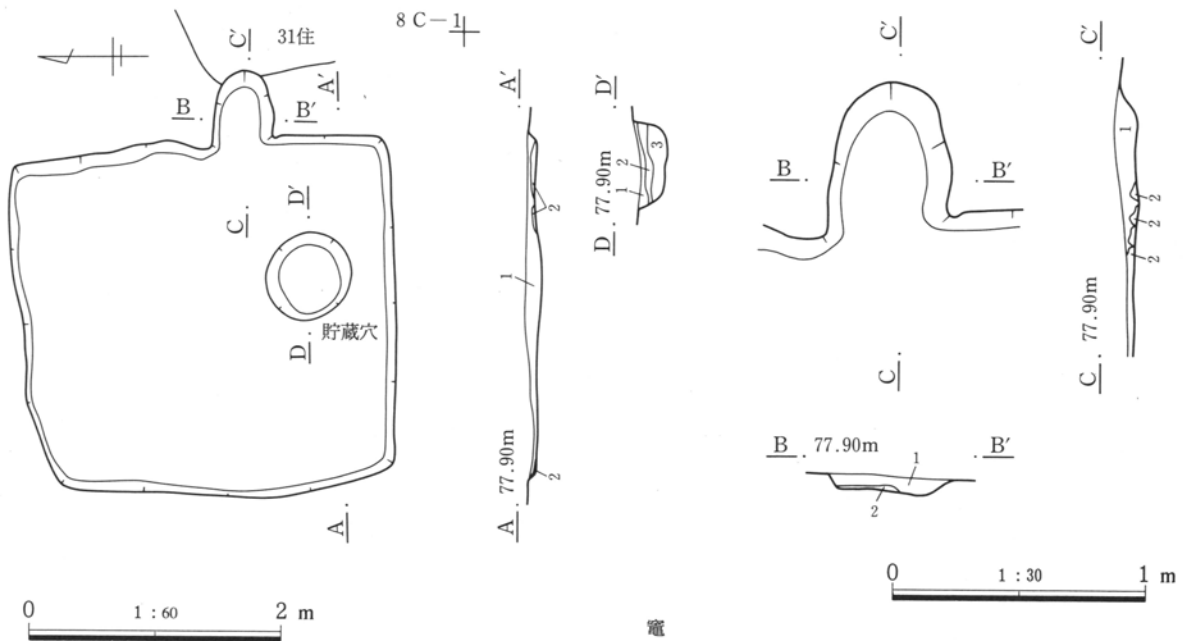
貯蔵穴 住居の南壁東寄りに、径69cm、深さ24cmの貯蔵穴が検出された。覆土は砂質の灰黄褐色土が主

とした土であった。砂質の土層であったが、非常に硬かった。

竈 東壁面の南寄りに竈が検出された。前述したように、住居全体の残りが悪く、竈も削平されていた。焼土粒が少なく、竈と認めるには若干疑問が残る。また、竈の構築材の石材や粘質土あるいは土器片も検出できなかった。燃焼部は円形に近い形をしており、両袖方向34cm、煙道方向61cmを測る。

遺物 土釜、羽釜の破片が出土。

備考 本住居は平成9年度に南西コーナー部分のみ発掘調査を行った。平成10年度になり、北側部分を拡張して、本住居の調査を行った。



0 1:60 2 m

0 1:30 1 m

- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 灰白色の細かい粒が多く入りこんでいる。橙色の粒も見える。
  - 2 暗褐色土 上位の黒褐色土と下位の灰褐色土の混じりと思われる。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 灰褐色土を多く含む黒褐色土。
- 2 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土(4-d層)を主とした層。砂質で固い。
- 3 暗灰褐色土 暗褐色土を主とし、多くの灰黄褐色土を含む。

竈

- 1 黒色土 3-b層を主とした層。1~2mmの灰白色(As-B軽石粒)を多く含む。
- 2 灰黄褐色土 地山の4-d層に近い。固い層である。

第154図 A区38号住居跡、竈

A区 39号住居跡 (第155・156図 PL63・150)

位置 3G-15グリッド

重複 本住居の南壁中央部を近世のA区36号土坑が掘り込んでいる。

形状 東西3.37m、南北4.12m。長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 13.46m<sup>2</sup>

方位 N-91°-E

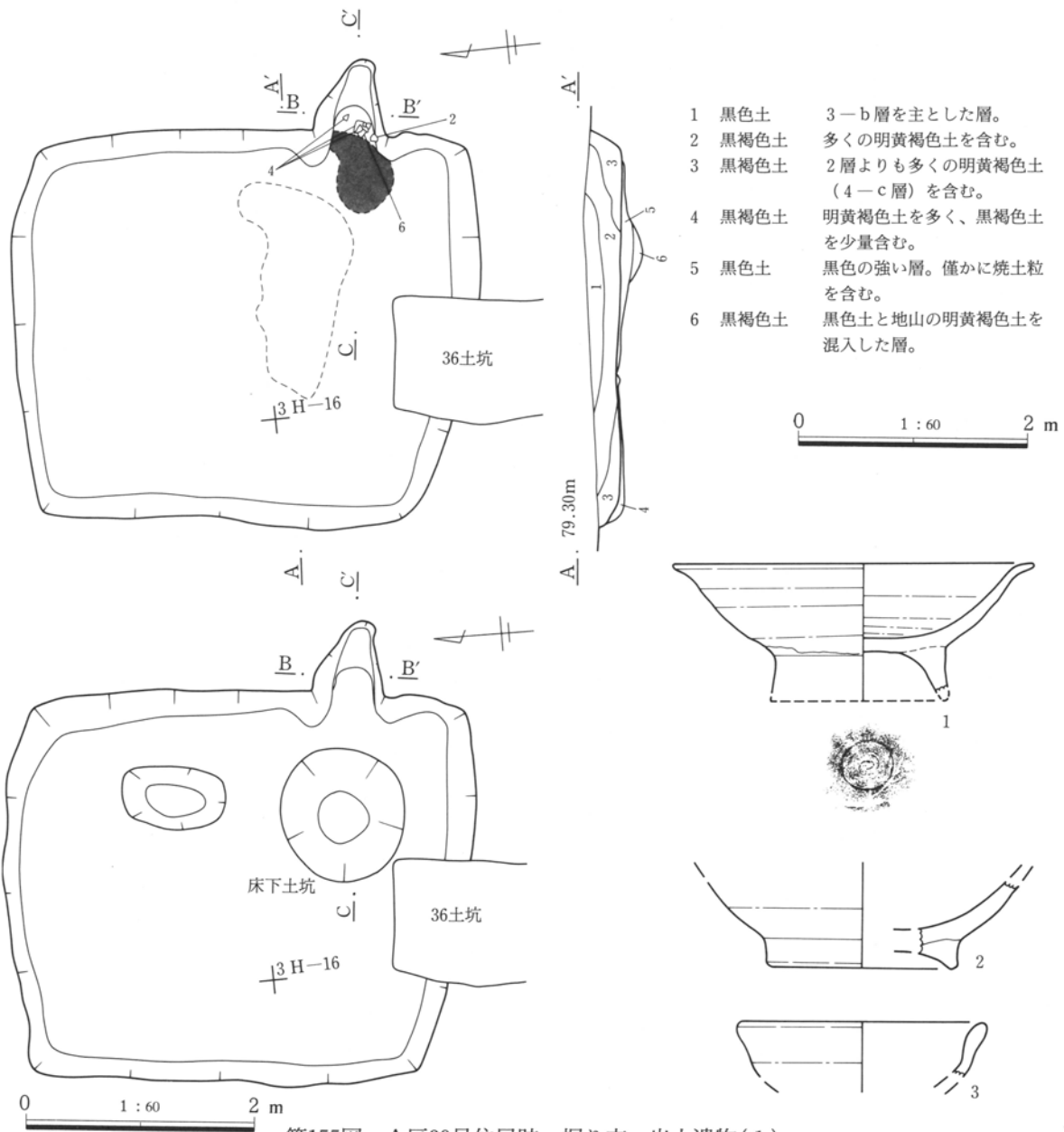
床面 遺構確認面から29cm掘り込んで床面になる。

床高は78.95mを測る。床面は黒褐色土に地山の明黄褐色土を含む土でできている。竈の焚口付近には炭

混じりで踏み固められたような箇所があった。また、住居の中央部から、踏み固められた床面が検出された。竈の前の床下からは、黒色土に焼土粒を含む土坑状のものが検出された。

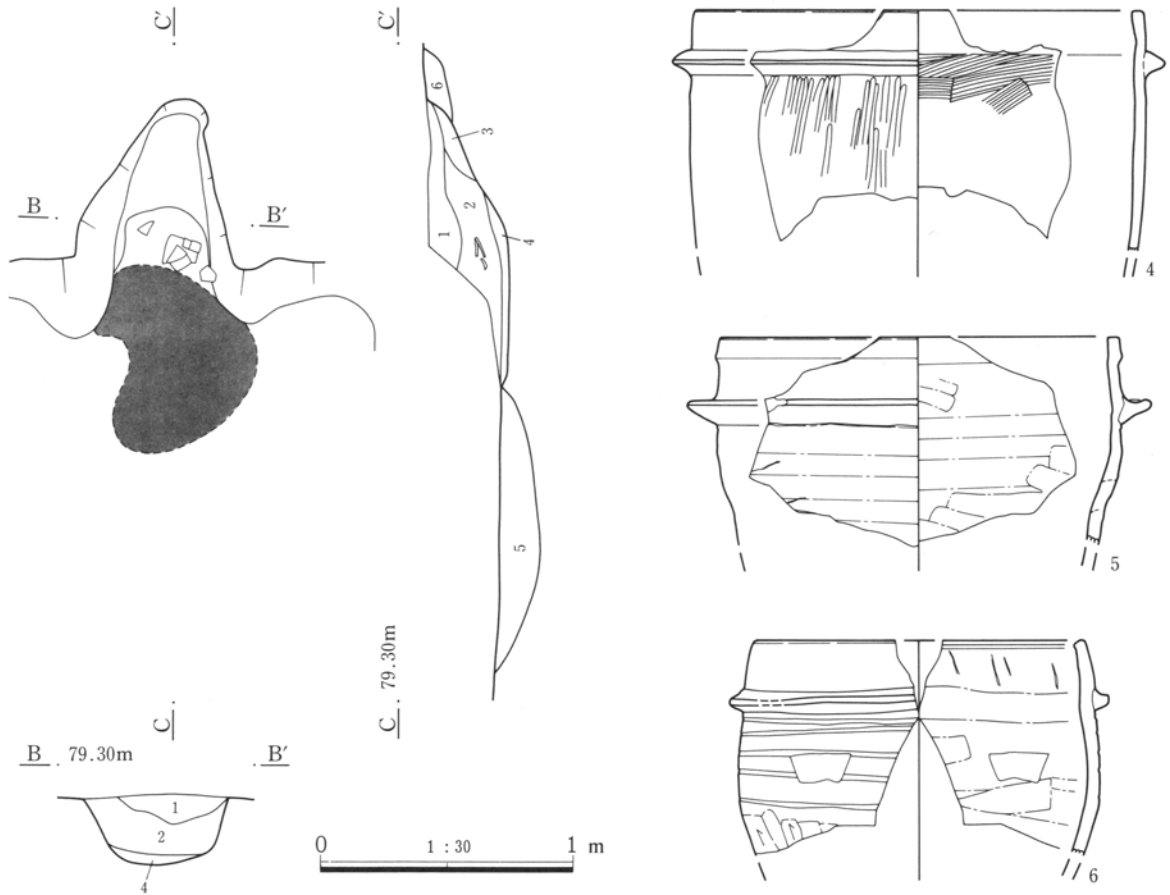
竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。焚口の両袖及び支脚に石材や粘質土を使用しておらず、燃焼部内から土器片が検出された。燃焼部は両袖方向38cm、煙道方向91cmを測る。

遺物 須恵器の坏、埴、羽釜が出土。



第155図 A区39号住居跡、掘り方、出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



竈

- 1 黒褐色土 多くの褐色土と少量の焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土 褐色土を僅かに含む。少量の焼土粒を含む。
- 3 黒褐色土 2層に近いが、焼土粒殆ど含まず軟質。やや多くの地山の明黄褐色土（4-c層）を含む。
- 4 黒褐色土 多くの地山の明黄褐色土と僅かに焼土粒を含む。
- 5 黒色土 3-b層を主とした層。僅かに焼土粒を含む。
- 6 黒褐色土 少量の焼土粒を含む。

第156図 A区39号住居跡竈、出土遺物(2)

A区 39号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	1/4 口径(15.6) 器高(5.9) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	腰部がやや直線的で、外反する口縁。長めの付け高台の埴。右回転ロクロ成形。
2	須恵器 埴	体下半~高台部1/5 口径— 器高(3.9) 底径(7.8)	竈	①緻密 ②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	丸みを帯びて立ち上がる体部。断面が三角形に近い付け高台の埴。右回転ロクロ成形。
3	須恵器 坏	口縁部1/3 口径(10.4) 器高(2.4) 底径—	覆土	①軽石 ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	腰部が張り、外反する口縁。端部は丸く厚手である。右回転ロクロ成形。
4	羽釜	口~胴上部1/4 口径(24.7) 器高(12.7) 底径—	竈	①輝石 粗砂 石英 ②酸化焰 軟質 ③赤褐色	鑄の断面は三角形。口縁はやや内湾する。 外面 口縁は横ナデ。以下篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。
5	羽釜	口~胴上部1/6 口径(21.2) 器高(11.9) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	鑄が上方にのびる。口縁は直立気味。 左回転ロクロ成形。内面はナデ調整。
6	羽釜	口~胴上部1/5 口径(17.2) 器高(11.3) 底径—	竈	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	鑄が短い。口縁はやや内湾する。 外面 胴中位に篋削り痕。 内面 篋ナデ。

A区 42号住居跡 (第157・158図 PL63・64・150)

位置 3 B-11グリッド

重複 本住居の北壁付近を近世の耕作痕が掘り込んでいる。

形状 東西4.21m、南北2.94m。長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 12.21㎡

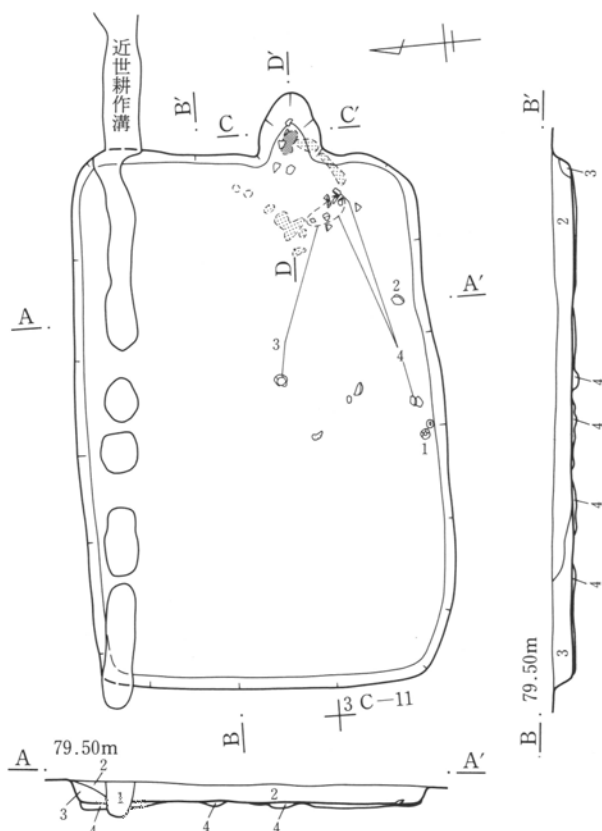
方位 N-13°-E

床面 遺構確認面から13cm掘り込んで床面になる。床高は79.25mを測る。床面は黒褐色土に地山の明黄褐色土を含む土でできている。踏み固められた硬い床面は検出できなかった。

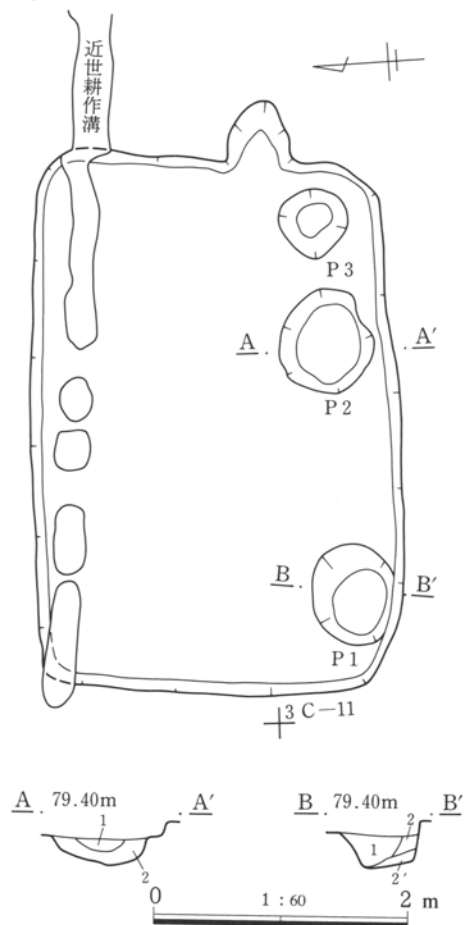
ピット 南壁の床面からピットが3基検出された。ピット1は径78cm、深さ28cm。ピット2は径81cm、深さ21cm。ピット3は径55cm、深さ8cmを測る。覆土は黒褐色土に地山の明黄褐色土を含む土である。ピット3からは須恵器の埴の破片が出土した。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。焚口の両袖及び支脚に石材を使用しておらず、両袖には粘質土を張り付けて造られていた。燃焼部中央付近に焼土の塊があり、その上に土器片が検出された。燃焼部は両袖方向34cm、煙道方向56cmを測る。

遺物 須恵器のほぼ完形の坏、須恵器埴、土釜が出土している。



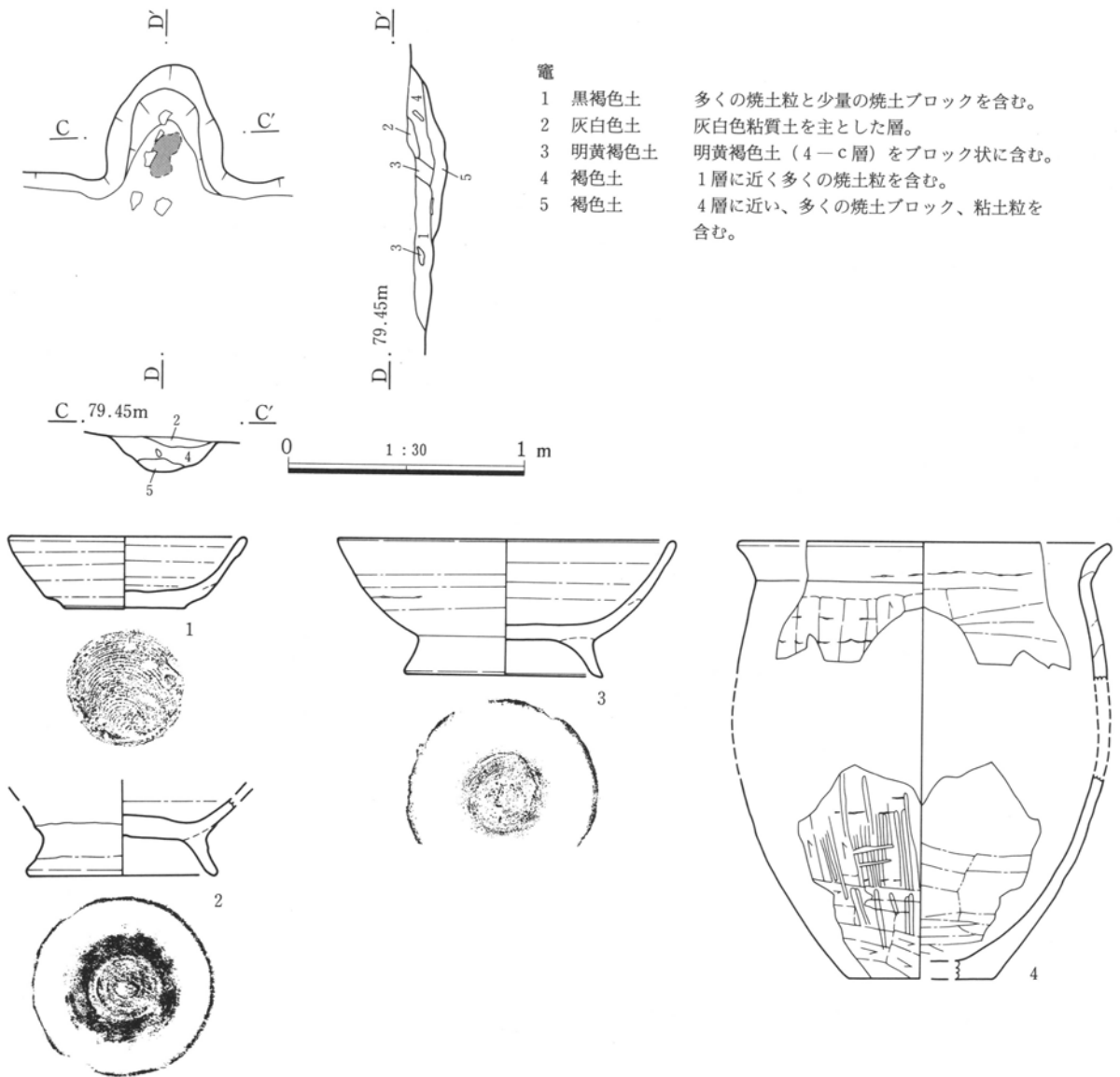
- |            |  |
|------------|--|
| 1. にぶい黄褐色土 | 2-a層と思われる。近世の耕作土。                            |
| 2 黒褐色土     | 3-b層を主とした層。少量の4-c層を小ブロック状に含む。                |
| 3 黒褐色土     | 3-b層を主とした層。多くの4-c層をブロック状に含む。                 |
| 4 黒褐色土     | 3-b層を主とした層。更に多くの4-c層をブロック状に含む。多くの4-c層の粒子を含む。 |



- Pit
- |         |  |
|---------|--|
| 1 黒褐色土  | 3-b層と思われる土を主とし、少量の明黄褐色土4-c層を粒子状に含む。          |
| 2 黒褐色土  | 3-b層と思われる土を主とし、多くの明黄褐色土を、粒子と1~2cmのブロックとして含む。 |
| 2' 黒褐色土 | 2層に近いが、明黄褐色土を含む量が少ない。                        |

第157図 A区42号住居跡、掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



第158図 A区42号住居跡竈、出土遺物

A区 42号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	ほぼ完形 口径10.0 器高 3.0 底径 5.0	床直	①緻密 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。
2	須恵器 碗	体下半～高台部 口径— 器高(3.2) 底径7.8	床直	①細砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	直線的に立ち上がる体部。長めの付け高台の碗。 ロクロ成形。
3	須恵器 碗	口～高台部 口径(14.2) 器高 (5.8) 底径8.4	床直	①緻密 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。長めの付け高台の碗。 ロクロ成形。
4	土師器 土釜	口～胴上部、胴下部 ～底部。接点なし。 口径(21.1) 器高 (24.7) 底径(8.7)	床直	①石英 輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	くの字に外反する口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。胴部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。胴部はナデ。

A区 45号住居跡 (第159・160図 PL64・65・150)

位置 3B-12グリッド

重複 本住居の竈の上部を近世の耕作痕が掘り込んでいる。

形状 東西4.21m、南北3.29m。長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 14.45㎡

方位 N-92°-E

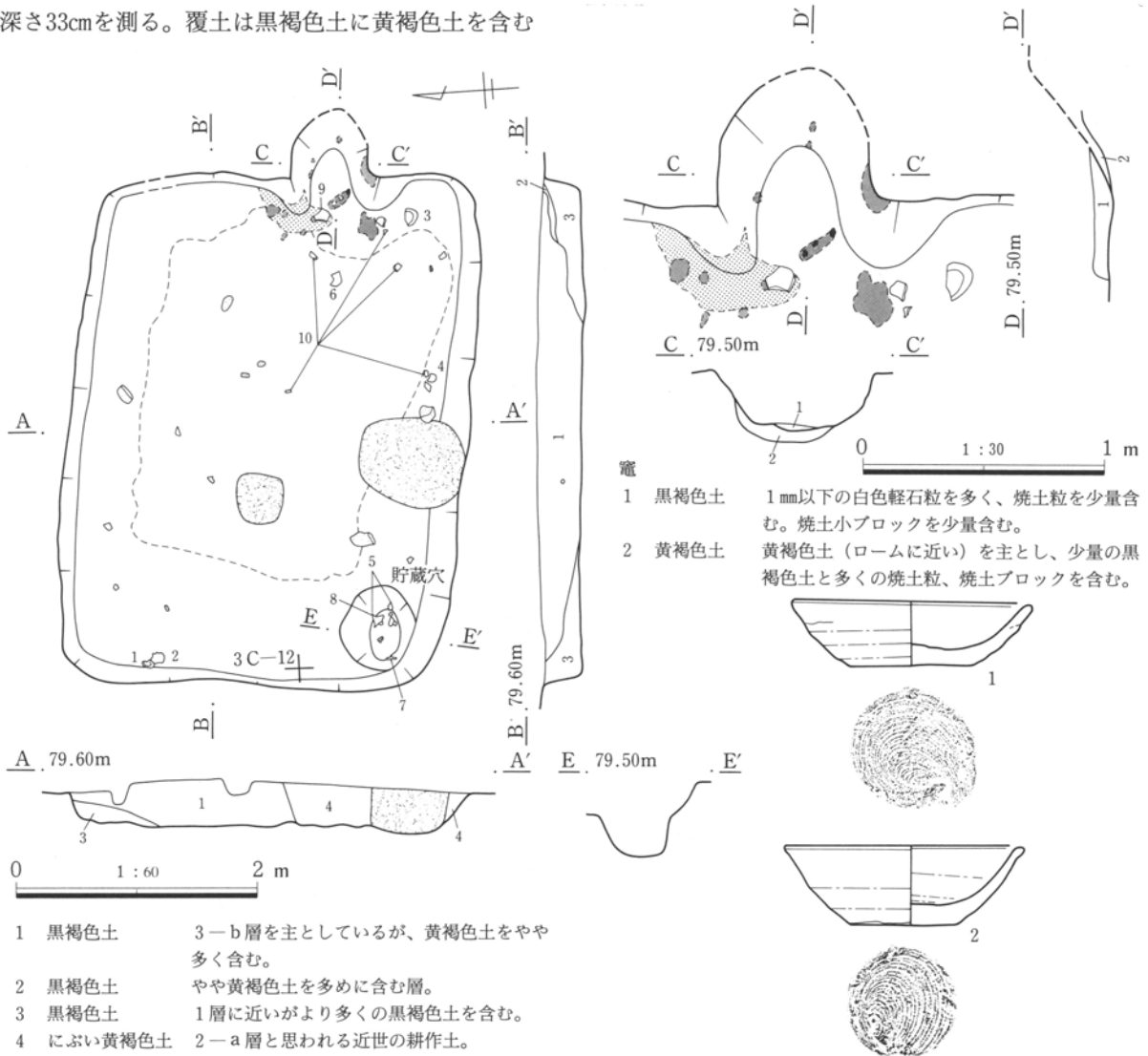
床面 遺構確認面から36cm掘り込んで床面になる。床高は79.15mを測る。床面は黒褐色土にソフトロームに近い黄褐色土を含む土でできている。踏み固められた硬い床面は住居の中央部で検出された。

貯蔵穴 南西コーナー部分から検出された。径68cm、深さ33cmを測る。覆土は黒褐色土に黄褐色土を含む

土である。内部から須恵器の壺や土師器の土釜の破片が出土した。

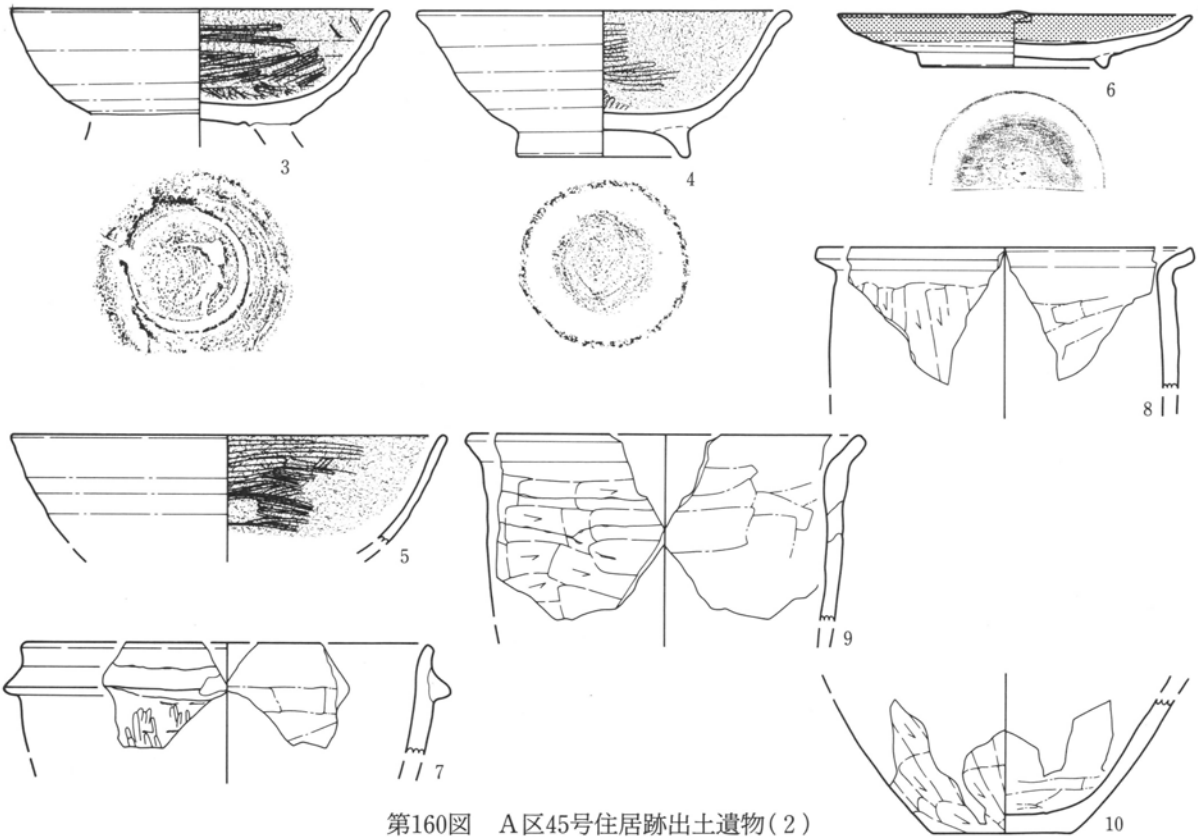
竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。竈の上部を近世の耕作痕に掘り込まれているため、残りがよくない。焚口の両袖、支脚部からは石材は検出されなかった。燃焼部中央に土器片が検出された。燃焼部は両袖方向33cm、煙道方向(85)cmを測る。

遺物 須恵器のほぼ完形の坏、須恵器内黒塊、灰釉陶器高台付皿、土釜、羽釜が出土している。総重量140gの鉄滓が出土した。このうち最大の鉄滓は5.2cm×3.6cm×3.4cm、重さ120gであった。



第159図 A区45号住居跡、竈、出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第160図 A区45号住居跡出土遺物(2)

A区 45号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	ほぼ完形 口径10.0 器高2.6 底径5.1	床直	①角閃石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	須恵器 坏	2/3 口径9.8 器高3.2 底径4.4	+8	①緻密 角閃石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	やや丸みを帯びて立ち上がり、口縁が短く外反する。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
3	須恵器 碗	高台部欠1/2 口径15.1 器高5.2 底径—	+15	①細砂 軽石 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③明黄褐色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。内面は黒色処理、篋磨き。
4	須恵器 碗	1/5 口径(14.6) 器高5.8 底径6.9	床直	①緻密 ②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	腰部が張り、口縁が外反する。付け高台 右回転ロクロ成形。内面は黒色処理、篋磨き。
5	須恵器 碗	口～体部1/4 口径(17.2) 器高(4.3) 底径—	貯蔵穴	①細砂 輝石 ②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。内面は黒色処理、篋磨き。
6	灰釉陶 器高台 付皿	1/3 口径14.1 器高2.2 底径7.5	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	やや丸みを帯びて立ち上がる。口縁に輪花と思われるへこみあり。 高台の断面は三角形に近い。右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け 掛け。釉薬は乳白色。
7	羽釜	口縁部片 口径(21.4) 器高(6.6) 底径—	貯蔵穴	①輝石 細砂 軽石 ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄褐色	鐙の下方に向く。口縁は直立気味。 外面 口縁は横ナデ。以下篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
8	土師器 土釜	口縁部片 口径(19.9) 器高(7.3) 底径—	貯蔵穴	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	大きく外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下胴部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
9	土師器 土釜	口～胴上部片 口径(20.7) 器高(9.7) 底径—	床直	①輝石 極粗砂 ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下胴部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
10	土師器 土釜	胴下部～底部 口径— 器高(7.1) 底径7.6	床直	①粗砂 ②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	底部より直線的に立ちあがる胴部。 外面 胴～底部は篋削り。 内面 ナデ。

A区 48号住居跡 (第161・162図 PL65・66・150)

位置 3R-19グリッド

形状 本住居の南側は住民の生活用道路になっており、調査を実施できなかった。そのため、正確な形状は把握できなかった。東西方向2.30mを測る。

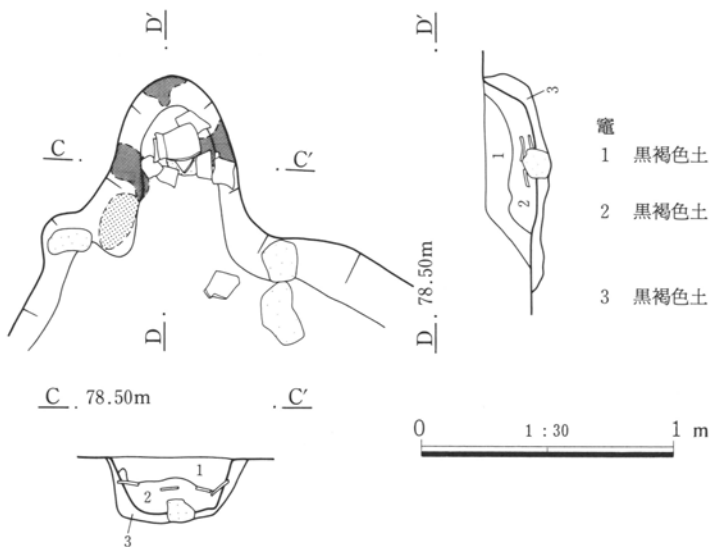
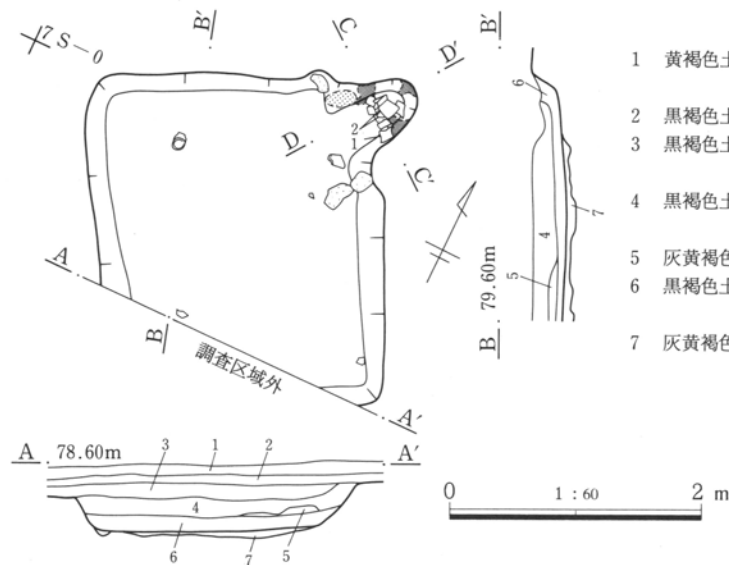
面積 (5.05)m<sup>2</sup>

方位 N-64°-E

床面 遺構確認面から26cm掘り込んで床面になる。床高は78.15mを測る。床面はやや褐色を帯びた灰白色軽石粒を含む黒褐色土に砂質の灰黄褐色土が混入した土でできている。踏み固められた硬い床面は確認できなかった。

竈 東壁面の北寄り、しかも北東コーナー付近に位置し、北竈といってもよい位北に偏っている。焚口の両袖及び支脚部から石材が検出された。また、左袖部分には粘質土も見つかり、袖石を固定するために使われた可能性がある。支脚石の上からは土器片が数多く出土した。燃烧部の壁には焼土が良い状態で残っていた。特に左壁と煙道部近くの壁の焼土は良い状態で残っていた。両袖方向35cm、煙道方向73cmを測る。

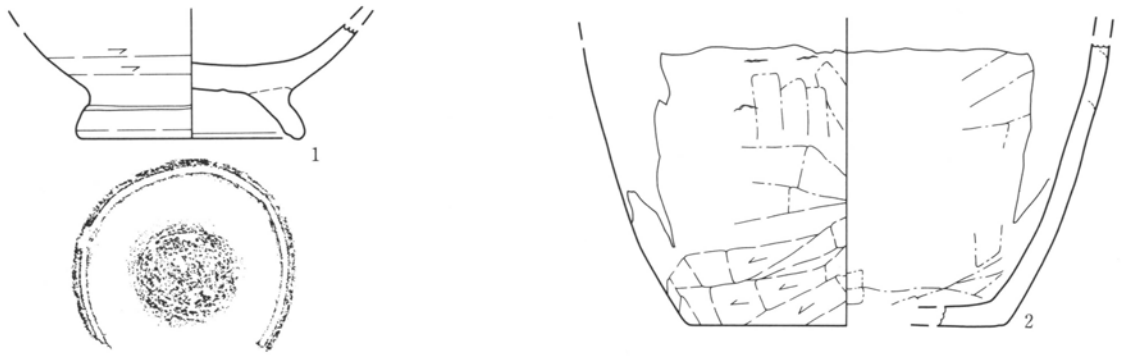
遺物 須恵器壺、土釜が出土している。また、3.5cm×2.9cm×1.6cm、重さ25gの鉄滓が出土している。



第161図 A区48号住居跡、竈



第3章 検出された遺構と遺物

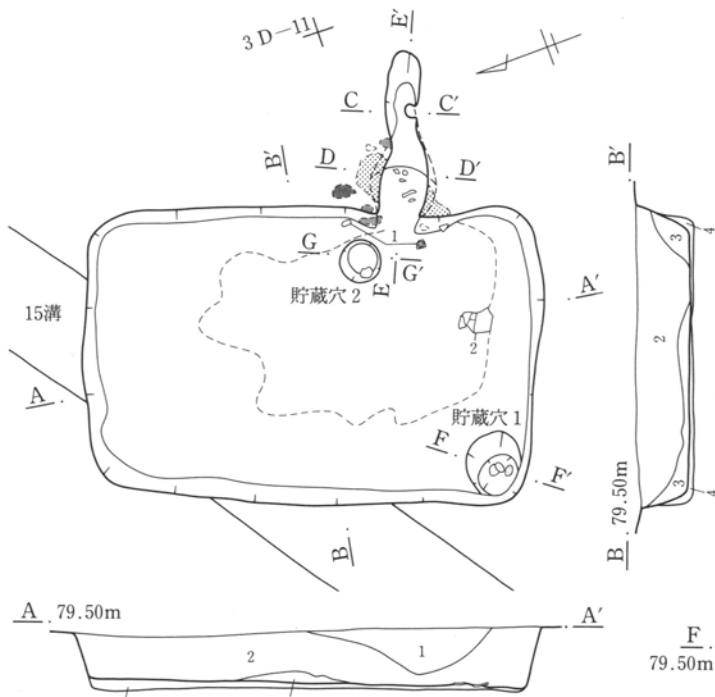


第162図 A区48号住居跡出土遺物

A区 48号住居

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 壺	体下部～高台部 口径— 器高(4.4) 底径8.8	竈	①輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	丸みを帯びて立ち上がる体部。外傾する付け高台。 ロクロ成形。外面回転篋削り調整。
2	土師器 甕	胴下部～底部 1/5 口径— 器高(14.8) 底径(16.8)	竈	①輝石 石英 軽石 ②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	底部より直線的に立ちあがる胴部。 外面 胴中位はナデ。下部～底部は篋削り。 内面 ナデ。

A区 49号住居跡 (第163・164図 PL66・67・150)



位置 3D-11グリッド

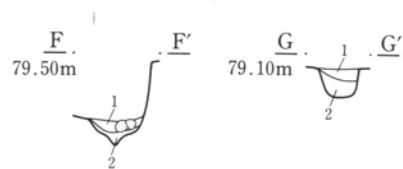
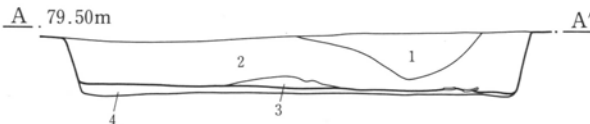
重複 本住居は古墳時代のA区15号溝を掘り込んで造られている。

形状 東西2.34m、南北3.57m。長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 8.46㎡

方位 N-109°-E

床面 遺構確認面から38cm掘り込んで床面になる。床高は79.10mを測る。床面は灰白色軽石粒を含む黒褐色土に明黄褐色土が混入した土でできている。踏み固められた特に硬い床面は竈前を中心に広く検出された。



0 1:60 2 m

- 1 にぶい黄褐色土 2—a層を主とする軟質。
- 2 黒褐色土 3—b層を主としている。黄褐色のブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 2層に近いが2層よりも黄褐色が強い。
- 4 明黄褐色土 粘土粒、黒色土が固く混ざっている。踏み固められた部分あり。

- 貯蔵穴1
- 1 黒褐色土 3—b層を主体とした層に粘質土が多く混じる。
  - 2 灰黄褐色土 1層の黒褐色土に地山の灰黄褐色土が多く混じる。
- 貯蔵穴2
- 1 黒褐色土 焼土粒、粘土粒を多く含む。
  - 2 黒褐色土 1層に似ているが1層よりも黒色が強い。

第163図 A区49号住居跡

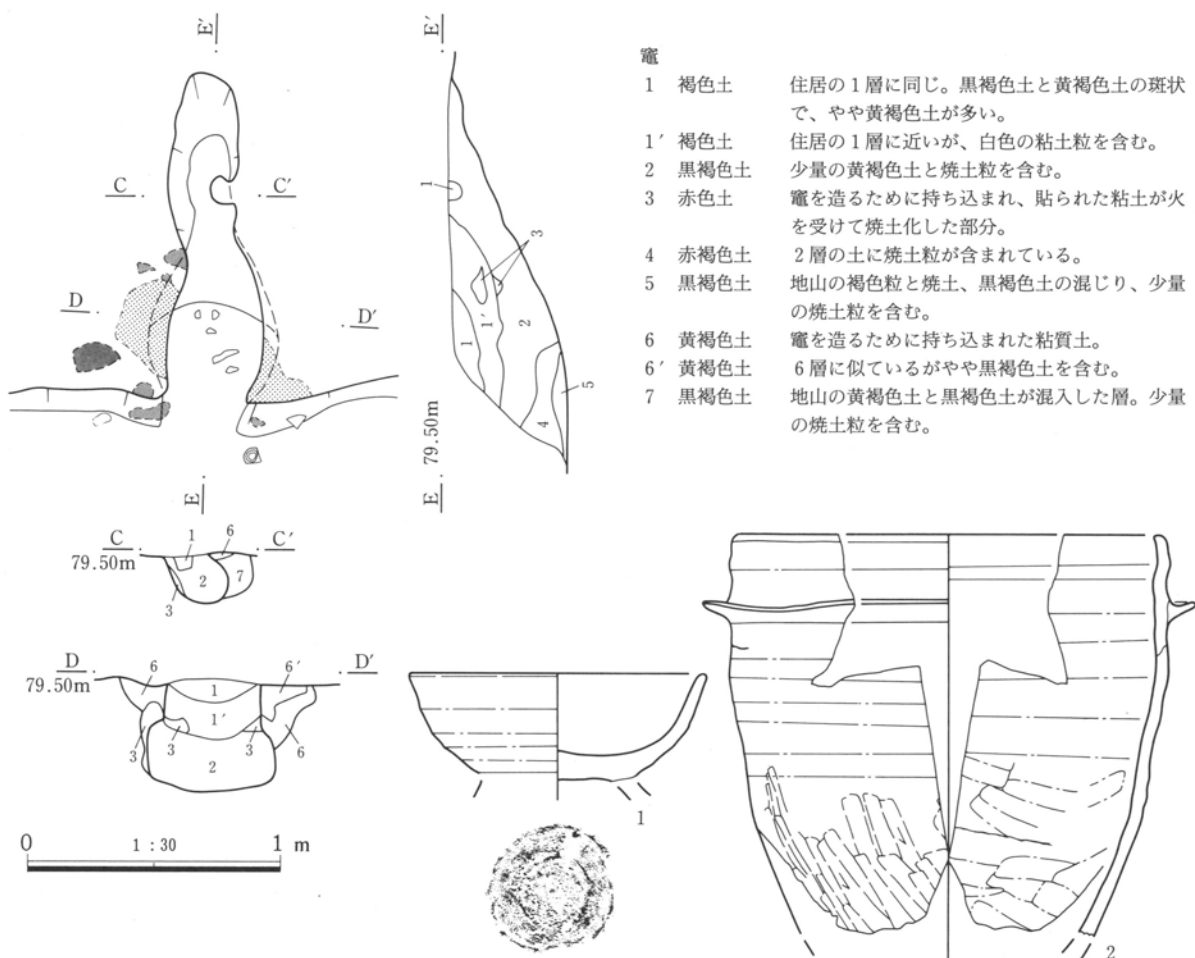
**貯蔵穴** 貯蔵穴1は、本住居の南西コーナー部分から検出された。径50cm、深さ19cmを測る。覆土は黒褐色土に明黄褐色土を含む土で、径6cmの丸石が中から出土した。貯蔵穴2は竈の左袖前から検出された。径32cm、深さ23cmを測る。覆土はやはり黒褐色土に明黄褐色土を含む土で、やや焼土粒が混入していた。中から土器片が出土している。

**竈** 東壁面の南寄りを掘り込んで造られている。焚口の両袖及び支脚部から石材は検出されなかった。

燃焼部上面及び煙道部に粘質土がよく残っていて、竈の天井材も一部確認できた。燃焼部壁面及び煙道部に焼土の残りが良かった。また、燃焼部からは土器片も出土した。燃焼部の両袖方向39cm、煙道方向139cmを測る。

**遺物** 須恵器壙、羽釜が出土している。

**備考** 竈の残りの状態が良かったので、後日、遺跡見学会の際に粘質土を使用して竈を復元し、燃焼実験を行った。



第164図 A区49号住居跡竈、出土遺物

A区 49号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器壙	1/3、高台部欠 口径(11.7) 器高(4.3)底径—	床直	①緻密 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。
2	羽釜	口~胴中位1/4 口径(22.3) 器高(21.9)底径—	床直	①輝石 粗砂 軽石 ②酸化焰 軟質 ③明赤褐色	鍔が上方にのびる。口縁は短く内湾する。 外面 左回転ロクロ成形。胴中位以下は篋削り調整。 内面 左回転ロクロ成形。胴中位以下はナデ調整。

A区 50号住居跡 (第165・166図 PL67・151)

位置 3E-11グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区15号溝及び同じく古墳時代のA区10号方形周溝墓の北側周溝部を掘り込んで造られている。

形状 東西3.82m、南北2.90m。長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 11.21m<sup>2</sup>

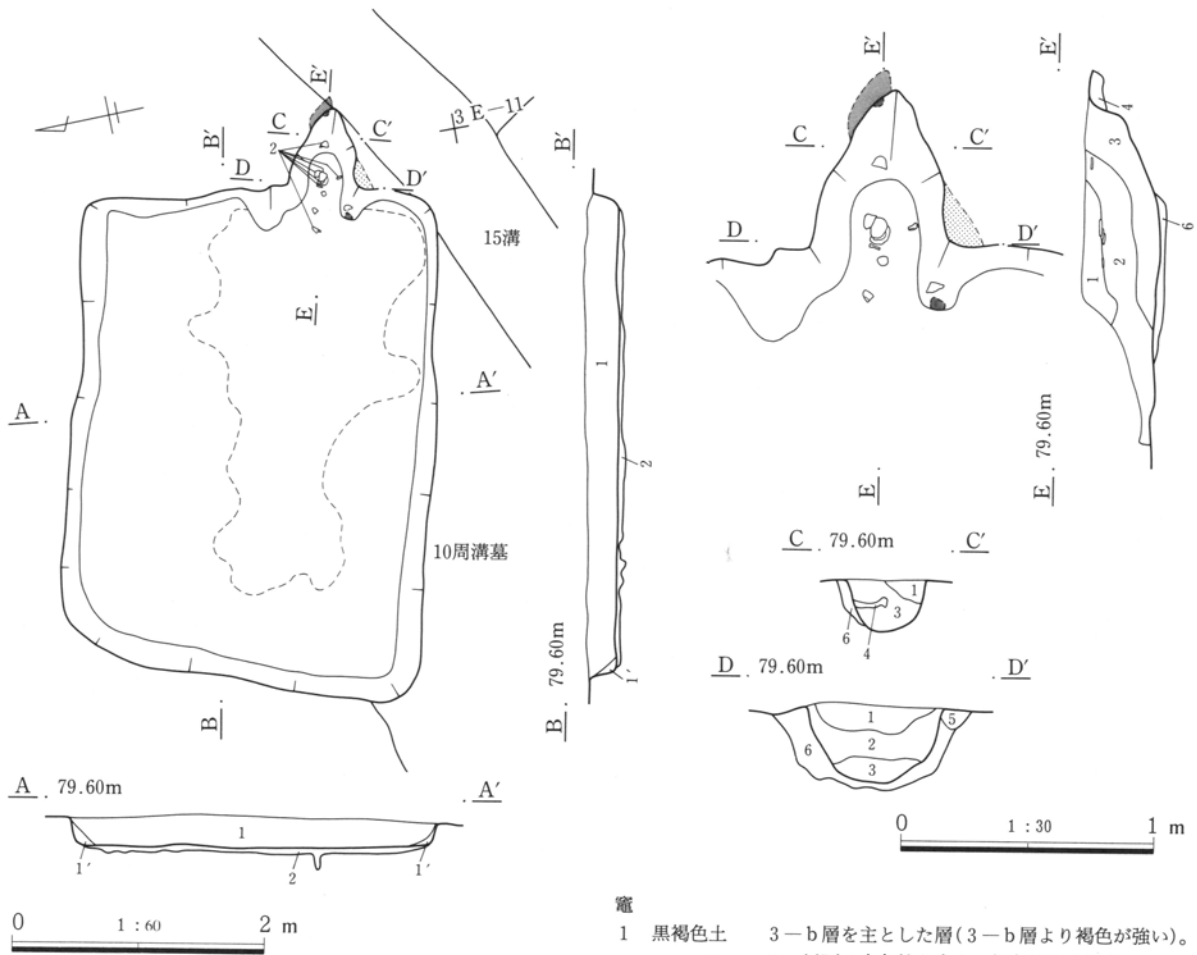
方位 N-99°-E

床面 遺構確認面から26cm掘り込んで床面になる。床高は79.20mを測る。床面は褐色が強い黒褐色土に明黄褐色土を含む土でできている。踏み固められた

硬い床面は竈の前から住居の南側床面で検出された。

竈 東壁面の南寄り掘り込んで造られていた。焚口の両袖及び支脚部からは石材は検出されなかった。両袖は粘質土で造られていた。焼土は燃烧部の下層から多く検出された。また燃烧部内から土器片も出土した。燃烧部は両袖方向28cm、煙道方向83cmを測る。

遺物 須恵器の坏、埴、灰釉陶器埴が出土している。

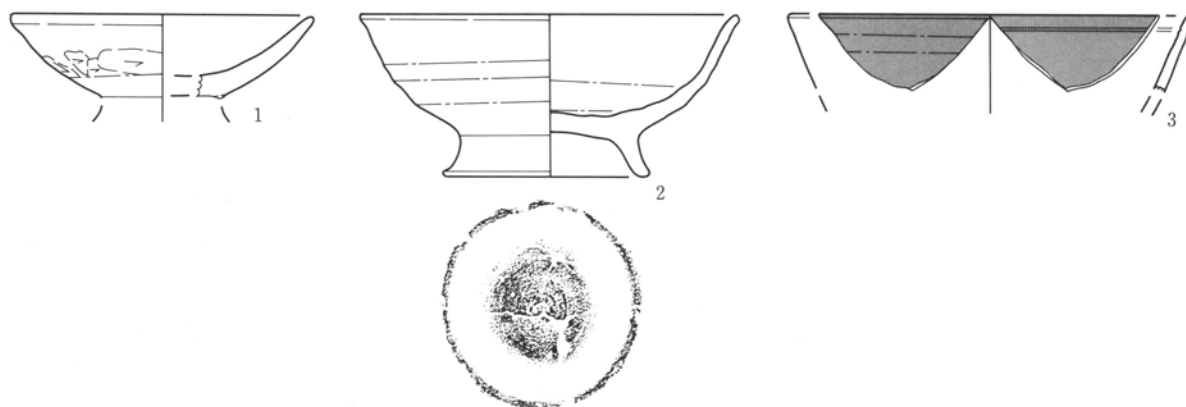


- |         |  |
|---------|--|
| 1 黒褐色土  | 3-b層を主とした層(3-b層より褐色が強い)。1mm以下の白色粒を多く含む。1mm以下の褐色粒を少量含む。少量の炭を含む。 |
| 1' 黒褐色土 | 1層に近い。より多くの褐色粒を含む。   |
| 2 暗黄褐色土 | 地山の明黄褐色土に上層の黒褐色が入った土。  |

竈

- |        |  |
|--------|--|
| 1 黒褐色土 | 3-b層を主とした層(3-b層より褐色が強い)。1mm以下の白色粒を多く、褐色粒を少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | 1層中に少量の焼土粒を含む。                                 |
| 3 黒褐色土 | 多くの焼土粒と1cm前後の焼土ブロックを含む。                        |
| 4 赤色土  | 焼土粒を主とした層。                                     |
| 5 灰黄色土 | 粒子密。粘土。  |
| 6 黄褐色土 | 明黄褐色土、暗褐色土、焼土粒、1~2cmの焼土ブロックの混入層。               |

第165図 A区50号住居跡、竈



第166図 A区50号住居跡出土遺物

## A区 50号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 塊	高台部欠 口径(10.9) 器高(3.3) 底径—	覆土	①細砂 3mmの石 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい褐色	やや丸みを帯びて立ち上がる。 ロクロ成形。外面は手持ち篋削り調整。
2	須恵器 塊	口～底部1/2 口径(14.8) 器高6.5 底径 8.0	竈	①細砂 ②酸化焰 軟質 ③浅黄色	腰部が張り、口縁が外反する。外反する付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	灰釉陶 器塊	口縁部片 口径(16.0) 器高(3.0) 底径—	覆土	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	直線的に立ち上がる口縁。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。

## A区 51号住居跡 (第167～171図 PL68・151)

位置 3D-9グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区11号方形周溝墓の北側周溝部を掘り込んで造られている。

形状 東西2.58m、南北(3.76)m。長軸を南北方向にもつ。南壁付近は発掘調査対象外地域だったので、本住居の全体は調査することができなかった。

面積 (8.30)㎡

方位 N-109°-E

床面 遺構確認面から36cm掘り込んで床面になる。床高は79.02mを測る。床面は褐色が強い黒褐色土に明黄褐色土を含む土でできている。踏み固められた硬い床面は住居のほぼ全面で検出された。床面近くで焼土と炭が混入した箇所が検出されたため、層位を確認した。また、竈前の床面からは粘質土が多量に検出された。中には焼土化し硬くなった塊も検出された。

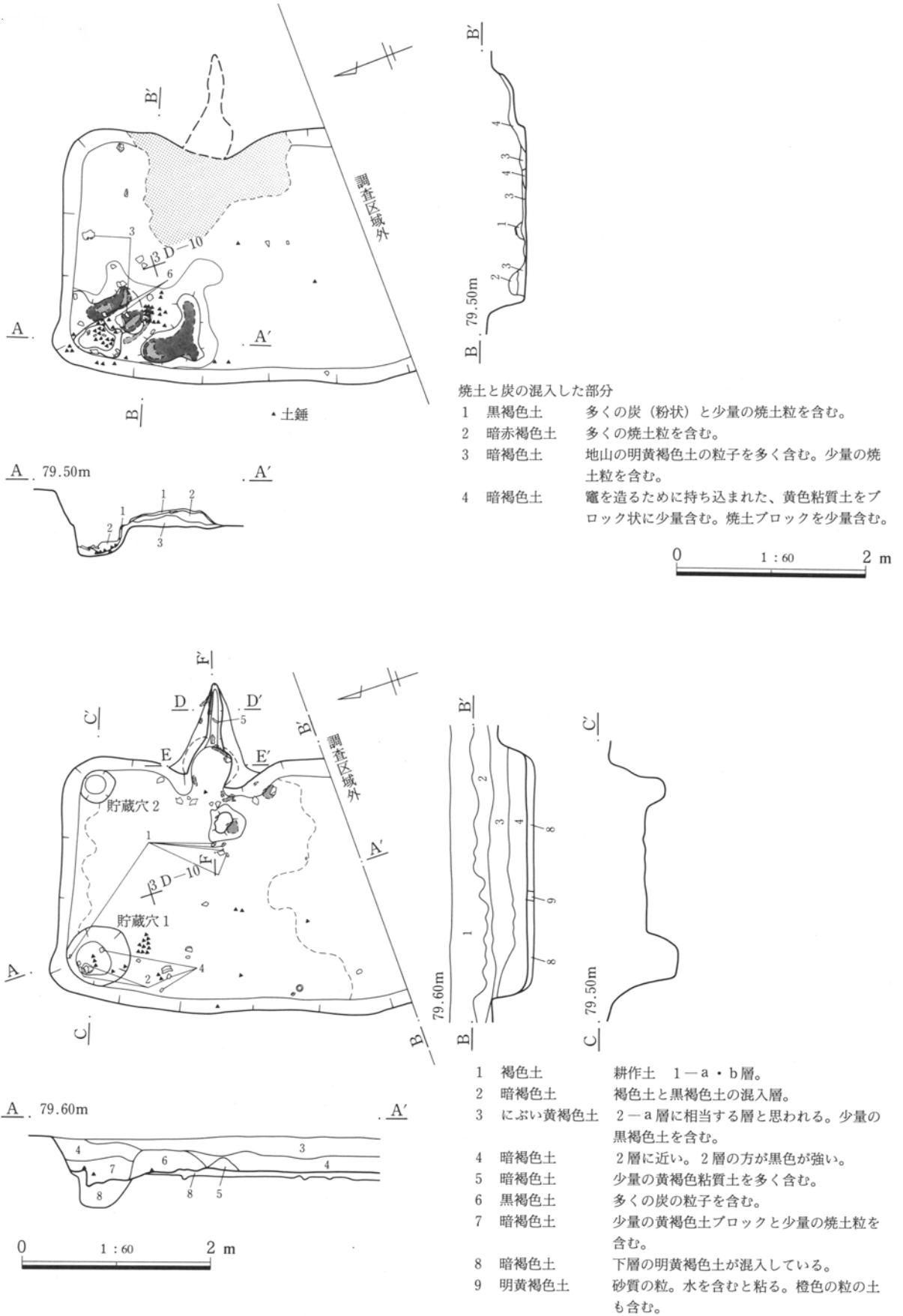
貯蔵穴 貯蔵穴1は、本住居の北西コーナー部分から検出された。径65cm、深さ34cmを測る。覆土は焼

土や炭の混じった黒褐色土に明黄褐色土を含む土で、炭や焼土が集中した層のあたりから土錘が多数出土した。貯蔵穴2は北東コーナー部分から検出された。径37cm、深さ20cmを測る。覆土は粘質土及び灰や炭が混入したものである。

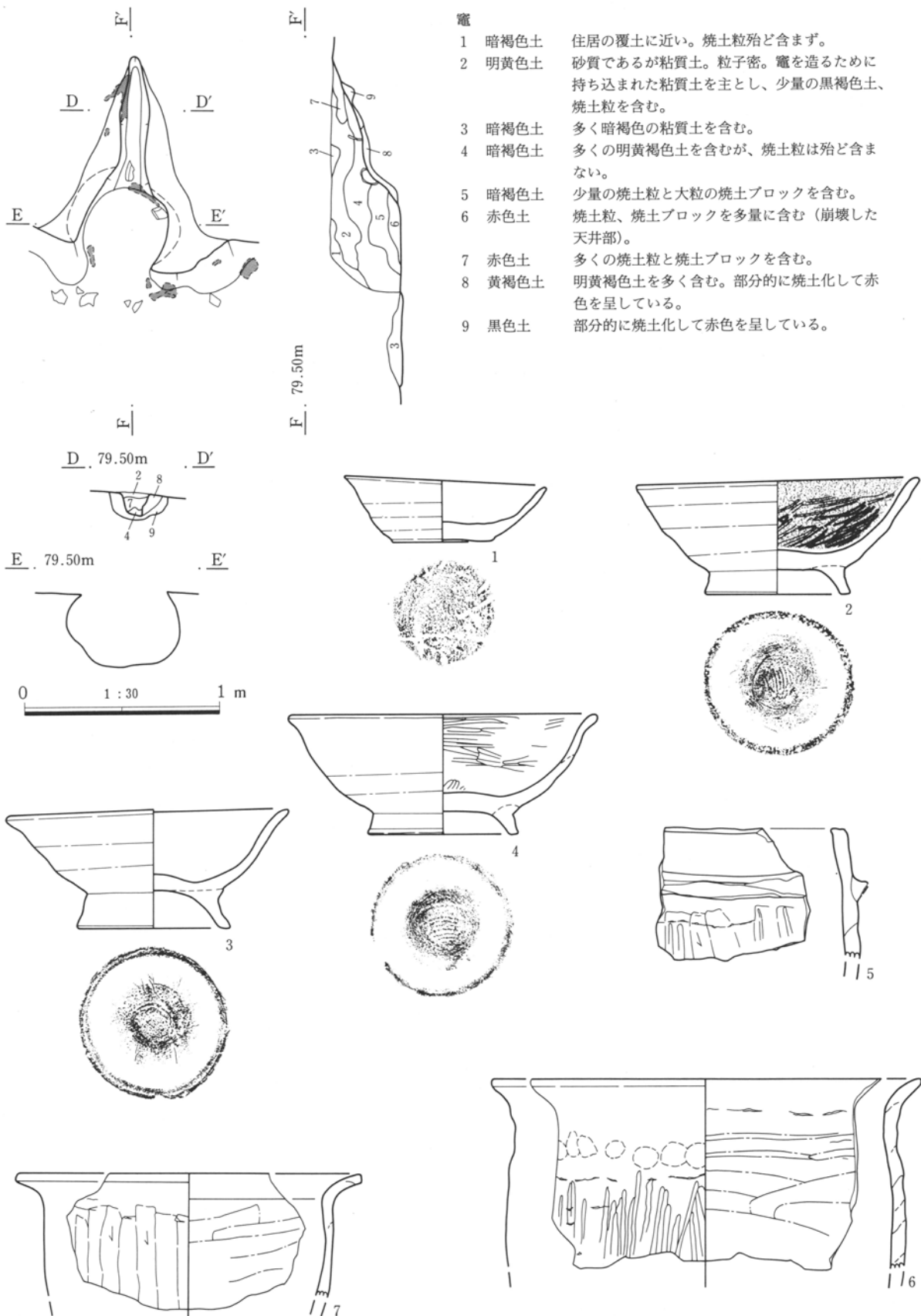
竈 東壁面の中央寄りを掘り込んで造られていた。煙道部は周溝墓の覆土である黒色土のすぐ上層にあたる。竈全体に粘質土がよく残っており、竈の構築材として粘質土を使用したことがわかる。燃烧部、煙道部ともに粘質土による天井部が良く残っており、燃烧部の壁面全体、天井部に焼土が多量に付いている。焚口の両袖及び支脚部からは石材は検出されず、両袖は粘質土で造られていた。また燃烧部壁面及び煙道部から土器片も出土した。燃烧部は円形に近く、両袖方向36cm、煙道方向118cmを測る。

遺物 土師器の坏、土釜、須恵器の塊、羽釜が出土している。また、本住居、及び近隣のグリッドから土錘が86個出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

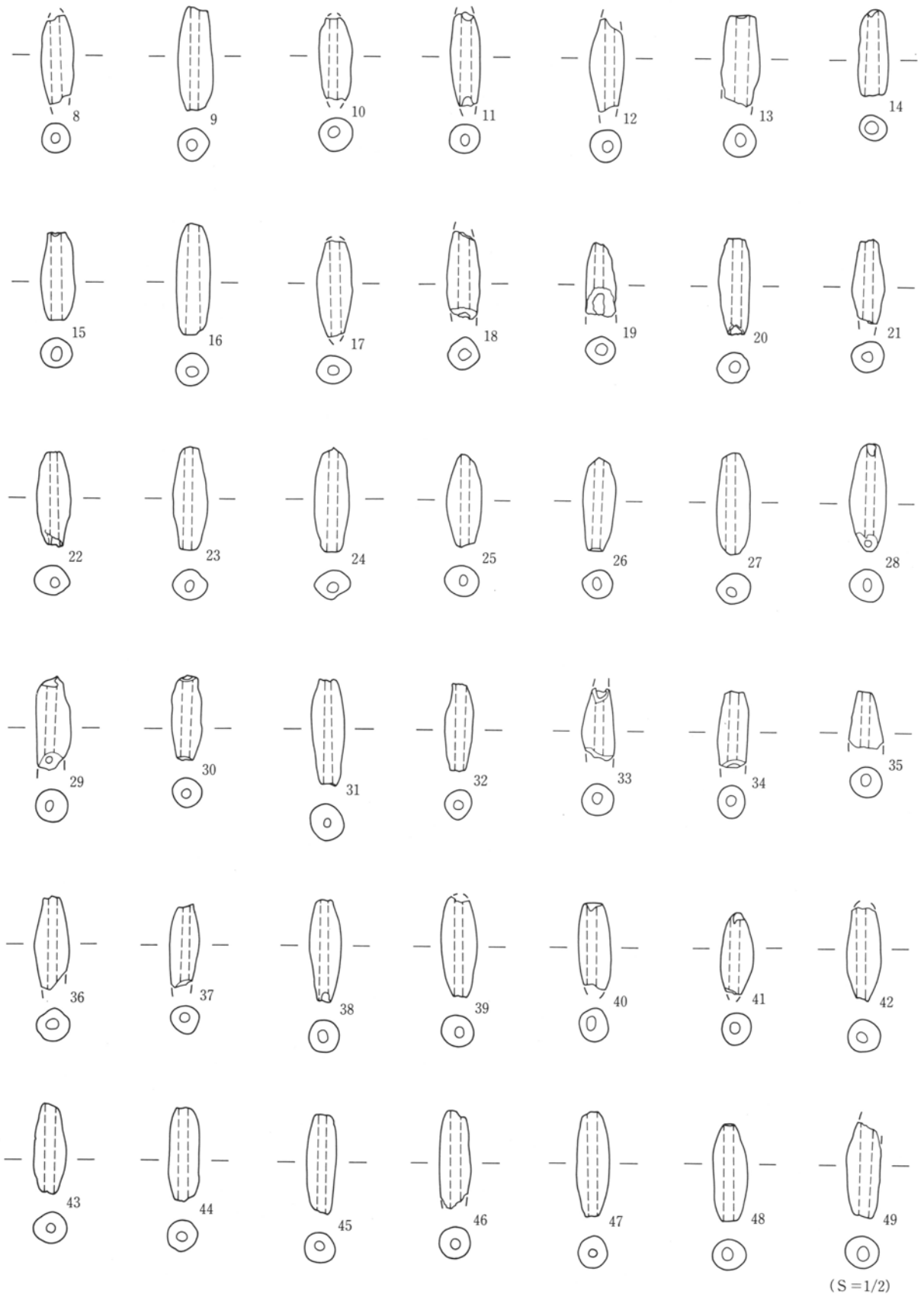


第167図 A区51号住居跡、掘り方

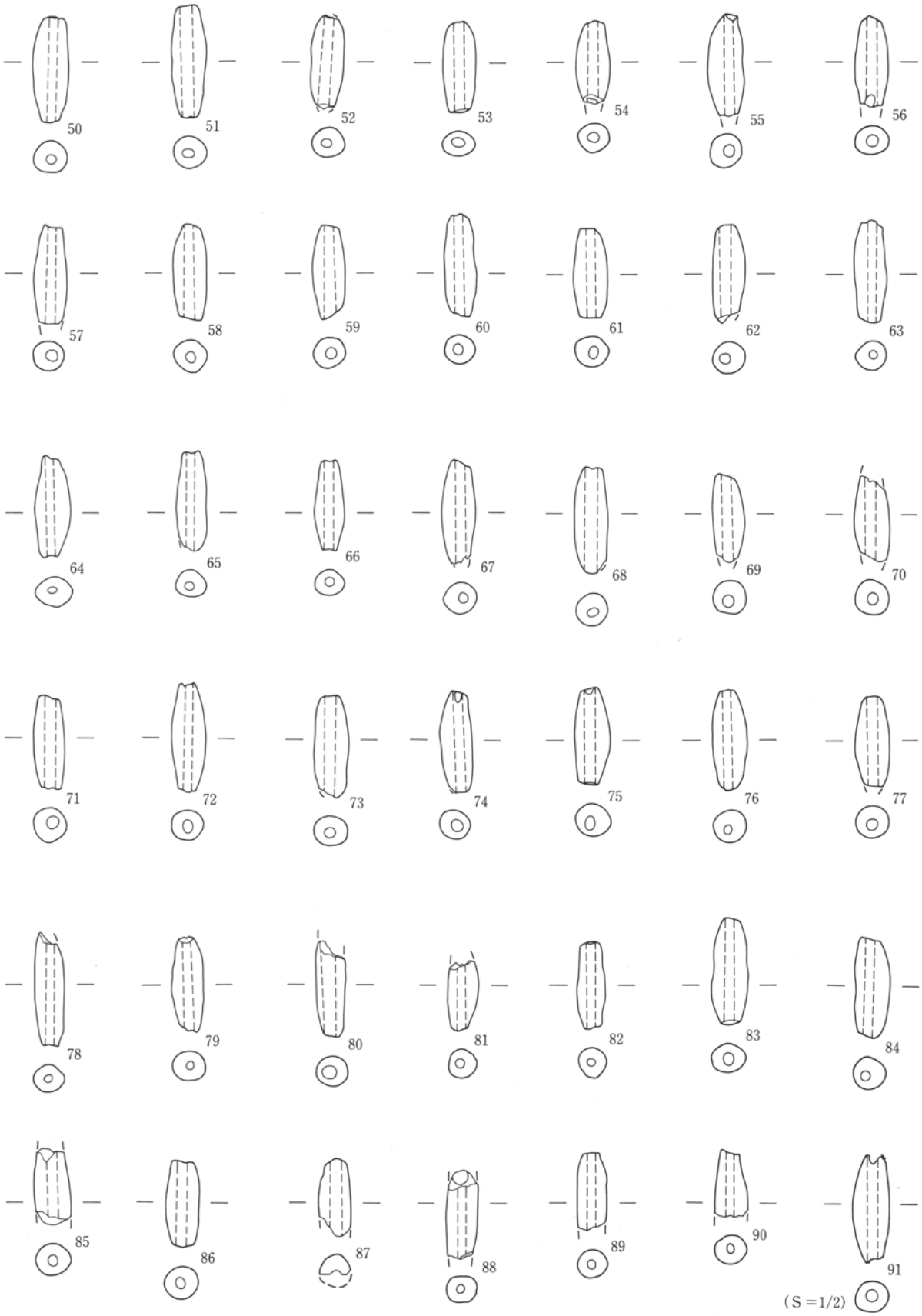


第168図 A区51号住居跡竈、出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



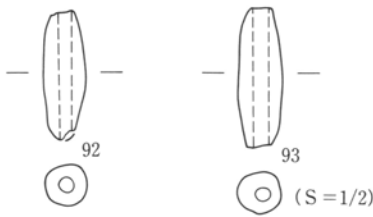
第169図 A区51号住居跡出土遺物(2)



第170図 A区51号住居跡出土遺物(3)



第3章 検出された遺構と遺物



第171図 A区51号住居跡出土遺物(4)

A区 51号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	1/3 口径10.3 器高3.2 底径 5.0	床直	①緻密 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	須恵器 埴	2/3 口径14.5 器高5.8 底径 7.3	貯蔵穴	①緻密 石英 ②酸化焰 軟質 ③赤色	腰部が張り、口縁が外反する。付け高台 右回転ロクロ成形。内面は黒色処理、篋磨き。
3	須恵器 埴	4/5 口径16.0 器高6.2 底径 7.8	床直	①緻密 ②酸化焰 軟質 ③赤色	腰部が張り、口縁がやや外反する。付け高台。高台内側にナデ調整。右回転ロクロ成形。
4	須恵器 埴	1/2 口径(15.7) 器高6.2 底径 7.6	+19	①緻密 輝石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	腰部が張り、口縁が外反する。付け高台 右回転ロクロ成形。 内面 篋磨き調整。
5	羽釜	口縁部片 口径— 器高— 底径—	竈	①軽石 ②酸化焰 軟質 ③にぶい橙色	鈿がやや上方にのびる。口縁は内湾する。 外面 篋削り調整。 内面 無調整か。
6	土師器 土釜	口縁部片 口径(22.0) 器高(9.7) 底径—	床直	①石英、細砂 ②酸化焰 硬質 ③赤色	緩やかに外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。頸部に指頭痕あり。以下胴部は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
7	土師器 土釜	口縁部片 口径(23.5) 器高(8.3) 底径—	覆土	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きく外反する口縁。 外面 胴部は篋削り。 内面 胴部はナデか。

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置
8	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.0) 横 1.1 厚さ1.0	+5.5
9	土製品 土錘	完形 縦 3.6 横 1.3 厚さ1.2	床直
10	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(2.9) 横 1.2 厚さ1.2	床直
11	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.3) 横 1.0 厚さ1.1	床直
12	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.4) 横 1.2 厚さ1.2	床直
13	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.2) 横 1.3 厚さ1.1	+23
14	土製品 土錘	完形 縦 3.1 横 1.1 厚さ0.9	+23
15	土製品 土錘	完形 縦 3.1 横 1.2 厚さ0.9	床直
16	土製品 土錘	完形 縦 3.9 横 1.2 厚さ1.1	床直
17	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.4) 横 1.2 厚さ1.0	床直
18	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.0) 横 1.2 厚さ1.1	床直
19	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(2.6) 横 1.9 厚さ1.0	床直
20	土製品 土錘	完形 縦 3.5 横 1.1 厚さ1.1	床直

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置
21	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.0) 横 1.2 厚さ1.1	床直
22	土製品 土錘	完形 縦 3.3 横 1.2 厚さ1.0	床直
23	土製品 土錘	完形 縦 3.6 横 1.2 厚さ1.1	床直
24	土製品 土錘	完形 縦 3.6 横 1.2 厚さ1.0	床直
25	土製品 土錘	完形 縦 3.2 横 1.2 厚さ1.1	床直
26	土製品 土錘	完形 縦 3.2 横 1.0 厚さ1.0	床直
27	土製品 土錘	完形 縦 3.5 横 1.2 厚さ1.1	床直
28	土製品 土錘	完形 縦 3.7 横 1.2 厚さ1.2	床直
29	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.3) 横 1.2 厚さ1.1	床直
30	土製品 土錘	完形 縦 3.0 横 1.1 厚さ1.1	床直
31	土製品 土錘	完形 縦 3.7 横 1.2 厚さ1.2	床直
32	土製品 土錘	完形 縦 3.0 横 1.0 厚さ1.0	床直
33	土製品 土錘	4/5 縦(2.5) 横 1.2 厚さ1.1	床直

## 2. 奈良・平安時代の遺構と遺物

番号	器種	残存法	量(cm)	出土位置
34	土製品 土錘	4/5 縦(2.7)	横 1.0 厚さ1.1	床直
35	土製品 土錘	3/5 縦(2.0)	横 1.2 厚さ1.1	床直
36	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.2)	横 1.2 厚さ1.1	床直
37	土製品 土錘	4/5 縦(2.7)	横 1.0 厚さ1.0	床直
38	土製品 土錘	完形 縦 3.6	横 1.1 厚さ1.0	床直
39	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.5)	横 1.2 厚さ1.0	床直
40	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(2.9)	横 1.1 厚さ1.1	床直
41	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(2.9)	横 1.1 厚さ1.1	床直
42	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.3)	横 1.2 厚さ1.1	床直
43	土製品 土錘	完形 縦 3.2	横 1.1 厚さ1.1	床直
44	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.2)	横 1.2 厚さ1.1	床直
45	土製品 土錘	完形 縦 3.5	横 1.0 厚さ1.2	床直
46	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.4)	横 1.1 厚さ1.1	床直
47	土製品 土錘	完形 縦 3.7	横 1.1 厚さ1.1	床直
48	土製品 土錘	完形 縦 3.4	横 1.2 厚さ1.1	+ 6
49	土製品 土錘	完形 縦 3.4	横 1.2 厚さ1.1	床直
50	土製品 土錘	完形 縦 3.7	横 1.2 厚さ1.1	床直
51	土製品 土錘	完形 縦 3.9	横 1.3 厚さ1.1	床直
52	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.3)	横 1.2 厚さ1.1	床直
53	土製品 土錘	完形 縦 3.1	横 1.1 厚さ0.9	床直
54	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(2.9)	横 1.1 厚さ1.0	床直
55	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.5)	横 1.2 厚さ1.2	床直
56	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.1)	横 1.1 厚さ1.1	床直
57	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.4)	横 1.1 厚さ1.0	床直
58	土製品 土錘	完形 縦 3.3	横 1.2 厚さ1.1	床直
59	土製品 土錘	完形 縦 3.5	横 1.1 厚さ1.1	床直
60	土製品 土錘	完形 縦 3.1	横 1.2 厚さ1.1	床直
61	土製品 土錘	完形 縦 3.1	横 1.2 厚さ1.1	床直
62	土製品 土錘	完形 縦 3.4	横 1.1 厚さ1.1	床直
63	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.5)	横 1.1 厚さ1.0	床直

番号	器種	残存法	量(cm)	出土位置
64	土製品 土錘	完形 縦 3.6	横 1.3 厚さ1.0	床直
65	土製品 土錘	完形 縦 3.5	横 1.1 厚さ1.0	床直
66	土製品 土錘	完形 縦 3.1	横 1.1 厚さ0.9	床直
67	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.6)	横 1.2 厚さ1.1	床直
68	土製品 土錘	完形 縦 3.7	横 1.2 厚さ1.1	床直
69	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.1)	横 1.1 厚さ1.1	床直
70	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(2.9)	横 1.2 厚さ1.2	床直
71	土製品 土錘	完形 縦 3.3	横 1.1 厚さ1.2	床直
72	土製品 土錘	完形 縦 3.7	横 1.2 厚さ1.1	床直
73	土製品 土錘	完形 縦 3.6	横 1.2 厚さ1.1	床直
74	土製品 土錘	完形 縦 3.5	横 1.2 厚さ1.0	床直
75	土製品 土錘	完形 縦 3.4	横 1.2 厚さ1.0	床直
76	土製品 土錘	完形 縦 3.5	横 1.2 厚さ1.1	床直
77	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.2)	横 1.2 厚さ1.1	床直
78	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(4.0)	横 1.0 厚さ1.0	床直
79	土製品 土錘	完形 縦 3.3	横 1.1 厚さ1.1	床直
80	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.3)	横 1.1 厚さ1.1	覆土
81	土製品 土錘	4/5 縦(2.4)	横 1.1 厚さ1.0	覆土
82	土製品 土錘	完形 縦 3.0	横 1.0 厚さ1.0	覆土
83	土製品 土錘	完形 縦 3.7	横 1.3 厚さ1.0	覆土
84	土製品 土錘	完形 縦 3.5	横 1.1 厚さ1.1	覆土
85	土製品 土錘	4/5 縦(2.6)	横 1.3 厚さ1.1	覆土
86	土製品 土錘	完形 縦 3.0	横 1.2 厚さ1.1	
87	土製品 土錘	1/2 縦(2.7)	横 1.1 厚さ(0.7)	
88	土製品 土錘	ほぼ完形 縦(3.1)	横 1.1 厚さ0.9	
89	土製品 土錘	4/5 縦(2.7)	横 1.1 厚さ1.1	
90	土製品 土錘	3/5 縦(2.3)	横 1.1 厚さ1.0	
91	土製品 土錘	完形 縦 3.8	横 1.2 厚さ1.1	
92	土製品 土錘	完形 縦 3.5	横 1.1 厚さ1.1	
93	土製品 土錘	完形 縦 3.7	横 1.2 厚さ1.1	覆土

第3章 検出された遺構と遺物

A区 52号住居跡 (第172・173図 PL69・152)

位置 3F-15グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区9号方形周溝墓の北側周溝部を掘り込んで造られている。

形状 東西2.72m、南北3.64m。長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 10.61m<sup>2</sup>

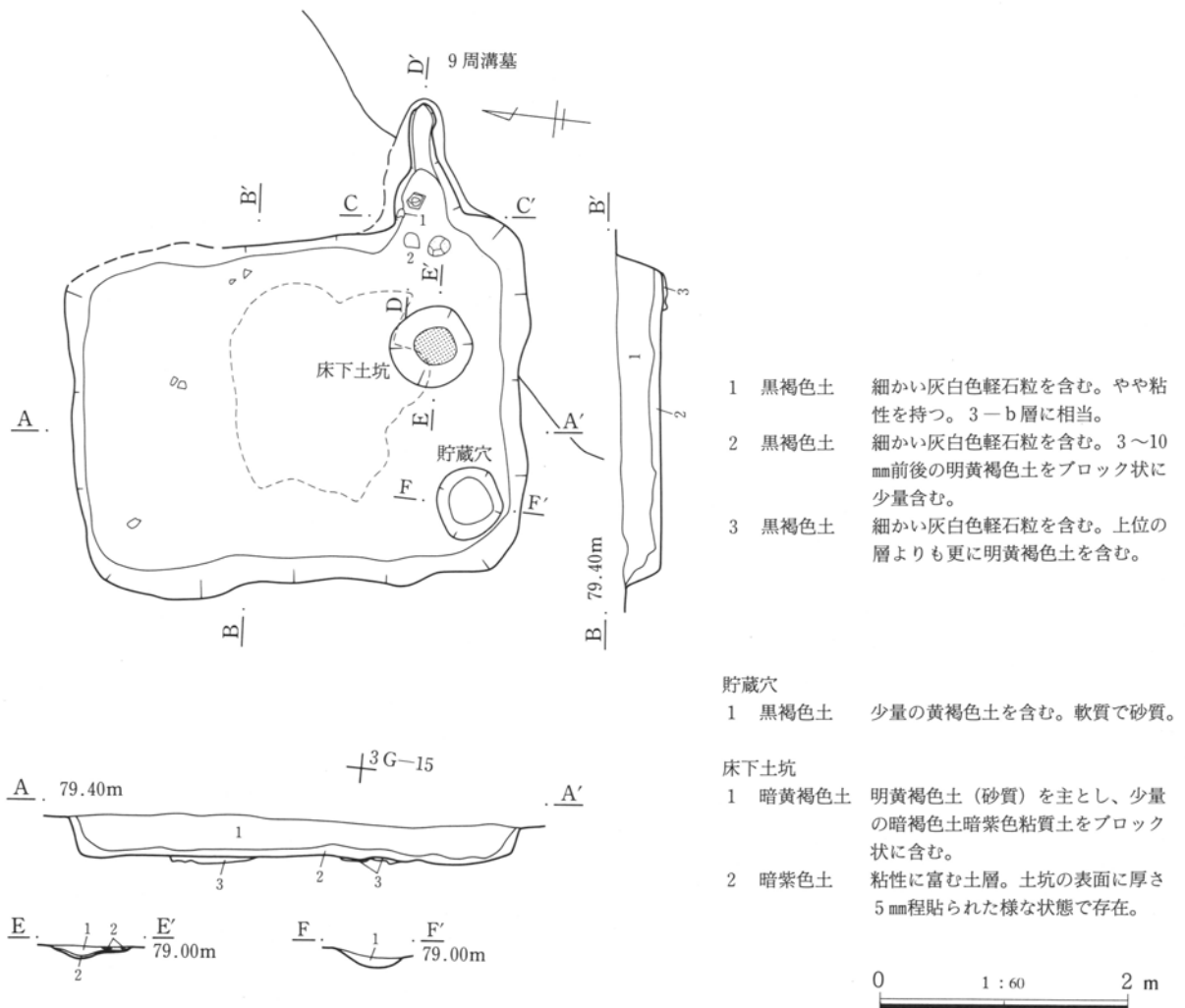
方位 N-78°-E

床面 遺構確認面から32cm掘り込んで床面になる。床高は78.99mを測る。床面は褐色が強い黒褐色土に明黄褐色土を含む土でできている。粘質土が混入し踏み固められた硬い箇所が住居の中央部で検出された。また、床下からは地山の明黄褐色土に粘質土の混入した覆土を持つ径67cm、深さ10cmの床下土坑が検出された。

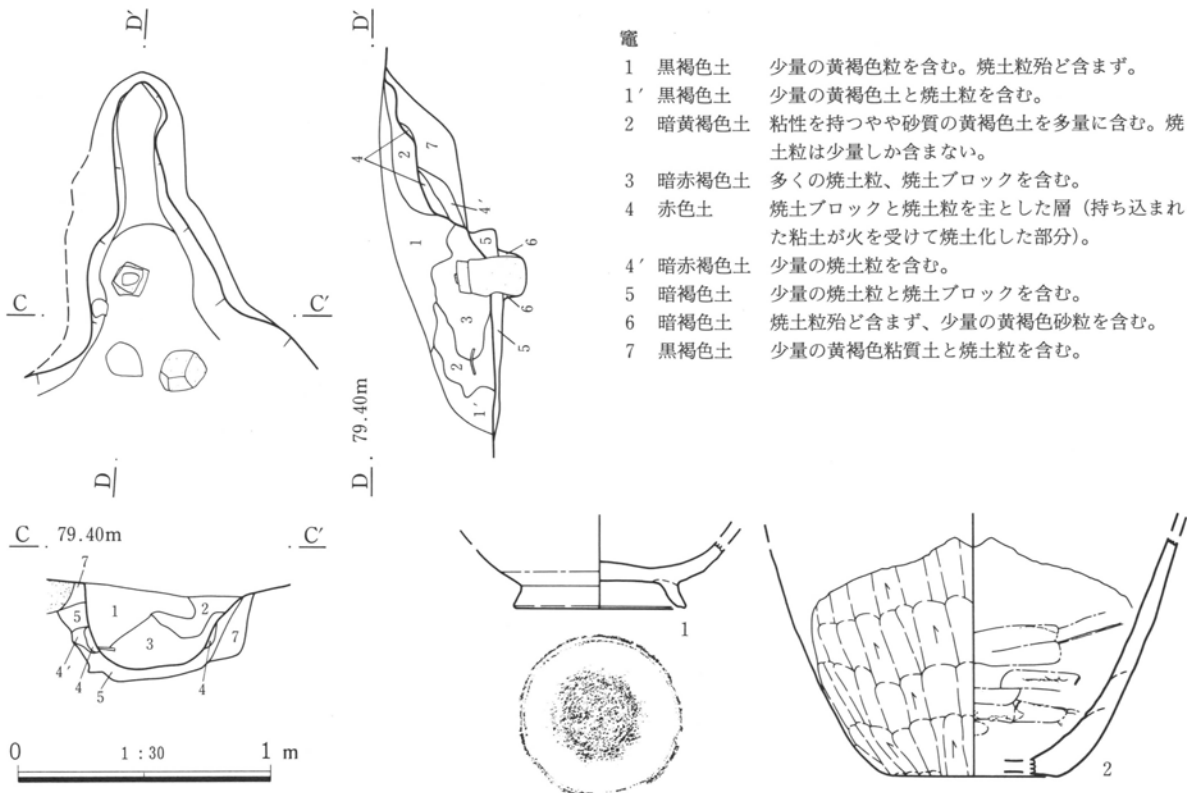
貯蔵穴 本住居の南西コーナー部分から検出された。径57cm、深さ10cmを測る。覆土は黒褐色土に砂質の明黄褐色土を含む土であった。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。左壁面の上端は攪乱によって掘り込まれていた。竈を構築するために全体的に暗黄褐色の粘質土を持ち込んで造っている。焚口の両袖も粘質土で造られていた。燃烧部内からは支脚石に使用したと思われる23.1cm×11.8cm×8.9cm、重さ3,740gの石英閃緑岩が検出された。焼土は燃烧部の壁面の周り、及び煙道部の下層から多く検出された。また燃烧部内から土器片も出土した。燃烧部は両袖方向37cm、煙道方向113cmを測る。

遺物 須恵器碗、土釜が出土している。



第172図 A区52号住居跡



- 竈
- 1 黒褐色土 少量の黄褐色粒を含む。焼土粒殆ど含まず。
  - 1' 黒褐色土 少量の黄褐色土と焼土粒を含む。
  - 2 暗黄褐色土 粘性を持つやや砂質の黄褐色土を多量に含む。焼土粒は少量しか含まない。
  - 3 暗赤褐色土 多くの焼土粒、焼土ブロックを含む。
  - 4 赤色土 焼土ブロックと焼土粒を主とした層（持ち込まれた粘土が火を受けて焼土化した部分）。
  - 4' 暗赤褐色土 少量の焼土粒を含む。
  - 5 暗褐色土 少量の焼土粒と焼土ブロックを含む。
  - 6 暗褐色土 焼土粒殆ど含まず、少量の黄褐色砂粒を含む。
  - 7 黒褐色土 少量の黄褐色粘質土と焼土粒を含む。

第173図 A区52号住居跡竈、出土遺物

A区 52号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	底～高台部片 口径—器高(2.7) 底径 6.7	竈	①細砂 ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	やや丸みを帯びて立ち上がる。高台部端部に僅かな抉りが入る。付け高台。ロクロ成形。
2	土師器 土釜	胴下部～底部片 口径—器高(12.6) 底径(8.4)	床直	①粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③黄橙色	底部より直線的に立ちあがる胴部。 外面 胴～底部は篋削り。 内面 ナデ。

A区 53号住居跡 (第174・175図 PL69・70・152)

位置 3 F-13グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区8号方形周溝墓の北側周溝部を掘り込んで造られている。

形状 東西3.88m、南北2.92m。長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 11.89㎡

方位 N-108°-E

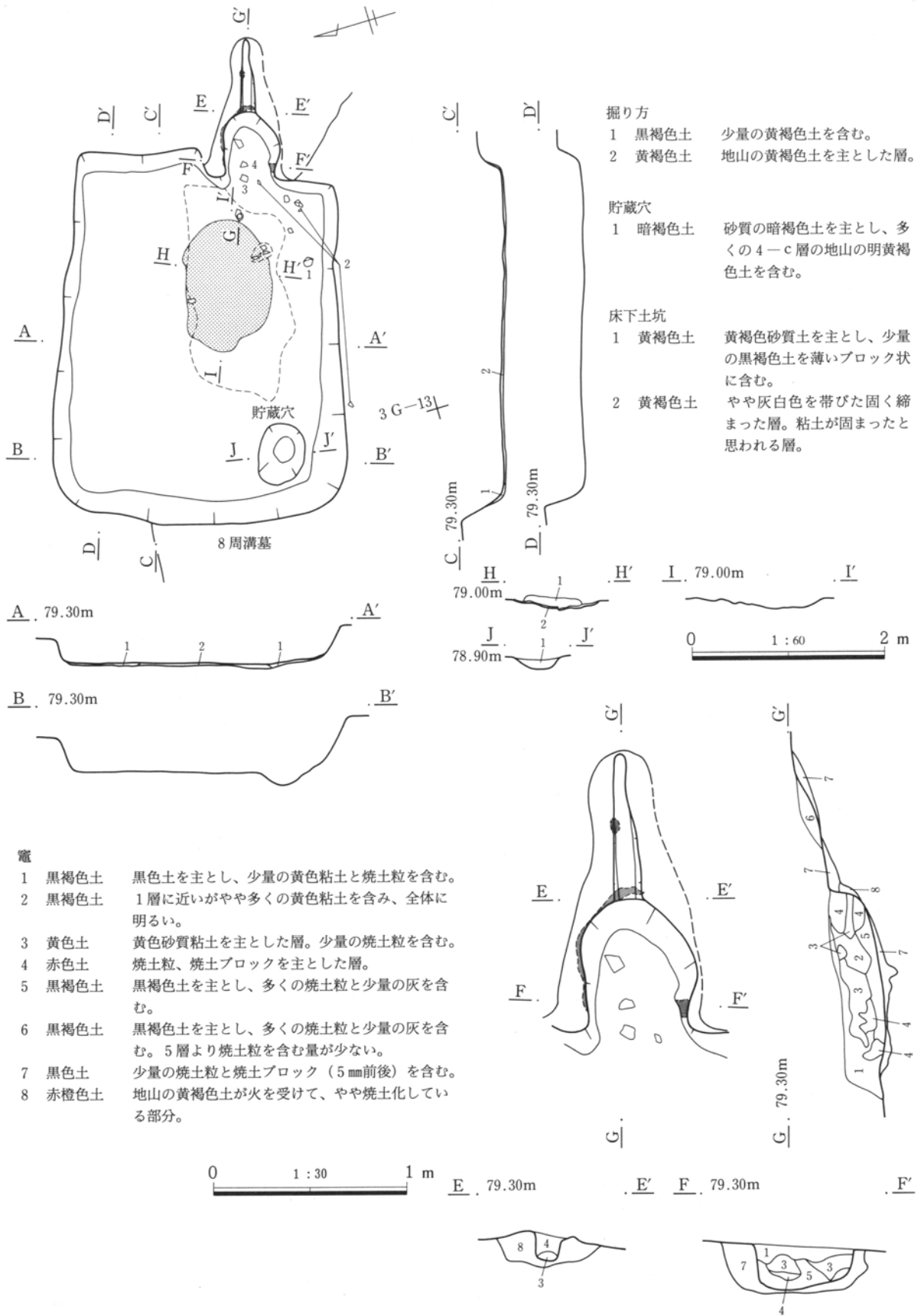
床面 残りのよいところで遺構確認面から35cm掘り込んで床面になる。床高は78.85mを測る。床面は褐色が強い黒褐色土に黄褐色土を含む土でできている。踏み固められた硬い床面は竈の前から住居の南側床面で検出された。また、床下から粘質土の混入したやや窪んだ箇所が検出された。

貯蔵穴 本住居の南西コーナー部分から検出された。長径63cm・短径48cm、深さ10cmを測る。覆土は黒褐色土に砂質の明黄褐色土を含む土であった。

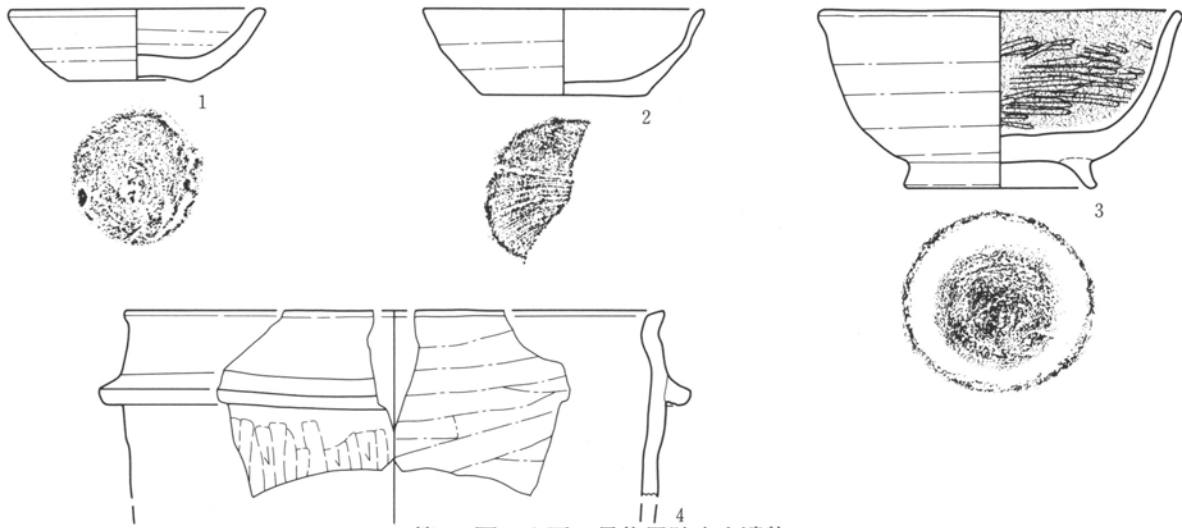
竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。竈の燃焼部内から竈の構築材に使われたと思われる黄褐色粘質土がブロック状に検出された。焚口の両袖及び支脚部からは石材は検出されなかった。両袖は粘質土で造られていた。焼土は燃焼部の壁面を廻るように検出された。また燃焼部内から土器片も出土した。煙道部は削平されていて残りが良くなかった。燃焼部は両袖方向45cm、煙道方向151cmを測る。

遺物 土師器の坏、須恵器坏、埴、羽釜が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



第174図 A区53号住居跡、竈



第175図 A区53号住居跡出土遺物

A区 53号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徵
1	須恵器 坏	2/3 口径10.0 器高 2.8 底径 5.1	床直	①石英 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	須恵器 坏	1/4 口径11.2 器高(3.4) 底径(6.4)	竈	①石英 輝石 軽石 2 ~5mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がり、口縁部で内湾する。 右回転ロクロ成形。底部は静止糸切り。
3	須恵器 壺	1/3 口径(14.0) 器高(7.0) 底径7.4	竈	①細砂 ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	腰部が張り、口縁部が外反する。付け高台。 右回転ロクロ成形。内面は黒色処理、篋磨き。
4	羽釜	口縁部片 口径(28.5) 器高(9.9) 底径—	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	鏝が下方に垂れる。口縁は内湾し、端部で短く外反する。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。

A区 54号住居跡 (第176図 PL70・152)

位置 3E-16グリッド

形状 東西4.93m、南北2.95m。攪乱土坑によって西壁は掘り込まれている。長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。

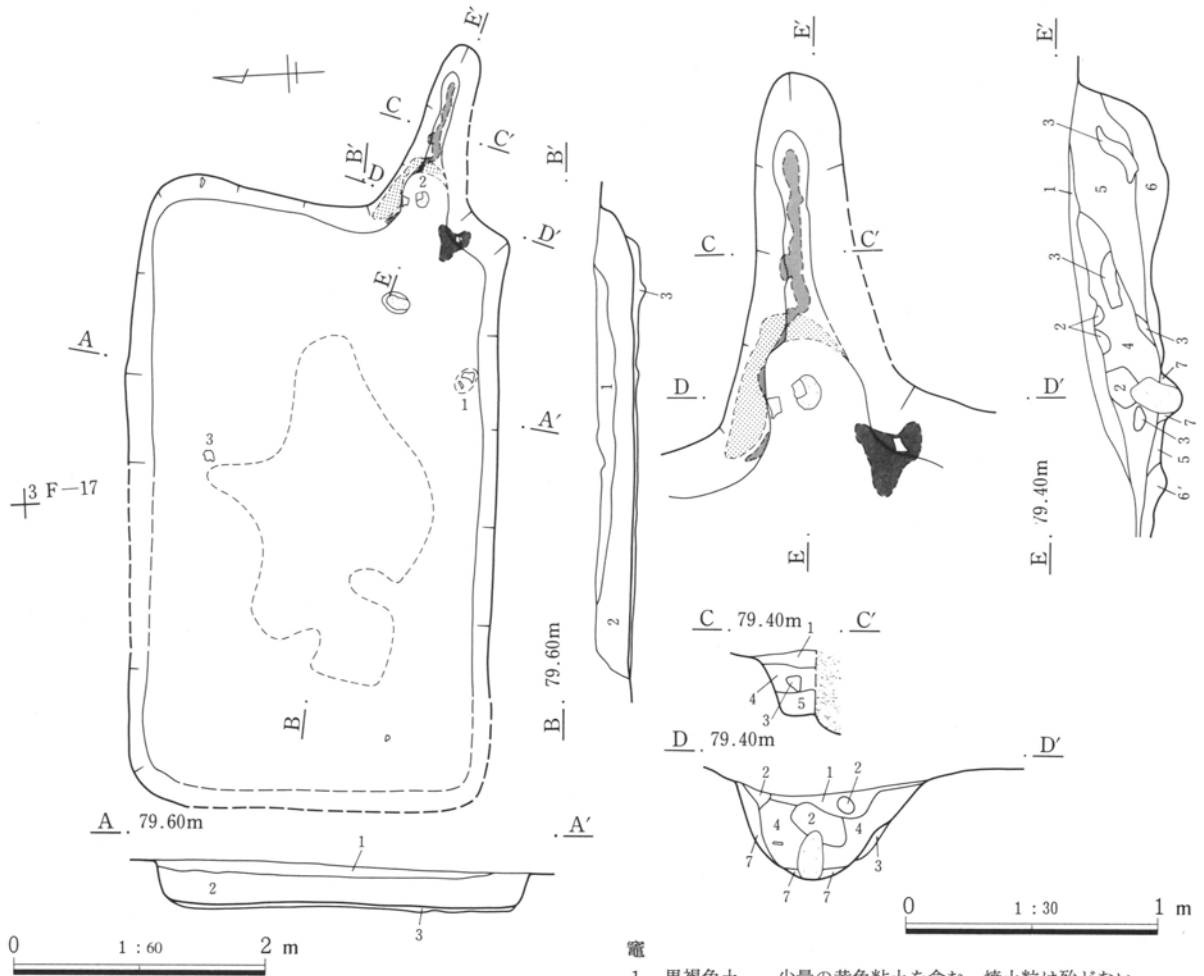
面積 14.76㎡

方位 N-102°-E

床面 残りの良いところで遺構確認面から28cm掘り込んで床面になる。床高は79.04mを測る。床面は黒褐色土に砂質の灰黄褐色土を含む土でできている。踏み固められた硬い床面は住居の中央部で検出された。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。竈の燃焼部から竈天井部の構築材に使われたと思われる黄褐色粘質土が検出された。この粘質土のために

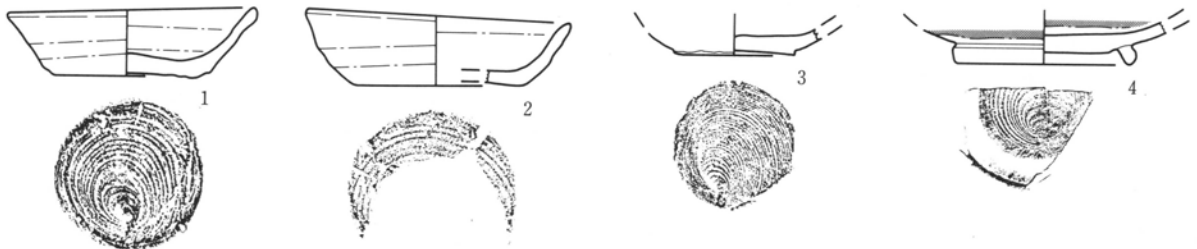
竈の中心を見誤り、竈の断ち割りの位置を修正した。また、煙道部の右側付近は攪乱によって一部壊されていた。焚口の左袖は粘質土で造られていたが、右袖部分からは粘質土は検出されなかった。支脚石として使用されたと思われる石材が検出された。焼土は燃焼部の左壁面及び煙道部に集中して検出された。燃焼部は両袖方向38cm、煙道方向151cmを測る。  
遺物 須恵器の坏、灰釉陶器壺が出土している。



- 1 黒褐色土 3-b層に相当する層と思われる。灰白色軽石粒を含む量少ない。やや粘性を持つ。粒子は比較的密である。
- 2 黒褐色土 3-b層に相当する層と思われる。灰白色軽石粒を含む量少ない。上層の1層に近いが、1層の方が黒色が強い。
- 3 灰黄褐色土 4-d層。1mm以下の砂粒。上層の2層に近い所は踏み固められており、黒褐色土も少し含む。

竈

- 1 黒褐色土 少量の黄色粘土を含む。焼土粒は殆どない。
- 2 灰黄褐色土 竈材としても持ち込まれた灰黄色粘質土を主とした層。一部焼土化している。
- 3 赤褐色土 主に持ち込まれた粘土が焼土化した層。
- 4 暗褐色土 少量の黒褐色土とやや多くの焼土粒含む。
- 5 暗褐色土 少量の黒褐色土と焼土粒含む。
- 6 暗褐色土 多くの黄褐色砂粒を含む。
- 6' 暗褐色土 多くの黄褐色土と少量の焼土粒を含む。
- 7 暗褐色土 2層に近い。2層より多くの黄褐色土を含む。



第176図 A区54号住居跡、竈、出土遺物

A区 54号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	ほぼ完形 口径9.8 器高2.6 底径5.5	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
2	須恵器 坏	1/2 口径10.4 器高 2.7 底径 6.7	竈	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	やや丸みを帯びて立ち上がる。 右回転クロコ成形。底部は右回転糸切り。
3	須恵器 坏	底部のみ 口径— 器高 (1.1) 底径4.8	+32	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直線的に立ち上がる。 右回転クロコ成形。底部は右回転糸切り。
4	灰釉陶 器塊	底部片 口径— 器高(1.8) 底径(3.6)	覆土	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	直線的に立ち上がる体部。付け高台。 右回転クロコ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。

A区 55号住居跡 (第177~179図 PL71・152・153)

位置 3D-16グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区13号方形周溝墓を掘り込んで造られている。

形状 東西2.63m、南北3.72m。攪乱土坑によって西壁、南壁は掘り込まれている。長軸を南北方向に持ち、隅丸長方形を呈する。

面積 11.46m<sup>2</sup>

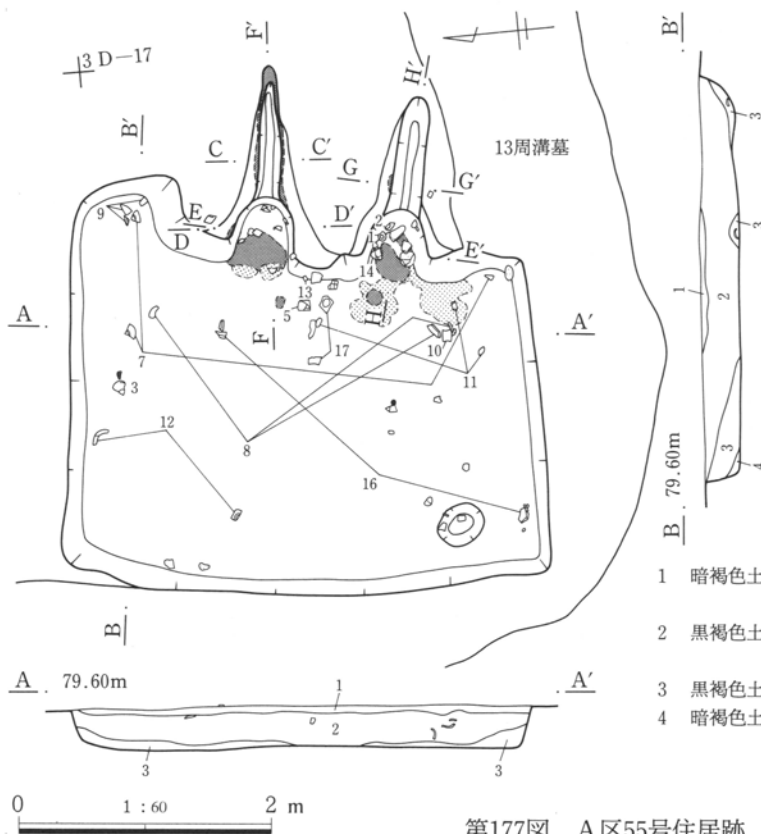
方位 N-102°-E

床面 残りのよいところで遺構確認面から31cm掘り込んで床面になる。床高は78.16mを測る。床面は黒褐色土に明黄褐色土を含む土でできている。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで新・旧の2基の竈が造られていた。新竈は両袖及び煙道部にも粘質土が使われていて、竈の残りがよかった。燃烧部は円形に近く、壁面及び床下からは焼土が検出された。両袖や支脚に使われたと思われる石材は検出されなかった。燃烧部内から土器片が出土した。燃烧部は両袖方向41cm、煙道方向169cmを測る。

旧竈は両袖の残りが悪く、竈の構築材に使われたと思われる黄褐色粘質土が竈の前から薄く広がる状態で検出された。また、焼土の残りも悪かった。両袖や支脚に使われたと思われる石材は検出されなかった。燃烧部内から土器片が出土した。燃烧部は両袖方向48cm、煙道方向144cmを測る。

遺物 須恵器の坏、碗、羽釜、土釜、甕、灰釉陶器の塊、皿などが多数出土している。須恵器や灰釉陶器の他に、総重量425gの鉄滓が出土した。このうち最大の鉄滓は8.0cm×6.0cm×3.8cm、重さ165gであった。

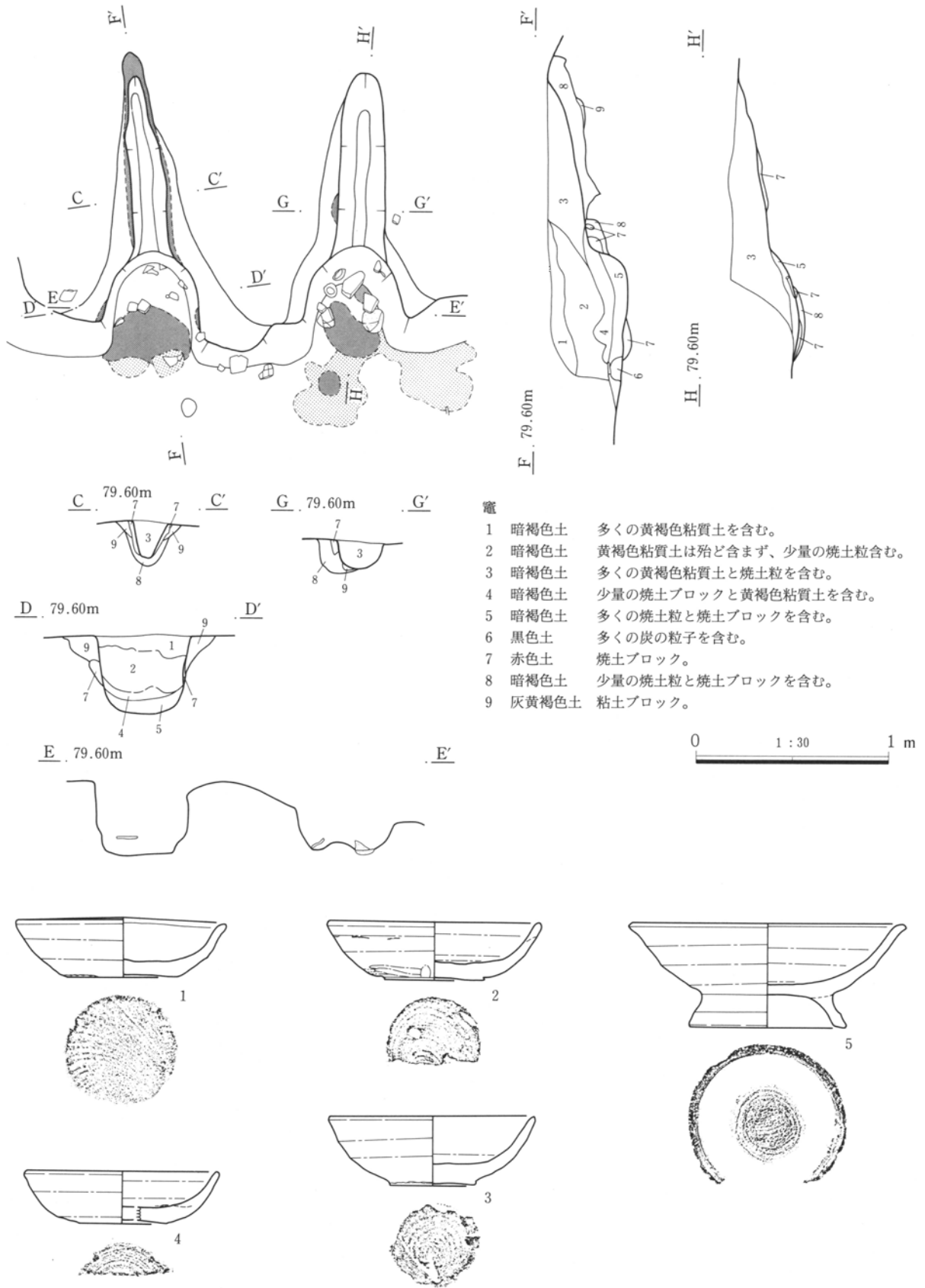


- 1 暗褐色土 　　にぶい黄褐色土(2-a層に相当)を少し含む層。
- 2 黒褐色土 　　明黄褐色土(4-c層に相当)を少量含む。ブロック状では含まない。
- 3 黒褐色土 　　明黄褐色土殆ど含まず。
- 4 暗褐色土 　　明黄褐色土(4-c層に相当)を多く含む。(壁が崩れたもの)。

第177図 A区55号住居跡

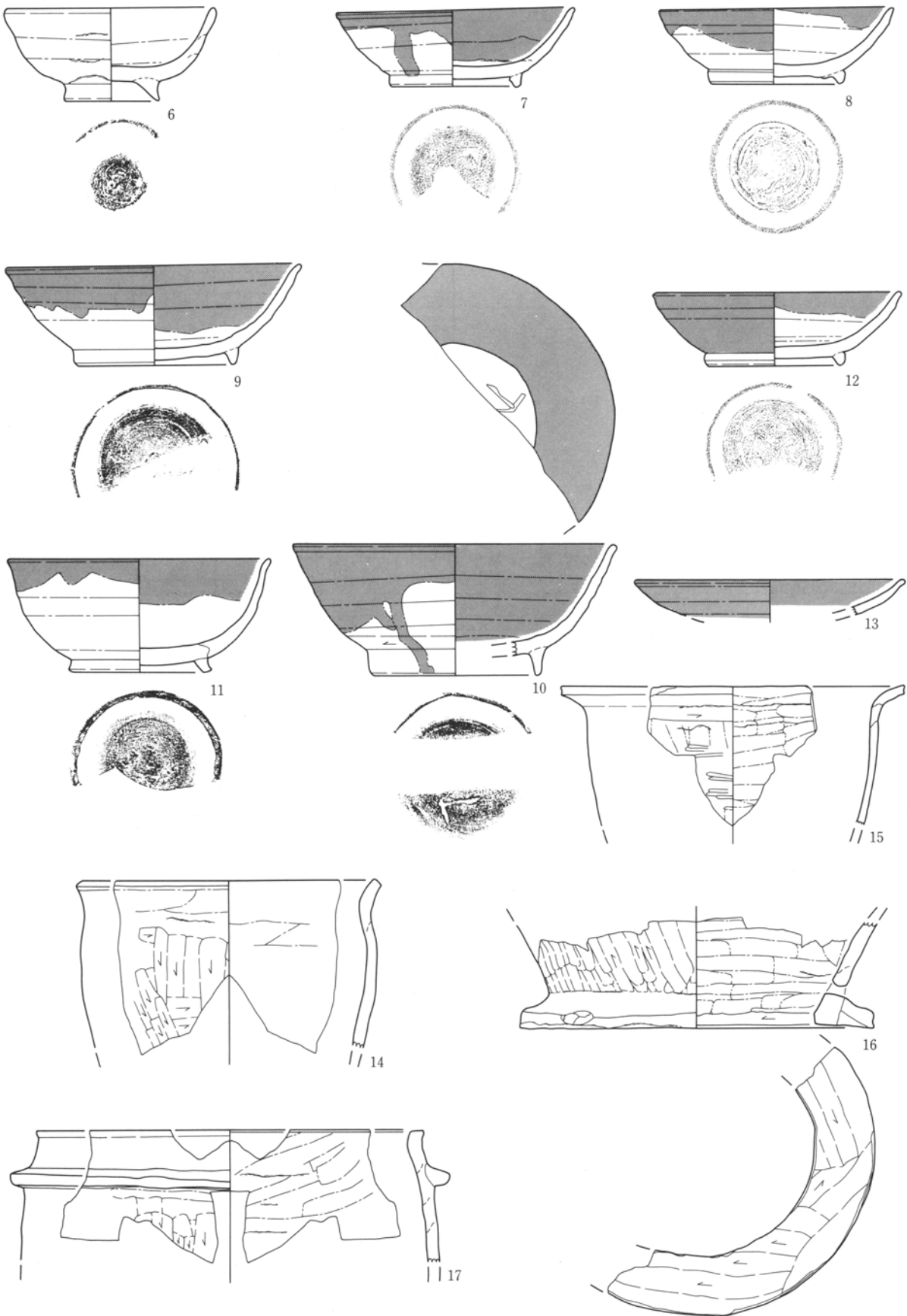


第3章 検出された遺構と遺物



第178図 A区55号住居跡竈、出土遺物(1)

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物



第179図 A区55号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

A区 55号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	ほぼ完形 口径10.9 器高3.1 底径5.6	竈	①角閃石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	やや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。底部は静止糸切り。
2	須恵器 坏	1/3 口径(11.0) 器高3.0 底径5.0	竈	①細砂 石英 ②酸化焰 軟質 ③橙色	やや丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。底部外面にナデ調整。
3	須恵器 坏	1/3 口径(10.7) 器高3.6 底径4.3	+8	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
4	須恵器 坏	1/5 口径(10.0) 器高2.7 底径(4.6)	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 軟質 ③浅黄色	やや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。底部外面にナデ調整。
5	須恵器 塊	1/3 口径(14.2) 器高5.4 底径8.0	床直	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部が張り、口縁部が外反する。付け高台 右回転ロクロ成形。
6	須恵器 塊	1/3 口径10.9 器高4.9 底径4.9	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 軟質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部がやや外反する。断面が三角形 の付け高台。 左回転ロクロ成形。
7	灰釉陶 器塊	ほぼ完形 口径12.4 器高4.0 底径6.5	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で短く外反する。付け高台。高 台の外面は直立気味で内面は外傾する。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
8	灰釉陶 器塊	ほぼ完形 口径12.2 器高3.9 底径6.7	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	丸みを帯びて立ち上がる。付け高台。高台の外面は弧状。内面は 外傾する。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
9	灰釉陶 器塊	2/5 口径15.2 器高5.2 底径8.0	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	腰部が張り、口縁部が外反する。付け高台。高台の外面は弧状。 内面は外傾する。 左回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
10	灰釉陶 器塊	1/3 口径(16.5) 器高6.9 底径(8.5)	+18	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	八の字状に立ち上がる。付け高台。高台の外面は直立気味。内面 は外傾する。底部外面は回転篋削り調整。内面に篋で刻んだもの あり。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
11	灰釉陶 器塊	1/5 口径(13.6) 器高5.9 底径7.0	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	腰部が張り、口縁部が外反する。付け高台。高台の内外面ともに 外傾する。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
12	灰釉陶 器塊	2/3 口径12.7 器高3.8 底径7.0	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	丸みを帯び立ち上がる。付け高台。高台の外面は弧状。内面は外 傾する。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
13	灰釉陶 器皿	1/5 口径(14.0) 器高(1.8) 底径—	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	緩やかに立ち上がり、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
14	土師器 土釜	口～胴上部片 口径(20.6) 器高(11.9) 底径—	竈	①粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。胴部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
15	土師器 土釜	口～胴上部片 口径(24.0) 器高(9.8) 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	水平近くに外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。胴部はナデ後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
16	甔	胴下～底部2/5 口径— 器高(7.7) 底径(24.8)	床直	①細砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	裾部は水平に広がる。胴部に円孔あり。 外面 裾部は横ナデ。胴～底部は篋削り。 内面 ナデ。
17	羽釜	口縁部片 口径(27.0) 器高(9.3) 底径—	+19	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	鏝が下方に垂れる。口縁は内湾し、端部で短く外反する。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り。 内面 ナデ。

A区 56号住居跡 (第180図 PL72・153)

位置 3B-16グリッド

重複 平安時代のA区57号住居が本住居の東壁面付近を掘り込んで造られている。また、本住居の南西コーナーを平安時代のA区57号土坑が掘り込んでいて、北西コーナーを同じく平安時代のA区56号土坑が掘り込んでいる。

形状 他の遺構に掘り込まれているので推定であるが、東西(2.84)m、南北3.54m。長軸を南北方向に持ち、ほぼ隅丸長方形を呈す。

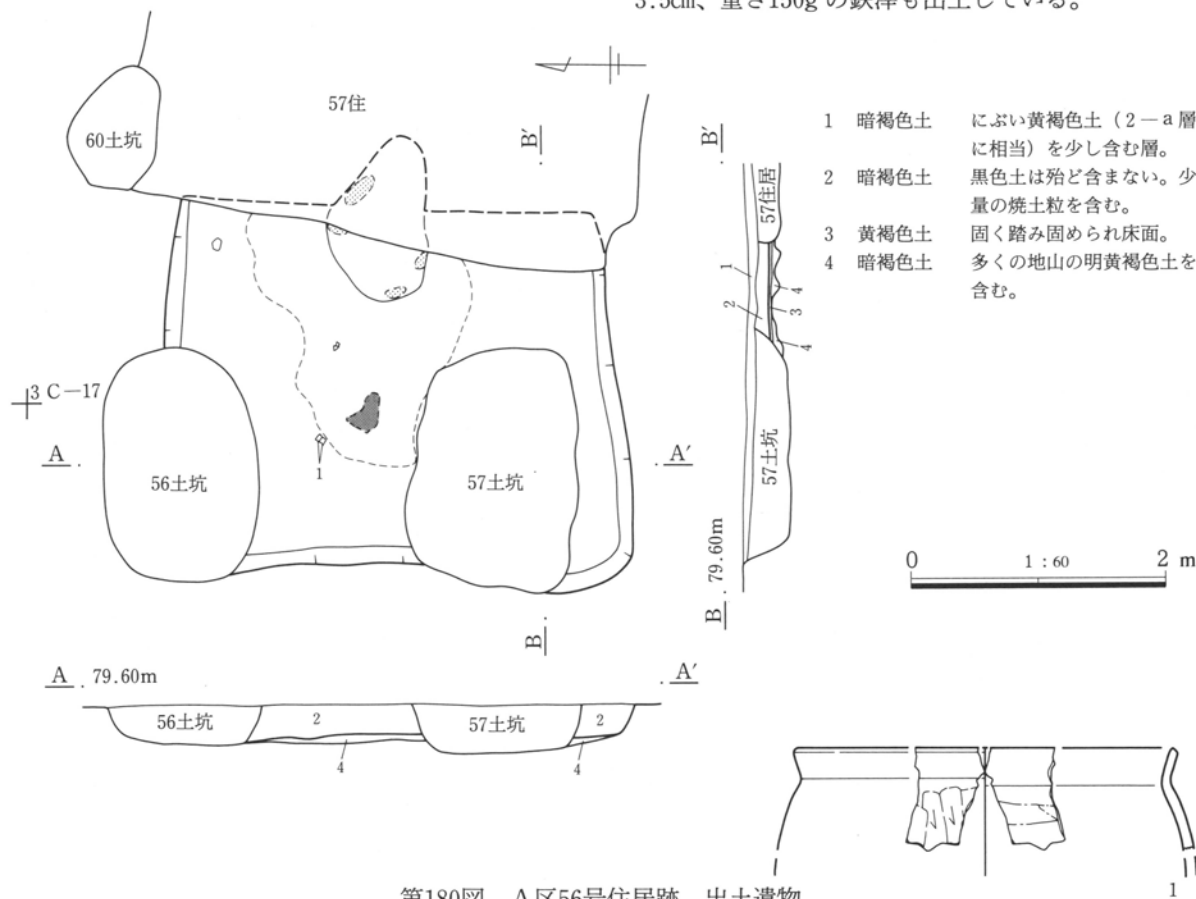
面積 (10.90)m<sup>2</sup>

方位 計測できなかった。

床面 残りの良いところで遺構確認面から24cm掘り込んで床面になる。床高は79.20mを測る。床面は黒褐色土に明黄褐色土を含み、ほとんど黄褐色土できている。本住居の中央部には硬く踏み固められた床面が検出された。またこの硬い床面のところから焼けて焼土化した箇所も検出された。

竈 平安時代の57号住居が本住居の東壁面付近を掘り込んで造られているため、竈の残りは悪く、粘質土及び焼土の出土範囲からこの竈の位置を想定した。東壁面の中央部を掘り込んで造られていたと考える。

遺物 土師器の甕が出土した。また、9.8cm×6.8cm×3.5cm、重さ150gの鉄滓も出土している。



第180図 A区56号住居跡、出土遺物

A区 56号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 甕	口縁部片 口縁(19.9) 器高(5.4)底径-	床直	①細砂 ②酸化焰 軟質 ③橙色	くの字よりも直立気味に立ち上がる口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。

第3章 検出された遺構と遺物

A区 57号住居跡 (第181・182図 PL72・153)

位置 3B-16グリッド

重複 本住居は平安時代のA区56号住居、及び古墳時代のA区15号溝を掘り込んで造られている。また、本住居の北西コーナーは平安時代のA区60号土坑に掘り込まれている。

形状 東西2.92m、南北3.98m長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。北壁、南壁に幅37cm、深さ5cmの周溝が一部検出された。

面積 (9.54)m<sup>2</sup>

方位 N-101°-E

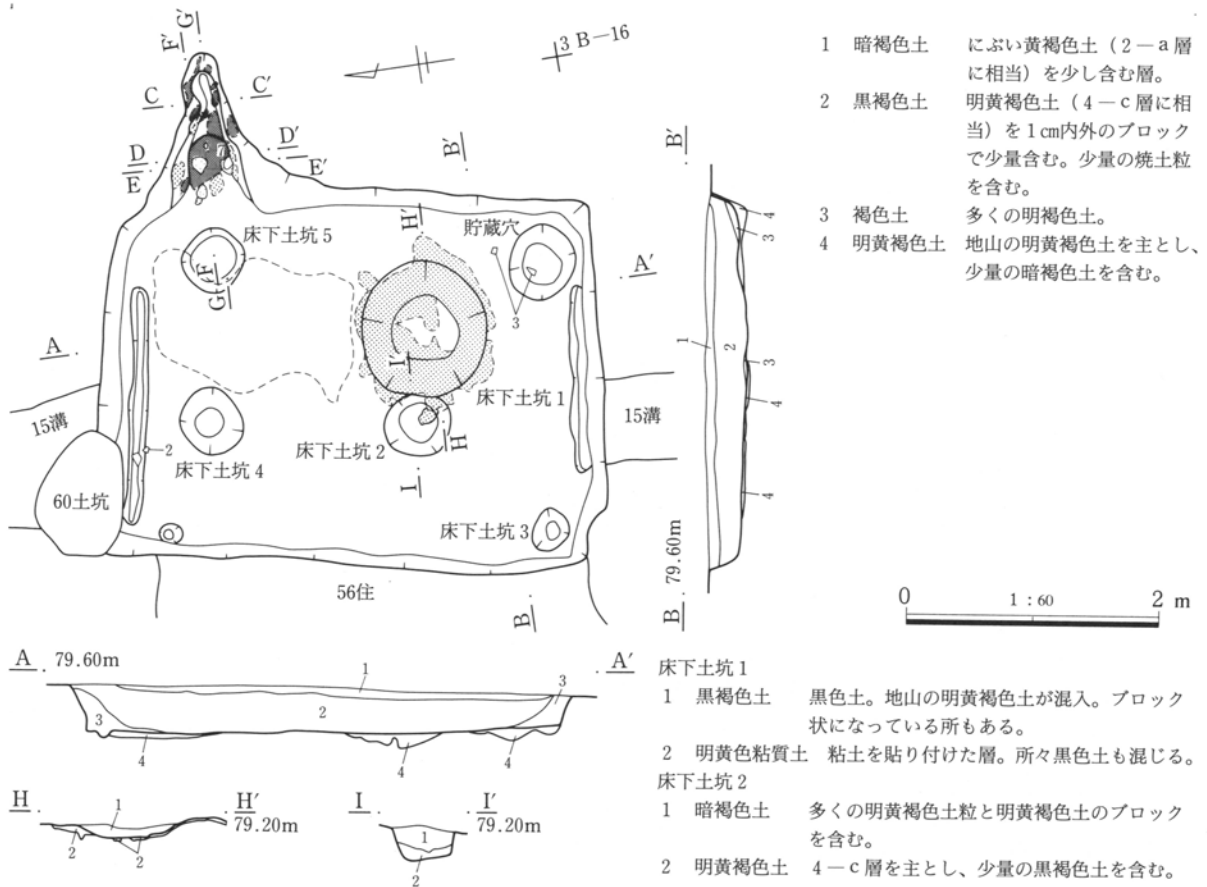
床面 残りの良いところで遺構確認面から35cm掘り込んで床面になる。床高は79.12mを測る。床面は黒褐色土に明黄褐色土を多く含んだ土でできている。本住居の竈の前、すなわち、北壁面近くに硬く踏み固められた床面が検出された。床下から土坑が5基検出された。そのうちの本住居ほぼ中央部出土の粘質土で覆われた床下土坑1は径100cm、深さ11cmを測

り、粘質土も4.5cmの厚さを持って堆積していた。床下土坑2に被さるように造られていた。

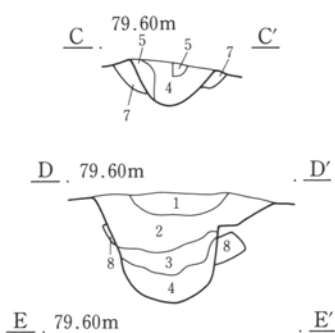
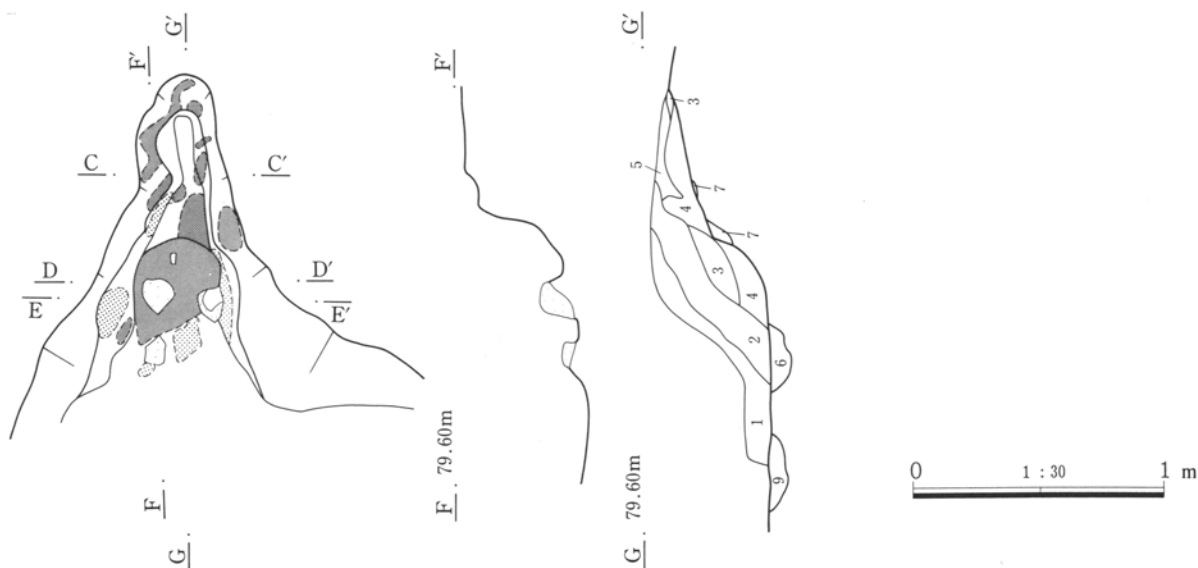
貯蔵穴 本住居の南東コーナー部分から径60cm、深さ18cmの貯蔵穴が検出された。覆土は地山の明黄褐色土に黒褐色土が混入した土であった。土器片が内部から出土した。

竈 東壁面の北寄り、それもほぼ北東コーナー部分を掘り込んで造られていた。両袖、煙道部に竈の構築材と思われる粘質土が多く検出された。また、燃烧部内の壁面及び床面に焼土の残りが良かった。更に、燃烧部内から3つの石材が出土しており、そのうちの1つは支脚石に使用したと思われる。他の2つに関しては両袖に使用したものが崩れた可能性がある。燃烧部は両袖方向40cm、煙道方向124cmを測る。

遺物 須恵器の坏、埴、羽釜、灰釉陶器埴、土釜が出土している。

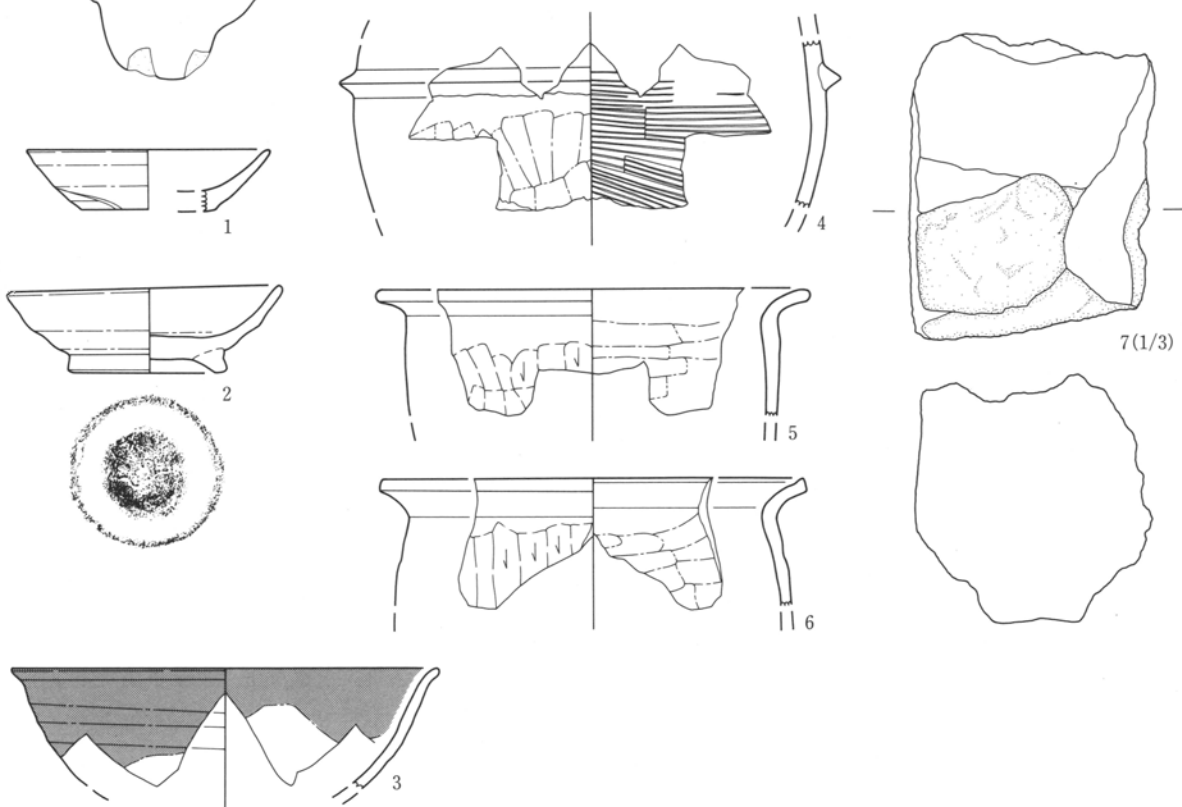


第181図 A区57号住居跡



竈

- |        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 黄褐色粘質土を多く含む。焼土粒含まず。               |
| 2 暗褐色土 | 多くの黒褐色土を含む。焼土粒含まず。                |
| 3 黄褐色土 | 多くの黄褐色粘質土と少量の焼土ブロックを含む。           |
| 4 暗褐色土 | 少量の焼土粒と焼土ブロックを含む。                 |
| 5 赤色土  | 焼土粒と焼土ブロックを主とした層。                 |
| 6 赤色土  | 地山の明黄褐色土が熱を受けて焼土化したもの。            |
| 7 赤色土  | 竈材として持ち込まれた黄褐色粘質土が、火を受けて焼土化した層。   |
| 8 黄褐色土 | 竈材として持ち込まれた黄褐色粘質土を主とした層。焼土粒殆ど含まず。 |
| 9 黒褐色土 | 1mm前後の灰白色軽石粒を含む。焼土粒含まない。          |



第182図 A区57号住居跡竈、出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### A区 57号住居

番号	器種	残存法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調 (石材)	器形・整形・文様の 特徴
1	須恵器 坏	口縁～体部 1/4 口径(9.5)器高(2.4) 底径(5.4)	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	須恵器 埴	2/5 口径10.9 器高 3.4 底径 6.3	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	腰部がやや張り、体部は直線的に立ち上がる。付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	灰釉陶 器 埴	口～体部 1/3 口径(16.9) 器高(4.8) 底径—	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	腰が張り、口縁部は外反する。 左回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
4	羽釜	口縁～胴上部片 口径— 器高(8.9) 底径—	覆土	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	鐙の断面は三角形。口縁は内湾する。 外面 ナデ。 内面 ハケメ。
5	土師器 土釜	口縁部片 口径(22.6) 器高(6.7) 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	水平近くに外反する口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
6	土師器 土釜	口縁部片 口径(22.5) 器高(6.8) 底径—	覆土	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	水平近くに外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 篋削り。 内面 ナデ。
7	支脚石	長さ(12.0) 幅(9.5) 厚さ(9.7) 重さ965	床直	二ツ岳軽石	五角柱に近い形状。整形加工されたと思われる面が3面ある。火 を受け変色した部分もある。

#### A区 58号住居跡(第183図 PL72)

位置 2S-9グリッド

重複 本住居は平安時代のA区59号住居を掘り込んで造られている。

形状 本住居は南半分が調査区外にあたり発掘調査を行うことができなかった。東西方向のみ、その長さを記す。東西方向3.64mを測る。

面積 (6.12)m<sup>2</sup>

方位 計測できなかった。

床面 残りの良いところで遺構確認面から20cm掘り込んで床面になる。床高は79.30mを測る。床面は黒褐色土に明黄褐色土を多く含んだ土でできている。本住居の中央部に硬く踏み固められた床面が検出された。

貯蔵穴 本住居の北西コーナー部分から径65cm、深さ24cmの貯蔵穴が検出された。覆土は黒褐色土に明黄褐色土を多く含んだ土であった。土器片が内部から出土した。

竈 検出できなかった。

遺物 土師器の甕の破片が出土。

#### A区 59号住居跡(第183図 PL73)

位置 2R-9グリッド

重複 平安時代のA区58号住居に本住居西側を掘り込まれている。また、近世の耕作痕によって北壁が掘り込まれている。

形状 本住居も南半分が調査区外にあたり発掘調査を行うことができなかった。また、本住居の西側は平安時代のA区58号住居に掘り込まれているので正確な形状が把握できなかった。検出された床面の面積も狭かったが、ほぼ方形に近く、床面も一定の高さを持っているので住居跡とした。

面積 (1.33)m<sup>2</sup>

方位 計測できなかった。

床面 残りの良いところで遺構確認面から32cm掘り込んで床面になる。床高は79.20mを測る。床面は黒褐色土に明黄褐色土を多く含んだ土でできている。硬く踏み固められた床面は検出できなかった。

竈 検出できなかった。

遺物 土師器の甕の破片が出土。